東部児童クラブ分室集約化工事

図面リスト							
建築主体工事				解体工事		電気設備工事	
A-01	建築工事特記仕様書（１）	A-33	内部建具表（１）	KA-01	解体特記仕様書	E-01	特記仕様書
A-02	建築工事特記仕様書（２）	A-34	内部建具表（２）	KA-02	配置図・案内図	E-02	配置図・案内図
A-03	建築工事特記仕様書（３）	A-35	内部建具表（３）	KA-03	解体建物１・２仕上表	E-03	電灯分電盤図
A-04	建築工事特記仕様書（４）	A-36	家具詳細図（１）	KA-04	解体建物３仕上表	E-04	非常照明・照明器具参考姿図
A-05	建築工事特記仕様書（５）	A-37	家具詳細図（２）	KA-05	解体建物４・５仕上表	E-05	凡例・排水路ヒーター仕様図
A-06	建築工事特記仕様書（６）	A-38	部分詳細図	KA-06	解体建物全体平面図	E-06	幹線動力設備１階平面図・２階平面図
A-07	案内図・配置図・計画概要	A-39	外構平面図	KA-07	解体建物１平面図・立面図	E-07	非常照明設備１階平面図・２階平面図
A-08	敷地求積図・建物求積図・面積表	A-40	外構詳細図（１）	KA-08	解体建物２平面図・立面図	E-08	電灯設備１階平面図・２階平面図
A-09	各室床面積求積図	A-41	外構詳細図（２）	KA-09	解体建物３平面図・立面図	E-09	コンセント設備１階平面図・２階平面図
A-10	仕上表			KA-10	解体建物４平面図・立面図	E-10	弱電機器参考姿図（１）
A-11	１階平面図・２階平面図	S-01	構造特記仕様書（１）	KA-11	解体建物５平面図・立面図	E-11	弱電機器参考姿図（２）
A-12	立面図	S-02	構造特記仕様書（２）	KE-01	配置図・案内図	E-12	情報通信網・非常警報設備１階平面図・２階平面図
A-13	矩計図（1）	S-03	鉄筋コンクリート配筋標準図	KE-02	解体建物１電気設備撤去平面図	E-13	TEL、ｲﾝﾀｰﾎﾝ、監視ｶﾒﾗ設備１階平面図・２階平面図
A-14	矩計図（2）	S-04	鉄骨構造標準図（１）	KE-03	解体建物２電気設備撤去平面図	E-14	防火間仕切り壁貫通処理要領図
A-15	鉄骨階段詳細図	S-05	鉄骨構造標準図（２）	KE-04	解体建物３電気設備撤去平面図		
A-16	基礎詳細図	S-06	木質工事特記仕様書（１）	KE-05	解体建物４電気設備撤去平面図	機械設備工事	
A-17	基礎伏図・床伏図	S-07	木質工事特記仕様書（２）	KE-06	解体建物５電気設備撤去平面図	M-01	特記仕様書
A-18	梁伏図・小屋伏図	S-08	木質工事特記仕様書（３）	KM-01	配置図・案内図	M-02	配置図・案内図
A-19	筋交・耐力面材・接合金物平面図	S-09	地盤改良工事特記仕様書	KM-02	屋外配管図	M-03	冷暖房機器一覧表
A-20	１階天井伏図・２階天井伏図	S-10	地盤改良伏図・断面図	KM-03	既存凡例	M-04	換気機器一覧表・換気計算
A-21	１階平面詳細図（１）	S-11	鉄骨階段詳細図・部材リスト	KM-04	解体建物１冷暖房・換気設備平面図	M-05	給湯機器表・参考系統図
A-22	１階平面詳細図（２）	S-12	室外機基礎詳細図	KM-05	解体建物１給排水設備平面図	M-06	衛生器具表
A-23	２階平面詳細図（１）	S-13	木造軸組図（１）	KM-06	解体建物２冷暖房・換気設備平面図	M-07	凡例・桝リスト
A-24	２階平面詳細図（２）	S-14	木造軸組図（２）	KM-07	解体建物２給排水設備平面図	M-08	冷暖房設備　１階平面図・２階平面図
A-25	１階展開図（１）	S-15	木造軸組図（３）	KM-08	解体建物３冷暖房・換気設備平面図	M-09	換気設備　１階平面図・２階平面図
A-26	１階展開図（２）	S-16	木造軸組図（４）	KM-09	解体建物３給排水設備平面図	M-10	自動制御設備系統図
A-27	１階展開図（３）			KM-10	解体建物４冷暖房・換気設備平面図	M-11	自動制御設備１階平面図・２階平面図
A-28	２階展開図（１）			KM-11	解体建物４給排水設備平面図	M-12	給排水設備　１階平面図
A-29	２階展開図（２）			KM-12	解体建物５冷暖房・換気設備平面図	M-13	給排水設備　２階平面図
A-30	法規チェック平面図			KM-13	解体建物５給排水設備平面図	M-14	給排水設備　１階平面詳細図
A-31	建具キープラン					M-15	給排水設備　２階平面詳細図
A-32	外部建具表					M-16	施工要領図

上田市都市建設部建築課　　株式会社 久高設計

東部児童クラブ分室集約化工事　建築工事特記仕様書

Ⅰ 工事概要

1. 工事場所　上田市材木町一丁目131番1

2. 敷地面積(㎡)　603.04㎡

3. 工事種目　新築工事

建物別	種別	構造	階数	梁間(m)	桁行(m)	建築面積(㎡)	延面積(㎡)
東部児童クラブ分室	新築	W	2	10.92	14.56	189.42	318.00

Ⅱ 建築工事仕様(構造関係を除く)

1. 共通仕様
   (1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」(最新年度版)(以下「標仕」という)による。
   (2) 標準仕様書で、「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等(条例を含む)と異なる場合には、具体的な対応策について監督職員と協議すること。
   (3) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの標準仕様書を適用する。
2. 特記仕様
   (1) 項目は、番号に ● 印の付いたものを適用する。
   (2) 特記事項は、● 印の付いたものを適用する。
   ● 印の付かない場合は、※ 印の付いたものを適用する。
   ● 印と ※ 印の付いた場合は、共に適用する。
   (3) 特記事項に記載の(．．．)内の表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。
   (4) 特記事項に記載の(別．．．)は(5.3.7)による別図「各部配筋」の当該項目を示す。
   (5) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。

章	項目	特記事項
1 一般共通事項	● 適用基準等	※ 建築工事標準詳細図　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ・ 敷地調査共通仕様書　国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課 ※ 工事写真の撮り方 建築編　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ・ 公共建築改修工事標準仕様書　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ・ 公共木造建築工事標準仕様書　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ※ 建築工事監理指針　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ・ 建築改修工事監理指針　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 ※ 建設工事公衆災害防止対策要綱(建築工事編)　建設省建設経済局建設業課・ 住宅局建築指導課監修 ・ 長野県建設リサイクル推進指針 各基準等は最新年度版を使用する。
	● 工事実績情報の登録	※ 適用する　・ 適用しない　(1.1.4)
	● 品質計画	建築基準法に基づく風圧区分等を必要とする場合は次による　(1.2.2) ※ 風速 (V_0= 30)　※ 地表面粗度区分 (・Ⅰ　・Ⅱ　●Ⅲ　・Ⅳ) ※ 積雪区分　建告示第1455号　別表(27) 建築非構造部材の耐風及び耐震設計 耐風圧性能(建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法) 建築基準法に基づき定まる風圧力の (・1　●1.15　・1.3)倍の風圧力に対応した工法 外壁、屋根等の非構造部材の耐震設計は次による 検討に用いる層間変形角 (※1/100(S造) 1/200(RC造、SRC造)　・　) 設計用水平震度 (※1.0　・　) 設計用鉛直震度 (※0.5　・　)
	● 電気保安技術者	※ 適用する　・ 適用しない　(1.3.3)
	● 施工条件明示項目	※ 現場説明書・施工条件明示事項による　(1.3.5)
	● 発生材の処理等	※ 構外搬出適正処理　・ 別紙解体工事仕様書による　・ 現場説明書による　(1.3.11) また、収集・運搬・中間処理・最終処分等の処理について予め監督職員と協議すること。 ・ 引渡しを要するもの ・ 再生資源の利用を図るもの
	● 環境への配慮	化学物質を放散させる建築材料等　(1.4.1) 本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の(1)から(6)を満たすものとする。 (1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙はホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (3) 接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (5) 上記(1)、(3)及び(4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを放散させないか、放散が極めて少ないものとする。 (6) 建築材料等は、クロルピリホスを成分として含有せず、施工においても添加しないものとする。 なお、ホルムアルデヒドを放散させないものとは放散量が☆☆☆☆のものを、ホルムアルデヒドの放散が極めて少ないものとは放散量が第三種のものをいい、原則として☆☆☆☆のものを使用するものとするが、該当する材料等がない場合は、第三種のものを使用するものとする。 ■ 規制対象外 ① JIS及びJASの F☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるJAS規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 ■ 第三種 ① JIS及びJASの F☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第3項による国土交通大臣認定品 ③ 旧JISのEo規格品 ④ 旧JASのFco規格品
	● 建築材料等	建築材料等　(1.4.2) 本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能と同等以上のものを使用する。 ただし、製造業者等が記載されている場合に同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受ける。なお、JIS及びJASの表示のない材料及び製造業者等は、次の(1)～(6)の事項を満たすものとする。 (1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること (2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること (3) 安定的な供給が可能であること (4) 法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること (5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること (6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承諾を受けるものとする。 なお、(一社)公共建築協会発行する「建築材料・ 設備材料等品質性能評価事業建築材料等評価名簿(最新版)」に指定された材料については上記(1)～(6)に該当するものとする。 また、備考欄に商品名が記載された材料については、当該商品同等の性能を有するものとし、監督職員の承諾を受けた材料とする。
	● 特別な材料の工法	標仕に記載されていない特別な材料の工法は、当該製品所の指定する工法による。
	● 技能士	※ 適用する(一級技能士を採用している現場である旨の表示をすること。)　(1.5.2) ・ 適用しない　● 以下の表による他監督員の指示による 適用工事種別 ／ 技能検定作業 仮設工事 ／ ● とび作業 鉄筋工事 ／ ● 鉄筋組立作業 コンクリート工事 ／ ● 型枠工事作業　● コンクリート圧送工事作業 鉄骨工事 ／ ● 構造物鉄工作業　● とび作業 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事 ／ ・ コンクリートブロック工事作業 ・ エーエルシーパネル工事作業 防水工事 ／ ・ アスファルト防水工事作業　・ ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・ アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・ 合成ゴム系シート防水工事作業 ・ 塩化ビニル系シート防水工事作業 ・ セメント系防水工事作業　● シーリング防水工事作業 ・ 改質アスファルトシートトーチ防水工事作業　・ FRP防水工事作業 石工事 ／ ・ 石張り作業 タイル工事 ／ ● タイル張り作業 木工事 ／ ● 大工工事作業 屋根及びとい工事 ／ ● 内外装板金作業　・ かわらぶき 金属工事 ／ ・ 鋼製下地工事作業　● 内外装板金作業 左官工事 ／ ● 左官作業 建具工事 ／ ● 木製建具(手・機械)加工作業　● ビル用サッシ施工作業 ● ガラス工事作業　・ 自動ドア施工作業 カーテンウォール工事 ／ ・ 金属製カーテンウォール工事作業 ・ ビル用サッシ施工作業　・ ガラス工事作業 塗装工事 ／ ● 建築塗装作業 内装工事 ／ ● プラスチック系床仕上げ工事作業　● 木質系床仕上げ工事作業 ● カーペット系床仕上げ工事作業　・ 鋼製下地工事作業 ● ボード仕上げ工事作業　● 壁装作業 排水工事 ／ ● 建築配管作業 舗装工事 ／ ● 溶融ペイントハンドマーカー工事作業 ・ 加熱ペイントマシンマーカー工事作業 植栽工事 ／ ● 造園工事作業 その他 ／ ・ 畳製作　● 家具(手・機械)加工作業　・ 樹脂接着剤注入工事作業 ・ カーテン工事作業
	● 化学物質の濃度測定	測定方法　※ パッシブ法(拡散法)　・ アクティブ法(吸引法)　(1.5.9) 検査機関 ※ 環境計量証明事業の知事登録がある者で、監督員が承諾した者 測定物質 ※ ホルムアルデヒド　※ トルエン　※ キシレン　※ エチルベンゼン ※ パラジクロロベンゼン　※ スチレン　・ 測定個所(室)　計　2個所 ※ 試料採取に当たっては、監督員又は監督員が指定する者が立ち会いの下に行う。 化学物質の室内汚染濃度指針値(厚労省指針) ホルムアルデヒド 0.08ppm ／ トルエン 0.07ppm ／ キシレン 0.05ppm ／ エチルベンゼン 0.88ppm ／ パラジクロロベンゼン 0.04ppm ／ スチレン 0.05ppm ／ 備考
	● 完成図等	※ 作成する　(1.7.1～1.7.3)(表1.7.1) ※ 完成図 (※ 設計図書で示したもの全て　・ 標仕表1.7.1による　● 監督員の指示による) 作成方法　※ 製本　(※ 見開きA3縮小版2～3部(黒表紙金文字製本) ・ 見開きA1版 1部(ビニール製本)　・) ※ CADデータ　(※ CD-R (1部)　・　) ※ 保全に関する資料(2部)
	● 完成写真	下記のものを監督職員に提出する。原版は撮影業者の保管とする。 分類・規格 ／ 撮影箇所数 ／ 部数 ／ 写真のサイズ(mm) ● カラー写真(製本) ／ 外部(5)内部(15) ／ ※ 1 ・ ／ ※ キャビネ版　・ サービス版 ・ パネル(木製枠) ／ 外部(　)内部(　) ／ ※ 1 ・ ／ 240×360以上 ※ 電子データ ／ 外部(5)内部(15) ／ ※ 2 ・ ／ ※ 428万画素以上　・ 800万画素以上　※ 350dpi以上 電子データは、フィルムスキャンのうえRGB各8ビット(フルカラー)、JPEG形式最高画質(100%画質)とし、CD-Rに提出とする。 撮影業者　※ 建築完成写真撮影の実績のある業者で監督職員の承諾する撮影業者 ・
	● 設備工事との取合い	設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。
	● 設計GL	※ 図示　・ 設計GL=現状GL　・ 監督員の指示による
2 仮設工事	● 足場その他	足場を設ける場合、「標仕」2.2.4(2)によるほか、設置においては、「手すり先行方法による　(2.2.4) 足場の組立て等に関する基準」における2の(2)「手すり据置方式」、又は(3)「手すり先行専用足場方式」により行うこと。
	● 監督員事務所	※ 設けない　・ 設ける　(2.3.1) 規模　・ 10㎡程度　・ 20㎡程度　・ (　)㎡程度
	● 工事用水	構内既存の施設　● 利用できる (※ 有償　・ 無償)　※ 利用できない　(2.3.1)
	● 工事用電力	構内既存の施設　● 利用できる (※ 有償　・ 無償)　※ 利用できない　(2.3.1)
3 土工事	● 埋戻し及び盛土	種別　・ A種　※ B種　・ C種　・ D種　(3.2.3)(表3.2.1)
	● 建設発生土の処理	※ 構外搬出適切処理　(3.2.5) ・ 構内の造成に利用　・ 構内の指定場所にたい積　・ 構内の指定範囲に散きならし
4 地業工事 5 鉄筋工事 6 コンクリート工事 7 鉄骨工事		特記仕様書(構造関係)による
8 コンクリートブロック・ALCパネル・押出成形セメント板工事	1. 補強コンクリートブロック造及びコンクリートブロック帳壁及び塀	補強コンクリートブロック造のブロックの種類　(8.2.2～8)(8.3.2～7) 断面形状及び圧縮強さによる区分 ／ 正味厚さ(mm) ／ モデュール呼び寸法(mm) 長さ ／ 高さ ／ 化粧の有無 ／ 適用箇所 ／ 備考 ※ 空洞ブロック-16 ／ ・ 無　・ 有 ・ 型枠状ブロック-20 ／ ・ 無　・ 有 ・ ／ ・ 無　・ 有 コンクリートブロック帳壁及び塀ブロックの種類・適用 断面形状及び圧縮強さによる区分 ／ 正味厚さ(mm) ／ モデュール呼び寸法(mm) 長さ ／ 高さ ／ 化粧の有無 ／ (表8.3.1)以外の適用箇所 ／ 備考 ※ 空洞ブロック-08 ／ ・ 無　・ 有 ※ 空洞ブロック-16 ／ ・ 無　・ 有 ・ ／ ・ 無　・ 有 モルタルの調合　※ 標仕表8.2.1による　・ 各部の配筋　※ 図示　・ 目地仕上げ　※ 押し目地仕上げ　・化粧目地仕上げ モルタル又はコンクリートの充填　※ 図示　・
	2. ALCパネル	(8.4.2～5) パネルの種類 ／ 厚さ(mm) ／ 長さ(mm) ／ 単位荷重(N/㎡) 正荷重 ／ 負荷重 ／ 耐火性能(時間) ／ 表面加工 ／ 構法の種別 ・ 外壁パネル ／ ・ 平　・ 意匠 ／ ・ A種　・ B種 ・ 間仕切壁パネル ／ ・ 平　・ 意匠 ／ ・ C種　・ D種　・ E種 ・ 屋根パネル ／ 平 ／ F種 ・ 床パネル 各パネル使用箇所　※ 図示　・ 耐火目地材　※ 図示　・ 外壁パネル構法 パネル幅の最小限度　※ 300mm　・ 耐風圧性能(建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法) ※ 適用する (1一般共通事項により製造所の指定による)　・適用しない 耐震性能　※ 適用する (1一般共通事項により製造所の指定による)　・適用しない 外壁パネルの出隅及び入隅のパネル接合部、並びにパネルと他部材との取り合い部の目地幅(mm) ※ 10～20　・ 図示　・ 伸縮目地への耐火目地材の充填　・ 適用する　・ 適用しない 間仕切りパネル構法の耐震性能 ※図示　・
	4. 押出成形セメント板	(8.5.2～5) パネルの種類 ／ 表面形状 ／ 厚さ(mm) ／ 幅(mm) ／ 工法の種別 ／ 備考 ・ 外壁パネル ／ ・ F(フラットパネル) ／ ・ 50 ・ 60 ・ ／ ・ A種 ・ B種 ・ D(デザインパネル) ／ ・ 50 ・ 60 ／ 600 ・ T(タイルベースパネル) ／ 60 ・ 間仕切壁パネル ／ ・ F(フラットパネル) ／ ・ 50 ・ 60 ・ ／ ・ B種 ・ C種 ・ D(デザインパネル) ／ ・ 50 ・ 60 ・ T(タイルベースパネル) ／ 60 外壁パネルの工法 耐風圧性能(建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法) ※ 適用する (1一般共通事項により製造所の指定による)　・適用しない 耐震性能　※ 適用する (1一般共通事項により製造所の指定による)　・適用しない 耐火構造以外の部分の目地及び隙間の処理　※ パネル製造所の仕様による　・ 図示 パネル幅の最小限度　※300mm　・図示 パネルの相互の目地幅　※ 長辺10mm以上、短辺15mm以上　・ 図示 出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅(mm)　※ 15　・図示　・ やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認のうえ、施工計画書を提出する。 パネルに開口を設ける場合 ／ 開口の大きさ 短辺 ／ 長辺 ／ 切断後のパネルの残り部分の幅 短辺 ／ 長辺 パネルを切り欠く場合 ／ 短辺 ／ 長辺 ・ 図示 品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・
9 防水工事	1. アスファルト防水	屋根保護防水　(9.2.2～5)(表 9.2.3～9) 防水層の種別 種別 ／ 施工箇所 ／ 断熱材 ／ 絶縁用シート ／ 立上り部の保護 ・ A-1 ／ ※ ポリエチレンフィルム 厚さ0.15mm以上 ・ ／ ・ 乾式保護材 ・ A-2 ・ A-3 ・ B-1 ・ B-2 ・ B-3 ・ A1-1 ／ (材質) ※ 断熱A ・ 図示 ・ (厚さ) ・ 25mm ・ 50mm ・ 図示 ／ ※ フラットヤーンクロス (70g/㎡程度) ・ ／ ・ 保護れんが (JIS R 1250による) ・ A1-2 ・ A1-3 ・ B1-1 ・ B1-2 ・ B1-3 ／ ・ コンクリート押え 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 標仕表9.2.3から標仕表9.2.8による　・ 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ ※ 標仕表9.2.5から標仕表9.2.8による　・ 立上り部への断熱材及び絶縁用シートの設置 ※ 製造所の指定による　・ 図示　・ 立上り部の乾式保護材 ・ 窯業系パネル: 無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。 ・ 金属複合板: 金属板と樹脂を積層一体化したもの。 品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・
	アスファルト防水(続き)	屋根露出防水 防水層の種別 種別 ／ 施工箇所 ／ 断熱材 ／ 仕上塗料 種類 ／ 仕上塗料 使用量 ／ 高日射反射率防水の適用 ・ D-1 ／ ※ 製造所の仕様による ／ ※ 製造所の仕様による ・ D-2 ・ D-3 ・ D-4 ・ D1-1 ／ (材質) ・ 断熱B　・ 図示 ・ (厚さ) ・ 25mm　・ 図示 ・ ・ D1-2 屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置 ※ 図示　・ 屋根防水密着加工 種別 ／ 施工個所 ・ E-1 ・ E-2 保護層　・ 設ける(※ 図示　・　)　・ 設けない 立上りコンクリート打放し仕上げ ※ 標仕表6.2.4[打放し仕上げ種別]のB種　・ 押え金物の材質及び形状 ※ アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度　・ 図示　・ 防水層の下地のモルタル塗り　・ 適用する(施工範囲　・ 図示　・　) ・ 適用しない 平場の保護コンクリートの厚さ　こて仕上げ　※ 水下　80mm以上　・ 図示　・ 床タイル張り　※ 水下　60mm以上　・ 図示　・ 屋根排水溝　※ 図示　・
	2. 改質アスファルトシート防水	防水層の種別　(9.3.2、3)(表 9.3.1～3) 種別 ／ 施工箇所 ／ 断熱材 ／ 仕上塗料 種類 ／ 仕上塗料 使用量 ／ 高日射反射率防水の適用 ・ AS-T1 ／ ※ 製造所の仕様による ／ ※ 製造所の仕様による ・ AS-T2 ・ AS-J1 ・ AS-T3 ・ AS-T4 ・ AS-J2 ・ AS1-T1 ／ (材質) ・ 断熱B　・ 図示 ・ (厚さ) ・ 25mm　・ 図示 ・ (防湿シート) ・ 設ける 設けない ・ AS1-J1 改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 標仕表9.3.1から表9.3.3による　・ 図示　・ 粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 標仕表9.3.2から表9.3.3による　・ 図示　・ 部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ ※ 標仕表9.3.1から表9.3.3による　・ 図示　・ 押え金物 ※ 改質アスファルト製造所の仕様による　・ アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度　・ 図示 絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量 ※ 改質アスファルトシートの製造所の指定による
	3. 合成高分子系ルーフィングシート防水	防水層の種別　(9.4.2～4)(表 9.4.1～3) 種別 ／ 施工箇所 ／ 可塑剤移行防止用シートの材質 ／ 断熱材 ／ 高日射反射率防水の適用 ・ S-F1 ／ (材質) ・ 断熱B　・ 断熱C　・ 図示 (厚さ) ・ 25mm　・ ／ ・ ・ S-F2 ・ S-M1 ・ S-M2 ・ S1-F1 ／ (材質) ・ 断熱B　・ 断熱C　・ 断熱D　・ 図示 (厚さ) ・ 25mm　・ (防湿シート) ※ 設ける　・ 設けない ／ ・ ・ S1-F2 ・ S1-M1 ・ S1-M2 ／ ※ 発泡ポリオレフィンシート ・ S-C1 S-F1、S-M1、S-F2、S-M2の仕様　・ 非歩行仕様　・ 軽歩行仕様 仕上塗料の種類と使用量　※ ルーフィングシートの製造所の仕様による ルーフィングシートの種類及び厚さ　※ 標仕表9.4.1から表9.4.3による　・ 図示　・ 固定金具の材質及び寸法形状　※ 9.4.2(3)(イ)による　・ 図示　・ 接着工法の脱気装置の種類及び設置数量　※ ルーフィングシートの製造所の指定による 防水下地がPCコンクリート部材の処理 目地処理(S-C1の場合)　※ 図示　・ 入隅部の増張り(S-F1、S1-F1、S-C1の場合)　※ 図示　・ 機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※ 適用する (1一般共通事項により製造所の指定による) ・ 適用しない 屋内保護密着工法の保護層 保護モルタルの塗厚さ　※図示　・ 立上り部の保護モルタル塗厚　※ 7mm以下　・ 図示　・
	4. 塗膜防水	防水層の種別　(9.5.3)(表 9.5.1、2) 種別 ／ 施工個所 ／ 仕上塗料 種類 ／ 仕上塗料 使用量 ／ 保護層 ／ 高日射反射率防水の適用 ・ X-1 ／ ※ 製造所の仕様による ／ ※ 製造所の仕様による ・ X-2 ・ Y-1 ／ ※ 地下外壁防水 ・ ・ Y-2 ／ ※ 屋内防水 ・ ／ ※ 図示 ・

■ 9章 防水工事内で適用する断熱材は以下の略号で表す。
断熱A : JIS A 9521 (建築用断熱材) による押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA (スキン層付き)
断熱B : JIS A 9521による硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号若しくは2号で透湿係数を除く規格に適合するもの
断熱C : JIS A 9521による押出法ポリスチレンフォーム断熱材の1種b、2種b又は3種b
断熱D : JIS A 9521によるポリエチレンフォーム保温材の密度及び熱伝導率の規格に適合するもの

2025.06改訂

防水工事（続き）

5. 脱気装置

(9.2.3)(9.3.3)(9.5.3)

種　別	種　類	設 置 数 量
D-1 D-2 D-3 D-4 DI-1 DI-2 AS-T3 AS-T4 AS-J2 ASI-T1 ASI-J1	※ アスファルトルーフィング類製造所の仕様による ・	※ アスファルトルーフィング類製造所の仕様による ・図示　・
X-1	・防水層の主材料の製造所の仕様による ・	・防水層の主材料の製造所の仕様による ・図示　・

6. ケイ酸質系塗布防水

防水層の種別　(9.6.3、4)(表9.6.1)

種 別	施　工　箇　所
・C-SU1	
・C-SUP	

防水層の下地
壁及び天井部　・コンクリート打放し仕上げ（標仕表6.2.4[打放し仕上げ種別]のB種）　・図示
下地処理
・標仕9.6.4(2)(ｱ)～(ｳ)による　・図示

(7) シーリング

下表以外は、標仕表 9.7.1による（仕上げを行わない部分　※ 図示）　(9.7.2、3, 5)(表 9.7.1)
ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による

施　工　箇　所	シーリング材の種類(記号)

シーリング材の目地寸法　※ 標仕9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による　・
試験の実施　※ する（ ※ 簡易接着性試験　・引張接着性試験）　・ しない

8. 保証

防水工事について、防水工事施工者及び工事受注者連名の保証書(10年)、工事受注者の保証書(15年、新築に限る)を提出すること。ただしケイ酸質系塗布防水を除く。

10 石工事

1. 施工

石材の割付け　※ 図示　・　(10.1.3)

2. 石材等

天然石　(10.2.1、3)(表 10.2.1、2)

施工箇所	品質	石材の種類	形　状	寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げ	備考
	・1等品 ・2等品		※ 正方形に近い矩形 ・				
	・1等品 ・2等品		※ 正方形に近い矩形 ・				

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状	仕上げ面	寸法(mm)	表面仕上げ	備考
	※ 大理石 ・花こう岩	※ 1.5～12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			
	※ 大理石 ・花こう岩	※ 1.5～12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備　考
	※ 大理石 ・花こう岩	※ 1.5～12 ・	・300型 ・400型		
	※ 大理石 ・花こう岩	※ 1.5～12 ・	・300型 ・400型		

取付用モルタル、既調合の目地モルタル、浸透性吸水防止剤、石裏面処理材、裏打ち処理材
※ 石材施工業者の指定する製品　・

3. 外壁湿式工法

石裏面処理　・適用する　・適用しない　(10.2.2、3)(10.3.2、3)
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
下地ごしらえ　・流し筋工法　・あと施工アンカー工法　※ あと施工アンカー・横筋横流し工法
受金物　材質　※ SUS304　・図示　・
形状及び寸法(mm)・L-75×75×6　L=100　・L-75×75×6　L=150　・図示
特殊部位用の金物　※ 標仕10.2.2(c)による　・図示
ドレインパイプの材質　・樹脂ネット製パイプ　クロスメッシュ巻き　25～35φ
・図示　・
アンカーの材質及び寸法　※ SS400　M12　・図示　・
あと施工アンカーの材質及び寸法　・図示　・
目地　一般目地　目地幅　※ 6mm以上　・図示　・
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮調整目地　位置　※ 標仕表11.1.1による　・図示
シーリング材の目地寸法　※ 標仕9.7.3(1)(ｳ)による　・図示

4. 内壁密着工法

受金物　材質　※ SUS304　・図示　・　(10.2.2)(10.4.2、3)
形状及び寸法(mm)・L-75×75×6 L=100　・L-75×75×6　L=150　・図示
特殊部位用の金物　※ 標仕10.2.2(c)による　・図示
下地ごしらえ　※ あと施工アンカー・横筋横流し工法　・あと施工アンカー工法
アンカーの材質　※ SS400・図示　・
アンカーの寸法　※ 図示　・M12　・M10　・
あと施工アンカーの材質及び寸法　・図示
目地　一般目地　目地幅　※ 6mm以上　・図示　・
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮調整目地　位置　※ 6mごと　・図示
シーリング材の目地寸法　※ 標仕9.7.3(1)(ｳ)による　・図示

5. 外壁乾式工法

金物の種類　※ 標仕表10.2.4による　・図示　(10.2.2)(10.5.2、3)(表10.2.4)
取付け方式　・スライド方式　・ロッキング方式
特殊部位用の金物　※ 標仕10.2.2(c)による　・図示
だぼ用の穴の位置　※ 標仕10.5.2(2)(ｱ)による　・図示
裏打ち処理　・適用する　・適用しない
外壁の工法
建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
※ 適用する　(1一般共通事項による)　・適用しない
アンカーの材質　※ ステンレス(SUS304)　・図示　・
アンカーの寸法　※ 図示　・M12　・M10　・
あと施工アンカーの材質及び寸法　・図示　・
目地　目地幅　※ 8mm以上　・図示　・
シーリング材　・適用する（※ 標仕9章7節による　・図示）　・適用しない

6. 床及び階段の石張り

床石張りの浸透性吸水防止剤　・適用する　・適用しない　(10.6.2、3)
床石張りの裏面処理　・適用する　・適用しない
床石張りの裏打ち処理　・適用する　・適用しない
階段張りの裏面処理　・適用する　・適用しない
目地　一般目地　目地幅(mm)　※ 図示　・
シーリング材　・適用する　・適用しない
伸縮調整目地　位置　※ 床面積30㎡程度ごと、細長い通路の場合6m程度ごと及び他部材との取り合い部　・図示

7. 笠木、平板等の石張り

取付け工法　・湿式工法　・乾式工法　(10.2.2)(10.7.2)
取付け金物　※ 標仕10.2.2(3)による　・図示　・
引金物、だぼ、かすがい及び受金物　※ 標仕10.2.2(1)による　・図示　・
石裏面処理　・適用する　・適用しない
乾式工法の場合の取付け代　※ 標仕10.5.3(2)による　・図示　・
石裏の補強用モルタル　・適用する　・適用しない
アンカーの材質　・SS400　・ステンレス(SUS304)　・図示　・
アンカーの寸法　※ 図示　・M12　・M10　・
あと施工アンカーの材質及び寸法　・図示　・

11 タイル工事

(1) 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

位置　※ 標仕表11.1.1による　・図示　(11.1.3)(表11.1.1)

(2) 材料

標準的な曲がりの役物は一体成形とする　(11.1.4)
試験張り　・行う　(○)行わない
見本焼き　・行う　(○)行わない
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

(3) セメントモルタルによるタイル張り

タイルの形状、寸法等　(11.2.2、6)

施工箇所	形状/寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材の適用	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
玄関・ポーチ	300角	ニューセラフォーラム(INAX)同等品													
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

モルタル塗りのコンクリート素地面の処理　・MCR工法　・目荒し工法(高圧洗浄)・
壁タイル張りの工法
内外装タイル　・密着張り　・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル　・マスク張り　・モザイクタイル張り
(○)既調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・
(○)既調合目地材
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

4. 有機系接着剤によるタイル張り

タイルの形状、寸法等　(11.3.2～5)

施工箇所	形状/寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ類	Ⅱ類	Ⅲ類	うわぐすり 施ゆう	無ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材の適用	耐凍害性 有	無	耐滑り性	備考
内装壁	100角	(○)	・	・	(○)	・	・	(○)	(○)	・	・	・	・	・	
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

有機系接着剤のホルムアルデヒド放散量　※ F☆☆☆☆　・
外装タイル接着剤張りにおける目地のシーリング材
打継ぎ目地　※ ポリウレタン系シーリング材　・
ひび割れ誘発目地　※ ポリウレタン系シーリング材　・
伸縮調整目地　※ 変成シリコーン系シーリング材　・
その他の目地　※ 変成シリコーン系シーリング材　・
モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理　・MCR工法　・目荒し工法(高圧洗浄)・
目地詰め　・行う　・行わない

12 木工事

(1) 表面仕上げ

木材の品質　(12.2.1)
(○)標仕12.2.1による　(○)信州木材認証製品又は同等品　・市販品
木材の含水率
下地材　※ A種　・B種　造作材　※ A種　・B種

(2) 製材

(12.2.1)(12.4.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)

(○)「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材　(表12.2.2)

施工箇所	樹　種	寸法(mm)	等　級	形　状	含　水　率	間伐材等の適用
図示	杉他	図示	※ 2級　・	図示	※ A種　・B種　・	・
			※ 1級　・		※ A種　・B種　・	・
			※ 2級　・		※ A種　・B種　・	・

(○)「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹　種	寸法(mm)	等　級	形　状	含　水　率	間伐材等の適用
図示	杉他	図示	(○)上小節 (○)小節　・	図示	※ A種　・B種　・	・
			・上小節 ・小節　・		※ A種　・B種　・	・
			・上小節 ・小節　・		※ A種　・B種　・	・

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹　種	寸法(mm)	等　級	形　状	含　水　率	間伐材等の適用
			※ 1級　・		※ 10%以下　・	・
			※ 1級　・		※ 10%以下　・	・
			※ 1級　・		※ 10%以下　・	・

・「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹　種	寸法(mm)	造作材の材面の品質	防虫処理	難燃処理	含水率	間伐材等の適用
			(　　) 造作材の場合 (※ A種　・B種)	・適用する ・適用しない	・適用する ・適用しない	※ A種 ・B種 ・	・

(3) 造作用集成材

ホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・　(12.2.1)

(○)「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施　工　箇　所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の等級	間伐材等の適用
図示	赤松他	図示	※ 1等　・2等	
			※ 1等　・2等	・
			※ 1等　・2等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施　工　箇　所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の等級	間伐材等の適用
					※ 1等　・2等	・
					※ 1等　・2等	・
					※ 1等　・2等	・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施　工　箇　所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含　水　率	間伐材等の適用
				※ 15%以下　・	・
				※ 15%以下　・	・
				※ 15%以下　・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施　工　箇　所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
						※ 15%以下 ・	・

(4) 造作用単板積層材

ホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・　(12.2.1)

「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施　工　箇　所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	防虫処理	間伐材等の適用
内装（腰）		・有り（加工・天然木加工・塗装加工） (○)無し（等級:　　）	・適用する (○)適用しない	(○)

「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施　工　箇　所	厚さ(mm)	表　面　の　品　質	防虫処理	含水率	間伐材等の適用
		・有り（加工・天然木加工 ・塗装加工） ・無し（　　）	・適用する ・適用しない	※ 14%以下	・

5. 直交集成材

ホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・　(12.2.1)

施　工　箇　所	品名	強度等級	種別	接着性能	樹種名	寸法	間伐材等の適用

(6) 合板等

ホルムアルデヒド放散量　※ 規制対象外　・　(12.2.1)

(○)下地用合板

施工箇所	厚さ(mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理	間伐材等の適用
	※ 5.5 ・		※ 1類 ・2類	広葉樹　※ 2等以上　・1等 針葉樹　※ C-D以上　・	・適用する ・適用しない	・

(○)構造用合板

施工箇所	厚さ(mm)	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	有効断面係数比	防虫処理	強度等級	間伐材等の適用
外壁 床	※ 12 (○)24	※ 2級以上 ・1級		※ 1類 ※ 特類(常時湿潤状態)	※ C-D以上 ・		(○)適用する ・適用しない	・適用する (　　) ・適用しない	・

(7) 合板等のつづき

・天然木化粧合板

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	化粧板に使用する単板の樹種	防虫処理	間伐材等の適用
内壁・天井	4		タモ・ナラ他	・適用する (○)適用しない	・

・特殊加工化粧合板

施工箇所	品目	厚さ(mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理	間伐材等の適用
					・オーバーレイ ・プリント・塗装	・適用する ・適用しない	・

・パーティクルボード

施　工　箇　所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
	※ 15 ・		※ 13タイプ ・	※ P又はM ・	

・構造用パネル

施　工　箇　所	厚さ(mm)	等　級
		・1級　・2級　・3級　・4級

(○)MDF

施　工　箇　所	厚さ(mm)	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分
巾木	7				

(8) 接合具等

造作材の化粧面の釘打ち　※隠し釘打ち　・釘頭埋め木　・つぶし頭釘打ち　・釘頭表し　(12.2.2、3)
諸金物の形状、寸法　※ 標仕表12.2.3～5による　・図示
諸金物の材質　※ 標仕表14.2.2のF種程度　・図示
接着剤　接着剤に含まれる可塑剤は、難揮発性のものとする。
ホルムアルデヒドの放散量　※ F☆☆☆☆　・

(9) 防腐・防蟻・防虫

・防腐、防蟻処理が不要な樹種による製材及び集成材　(12.3.1、2)
適用部位:(　　)
(○)薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適　用　部　位	保存処理性能区分
土台	・K2　(○)K3　・K4
	・K2　・K3　・K4
	・K2　・K3　・K4

・薬剤の塗布等による防腐・防蟻処理
JIS K 1571付属書A（規定）に基づく表面処理用木材保存材による、処理の適用、薬剤の種類及び適用部位

適　用　部　位	薬剤の種類
	※ 図示　(○)キシラデコール
	※ 図示　・
	※ 図示　・

処理の方法　※製造所の仕様による　・図示
・接着材への薬剤混入による防腐・防蟻処理
適用部位(　　)
・合板等の加圧注入処理等による防腐・防蟻処理
適用部位(　　)
・防虫処理
適用部位(　　)

(10) 木材

鉄筋コンクリート造等の内部間仕切軸組及び床組　(12.4.1)
間仕切軸組に用いる木材　※ 杉　・松　・図示　・
床組に用いる木材　※ 杉　・松　・図示　・
土間スラブの類の場合　※ 保存処理木材　・ひのき　・図示　・
窓、出入口その他　(12.5.1)
吊元枠、水掛りの下枠及び敷居　※ ひのき　・図示　・
その他　※ 杉　・松　・図示　・
縁甲板及び上がりがまちに用いる木材　※ ひのき　・図示　・　(12.6.1)
壁及び天井下地　※ 杉　・松　・図示　・　(12.7.1)

13 屋根及びとい工事

(1) 長尺金属板葺

(13.2.2、3)(表 13.2.1)

施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性の種類 めっき付着量及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
図示	※ JIS G 3322の屋根用コイル ・図示　・	(○)図示 ・	(○)図示 ・	・心木なし瓦棒葺 ・立平葺　・蟻掛葺 ・横葺　(○)図示	

下葺材料　・アスファルトルーフィング 940
・改質アスファルトルーフィング下葺材
（・一般タイプ　・複層材タイプ　(○)粘着層付タイプ）
工法
屋根葺き形式に応じた、葺板の寸法・厚さ、下地、留付け方法等　※ 図示　・
耐風圧性能（建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法）
※ 適用する　(1一般共通事項により製造所の指定による)　・適用しない
横葺のけらば の適用　・つかみ納め　・けらば包み納め
雪止め　(○)設置する(図示)　・設置しない

2. 折板葺

(13.2.2)(13.3.2、3)(表 13.2.1)

施工箇所	形　式	山高、山ピッチによる区分 山高	山ピッチ	耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
	・重ね形 (○)はぜ締め形 ・かん合形			(　)種	※ 鋼板製 ・アルミニウム合金板製		(○)有り ・無し	(○)30分 ・無し
	・							

材料の種類　※ 図示　・
断熱材 (○)有り（(○)図示　・
・[種別:　　厚さ(mm):　　防火性能:　　時間]）
・無し
工法
屋根葺き形式に応じた、葺板の寸法・厚さ、下地、留付け方法等　※ 図示　・
耐風圧性能（建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法）
※ 適用する　(1一般共通事項により製造所の指定による)　・適用しない
耐雪性能に対応した工法の適用　※　製造所の指定による　・適用しない
けらば納め　※けらば包みとし標仕13.3.3 (3) (ｴ) (a),(b)による　・図示

(1及び2についての保証)　※ 長野県板金工業組合認定の施工図により施工したものは同組合及び工事受注者連名の保証書(10年)、当該組合認定以外の施工図により施工したものはメーカー、屋根施工業者及び工事受注者連名の保証書(10年)、及び工事受注者の保証書(15年、新築に限る)を提出すること。

2025.06改訂

屋根及びとい工事（続き）

3. 粘土瓦葺 (13.4.2、3)

施工箇所	種類 製法による区分	種類 形状による区分	種類 寸法による区分	大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦
							・適用する ・適用しない
							・適用する ・適用しない

JIS A 5208に基づく凍害試験等　・行う　・　行わない
瓦桟木　材質　※ 杉　　ひのき　・図示　・
　　寸法　※ 幅21×高さ15(mm)　・図示　・
棟補強用心材　材質　※ 杉　・ひのき　・図示　・
　　寸法　※ 幅40×高さ30(mm)　・図示　・
瓦緊結用釘又はねじの種類、径、長さ　※　図示　・
棟補強工に仕様する金物等の材質、形状、寸法、留付け方法　※　図示　・
工法
　耐風圧性能及び耐震性能（建築基準法に基づき外力に対応した瓦の緊結方法等の工法）
　※ 適用する　(1一般共通事項により製造所の指定又は図示による)　・適用しない
　瓦緊結用釘又はねじの有効長さの最小値　※　図示　・
　瓦桟木の留付け工法　※ 図示　・
　棟の工法　・ 7寸丸伏せ棟　・F型用冠瓦伏せ棟　・のし棟　・のし積み棟　・
　面戸、雀口、葺土の露出する瓦接合部の仕上げ　・ する　・　しない

⑮ とい

といの材種　・配管用鋼管及び排水管継手 (13.5.2、3)(表13.5.1～4)
　　・硬質ポリ塩化ビニル管及び同質継手
　　・表面処理鋼板（　　）・ステンレス鋼板
　　◉図示　・
とい受け金物及び足金物の材種、形状及び留付け間隔　※表13.5.2による　◉図示
　多雪地域の軒どいの留付け間隔の適用　◉ あり　・　なし
防露材のホルムアルデヒド放散量　※ F☆☆☆☆　・
鋼管製といの防露巻き　・適用する
　　(施工箇所及び工法: ※ 標仕表13.5.4による ・ 図示　・　　)
　　・適用しない
ルーフドレン
　品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

14 金属工事

1. あと施工アンカー

引抜き耐力の確認試験　※ 行う（試験方法: 標仕14.1.3(1)(ｴ)による） (14.1.3)

2. アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理

(14.2.1)(表 14.2.1)

種　別	皮膜又は複合皮膜の種類	施工箇所(成形板、笠木、建具以外)
・ AB-1種	※ AA15	
・ AB-2種	※ AA15	
・ AC-1種	※ AA6	
・ AC-2種	※ AA6	
・ BA-1種	※ A2	
・ BA-2種	※ A2	
・ BB-1種	※ B	
・ BB-2種	※ B	
・ BC-1種	※ C	
・ BC-2種	※ C	
・ C種		
・		

着色　（ ・アンバー　・ブロンズ　・ブラック系　・ステンカラー）
陽極酸化皮膜の着色方法　※ 二次電解着色　・三次電解着色

4. 鉄鋼の亜鉛めっき

(14.2.2)(表14.2.2)

表面処理方法	種別	施工箇所(手すり、タラップ以外)
溶融亜鉛めっき	・ A種	
	・ B種	
	・ C種	
電気亜鉛めっき	・ D種	
	・ E種	
	・ F種	

5. 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類 (14.4.2～4)(表14.4.1)
　※ 屋外（ ※ 25 形　・ 19 形 ）　※ 屋内（ ※ 19 形　・ 25 形 ）
屋外の軒天井、ピロティ天井等
　屋外での施工
　　野縁受、つりボルト及びインサートの間隔及び周辺部の端からの距離　※ 図示　・
　　野縁の間隔　※ 図示　・
・ ダクト等の開口によりつりボルトの間隔が900mmを超える場合
　補強方法　※ 図示　・
・ 天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合
　補強方法　※ 標仕14.4.4(8)(ｱ)～(ｲ)による　・ 図示
・ 天井のふところが3.0mを超える場合
　補強方法　※ 図示　・
・ 天井下地材における耐震性を考慮した補強
　補強箇所　・ 図示　・
　補強方法　※ 図示　・
・ 屋外の軒天井及びピロティ天井等における耐風圧性を考慮した補強
　補強方法　※ 図示　・

6. 軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナーの種類 (14.5.3,4)(表 14.5.1)
　※ 標仕表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類　・ 図示
スタッドの高さが5.0mを超える場合
　※ 図示　・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
　※ 標仕14.5.4(5)(ｱ) ～(ｳ)による　・ 図示

7. 金属成形板張り

(14.6.2、3)(表 14.2.1)

種別	製法	形状	寸法(mm)	厚さ(mm)	表面処理 種別	表面処理 皮膜等の種類
・ アルミニウム	・ 押出し ・ ロール	スパンドレル形			・ BB-1種 ・ BB-2種	※ B　・
	・ プレス	パネル形			・ AB-1種 ・ AB-2種	※ AA15　・
	・				・ C種	
・						

着色　（ ・アンバー　・ブロンズ　・ブラック系　・ステンカラー）
取付け用下地　※ 標仕14章4節による　・図示
伸縮調整継手　・ 設ける （ 施工箇所　・ 図示　・　　）・ 設けない

8. アルミニウム製笠木

種類　・ 250形　・ 300形　・ 350形　・ 100形 (14.7.2、3)(表 14.2.1)(表 14.7.1)
表面処理　種別(　　)種　皮膜等の種類(※ 標仕表14.2.1による　・　　)
　　着色（ ・ アンバー　・ ブロンズ　・ ブラック系　・ ステンカラー ）
笠木の固定金具の工法等
　耐風圧性能（建築基準法に基づき定める風圧力に対応した工法）
　※ 適用する　(1一般共通事項により製造所の指定による)　・適用しない
　耐雪性能（建築基準法に基づき定める積雪荷重に対応した工法）
　※ 適用する（製造所の指定による）　・適用しない

15 左官工事

⑩ 下地

ラス系下地 (15.2.4～7)
　◉通気工法（ ・ 二層下地　・ 単層下地 ◉図示 ）
　・ 直貼り工法（ ・ ラスモルタル下地　・ ラスシートモルタル下地　・ 図示 ）
　・ 外断熱工法（ ・ 図示　・ ）
材料
　ラス及び補強用平ラス　※標仕15.2.4(3)(ｱ)による　・
　ラスシート　※標仕15.2.4(3)(ｲ)による　・
　ステープル　※標仕15.2.4(3)(ｳ)による　・
施工
　換気口部の措置 ※公共建築木造工事標準仕様書11.4.3(2)(ｳ)による　・
　直張り工法の建築基準法に基づく耐力壁として利用する場合のラスシート施工方法　※図示　・
せっこうボードその他ボード下地
　せっこうボードの種類及び厚さ　※ 図示　・
　木質系セメント板の種類及び厚さ　※ 図示　・
こまい下地
　建築基準法に基づく耐力壁の指定　・あり（ ※ 図示　・ ）　・
木ずり下地
　木ずり用小幅板の樹種　※杉（心去り材）　・

⑪ モルタル塗り

モルタル材料　・現場調合材料　・既調合材料 (15.3.2、5)
既製目地材　◉設ける　施工箇所(　　)　形状(※ 図示 ・　　)
　　・設けない
床目地　・設ける
　　工法　※ 押し目地　・
　　設置間隔　※ 目地割り2㎡程度、最大目地間隔3m程度　・ 図示
　　・設けない
外壁タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整材塗りの接着力試験
・ 適用する　・ 適用しない
※ 防水剤
　品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

⑫ 均しコンクリートの直均し仕上げ

(6.2.5)(表6.2.5)(15.4.1、2)

平坦さ	適　用　部　位
※ 3m につき　3mm 以下	※ 幅木廻り　・
※ 3m につき　7mm 以下	・ 合成樹脂塗床下地　・ ビニル系床材張り下地 ・ フリーアクセスフロア下地（置敷式）◉コンクリート直均し仕上 ・ フリーアクセスフロア下地（溝工法）・
※ 3m につき 10mm 以下	・ カーペット張り下地　・ 防水下地 ・ セルフレベリング材塗り下地 ・ フリーアクセスフロア下地（パネル式）・
※ 1m につき 10mm 以下	◉タイル張り下地　・ モルタル塗り下地　・
※ 目視で支障のない範囲	※ 上で指定のないもの

⑬ 仕上塗材仕上材

建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 (15.6.2)
　※ F☆☆☆☆　・
仕上塗材の種類　◉ アクリル樹脂系多意匠装飾仕上材（ベルアート同等品）

種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状等
・ 薄付け仕上塗材	・ 外装薄塗材Si	・	・ 砂壁状　・ さざ波状　・ 平たん状
	・ 可とう形外装薄塗材Si	・	・ ゆず肌状（ ・ 吹付け　・ ローラー塗り ）
	・ 外装薄塗材E	・	・ 凹凸状　（ ・ 吹付け　・ こて塗り ）
	・ 可とう形外装薄塗材E	・	・ 着色骨材砂壁状（ ・ 吹付け　・ こて塗り ）
	・ 防水形外装薄塗材E	・	
	・ 外装薄塗材S	・	
	・ 内装薄塗材C	・	・ 凹凸状　（ ・ 吹付け　・ こて塗り ）
	・ 内装薄塗材L	・	・ ゆず肌状（ ・ 吹付け　・ ローラー塗り ）
	・ 内装薄塗材Si	・	・ 平たん状　・ さざ波状
	・ 内装薄塗材E	・	・ 砂壁状じゅらく　・ 京壁状じゅらく
	・ 内装薄塗材W	・	・ 吸放湿性　・ 適用する　・ 適用しない
・ 厚付け仕上塗材	・ 外装厚塗材C	・	・ 吹放し　・ 凸部処理　・ かき落とし
	・ 外装厚塗材Si	・	・ 平たん状（ ・ こて塗り　・ ローラー塗り ）
	・ 外装厚塗材E	・	・ 凹凸状　（ ・ こて塗り　・ ローラー塗り ）
		・	・ ひき起こし（ ・ こて塗り　・ ローラー塗り ）
			上塗材　・ 適用する　・ 適用しない
	・ 内装厚塗材C	・	・ 吹放し　・ 凸部処理　・ かき落とし
	・ 内装厚塗材L	・	・ 平たん状（ ・ こて塗り　・ ローラー塗り ）
	・ 内装厚塗材G	・	・ 凹凸状　（ ・ こて塗り　・ ローラー塗り ）
	・ 内装厚塗材Si	・	・ ひき起こし（ ・ こて塗り　・ ローラー塗り ）
	・ 内装厚塗材E	・	吸放湿性　・ 適用する　・ 適用しない
・ 複層仕上塗材	・ 複層塗材CE	・	・ ゆず肌状　・ 凸部処理　・ 凹凸状
	・ 可とう形複層塗材CE	・	耐候性　※ 耐候形3種　・
	・ 複層塗材Si	・	・ 上塗材
	・ 複層塗材E	・	溶　媒　※ 水系　・ 溶剤系　・ 弱溶剤系
	・ 複層塗材RE	・	樹　脂　※ アクリル系　・
	・ 防水形複層塗材CE	・	外　観　※ つやあり　・ つやなし
	・ 防水形複層塗材E	・	・ メタリック
	・ 防水形複層塗材RE	・	
	・ 防水形複層塗材RS	・	
・ 軽量骨材仕上塗材	・ 吹付用軽量塗材	・	
	・ こて塗用軽量塗材	・	

5. マスチック塗材塗り

種別　・ A種　・ B種 (15.7.2)

6. しっくい塗り

下地　※標仕15.10.1による　・ 図示 (15.10.1～4)
材料　・既調合しっくい（色しっくいの適用　・ あり　・ なし）
　　・現場調合
調合及び塗厚　既調合しっくい材料　※標仕15.10.3(1)(ｱ) ～(ｳ)による　・図示
　　現場調合　※標仕表15.10.3、4による・図示
工法　既調合しっくいの上塗り仕上げ工法　・なで切り仕上げ　・パターン仕上げ

7. こまい壁塗り

※ 標仕15.11.2～8によるものとし必要に応じて図示 (15.11.2～8)

8. ロックウール吹付け

ロックウールのホルムアルデヒド放散量　※ F☆☆☆☆　・ (15.12.2,3)
接着剤のホルムアルデヒド放散量　※ F☆☆☆☆　・
吹付け厚さ(mm)　・ 図示　・ 25　・

16 建具工事

⑪ 防火戸

※ 建具表による　・ (16.1.3)

2. 見本の製作等

建具見本の製作　・行う(建具符号:　　)　・ 行わない (16.1.4)
特殊な建具の仮組　・行う(建具符号:　　)　・ 行わない

3. 防犯建物部品

・ 適用する　（※ 建具表による　・　　）　(16.1.6)
・ 適用しない

⑫ アルミニウム製建具

性能等級 (16.2.2～5)（表14.2.1）(表16.2.1、2)
　耐風圧性、気密性及び水密性の等級
　　外部に面する建具 ・ A種（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　◉B種（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ C種（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ D種（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ E種（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　防音ドアセット、防音サッシ　・ 適用する　遮音性の等級（　）
　　（ 建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ 適用しない
　断熱ドアセット、断熱サッシ　・ 適用する　断熱性の等級（　）
　　（ 建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ 適用しない
　枠の見込み寸法　※ 建具表による　・ 70　・ 100　・
ステンレス鋼板　※ SUS304,SUS430J1又はSUS443J1
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※ HL　・
表面処理
　外部に面する建具　・ BB-1種　◉BB-2種　・
　　皮膜等の種類（ ※ 標仕表14.2.1による　・　　）
　　着色（◉標準色　・ 特注色　・　　）
　屋内の建具　・ BC-1種　◉BC-2種　・
　　皮膜等の種類（ ※ 標仕表14.2.1による　・　　）
　　着色（◉標準色　・ 特注色　・　　）
結露水の処理方法　※ 排水式　・ 水貯め式　・
水切り板、ぜん板　※ 図示　・
木下地の場合の内付け建具　・ 適用する　・ 適用しない
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

⑬ 網戸等

(16.2.3)

種類	材　種	線　径	網　目
◉防虫網	※ 合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ◉ステンレス(SUS316)製	※ 0.25mm以上 ・	※ 16～18メッシュ ・

6. 樹脂製建具

性能等級 (16.2.5)(16.3.2～5)(表16.3.1～3)
　耐風圧性、気密性及び水密性の等級 ◉ A-4 ◉ W4
　　外部に面する建具 ・ A種（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ B種（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ C種（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ D種（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ E種（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　防音ドアセット、防音サッシ　・ 適用する　遮音性の等級（ ・ T-1　・ T-2 ）
　　（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ 適用しない
　断熱ドアセット、断熱サッシ◉適用する　断熱性の等級（ ・ H-4　・ H-5 ◉H-6　・ H-7　・ H-8）
　　（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ 適用しない
　外部に面する建具の日射熱取得製の等級　（ ・　　）(建具符号: ※ 建具表による　・　　)
ガラス　※ 複層ガラス　・ 単層ガラス　・ 三層ガラス
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※ HL　・
枠の見込み寸法　※ 建具表による　・
表面色　※ 標準色　・ 特注色
水切り板、ぜん板　※ 図示　・
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

7. 鋼製建具

性能等級 (16.2.2)（16.4.2～4）(16.4.6)(表16.4.2)
　簡易気密型（ドアセット）・ 適用する（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ 適用しない
　外部に面する建具の耐風圧性　・ S-4　(建具符号: ※ 建具表による　・　　)
　　・ S-5　(建具符号: ※ 建具表による　・　　)
　　・ S-6　(建具符号: ※ 建具表による　・　　)
　防音ドアセット、防音サッシ　・ 適用する　遮音性の等級（　）
　　（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ 適用しない
　断熱ドアセット、断熱サッシ　・ 適用する　断熱性の等級（　）
　　（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ 適用しない
　耐震ドアセット　・ 適用する　面内変形追随性の等級（　）
　　（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ 適用しない
ステンレス鋼板　※ SUS304,SUS430J1又はSUS443J1
ステンレス製のくつずりの仕上げ　※ HL　・
鋼板の厚さ　※標仕表16.4.2による　・
　片開き、親子開き及び両開き戸の1枚の戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合
　　鋼板厚み　※ 図示　・
標準型鋼製建具の形式及び寸法　※ 建具表による　・
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

⑭ 鋼製軽量建具

性能等級 (16.2.2)（16.5.2～4）(16.5.6)（表16.5.1）
　簡易気密型（ドアセット）・ 適用する（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ 適用しない
　防音ドアセット、防音サッシ　・ 適用する　遮音性の等級（　）
　　（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ 適用しない
　断熱ドアセット、断熱サッシ　・ 適用する　断熱性の等級（　）
　　（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ 適用しない
　耐震ドアセット　・ 適用する　面内変形追随性の等級（　）
　　（建具符号: ※ 建具表による　・　　）
　　・ 適用しない
材料
　ステンレス鋼板　※ SUS304,SUS430J1又はSUS443J1
　ステンレス製のくつずりの仕上げ　※ HL　・
鋼板　※ 亜鉛めっき鋼板　◉ビニル被覆鋼板　・ カラー鋼板　・ ステンレス鋼板
召合せ、縦小口包み板の材質　※ 鋼板　・
鋼板の厚さ　※ 標仕表16.5.1による　・ 建具表による
　片開き、親子開き及び両開き戸の1枚の戸の有効開口幅が950mm又は有効高さが2,400mmを超える場合
　　鋼板厚み　※ 図示　・
標準型鋼製建具の形式及び寸法　※ 建具表による　・
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

9. ステンレス製建具

性能等級 (16.2.2)(16.4.2)(16.6.2～5)
　耐風圧性、気密性及び水密性の等級
　　耐風圧性の等級　(　　)(建具符号: ※ 建具表による　・　　)
　　気密性の等級　(　　)(建具符号: ※ 建具表による　・　　)
　　水密性の等級　(　　)(建具符号: ※ 建具表による　・　　)
　防音ドアセット、防音サッシ　・ 適用する　遮音性の等級（　）
　　(建具符号: ※ 建具表による　・　　)
　　・ 適用しない
　断熱ドアセット、断熱サッシ　・ 適用する　断熱性の等級（　）
　　(建具符号: ※ 建具表による　・　　)
　　・ 適用しない
　耐震ドアセット　・ 適用する　面内変形追随性の等級（　）
　　(建具符号: ※ 建具表による　・　　)
　　・ 適用しない
鋼板　※ SUS430J1L、SUS443J1、SUS304　・
表面仕上げ　※ HL仕上げ　・ 鏡面仕上げ　・
ステンレス鋼板の曲げ加工　※ 普通曲げ　・ 角出し曲げ
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

⑯ 木製建具

建具材の加工、組立時の含水率　※ A種　・ B種 (16.7.2～4)
建物内部の木製建具に使用する材料、接着剤、塗料のホルムアルデヒド放散量
　※ F☆☆☆☆又は規制対象外　・
◉フラッシュ戸
　接着の程度　水掛かり箇所（ ※ 1類 ）その他（※ 2類 ）
　表面材の合板の種類

合板の種類	規　格　等	表面板の厚さ(mm)	備　考
・ 普通合板	板面の品質 広葉樹　※ 1等　・ 針葉樹　・ 樹種名（　　）	※ 2.5以上 ・	
◉天然木 化粧合板	樹種名（ タモ　　）	※ 3.2以上 ・	
・ 特殊加工 化粧合板	化粧加工の方法 （ ・ オーバーレイ　・ プリント　・ 塗装 ） 表面性能 （ ・ F　・ FW ・ W　・ SW ）タイプ	※ 2.4以上 ・	
・ MDF	表裏面の状態による区分　（　　） 曲げ強さによる区分　（　　） 接着剤による区分　（　　） 難燃性による区分　（　　）		

召し合わせかまちのいんろう付け　・ なし　・ あり
◉かまち戸　かまち樹種（ 図示 ）鏡板樹種（ 図示 ）
　　見込み寸法　※ 36mm　◉建具表による　・
・ ふすま　張りの種別（ ・ I 型　・ II 型 ）
　　上張り　・ 鳥の子　・ 新鳥の子又はビニル紙程度　押入等の裏側は雲花紙程度
　　縁仕上　・ 塗り縁　・ 生地縁(素地)　・ 生地縁(ウレタンクリヤー塗装)
　　見込み寸法　※ 19.5mm　・ 建具表による　・
・ 戸ぶすま　見込み寸法　※ 30mm　・ 建具表による　・
・ 紙張り障子　見込み寸法　※ 30mm　・ 建具表による　・
枠、くつずりの材料　※ 建具表による　・

⑰ 建具用金物

金物の種類・見え掛り部の材質等 (16.8.2,3)（表16.8.1～5）
　※ 標仕表16.8.1及び適用は建具表による　・
建具に使用する丁番の枚数及び大きさ
　※ 標仕表16.8.2～4による　・建具表による
木製建具に使用する戸車とレール
　※ 標仕表16.8.5による　・建具表による
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置
　※ 建具表による　・
◉錠前類
　シリンダーサイド　※ 外側シリンダー、内側サムターン　・ 建具表による　・
　実用性能項目（JIS A 1541-1及びJIS A 1541-2による）
　　耐じん性能　・ グレード1　◉グレード2
　　デッドボルトの出寸法　◉グレード3（17mm）以上　・
　　その他の性能項目はグレード3とする。また鍵による施錠が可能なものはマスターキー、グランド
　　マスターキー、コンストラクションキーなどのキーシステムが構築できるものとする。
　品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・
◉クローザー類
　ディレードアクション(遅延開)機能　※ 建具表による　◉あり　・ なし
　品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

⑱ 鍵

キーシステムの種類、構成　◉錠製作時に監督員より指示する (16.8.4)
　　・
マスターキー　・ 製作する　◉製作しない
鍵の引き渡し　※ 錠1に対し対応する鍵3本を1組とし、室名札を付け、一括して鍵箱に収納して引き渡す。鍵箱は、鍵の個数に相応した鋼製の既製品とする
　　・

13. 自動ドア開閉機構

(16.9.2、3)

自動ドア	性　能	防　錆	検出装置の性能と種類	凍結防止
・ SSLD-1 ・ SSLD-2 ・ DSLD-1 ・ DSLD-2	※ 標仕表 16.9.1による	・ 適用する ・ 適用しない	性能　※表16.9.3による ・ 光線(反射)センサー ・ 熱線センサー ・ 音波センサー ・ 光電センサー ・ 電波センサー ・ タッチスイッチ (・ 無線式　・ 光線式) ・ 押しボタンスイッチ ・ 車椅子使用者用便房スイッチ (・ 押しボタン　・ 非接触)	・ 行う (適用箇所は建具表による) ・ 行わない
・車椅子使用者用便房出入口	※ 標仕表 16.9.2による ・			
・ 図示	・			

品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

⑲ 自閉式吊り引戸装置

性能　※ 標仕表 16.10.1 による　・ (16.10.3)(表16.10.1)
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

2025.06改訂

建具工事（続き）

15. 集合シャッター

(16.11.2、3)

シャッターの種類	耐風圧強度
・管理用シャッター	耐風圧強度（　　）N/m²
・外壁用防火シャッター	耐風圧強度（　　）N/m²
・屋内用防火シャッター	
・屋内用防煙シャッター	

開閉機能による種類　※ 上部電動式(手動併用)　・上部手動式
電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置、障害物感知装置の設置場所　※ 図示　・
屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止装置　※図示　・
管理用シャッターのシャッターケース　・設ける　・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類　・JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板)・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板)
めっきの付着量　※ Z12又はF12　・
ガイドレール、まぐさ、両掛かりの座板、座板カバー、スイッチボックス類の蓋
ステンレス鋼板　※ SUS304, SUS430J1又はSUS443J1　・
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

16. 軽量シャッター

(16.12.2~4)

開閉形式　※ 手動式　・上部電動式(手動併用)
耐風圧強度　（　　）N/m²
電動式シャッターの障害物感知装置の設置場所　※ 図示　・
スラットの材質
・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板)　めっき付着量（※ Z06又はF06　・　　）
・JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板)　めっき付着量（※ AZ90　・　　）
スラットの形状　・インターロッキング形　・オーバーラッピング形
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

17. オーバーヘッドドア

(16.13.2,3)

セクション材料による区分	耐風圧区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
※ スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125 ・100 ・75 ・50	※ バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※ 溶融亜鉛めっき鋼板(めっき付着量※Z27) ・ステンレス鋼板

障害物感知装置の設置場所　※ 図示　・
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

⑯ ガラス

(9.7) (16.14.2~4) (図16.14.1)

⊙フロート板ガラス　厚さ(ミリ)　※ 図示　・
・磨き板ガラス　厚さ(ミリ)　※ 図示　・
・すり板ガラス　厚さ(ミリ)　※ 図示　・
⊙型板ガラス　厚さ(ミリ)　※ 図示　・
模様　⊙梨地　・かすみ　・その他（　　）

・網入板ガラス、線入板ガラス

種類	板の表面の状態	網種	厚さ(ミリ)
⊙網入板ガラス	⊙網入磨き板ガラス ⊙網入型板ガラス	・かく網 ⊙ひし網	※ 図示　・
・線入板ガラス	・線入磨き板ガラス ・線入型板ガラス		

・合わせガラス
材料板ガラス種類の組合せ
※ 建具表に図示　・
材料板ガラスの厚さの組合せ、合わせガラスの全体厚さ　※ 建具表に図示　・
材料板ガラス種類及び厚さの組合せ特性による種類　・Ⅰ類　・Ⅱ-1類　・Ⅱ-2類　・Ⅲ類

⊙強化ガラス

材料板ガラスによる種類	厚さ(ミリ)	特性による種類
⊙フロート強化ガラス（※ 平面　・曲面）	※ 図示　・	・Ⅰ類　・Ⅲ類
⊙型板強化ガラス	※ 4	
・熱線反射強化ガラス	※ 図示　・	

・熱線吸収板ガラス

板ガラスによる種類	厚さ(ミリ)	性能による種類
・熱線吸収フロート板ガラス ・熱線吸収磨き板ガラス	※ 図示　・	・1種（5mm日射取得率0.8以下） ・2種（5mm日射取得率0.7以下）
・熱線吸収網入磨き板ガラス ・熱線吸収線入磨き板ガラス ・熱線吸収網入型板ガラス	※ 6.8	

⊙複層ガラス
材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ、複層ガラスの全体厚さ　※ 建具表に図示　・
断熱性による区分　（・T1・T2・T3 ⊙T4・T5・T6）
日射取得性及び日射遮蔽性による区分（⊙（日射熱取得率0.5以上）　・S（日射熱取得率0.49以下））
乾燥気体の種類　（⊙空気　・アルゴン　・クリプトン　・ネオン）

・熱線反射ガラス

板ガラスによる種類	厚さ(ミリ)	日射遮へい性による区分	耐久性による区分
・フロート板ガラス ・磨き板ガラス ・熱線吸収フロート板ガラス ・熱線吸収磨き板ガラス ・平面強化ガラス ・倍強度ガラス	※ 図示　・	・1種（日射熱取得率0.70以下） ・2種（日射熱取得率0.55以下） ・3種（日射熱取得率0.40以下）	・A種 ・B種

反射被膜面　・内面　・外面
映像調整　・行わない　・行う

・倍強度ガラス

名称	材料板ガラスによる種類	厚さ(ミリ)	備考
フロート倍強度ガラス	・フロート板ガラス ・磨き板ガラス ・熱線吸収フロート板ガラス ・熱線吸収磨き倍板ガラス	※ 図示　・	
熱線反射倍強度ガラス	・熱線反射ガラス		

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製 樹脂製	⊙シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ・	※ 製造所の仕様による ・図示 ・
鋼製及び鋼製軽量	⊙シーリング材 ・	※ 製造所の仕様による ・図示　・
ステンレス製	・シーリング材 ・	※ 製造所の仕様による ・図示　・

品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

19. ガラスブロック

(16.14.5)

表面形状	呼び寸法	厚さ(mm)	色調 クリア	色調 乳白	目地幅(mm) 平積み	目地幅(mm) 曲面積み	伸縮調整目地(mm)	防火性能
・正方形	・125×125	80	・	・	※ 8~15 ・15~25 ・	外側 ※ 15以下 ・ 内側 ※ 6以上 ・	※ 6m以下ごとに10~25 ・図示 ・	※ 無し ・有り
	・160×160	・95 ・125	・	・				
	・200×200	・95 ・125	・	・				
	・320×320	95	・	・				
・長方形	・250×125	80	・	・				
	・320×160	95	・	・				

曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。
壁用金属枠及び補強材　・設ける　形状　※ 図示　・　　）
・設けない
力骨　材質　※ ステンレス鋼(SUS304)　・図示　・
寸法　※ 径5.5mm　・図示　・
形状　※ はしご形状複筋及び単筋　・図示　・
化粧目地モルタルの色　（　　）
シーリング材　・標仕表9.7.1の被着体の組合せで適合するもの　・
金属製化粧カバー　材質　・ステンレス製　・アルミニウム製
寸法、形状　※ 図示　・
工法
耐風圧性能（建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法）
※ 適用する　(1一般共通事項により製造所の指定による)　・適用しない
目地部の力骨の補強方法
※ ガラスブロック製造所の仕様による　・図示　・

17 カーテンウォール工事

1. 取付方法、性能等

(17.1.3) (17.2.2) (17.3.2)

取付方法　・層間方式　・柱・梁方式
・方立方式　・スパンドレル方式　・

性能

水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性(℃)
				・30分　・ ・1時間	・80　・70 ・60

耐震・耐風圧性能（建築基準法に基づき定まる外力に対応した工法）
※ 適用する　(1一般共通事項による)　・適用しない
主要部材の耐風圧性能(ガラスを除く)

支点間距離(h)	耐風圧性能	状態
4m以下	・たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量20mm以下であること ・	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。
4mを超える	・	

層間変位追従性

建築物の構造種別	層間変位量(h=支点間距離)	変位後の状態
鉄骨造	・±(1/200)×h以上 ・	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。 シーリングは補修程度の損傷であること。
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	・±(1/300)×h以上 ・	

シーリング材
下表以外は標仕表 9.7.1 による

被着体の組合せ		シーリング材の種別 記号	シーリング材の種別 主成分による区分
金属	ガラス		
	石、タイル		
ガラス	ガラス		
カーテンウォール板間目地			

構造用ガスケット
・適用する　(施工箇所　・図示　・　　)
材質　・クロロプレン系　・EPDM系　・シリコーン系
形状　・H型　・Y型　・C型
寸法(mm)　ガラス板厚（　　）、支持枠の厚さ（　　）、ウェブの寸法（　　）
・適用しない
断熱材
種類　（　　）　厚さ(mm)　（　　）
施工箇所　・図示　・
耐火材料

施工部位	種別	規格帯
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		

性能の確認方法及び判定方法
※ 適切な資料を監督職員に提出し承諾を受ける

2. メタルカーテンウォール

カーテンウォールの材料　(17.2.2~6)

材料	規格等	表面処理	映像調整
・アルミニウム材	※ 標仕16.2.3による ・図示 ・	屋外に面する部分 ・BB-1種　・BB-2種　・ 屋内 ・BC-1種　・BC-2種　・ 皮膜等の種類（標仕表14.2.1による） 着色（・標準色　・特注色）	・行う ・行わない
・鋼材		・塗装仕上げ　・	
・ステンレス材		・研磨仕上げ(HL)・	

製品の見え係り部分の仕上げ　※　図示　・
製品及び取付位置の寸法許容差　※ 標仕表17.2.1~3による　・
ガラスの取付方法　※ 図示　・
ガラス溝の寸法、形状　※ 製造所の仕様による　・

3. PCカーテンウォール

カーテンウォールの材料　(17.3.2~6)(表17.3.1,2)
コンクリートの種類と品質
種類　※ 普通コンクリート　・軽量コンクリート
設計基準強度　(※ 30N/mm2　・　　)　スランプ　※ 12cm　・
気乾単位容積質量　※ 標仕6.2.3 (1) による　・
単位水量の最大値　※ 185kg/m3　・
鉄筋　※ SD295（・D13　・D10）・図示　・
補強鉄線の径(mm)　※ 3.2　・4.0　・5.0　・6.0　・図示　・
配筋　※ 図示　・
先付け材料　※ 図示　・サッシ枠　・ゴンドラ用ガイドレール　・
表面仕上げ材　※ 図示　・磁器質タイル・石材（・花こう岩　・大理石　・　　）
ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差(mm)
・h = -1~+2、W1及びW2 = ±1
製品及び取付位置の寸法許容差　※ 標仕表17.3.1、2による　・
ガラスの取付方法
・ガラスの取付け材が構造用ガスケットで複層ガラス等を使用する場合は排水機能の設置及びガラスの封着処理の強化を行う

18 塗装工事

⑰ 材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量　(18.1.3)
※ F☆☆☆☆　・
⊙防火材料　※ 図示　・次の箇所を除き防火材料とする。(箇所：　　)

㋐ 素地ごしらえ

(18.2.2~7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※ A種　・B種
	透明塗料塗りの場合	・A種　※ B種
鉄鋼面	DP塗料塗りの場合	・A種　※ B種　・C種
	上記以外塗りの場合	・A種　・B種　※ C種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
モルタル面及びプラスター面		・A種　※ B種
コンクリート面及びALCパネル面		・A種　※ B種
コンクリート面（DP塗装）及び押出成形セメント板面		・A種　・B種
せっこうボード面及びその他ボード面	目地:継目処理工法	※ A種　・B種
	目地:継目処理工法以外	・A種　※ B種

㋑ 錆止め塗装塗り

(18.3.2、3)

下地面等			工程の種別	塗料の種別
鉄鋼面	SOPの場合	見え掛り部分	※ A種　・B種	※ A種
		見え隠れ部分	・A種　※ B種	
	DPの場合		※ 標仕表18.3.4による	※ 1回目C種、2, 3回目D種
	EP-Gの場合	見え掛り部分	※ A種　・B種	・A種　※ B種
		見え隠れ部分	・A種　※ B種	
亜鉛めっき鋼面	SOPの場合	鋼製建具	※ A種　・B種	※ A種　・B種
		鋼製建具以外	・A種　※ B種	・A種　※ B種
	DPの場合		※ 標仕表18.3.6による	※ B種
	EP-Gの場合	鋼製建具	※ A種　・B種	※ C種
		鋼製建具以外	・A種　※ B種	

㋒ 塗装

(18.4.1~18.12.2)

塗装		種別	塗料の種類等
・合成樹脂調合ペイント塗り (SOP)	木部屋外	※ A種　・B種	-
	木部屋内	・A種　※ B種	-
	鉄鋼面	・A種　※ B種	-
	亜鉛めっき鋼面	標仕表18.4.3による	-
・クリヤラッカー塗り (CL)		・A種	着色剤（・溶剤系　・油性）
		※ B種	-
・アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り (NAD)		・A種　※ B種	-
・耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面	標仕表18.7.1による	上塗り等級(　)級
	亜鉛めっき鋼面	標仕表18.7.2による	上塗り等級(　)級
	コンクリート面及び押出成形セメント板面	・A種　・B種　・C種	-
	コンクリート面等	・A種　※ B種	-
・つや有合成樹脂エマルションペイント塗り (EP-G)	屋内の木部	標仕表18.8.2による	-
	屋内の鉄鋼面	・A種　※ B種	-
	屋内の亜鉛めっき鋼面	標仕表18.8.4による	-
⊙合成樹脂エマルションペイント塗り (EP)		⊙A種　※ B種	-
⊙ウレタン樹脂ワニス塗り (UC)		⊙A種　※ B種	着色剤（・溶剤系　・油性）
・ピグメントステイン塗り		標仕表18.11.1による	-
・オイルステイン塗り (OS)		※　図示	-
⊙木材保護塗料塗り (WP)		⊙A種　※ B種	-

屋上、屋根面の金属面に塗装する場合の塗料は高日射反射率塗装とする。

19 内装工事

⑰ 接着剤

ホルムアルデヒド放散量　※ F☆☆☆☆　・　(19.2)

㋐ ビニル床シート及び床タイル張り

⊙ビニル床シート　(19.2.2、3)

種類	JIS 記号	施工箇所	色柄	厚さ(mm)
発泡層のないもの	※ FS (複層ビニル床シート)	⊙図示 ・	⊙無地　・柄物 ・マーブル柄　・図示	※ 2.0 ・
	・TS (単層ビニル床シート)	・図示 ・	・無地　・柄物 ・マーブル柄　・図示	・図示 ・
発泡層のあるもの	・HS (発泡複層ビニル床シート)	・図示 ・	・無地　・柄物 ・マーブル柄　・図示	・図示 ・
	・KS (クッションフロア)	・図示 ・	・無地　・柄物 ・マーブル柄　・図示	・図示 ・

工法　※ 熱溶接工法　・突付け（施工箇所：　　）

・ビニル床タイル

JIS記号	施工箇所	色柄	寸法	厚さ(mm)
・TT (単層ビニル床タイル)	・図示 ・	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	・2.0　・2.5 ・3.0　・図示
・FT (複層ビニル床タイル)	・図示 ・	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	・2.0　・2.5 ・3.0　・図示
※ KT (コンポジションビニル床タイル)	・図示 ・	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450	※ 2.0　・2.5 ・3.0　・図示
・FOA (置敷きビニル床タイル)	・図示 ・	・無地 ・柄物	・450×450 ・500×500	・4.0　・4.5 ・5.0　・5.5 ・図示
・FOB (薄型置敷きビニル床タイル)	・図示 ・	・無地 ・柄物	・450×450 ・500×500	・2.0　・2.5 ・3.0　・図示

・特殊機能床材

種類	施工箇所	性能	寸法	厚さ(mm)
・帯電防止床シート	・図示 ・	・電気抵抗値 10^7 ~10^{10} Ω		・2.0　・2.5 ・3.0　・図示
・帯電防止床タイル	・図示 ・	・電気抵抗値 10^4 ~10^6 Ω	・300×300 ・450×450	・2.0　・2.5 ・3.0　・図示
・視覚障害者用床タイル	・図示 ・	突起の形状、寸法及びその配列は、JIS T 9251による	※ 300×300 ・450×450	
・耐動荷重性床シート	・図示 ・			・2.0　・2.5 ・3.0　・図示
・防滑性床シート	・図示 ・			・2.0　・2.5 ・3.0　・図示
・防滑性床タイル	・図示 ・		・300×300 ・450×450	・2.0　・2.5 ・3.0　・図示

工法　特殊な床下地の工法　・図示　・

3. ビニル幅木

(19.2.2)

材質　・軟質　・硬質
高さ(mm)　※ 60　・75
厚さ(mm)　※ 1.5以上　・

4. ゴム床タイル

(19.2.2)

色柄　・図示　・
厚さ(mm)　・3.0　・4.0　・5.0　・6.0　・9.0
寸法(mm)　・図示　・

㋒ カーペット敷き

・織じゅうたん　(19.3.2,3)(表 19.3.1,2)

種別	パイル形状	織り方	色柄等	帯電性	備考
・A種 ・B種 ・C種	・カットパイル ・ループパイル ・カット、ループ併用	・ウィルトンカーペット ・ダブルフェースカーペット ・アキスミンスターカーペット	※ 無地 ・柄物 (標準品)	・適用する (人体帯電圧 3kv以下) ・適用しない	

グリッパー工法の下葺き材
※ 反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ 8mm　・
接合方法
※ ヒートボンド工法　・手縫いでつづり縫い

・タフテッドカーペット

パイル形状	パイル長さ(mm)	工法	帯電性	備考
・カットパイル	・5~7　・	※ 全面接着工法 ・グリッパー工法	・適用する (人体帯電圧 3kv以下) ・適用しない	
・ループパイル	・4~6　・			
・カット、ループ併用	・			

下敷き材(グリッパー工法の場合)
※ 反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号 呼び厚さ 8mm　・

⊙タイルカーペット

パイル形状	種別	施工箇所	寸法	総厚さ(mm)	備考
※ ループパイル	※ 第一種 ・第二種	⊙図示 ・	※ 500×500 ・	※ 6.5 ・図示　・	
・カットパイル	・第一種 ・第二種	・図示 ・	※ 500×500 ・	※ 6.5 ・図示　・	
・カット・ループ併用	・第一種 ・第二種	・図示 ・	※ 500×500 ・	※ 6.5 ・図示　・	

カーペットの敷き方　平場　※ 市松敷き　・模様流し　・
階段部分　※ 模様流し　・市松敷き　・
見切り、押え金物　⊙適用する (材質、形状等　※ 図示　⊙ SUS製　　)
・適用しない

6. 合成樹脂塗床

塗床材のホルムアルデヒド放散量　※ F☆☆☆☆　・　(19.4.2、3)(表19.4.4,5)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ウレタン樹脂系塗床	・図示 ・		※ 平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床	・図示 ・	・薄膜流し展べ工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材 エポキシ樹脂系塗床	・図示 ・		※ 平滑仕上げ
・アクリル樹脂塗床 (JIS K 5970) (防塵塗料塗り)	・図示 ・		工程 塗布量(kg/m²) ※ 0.25kg/m2以上 表面仕上げ ※ 平滑　・防滑 溶剤 ※ 水性色　・溶剤系　・無溶剤系 仕上げ色 ※ 標準色　・

⑰ フローリング張り

単層フローリング　(19.5.2~5)(表 19.5.1~6)

種類	工法	樹種	厚さ(mm)	大きさ	仕上塗装
・フローリングボード1等	・釘留め工法(根太張り)	※ なら ・図示 ・	15	※ 板幅75 板長さ400以上 ・図示 ・	・塗装品 ・無塗装品
	・釘留め工法(直張り)	※ なら ・図示 ・	・12以上 ・図示 ・		
	・接着工法	※ なら ・図示 ・	・8以上 ・図示 ・		
・フローリングブロック1等	・接着工法	※ なら ・図示 ・	・図示 ・	・図示 ・	・塗装品 ・無塗装品

天然木化粧複合フローリング

工法	樹種	種別	厚さ(mm)	大きさ(mm) 板幅	大きさ(mm) 板長さ	防湿処理	塗装仕上げ
・釘留め工法(根太張り) ⊙釘留め工法(直張り)	※ なら ・図示 ・	⊙A種	※ 15以上 ・図示 ・	・75 ・90 ⊙図示 ・	※ 900以上 ・図示 ・	・適用する ・適用しない	・塗装品 ・無塗装品
		・B種	※ 12以上 ・図示 ・				
		※ C種	※ 12以上 ・図示 ・	※ 303 ・図示 ・	※ 1800以上 ・図示 ・		
・接着工法	※ なら ・図示 ・		※ 8以上 ・図示 ・	※ 75以上 ・図示 ・	※ 900以上 ・図示 ・		

間伐材等の適用　・あり　・なし
フローリング、接着剤及び塗料のホルムアルデヒドの放散量
※ 規制対象外又はF☆☆☆☆　・
接着工法の場合の緩衝材　※ 合成樹脂発泡シート　・
現場塗装仕上げ　⊙行う(施工箇所　　)
※ ウレタン樹脂ワニス塗り (B種)　・オイルステイン塗りの上、ワックス塗り
・生地のままワックス塗り
・行わない

2025.06改訂

⑨ 畳敷き

種別　◉厚12mm縁無し建材タタミ（和紙樹脂コーティング）　(19.6.2)(表 19.6.1)
・D種（畳床: ・KT-Ⅰ ・KT-Ⅱ ・KT-Ⅲ ・KT-K ・KT-N）
衝撃緩和型畳
・適用する（床表 ・C1 ・C2）　・適用しない
下地の種類　・樹仕 表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン）
・
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

⑩ せっこうボード その他のボード張り

(19.7.2、3)(表 19.7.1)

種類	JIS記号	厚さ(mm)・規格等
・硬質木毛セメント板	HW	・15 ・20 ・25 ・図示 ・
・中質木毛セメント板	MW	・15 ・20 ・25 ・図示 ・
・普通木毛セメント板	NW	・15 ・20 ・25 ・図示 ・
・硬質木片セメント板	HF	・12 ・15 ・18 ・21 ・図示 ・
・普通木片セメント板	NF	・30 ・図示 ・
・けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2(無石綿) ・6 ・8 ・図示 ・
スレートボード ・フレキシブル板	F	・4 ・5 ・6 ・8 ・図示 ・
スレートボード ・軟質フレキシブル板	NF	・4 ・5 ・6 ・図示 ・
スレートボード ・平板	S	・6 ・図示 ・
◉化粧けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2(無石綿) ◉6 ・8 ・図示 ・ 仕上げの種類 ・UV塗装 ・シート張り ・化粧単板 ・一般塗装 ・
・火山性ガラス質複合板	VSボード	・図示 密度による区分 (・) 化粧加工による区分 (・)
・素地ハードボード	HB	・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・図示 ・ ・未研磨板 (・スタンダード ・テンパード) RN ・研磨板 (・スタンダード ・テンパード) RS
・内装用化粧ハードボード	IB	・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・図示 ・ ・内装用 DI ・外装用 DE
・ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・3 ・7 ・9 ・12 ・図示 ・
・インシュレーションボード		A級 (・天井仕上 ・内装仕上 ・) ・9 ・12 ・15 ・18 ・図示 ・
・単板張りパーティクルボード		・無研磨板 VN ・研磨板 VS ・10 ・12 ・15 ・18 ・図示 ・
・化粧パーティクルボード		・単板オーバーレイ DV ・プラスチックオーバーレイ DO ・塗装 DC ・10(難燃) ・12(難燃) ・図示 ・
・ロックウール化粧吸音板	DR	・凹凸タイプ (・12 (不燃) ・15 ・19 ・図示 ・) ・フラットタイプ (・9 (不燃) ・12 ・図示 ・)
・ロックウール吸音ボード1号	RW-B	・25 ・図示 ・
・グラスウール吸音ボード号32K	GW-B	・25 (ガラスクロス包) ・図示 ・
◉せっこうボード	GB-R	・9.5 (準不燃) ※ 12.5 (不燃) ・15 (不燃) ◉図示 ・
・不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5 (不燃) ・化粧無 (下地張り用) ・化粧有 (トラバーチン模様)
・シージングせっこうボード	GB-S	・9.5 (準不燃) ・12.5 (準不燃) ・図示 ・
・強化せっこうボード	GB-F	・12.5 (不燃) ・15 (不燃) ・21 (不燃) ・図示 ・
・せっこうラスボード	GB-L	9.5
・化粧せっこうボード (木目)	GB-D	12.5 (不燃) 幅 440mm 程度 模様 (・柾目 ・板目) 専用下地材有り
◉化粧せっこうボード (吸音)	GB-D	◉9.5 (準不燃) ・12.5 (不燃) ◉図示 ・
◉普通合板		表面の材種 生地、透明塗料塗り (※ラワン程度 ・図示 ・) 不透明塗料塗り (※しな程度 ・図示 ・) 板面の品質 (◉図示 ・) 厚さ(mm) (◉図示 ・) 接着の程度 ・1類 ◉2類 ・防虫処理 ・難燃処理
◉天然木化粧合板		樹種名 (◉図示 ・) 接着の程度 (・1類 ・2類) 厚さ(mm) (・図示 ・) ・防虫処理 ・難燃処理
◉特殊加工化粧合板		化粧加工の方法 (・オーバーレイ ・プリント ・塗装) 表面性能 ( )タイプ 接着の程度 (・1類 ・2類) 厚さ(mm) ( ) ・防虫処理 ◉不燃:NM-1596
・メラミン樹脂化粧板		JIS K 6903 による (※1.2 ・)
・ポリエステル樹脂化粧板		

せっこうボード等の下地は図示による。
遮音壁　・適用する　・適用しない
天井ボードの重ね張り　※ 図示　・
合板類、MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※ 規制対象外またはF☆☆　・
合板類の張付け　※ B種　・A種

せっこうボードの目地工法

目地工法の種類	せっこうボードのエッジの種類
◉継目処理工法	◉テーパーエッジ ・ベベルエッジ
・突付け工法	・ベベルエッジ ・スクエアエッジ
◉目透し工法	・ベベルエッジ ◉スクエアエッジ

⑪ 壁紙張り

ホルムアルデヒド放散量　※ F☆☆☆☆　・　(19.8.2、3)

施工箇所	壁紙の種類 紙	繊維	塩化ビニル樹脂	プラスチック	無機質	その他	防火種別	備考
	・	・	◉	・	・	・	・不燃 ◉準不燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃	
	・	・	・	・	・	・	・不燃 ・準不燃	

モルタル・プラスター面の素地ごしらえ　※ B種　・A種
コンクリート・ALC面の素地ごしらえ　※ B種　・A種
せっこうボード面の素地ごしらえ　※ B種　・A種

⑫ 断熱材

ロックウール、グラスウール、フェノールフォーム、ユリア樹脂又はメラミン樹脂を使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量　(19.9.2～4)
※ F☆☆☆☆　・

・断熱材打込み工法

JIS	種類		厚さ(mm)	施工箇所
A9521	・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・	・	
	・押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキンなし)	・	・	
		・	・	
		・	・	・接地部分 ・
	・硬質ウレタンフォーム断熱材	・	・	
	・フェノールフォーム断熱材	・	・	

・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　※ A種1　・B種1
厚さ(mm)　・25 ・30 ・図示 ・
施工箇所　・図示 ・
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

20 ユニット及びその他の工事

1. フリーアクセスフロア

(20.2.2)

施工箇所	構法	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重(N)	備考
	・置床式溝構法 ・置床式パネル構法 ・支柱調整式パネル構法	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	
	・置床式溝構法 ・置床式パネル構法 ・支柱調整式パネル構法	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	
	・置床式溝構法 ・置床式パネル構法 ・支柱調整式パネル構法	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3000 ・5000	

帯電防止性能　・評価値 (U) ≧0.6以上　・評価値 (U) ≧1.2以上
漏えい抵抗　・漏えい抵抗 (R) ≧1×10⁸Ω以上　・
試験方法　※ 標仕20.2.2(2)(f)(a)～(d)による
寸法精度　※ 標仕20.2.2(2)(f)(a)～(d)による
表面仕上げ材　材質　・帯電防止床タイル　・タイルカーペット
品質、性能　※ 標仕19章による　・
構成材の材質　・アルミニウム製　・鋼製(表面仕上げ:)
・プラスチック製　・
スロープ及びボーダー　・製造所の仕様による　・図示
配線用取り出しパネル
フリーアクセスフロア全体面積に対する設置割合　・20～30パーセント　・図示　・
配線取り出し開口　・パネル1枚につき、40mm×80mm 程度の開口1箇所以上　・図示
空調用吹き出し（吸い込み）パネル　・なし　・あり（形式、施工箇所：図示）
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

2. 可動間仕切

パネル材料のホルムアルデヒド放散量　(20.2.3)
※ JIS等で放散量が規定されているものについては、F☆☆☆☆　・

構造形式	構成基材の種類 スタッド	パネル	総厚さ(mm)	材質	表面仕上材 厚さ(mm)	パネル表面仕上げ	遮音性(db/500Hz)	防火性能
・スタッド式(内蔵) ・スタッド式(露出) ・パネル式 ・スタッドパネル式	・図示 ・	・図示 ・	・図示 ・	・鋼板 ・	・0.6 ・0.8	・メラミン樹脂焼付又はアクリル樹脂焼付 ・壁紙張り	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃 ・難燃3 ・難燃2 ・難燃2A ・難燃1

パネル内に取付ける建具の寸法及び形状　・あり（※ 図示 ・ ）　・なし
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標仕19章による
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

3. 移動間仕切

(20.2.4)

構造形式	操作方法	圧接装置の操作方法	総厚さ(mm)	表面仕上材 材質	パネル表面仕上げ	遮音性(db/500Hz)
・平行方向 移動式 ・二方向 移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ・ハンドル式 ・	・図示 ・	・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能は標仕19章による。
遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする。
ハンガーレールの取付け下地の補強
※ 取付け全重量の5倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。
・図示
パネルをランナーにとりつける部品
※ ランナーに加わる重量の5倍以上の荷重に耐えられるもの
ハンガーレール及びランナー
※ パネル重量の5倍の荷重を、パネル1枚に使用するランナー数で除した値に対して耐力及び変形量が使用上支障のないもの
あと施工アンカーを使用する際の材質・寸法等
・図示　・
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

㊹ トイレブース

パネル材料のホルムアルデヒド放散量　(20.2.5)
※ JIS等で放散量が規定されているものについては、F☆☆☆☆　・

表面材の種類	脚部形状	ドアエッジ 形状	材質
・メラミン樹脂系化粧板 ◉ポリエステル樹脂系化粧板 ・図示	※ 幅木タイプ ◉図示 ・	・標準 ◉R	◉アルミニウム製 ・ステンレス製 ※ 製造所の仕様

品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

㊺ 手すり

(20.2.6)

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所
◉集成材	◉クリアラッカー ・	◉35 ・45 ・	・図示 ・
◉ステンレスパイプ	◉HL ・	◉図示 ・	◉図示 ・
・鋼製パイプ	・EP-G ・SOP ・	・図示 ・	・図示 ・
・ビニル製ハンドレール	・	◉図示 ・	◉図示 ・

手すりの握り手部分の材質及び寸法等　※ 図示　・

㊻ 階段滑り止め

(20.2.7)

材種	幅(mm)	取付け工法	端部フラットエンド	
◉ステンレス(タイヤ入り) ・黄銅(タイヤ入り) ・黄銅(タイヤなし) ・アルミニウム(タイヤ入り)	◉約15 ・	※ 接着工法 ◉埋込み工法	・あり ・	・ビニル製 ・ステンレス製
			◉なし	−

7. 黒板及びホワイトボード

(20.2.9)

種類		寸法(mm)	色彩	形式	
・黒板	※ 焼付け・研出し		※ 緑・黒	・平面 ・曲面	・スクリーン付引分 ・
◉ホワイトボード	ほうろう		白	◉平面 ・曲面	・スクリーン付引分 ・

㊼ 鏡

取付箇所　◉図示　・　(20.2.10)
寸法(mm)　◉図示　・
厚さ(mm)　※ 5　・図示　・

㊽ 表示

(20.2.11)

区分	材質	寸法(mm)	厚さ(mm)	取付高さ(mm)	備考
・衝突防止表示 (・両面 ・片面)	・ステンレス製 ・図示 ・	・30φ ・図示 ・	・市販品 ・図示 ・	・図示 ・	
◉室名札	・アクリル板 ◉図示 ・	◉図示 ・	・5 ◉図示 ・	・図示 ・	
◉ピクトグラフ	・アクリル板 ◉図示 ・	◉図示 ・	・5 ◉図示 ・	・図示 ・	
・とびら番号	・アクリル板 ◉図示 ・	・図示 ・	・5 ・図示	・図示 ・	
・館内案内板	・アクリル板 ◉図示 ・	・図示 ・	・5 ・図示	・図示 ・	
・各階案内板	・アクリル板 ◉図示 ・	・図示 ・	・5 ・図示	・図示 ・	

色、書体、印刷等の種別、取付け形式等は図示による。
案内用図記号はJIS Z 8210による。
誘導標識、非常用進入口等の表示の材質、寸法等
◉図示（消防法に適合する市販品）　・

10. タラップ

※ ステンレス製（SUS304）（表面処理 ※ 研磨なし ・ ）　(20.2.12)
・鋼製　（表面処理 ※ 溶融亜鉛めっき工種　・ ）

11. 煙突ライニング

煙突用成形ライニング材　(20.2.13)
材質　・ゾノトライト系けい酸カルシウムライニング材
・心材付き耐熱積層ライニング材
安全使用温度　・400℃　・650℃
品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

12. ブラインド

(20.2.14)

形式	操作方法	種類	スラットの材種	スラット幅(mm)	ボックス・レールの材種	寸法・取付箇所
・横型	・手動	※ ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※ アルミニウム合金製 ・鋼製	※ 25 ・	※ 鋼製 ・	・図示 ・
	・電動	−				
・縦型	・手動	※ 2本操作コード式 ・1本操作コード式	・アルミスラット ・クロススラット ・	・80 ・100	アルミニウム合金製	・図示 ・
	・電動	−				

アルミスラットは焼付け塗装仕上げとする。
クロススラットは消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工とする。

㊾ ロールスクリーン

(20.2.15)

スクリーン材種	操作方式	遮光性	寸法(mm)	取付箇所	備考
◉ガラス繊維製 ・合成樹脂製 ・木製	◉電動式 ・スプリング式 ・コード式	・1級 ・2級 ・3級	◉図示 ・	◉図示 ・	

スクリーンの材種は防炎性能の表示のあるものとする。
巻取りパイプ、ウェイトバー、操作コード又は操作チェーンその他の材料
◉製造所の仕様による　・

㊿ カーテン

(20.2.16)

形式	開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別・品質・特殊加工等	取付箇所	備考
◉シングル ・ダブル	◉片引き ◉引分け	◉手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ◉プレーンひだ	・図示 ・	◉図示 ・
◉シングル ・ダブル	◉片引き ◉引分け	◉手引き ・ひも引き ・電動	・つまみひだ ・箱ひだ、片ひだ ◉プレーンひだ	・図示 ・	◉図示 ・

カーテンのきれ地は防火性能の表示のあるものとする。
暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり　※ 300mm以上　・
フック　※ 樹脂製　・鋼製

51 カーテンレール

強さによる区分　※ 10-90　・10-60　(20.2.16)
材種　◉アルミニウム製及びアルミニウム合金製　・ステンレス製
仕上げ　※ アルマイト　・
形状　※ 角形　・C形　・D形　・I形　・H形

16. プレキャストコンクリート

補強鉄線の径　※ 3.2mm以上　・　(20.3.3,4)
コンクリートの設計基準強度及び調合
※ 水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m³を満足する調合強度
・図示
配筋　※ 配筋を定めた計算書を監督職員に提出する。
・図示
取付け方法　※ 図示

17. 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

(20.4.2,3)

材種		種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩 ・	−	−	
・コンクリート間知ブロック	−		・A ・B	

積み方　※ 谷積み　・布積み
目塗り　・図示　・伸縮目地
伸縮調整目地
材種　・図示　・
厚さ　・図示　・

18 視覚障害者用床タイル

(11.2.2)(19.2.2)

施工箇所	種類	寸法(mm)	厚さ(mm)
屋内	・塩化ビニル製	・300×300 ・	・7.0 ・
	・磁器質タイル ・せっ器質タイル	・300×300 ・	・
	・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	・300×300 ・	・
屋外	◉磁器質タイル ・せっ器質タイル	◉300×300 ・	◉14
	・レジンコンクリート製 ・コンクリート製	・300×300 ・	・

ブロックパターンは JIS T 9251 による。

19 ブラインドボックス及びカーテンボックス

溝型×深さ(mm)　・90×150 ◉120×80 ・120×150 ◉150×80 ・図示
材質　◉集成材 (仕上げ: ◉図示 ・)
・アルミニウム製　押出し型材(市販品)
表面処理 ・BC-1
・BC-2 (・アンバー ・ブロンズ ・ブラック系 ・ステンカラー)
・
皮膜等の種類　※ 標仕表14.2.1による ・
・鋼製(仕上げ: ・図示 ・)

20 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※ アルミニウム製 ・	◉450×450 ・600×600 ・	◉一般形 ・気密形	・屋内外用 ◉屋内用	・額縁タイプ ◉目地タイプ	・額縁タイプ ◉目地タイプ

品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

21 床点検口

材種	寸法	形式		備考
◉アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	・450×450 ◉600×600 ・	◉一般形 ・密閉形 ・結露防止形	・屋内外用 ◉屋内用	・鍵付き

品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

22. 耐震スリット

方向	タイプ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直方向 ・水平方向	※ 完全(全貫通型)	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・シーリング材(見え掛かりのみ) ・	・シーリング材(見え掛かりのみ) ・シーリング材(内外とも)
目地寸法(幅mm×深さm)	・20×10 ・	・20×10 ・

目地材の材質は標仕表9.7.2による。

23. 止水板

形状　・差込式　・据置式　・壁張り式
施工箇所　・図示　・

24. エキスパンションジョイント金物

材種	クリアランス	耐火性能	備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製	・50 ・100 ・150	・有り( ) ・無し	

外部は防水型とする。

25. くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ビニル又はゴム製	・ステンレス鋼(SUS304)	
・硬質アルミニウム合金製	・硬質アルミニウム合金	
・ステンレス鋼(SUS304)製 ・	・	

26 流し台ユニット

材種	寸法(mm) W	D	H	備考
◉流し台	◉1200 ・1500 ・1800	◉550 ・600 ・650	◉800 ・850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
・つり戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	−	−	市販品 ステンレス製 ・1段式 ・

品質・性能　JIS A 4420による
形状　※ 図示　・

27. 旗竿

材種	形式	高さ(mm)	操作方法	固定方法	備考
・アルミニウム合金製 ・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式	

28. 旗竿受金物

材種　・ステンレス製（SUS 304）　・

2025.06改訂

ユニット及びその他の工事（続き）

29. 車止め支柱

形式		材種	柱径・肉厚(mm)	高さ(mm)
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製 ・	・	・
・				

30. フェンス

フェンスの種類　・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス
・アルミフェンス
高さ　・図示　・

31. 鋼製書架及び物品棚

種類	規格等	JISによる種類
・鋼製書架	JIS S 1039 の規格による	・1種　・2種　・3種
・鋼製物品棚		・4種　・5種　・6種　・

32. 屋外掲示板

枠の材質　※ アルミニウム製
表面の材質　※ 塩ビ発泡シート張り　・
照明器具　※ 有り　・ 無し
施錠　※ 有り　・ 無し
製造所　・

㊷ 洗面カウンター

材種　◉メラミン樹脂化粧板張り(心材:集成材)　・人工大理石
奥行き(mm)　◉約 450　・約 600

34. 防煙垂れ壁

・固定式

材質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備考
※ 網入り磨板ガラス ・ 網入り磨板ガラス	※ 6.8 ・	※ 500 ・	アルミ製枠付き

・可動式

種類	材質	高さ(mm)	備考
・垂直降下式 (巻取り型)	※ 不燃布 (不燃認定品)	※ 500 ・800 ・	ガイドレール ※ 固定式(壁埋込型) ・可動式(天井収納型)
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※ 500 ・800 ・	表面仕上げ ※ 天井材張り ・

降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置(埋込型)

㊸ 収納家具

材質・形状・寸法　※ 図示　・
合板類、MDF 及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※ 規制対象外　・

21 排水工事

① 共通事項　(21.2.1)

基床の厚さ　※ 100mm　◉図示
砂地業　材料　※ 山砂　・ 川砂　・ 砂利
品質　シルト、有機物等の混入しない締固めに適した砂とする
砂利地業　材料　※ 再生クラッシャラン　・ 切込砂利又は切込砕石
基礎等に用いるコンクリートの調合
※ 設計基準強度を 18N/mm²、スランプ15cm又は18cmとする。
但しコンクリートが軽易な場合、調合を容積比で セメント1 : 砂2 : 砂利4程度とすることができる。
・ 図示
鉄筋　※SD295　・
凍上抑制層に用いる材料
・ 砂（標仕表21.2.2による）　・ 再生クラッシャラン　・ 切込砂利又は切込砕石
埋め戻し土の土質　・ A種　※ B種　・ C種　・ D種
砂の粒度試験の適用　・ 適用する　・ 適用しない

② 屋外雨水排水

排水管　(21.2.1、2)(表 21.2.1)

材種	管の種類	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	・外圧管(1種)	・B形管 ・	※ 図示 ・	
◉硬質ポリ塩化ビニル管	※ VP		※ 図示　・	
	・VU		※ 図示　・	
	・RS-VU		※ 図示　・	
・硬質ポリ塩化ビニル管(継手)	・DV		※ 図示　・	

硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料　※ 接着剤　・ ゴム輪

側塊（JIS A 5372 推奨仕様 D1）

種類	呼び
・斜壁	・600A　・600B　・600C　・600D　・900　・1200
・直壁	・900A　・900B　・1200A　・1200B　・1500A　・1500B

排水桝、ふたの種類等　形状及び寸法　※ 図示

3. 鋳鉄製ふた　(21.2.1)

名称	種類	適用荷重	鍵	備考
・鋳鉄製 マンホールふた ・化粧 マンホールふた	・水封形 ・簡易密閉形 (パッキン式) ・密閉形 (テーパ・パッキン式) ・中ふた付き密閉形 (テーパ・パッキン式) ・RS-VU	・T-2用 ・T-6用 ・T-20用 ・図示 ・	・有り ・無し ・図示	左記以外の品質等は (公社)空気調和衛生工学会 SHASE-S209による

品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

㊹ グレーチング　(21.2.1)

材質	形式	用途	適用荷重	メインバーピッチ	亜鉛めっき(付着量)	上面形状
◉鋼製	◉受枠付き、 ボルト固定 ◉直置き	・溝ふた (横断用) ・溝ふた (側溝用) ◉桝ふた用 ・U字溝用 ・図示	・歩行用	・細目 ・	・(　　) ・	・凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用 ◉図示	・普通目 ◉細目	・(　　) ・	・平形 ・
・ステンレス製	・受枠付き、 ボルト固定 ・	・溝ふた (横断用) ・溝ふた (側溝用) ・桝ふた用 ・U字溝用 ・図示	・歩行用	－	－	・凹凸形 ・
			・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用 ・図示	－	－	・平形 ・

品質・性能　※ 建築材料・設備機材等等品質性能評価による評価名簿記載の製品　・

㊺ 街きょ、縁石、側溝　(21.3.1)(表21.3.1)

種類		形状、寸法
◉縁石	◉片側歩車道境界ブロック	・A　・B　・C　◉図示
	・両側歩車道境界ブロック	・A　・B　・C　・図示
	・地先境界ブロック	・A　・B　・C　・図示
・L形側溝	・プレキャスト無筋	・250A　・250B・図示
	・プレキャスト鉄筋　1種	・250A　・250B　・300　・350　・図示
	2種	・500A　・500B　・500C　・図示
・U形側溝 ・U形側溝ふた	1種	・150　・180　・240　・300A　・300B　・300C ・360A　・360B　・450　・600　・図示
	2種	・150　・180　・240　・300A　・300B　・300C ・360A　・360B　・450　・600　・図示
・自由勾配側溝	※ 図示	

砂利地業の厚さ　※ 100(mm)　◉図示

22 舗装工事

⑩ 路床

層の適用、材料、層厚　(22.2.2、3、5)（表22.2.1）

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種　・B種　・C種　・D種	・図示 ・
◉凍上抑制層	※ 再生クラッシャラン　・クラッシャラン　・切込み砂利 ・砂　(　・川砂　・海砂　・山砂)	◉図示 ・
・フィルター層	・砂　(　・川砂　・海砂　・山砂) ・	※ 100 ・

使用する砂は、粒度は標仕表21.2.2により、シルト・有機物等の混入しない締固めに適したものとする。

路床安定処理
・ 添加材料による安定処理
種類　・ 普通ポルトランドセメント　・ 高炉セメントB種
・ フライアッシュセメントB種
・ 生石灰（・ 特号 ・ 1号）　・ 消石灰（・ 特号 ・ 1号）
添加量（　　）kg（目標CBR　・5以上　・　　）
試験の適用
砂の粒度試験　・ 行う　・ 行わない
路床土の支持力比(CBR)試験　・ 行う　・ 行わない
砂置換法による土の密度試験　・ 行う　・ 行わない
現場CBR試験　・ 行う　・ 行わない

⑪ 路盤

路盤の厚さ　◉図示　・　(22.3.2～3)(表 22.3.1)
路盤材料　・ クラッシャラン　・ 粒度調整砕石
※ 再生クラッシャラン　・ 再生粒度調整砕石
・ クラッシャラン鉄鋼スラグ　・ 粒度調整鉄鋼スラグ　・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ
・ 図示　・
品質　※ 標仕表22.3.1による　・ 図示　・
試験の適用
突固めによる土の締固め試験　※ 行う
路盤の厚さ　※ 500㎡毎1箇所
砂置換法による土の密度試験　※ 行う（1000㎡以下3か所、1000㎡を超える場合1000㎡ごと1か所追加する）

⑫ アスファルト舗装

アスファルト舗装の構成及び厚さ　※ 図示　・　(22.4.2～6)（表 22.4.1、4）
材料
アスファルト　・ 再生アスファルト　（標仕表22.4.1による種類　・ 60～80　・ 80～100）
・ ストレートアスファルト
骨材　・ 道路用砕石　・ アスファルトコンクリート再生骨材

加熱アスファルト混合物等の種類

区分	地域	種類
表層	・一般地域	・密粒度アスファルト混合物(13) ・細粒度アスファルト混合物(13)
	※ 寒冷地域	※ 密粒度アスファルト混合物(13F)

シールコートの施工　・ 行う　・ 行わない
試験
切取り試験　※ 行う（2000㎡以下3個、2000㎡を超える場合は2000㎡ごとに1か所追加する）
アスファルト混合物等の抽出試験　・ 行う　・ 行わない
舗装の平たん性　※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度

4. コンクリート舗装

コンクリート舗装の厚さ　(22.5.2～4、6)(表22.5.4)

舗装の種類	部位	厚さ(mm)	構成
コンクリート舗装	車道部	・図示　・ 150　・	※ 図示
	歩道部	※ 70　・ 図示　・	※ 図示

縁部立下り寸法等　・ 図示
材料
コンクリート　※ 標仕表22.5.1による　・
早強セメント　・ 使用する　・ 使用しない
注入目地材料　※ 低弾性タイプ　・ 高弾性タイプ
目地
種類・間隔・構造　※ 標仕表22.5.3及び図22.5.1による　・ 図示
試験
舗装の平たん性　※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度
・

5. カラー舗装　(22.6.2～4)(表22.6.1)

・ 加熱系
表層に用いる加熱系混合物の結合材
・ アスファルト混合物　・ 石油樹脂系混合物
構成及び厚さ(mm)　※ 図示　・

添加する顔料　・ 着色骨材(　　)　・ 自然石(　　)
結合材に石油樹脂を使用する場合の顔料添加量　※ 図示　・
試験
切取り試験　※ 行う（2000㎡以下3個、2000㎡を超える場合は2000㎡ごとに1か所追加する）
アスファルト混合物等の抽出試験　・ 行う　・ 行わない
舗装の平たん性　※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度
・ 常温系
工法　・ ニート工法　・ 塗布工法
着色部の厚さ(mm)　※ ニート工法の場合3～5、塗布工法の場合1程度以下　・
着色部の下部　・ アスファルト舗装　・ コンクリート舗装
ニート工法及び塗布工法の配合等　※ 図示　・
舗装の平たん性　※ 通行の支障となる水たまりを生じない程度

6. 透水性アスファルト舗装

舗装の構成　・ 図示　・　(22.7.2、3、6)
試験
切取り試験　※ 行う（2000㎡以下3個、2000㎡を超える場合は2000㎡ごとに1か所追加する）
透水性アスファルト混合物等の抽出試験　・ 行う　・ 行わない
舗装の平坦性　※ 著しい不陸がないもの　・

㊼ ブロック系舗装

・ コンクリート平板舗装　(22.8.2～4)

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	クッション材	目地材	備考
※ 普通平板 (N) ・ 透水平板 (P) ・ 保水性平板 (M) ・	※ 300角 ・ 400角 ・ 450角 ・ 500角	・ 30 ・ 60 ・ 80	・ 砂 ・ 空練り モルタル	※ 砂 ・ モルタル	表面加工 ・ 研ぎ出し ・ 洗い出し ・ たたき出し

◉インターロッキングブロック舗装

種類	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm²)	備考
※ 普通ブロック (N) ・ 透水性ブロック (P) ・ 保水性ブロック (M)	車道部　※ 80　・ 歩道部　※ 60　・	※ 5.0　・ ※ 3.0　・	色彩、表面加工 ・ 標準品 ・

・ 舗石舗装

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	施工方法	基層 材質	基層 厚さ(mm)
・小舗石(花こう岩)			・うろこ張り ・	・アスファルト混合物 ・コンクリート版	50 70
・					

クッション材　◉砂　・ 空練りモルタル
仕上り面の平たん性
※ 歩行に支障となる段差がないもの
コンクリート平板間の段差、インターロッキングブロック間の段差及び舗石間の段差は3mm以内
・

⑨ 砂利敷き

種別　(22.10.2、3)
◉A種（施工範囲：※ 通路　・ 図示　・　　）
・ B種（施工範囲：※ 建物周囲　・ 図示　・　　）

㊾ 路面表示用塗料

JIS K 5665(路面標示用塗料)による

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
・1種	常温	液状	◉白 ・橙 ・	・150 ◉100	・1.0 ・
・2種	加熱				
◉3種1号	溶融	粉体状			

・ 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

23 植栽及び屋上緑化工事

⑬ 植栽地の確認等

土壌の水素イオン濃度(pH)試験　・ 行う　◉行わない　(23.1.3)
水溶性塩類による電気伝導度(EC)の試験　・ 行う　◉行わない

⑭ 植栽基盤の整備

植栽基盤の整備　・ 適用する　・ 適用しない　(23.2.2)(表23.2.2)

植栽	工法	有効土層の厚さ(cm)	整備範囲	土壌改良材
◉樹木	※ A種	樹高12m以上 （※ 100　・ 120　・ 150）	・ 葉張り部分	
	・B種	樹高7m以上～12m未満 （※ 80　・ 100）	・ 植栽部分	・ 適用する
	・C種	樹高3m以上～7m未満 （※ 60　・ 80）	◉図示 ・	◉適用しない
	・D種	樹高3m未満 （※ 50　・ 60）		
※ 芝、地被類	※ B種 ・	※ 20 ・	・ 植栽部分 ◉図示 ・	・ 適用する ◉適用しない

植栽基盤の排水設備　・ 設ける（※ 図示　・　　）　◉設けない

⑮ 植込み用土

◉客土　・ 現場発生土の良質土　(23.2.3)

4. 土壌改良材

使用材料　・ バーク堆肥　・ 汚泥発酵肥料(下水汚泥コンポスト)　(23.2.3)
・
施工箇所　※ 図示　・ 植栽範囲
使用量　植栽基盤面積1㎡あたり（・10L　・ 50L　・　　）
品質
地力増進法に定める土壌改良材は、法令に基づき届出されたものを使用する。
各種堆肥及び下水汚泥コンポストは完熟したものを使用する。
下水汚泥コンポストは、肥料取締法に基づき普通肥料として登録されており、かつ、「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第1の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする。

⑯ 樹木

樹種、寸法、株立数等　※ 図示　・　(23.3.2)

⑰ 支柱

支柱材　※ 丸太(間伐材)　・ 真竹　(23.3.2、3)
防腐処理方法　※ 加圧式防腐処理丸太材　・
形式　・ 添え柱形　◉二脚鳥居形　・ 三脚鳥居形　・ 十字鳥居形
・ 二脚鳥居組合せ形　・ 八ッ掛け形　・

⑱ 幹巻き用材料

材料　※ 幹巻き用テープ　・ わら及びこも　(23.3.2)

⑲ 芝

種類　※ コウライシバ　・ ノシバ　・　(23.4.2)
芝張りの工法
平地　※ 目地張り　・ べた張り　◉ その他
法面　・ 目地張り　※ べた張り

9. 吹付けは種　(23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量(g/㎡)	備考
※ 洋芝類(採取後2年以内) ・	※ 発芽率80%以上		

10. 地被類　(23.4.2)

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
・ ・			

⑪ 新植、移植樹木、芝等の枯保証

新植樹木(芝張り、吹付けは種及び地被類を含む)の枯補償の期間　(23.3.4)(23.3.6)(23.4.7)
※ 引渡しの日から1年　・
移植樹木の枯損処置を行う期間
※ 引渡しの日から1年　・

12. 屋上緑化

植栽基盤及び材料　(23.5.2、3)
・ 屋上緑化システム
土壌層の厚さ　・ 図示　・
排水層　・ 軽量骨材（層の厚さ：　　）　・ 板状成型品
植込み用土　※ 改良土　・ 人工軽量土
樹木の樹種並びに種類、寸法、株立数、寸法等　※ 図示　・
見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等　※ 図示　・
・ 屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の樹種並びに種類等　※ 図示　・
見切り材、舗装材、水抜き管、マルチング材等　※ 図示
工法　(23.5.4)
「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」（平成12 年5月31 日 建設省告示第1458 号）応じた工法
・ 適用する（1一般共通事項による）　・ 適用しない
支柱　・ 設置する（ 形式　・ 図示　・　　）
かん水装置　・ 設置する（ 種類　・　　）

㉔ その他

① 工事現場の環境改善について

工事現場のイメージアップ
・ 仮囲い周辺の美化　・
地域住民への情報提供
・ 完成予想図の設置　・ 情報掲示板の設置　・ パンフレットの作成
地域住民とのコミュニケーション
・ 現場見学会の開催　・
住民に対する災害防止関係
・ 現場出入口周辺への誘導員の配備　・

② 不具合の確認

工事しゅん工後10ヶ月、20ヶ月（新営に限る）に不具合の確認を行い、その結果を書面で上田市長あてに報告する。
(施設管理者からの聞き取り調査を含め、調査には必ず監督員の立会いを要する。)

③ 産業廃棄物等の取扱い

(1) 廃棄物の処理に当たっては、請負者が自ら処理(分別、保管、収集、運搬及び処分の一連の行為)するときは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」(以下「廃棄物処理法」という)に基づき、適正に行うこと。
(2) 廃棄物の処理の全部又は一部を委託する場合は、廃棄物処理法に基づく処理を業として許可を取得している者に委託すること。また、施工前に産業廃棄物処理委託契約書の写し、産業廃棄物処理業の許可証の写し、許可運搬車両一覧並びに処分地の案内図等をまとめた「廃棄物処理計画書」を監督員に提出すること。
(3) しゅん工した時は、廃棄物ごとに処理数量を集計し、積込み状況の写真、処分状況の写真等を添付した「廃棄物等処理報告書」を監督員に提出すること。

④ 環境対策関係

(1) 現場で使用する機械は、低騒音型、低振動型、排出ガス対策型建設機械とすること。
(2) 夜間、早朝等の稼動を避けること。ただし、監督員の承諾を受けた場合はこの限りでない。なお、運搬ルートの選定に当たっては影響の少ない最短ルートを選定すること。
(3) 汚水、汚濁、土砂の流失防止に努めること。また、表土復元等、環境の回復に努めること。
(4) 熱帯材合板型枠は、極力使用しないこと。

⑤ 安全対策関係

(1) 工事現場においては、労働災害、公衆災害防止に努めるとともに、全作業員を対象に定期的に安全教育、研修及び訓練を行うこと。
(2) 安全教育、研修及び訓練については、工事期間中に月一回程度実施し、工事日誌へ記録するほか、実施結果、実施状況の写真、安全教育に使用した資料等も整理すること。
(3) 原則として代理人（主任）以外の第三者により、月1回以上店社による安全パトロールを行い、工事日誌へ記載するほか、点検内容等を別書面に記録し、実施状況の写真を撮影すること。
(4) 下請業者にKY（危険予知）、TBM（作業内容の打合せ）活動等を実施させ、その記録を整備するとともに、随時、実施状況の写真を撮影すること。
(5) 下請業者を含め、作業員に対し現場内容に即した新規入場者教育、安全教育・訓練等を実施し、関連書類及び使用した資料等を整理するとともに、随時、実施状況の写真を撮影すること。
(6) 上記の(2)～(5)の活動については、記録・書類及び写真を整備したものを現場に備え、監督員及び工事検査の際に提示できるようにすること。

⑥ 工事検査

施工途中において工事検査担当職員または、発注機関の長の指定する職員による抜打ち検査を実施することがあるので、検査に協力すること。

⑦ 被害届等

暴力団関係者から工事妨害による被害を受けた場合は、被害届を速やかに警察に提出すること。

⑧ 施工図等の取扱い

施工図等の著作権に関わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲する。

⑨ 完成図等

完成図など維持管理に関する書類は、しゅん工後30日以内に提出し、必要に応じて取扱説明を行うこと。

⑩ 提出物

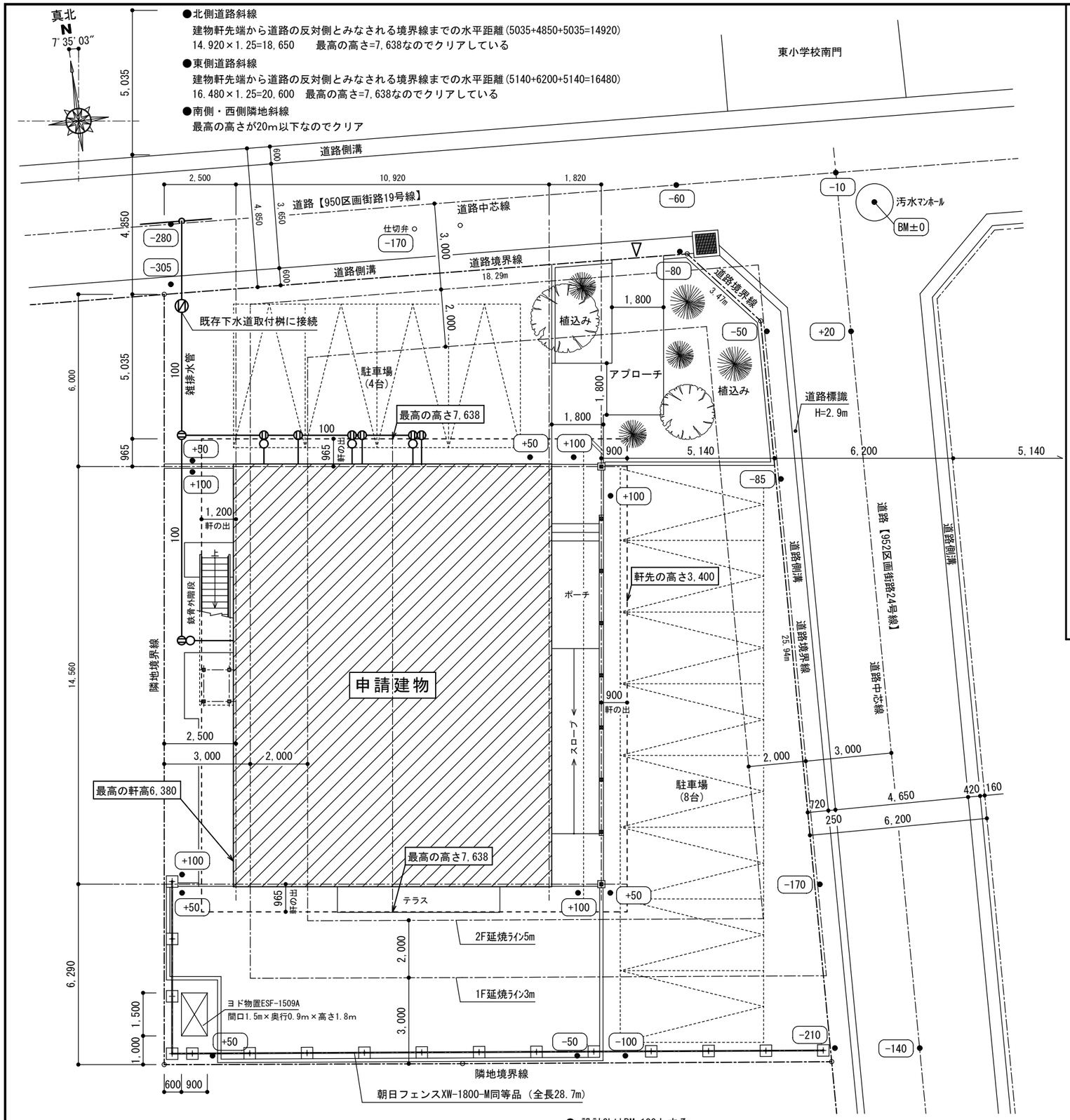
上記による他、監督員の指示による。

2025.06改訂

●北側道路斜線
建物軒先端から道路の反対側とみなされる境界線までの水平距離(5035+4850+5035=14920)
14.920×1.25=18,650　　最高の高さ=7,638なのでクリアしている

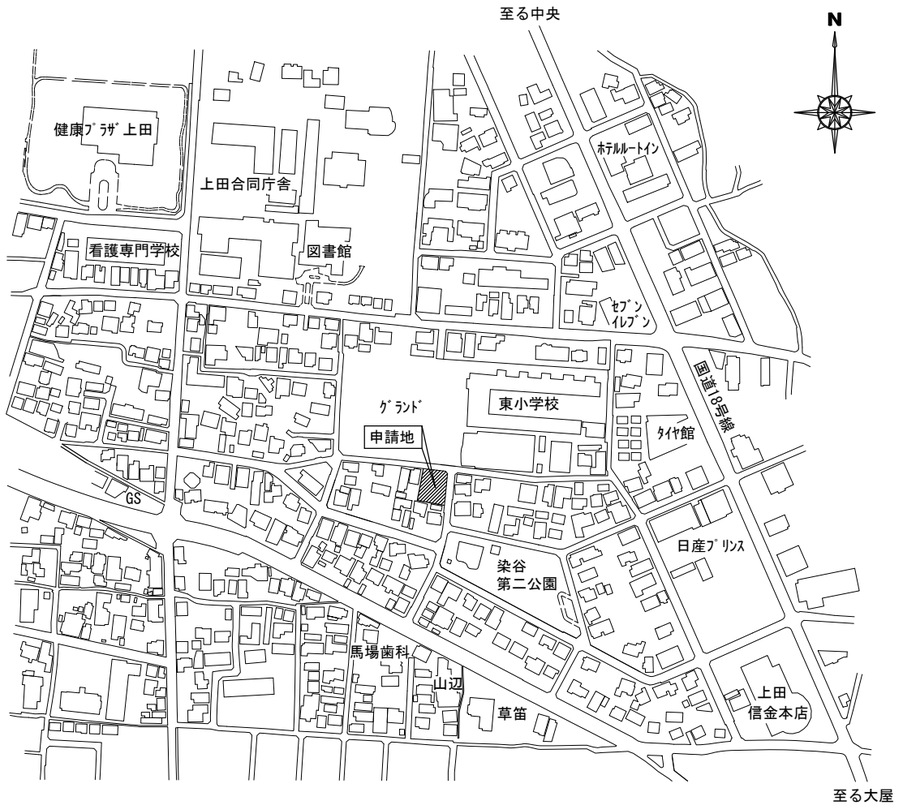
●東側道路斜線
建物軒先端から道路の反対側とみなされる境界線までの水平距離(5140+6200+5140=16480)
16.480×1.25=20,600　最高の高さ=7,638なのでクリアしている

●南側・西側隣地斜線
最高の高さが20m以下なのでクリア



接道長さ（18.29 + 3.47 + 25.94）＝ 47.7m

配置図　S=1/150



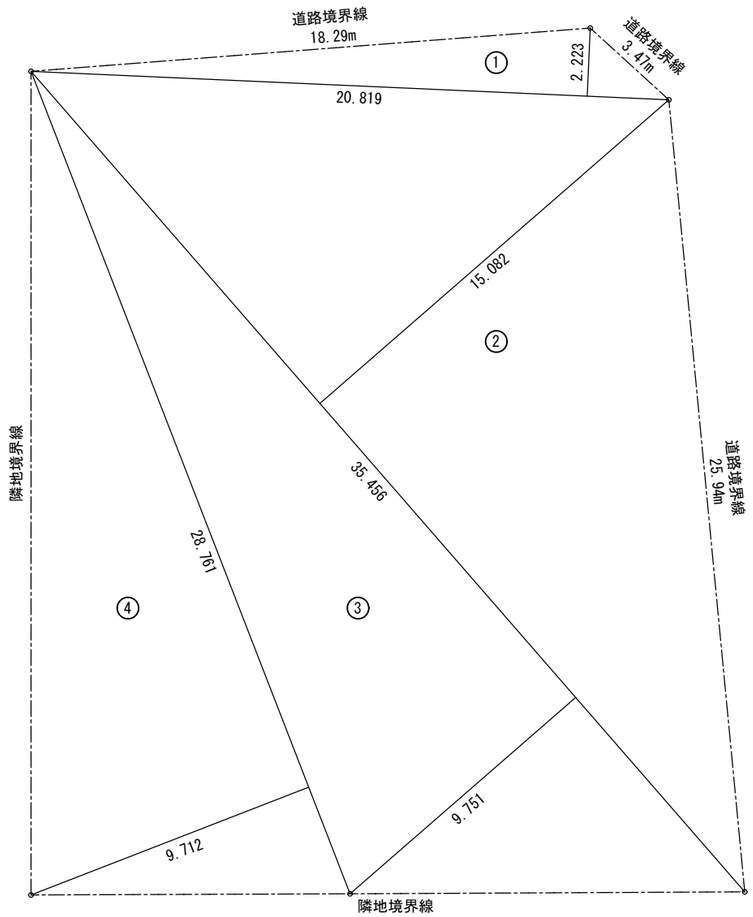
地名地番：上田市材木町一丁目131番1　　案内図　S=1/5000

計画概要

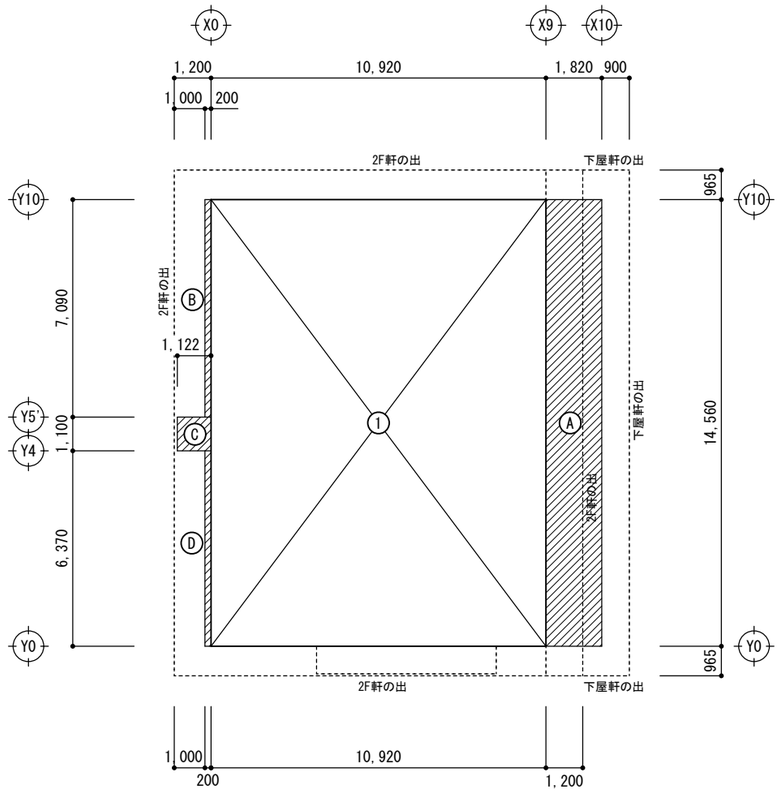
工事場所	長野県上田市材木町一丁目１３１番１
敷地面積	６０３．０４ ㎡
用途地域	第二種中高層住居専用
防火地域	準防火地域内
指定建蔽率	６０ ％　　建蔽率【３１．４％】
指定容積率	２００ ％　　容積率【５２．７％】
道路斜線制限	１．２５
日影規制	高さ１０ｍ以下により規制対象外
前面道路	北側：市道950区画街路19号線　東側：市道952区画街路24号線
建物用途	０８２２０　児童福祉施設（入所する者の寝室がないものに限る）
構造・規模	木造　・　２階建て
建築面積	１８９．４２ ㎡
延床面積	３１８．００ ㎡
最高の高さ	７．６３８ ｍ

● 設計GLはBM+100とする
● 雨水は浸透桝にて宅内浸透とする、又 舗装部分は浸透舗装として宅内処理とする。
【 A-39外構平面図 及び A-40外構詳細図(1)参照とする 】

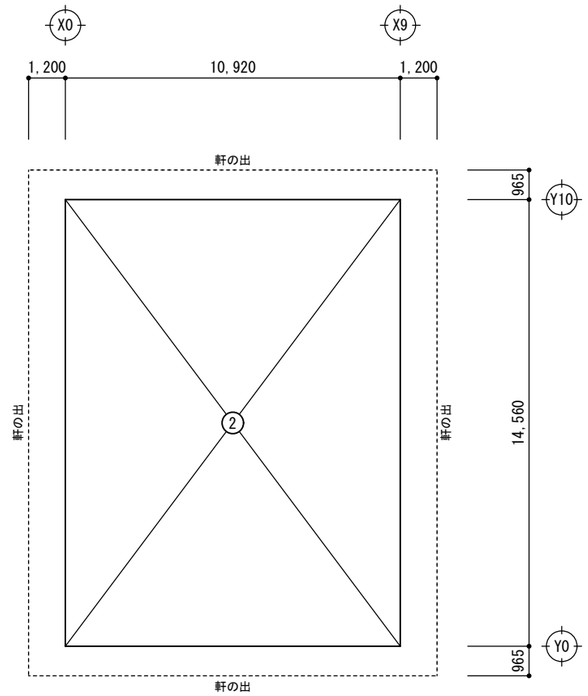
上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	案内図・配置図・計画概要	SCALE A3 1/150	No. 25-007 A-07



敷地面積求積図　S=1/200



1階面積求積図　S=1/200



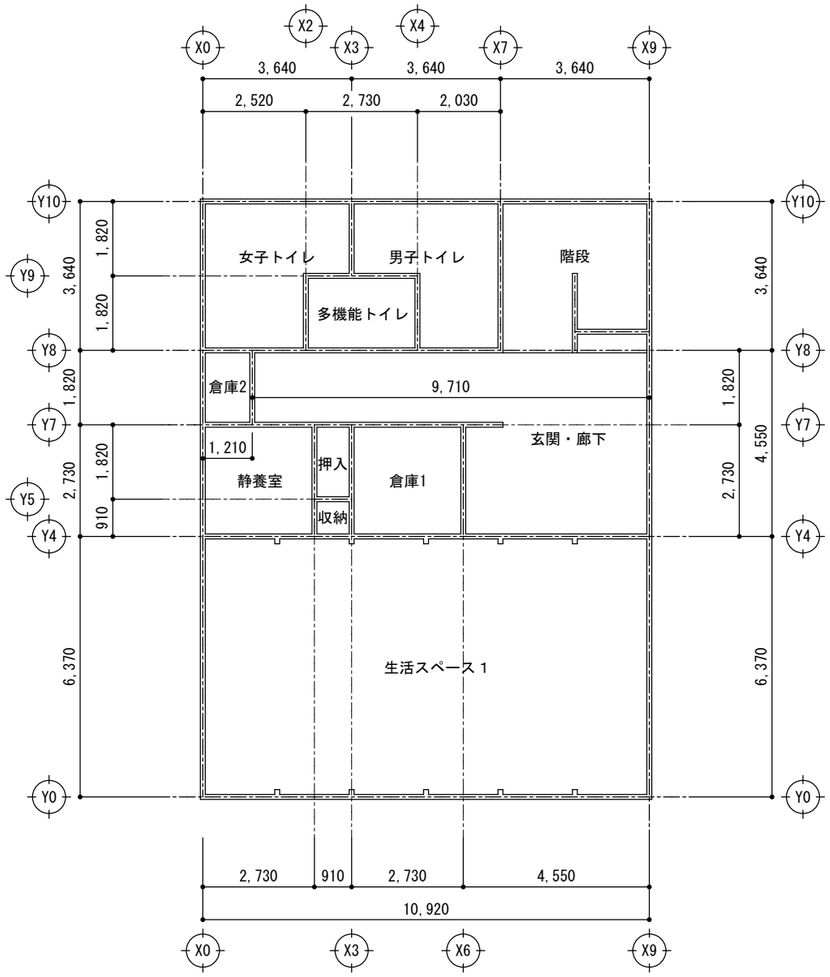
2階面積求積図　S=1/200

敷地面積表		
符号	計算式	面　積
①	20.819 × 2.223 ＝	46.2806
②	35.456 × 15.082 ＝	534.7474
③	35.456 × 9.751 ＝	345.7315
④	28.761 × 9.712 ＝	279.3268
	倍　面　積	1,206.0863 ㎡
	面　積(1/2)	603.0432 ㎡
	敷 地 面 積	603.04 ㎡

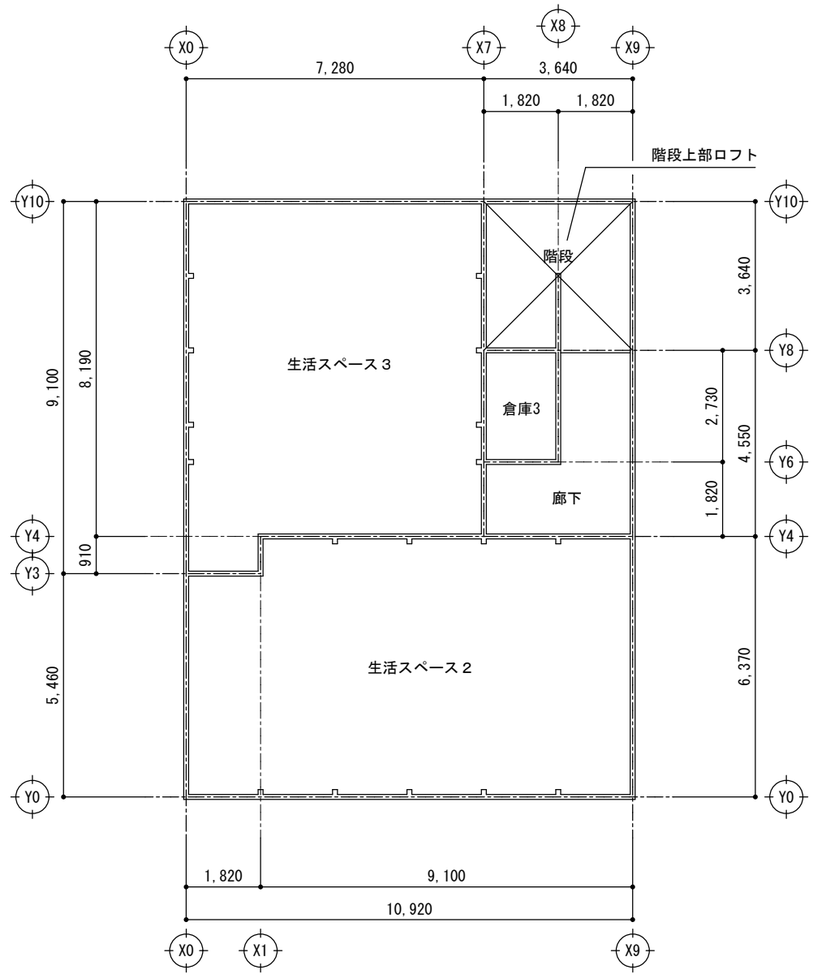
建築面積表		
符号	計算式	面　積
①	10.92 × 14.56 ＝	159.00
Ⓐ	1.82 × 14.56 ＝	26.50
Ⓑ	0.20 × 7.09 ＝	1.42
Ⓒ	1.122 × 1.10 ＝	1.23
Ⓓ	0.20 × 6.37 ＝	1.27
	建築面積　合計	189.42 ㎡

床面積表		
符号	計算式	面　積
①	10.92 × 14.56 ＝	159.00
	１階床面積	159.00 ㎡
②	10.92 × 14.56 ＝	159.00
	２階床面積	159.00 ㎡
	延べ床面積	318.00 ㎡

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	敷地求積図・建物求積図・面積表	SCALE A3 1/200	No. 25-007 A-08



１階各室面積求積図　S=1/150



２階各室面積求積図　S=1/150

１階各室床面積表

室　名	計算式	面　積
生活スペース１	10.92 × 6.37 ＝	69.56 ㎡
静養室	2.73 × 2.73 ＝	7.45 ㎡
倉庫１	2.73 × 2.73 ＝	7.45 ㎡
倉庫２	1.21 × 1.82 ＝	2.20 ㎡
女子トイレ	(3.64 × 1.82) + (2.52 × 1.82) ＝	11.21 ㎡
男子トイレ	(3.64 × 1.82) + (2.03 × 1.82) ＝	10.32 ㎡
多機能トイレ	2.73 × 1.82 ＝	4.97 ㎡
廊　下	(9.71 × 1.82) + (4.55 × 2.73) ＝	30.09 ㎡
階　段	3.64 × 3.64 ＝	13.25 ㎡
押　入	0.91 × 1.82 ＝	1.66 ㎡
収　納	0.91 × 0.91 ＝	0.83 ㎡

２階各室床面積表

室　名	計算式	面　積	
生活スペース２	(10.92 × 5.46) + (9.10 × 0.91) ＝	67.90 ㎡	
生活スペース３	(7.28 × 8.19) + (1.82 × 0.91) ＝	61.28 ㎡	
倉庫３	1.82 × 2.73 ＝	4.97 ㎡	
廊　下	(3.64 × 1.82) + (1.82 × 2.73) ＝	11.59 ㎡	
階　段	3.64 × 3.64 ＝	13.25 ㎡	
(ロフト)	3.64 × 3.64 ＝	13.25 ㎡	【床面積に算入しない】

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	各室床面積求積図	SCALE A3 1/150	No. 25-007 A-09

外 部 仕 上 表

※1）延焼の恐れ部分の外壁及び軒裏は防火構造とする

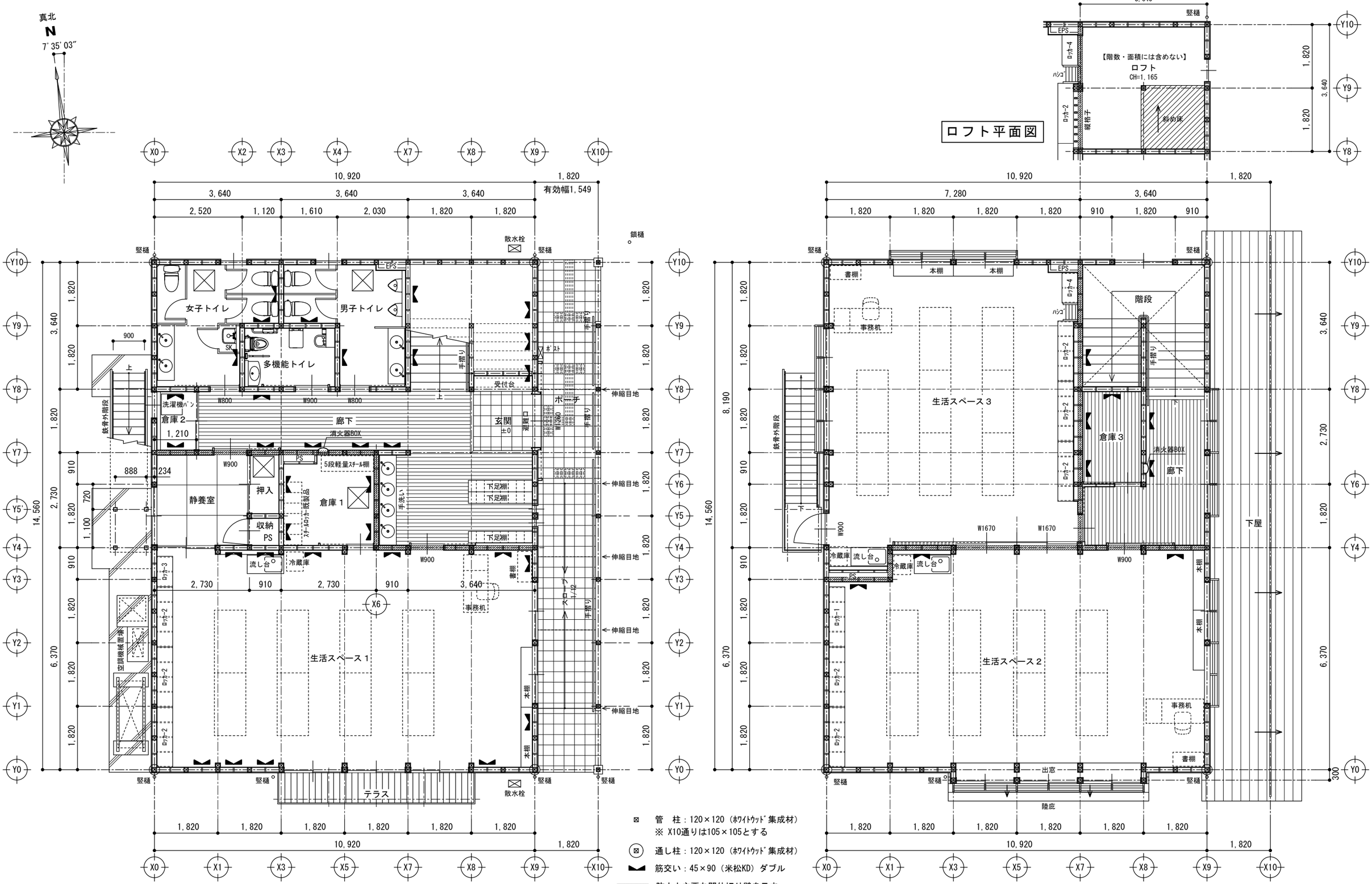
屋　　根	t-0.4mmカラーガルバリウム鋼板　立平葺き（２寸勾配）、　断熱バックアップ材、　雪止めアングルL-50×50×4亜鉛メッキ品（1段）	ポ　ー　チ	t-30mmモルタル塗り300角磁器質タイル張り（ノンスリップ仕様）、300角障害者用位置表示型タイル（4列×2箇所）、　片側自立型手摺り
	アスファルトルーフィング22kg下葺き、　野地t-12mm構造用合板張り、　木製破風板：木材保護塗装（WP･A種）	スロープ部	t-30mmモルタル塗り300角磁器質タイル張り（ノンスリップ仕様）　※上り始め・下り始め部分の1列は色違いのタイル張りとする、　片側自立型手摺り
下　　屋	3.5寸角柱（ﾋﾉｷKD）・桁（ﾋﾉｷKD）・化粧垂木（ｽｷﾞKD）表し木材保護塗装（WP･A種）、　柱脚ステンレス箱金物	テ　ラ　ス	樹脂+木粉混合再生複合材（デッキ材46×175、幕板145×20、大引及び束柱はアルミ形材）　陸庇：t-0.4mmカラーガルバリウム鋼板立平葺き（２寸勾配）
	t-0.4mmカラーガルバリウム鋼板　立平葺き（２寸勾配）、　雪止めアングル（1段）、　アスファルトルーフィング22kg下葺き、　t-12mm構造用合板張り	外　階　段	鉄骨造：錆止め塗装（A種）の上、耐候性塗料塗り（DP･1級）　【 幅900mm、蹴上げ180mm、踏面220mm、手摺り高1,100mm 】
外　　壁	ラスモルタル塗りの上　アクリル樹脂系吹付け（装飾仕上塗材フラット仕上げ）【 防火構造：H12建告第1359号 】、t-12mm構造用合板【壁倍率3.1】	断　熱　材	床下大引間：t-80mm高性能グラスウールボード24kg専用Z型ピン止め、　外壁間柱間：t-100mm高性能グラスウール24kg防湿層付き
	１階東面はt-12mm杉中杢板（上小節程度）本実Ｖ溝張り、木材保護塗装（WP･A種）、　北・南 小口壁見切り27×90杉（WP･A種）		生活スペース間仕切壁：t-100mm高性能グラスウール24kg防水層なし、　２階天井裏：t-100mm高性能グラスウール24gk防湿層なし２重敷込
基　　礎	合板型枠コンクリート打放し仕上げ	外 部 建 具	高性能樹脂窓（APW･330･等級6程度）、　アルミ樹脂複合窓、　ビル用フロント特注品、　２階部分の引違い窓に木製手摺り
雨　　樋	軒樋：スタンダード半丸105φ、　T形ドレン半丸105φ－60φ（タニタ同等品）	外　　構	アプローチ部分：コンクリート刷毛引き仕上げ、　駐車スペース：アスファルト浸透舗装（密粒度ｱｽｺﾝA-5-15）、区画ライン引き、パーキングブロック
	竪樋：スタンダード丸60φ、　ポーチ北側の1箇所は　クサリトイｅｎｓｕｉ（タニタ同等品）		建物西側及びテラス下：防草シート敷き込みの上、砕石敷き　　建物南側：t-80mmインターロッキングブロック敷き
軒　　裏	延焼の恐れのある部分：t-12mm木質木片セメント板張り【45分準耐火･建告1358号】の上、t-12mm杉板張り木材保護塗装(WP･A種)		アプローチ部分植栽：中木（樹高2,000～3,000）×2本、　低木（樹高1,000未満）×5本、グランドカバー、　コンクリート縁石120×120×600
	その他の部分：t-6mmケイカル板２重張りの上、t-12mm杉板張り木材保護塗装(WP･A種)		雨水浸透桝、　南及び西隣地側に朝日フェンスXW-1500-M同等品（コンクリート基礎共）、　ヨド物置ESF-2109A同等品（間口2100×奥行900）
	下屋部分：t-12mm杉中杢板張り（本実Ｖ溝）木材保護塗装（WP･A種）、　化粧垂れ木：木材保護塗装（WP･A種）、　木製破風板：木材保護塗装（WP･A種）	そ　の　他	壁付けステンレス郵便箱(神栄ﾎｰﾑｸﾘｴｲﾄSMP7同等品340×240×145）、　SUSﾁｬﾝﾈﾙ館名文字、　妻壁に防風板付ベントキャップワイド水切タイプ

内 部 部 仕 上 表

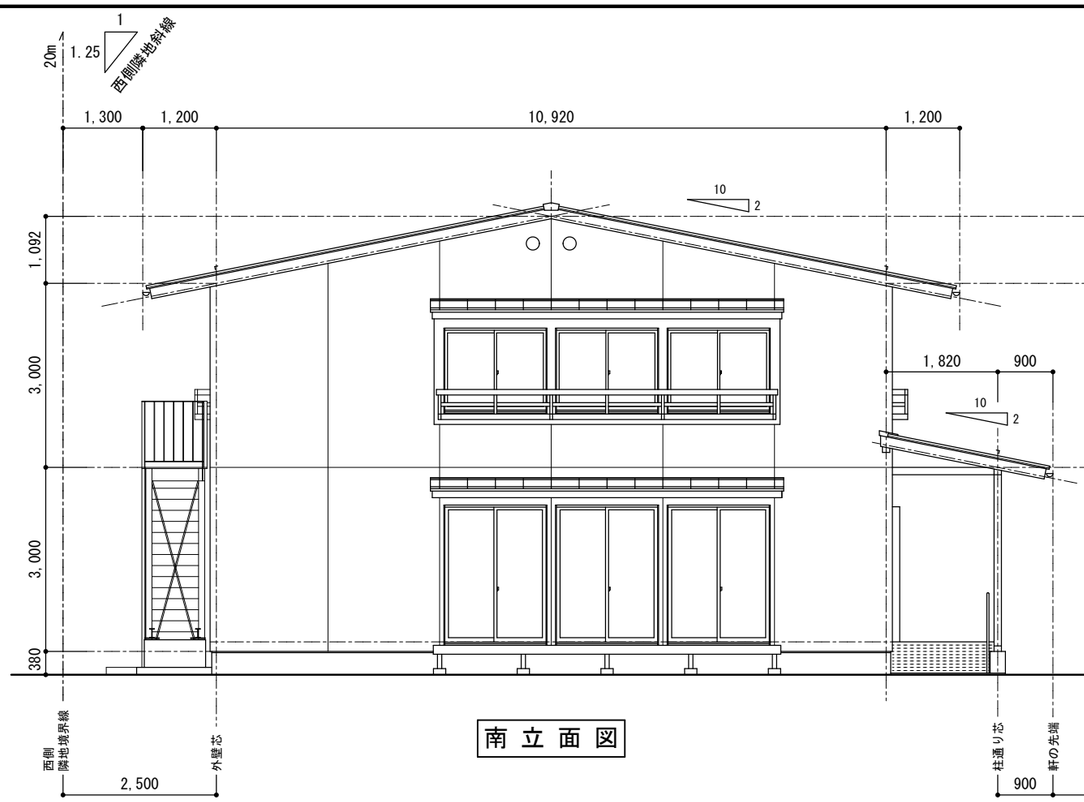
※2）延焼の恐れ部分の外壁屋内側は桁までt-12.5mm+t-9.5mmＰＢ2重張りとする
※3）防火上主要な間仕切壁は天井裏及び小屋裏迄両面t-12.5mm+t-9.5mmＰＢ2重張りとする

階	室　名	床	巾　木	壁	天　井	廻　縁	天井高	備　考
1	玄　関	t-30mmモルタル塗り	木調既製品	t-12.5mm+9.5mmＰＢ2重張りの上、ビニールクロス貼り　不燃：NM-8619・準不燃：QM-9828	t-9.5mmＰＢ張りの上、ビニールクロス貼り	塩ビ目透し	2,400	下足棚、受付台、扉付き手洗いカウンター、腰見切縁
階		300角磁器質タイル張り、框ﾀﾓ集成材（2-UC･A種）	H＝50	腰壁H=900：t-12mm杉小節ふねん合板張り(ｷｼﾗﾃﾞｺｰﾙUA）、　手洗い部分100角内装タイル張り	準不燃：QM-9828			受付台の壁3面はt-0.4mmｶﾗｰGL鋼板張り、避難口表示板
	生活スペース１	t-24mm構造用合板チドリ張り	木調既製品	t-12.5mmＰＢ+寒冷紗張り、t-8mm有孔ケイカル板目透かし張り(EP･A種)　不燃：NM-8619 腰壁H=900：t-12.5mmＰＢ張りの上、t-4mm化粧天然木練付合板目透かし張り	t-9.5mmタイガースクエアトーンＤプラス張り（910×910） t-1.0mm遮音シート下張り、t-50mm高性能ＧＷ24Kg敷込み	塩ビ目透し	2,450	室名札、ロッカー、本棚、既製流し台W1050、腰見切縁 柱型小口及びライニング赤松集成材（1-UC･A種）
		タイルカーペット張り	H＝50	【延焼ラインは桁までt-12.5mm+t-9.5mm石膏ボード下地とする】　不燃：NM-8619	天井点検口450×450（3箇所）　不燃：NM-4244(1)			スチール書棚、カーテンBOX、冷蔵庫別途
	静養室	t-24mm構造用合板チドリ張り	タタミ寄	t-12.5mm+9.5mmＰＢ2重張りの上、ビニールクロス貼り　不燃：NM-8619・準不燃：QM-9828	t-9.5mmＰＢ張りの上、ビニールクロス貼り	塩ビ目透し	2,400	室名札、カーテンBOX
		t-12mm縁無し建材タタミ（和紙樹脂コーティング）張り	H＝50	【延焼ラインは桁までt-12.5mm+t-9.5mm石膏ボード下地とする】	天井点検口450×450（1箇所）　準不燃：QM-9828			
	押入・収納ＰＳ	t-24mm構造用合板張り　床下点検口600×600	雑巾摺	t-5.5mmラワン合板（2類）張り	t-4.0mmラワン合板（2類）張り	木 H＝45	2,400	押入：中段、マクラ棚
		t-9mmラワン合板張り						
	倉庫１	t-24mm構造用合板チドリ張り　床下点検口600×600	木調既製品	t-5.5mmラワン合板（2類）張り	t-4.0mmラワン合板（2類）張り	木 H＝45	2,400	室名札、5段軽量ｽﾁｰﾙ棚(W1,500×D450×H1,800）1台 既製ｽﾁｰﾙ更衣ﾛｯｶｰ2段6人用（W900×D515×H1,790）2台 カーテンBOX、カーテンレール（S）
		タイルカーペット張り	H＝50					
	倉庫２	t-24mm構造用合板チドリ張り	床材巻上げ	12.5mmＰＢ張りの上、t-6mm化粧ケイカル板張り（目地シール）	t-4.0mmラワン合板（2類）張り	塩ビ目透し	2,400	室名札、ライニング（ポストフォーム）
		t-2.0mm長尺塩ビシート張り（目地溶接）	H＝100	【延焼ラインは桁までt-12.5mm+t-9.5mm石膏ボード下地とする】　不燃：NM-8619				洗濯機パン640（設備）、洗濯機別途
	男子トイレ	t-24mm構造用合板チドリ張り　床下点検口600×600	床材巻上げ	12.5mmＰＢ張りの上、t-6mm化粧ケイカル板張り（目地シール）、出隅コーナー材	t-9.5mmタイガースクエアトーンＤプラス張り（910×910）	塩ビ目透し	2,400	ピクトサイン、扉付き手洗いカウンター
		t-2.0mm長尺塩ビシート張り（目地溶接）	H＝100	不燃：NM-8619	不燃：NM-4244(1)			ライニング（ポストフォーム）衛生機器類は設備
	女子トイレ	t-24mm構造用合板チドリ張り　床下点検口600×600	床材巻上げ	12.5mmＰＢ張りの上、t-6mm化粧ケイカル板張り（目地シール）、出隅コーナー材	t-9.5mmタイガースクエアトーンＤプラス張り（910×910）	塩ビ目透し	2,400	ピクトサイン、モップ掛け、扉付き手洗いカウンター
		t-2.0mm長尺塩ビシート張り（目地溶接）	H＝100	【延焼ラインは桁までt-12.5mm+t-9.5mm石膏ボード下地とする】　不燃：NM-8619	不燃：NM-4244(1)			ライニング（ポストフォーム）衛生機器類は設備
	多機能トイレ	t-24mm構造用合板チドリ張り	床材巻上げ	12.5mmＰＢ張りの上、t-6mm化粧ケイカル板張り（目地シール）	t-9.5mmタイガースクエアトーンＤプラス張り（910×910）	塩ビ目透し	2,400	ピクトサイン、扉付き手洗いカウンター
		t-2.0mm長尺塩ビシート張り（目地溶接）	H＝100	不燃：NM-8619	不燃：NM-4244(1)			ライニング（ポストフォーム）衛生機器類は設備
共	廊　下	t-24mm構造用合板チドリ張り	木調既製品	t-12.5mm+9.5mmＰＢ2重張りの上、ビニールクロス貼り　不燃：NM-8619・準不燃：QM-9828	t-9.5mmＰＢ張りの上、ビニールクロス貼り	塩ビ目透し	2,400	壁見切縁及び腰見切縁：赤松集成材（1-UC･A種）
通		t-15mmナラフローリング張り（塗装品）	H＝50	腰壁H=900：t-12mm杉小節ふねん合板目透かし張り(キシラデコールUA)　不燃：NM-1596	準不燃：QM-9828			消火器BOX(壁埋込）各階1箇所
	階段室	踏板：t-36mmﾀﾓ集成材（2-UC･A種）、　蹴込板：ﾀﾓ練付け合板	ササラ桁	t-12.5mm+9.5mmＰＢ2重張りの上、ビニールクロス貼り　不燃：NM-8619・準不燃：QM-9828	t-9.5mmＰＢ張りの上、ビニールクロス貼り	塩ビ目透し	——	イチゴSUSノンスリップW=15ｺﾞﾑ入り
		踊場：t-12mm構造用合板張り、t-15mmﾅﾗﾌﾛｰﾘﾝｸﾞ張り(2-UC･A種)	床共材	腰壁H=900：t-12mm杉小節ふねん合板張り(キシラデコールUA)　不燃：NM-1596	準不燃：QM-9828			片側既製手摺り（集成材φ35、ﾌﾞﾗｹｯﾄ、自在ﾌﾞﾗｹｯﾄ）
2	生活スペース２	t-24mm構造用合板ﾁﾄﾞﾘ張り、ｻｳﾝﾄﾞｶｯﾄｼｰﾄ、t-12.5mm遮音ﾎﾞｰﾄﾞ張り	木調既製品	t-12.5mmＰＢ+寒冷紗張り、t-8mm有孔ケイカル板目透かし張り(EP･A種)　不燃：NM-8619 腰壁H=900：t-12.5mmＰＢ張りの上、t-4mm化粧天然木練付合板目透かし張り	t-9.5mmタイガースクエアトーンＤプラス張り（910×910）	塩ビ目透し	2,500	室名札、ロッカー、本棚、既製流し台W1050、腰見切縁 柱型小口及びライニング赤松集成材（1-UC･A種）
階	生活スペース３	タイルカーペット張り（ﾀｲｶﾞｰ遮音ﾌﾛｱｼｽﾃﾑ又は同等）	H＝50	【延焼ラインは桁までt-12.5mm+t-9.5mm石膏ボード下地とする】　不燃：NM-8619	天井点検口450×450（各室2箇所）　不燃：NM-4244(1)			スチール書棚、カーテンBOX、冷蔵庫別途
	ロフト	t-12mm構造用合板張り（力根太50×105-@303）	木調既製品	t-12.5mmＰＢ張りの上、t-4mm化粧天然木練付合板目透かし張り	t-4.0mm化粧天然木練付合板目透かし張り	——	1,165	木製ハシゴ、框、木製3方枠：赤松集成材（1-UC･A種）
		タイルカーペット張り（斜め床共）	H＝50	不燃：NM-8619				床見切り赤松集成材（1-UC･A種）
	倉庫３	t-24mm構造用合板チドリ張り	木調既製品	t-5.5mmラワン合板（2類）張り	t-4.0mmラワン合板（2類）張り	木 H＝45	2,400	室名札
		t-15mmナラフローリング張り（塗装品）	H＝50					

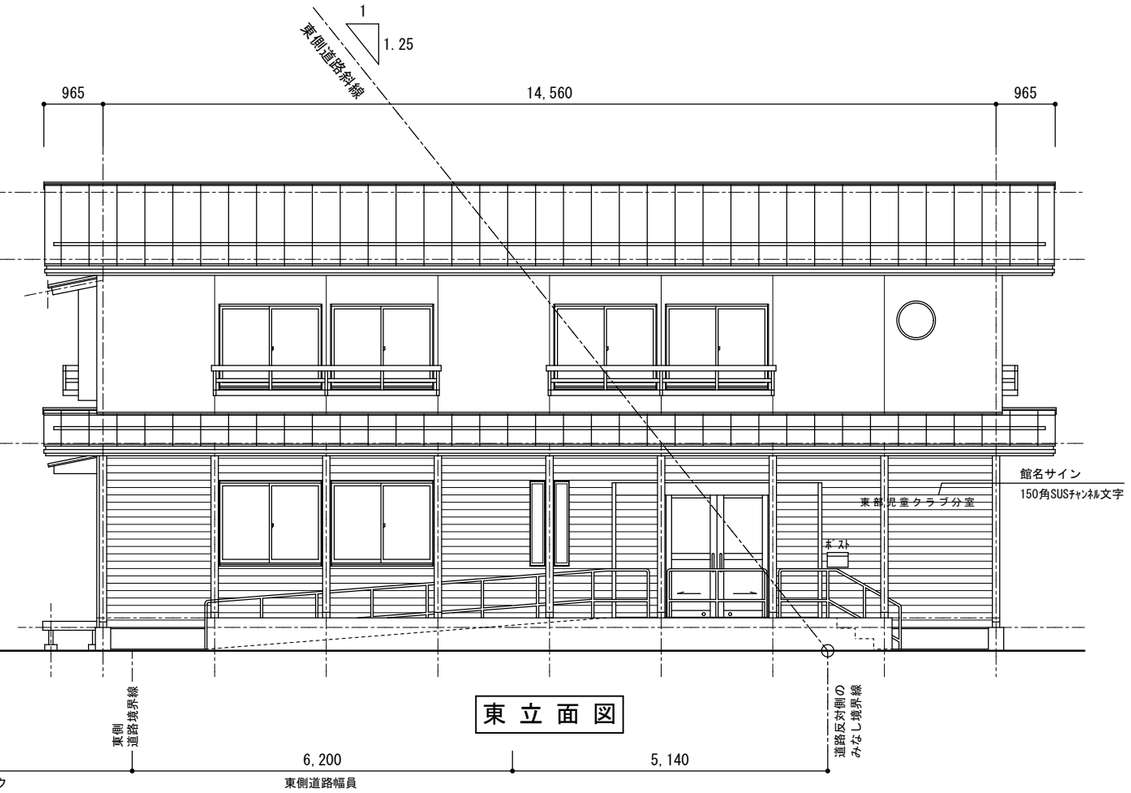
上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	仕　上　表	SCALE A3 NO SCALE / No. 25-007 A-10



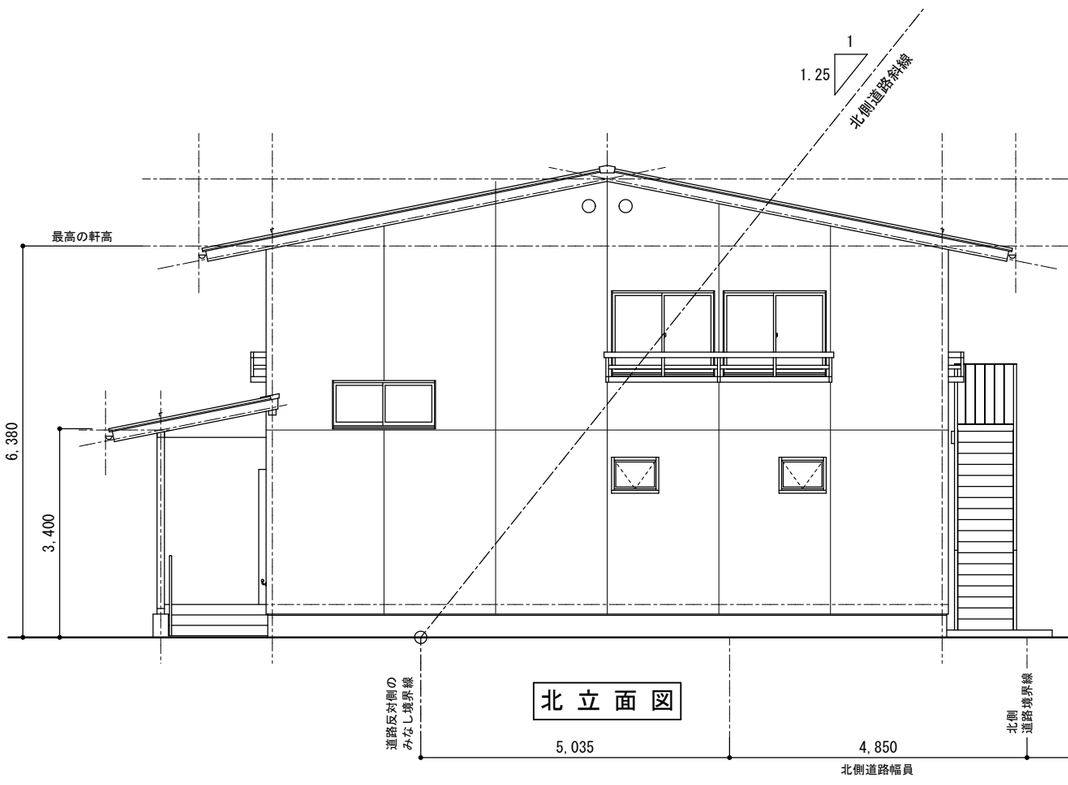
上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	1階平面図・2階平面図	SCALE A3 1/100 No. 25-007 A-11



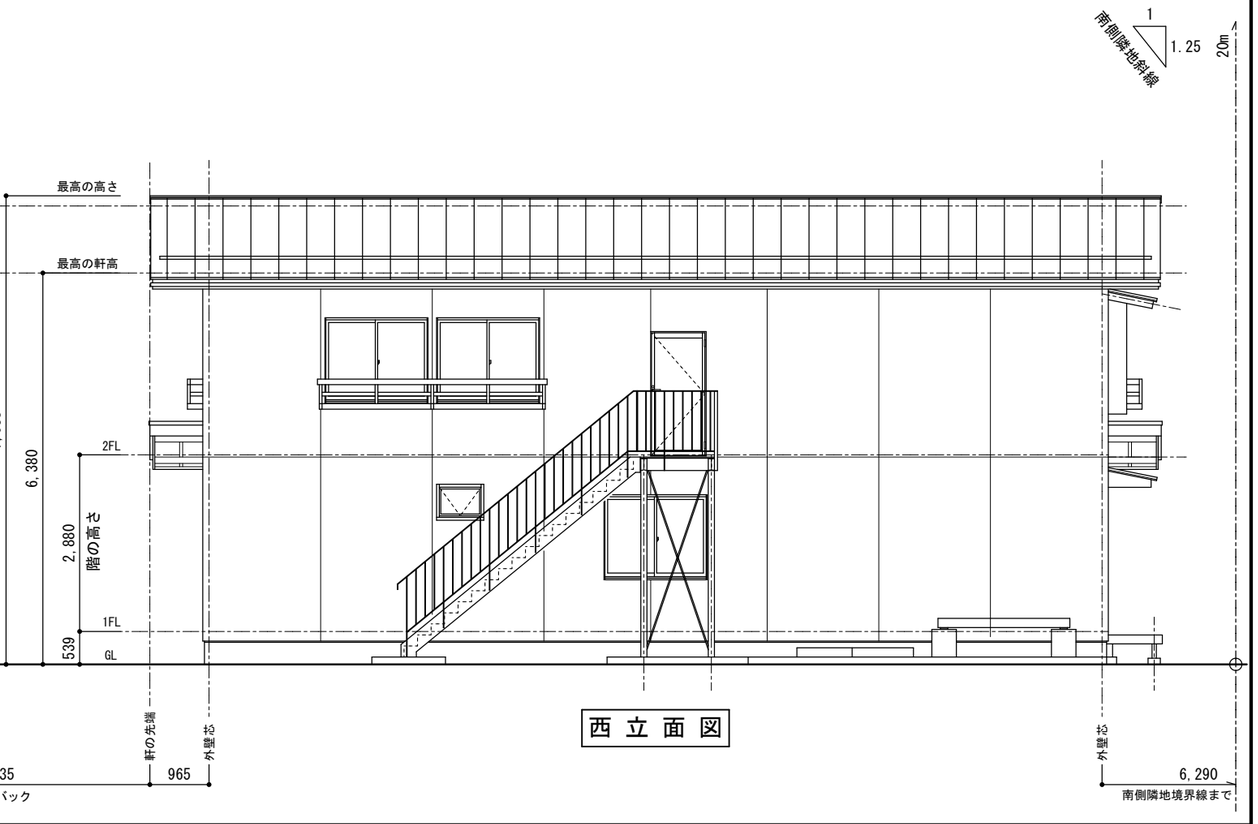
南立面図



東立面図

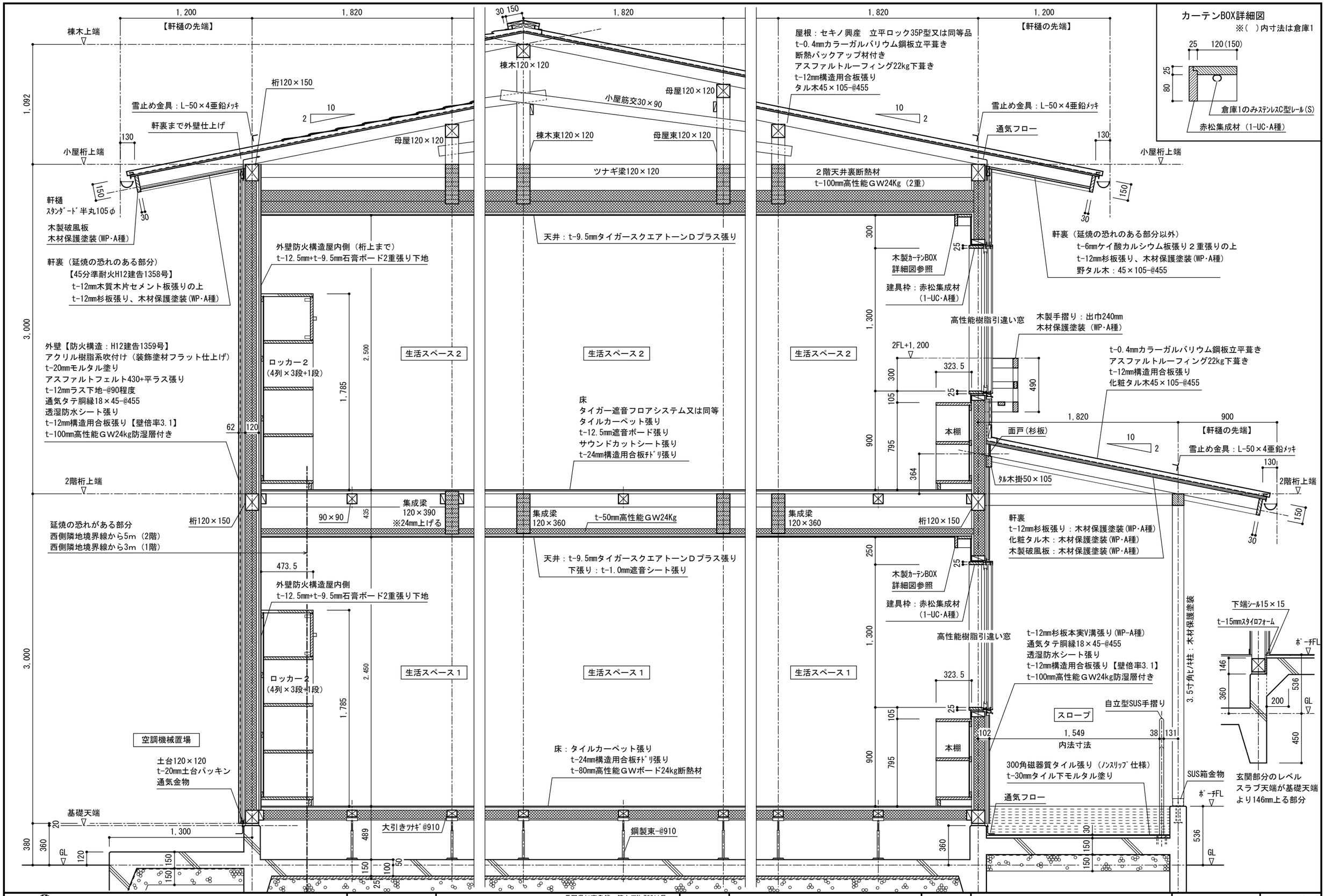


北立面図

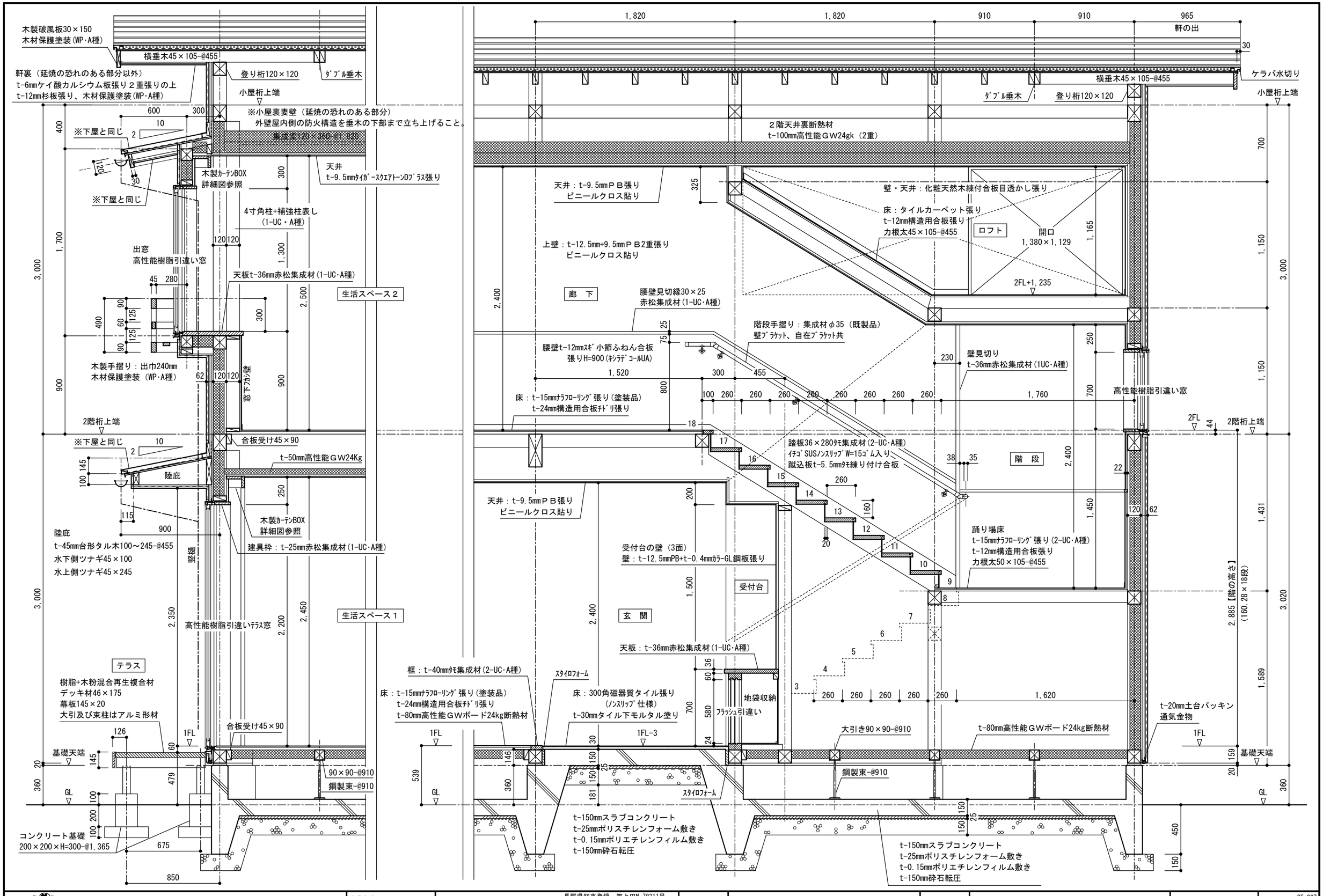


西立面図

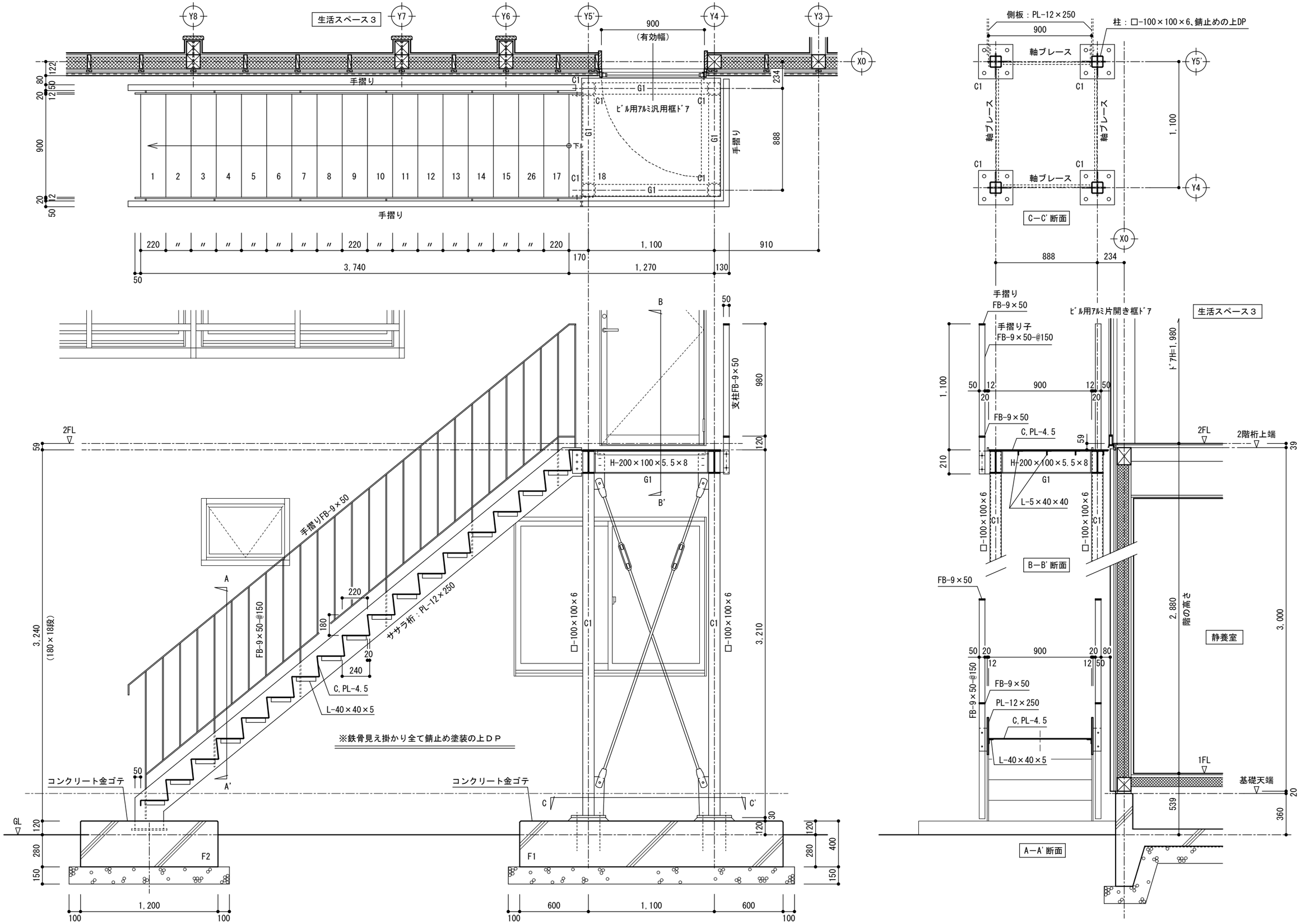
上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	立面図	SCALE A3 1/100	No. 25-007 A-12



上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	矩 計 図 （ 1 ）	SCALE A3 1/30 / No. 25-007 A-13

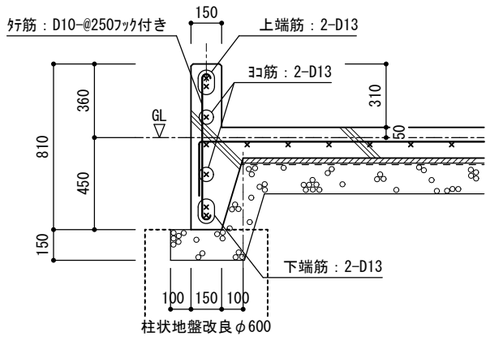


上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	矩計図（２）	SCALE A3 1/30 / No. 25-007 A-14

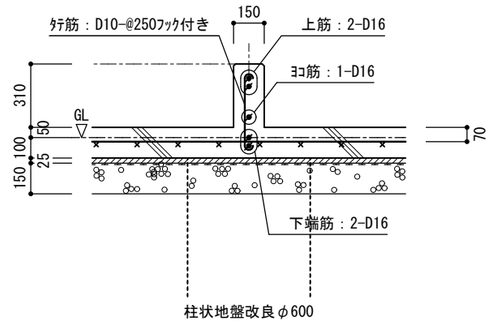


上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	鉄骨階段詳細図	SCALE A3 1/30 / No. 25-007 A-15

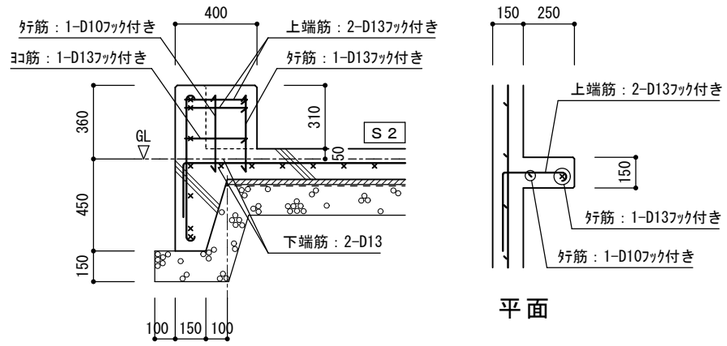
ＦＧ１



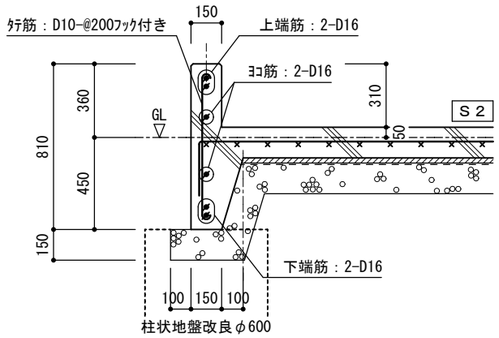
ＦＧ３



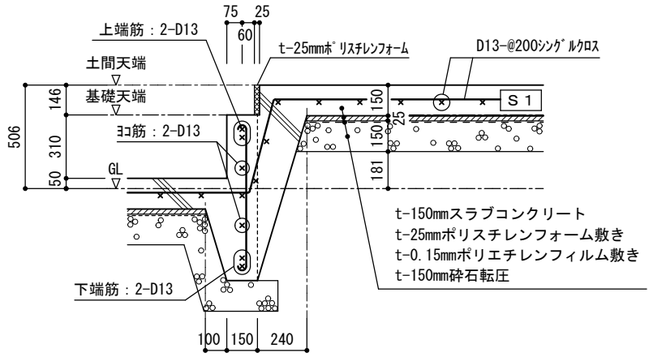
ＦＧ１（ダブル柱部分）



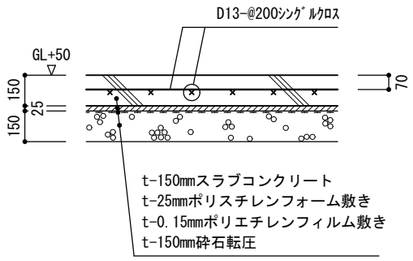
ＦＧ１Ａ



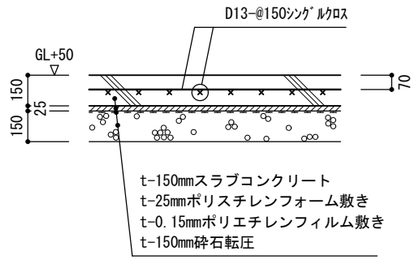
玄関土間部分



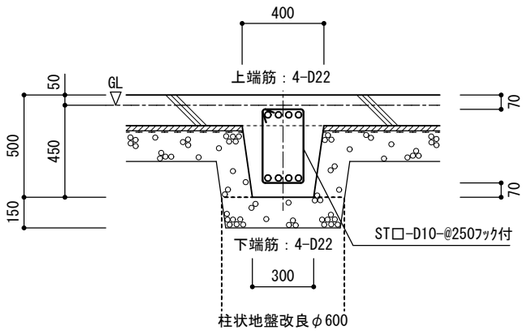
Ｓ　１



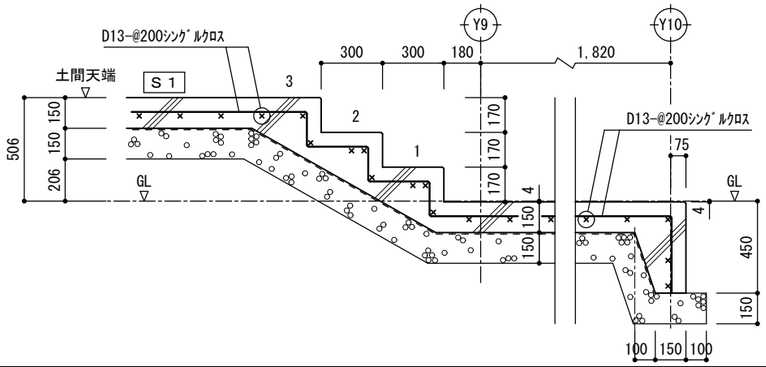
Ｓ　２



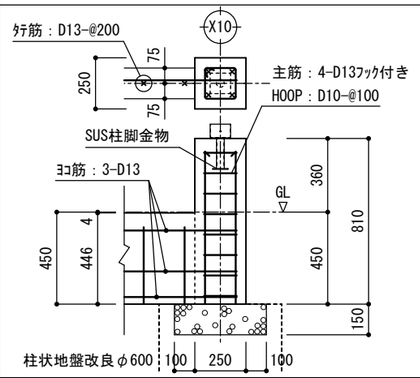
ＦＧ２



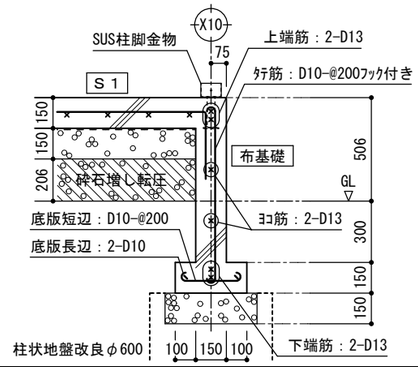
ポーチ階段部分



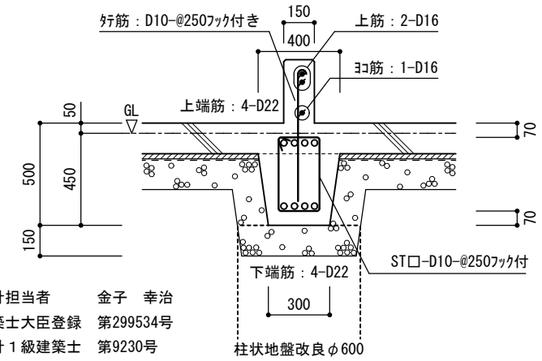
独立基礎　　2箇所



布基礎（X10通り-Y1～Y9間）

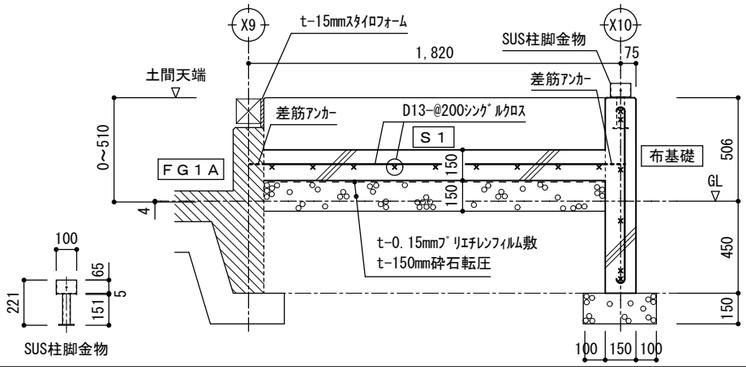


ＦＧ２Ａ

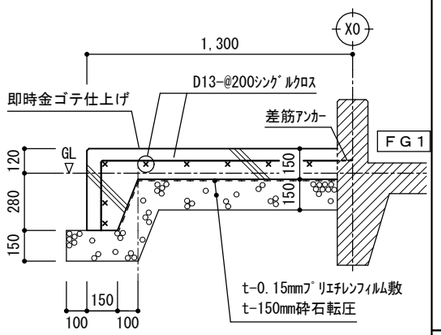


構造設計担当者　　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号

スロープ部分

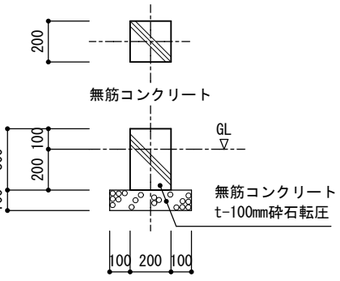


空調機械置場土間



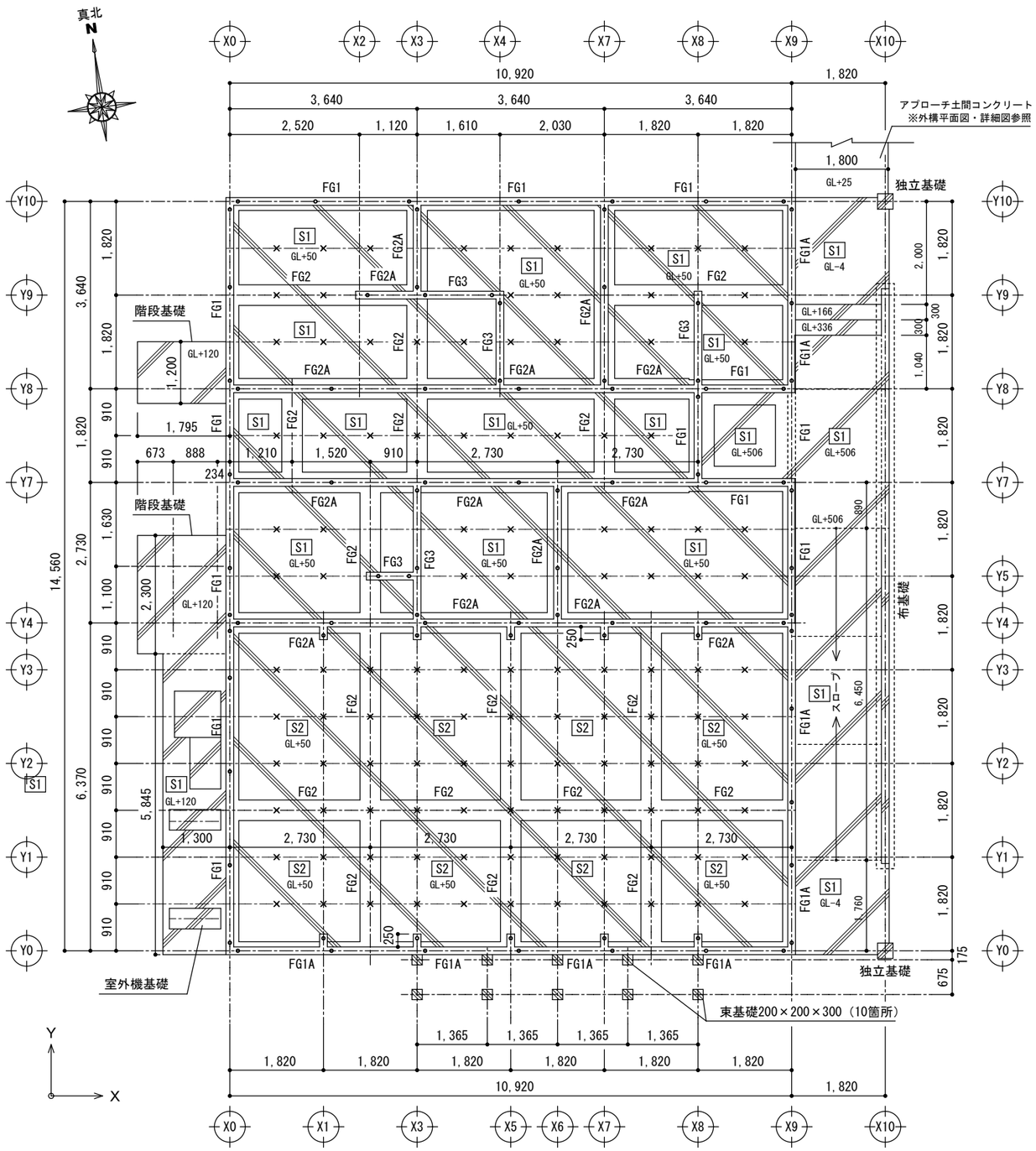
※室外機基礎は「室外機基礎詳細図」参照とする

テラス束基礎　　10箇所

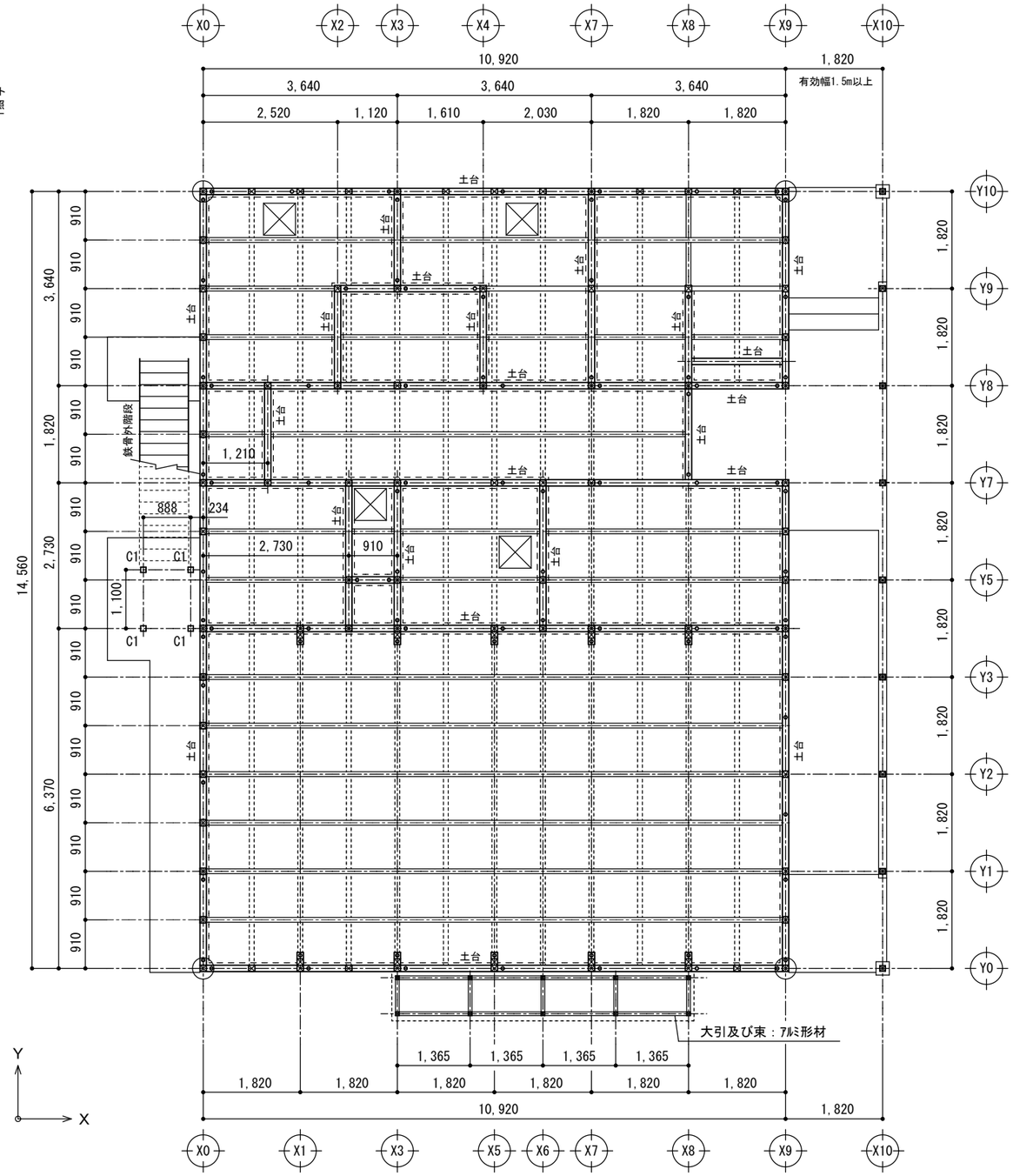


※鉄骨階段基礎は「鉄骨階段詳細図・部材リスト」参照とする

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	基礎詳細図	SCALE A3 1/30 / No. 25-007 A-16



基礎伏図



床伏図

- ∘ アンカーボルト：M12、L=400【89本】
- × 鋼製束-@910

※1）基礎詳細は別図参照【A-16：基礎詳細図】とする
※2）階段基礎は別図参照【構造S-08：鉄骨階段詳細図】とする
※3）室外機基礎は別図参照【構造S-09：室外機基礎詳細図】とする
※4）ポーチ及びスロープの土間にカッター目地入れ+シール共：別図参照【意匠A-11平面図】とする

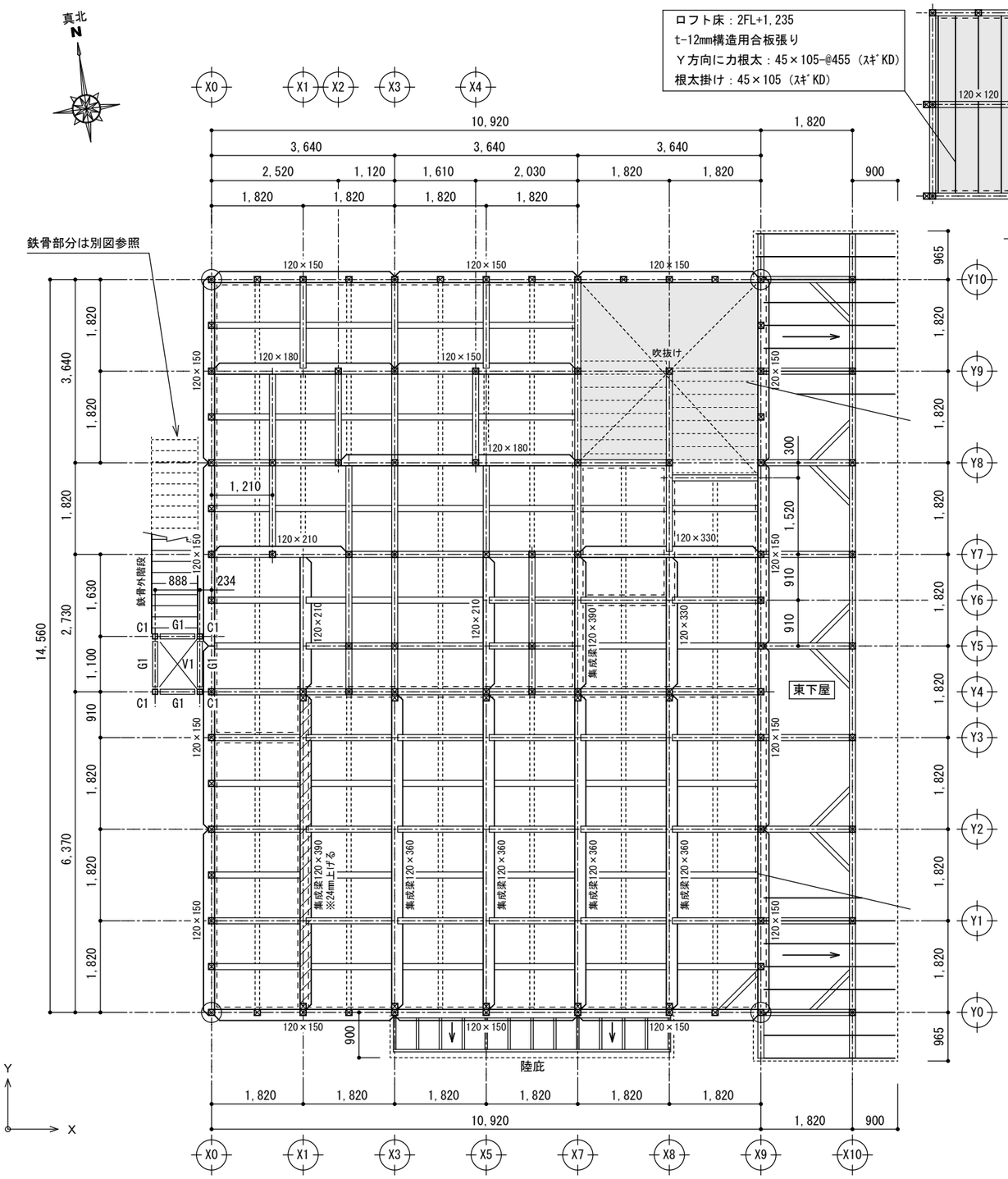
- ⊠ ダブル柱：120×120（ﾎﾜｲﾄｳｯﾄﾞ集成材）×2
  ボルト締め接合：M12-@900（ダボ穴）
  構造用ボンド併用
- ⊠ 床下点検口の開口補強45×90（4箇所）（600×600）

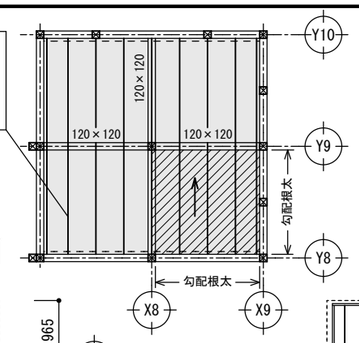
- ⊠ 管　柱：120×120（ﾎﾜｲﾄｳｯﾄﾞ集成材）、間柱：30×120（ｽｷﾞKD）
- ⊗ 通し柱：120×120（ﾎﾜｲﾄｳｯﾄﾞ集成材）
- ∘ アンカーボルト：M12、L=400【89本】
- ═══ 土　台：120×120（ﾋﾉｷ防腐剤注入材）t-20mm土台パッキン敷き
- ═══ X方向に大引き：90×90-@910（米松KD）
- ┅┅ Y方向に大引きツナギ材：90×90-@910（米松KD）
- - - - - 土台廻りに合板受け材：45×90（ｽｷﾞKD）
  t-24mm構造用合板張り

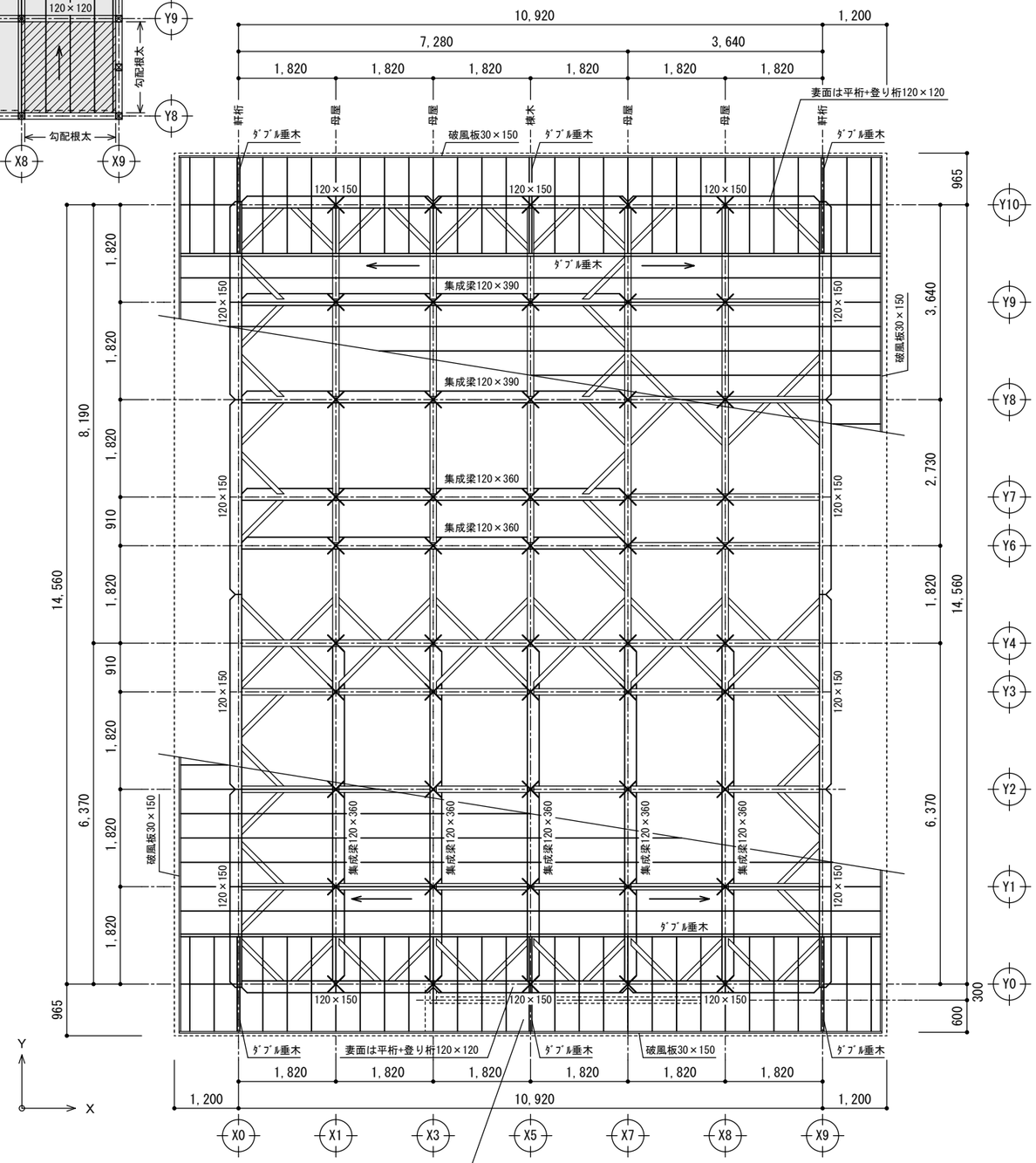
※　柱・筋かい：地面から1m以内の部分は防腐剤塗布（キシラデコール等）
※　床の構造用合板の釘はN75とする。

構造設計担当者　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	基礎伏図・床伏図	SCALE A3 1/100	No. 25-007 A-17







⊠ ダブル柱：120×120（ﾎﾜｲﾄｳｯﾄﾞ集成材）×2
ボルト締め接合：M12-@900（ダボ穴）
構造用ボンド併用

梁伏図

⊠ 管　柱：120×120（ﾎﾜｲﾄｳｯﾄﾞ集成材）、間柱：30×120（ｽｷﾞKD）
⊗ 通し柱：120×120（ﾎﾜｲﾄｳｯﾄﾞ集成材）
特記なき桁は120×120（米松KD）
集成梁（赤松集成材）その他梁（米松KD）
桁ツナギ材：90×90-@910（米松KD）
桁廻りに合板受け材：45×90（ｽｷﾞKD）
t-24mm構造用合板張り
※　床の構造用合板の釘はN75とする。

東下屋
特記なき化粧桁は105×105（ﾋﾉｷKD）
化粧火打梁：90×90（ﾋﾉｷKD）
化粧タル木：45×105-@455（ｽｷﾞKD）
タル木掛け：45×105（ｽｷﾞKD）

陸　庇　※矩計図(2)参照
台形タル木45×100～245-@455（ｽｷﾞKD）
水下側ツナギ45×100（ｽｷﾞKD）
水上側ツナギ45×245（ｽｷﾞKD）

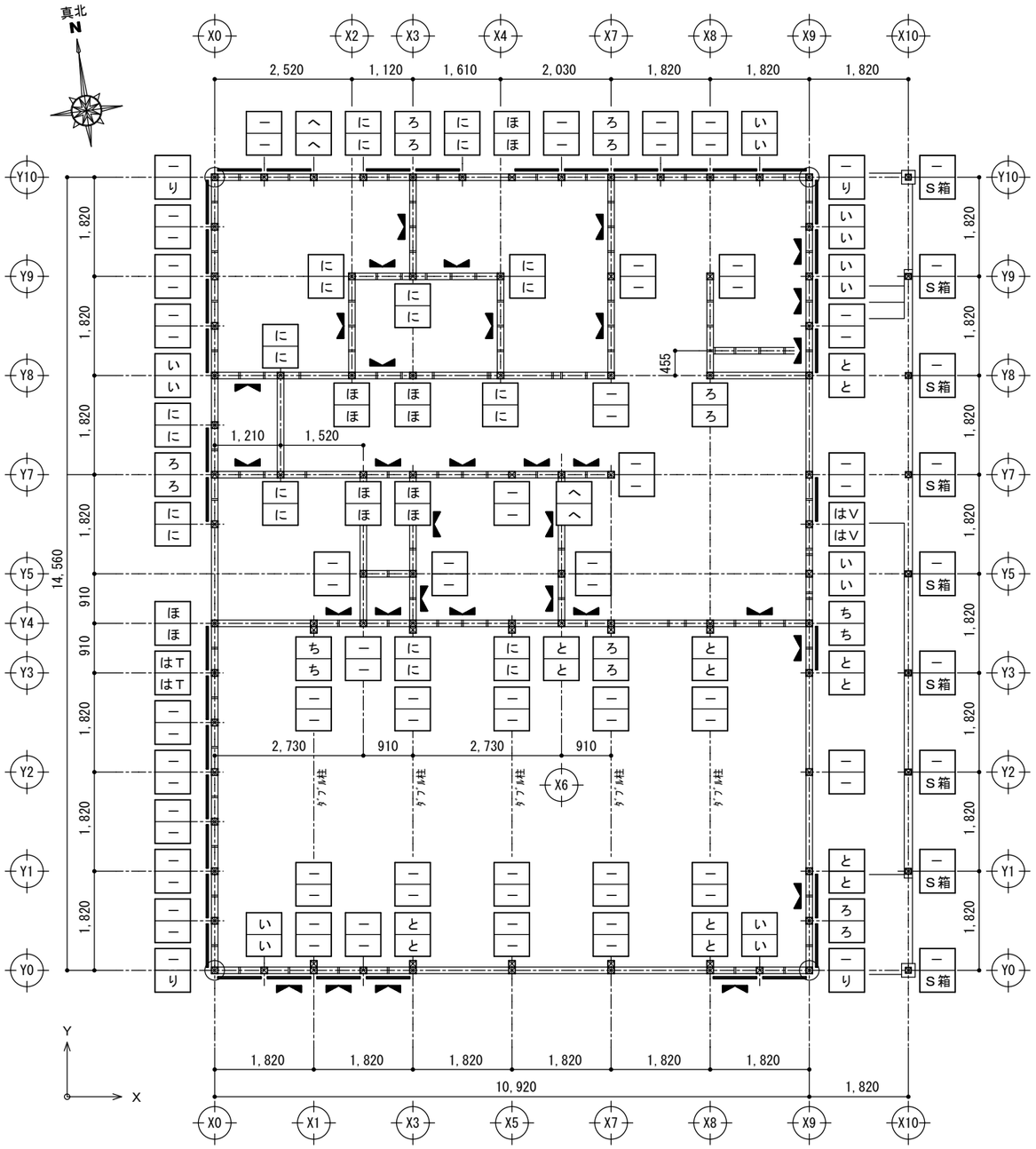
出窓庇
出桁、柱、桁は105×105（米松KD）
化粧タル木：45×54-@455（ｽｷﾞKD）
タル木掛け：45×90（ｽｷﾞKD）

小屋伏図

× 特記なき桁は120×120（米松KD）登り桁共
火打梁：90×90（米松KD）
小屋束：120×120-@1,820（米松KD）
母　屋：120×120-@1,820（米松KD）
棟　木：120×120（米松KD）
タル木：45×105-@455（ｽｷﾞKD）
妻側横タル木：45×105-@455（ｽｷﾞKD）
※　野地板の構造用合板の釘はN50とする。

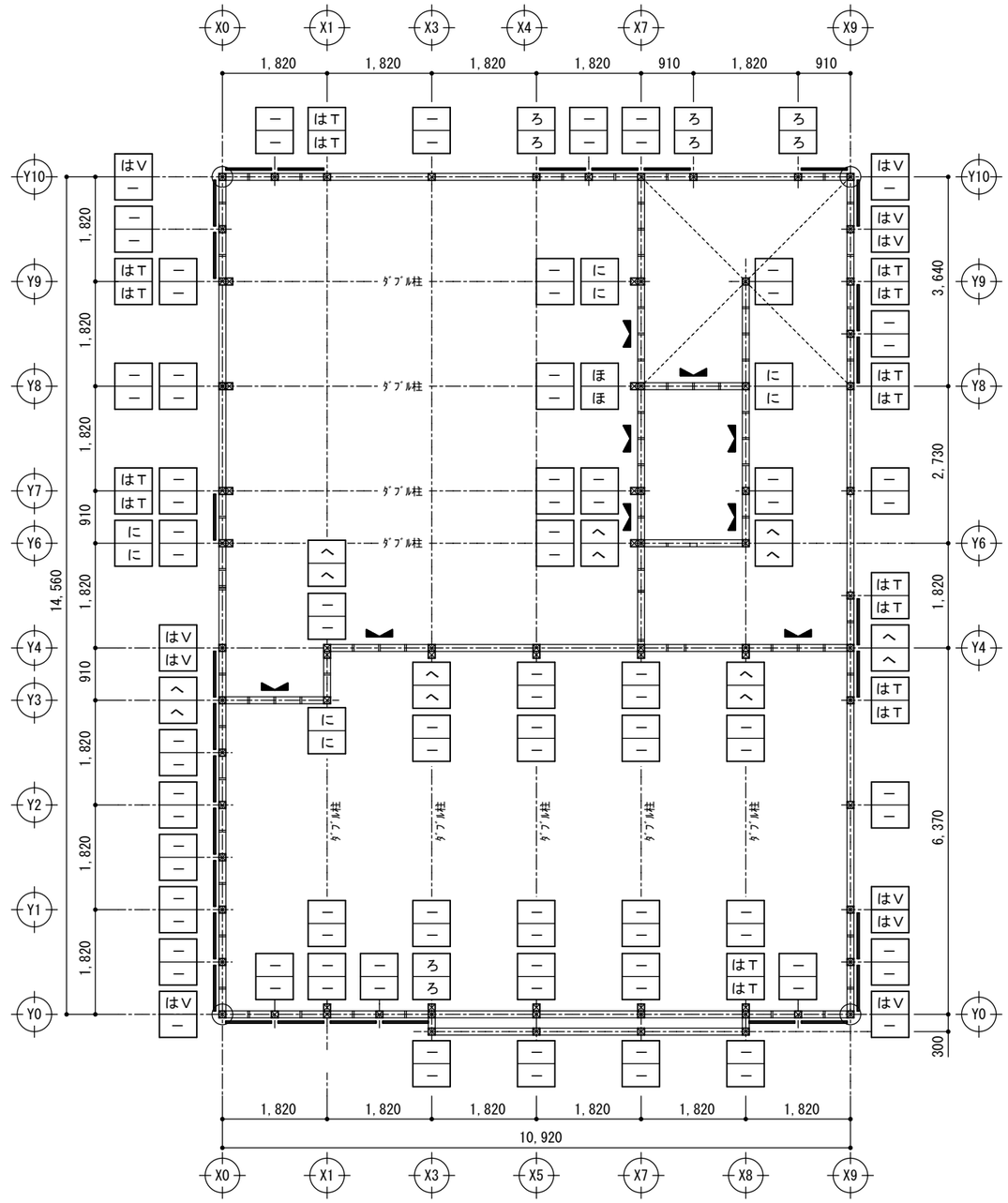
構造設計担当者　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	梁伏図・小屋伏図	SCALE A3 1/100 / No. 25-007 A-18



1階平面図

柱頭
柱脚



2階平面図

柱頭
柱脚

【凡　例】

記　号	仕　様
⊠	管　柱：120×120（ﾎﾜｲﾄｳｯﾄﾞ集成材）※ X10通りは105×105とする
⊗	通し柱：120×120（ﾎﾜｲﾄｳｯﾄﾞ集成材）
▬	外壁下地用耐力面材（t-12mm構造用合板）【壁倍率3.1】
◣	筋交い：45×90（米松KD）ダブル
	Ｚマーク表示金物(二)筋かいプレート（8P-2）
	平成12年建設省告示第1460号第一号に対応した接合金物

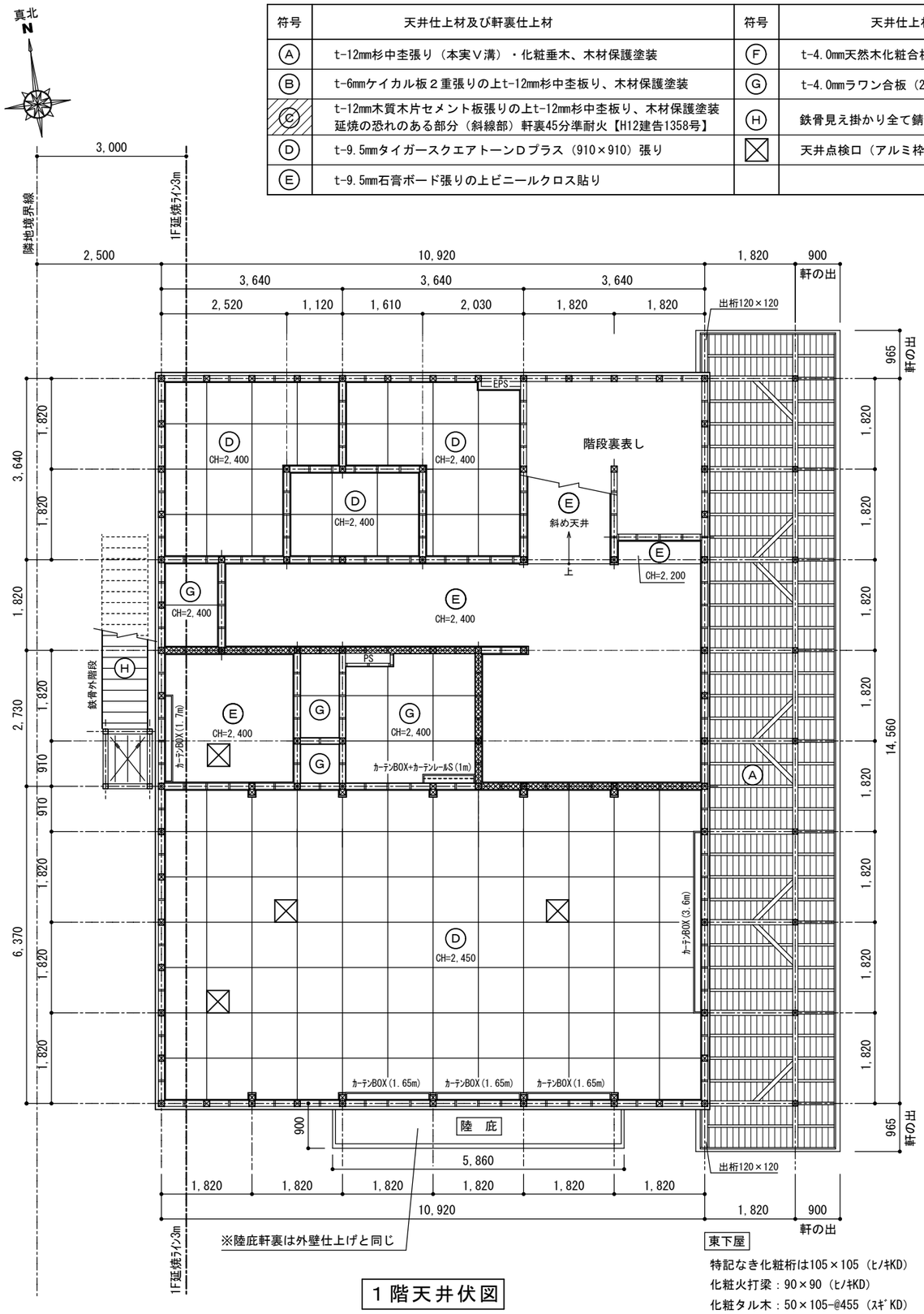
【凡　例】　平成12年建設省告示第1460号第二号に対応した柱接合金物

柱符号	仕　様		柱符号	仕　様	柱符号	仕　様
い	かすがい打ち	柱頭共	へ	【柱脚】ホールダウン金物１０ＫＮ（HD10）	り	【柱脚】ホールダウン金物２５ＫＮ（HD25）
ろ	Ｌ字型かど金物（CP-L）	柱頭共	へ	【柱頭】引寄せ金物１０ＫＮ	り	【柱頭】引寄せ金物２５ＫＮ（HD25）
はＴ	Ｔ字型かど金物（CP-T）	柱頭共	と	【柱脚】ホールダウン金物１５ＫＮ（HD15）	ぬ	【柱脚】ホールダウン金物１５ＫＮ（HD15）×２組
はＶ	Ｖ字型プレート（VP）	柱頭共	と	【柱頭】引寄せ金物１５ＫＮ	ぬ	【柱脚】ホールダウン金物１５ＫＮ（HD15）×２組
に	羽子板ボルト（ｽｸﾘｭｰ釘打ち無し）	柱頭共	ち	【柱脚】ホールダウン金物２０ＫＮ（HD20）	ー	特記なき柱符号は【はＴ】又は【はＶ】とする。
ほ	短冊金物（ｽｸﾘｭｰ釘打ち有り）	柱頭共	ち	【柱頭】引寄せ金物２０ＫＮ	Ｓ箱	【柱脚】ステンレス箱金物

構造設計担当者　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	筋交・耐力面材・接合金物平面図	SCALE A3 1/100	No. 25-007 A-19

符号	天井仕上材及び軒裏仕上材	符号	天井仕上材及び軒裏仕上材
Ⓐ	t-12mm杉中杢張り（本実Ｖ溝）・化粧垂木、木材保護塗装	Ⓕ	t-4.0mm天然木化粧合板目透かし張り
Ⓑ	t-6mmケイカル板２重張りの上t-12mm杉中杢板り、木材保護塗装	Ⓖ	t-4.0mmラワン合板（2類）張り
Ⓒ	t-12mm木質木片セメント板張りの上t-12mm杉中杢板り、木材保護塗装 延焼の恐れのある部分（斜線部）軒裏45分準耐火【H12建告1358号】	Ⓗ	鉄骨見え掛かり全て錆止め塗装（A種）の上ＳＯＰ（A種）
Ⓓ	t-9.5mmタイガースクエアトーンＤプラス（910×910）張り	☒	天井点検口（アルミ枠450×450）位置を示す【合計8箇所】
Ⓔ	t-9.5mm石膏ボード張りの上ビニールクロス貼り		

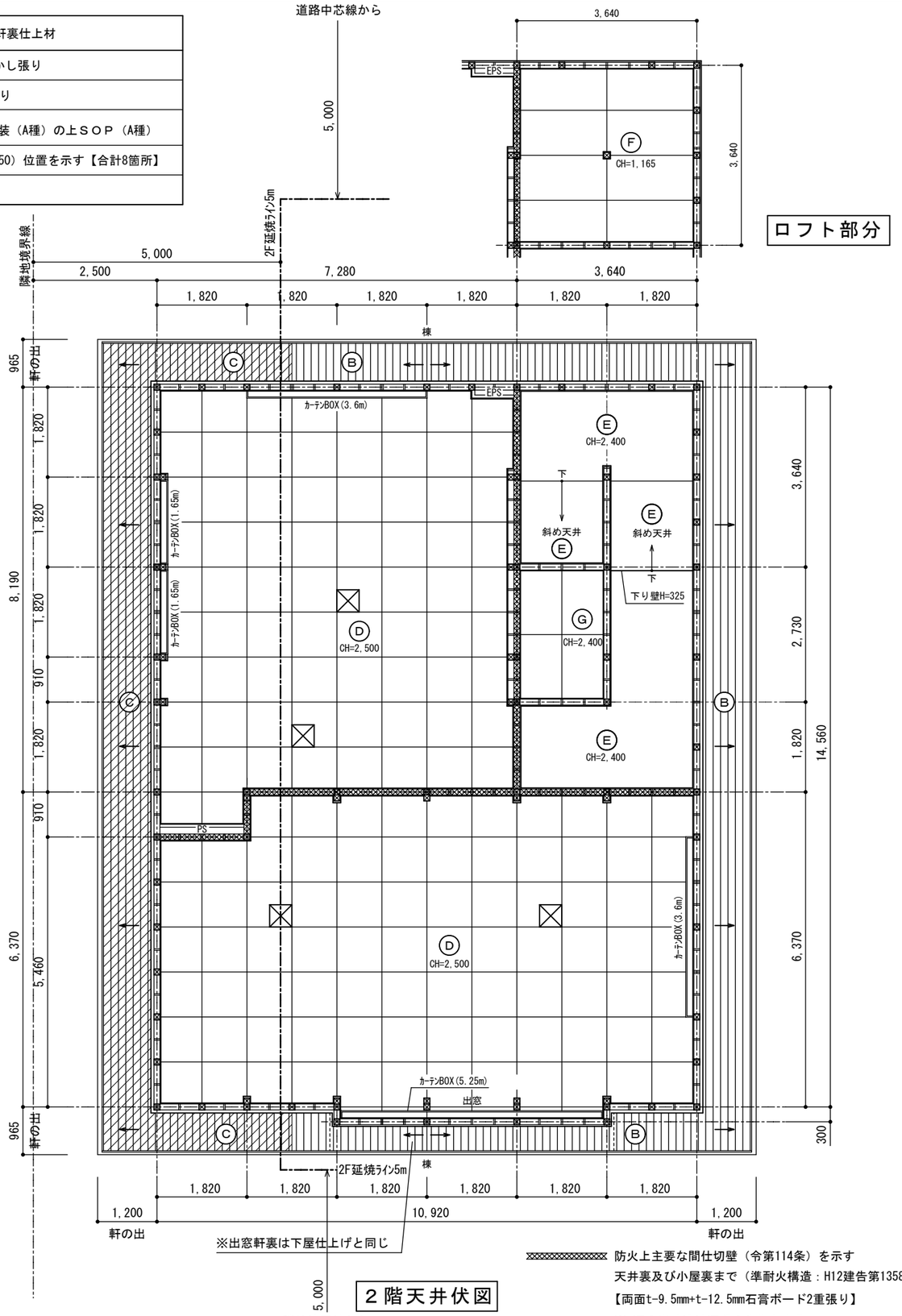


※陸庇軒裏は外壁仕上げと同じ

東下屋

特記なき化粧桁は105×105（ヒノキKD）
化粧火打梁：90×90（ヒノキKD）
化粧タル木：50×105-@455（スギKD）

１階天井伏図

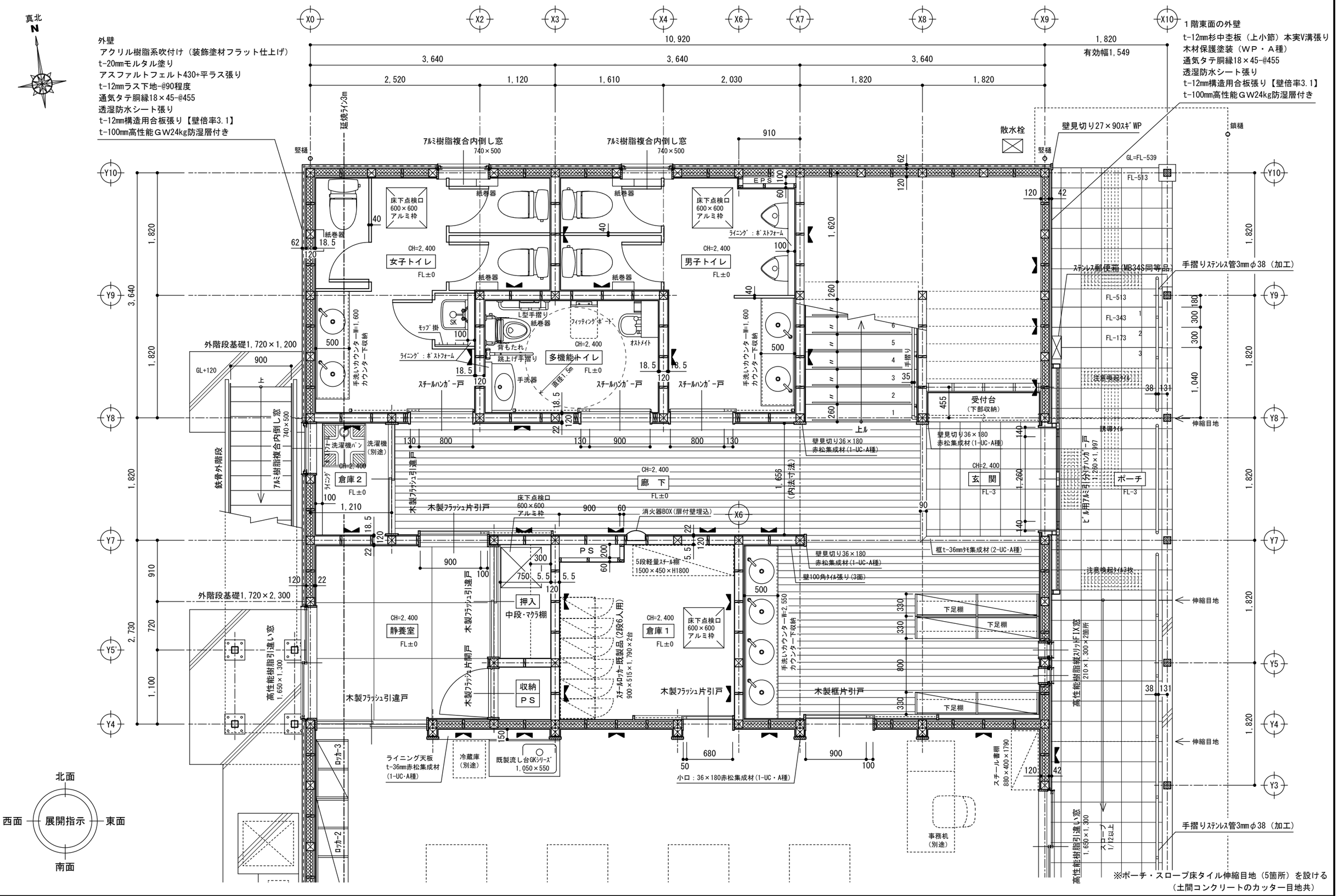


※出窓軒裏は下屋仕上げと同じ

２階天井伏図

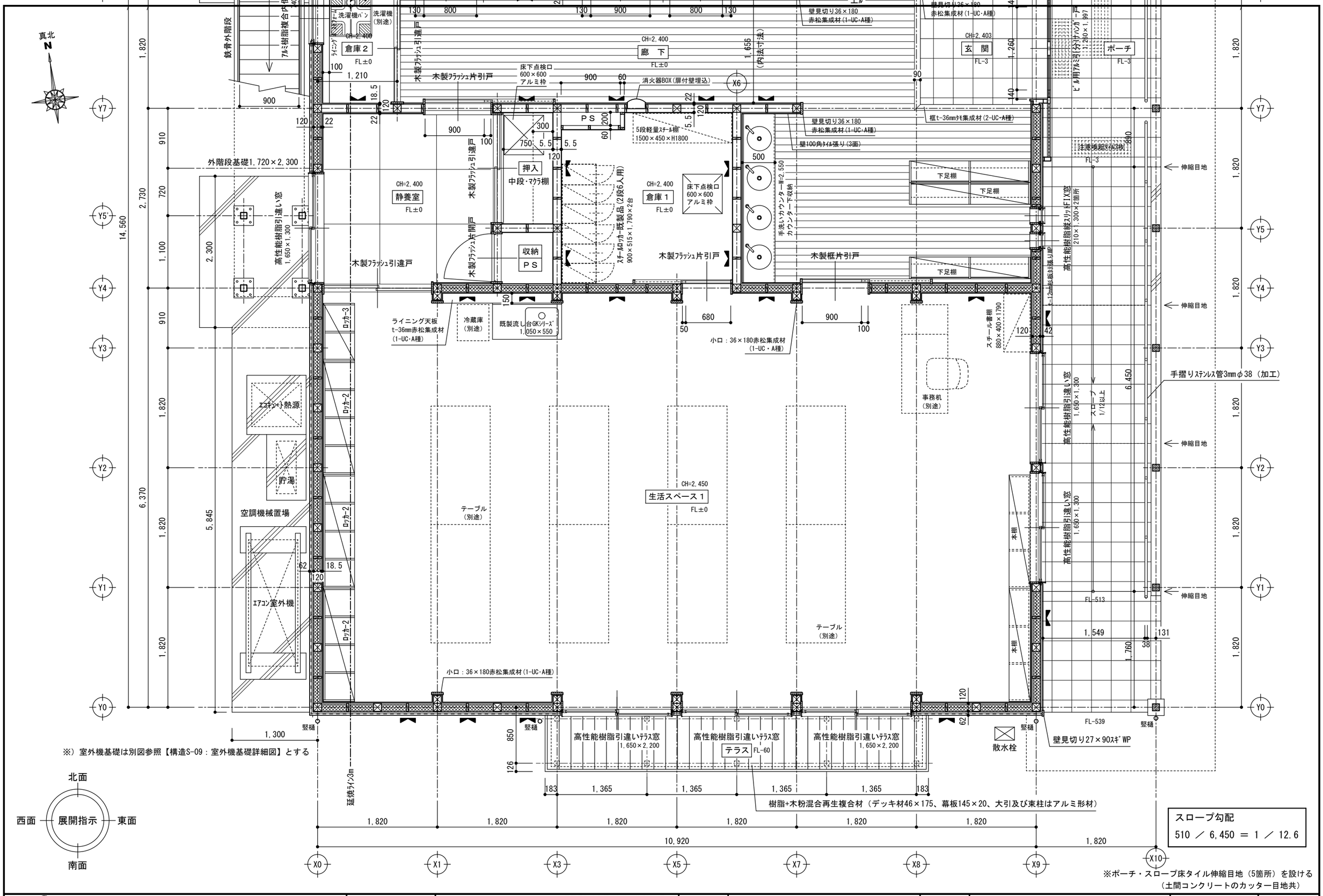
防火上主要な間仕切壁（令第114条）を示す
天井裏及び小屋裏まで（準耐火構造：H12建告第1358号）
【両面t-9.5mm+t-12.5mm石膏ボード2重張り】
※ 軒の出寸法は軒樋の先端とする。

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	１階天井伏図・２階天井伏図	SCALE A3 1/100	No. 25-007 A-20



※ポーチ・スロープ床タイル伸縮目地（5箇所）を設ける
（土間コンクリートのカッター目地共）

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	1階平面詳細図（1）	SCALE A3 1/50 / No. 25-007 A-21

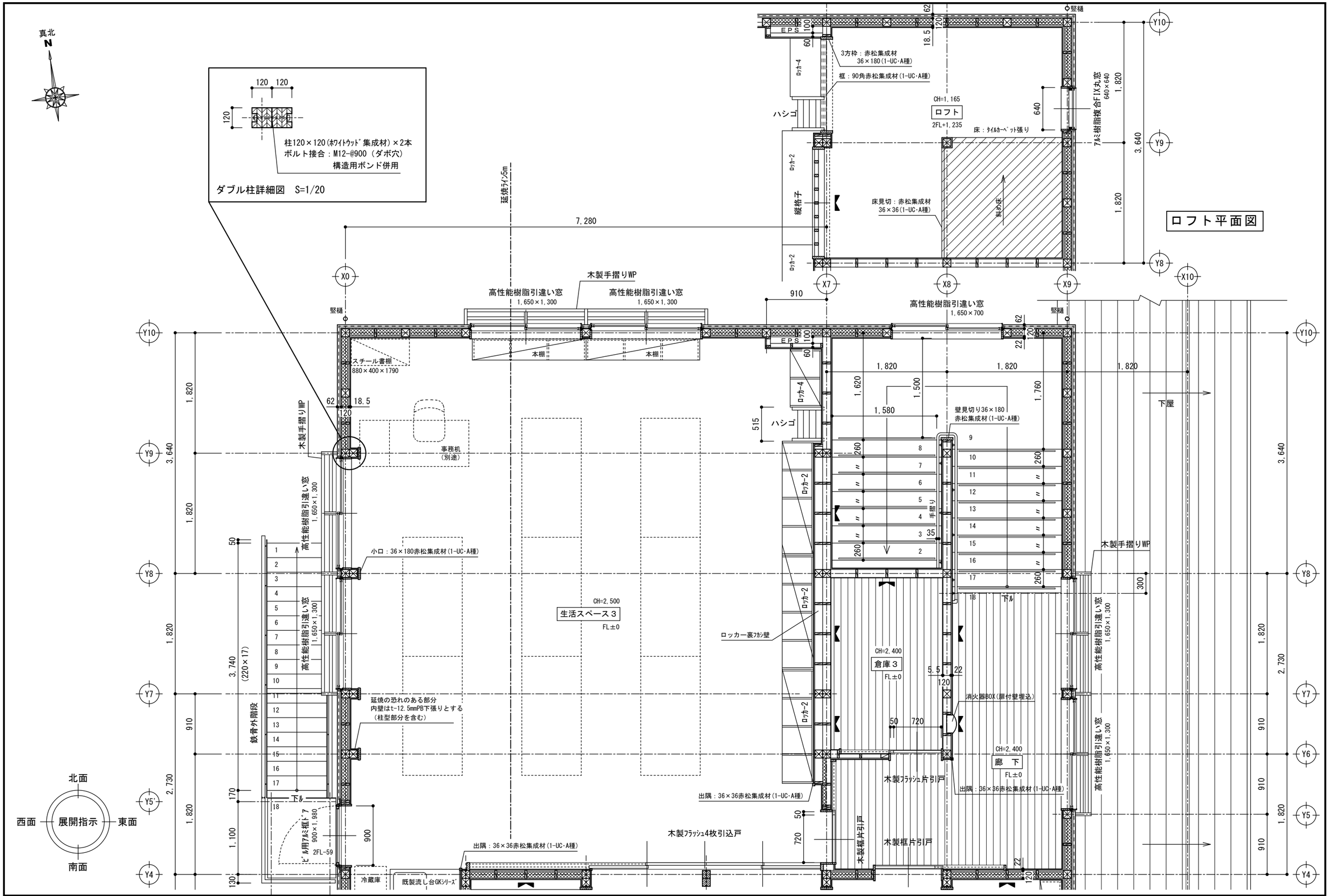


※）室外機基礎は別図参照【構造S-09：室外機基礎詳細図】とする

スロープ勾配
510 ／ 6,450 ＝ 1 ／ 12.6

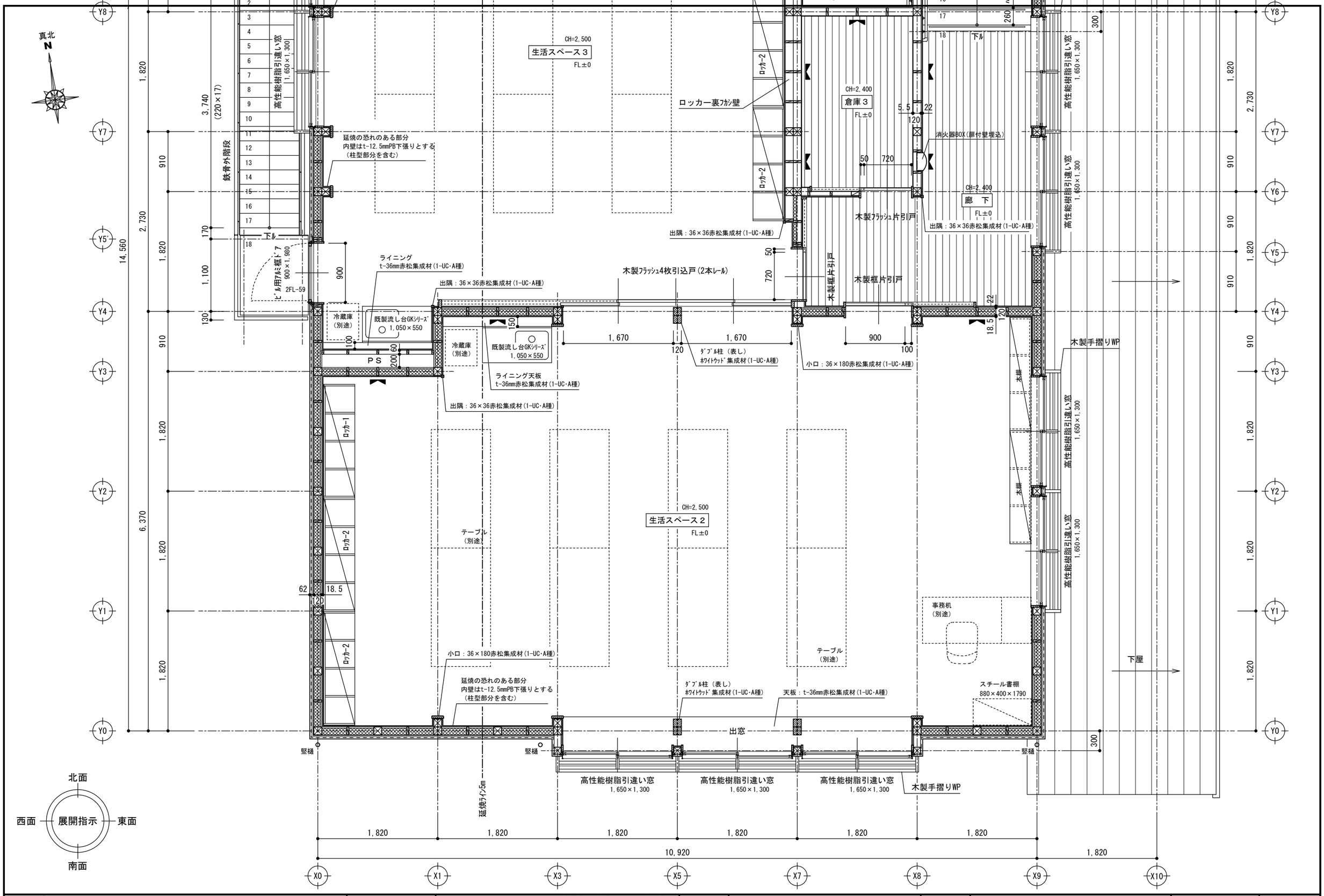
※ポーチ・スロープ床タイル伸縮目地（5箇所）を設ける
（土間コンクリートのカッター目地共）

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	1階平面詳細図（2）	SCALE A3 1/50	No. 25-007 A-22

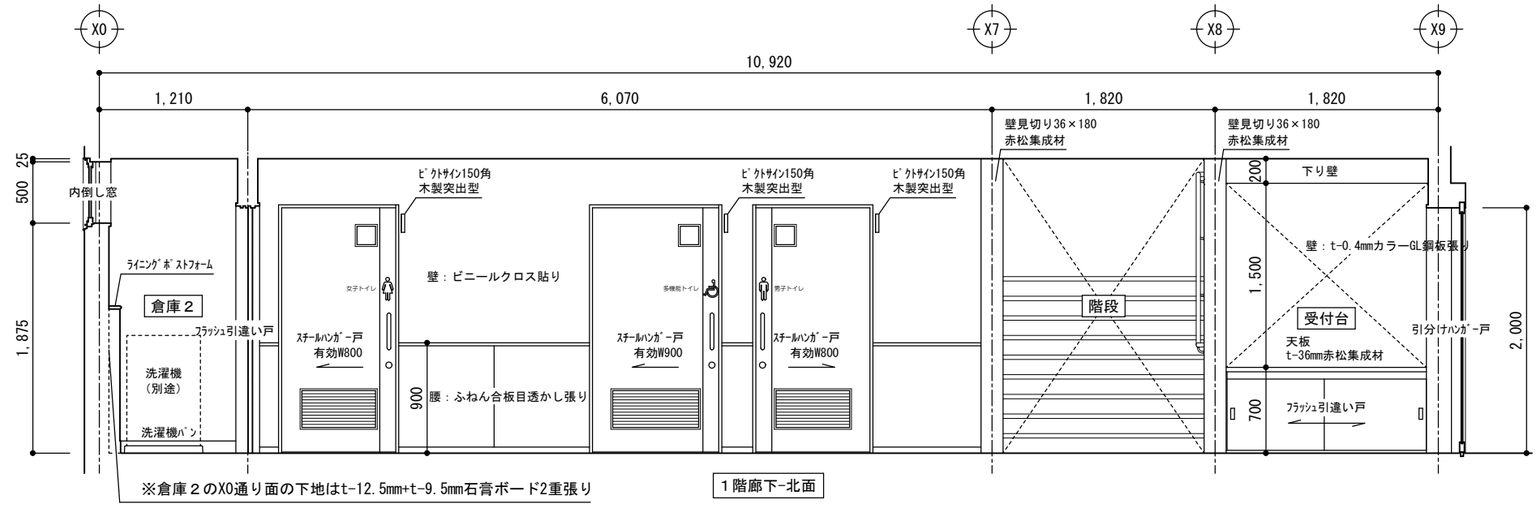


上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住 所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図 名	2階平面詳細図（1）

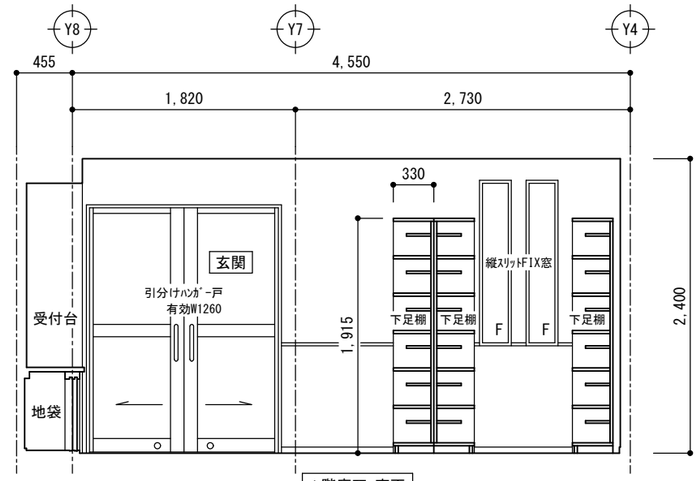
SCALE	No.
A3 1/50	25-007 A-23



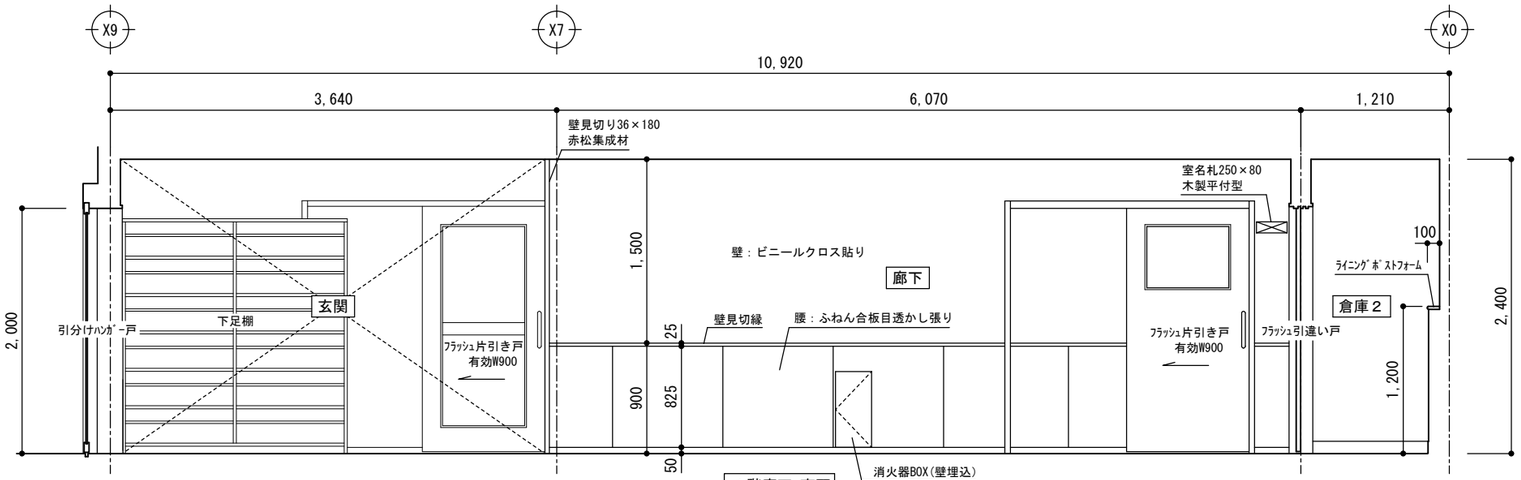
上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図 名	２階平面詳細図（2）	SCALE A3 1/50	No. 25-007 A-24



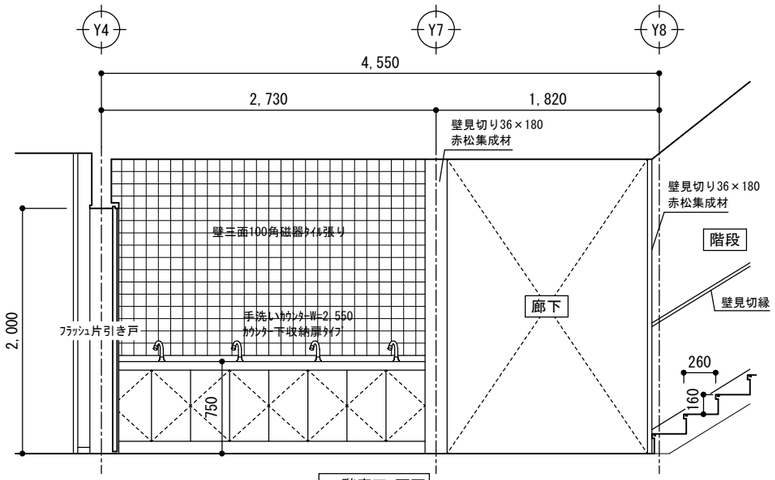
1階廊下-北面



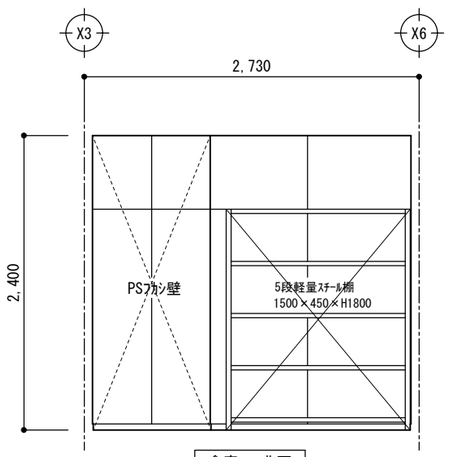
1階廊下-東面



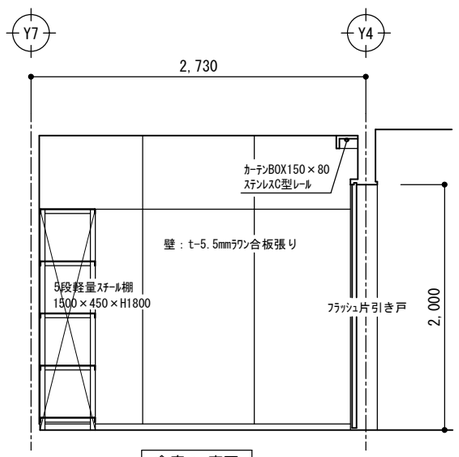
1階廊下-南面



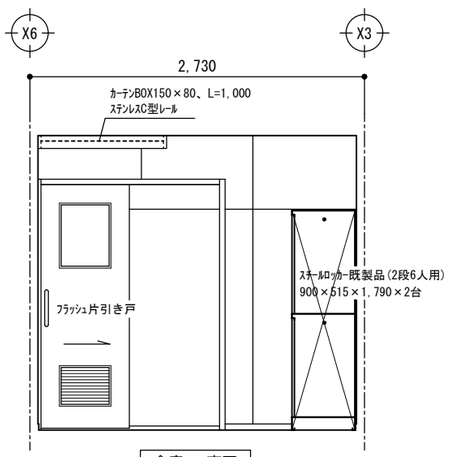
1階廊下-西面



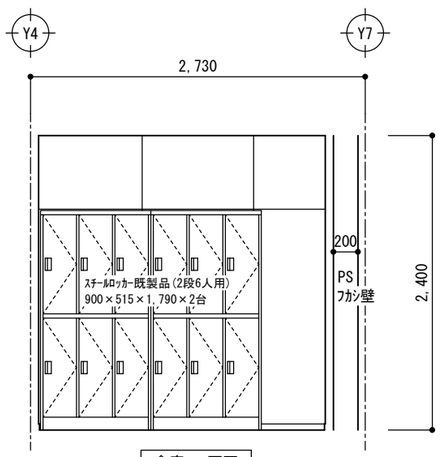
倉庫１-北面



倉庫１-東面

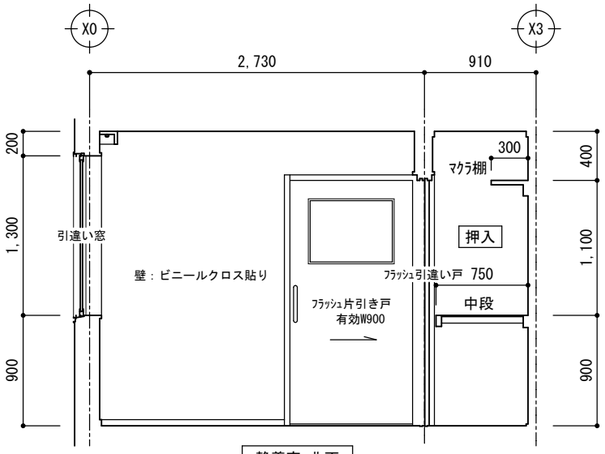


倉庫１-南面

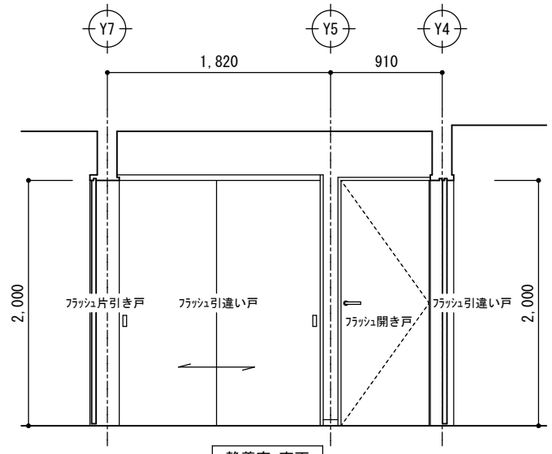


倉庫１-西面

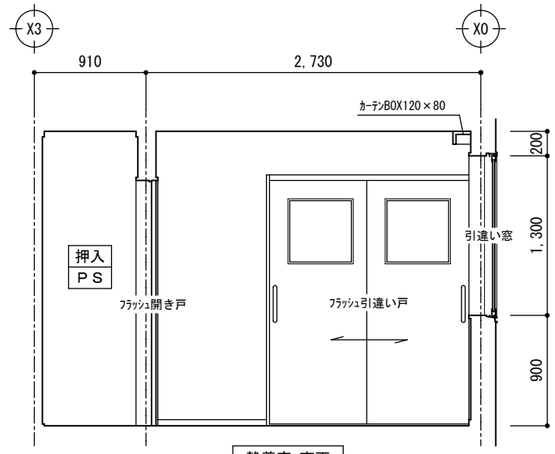
上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	1階展開図（1）	SCALE A3 1/50	No. 25-007 A-25



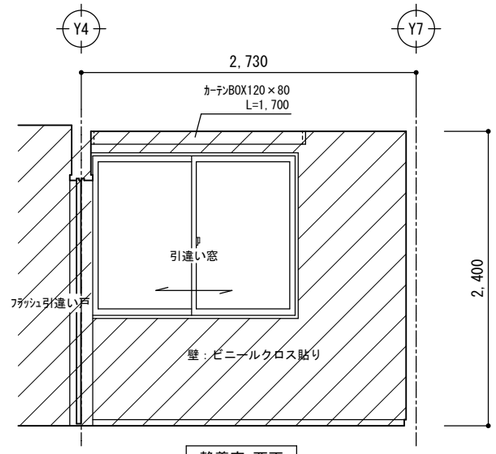
静養室-北面



静養室-東面

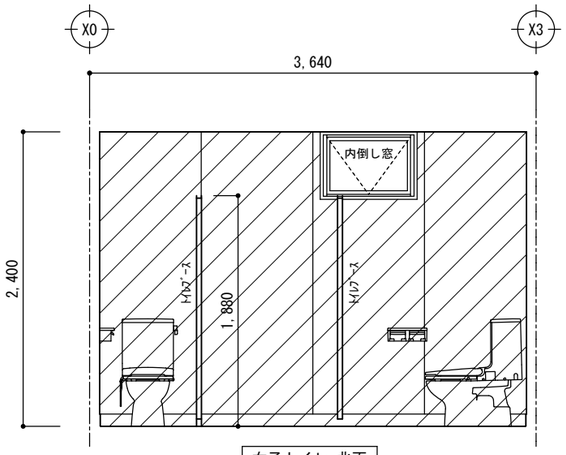


静養室-南面



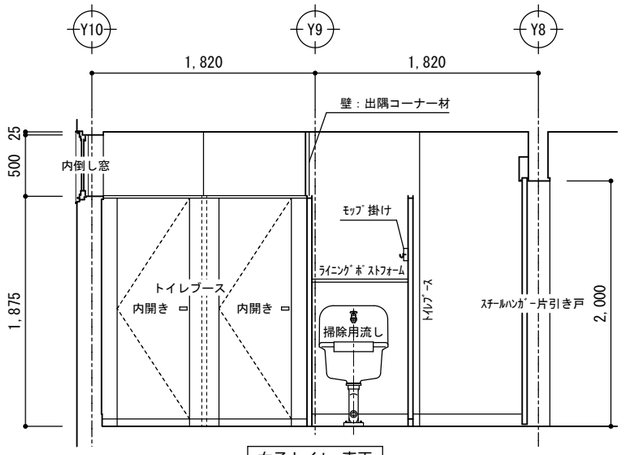
静養室-西面

※斜線部分の下地はt-12.5mm+t-9.5mm石膏ボード2重張り

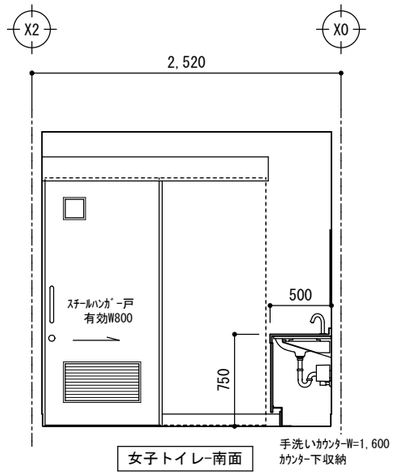


女子トイレ-北面

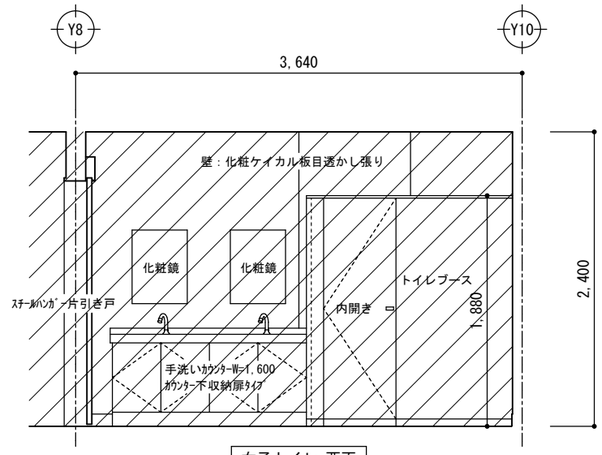
※斜線部分の下地はt-12.5mm+t-9.5mm石膏ボード2重張り



女子トイレ-東面

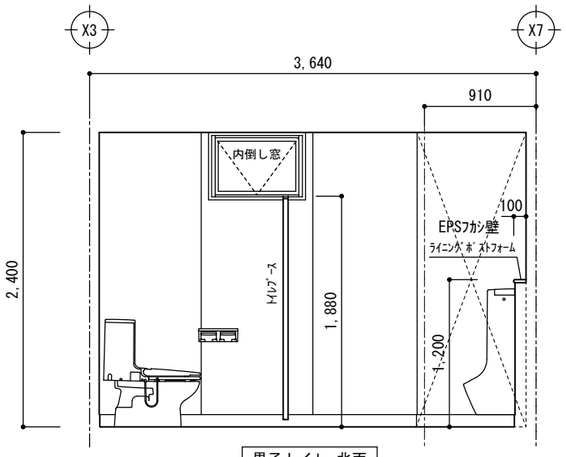


女子トイレ-南面

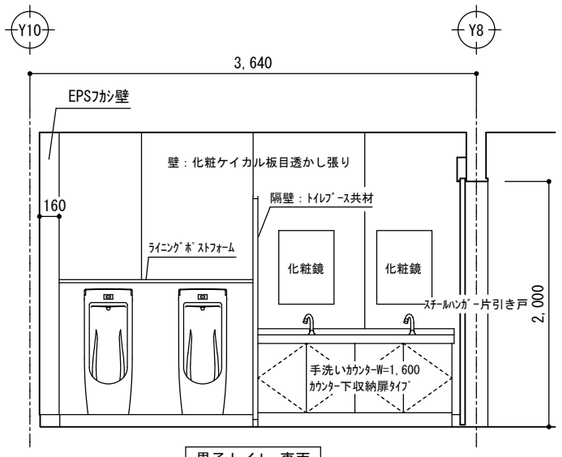


女子トイレ-西面

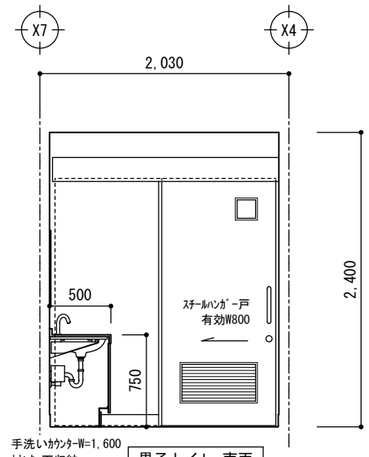
※斜線部分の下地はt-12.5mm+t-9.5mm石膏ボード2重張り



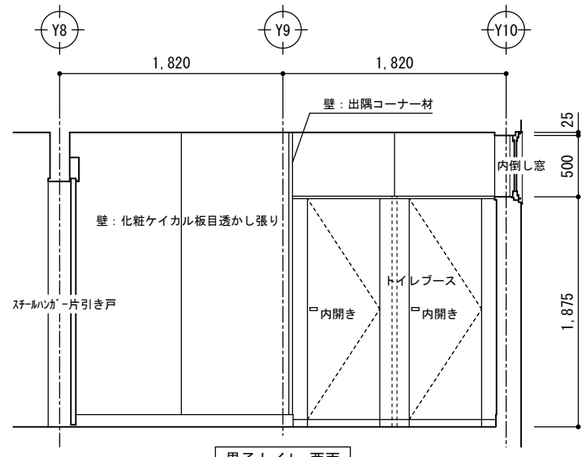
男子トイレ-北面



男子トイレ-東面

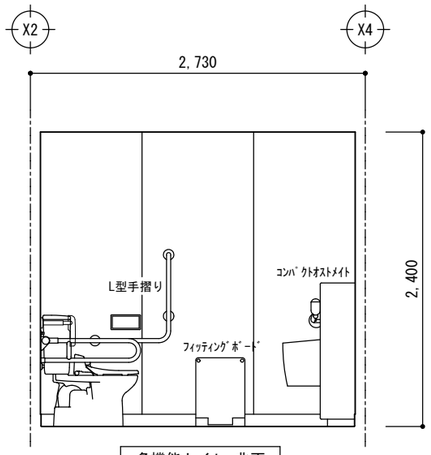


男子トイレ-南面

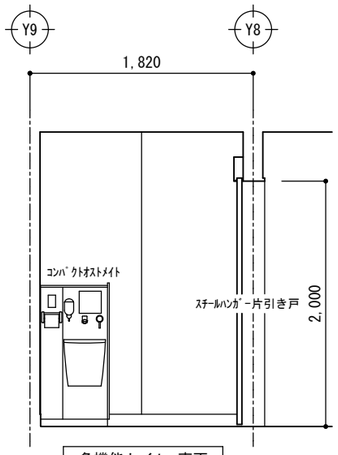


男子トイレ-西面

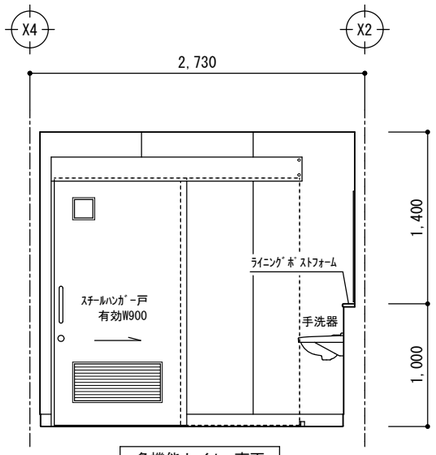
上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	1階展開図（2）	SCALE A3 1/50	No. 25-007 A-26



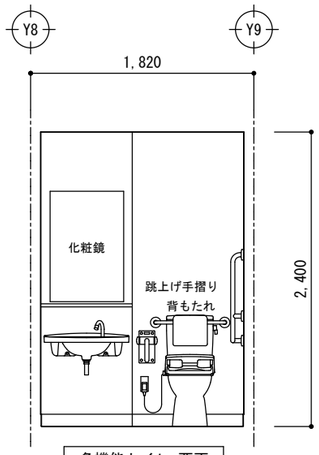
多機能トイレ-北面



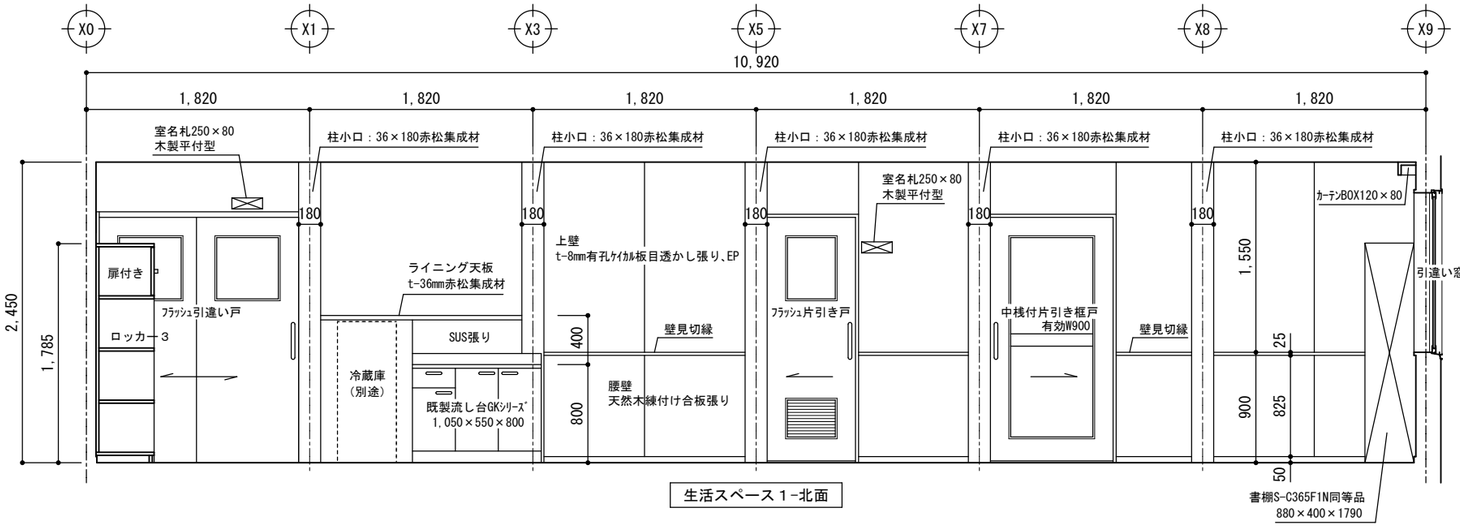
多機能トイレ-東面



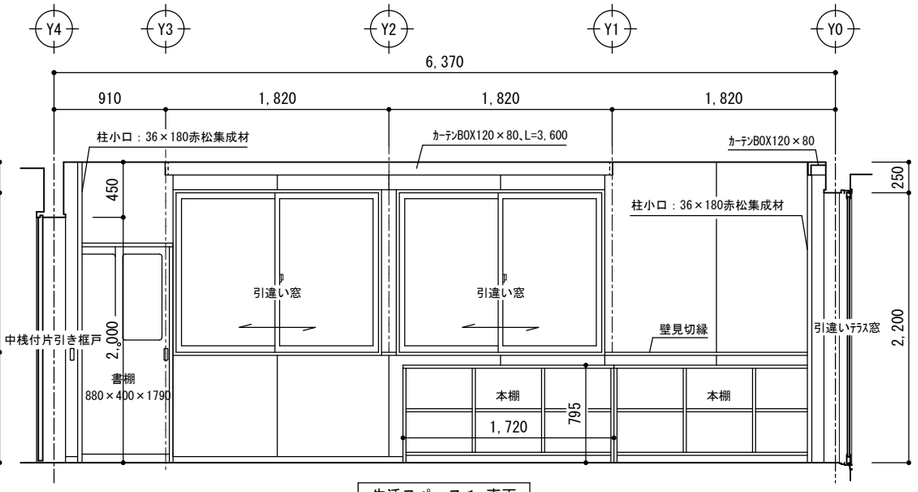
多機能トイレ-南面



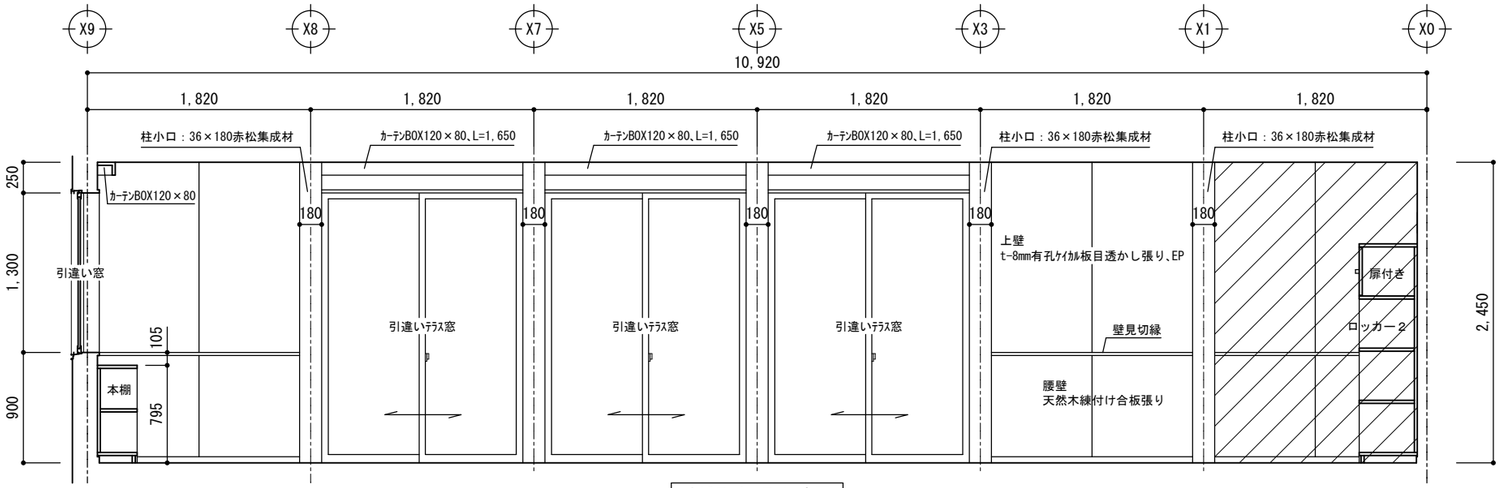
多機能トイレ-西面



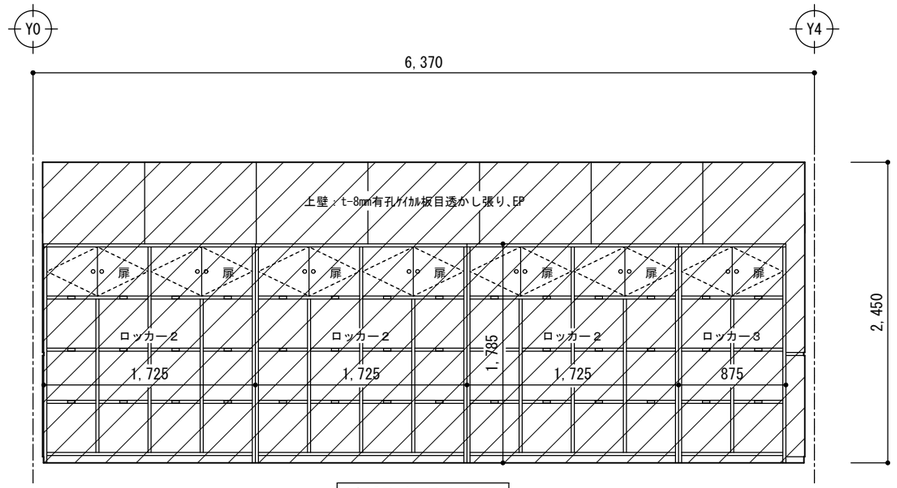
生活スペース１-北面



生活スペース１-東面

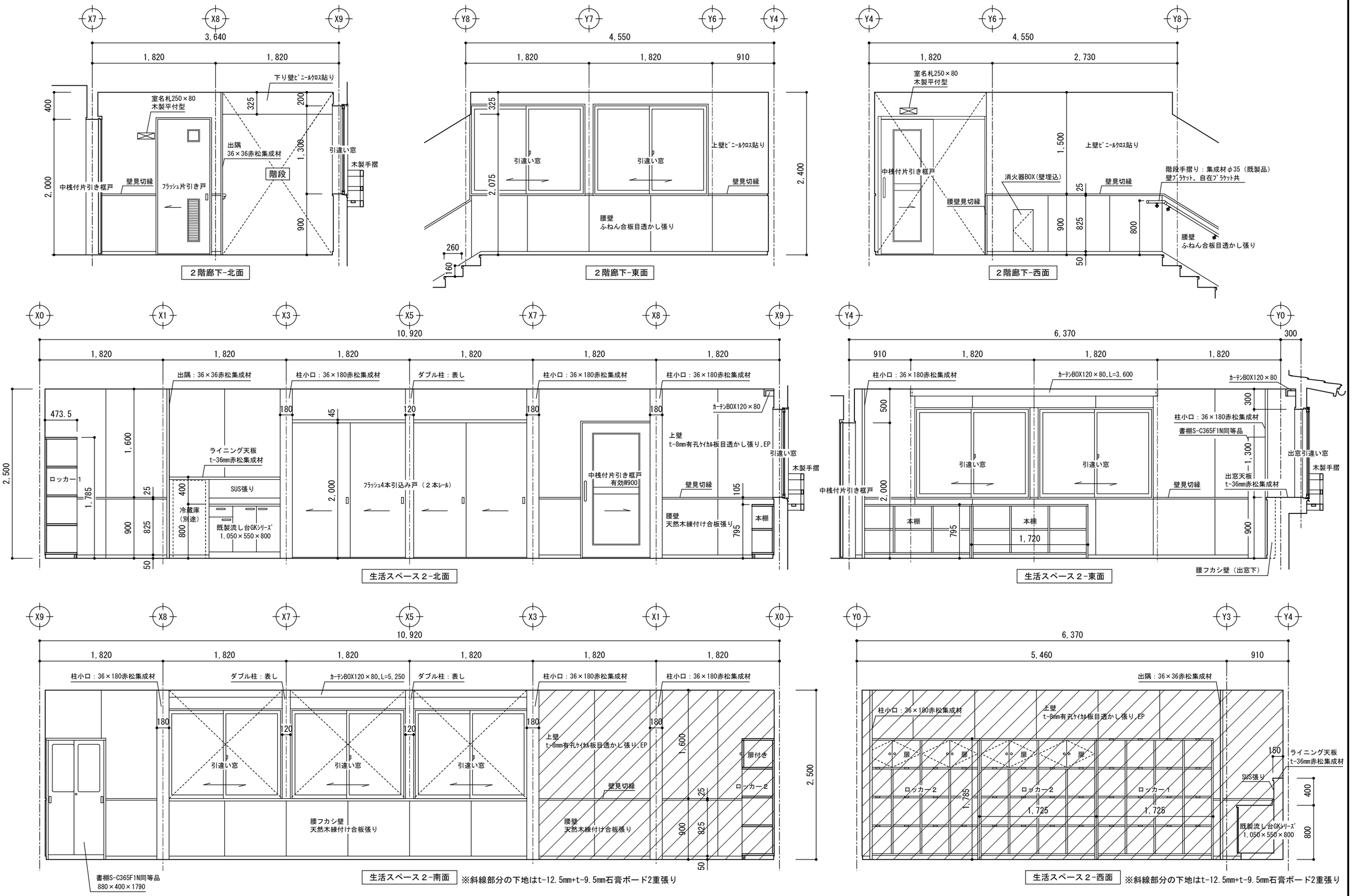


生活スペース１-南面 ※斜線部分の下地はt-12.5mm+t-9.5mm石膏ボード2重張り

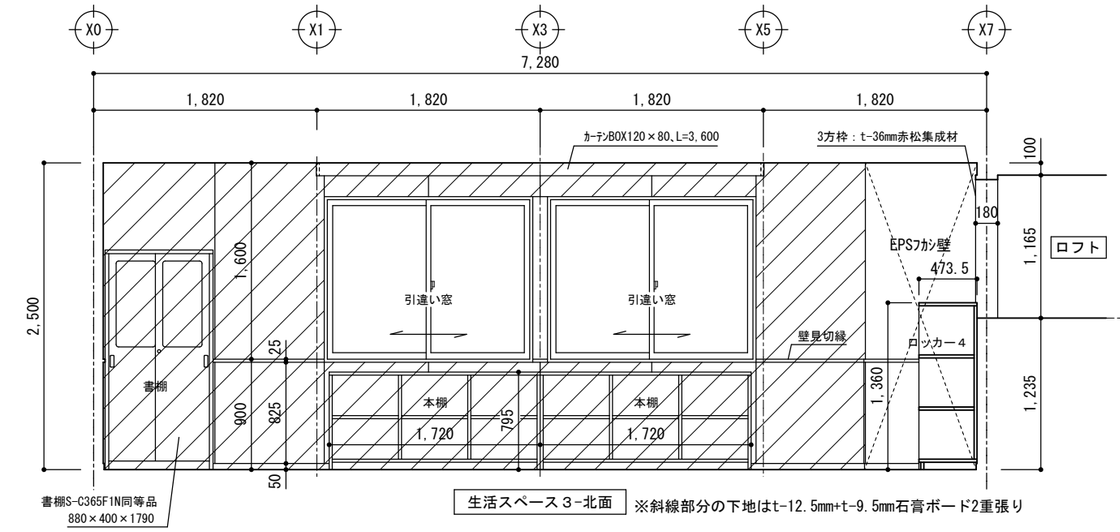


生活スペース１-西面 ※斜線部分の下地はt-12.5mm+t-9.5mm石膏ボード2重張り

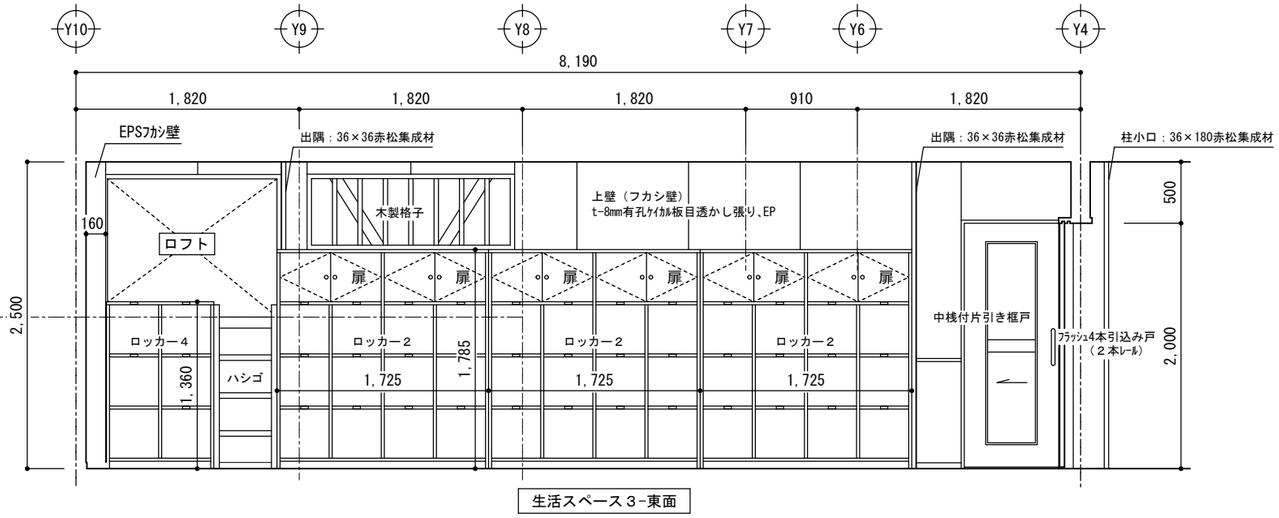
上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	１階展開図（３）	SCALE A3 1/50	No. 25-007 A-27



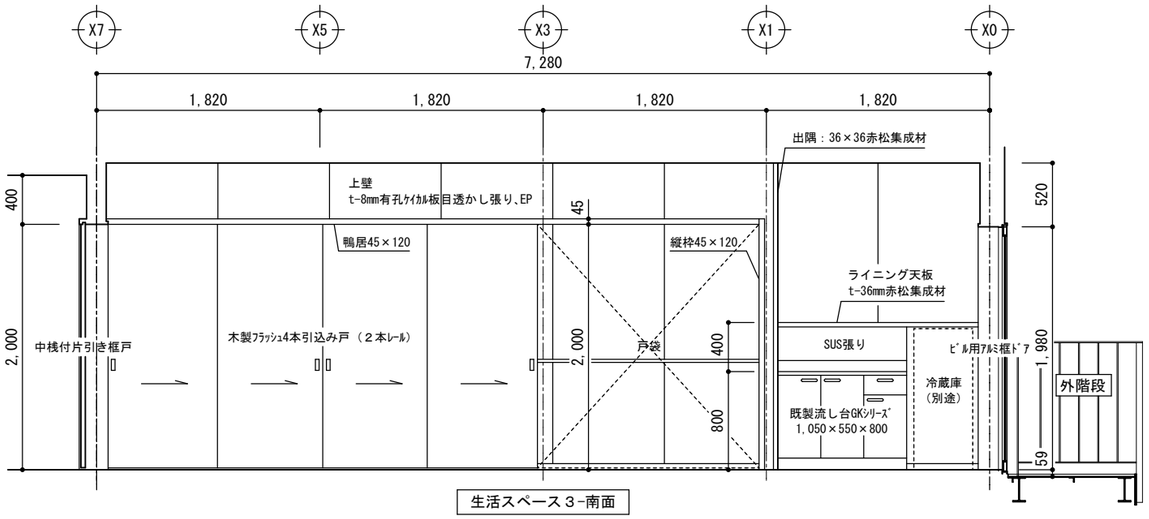
上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	２階展開図（１）	SCALE A3 1/50 / No. 25-007 A-28



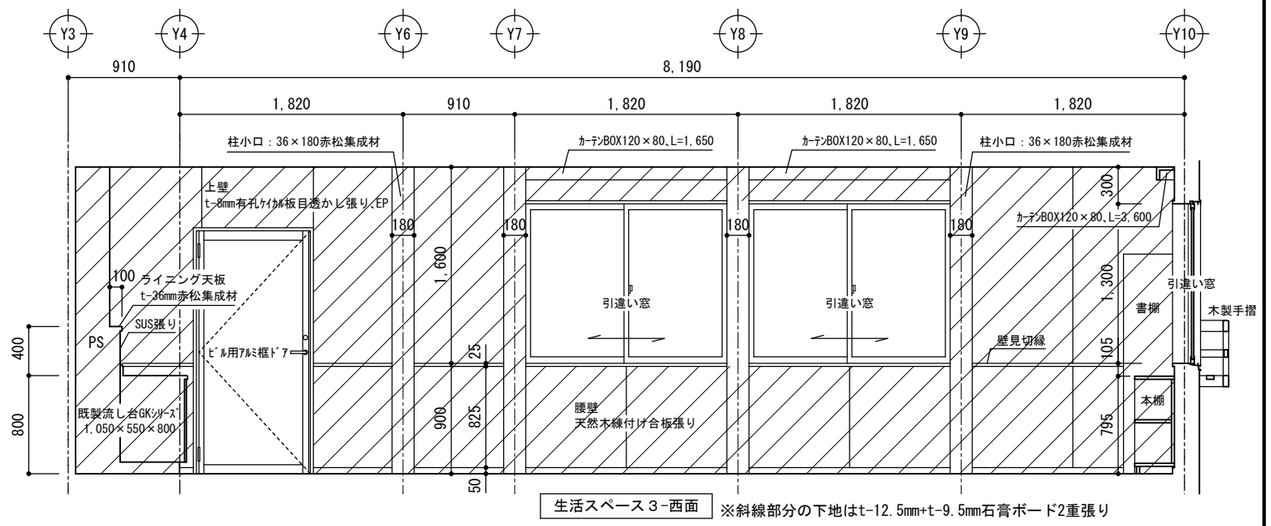
生活スペース３-北面　※斜線部分の下地はt-12.5mm+t-9.5mm石膏ボード2重張り



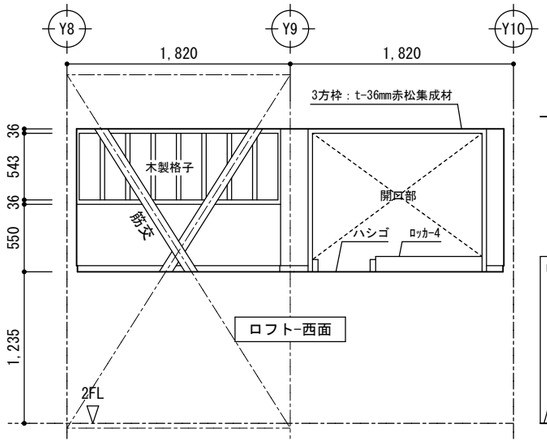
生活スペース３-東面



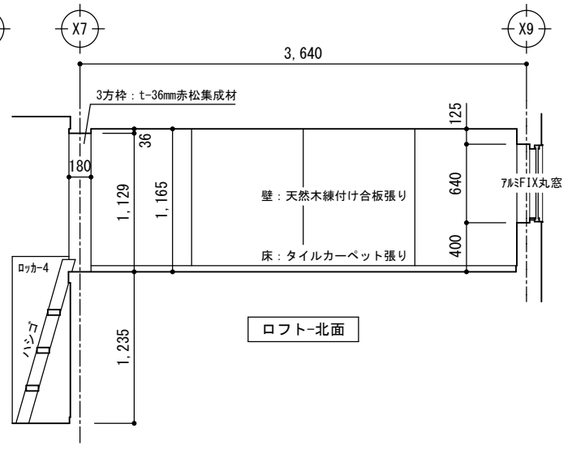
生活スペース３-南面



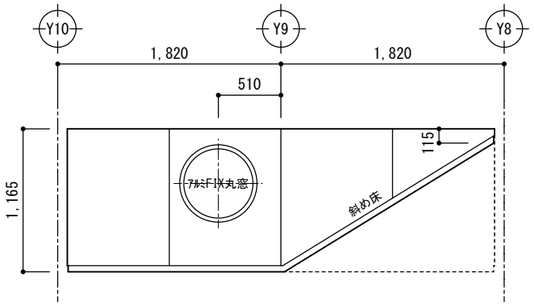
生活スペース３-西面　※斜線部分の下地はt-12.5mm+t-9.5mm石膏ボード2重張り



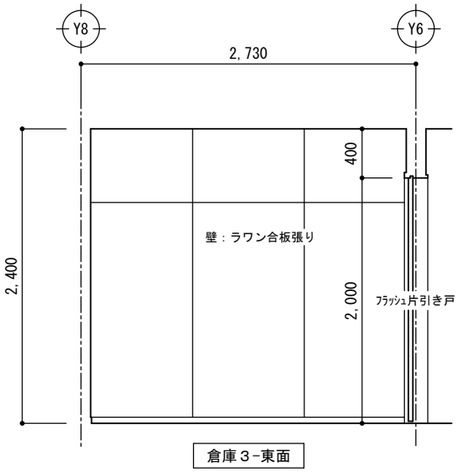
ロフト-西面



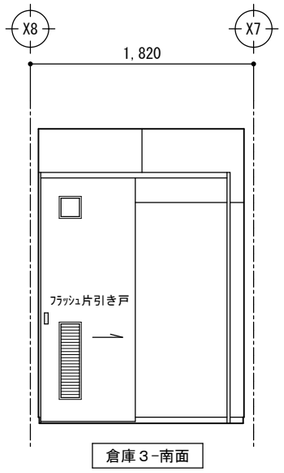
ロフト-北面



ロフト-東面

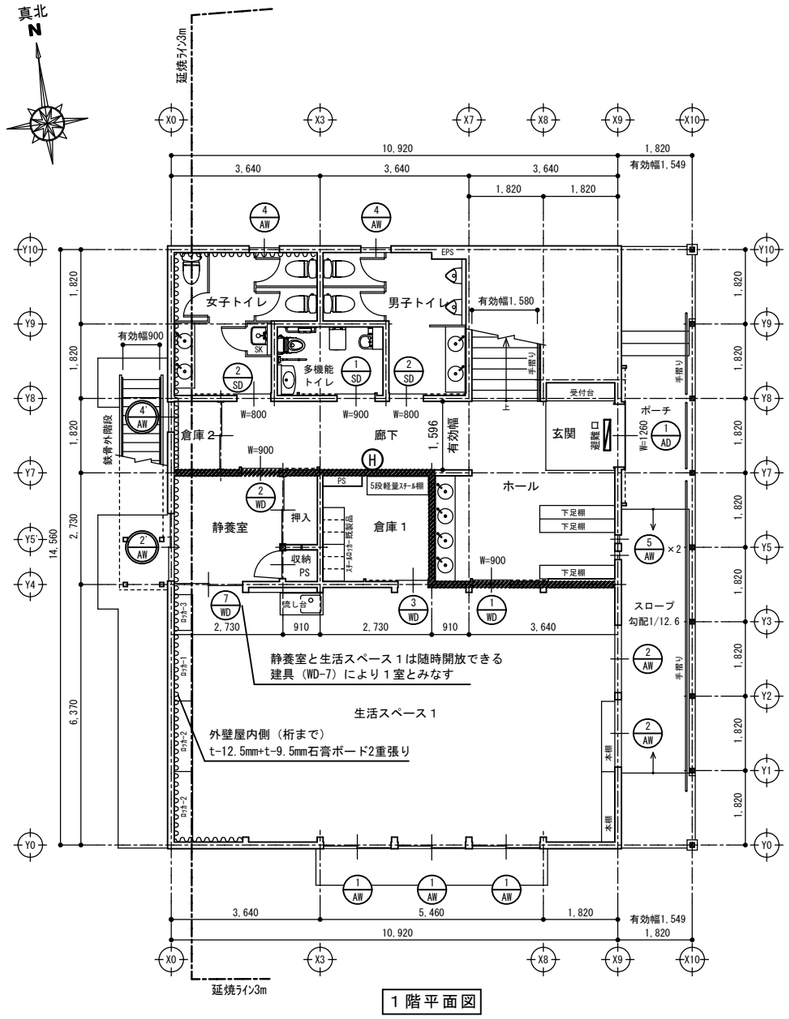


倉庫３-東面



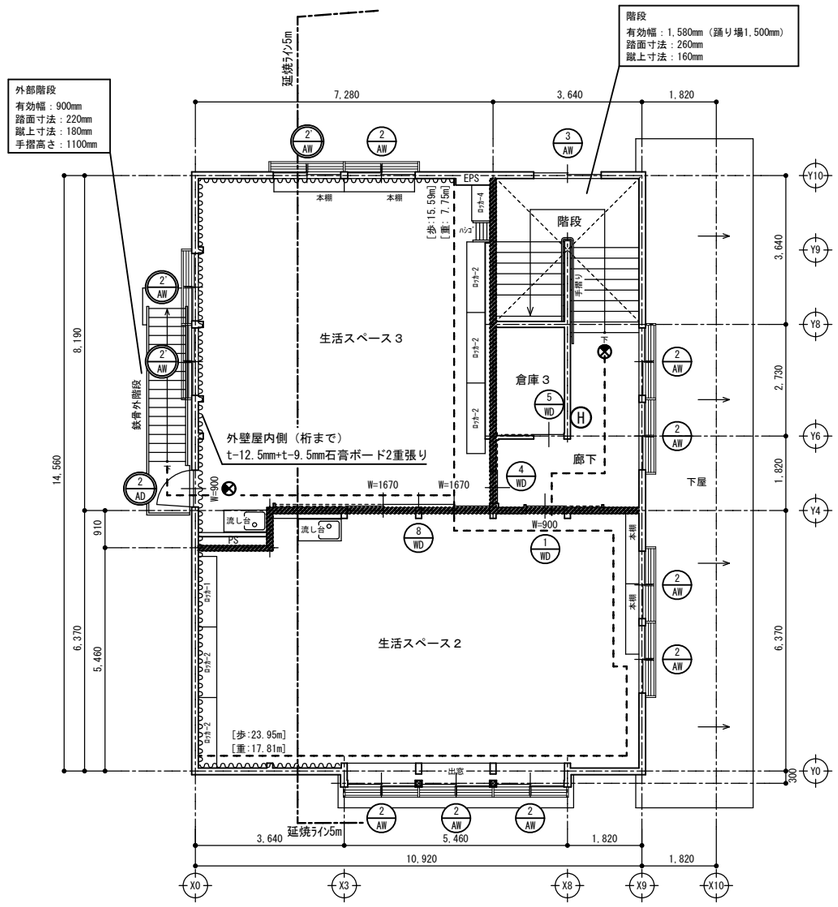
倉庫３-南面

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	２階展開図（２）	SCALE A3 1/50	No. 25-007 A-29



１階平面図

※ 火気使用室なし



２階平面図

※ 火気使用室なし

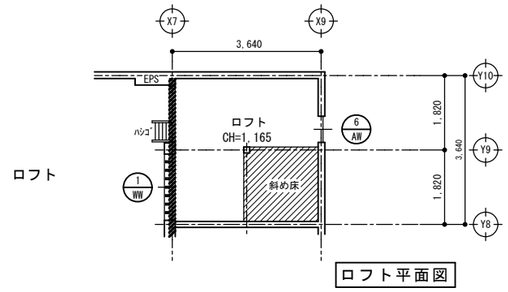
●県条例第13条、第26条

１階廊下の有効幅の算定

柱（120mm）・両側壁下地石膏ボード(12.5mm+9.5mm=22mm）・両側腰壁見切り(30mm)

1,820 － 120 － 44 － 60 ＝ 1,596mm

1,596mm ＜ 1,600mm　なのでAD-1の有効幅は1,200以上あれば足りる。【1,260でOK】



ロフト平面図

※ 階数・面積には含めない

●法28条の2

「シックハウス対策」にかかる規制対象材料については

全て［Ｆ☆☆☆☆］品とする。

（接着剤・塗料・下地材　等　含む）

※天井裏等の使用材料（規制対象）も同様

※製作家具・既製家具についても同様

※断熱材についても同様

●延焼の恐れのある部分の外壁及び軒裏の防火構造

外壁屋外側：t-20mmラスモルタル塗り、外壁屋内側：t-12.5mm+t-9.5mm石膏ボード2重張り

【H12建告第1359号】　【H12建告第1358号】

※外壁屋内側妻壁部分は垂木の下部まで立ち上げる。

軒裏：t-12mm木質木片セメント板張りの上、t-12mm杉板張り木材保護塗装

【45分準耐火：H12建告第1358号】

防火上主要な間仕切壁（令第114条）を示す

天井裏及び小屋裏まで（準耐火構造：H12建告第1358号）

【両面t-12.5mm+t-9.5mm石膏ボード2重張り】

令109条の2に適合する防火設備を示す

消火器（壁埋込BOX共）位置を示す

誘導灯の位置を示す（電気設備）

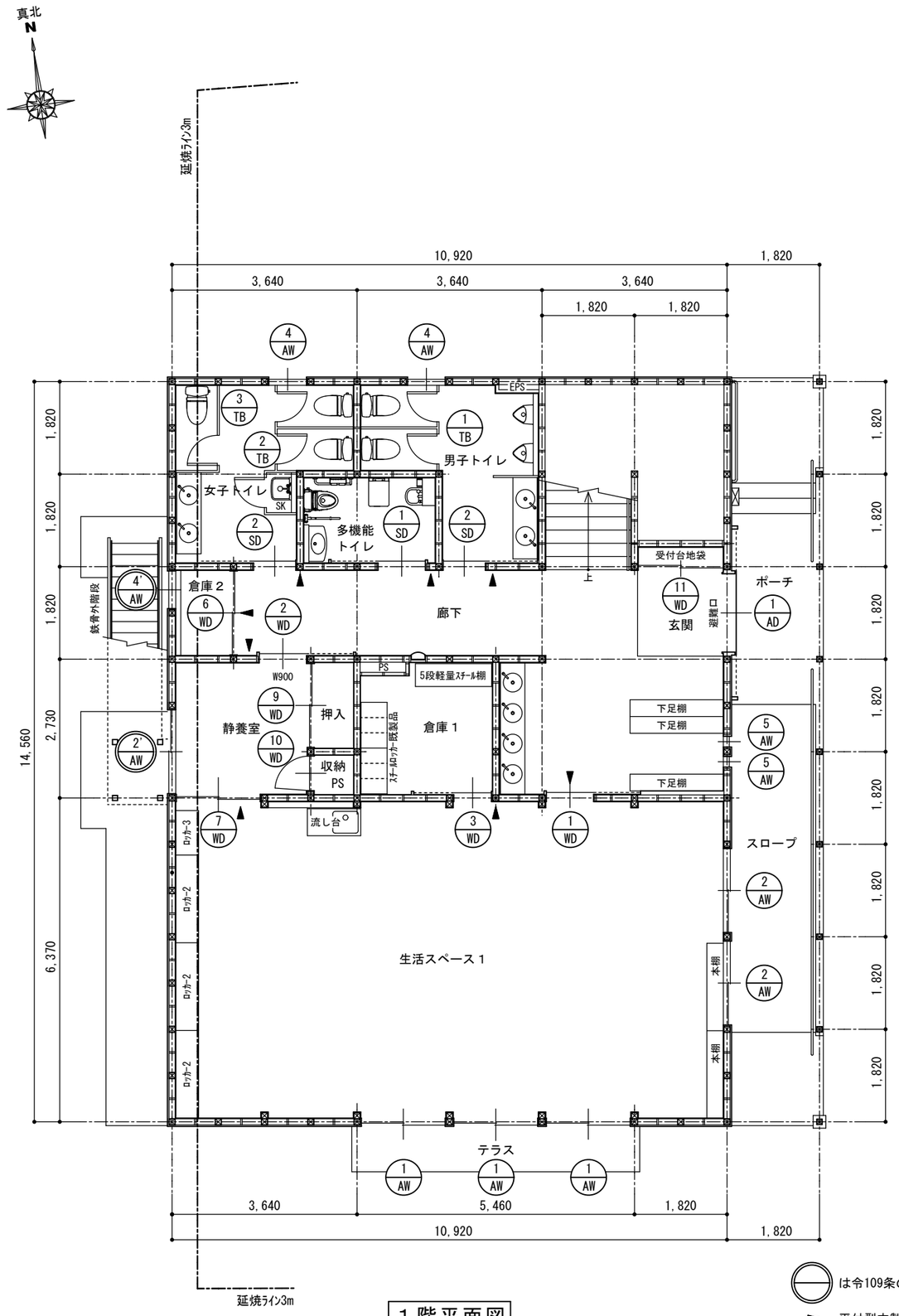
避難口・誘導標識の位置を示す（電気設備）

室　名	床面積	必要開口面積	計　算　式	有効開口面積
生活スペース１(CH=2,450)　及び、静養室(CH=2,400)				
		※WD-7の有効開口(1.625) ≧ 静養室の間口(2.730)/2 の為、1室とみなす		
		※各室面積求積図参照		
	S= 77.01		(69.56＋7.45)	
		1/7S = 11.001	南面 AW-1 採光補正係数:	
			(6.160-0.965)/6.0×6.0-1.4＝3.794 → 3	
			AW-1 1.650×2.20×3×3ヶ所＝32.67	32.67 O.K
		1/50S = 1.541	AW-1 (1.650/2)×0.55×3ヶ所＝1.361	
			AW-2 (1.650/2)×0.55×2ヶ所＝0.907	2.268 O.K
		1/20SB = 3.851	AW-1 (1.650/2)×2.20×3ヶ所＝5.445	5.445 O.K
		採光補正係数＝水平距離／垂直距離×６(住居系地域)-1.4		
		※　採光補正係数の計算根拠は別図参照による		

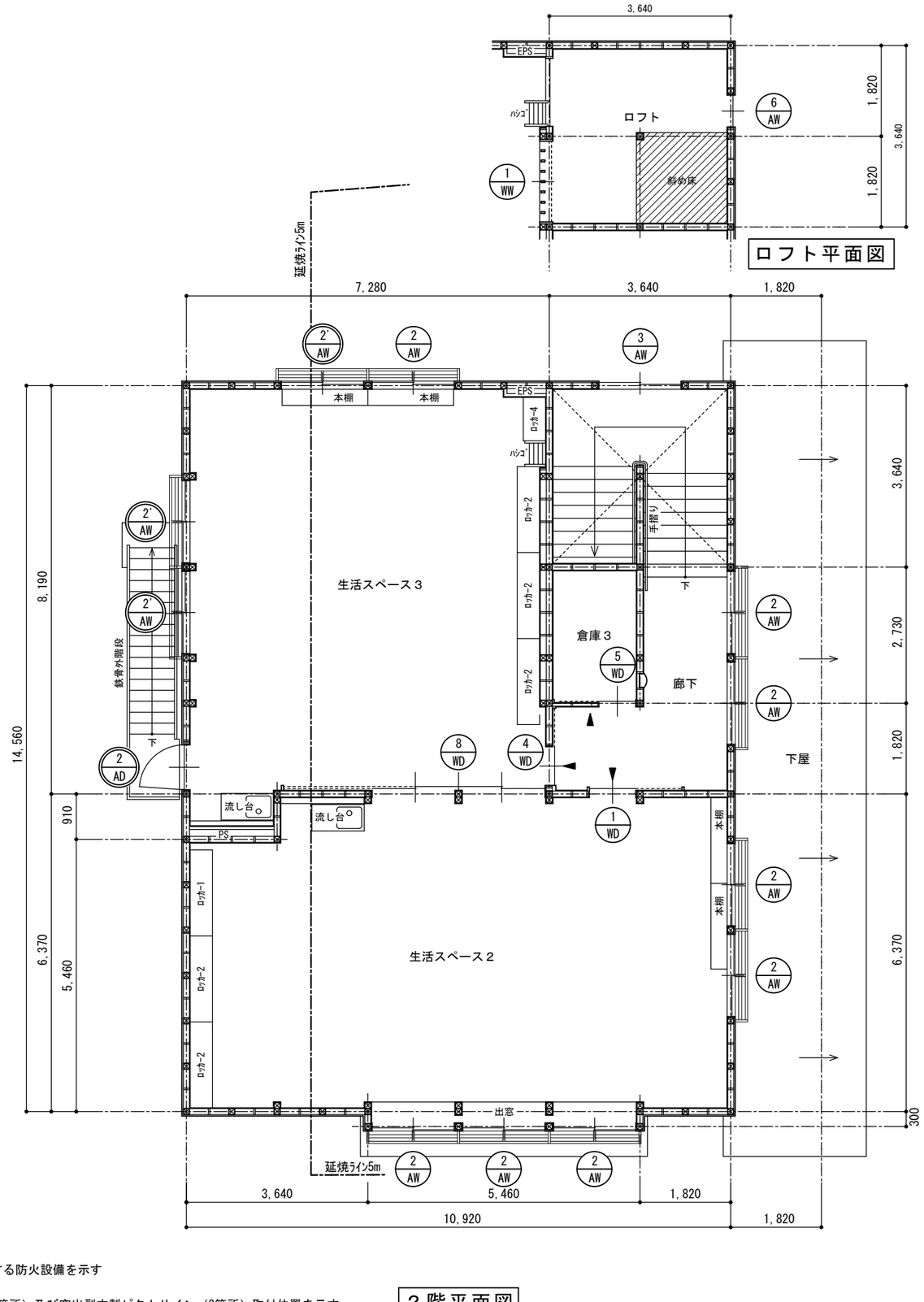
室　名	床面積	必要開口面積	計　算　式	有効開口面積
生活スペース２	S= 67.90		※各室面積求積図参照	
(CH=2,500)		1/7S = 9.70	東面 AW-2 採光補正係数:	
			(14.760-1.20)/1.360×6.0-1.4＝58.423 → 3	
			AW-2 1.650×1.30×3×2ヶ所＝12.870	12.870 O.K
		1/50S = 1.36	AW-2 (1.650/2)×0.50×5ヶ所＝2.062	2.062 O.K
		1/20SB = 3.40	AW-2 (1.650/2)×1.30×5ヶ所＝5.362	5.362 O.K
生活スペース３	S= 61.28		※各室面積求積図参照	
(CH=2,500)		1/7S = 8.75	北面 AW-2･AW-2' 採光補正係数:	
			(11.320-0.965)/2.672×6.0-1.4＝21.852 → 3	
			AW-2･AW-2' 1.650×1.30×3×2ヶ所＝12.870	12.870 O.K
		1/50S = 1.23	AW-2･AW-2' 1.650×1.30×3×2ヶ所＝12.870	
			AW-2' (1.650/2)×0.50×2ヶ所＝0.825	1.650 O.K
		1/20SB = 3.06	AW-2 (1.650/2)×1.30×2ヶ所＝2.145	
			AW-2' (1.650/2)×1.30×2ヶ所＝2.145	4.290 O.K
		採光補正係数＝水平距離／垂直距離 × 6 － 1.4(住居系地域)		
		※　採光補正係数の計算根拠は別図参照による		

室　名	床面積	必要開口面積	計　算　式	有効開口面積
1階	S= 159.0		(10.92×14.56)	
		1/30S = 5.30	AW-1 (1.650/2)×2.20×3ヶ所＝5.445	5.445 O.K
2階	S= 159.0		(10.92×14.56)	
		1/30S = 5.30	AW-2（手摺り設置により有効開口不可）	ＮＧ（※）
			（※）２階に誘導灯を設置する。	
－凡例－				
(各階共通)				
	1/50S	令116条の2　1項2号　無窓居室の検討　・　令126条の2，3　排煙設備自然排煙口の検討		
	1/20SA	令116条の2　1項1号　，　令111条　1項1号　無窓居室の検討		
		※ 1/20SB（自然換気検討）が O.K. の場合は検討を省略する		
	1/20SB	法28条　2項　居室の換気の検討		
	1/30S	消防法上の無窓階の検討		

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	法規チェック平面図	SCALE A3 1/150	No. 25-007 A-30



１階平面図

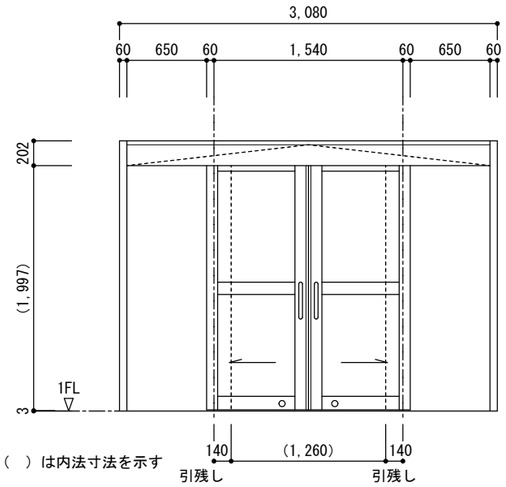
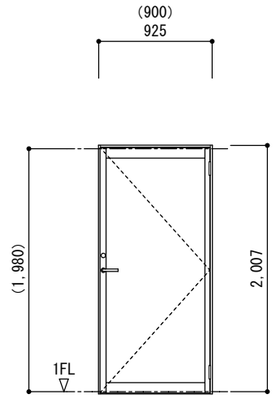
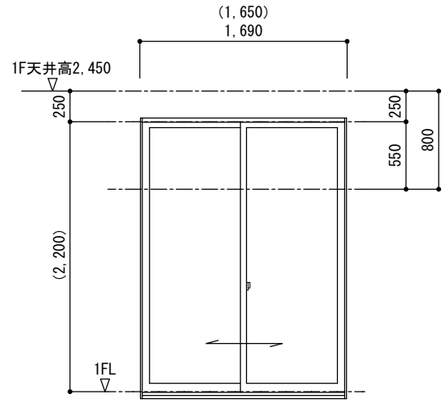


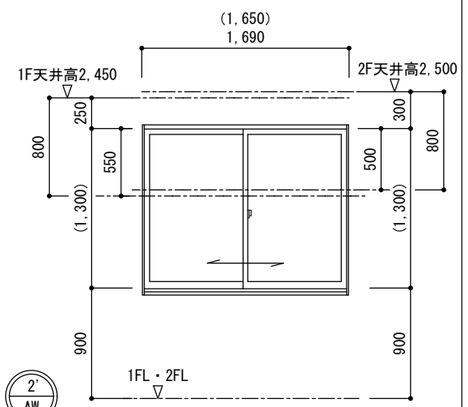
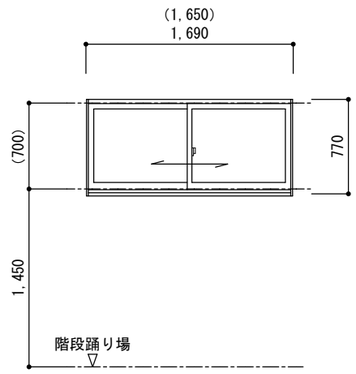
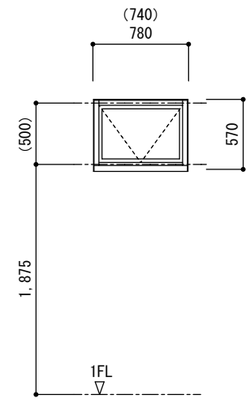
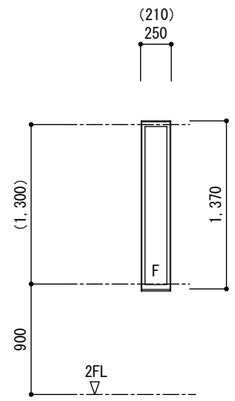
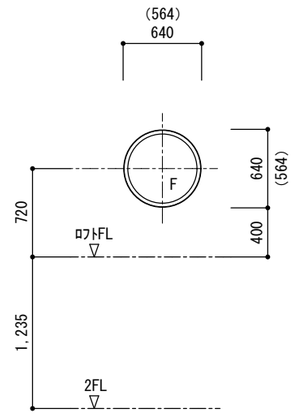
２階平面図

は令109条の2に適合する防火設備を示す

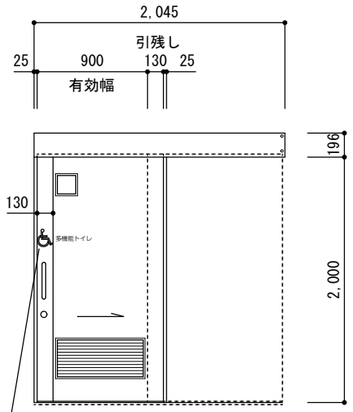
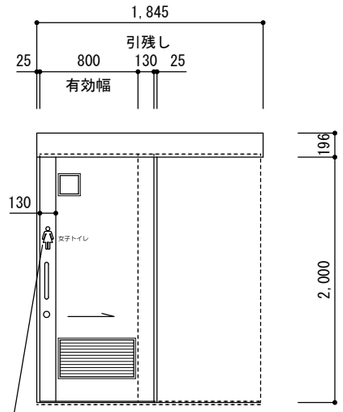
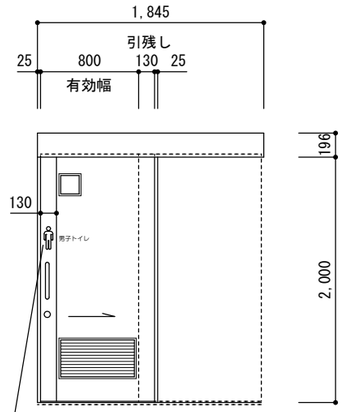
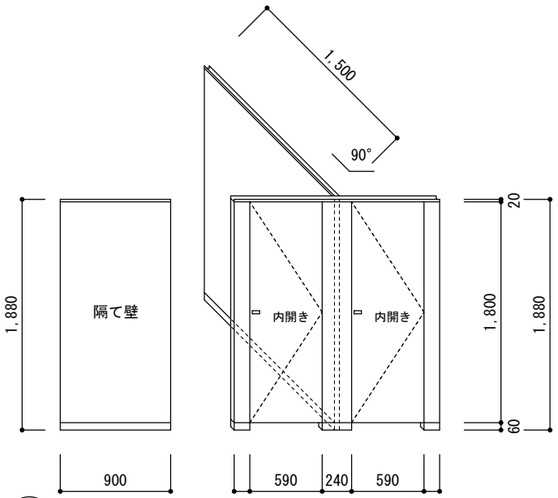
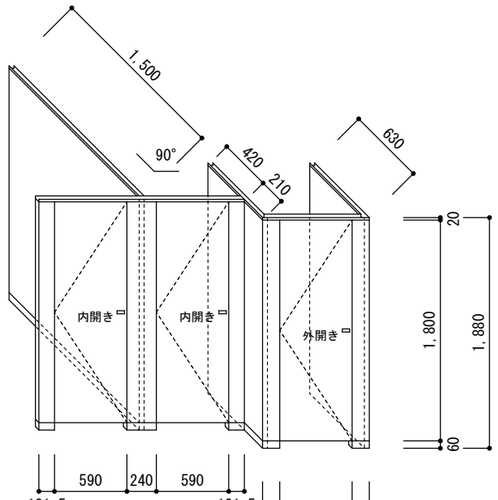
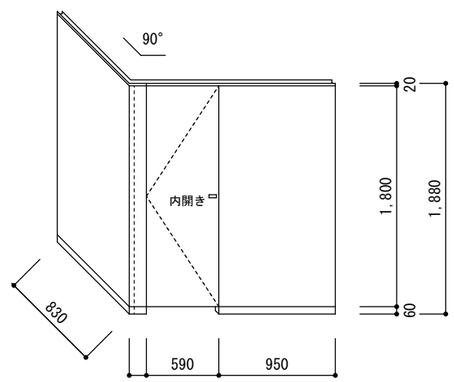
► 平付型木製室名札（8箇所）及び突出型木製ピクトサイン（3箇所）取付位置を示す
FW-81R(杉田ｴｰｽ同等品)　　FWYA-150R(杉田ｴｰｽ同等品)

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	建具キープラン	SCALE A3 1/100	No. 25-007 A-31

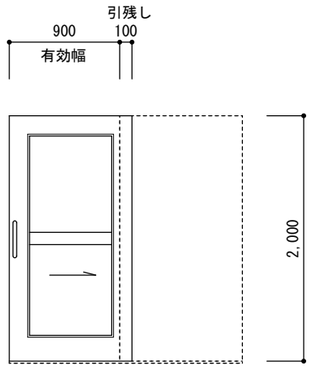
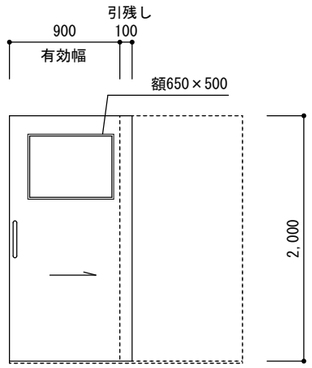
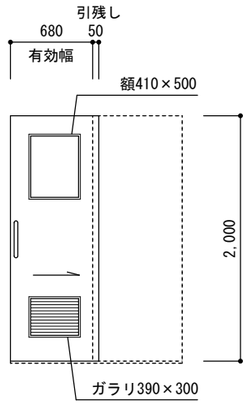
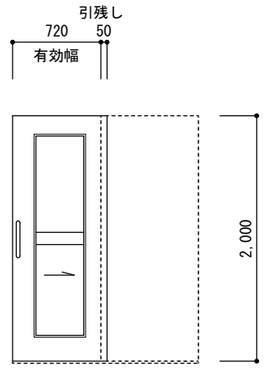
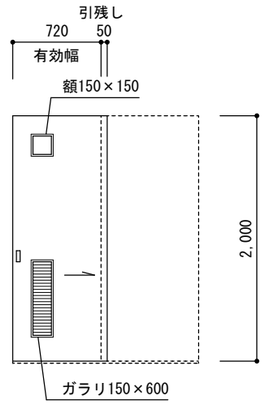
姿　図			※令109条の2に適合する防火設備とする BGE　31【個別認定品】 		
記　号	1/AD　※（　）は内法寸法を示す		2/AD　※（　）は内法寸法を示す	1/AW　※（　）は内法寸法を示す	
名　称	ビル用アルミ両引き分けハンガー框戸		ビル用アルミ片開き框ドア	引違いテラス窓（高性能樹脂窓）	
仕　上	標準カラー		標準カラー	標準カラー	
見込・箇所	枠見込み100㎜　・　１箇所		70㎜　・　１箇所	107㎜　・　３箇所	
ガ ラ ス	3mm透明+A12+4mm強化透明ﾍﾟｱ（Low-E断熱ﾀｲﾌﾟ）日射取得型		6.8mm網入型+A12+3mmLow-E透明ﾍﾟｱ（断熱ﾀｲﾌﾟ）日射取得型	3mm透明+A12+安全合わせ透明ﾍﾟｱ（Low-E断熱ﾀｲﾌﾟ）日射遮蔽型	
建具金物	外シリンダー錠、内サムターン、ドアハンドル、ハンガーレール、自閉装置		ｳﾁｼﾘﾝﾀﾞｰ錠、内ｻﾑﾀｰﾝ、ﾚﾊﾞｰﾊﾝﾄﾞﾙ、SUS丁番	クレセント、戸車、補助錠、大型引手、網戸	
	点検カバー、その他標準金物一式		ﾄﾞｱｸﾛｰｻﾞ、その他標準金物一式	その他標準金物一式	
備　考	玄関		生活スペース３	生活スペース１	

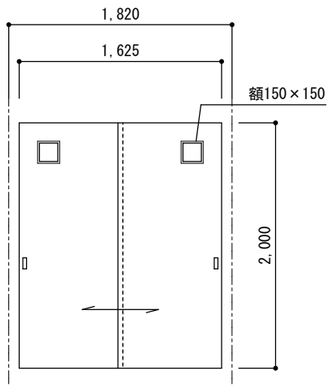
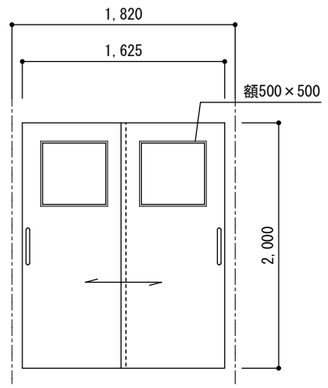
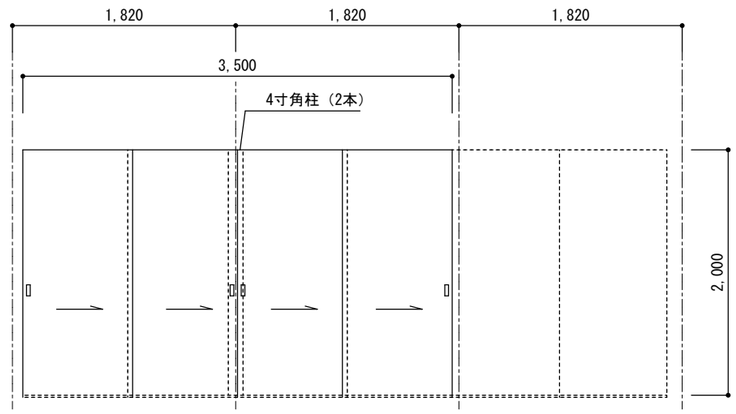
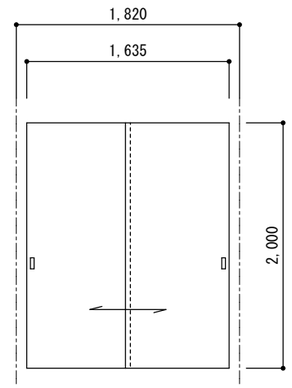
姿　図	※AW-3'（生活スペース３、静養室）の４箇所は 令109条の2に適合する防火設備 		※AW-5'（倉庫２）の１箇所は 令109条の2に適合する防火設備とする 		
記　号	2'/AW 2/AW　※（　）は内法寸法を示す	3/AW　※（　）は内法寸法を示す	4'/AW 4/AW　※（　）は内法寸法を示す	5/AW　※（　）は内法寸法を示す	6/AW　※（　）は内法寸法を示す
名　称	引違い窓（高性能樹脂窓）	引違い窓（高性能樹脂窓）	内倒し窓（アルミ樹脂複合窓）	縦スリットＦＩＸ窓（高性能樹脂窓）	ＦＩＸ丸窓（アルミ樹脂複合窓）
仕　上	標準カラー	標準カラー	標準カラー	標準カラー	標準カラー
見込・箇所	107㎜　・　１０箇所（AW-2）、４箇所（AW-2'）	107㎜　・　１箇所	86㎜　・　２箇所（AW-4）、１箇所（AW-4'）	92㎜　・　２箇所	86㎜　・　１箇所
ガ ラ ス	AW-2　3mm透明+A12+4mm透明ﾍﾟｱ（Low-E断熱ﾀｲﾌﾟ）　日射取得型 AW-2'　6.8mm網入透明+A12+4mm透明Low-Eﾍﾟｱ（断熱ﾀｲﾌﾟ）〃	3mm透明+A12+4mm透明ﾍﾟｱ（Low-E断熱ﾀｲﾌﾟ）日射取得型	AW-4　4mm型+A12+4mm透明ﾍﾟｱ（Low-E断熱ﾀｲﾌﾟ）　日射取得型 AW-4'　6.8mm網入型+A12+4mm透明ﾍﾟｱ（Low-E断熱ﾀｲﾌﾟ）〃	3mm透明+A12+4mm透明ﾍﾟｱ（Low-E断熱ﾀｲﾌﾟ）日射取得型	3mm透明+A12+4mm透明ﾍﾟｱ（Low-E断熱ﾀｲﾌﾟ）日射取得型
建具金物	クレセント、戸車、補助錠、引手、網戸	クレセント、戸車、補助錠、引手、網戸	トップラッチ、内倒しアーム、固定網戸	結露排水ガイド、排水弁、その他標準金物一式	標準金物一式
	その他標準金物一式	その他標準金物一式	フック棒、その他標準金物一式		
備　考	生活スペース１、２、３、静養室、２階廊下	階段室	男子トイレ、女子トイレ（AW-5）、倉庫２（AW-5'）	玄関横	ロフト

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	外部建具表	SCALE A3　1/50	No.　25-007 A-32

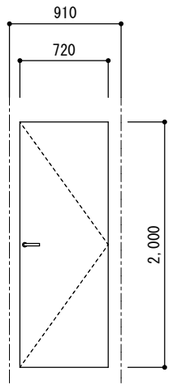
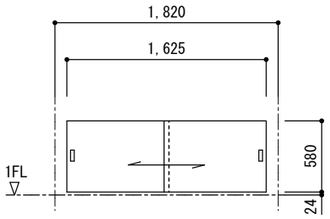
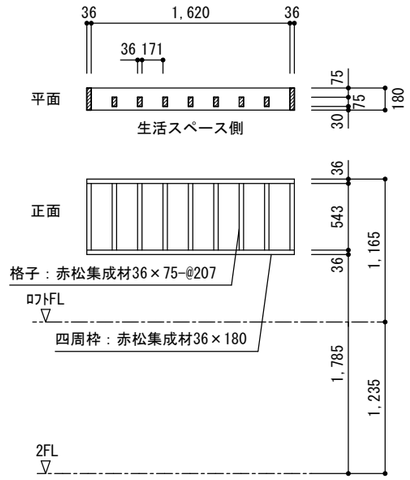
姿　図				
記　号	1/SD	2/SD 女子トイレ	2/SD 男子トイレ	
名　称	軽量スチール片引きハンガードア（外付枠タイプ）	軽量スチール片引きハンガードア（外付枠タイプ）		
仕　上	亜鉛メッキ鋼板　防錆塗装仕上げ（標準色）	亜鉛メッキ鋼板　防錆塗装仕上げ（標準色）		
見込・箇所	40mm　・　１箇所	40mm　・　２箇所		
ガ ラ ス	付属小窓仕様	付属小窓仕様		
建具金物	ｻﾑﾀｰﾝ（非常開錠表示付）、ﾊﾝﾄﾞﾙ、ﾄﾞｱﾊﾝﾄﾞﾙ、額、ｶﾞﾗﾘ、ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙ	ｻﾑﾀｰﾝ（非常開錠表示付）、ﾊﾝﾄﾞﾙ、ﾄﾞｱﾊﾝﾄﾞﾙ、額、ｶﾞﾗﾘ、ﾊﾝｶﾞｰﾚｰﾙ		
	ｶﾞｲﾄﾞﾛｰﾗｰ、点検ｶﾊﾞｰ、縦枠戸当り、ｿﾌﾄｸﾛｰｽﾞ、その他標準金物一式	ｶﾞｲﾄﾞﾛｰﾗｰ、点検ｶﾊﾞｰ、縦枠戸当り、ｿﾌﾄｸﾛｰｽﾞ、その他標準金物一式		
備　考	多機能トイレ	女子トイレ、男子トイレ		
姿　図				
記　号	1/TB	2/TB	3/TB	
名　称	トイレブース　及び　隔て壁	トイレブース	トイレブース	
仕　上	化粧ポリ合板フラッシュ	化粧ポリ合板フラッシュ	化粧ポリ合板フラッシュ	
見込・箇所	40mm　・　１箇所	40mm　・　１箇所	40mm　・　１箇所	
ガ ラ ス	――	――	――	
建具金物	表示付ｽﾗｲﾄﾞﾗｯﾁ、ｽﾄﾗｲｸ、ﾗﾊﾞﾄﾘｰﾋﾝｼﾞ、SUS笠木、SUS巾木、ｱﾙﾐｱｰﾙｴｯｼﾞ	表示付ｽﾗｲﾄﾞﾗｯﾁ、ｽﾄﾗｲｸ、ﾗﾊﾞﾄﾘｰﾋﾝｼﾞ、SUS笠木、SUS巾木、ｱﾙﾐｱｰﾙｴｯｼﾞ	表示付ｽﾗｲﾄﾞﾗｯﾁ、ｽﾄﾗｲｸ、ﾗﾊﾞﾄﾘｰﾋﾝｼﾞ、SUS笠木、SUS巾木、ｱﾙﾐｱｰﾙｴｯｼﾞ	
	戸当たり、その他標準金物一式	戸当たり、その他標準金物一式	戸当たり、その他標準金物一式	
備　考	男子トイレ	女子トイレ	女子トイレ	

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	内部建具表（１）	SCALE A3 1/50	No. 25-007 A-33

姿　図					
記　号	1 WD ※共通事項　敷居はタモ集成材 鴨居及び建枠は赤松集成材 共に塗装は1-UC-A種	2 WD	3 WD	4 WD	5 WD
名　称	木製中桟付き片引き框戸	額付木製フラッシュ片引き戸	額・ガラリ付木製フラッシュ片引き戸	木製中桟付き片引き框戸	額・ガラリ付木製フラッシュ片引き戸
仕　上	天然木化粧突板フラッシュ	天然木化粧突板フラッシュ	天然木化粧突板フラッシュ	天然木化粧突板フラッシュ	天然木化粧突板フラッシュ
見込・箇所	36mm　・　２箇所	36mm　・　１箇所	36mm　・　１箇所	36mm　・　１箇所	36mm　・　１箇所
ガ ラ ス	4mm学校用強化透明ガラス	4mm学校用強化透明ガラス	4mm学校用強化透明ガラス	4mm学校用強化透明ガラス	5mmポリカーボネート
建具金物	ドアハンドル、戸車、Ｖ溝レール、戸当りゴム	ドアハンドル、戸車、Ｖ溝レール、戸当りゴム	ドアハンドル、戸車、Ｖ溝レール、戸当りゴム	ドアハンドル、戸車、Ｖ溝レール、戸当りゴム	SUS彫込み引手、戸車、Ｖ溝レール
	指詰め防止戸先ゴム、その他標準金物一式	指詰め防止戸先ゴム、その他標準金物一式	指詰め防止戸先ゴム、その他標準金物一式	指詰め防止戸先ゴム、その他標準金物一式	指詰め防止戸先ゴム、その他標準金物一式
備　考	生活スペース１、２	静養室	倉庫１	生活スペース３	倉庫３

姿　図				
記　号	6 WD	7 WD	8 WD	9 WD
名　称	額付木製フラッシュ引違い戸	額付木製フラッシュ引違い戸	木製フラッシュ４本引込み戸（２本レール）	木製フラッシュ引違い戸
仕　上	天然木化粧突板フラッシュ	天然木化粧突板フラッシュ	天然木化粧突板フラッシュ	天然木化粧突板フラッシュ
見込・箇所	36mm　・　１箇所	36mm　・　１箇所	36mm　・　１箇所	36mm　・　１箇所
ガ ラ ス	5mmポリカーボネート	4mm学校用強化透明ガラス	――	――
建具金物	SUS彫込み引手、戸車、Ｖ溝レール	ドアハンドル、戸車、Ｖ溝レール	SUS彫込み引き手、戸車、Ｖ溝レール、戸当りゴム、その他標準金物一式	SUS彫込み引手、戸車、Ｖ溝レール
	指詰め防止戸先ゴム、その他標準金物一式	指詰め防止戸先ゴム、その他標準金物一式	指詰め防止戸先ゴム、その他標準金物一式	指詰め防止戸先ゴム、その他標準金物一式
備　考	倉庫２	静養室	生活スペース２～生活スペース３	生活スペース３、静養室

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	内部建具表（２）	SCALE A3 1/50	No. 25-007 A-34

姿　図					
記　号	10 / WD 敷居はタモ集成材 鴨居及び建枠は赤松集成材	11 / WD 敷居はタモ集成材 鴨居及び建枠は赤松集成材	1 / WW		
名　称	木製フラッシュ片開き戸	木製フラッシュ引違い戸	木製格子		
仕　上	天然木化粧突板フラッシュ	天然木化粧突板フラッシュ	赤松集成材　木材保護塗装（WP・A種）		
見込・箇所	36㎜　・　１箇所	36㎜　・　１箇所	枠見込み180㎜　・　１箇所		
ガ ラ ス	―――	―――	―――		
建具金物	レバーハンドル、SUS丁番、戸当り金物	SUS彫込み引手、戸車、Ｖ溝レール	―――		
	その他標準金物一式	その他標準金物一式			
備　考	静養室収納・ＰＳ	受付台地袋	ロフト		

姿　図					
記　号					
名　称					
仕　上					
見込・箇所					
ガ ラ ス					
建具金物					
備　考					

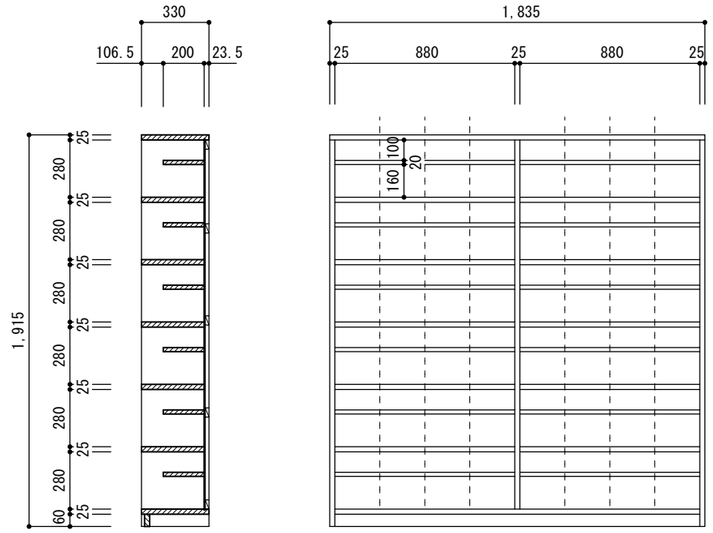
上田市都市建設部建築課

事業年度 R7 / R8

株式会社 久高設計
長野県知事登録　第上田N-78311号
住　所　長野県上田市住吉55番地2
設計者氏名　小福田　洋
一級建築士　大臣登録　第292990号

工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	内部建具表（３）	SCALE A3 1/50	No. 25-007 A-35

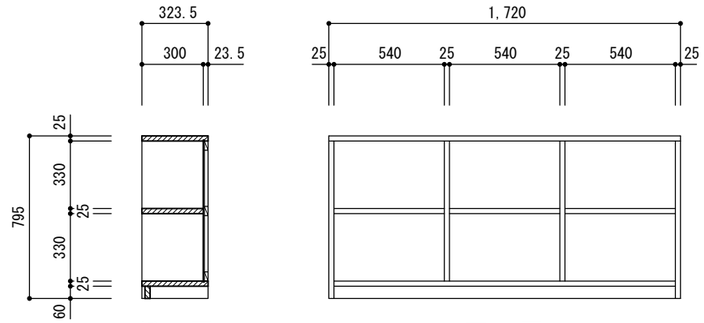
下足棚（1列8足×6段＝48人分）　３台



断面図　　正面図

天板：t-25mm赤松集成材、ＷＰ仕上げ
側板・巾木：t-25mm赤松集成材、ＷＰ仕上げ
仕切板：t-25mmしな合板ランバーコア、大手赤松材、ＷＰ仕上げ
下足板：t-25mmしな合板ランバーコア、t-0.4mmステンレスHL張り、大手赤松材ＷＰ仕上げ
上履き板：t-20mmしな合板ランバーコア、大手赤松材、ＷＰ仕上げ
背板：t-5.5mmしな合板、ＷＰ仕上げ

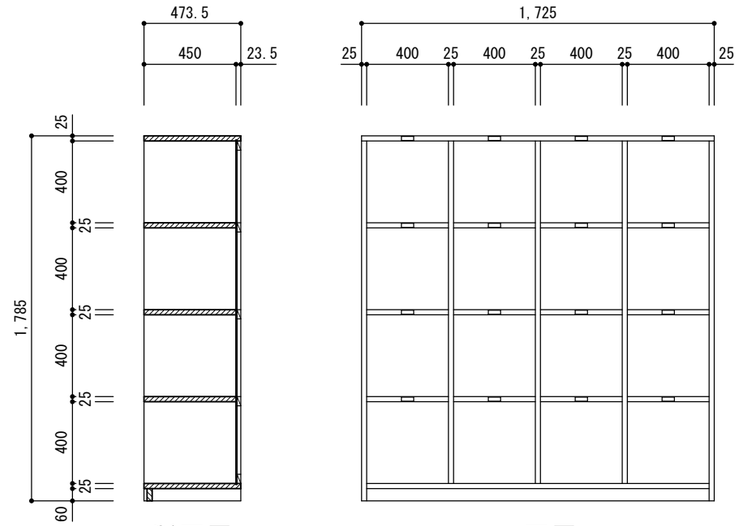
本棚　６台



断面図　　正面図

天板：t-25mm赤松集成材、ＷＰ仕上げ
側板・巾木：t-25mm赤松集成材、ＷＰ仕上げ
棚板・仕切り板：t-25mmしな合板ランバーコア、大手赤松材、ＷＰ仕上げ
背板：t-5.5mmしな合板、ＷＰ仕上げ

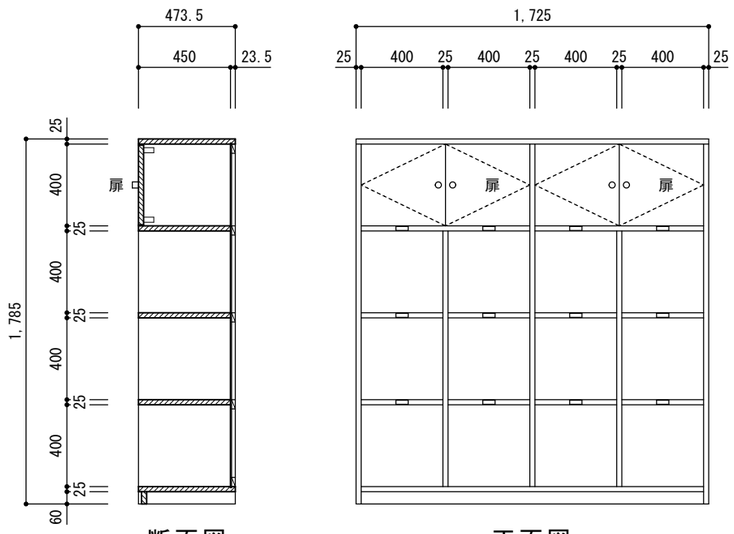
ロッカー１（4列×4段）　１台



断面図　　正面図

天板：t-25mm赤松集成材、ＷＰ仕上げ
側板・巾木：t-25mm赤松集成材、ＷＰ仕上げ
棚板・仕切り板：t-25mmしな合板ランバーコア、大手赤松材、ＷＰ仕上げ
背板：t-5.5mmしな合板、ＷＰ仕上げ
金物：ネーム入れ

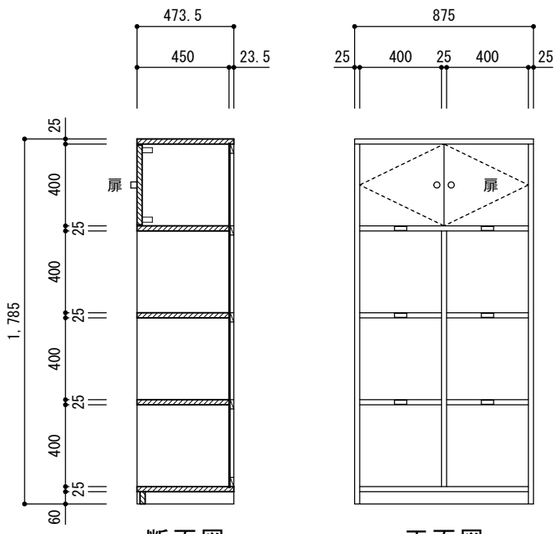
ロッカー２（4列×3段+1段）　８台



断面図　　正面図

天板：t-25mm赤松集成材、ＷＰ仕上げ
側板・巾木：t-25mm赤松集成材、ＷＰ仕上げ
棚板・仕切り板：t-25mmしな合板ランバーコア、大手赤松材、ＷＰ仕上げ
背板：t-5.5mmしな合板、ＷＰ仕上げ
扉：t-25mm赤松練り付け合板フラッシュ両開き、ＷＰ仕上げ
金物：つまみ、インセットスライド丁番、ローラーキャッチ、ネーム入れ

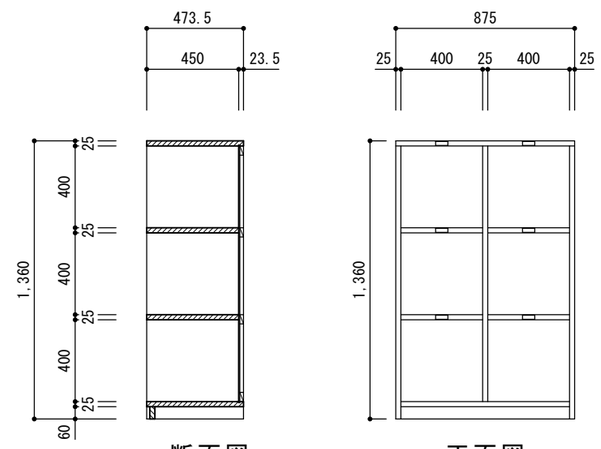
ロッカー３（2列×3段+1段）　１台



断面図　　正面図

天板：t-25mm赤松集成材、ＷＰ仕上げ
側板・巾木：t-25mm赤松集成材、ＷＰ仕上げ
棚板・仕切り板：t-25mmしな合板ランバーコア、大手赤松材、ＷＰ仕上げ
背板：t-5.5mmしな合板、ＷＰ仕上げ
扉：t-25mm赤松練り付け合板フラッシュ両開き、ＷＰ仕上げ
金物：つまみ、インセットスライド丁番、ローラーキャッチ、ネーム入れ

ロッカー４（2列×3段）　１台

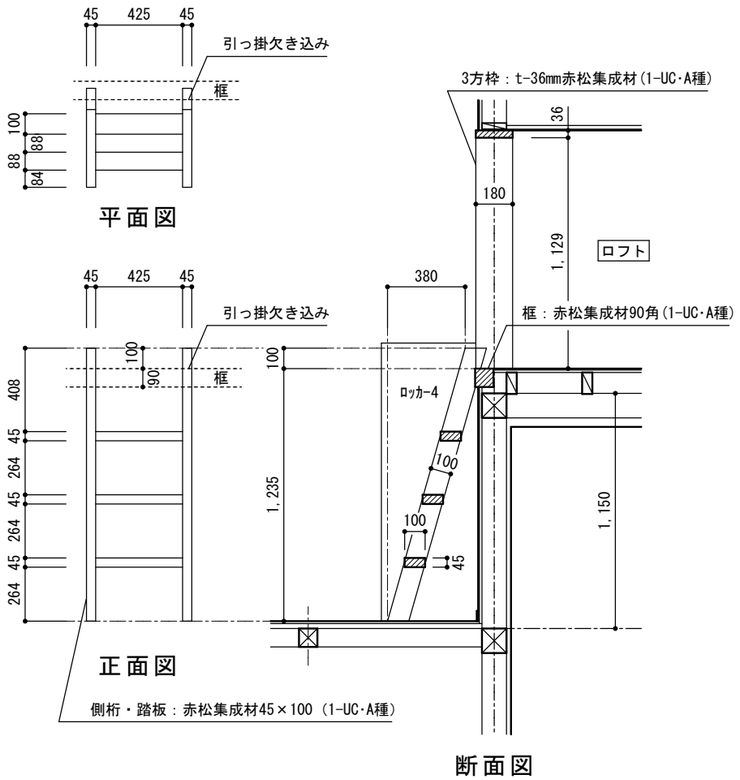


断面図　　正面図

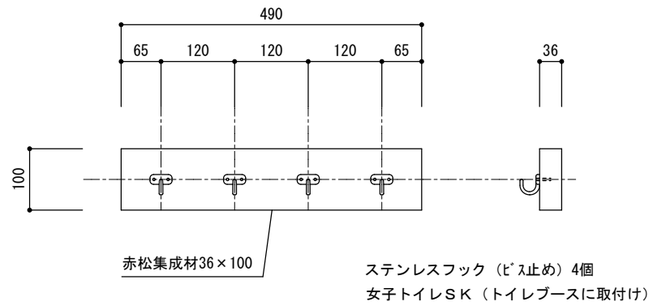
天板：t-25mm赤松集成材、ＷＰ仕上げ
側板・巾木：t-25mm赤松集成材、ＷＰ仕上げ
棚板・仕切り板：t-25mmしな合板ランバーコア、大手赤松材、ＷＰ仕上げ
背板：t-5.5mmしな合板、ＷＰ仕上げ
金物：ネーム入れ

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	家具詳細図（１）	SCALE A3 1/30	No. 25-007 A-36

ロフトはしご　　1台

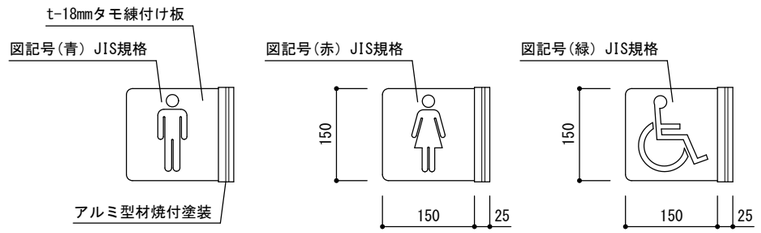


モップ掛け（1/10）　　1台



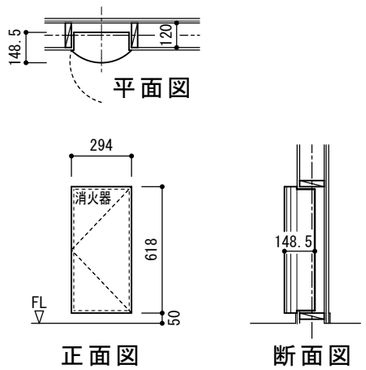
ピクトサイン（突出型）1/10　　各１箇所（計３箇所）

木製室名札ＦＷプレート（FWYA-150R杉田エース同等品）　※両面表示



消火器ＢＯＸ　　各階廊下　　２台

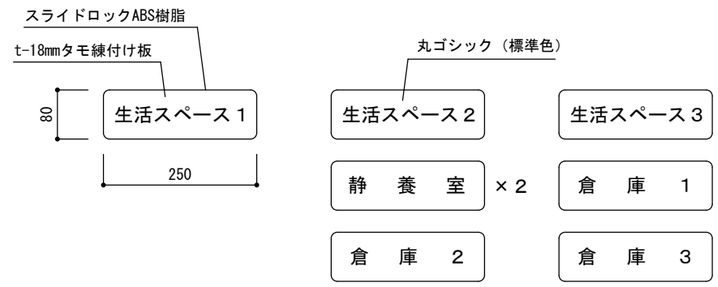
参考型番：ＵＦＢ-２Ｆ-３００７-ＰＷＨ（ユニオン）同等品



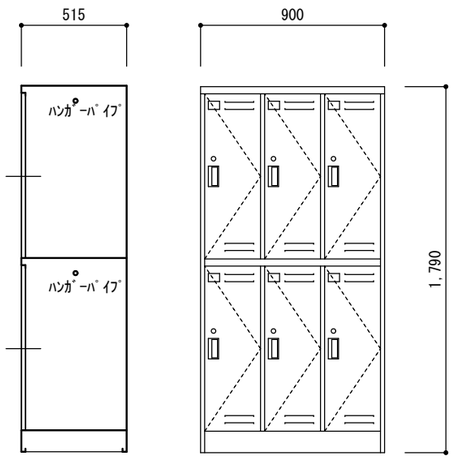
本体：t-1.6mmスチール（ﾎﾟｰﾗﾙﾎﾜｲﾄﾍﾟｲﾝﾄ）
寸法：W294 × D148.5 × H618
扉　：t-1.6mmスチール（ﾎﾟｰﾗﾙﾎﾜｲﾄﾍﾟｲﾝﾄ）
文字：標準ステッカー貼り
専用ブラケット使用

室名札（平付型）1/10　　各１箇所（計８箇所）

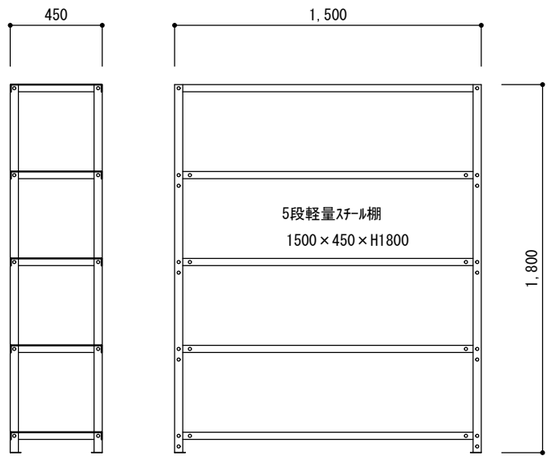
木製室名札ＦＷプレート（FW-81R杉田エース同等品）



既製スチールロッカー（2段6人用）　２台

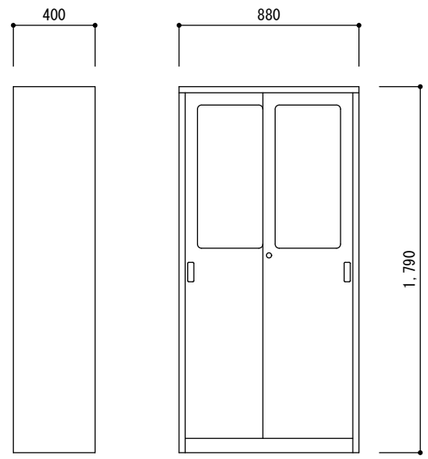


既製軽量スチール棚（5段）　１台

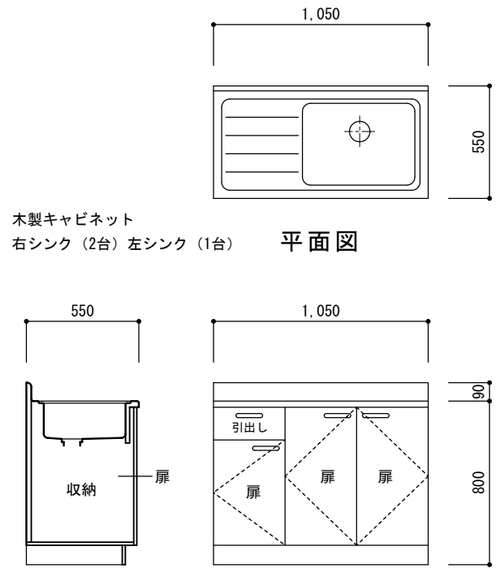


既製スチール書棚　３台

参考型番：書庫ガラス／スチール引戸書庫【S-C365F1N】

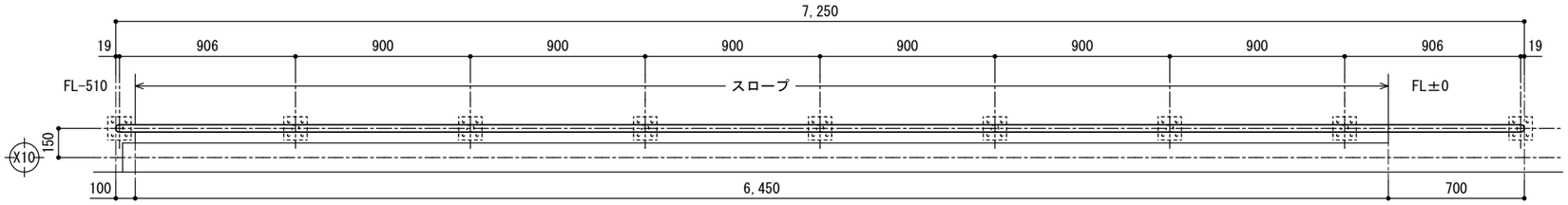


セクショナルキッチン（GKｼﾘｰｽﾞ程度）　３台

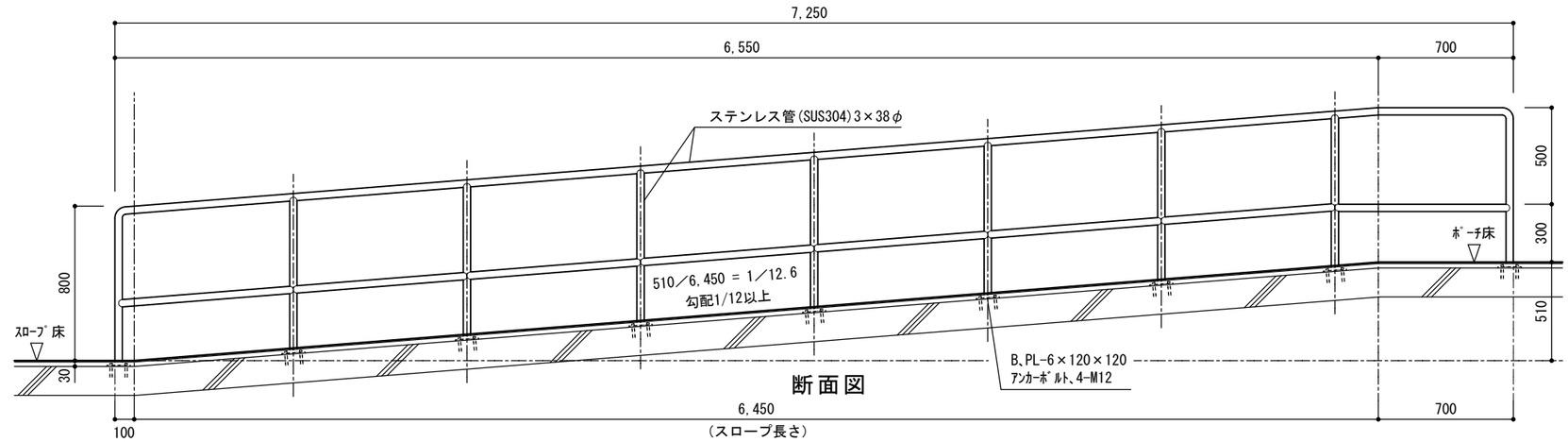


上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	家具詳細図（２）	SCALE A3 1/30 / No. 25-007 A-37

スロープ手摺り　1台

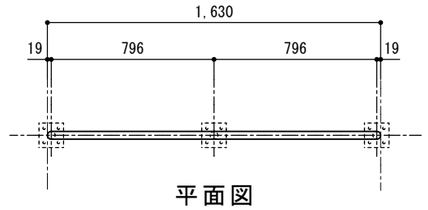


平面図

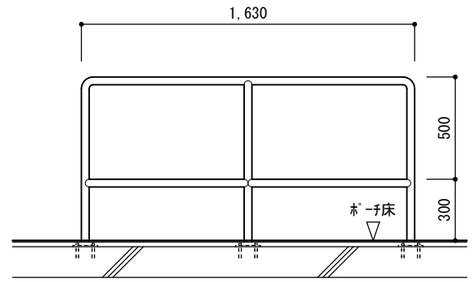


断面図

玄関前手摺り　1台

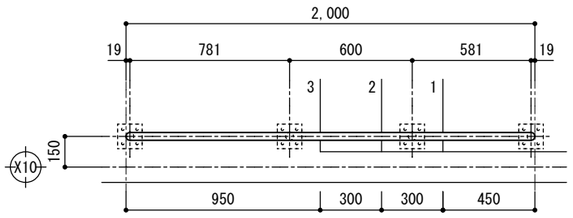


平面図

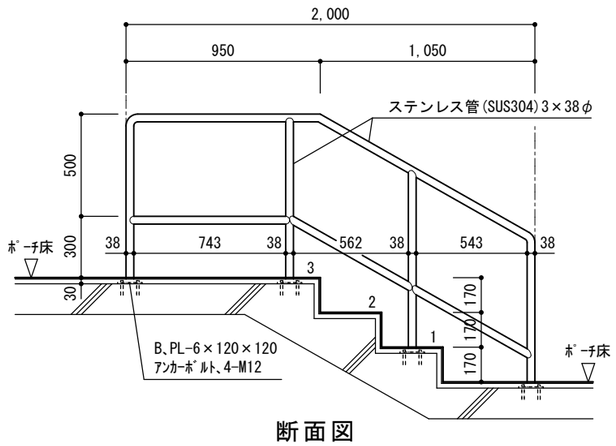


断面図

ポーチ階段手摺り　1台

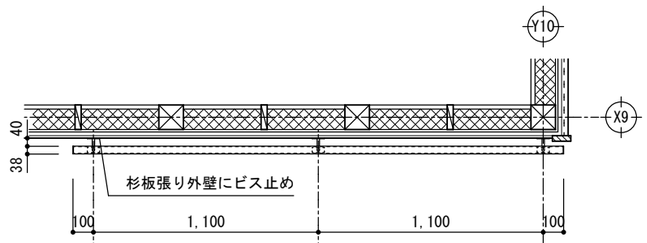


平面図

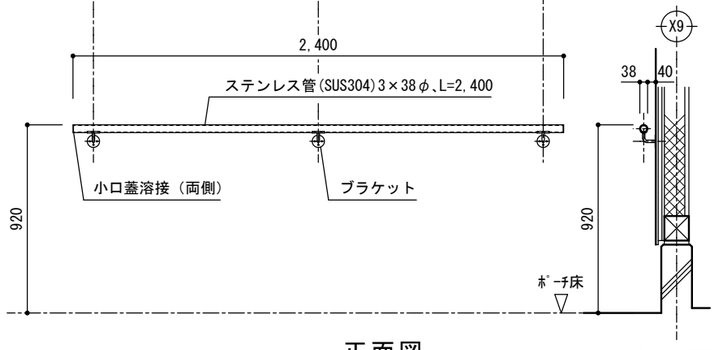


断面図

ポーチ傘掛け　1台

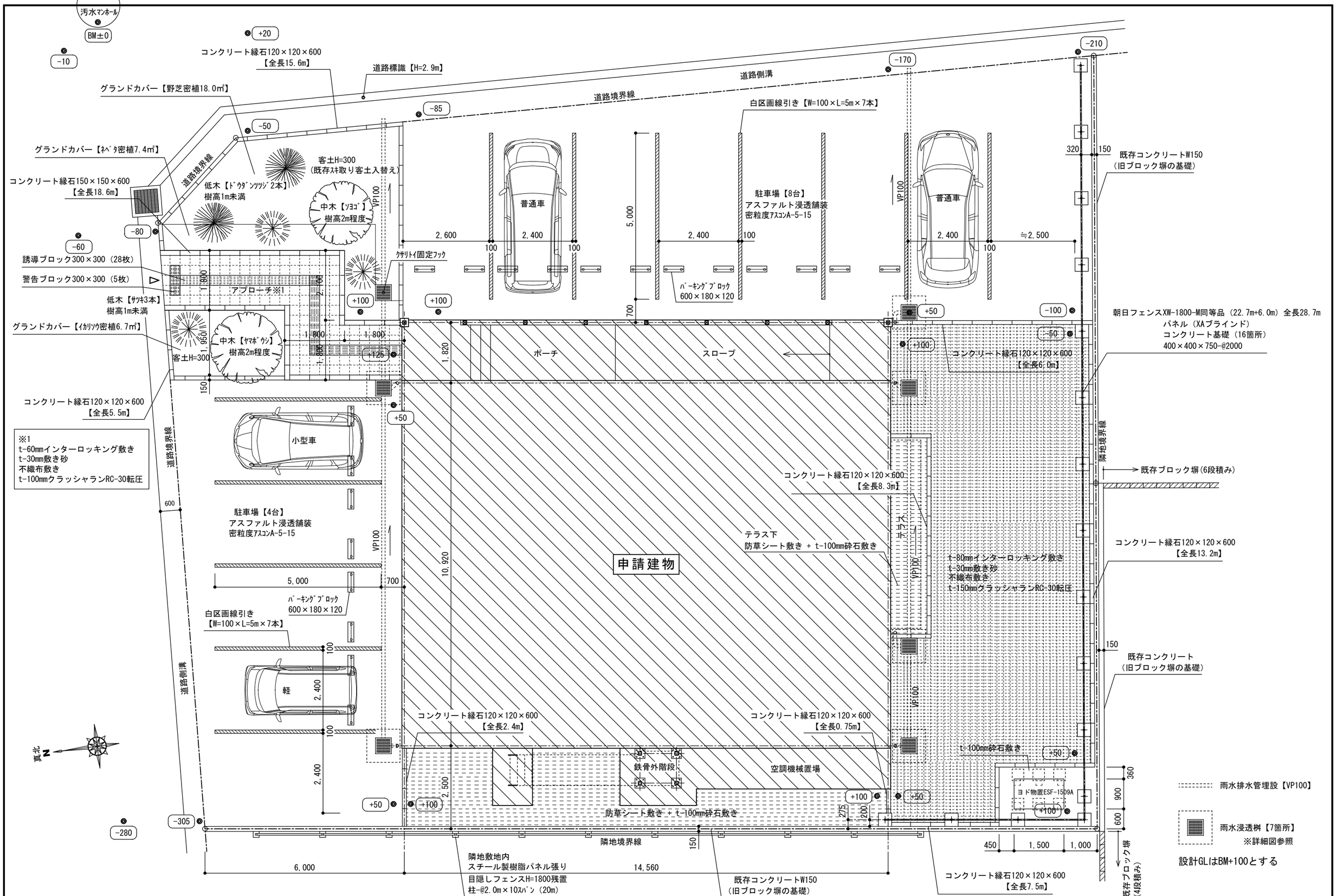


平面図



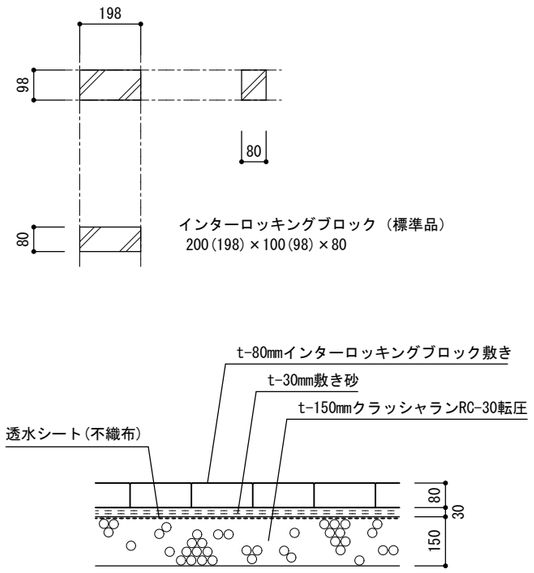
正面図　断面図

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	部分詳細図	SCALE A3 1/30 / No. 25-007 A-38

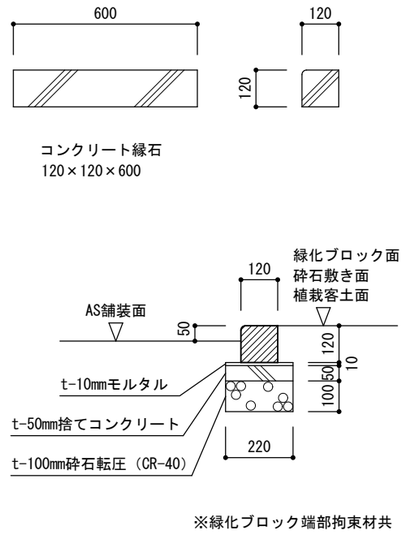


上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	外構平面図	SCALE A3 1/150 / No. 25-007 A-39

インターロッキングブロック敷き

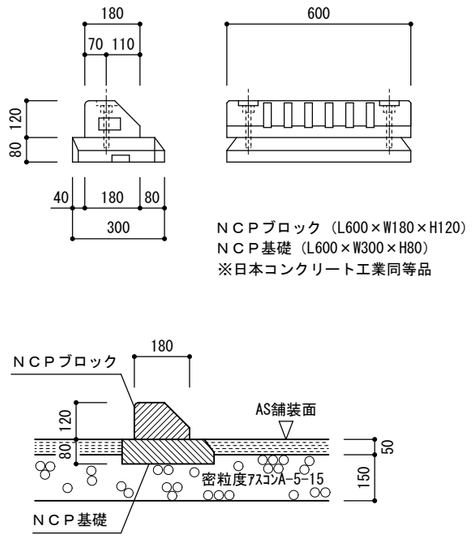


コンクリート縁石

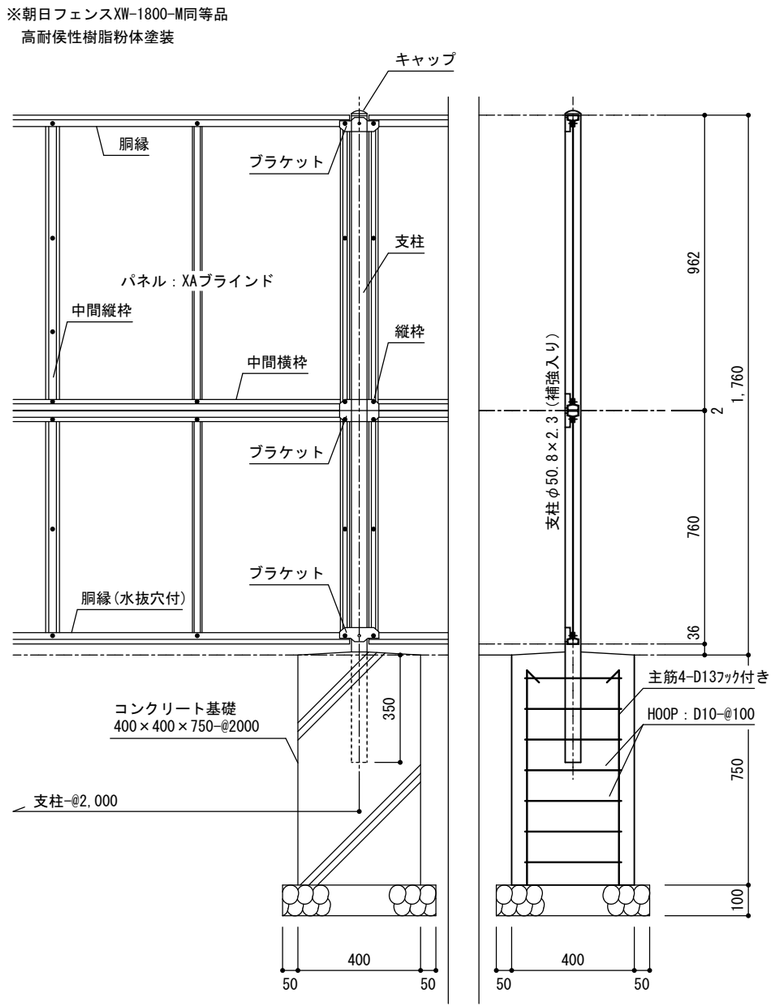


※緑化ブロック端部拘束材共

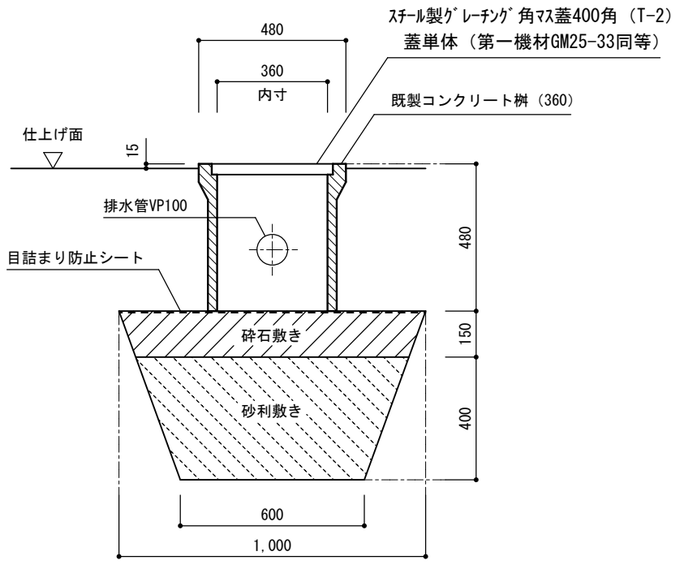
パーキングブロック　２個×１０箇所



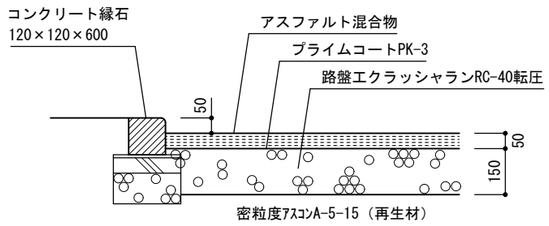
目隠しフェンス



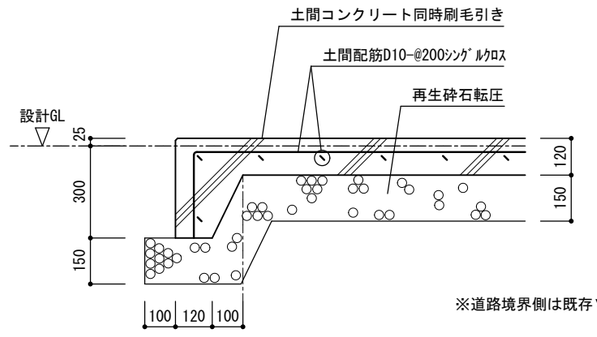
雨水浸透桝　　７箇所



アスファルト浸透舗装

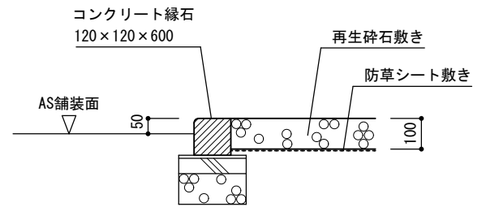


アプローチ土間

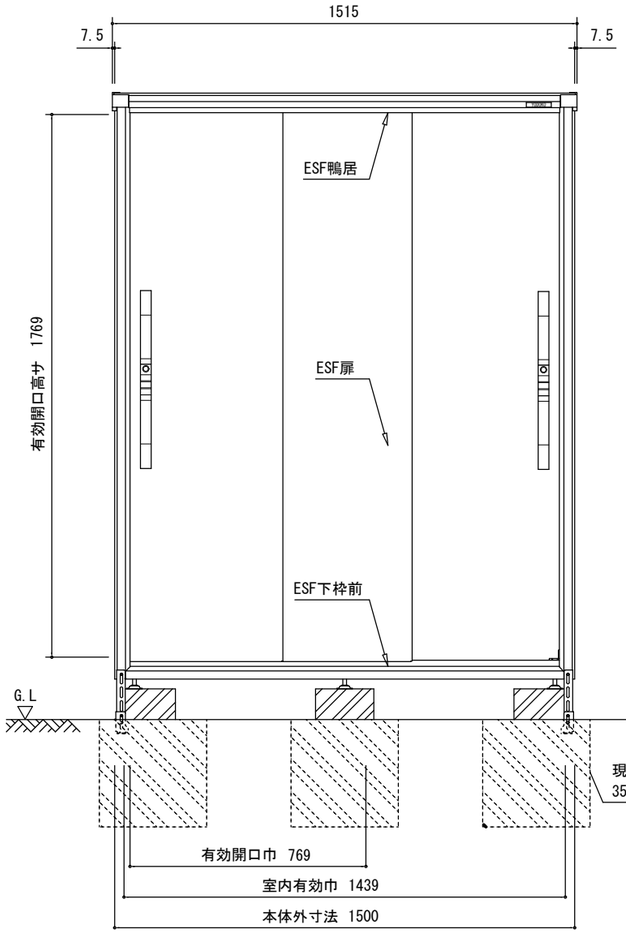


※道路境界側は既存ＶＳ側溝へ摺り付ける

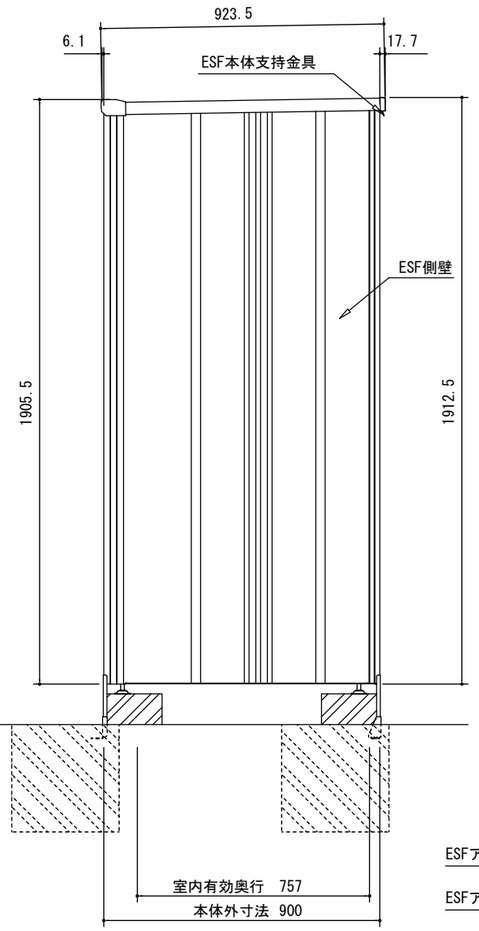
砕石敷き



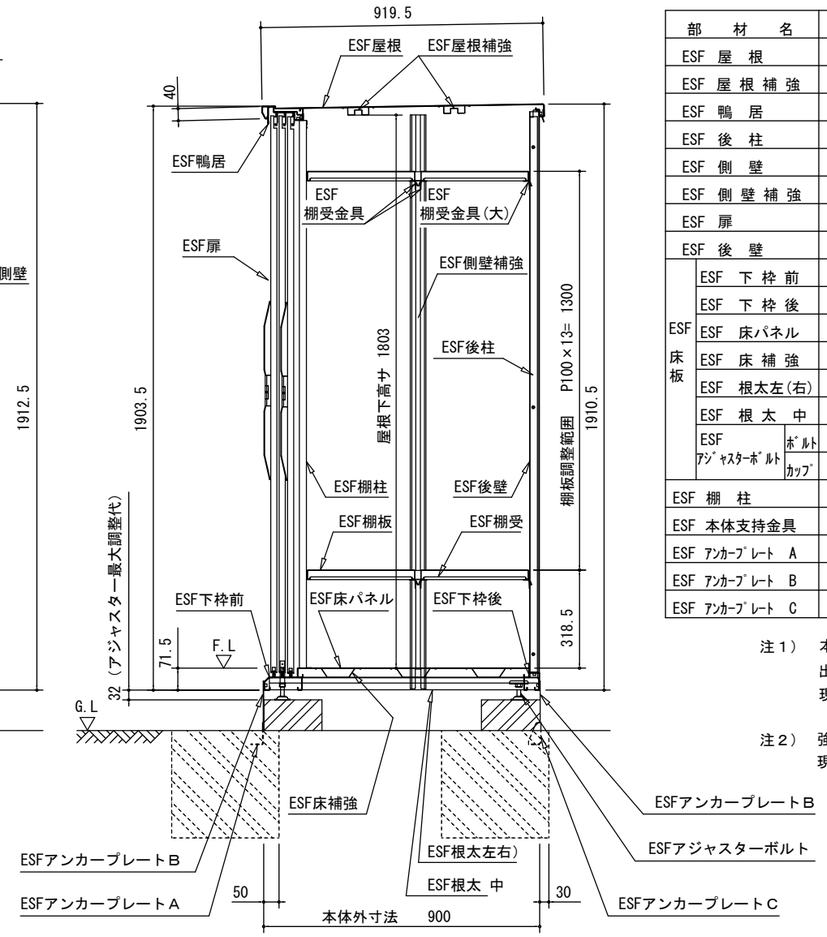
上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	外構詳細図（１）	SCALE A3 1/20 / No. 25-007 A-40



正 面 立 面 図 S=1/20



側 面 図 S=1/20

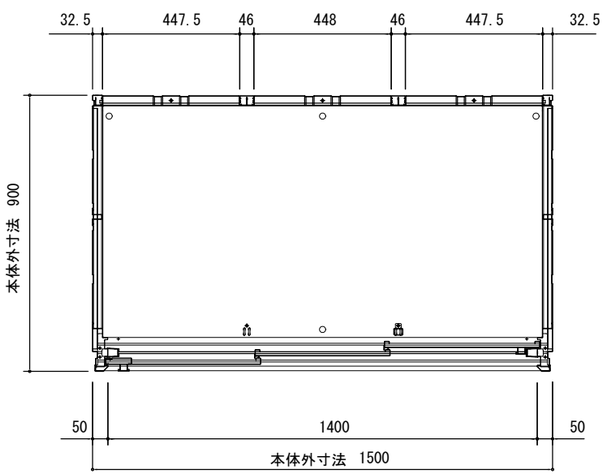


矩 計 図 S=1/20

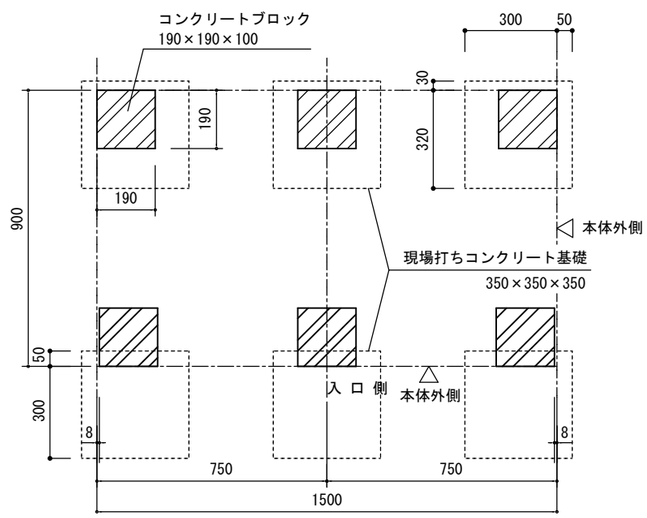
部 材 名			厚さ	材 質
ESF 屋 根			0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
ESF 屋 根 補 強			0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
ESF 鴨 居			0.8	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
ESF 後 柱			1.0	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
ESF 側 壁			0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
ESF 側 壁 補 強			0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
ESF 扉			0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
ESF 後 壁			0.5	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
ESF 床板	ESF 下 枠 前		0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
	ESF 下 枠 後		0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
	ESF 床パネル		0.6	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
	ESF 床 補 強		0.6	JIS G3321 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 SGLCC
	ESF 根太左(右)		0.5	JIS G3321 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 SGLCC
	ESF 根 太 中		1.2	JIS G3321 溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 SGLCC
	ESF アジャスターボルト	ボルト	-	一般構造用圧延鋼材 SS400相当品 + 溶融亜鉛アルミニウム合金メッキ
		カップ	2.3	熱間圧延軟鋼板 SPHC-P相当品 + 溶融亜鉛アルミニウム合金メッキ
ESF 棚 柱			1.2	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
ESF 本体支持金具			1.6	JIS G3302 溶融亜鉛めっき鋼板 SGHC (後塗装)
ESF アンカープレート A			2.3	JIS G3302 溶融亜鉛めっき鋼板 SGHC (後塗装)
ESF アンカープレート B			1.6	JIS G3302 溶融亜鉛めっき鋼板 SGHC (後塗装)
ESF アンカープレート C			2.3	JIS G3302 溶融亜鉛めっき鋼板 SGHC (後塗装)

注１） 本体支持金具にて転倒防止対策が
出来ない場合には、本図を参考にして
現場の実情にあわせて基礎工事を行って下さい。

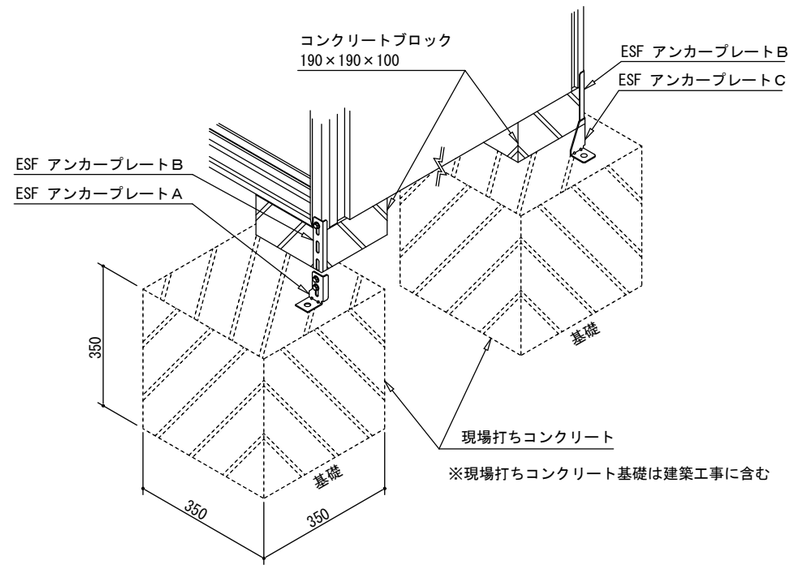
注２） 強風地、寒冷地等に設置する場合、
現地の実情にあわせて設計・施工して下さい。



平 面 図 S=1/20



ブロック基礎伏図 S=1/20



ヨド物置 エスモ 参考型番：ＥＳＦ－１５０９Ａ

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図 名	外構詳細図（２）	SCALE A3 1/20	No. 25-007 A-41

東部児童クラブ分室集約化工事　構造関係仕様書

Ⅰ 建物構造概要等

1. 建物概要

工事名称	東部児童クラブ分室集約化工事		
地名地番	長野県上田市材木町一丁目１３１番１	凍 結 深	ＧＬ－４５０mm
主要用途	児童福祉施設等	延床面積	３１８．０ m2
階数	地上 2 階　地下 － 階　塔屋 － 階		
建物高さ	７．６３８mm	軒　高	６．３８０mm
工事種別	⊙新築 ・増築 ・改築 ・移転	増築計画	・有り ⊙無し
構造種別	地上 木 造　基礎 鉄筋コンクリート造　外階段 鉄骨造		
架構形式 X方向	ブレース 構造		
架構形式 Y方向	ブレース 構造		
耐震構造方式	⊙耐震構造 ・免震構造 ・制震構造		
耐震安全性の分類	・Ⅰ類(I=1.50) ・Ⅱ類(I=1.25) ⊙Ⅲ類(I=1.00)		

2. 構造計算条件

a. 耐震設計条件

地震荷重	建物一次固有周期	（０．１３７）秒 【計算書Ｐ１８】		
	地盤種別	第（ ２ ）種地盤		
	地域係数	Ｚ＝ １．０		
計算ルート	X方向	※ 許容応力度計算 （ルート １ ）	Y方向	※ 許容応力度計算 【計算書Ｐ２０】 （ルート １ ）
		・その他		・その他
		・		・
設計層間変形角	X方向	一次設計 １／２００	Y方向	一次設計 １／２００
		三次設計		三次設計

b. 耐風設計条件

基準風速(V0)	（ 30 ）m/秒
地表粗度区分	・Ⅰ ・Ⅱ ⊙Ⅲ ・Ⅳ
風圧力の割増	・1.3倍 ・1.15倍 ⊙1.0倍

c. 耐積雪設計条件

建設地の標高	（ ４６３ ）m
多雪区域の指定	・有り ⊙無し
設計垂直積雪量	（ ５０ ）cm 【計算書Ｐ１６】

Ⅱ 建築工事仕様

1. 共通仕様

(1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)」(最新版)(以下『標仕』という。)による。

(2) 標仕で、「特記がなければ、」以下に具体的な材料・ 工法・ 検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等(条例を含む)と異なる場合には、具体的な対応策について監督職員と協議すること。

2. 特記仕様

(1) 項目は、番号に◯印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。
⊙印の付かない場合は、※ 印の付いたものを適用する。
⊙印と ※ 印の付いた場合は、共に適用する。

(3) 特記事項に記載の(．．．)内の表示番号は、標仕の当該項目、当該図又は当該表を示す。

(4) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。

(5) 特記中で「各部配筋参考図」とあるのは標仕巻末に掲載されている「各部配筋　参考図」を指す。

章	項　目	特 記 事 項
4 地業工事	① 支持力又は支持地盤の確認	支持地盤の位置及び種類 (4.3.4)(4.3.5)(4.5.5)(4.5.6) ・杭基礎(基礎杭の先端の位置含む) ・構造図(　　)による　・ ⊙直接基礎(基礎底部の位置含む) ⊙構造図(　　)による　・ 長期設計支持力　（１２０）kN/㎡ 試験 (4.2.1～5) 試験杭 位置、本数、寸法　※ 構造図(　　)による　・ 杭の載荷試験 試験の実施　・行う　・行わない 試験内容　・鉛直載荷試験　・水平載荷試験 試験杭の位置、本数、載荷荷重、試験方法等　※ 構造図(　　)による　・ 地盤の載荷試験(平板載荷試験) 試験の実施　・行う　・行わない 試験位置、載荷荷重、試験方法等　※ 構造図(　　)による　・ 試験の報告書記載事項及び提出物　※ 標仕4.2.5に定める事項　※ 土質資料 ・

2. 既製コンクリート杭地業

材料 (4.3.2)

種類

・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭(PHC杭)

・外殻鋼管付きコンクリート杭(SC杭)

SC杭の鋼管材料　・SKK400　・SKK490　・

・

性能、曲げ強度等　・構造図による　・

杭先端部形状　・開放形　・半閉放形　・閉そく形

寸法・性能等　・構造図(　)に別記する

杭名	杭径(mm)		杭長(m)及び種別 種類の記号	板厚(mm)	杭長(m)	セット数	コンクリート強度(kN/m²)	長期設計支持力(kN/本)	備考
試験杭		上杭							
		中杭							
		下杭							
本　杭		上杭							
		中杭							
		下杭							

施工方法 (4.3.1)(4.3.3～4.3.5)

・セメントミルク工法

アースオーガーの支持地盤への掘削深さ　・1.5m程度　・

杭の支持地盤への根入れ深さ　・1.0m以上　・

杭の精度

水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下　・

杭の傾斜　・1/100以内　・

・特定埋込杭工法

・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法

・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内、α、β、γが下記の値を採用できる工法

α=(　　)、β=(　　)、γ=(　　)

工法

・プレボーリング拡大根固め工法

・中掘り拡大根固め工法

・

杭周固定液　・使用する　・使用しない

杭の精度

水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下　・

杭の傾斜　・1/100以内　・評定条件又は認定条件による

継手 (4.3.6)

・溶接継手

方式　※ 端板式　・円筒式

・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)

工法　※ 審査(評定又は大臣認定)を受けた工法

検査　※ 審査(評定又は大臣認定)により定められた項目

施工　※ 審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による

・

杭頭の処理 (4.3.8)

※ 切断処理しない

・切断処理する

切断方法　・外圧方式　・ダイヤモンドカッター方式

杭頭のふさぎ処理　※ 構造図(　　)による　・

3. 鋼杭地業

材料 (4.4.3)(表4.4.1)

使用材　・鋼管　・H形鋼

寸法・性能等　・構造図(　)に別記する

杭名	杭径(mm)		杭長(m)及び種別 種類の記号	板厚(mm)	杭長(m)	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備　考
試験杭		上杭						
		中杭						
		下杭						
本　杭		上杭						
		中杭						
		下杭						

杭先端部　形状　・開放形　・ (4.4.2)(表4.4.2)

補強　・標仕図4.4.1及び表4.4.2による　・

施工方法 (4.4.2～4)

・特定埋込杭工法

・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式でα=250を採用できる工法

・H13国土交通省告示第1113号第6による地盤の許容支持力式の内、α、β、γが下記の値を採用できる工法

α=(　　)、β=(　　)、γ=(　　)

工法

・中掘り拡大根固め工法

・

杭周固定液　・使用する　・使用しない

杭の精度

水平方向の位置ずれ　・杭径の1/4かつ100mm以下　・

杭の傾斜　・1/100以内　・評定条件又は認定条件による

杭継手工法

・アーク溶接継手 (4.4.5)

工法　・自動　・半自動

・高力ボルト継手

・無溶接継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)

工法　※ 審査(評定又は大臣認定)を受けた工法

検査　※ 審査(評定又は大臣認定)により定められた項目

施工　※ 審査(評定又は大臣認定)された施工管理基準による

・

杭頭の処理 (4.4.6)

・切断処理しない

※ 切断処理する(ガス切断)

切断高さ　・構造図(　　)による　・

4. 場所打ちコンクリート杭地業

寸法・性能等　・構造図(　)に別記する

	軸径(mm)	拡底径(mm)	杭長(m)	セット数	長期設計支持力(kN/本)	備　考
試験杭						
本　杭						

帯筋 (4.5.4)

※ 各部配筋参考図2.2 ④ (ロ)による　・構造図(　　)による

鉄筋かごの補強

※ 杭径1.5m以下の場合は鋼板6×50(mm)、1.5mを超える場合は鋼板9×50×75(mm)の補強リングを3m以下の間隔で、かつ、1節につき3箇所以上入れ、リングと組立用の鉄筋との接触部を溶接する。

・

鉄筋の最小かぶり厚さ　・100mm　・

セメントの種類　※ 高炉セメントB種　・

コンクリートの種別　・A種　・B種 (表4.5.1)

コンクリートの設計基準強度　(　　)N/mm²

構造体コンクリートの強度と供試体の強度の差を考慮した割り増し

※ 3N/mm²　・

施工方法 (4.5.5、6)

・アースドリル工法　・リバース工法　・オールケーシング法

・場所打ち鋼管コンクリート杭工法　・拡底杭法

超音波測定器による孔壁測定

測定箇所数及び測定位置

・試験杭(　　)箇所及び本杭(　　)箇所とし、位置は構造図(　　)による

・

杭の精度

水平方向の位置ずれ　・100mm以下　・

杭の傾斜　・1/100以内　・評定条件又は認定条件による

⑤ 砂利地業

材料　※ 再生クラッシャラン　・切込み砂利及び切込み砕石 (4.6.3)

厚さ及び適用範囲

厚　さ	適 用 箇 所
・60	・基礎スラブ下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下
⊙図示	・図示　・

⑥ 捨てコンクリート地業 (4.6.4)(6.14.3)

厚さ及び適用範囲

厚　さ	適 用 箇 所
⊙50	・基礎スラブ下、基礎梁下、土に接するスラブ下
・図示	・図示　・

⑦ 床下防湿層

施工範囲　⊙建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く) (4.6.5)

・図示　・

防湿工法　⊙ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上　・図示　・ (4.6.5)

防湿層の位置　・図面(　　)による (4.6.5)

8. 地盤改良(セメント系固化材を用いた工法による改良)

工法

・浅層混合処理工法　改良範囲、仕様(計測、試験等含む)は構造図(　　)による

・深層混合処理工法　改良範囲、仕様(計測、試験等含む)は構造図(　　)による

六価クロム溶出試験　※ 行う　・行わない

9. 置換コンクリート地業(ラップルコンクリート地業)

形状等　※ 構造図(　　)による　・

支持地盤　長期設計支持力　(　　)kN/mm²

地盤位置　※ 構造図(　　)による　・

型枠　使用の有無　・無し　・有り

使用箇所等　※ 構造図(　　)による　・

5 鉄筋工事

① 鉄筋の種類 (5.2.1)(表5.2.1)

規格の名称	種類の記号	呼び径(mm)	適用箇所	備　考
鉄筋	⊙SD295A	※ D16以下	※ 図示	
コンクリート用棒鋼(異形鉄筋)	⊙SD345	※ D19以上	※ 図示	
	・			
高強度せん断補強筋				大臣認定番号(　　)
				大臣認定番号(　　)

2. 溶接金網 (5.2.2)

形状等

種　類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径(mm)	適用箇所
・溶接金網 ・鉄筋格子			合成スラブ 床下ピット土間

3. 圧接完了後の試験

外観試験　※ 行う(全数)　・ (5.4.10)

抜取試験 (5.4.10)

※ 超音波探傷試験

試験の箇所数等　※ 標仕5.4.9、5.4.10による　・

・引張試験

試験片の採取数は、1ロットに対して(※ 3本　・ 5本)とする

試験ロット:　1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。なお、200箇所を超えるときは200箇所ごととする。

試験片を採取した箇所の処置: 標仕5.4.9による

④ 鉄筋の継手

継手方法 (5.3.4)(5.5.2)

適 用 箇 所	継手方法と適用径の範囲
⊙べた基礎	・ガス圧接(D19以上) ⊙重ね継手(D16以下)　・
⊙外階段基礎	・ガス圧接(D19以上) ⊙重ね継手(D16以下)　・
・耐力壁	・重ね継手　・
・基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁など	・ガス圧接(　　)・ ・重ね継手(　　)・
・杭主筋	・重ね継手　・
・	

⑤ 主筋の継手及び定着

基礎梁主筋の継手、定着及び余長 (5.3.4)

※ 各部配筋参考図1.3による　・構造図(　　)による

柱主筋の継手、定着及び余長

※ 各部配筋参考図2.1による　・構造図(　　)による

大梁主筋の継手、定着及び余長

※ 各部配筋参考図3.1による　・構造図(　　)による

小梁主筋の継手、定着及び余長

※ 各部配筋参考図3.4による　・構造図(　　)による

壁主筋の継手、定着及び余長

※ 各部配筋参考図4.2による　・構造図(　　)による

スラブ筋の定着及び受け筋

※ 各部配筋参考図5.2による　・構造図(　　)による

⑥ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む)

最小かぶり厚さ(目地底から算出を行う) (5.3.5)

※ 標仕表5.3.6による

・構造図(　　)による

・

柱及び梁の主筋にD29以上の使用の有無

⊙無し

・有り　適用箇所(　　)

主筋のかぶり厚さ

・最小かぶり厚さ(　　)mm

・

特殊な要求性能におけるコンクリートの部分(耐久性上不利な部分)

⊙無し

・有り　適用箇所(　　)

・標仕表5.3.6に加える厚さ　(　　)mm

・

7. 既製コンクリート杭の杭頭補強

・構造図(　　)による　・

8. 特殊な鉄筋継手

適用箇所 (5.5.2)

・構造図(　　)による　・

性能(H12建告第1463号に適合するもの) (5.5.2)

・A級　・

機械式継手の種類　(　　) (5.5.2)

カプラー等の接合部分の相互のあき、最小かぶり厚さ (5.3.5)

・構造図(　　)による　・

品質の確認方法、不良となった継手の修正方法等 (5.5.2)

・構造図(　　)による　・

⑨ 各部配筋

※ 各部配筋参考図による (5.3.7)

・構造図(　　)による

⑩ 帯筋

組立の形の種別

※ 各部配筋参考図2.2による

・構造図(　　)による

11. 壁開口部の補強

一般壁

※ 各部配筋参考図4.4による

・構造図(　　)による　・

耐震壁

・構造図(　　)による　・

⑫ 梁貫通孔の補強

補強形式

※ 各部配筋参考図7.1、7.2による

・構造図(　　)による

梁貫通孔径(部材記号含む)及び配筋種別リスト

・構造図(　　)による

構造設計担当者　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / (R8) / R9	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N－78311号 住　所 長野県上田市住吉55番地2 設計者 小福田　洋 一級建築士(大臣)第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	構造　特記仕様書（１）

縮尺 A1　A3 NO SCALE　No. S-01

6 コンクリート工事

① コンクリートの使用骨材による種類及び強度

※ 普通コンクリート (6.2.1～6.2.4)

設計基準強度 Fc(N/mm2)	気乾単位容積質量 (t/m³)	スランプ (cm)	適用箇所
・ 21 ※ 24	2.3程度	・ 15 ⊙ 18	※ 基礎、基礎梁、土間スラブ ・
		18	※ 柱、梁、スラブ壁 ・
・ 18	2.3程度	・ 15 ・ 18	

② レディーミクストコンクリート

種別 (6.2.1)(表6.2.1)
※ Ⅰ類　・Ⅱ類

③ セメントの種類

(6.3.1)(表6.3.1)

セメントの種類	適用箇所
※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種	下記以外全て
・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種	

普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。

水和熱	7日	352 J/g 以下
	28日	402 J/g 以下

④ 骨材の種類

使用骨材のアルカリシリカ反応による区分 (6.3.1)(6.11.2)
※ A
・ B (コンクリート中のアルカリ総量 Rt=3.0kg/m³以下)

⑤ 混和材料

⊙ 混和剤 (JIS A 6204に適合するAE剤、AE減水剤又は高性能AE減水剤とし、化学混和剤の塩化物イオン量による区分はⅠ種とする。) (6.3.1)
・ 混和材 (JIS A 6201に適合するフライアッシュのⅠ種又はⅡ種、JIS A 6206に適合する高炉スラグ微粉末又はJIS A 6202に適合する膨張材)

⑥ 構造体強度補正

(6.3.2)(表6.3.2)

セメントの種類	コンクリートの打込みから材齢28日までの期間の予想平均気温θの範囲(℃)	
⊙ 普通ポルトランドセメント	0≦θ<8	8≦θ
・		
構造体強度補正値 (S) (N/mm2)	6	3

暑中コンクリート (日平均気温の平年値が25℃を超える期間にコンクリートを打ち込む場合)
構造体強度補正値　※ 6N/mm2　・

7. 無筋コンクリート

コンクリートの種類 (6.14.1～6.14.3)
※ 普通コンクリート

設計基準強度 Fc(N/mm2)	スランプ (cm)	セメントの種類	適用箇所
※ 18 ・	※ 15又は18 ・	⊙ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ・ 高炉セメントB種 ・ フライアッシュセメントB種	床下ピット土間コン

⑧ 打継ぎ目地の寸法、位置及び形状

目地寸法　⊙ 標仕9.7.3による　・ (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3)
間隔　⊙ 意匠図による　・ (6.8.2)
位置　⊙ 意匠図による　・ (6.8.2)
※ ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打ち増し厚さ部で処理する

⑨ コンクリートの仕上り

合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ (6.2.5)(6.6.6)(6.8.2)(表6.2.4)

種別	適用箇所
⊙ A種	
・ B種	
・ C種	

⑩ 打増し厚さ、ひび割れ誘発目地

打増し厚さ (6.8.1)
⊙ 打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
・ 20mm　⊙ 25mm
・ 打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る)
・ 10mm　・ 20mm
・ 外装タイル後張り面の打増し処理
・ 20mm　・
・ 床型枠用鋼製デッキプレートの梁側面部の打増し処理
プレートが支持される梁の側面について下記の打増しを行う
・ 10mm　・ 20mm
打増し範囲　⊙ 意匠図による　・
ひび割れ誘発目地の位置、形状及び寸法　⊙ 意匠図による　・

⑪ コンクリート躯体表面の処理

MCR工法 (6.8.1、2)
施工範囲　※ 外装タイル後張り面の躯体表面　・ 意匠図による
MCR工法は、せき板面にMCR工法用気泡ポリエチレンシート張りとし、仕上がり面は凹凸状態とする。
高圧水洗工法
施工範囲　・ 意匠図による　・
コンクリートの増打ち厚さ　※ 20mm　・
高圧水洗工法の目荒しは、水圧50N/mm²以上かつ2.5分/㎡以上とし、施工計画書を監督職員に提出し承諾を受ける。また、目荒しの状態は、事前に監督職員に承諾を受ける。

⑫ 型枠

せき板の材料 (6.8.2)
⊙ 合板 (・ 表面加工品　・ 表面品質B-C　・　)
材質　※ 複合合板　・ 針葉樹合板　・ 広葉樹合板
厚さ　※ 12mm　・
⊙ 床型枠用鋼製デッキプレート
使用箇所等　※ 構造図による
・ 断熱材兼用型枠
適用及び適用箇所について　※ 特記仕様書 19.11 による
・
スリーブの材種 (6.8.2)(表6.8.1)
⊙ 標仕6.8.3(i)(2)及び標仕 表6.8.1による
・

⑬ 型枠の存置期間及び取外し

標仕6.8.5による。 (6.8.4)

⑭ コンクリートの養生方法

標仕6.7による。 (6.7.1～6.7.3)

⑮ コンクリート強度及び試験方法

標仕6.5.5、6.9.2、6.9.3、6.9.4による。 (6.5.5)(6.9.2～6.9.4)

⑯ 生コンの品質管理

打ち込み量50m³以上となるコンクリート工事においては担当技術者を配置し、監督職員に報告すること。
供試体には、工事受注者がサインしたQC版(供試体型枠側面に張り付ける確認版)を入れる。

⑰ コンクリートの単位水量測定

・ 行わない
・ 行う
実施要領
(1) 単位水量の測定は、150m³に1回以上、及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。
(2) 単位水量の上限値は、標仕6.3.2(2)による。
(3) 単位水量の管理目標値は次のとおりとして施工する。
1) 測定した単位水量が、計画調合書の設計値(以下、「設計値」という)±15kg/m³の範囲にある場合はそのまま施工する。
2) 測定した単位水量が、設計値±15を超え±20kg/m³の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定をする。
3) 設計値±20kg/m³を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い、設計値±20kg/m³以内であることを確認する。更に、設計値±15kg/m³以内で安定するまで運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。
4) 3)の不合格生コンについては、確実に持ち帰ったことを確認する。
(4) 単位水量管理についての記録を書面(計画調合書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。
(5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。

7 鉄骨工事

① 鉄骨の製作工場

製作工場の加工能力 (7.1.3)
※ 建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鐵構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(　　)グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場。
・ 監督職員の承諾する製作業者

② 施工管理技術者

※ 適用する (7.1.3)(7.1.4)(7.6.2)(7.12.2)
・ 適用しない

③ 製作精度

※ (社)日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則6「鉄骨精度検査基準」による (7.3.3)

④ 建方精度

※ (社)日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則6「鉄骨精度検査基準」、付表5「工事現場」による (7.10.2)

⑤ 鋼材

(7.2.1)(表7.2.1)
鋼材の材質　・ 構造図(　　)に別記する

種類の記号	適用箇所	規格等
⊙ SS400　・ SM400	梁	※ JIS規格による
⊙ STK400	柱	※ JIS規格による
・ STKR400　・ STKR490		※ JIS規格による
⊙ SNR400	垂直ブレース、水平ブレース	※ JIS規格による
⊙ SN490B　・ SN490C	ベースプレート	※ JIS規格による
・ SSC400		※ JIS規格による
		※ JIS規格による

⑥ 高力ボルト

区分 (7.2.2)(7.3.2)
⊙ トルシア形高力ボルト 2種(S10T) 認定番号 (　　)
・ JIS形高力ボルト 2種(F10T)
高力ボルトの径
※ 構造図による　・
すべり係数試験 (7.4.2)
※ 行わない　・ 行う

⑦ 縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等

高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、 (7.2.2)(7.3.2)
ボルト径、ゲージ等
※ 図示　・

8. 溶融亜鉛めっき高力ボルト

セットの種類 (7.2.2)
・ 1種(F8T) 認定番号 (　　)　・
摩擦面の処理 (7.12.5)
※ ブラスト処理(表面粗度50μmRz以上)
・ りん酸塩処理
すべり耐力等の確認方法
・ 構造図による　・

⑨ アンカーボルト

材質 (7.2.4)
⊙ 構造用
・ SNR400B　・ SNR490B　⊙ ABR490
・ 建方用
・ SS400　・
アンカーボルト及びナットのねじの種類の規格、ねじの等級の規格及び仕上げ
⊙ 構造用
※ JSS Ⅱ 13-2004「(社)日本鋼構造協会規格/建築構造用転造ねじアンカーボルト・ナット・座金のセット」
・
・ 建方用
※ 普通ボルトによる
・
保持及び埋込み工法 (7.10.3)(表7.10.1)
・ 構造用
※ 構造図による　・
・ 建方用
・ 標仕 表7.10.1(・ A種　・ B種　・ C種)による

⑩ 普通ボルト

ボルト及びナットの材料等
※ 標仕表7.2.3による　・
ボルトの径　※ 図示　・

⑪ 柱底均しモルタル

モルタルの種別 (7.2.9)
⊙ 無収縮モルタル　・
無収縮モルタルの材料及び調合
材料、調合等
⊙ 標仕7.2.9による
品質及び試験方法
⊙ 標仕 表7.2.6による
工法の種別
⊙ 標仕 表7.10.2による
・ A種［モルタル厚さ50mm］　⊙ B種［モルタル厚さ30mm］

⑫ ターンバックル

種類 (7.2.6)
建築用ターンバックル胴
⊙ 割枠式　・
建築用ターンバックルボルト
⊙ 羽子板ボルト　・
ねじの呼び (7.2.6)
⊙ 構造図(　　)による
・

13. デッキプレート

工法の種別 (7.2.7)
・ 合成スラブ　・ 床型枠用
・
材質、形状及び寸法
・ 構造図(　　)による　・
鉄骨部材への溶接方法
・ 構造図(　　)による　・
耐火認定
・ あり　・ なし

14. スタッドボルト

(7.2.5)

径(呼び名)	長さ(呼び長さ) (mm)	適用箇所
16φ	・ 80　・ 100　・ 120	2F、RFのRCスラブを受ける梁
19φ	・ 80　・ 100　・ 130　・ 150	2F、3Fの合成梁とする B梁
22φ	・ 80　・ 100　・ 130　・ 150	

⑮ 入熱、パス間温度の溶接条件

鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件
⊙ 構造図(　　)による
・ 図示　・
適用箇所
・ 構造図(　　)による
⊙ 柱、梁、ブレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部

⑯ 溶接接合

スカラップの形状 (7.6.7)
・ 改良型　⊙ ノンスカラップ　・ 図示　・
エンドタブの切除
・ 行う
適用箇所
・ 全て　・ 構造図(　　)による
⊙ 行わない

⑰ 溶接部の試験

完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 (7.6.12)
※ 行う
⊙ 工場溶接の場合
平均出検品質限界(AOQL)(%)　※ 4.0　・ 2.0
節　・ 全て　・
検査水準　・ 第1水準　・
・ 現場溶接の場合
AOQL(%)　※ 4.0　・ 2.0
・ 行わない
外観検査　※ 行う (検査率 ※ 全数　・　)　・ 行わない
(H12建設省告示第1464号第2号による)
※ 超音波検査率
工場溶接部については自主検査100%、第三者による受入検査30%とする
現場溶接部については第三者による受入検査100%とする
・

⑱ 錆止め塗装

塗料の種別 (7.8.4)(18.3.2)
鉄鋼面

種別	適用箇所
⊙ 標仕 表18.3.1 A種	・ 屋外(標仕7.8.2の範囲以外)　・
・ 標仕 表18.3.1 B種	・ 屋内(標仕7.8.2の範囲以外)　・
・	・

亜鉛めっき面

種別	適用箇所
・ 標仕 表18.3.2 A種	・ 屋外、屋内
・	・

鋼製スリーブの内側(鉄骨に溶接されたもの)

種別	適用箇所
・ 標仕 表18.3.1 B種	・
・	・

19. 耐火被覆

種別等 (7.9.2～7.9.7)

種別	材料・工法	適用箇所(部位・部分)
・ 耐火材吹付け	・ 乾式吹付けロックウール	
	・ 半乾式吹付けロックウール	
	・ 湿式吹付けロックウール	
	・	
	・	
・ 耐火板張り	・ 繊維混入けい酸カルシウム板 ・	
・ 耐火材巻付け	・ 高耐熱ロックウール	
	・	
・ ラス張りモルタル塗り	－	

材料及び工法は、建築基準法に基づき指定又は認定を受けたものとする

性能

性能	適用箇所(部位・部分)
・ 30分耐火	
・ 1時間耐火	
・ 2時間耐火	
・ 3時間耐火	

20. 溶融亜鉛めっき

(7.12.4)(表14.2.2)
種別等

亜鉛めっきの種別	材料	適用箇所
・ A種(HDZ55)	最小板厚 6.0mm以上の形鋼、鋼板	※ 構造図による ・
・ B種(HDZ45)	最小板厚 3.2mm以上、6.0mm未満の形鋼、鋼板	
・ C種(HDZ35)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 1.6mm以上、3.2mm未満の形鋼、鋼板	

21. 梁貫通孔の補強

補強方法
・ 補強プレート法
・ 補強トラス法
・ 既製リング(認定工法)
適用箇所
※ 構造図(　　)による

・ その他共通

1. 軽微な変更への対応(予め検討)

施工の関係上、止むを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、予め検討を行っている範囲及び対応方法
尚、本検討は計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、品質管理上の施工誤差を許容するものではない
・ 杭の芯ずれを考慮した検討
予め検討の範囲及び対応方法　※ 構造図による　・
・ 杭の長さの変更を見込んだ検討
予め検討の範囲及び対応方法　※ 構造図による　・
・ 梁貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討
予め検討の範囲及び対応方法　※ 構造図による　・

構造設計担当者　金子　幸治
1級建築士大臣登録　第299534号
構造設計1級建築士　第9230号

鉄筋コンクリート構造配筋標準図

1. 一般事項

(1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。

(2) 記号

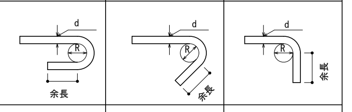
d･･･異形棒鋼の呼び名に用いた数値、丸鋼では径　D･･･部材の成　R･･･直径

@･･･間隔　r･･･半径　℄･･･中心線　Lo･･･部材間の内法距離　ho･･･部材間の内法高さ

ST･･･あばら筋　HOOP･･･帯筋　S.HOOP･･･補強帯筋　φ･･･直径又は丸鋼

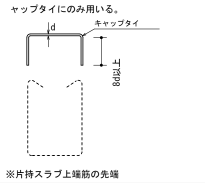
2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上（※4d以上）	8d以上（※4d以上）

折曲げ内法寸法Rは、SR235は3d以上、SD295A、SD295B、SD345のD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上

折まげ角度90°はスラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁のキャップタイにのみ用いる。



※片持スラブ上端筋の先端

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状　鉄筋の折曲げ角度90° 以下

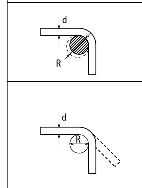


図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内のり寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ D16 以下	3d以上
			19φ D19 以上	4d以上
	上記以外の鉄筋	SR235、SD295A SD295B、SD345	16φ D16 以下	4d以上
			19φ～25φ D19～D25	6d以上
			28φ～32φ D29～D38	8d以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

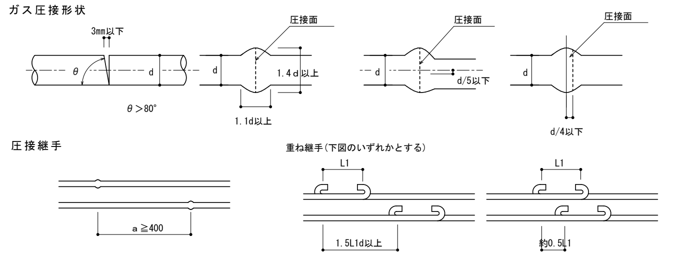
鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm²)	定着の長さ 一般 (L2)	定着の長さ 下ば筋 (L3) 小梁	定着の長さ 下ば筋 (L3) スラブ	特別の定着及び重ね継手の長さ (L1)
SR235	21～36	35d フックつき	25d フックつき	15cmフックつき	35d フックつき
	18以下	45d フックつき			45d フックつき
SD295A SD295B SD345	21～36	35d または 25d フックつき	25d または 15d フックつき	10d かつ 150mm以上	40d または 30d フックつき
	18以下	40d または 30d フックつき			45d または 35d フックつき

継　手

1. 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
2. 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
3. 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
4. D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
5. 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない

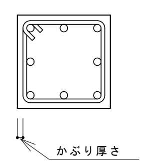
ガス圧接形状

圧接継手　　重ね継手(下図のいずれかとする)



(4) かぶり厚さ　（単位：mm）

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり厚さが部分的に減少する箇所に付いても最小かぶり厚さを確保する。



部位			設計かぶり厚さ (mm)	最小かぶり厚さ (mm)
土に接しない部分	屋根スラブ 床スラブ 非耐力壁	屋内	30	20
		屋外	40(1)	30(20)
	はり 柱 耐力壁	屋内	40	30
		屋外	50(2)	40(1)(30)
	擁壁		50(3)	40
土に接する部分	柱・はり・スラブ・耐力壁		50	40(4)
	基礎・擁壁		70	60(4)

（注）(1) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事管理者の承認を受けて30mmとすることができる。

(2) 耐久性上有効な仕上げのある場合、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。

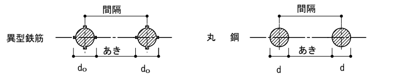
(3) コンクリートの品質及び施工法に応じ、工事監理者の承認を受けて40mmとすることができる。

(4) 軽量コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。

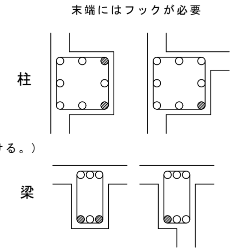
(5) 鉄筋のあき

丸鋼では径、異型鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上

粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



図の●印の鉄筋の重ね継手の末端にはフックが必要



(6) 鉄筋のフック　（a～fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。）

a, 丸鋼　b, あばら筋,帯筋　c, 煙突の鉄筋

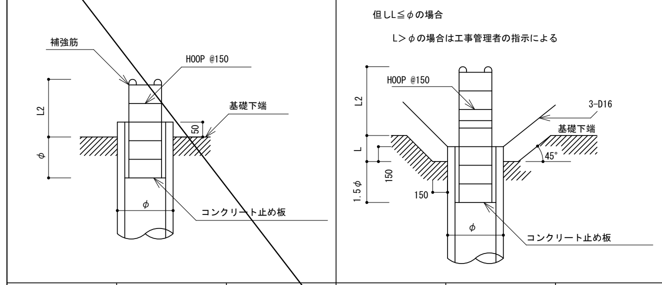
d, 柱、梁(基礎梁は除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)

e, 単純梁の下端筋

f, その他、本配筋標準に記載する箇所

3. 杭　（地震力等の水平力を考慮する必要のある場合は、別途検討すること。）

(1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

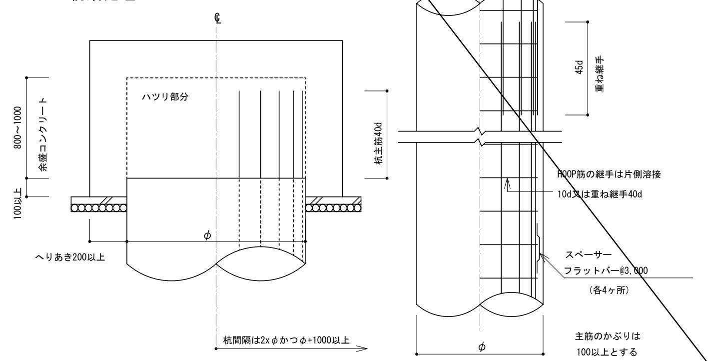
所定の場所に止まった場合	所定より低く止まった場合
	

杭径	300φ, 350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16
HOOP	D10-@150				

※上端主筋の定着は、やむを得ない場合、上向きとすることができる

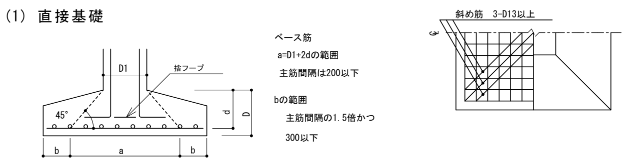
(2) 現場打ちコンクリート杭

杭頭処理

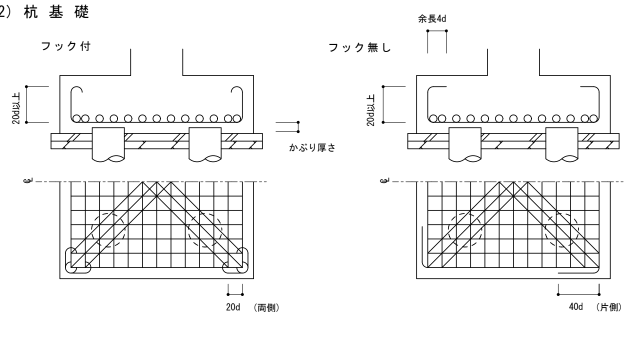


4. 基　礎

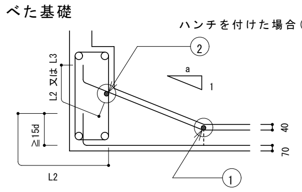
(1) 直接基礎



(2) 杭基礎

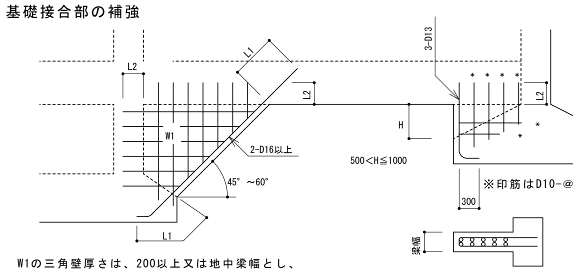


(3) べた基礎



1. 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう　但し上筋と下筋を読みかえる
2. ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
3. ②の鉄筋はD13以上
4. 埋戻し土のある場合は40を70とする

(4) 基礎接合部の補強

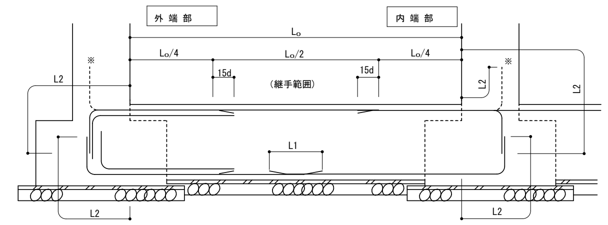


W1の三角壁厚さは、200以上又は地中梁幅とし、配筋は同厚の壁リストにならう

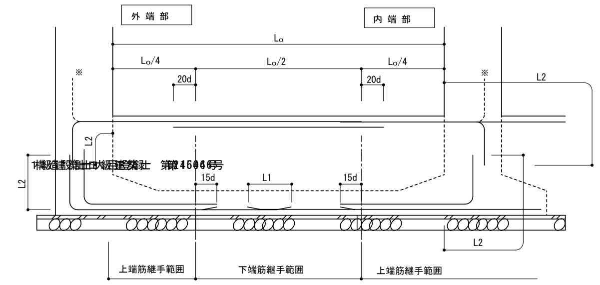
H≦500は※印筋は不用とする

5. 地中梁　梁主筋は柱成Dに対して柱内に３／４Ｄ以上の水平定着を確保すること。

(1) 独立基礎、杭基礎の場合　（定着、継手）

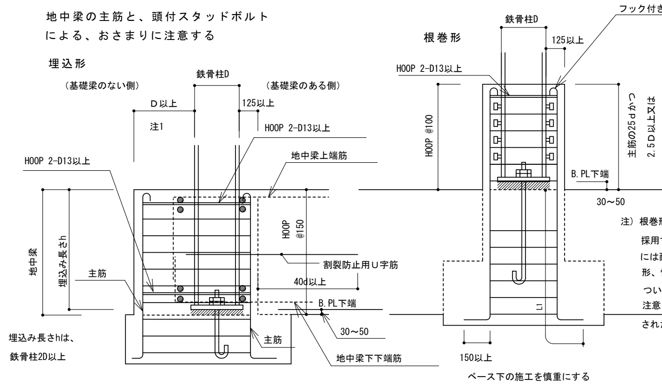


(2) 布基礎、べた基礎の場合　（定着、継手）



(3) 小規模鉄骨構造の柱脚固定の配筋

地中梁の主筋と、頭付スタッドボルトによる、おさまりに注意する

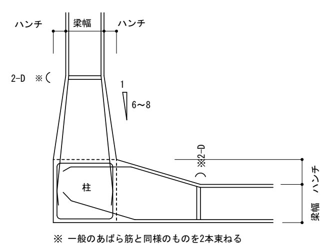


埋込み長さhは、鉄骨柱2D以上

（注1　計算によらない場合である）

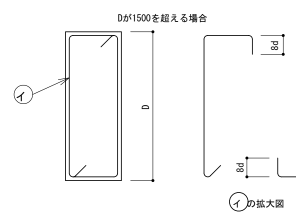
注）根巻形柱脚を採用する場合には耐力、変形、性能などについて十分に注意して設計されたもの。

(4) 水平ハンチの場合のあばら筋加工要領



※ 一般のあばら筋と同様のものを2本束ねる

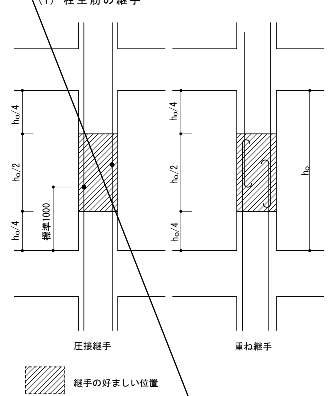
(5) せいの高い梁のあばら筋加工要領図

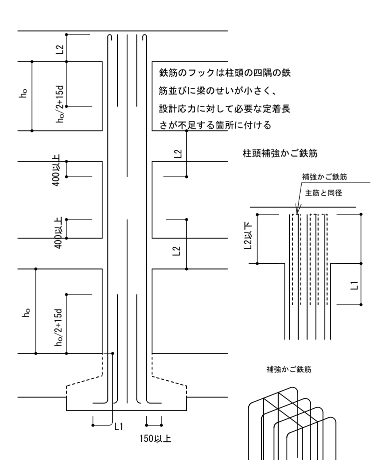


6. 柱

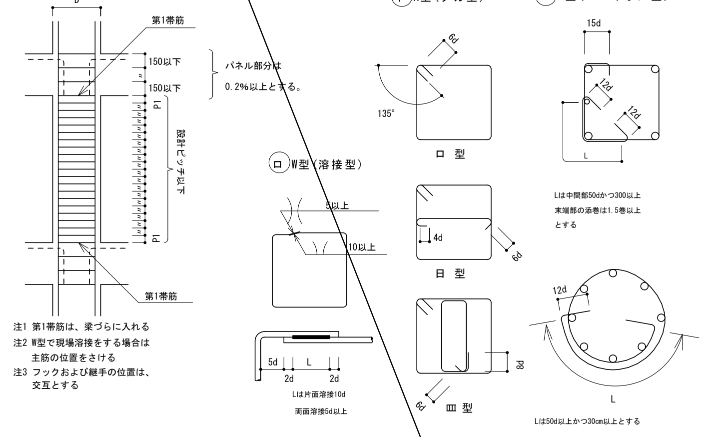
(1) 柱主筋の継手

(2) 柱主筋の定着





(3) 帯筋



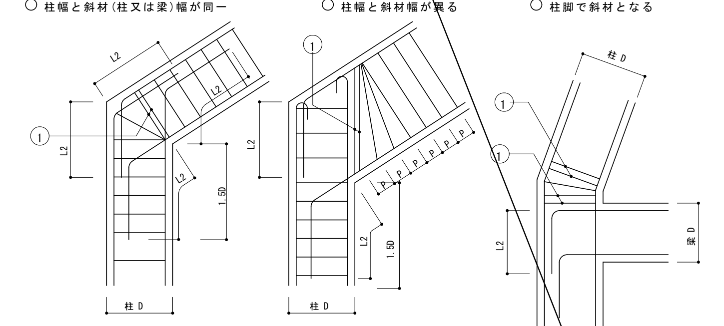
注1 第1帯筋は、梁づらに入れる

注2 H型で現場溶接をする場合は主筋の位置をさける

注3 フックおよび継手の位置は、交互とする

(4) 斜め柱・斜め梁

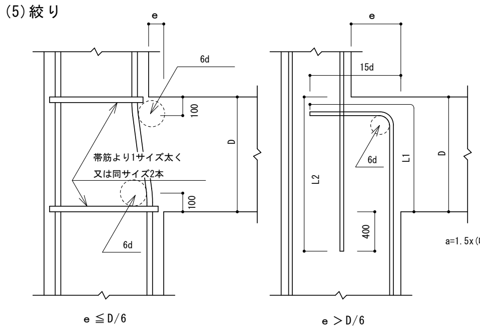
○ 柱幅と斜材(柱又は梁)幅が同一　○ 柱幅と斜材幅が異る　○ 柱脚で斜材となる



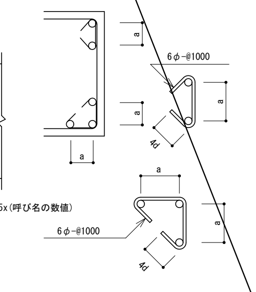
注1. 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし＠100以下とする

注2. ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

(5) 絞り



(6) 二段筋の保持



構造設計担当者　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / (R8) / R9	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N－78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者 小福田 洋 一級建築士(大臣)第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	鉄筋コンクリート配筋標準図	縮尺 A1 A3 NO SCALE	No. S-03

鉄　骨　構　造　標　準　図　(1)

1. 一般事項

(1) 材料及び検査

(a) 構造設計仕様による

(b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが40㎜以下のものとする

(c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する

(2) 工作一般

(a) 鉄骨製作及び施行に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事管理者の承認を得る

(b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による

(c) 高張力鋼の歪み矯正は、冷間矯正とする

(3) 高力ボルト接合

(a) 本締めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
建方時には仮締めボルトを使用し、高力ボルトを使用してはならない。

(4) 溶接接合

(a) 溶接技能者

溶接技能者は施工する溶接に適用するJIS Z3801(手溶接)又はJIS Z3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引き続き、半年以上溶接に従事している者とする

(b) 溶接機器

(ｲ) 交流アーク溶接機 300A～500A　　(ﾆ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機

(ﾛ) アークエアーガウジング機(直流)　　(ﾎ) 溶接電流を測定する電流計

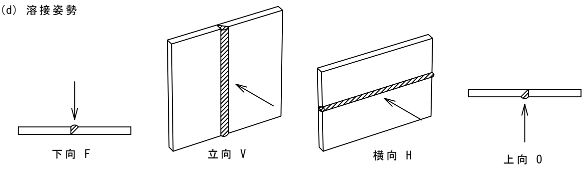
(ﾊ) サブマージアーク溶接機一式　　(ﾍ) 溶接棒乾燥器

(c) 溶接方法

アーク手溶接(MC)　　ガスシールドアーク半自動溶接(GC)

セルフ(ﾉﾝｶﾞｽ)シールドアーク半自動溶接(NGC)　　アークエアーガウジング(AAG)

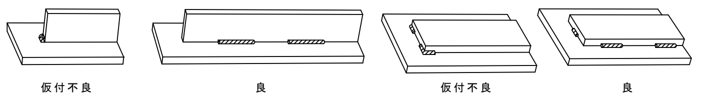
(d) 溶接姿勢



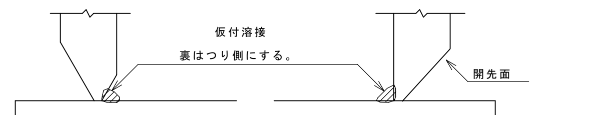
(e) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う

(ｲ) 仮付位置

組立て溶接は溶接の始端、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける



(ﾛ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



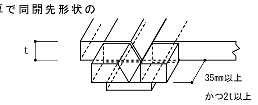
(f) 溶接施工

(ｲ) エンドタブ

Ⅰ) 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。

Ⅱ) エンドタブの材質は、母材と同質とする。

Ⅲ) エンドタブの長さは、MC：35㎜以上
NGC、GC:40㎜以上とし特記のない場合は、溶接終了後、
母材より10㎜程度残し切断して、グラインダー仕上げとする。



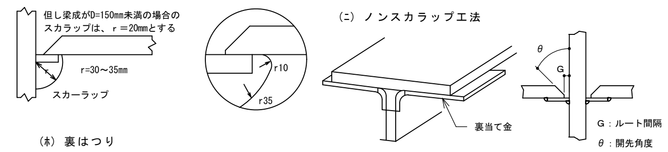
Ⅳ) プレス鋼板タブ、固形タブ使用については、資料を提出して設計者又は工事監理者の承認を得る。

(ﾛ) 裏あて金

材質は母材と同質材料とし厚さは手溶　　接で6㎜、半自動溶接で9㎜以上とする。

(ﾊ) スカラップ 半径は30～35㎜と、10㎜　　のダブルアールとする。

(ﾆ) ノンスカラップ工法



(ﾎ) 裏はつり

基準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監理者の確認を励行し、部材に確認マークを付ける。

(ﾍ) 現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。又、開先部をいためない様に、養生を行う。

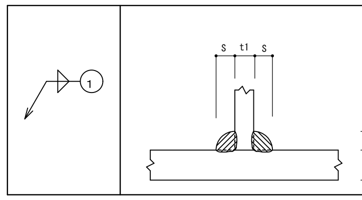
(5) 塗装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない

2. 溶接規準図

(注) f:余盛　G:ルート間隔　R:フェース　S：脚長　(単位 ㎜)

(1) 隅肉溶接



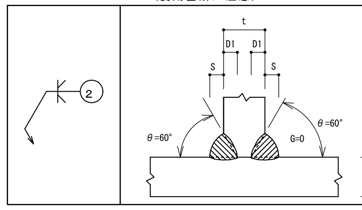
t≦16㎜				
t	7以下	8～10	11～13	14～16
S	6	7	10	12

・但し片面溶接の場合はS＝tとする

・tはt1、t2の小なる方とする
余盛は(1+0.1S)㎜以下とする

・軸力が加わる場合のSは母材と同厚とすることが望ましい

(2) 部分溶込み溶接　(使用箇所に注意)



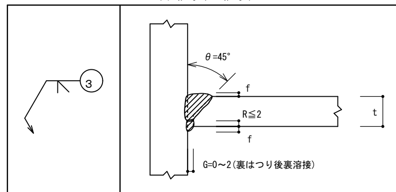
R≦2　t/4≦S≦10㎜

t≦t1

t	t＞16㎜
溶接姿勢	F.V

・両端に補強隅肉溶接を付加する

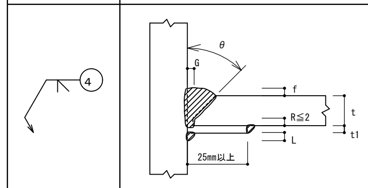
(3) 完全溶込み溶接　(平継手、T継手)



f＝t/4

t	6＜t＜19㎜
溶接姿勢	F.V

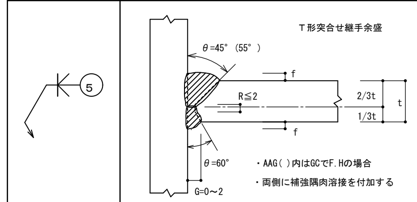
・両側に補強隅肉溶接を付加する AAG



f＝t/4

	MC NGC				GC			
t (㎜)	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6≦t≦12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t＜16	35°	9	9	8	45°	6	9	8
16≦t	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

・補強隅肉溶接を付加する

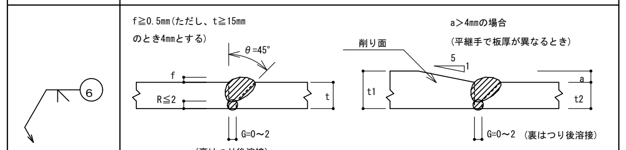


T形突合せ継手余盛　f＝t/4

のど厚 t㎜	余盛の高さ ㎜
t≦4	1
4＜t≦12	2
12＜t≦19	3
t＞19	4

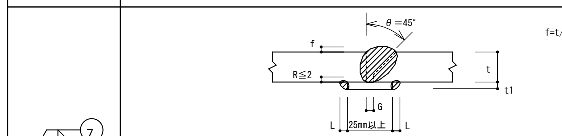
t	t≧19㎜
溶接姿勢	F.V

・AAG( )内はGCでF.Hの場合
・両側に補強隅肉溶接を付加する



t	6＜t＜19㎜
溶接姿勢	F.V

・両端に補強隅肉溶接を付加する

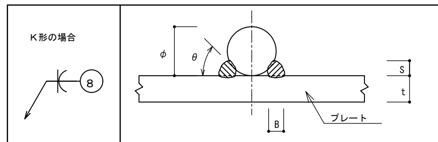


f=t/4

	MC NGC				GC			
t ㎜	θ	G	t1	L	θ	G	t1	L
6＜t＜12	45°	6	6	5	45°	6	6	5
12≦t≦19	35°	9	9	5	45°	6	9	5
t≧19	35°	9	9	8	35°	9	9	8
溶接姿勢	F.V							

(4) フレアー溶接

K形の場合

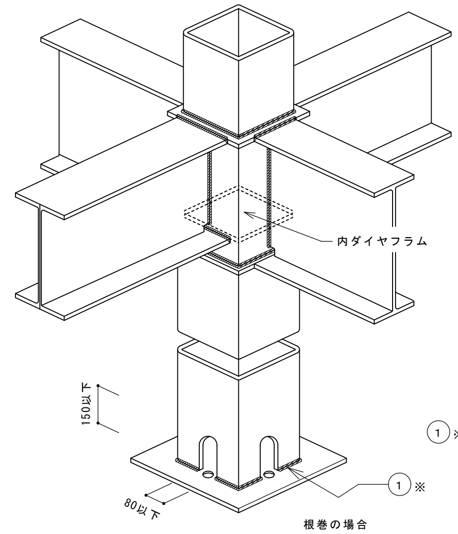


寸法 (㎜)		
φ	B	S
9	7	4
13	8	4.5
16	9	5
19	10	6
22	11	7
25	12	8

・フレアー溶接長は、鋼板に接する全長とする
・9㎜～16㎜は1スパン以上、19㎜以上は2パス以上とする
溶接｣棒角度θは30°～40°とする

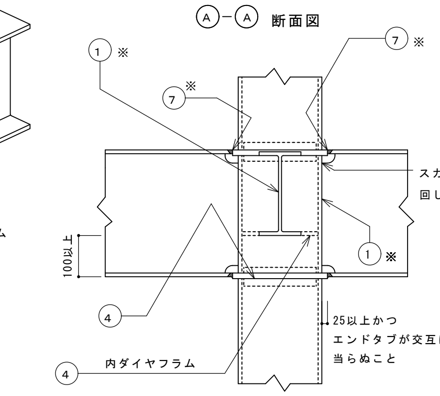
・溶接記号番号を○中に記入のこと

・ＢＯＸ型　(通しダイヤフラムの場合)



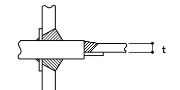
1 ※ t＞16㎜の場合の溶接は、 3 ～ 5 とする。

Ａ－Ａ 断面図

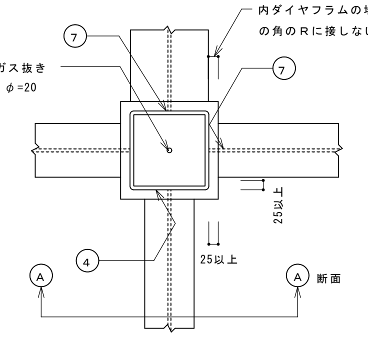


1 ※ t＞16㎜の場合の溶接は、 3 ～ 5 とする。

7 ※ 梁フランジは、通しダイヤフラムの厚み(t)の内部で溶接する事

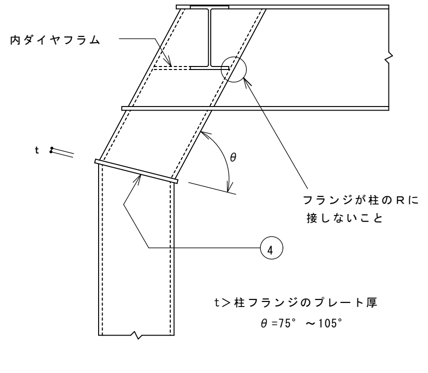


平面詳細図

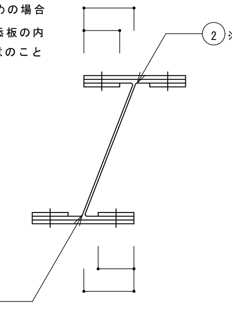


<柱材料：ＢＣＲ295,ＢＣＰ325を使用する場合>
ダイヤフラムは、ＳＮ490Ｂ･Ｃ、ＳＭ490同等以上の鋼材を使用する事。
ダイヤフラム厚は、接合する柱、梁の最大厚の1サイズアップとする事。

◉柱が途中で折れる場合
及梁成が異なる場合



大梁が斜めの場合は溶接と添板の内側板に注意のこと

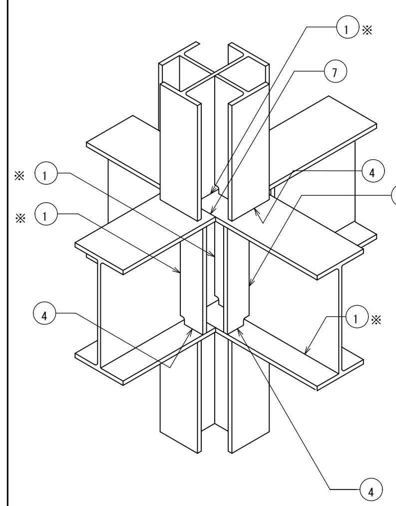


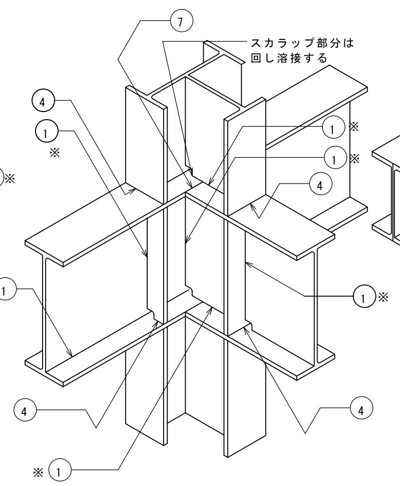
2 ※ t＞16㎜の場合の溶接は、 3 ～ 5 とする。

◉鋼材種別による溶接条件

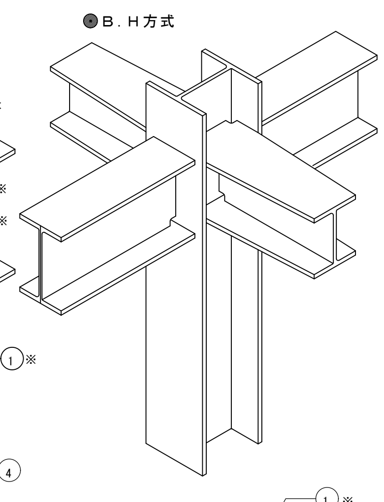
鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	パス温度差 (°C)
400Ｎ級鋼	JIS Z 3211,3212,3214	40以下	350以下
	ＹＧＷ－11,15		
	ＹＧＷ－18,19		
	ＹＧＡ－50W,50P		
490Ｎ級鋼	JIS Z 3212,3214	40以下	350以下
	ＹＧＷ－11,15	30以下	250以下
	ＹＧＷ－18,19	40以下	350以下
	ＹＧＡ－50W,50P		

・┼ ┣ Ｈ 型

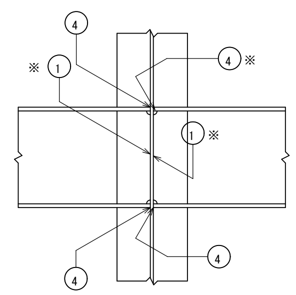


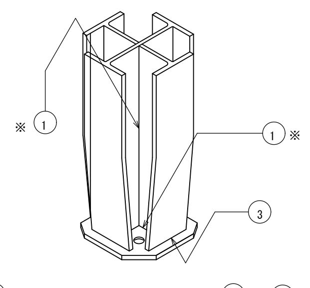


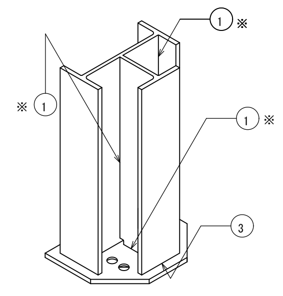
◉Ｂ．Ｈ方式



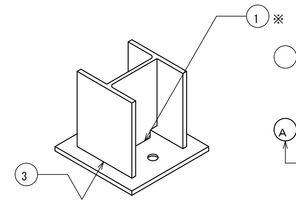
Ａ－Ａ 断面図



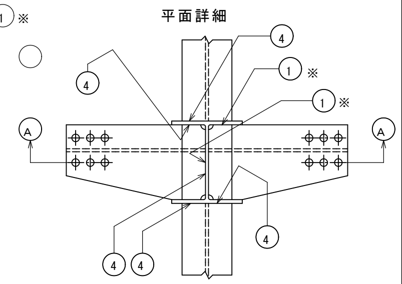




1 ※ t＞16㎜の場合の溶接は、 3 ～ 5 とする。



平面詳細



1 ※ t＞16㎜の場合の溶接は、 3 ～ 5 とする。

構造設計担当者　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / (R8) / R9	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N－78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者 小福田 洋 一級建築士(大臣)第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	鉄骨構造標準図(1)	縮尺 A1 / A3 NO SCALE	No. S-04

鉄骨構造標準図（２）

３．継手基準図、その他

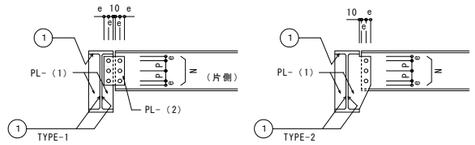
（１）ボルトピッチ（P）、ボルト穴径・最小縁端距離

（mm）

呼び	ボルト穴径	最小縁端距離（e）				ピッチ（P）	
		（1）	（2）	（3）	（2）（3）の標準	最小	標準
M16	18	40	28	22	40	40	60
M20	22	50	34	26	40	50	60
M22	24	55	38	28	40	55	60
M24	26	60	44	32	45	60	70

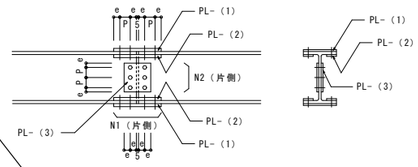
［注］（１）　引張材の接合部で応力方向にボルトが3本以上並ばない場合の応力方向の縁端距離。
（２）　せん断縁、手動ガス切断縁の場合の縁端距離。
（３）　圧延縁、自動ガス切断縁、のこ引き縁、機械仕上縁の場合の縁端距離。

（２）ピン接合梁継手リスト



符号	タイプ	部材	PL-（1）	PL-（2）	N-径
		＊　部材リスト参照			

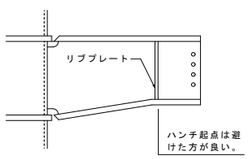
（３）剛接合梁継手リスト（SCSS-H97による）



［注］端部をBHとする場合の部材は設計図による。

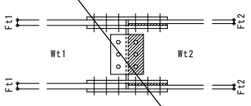
符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL-（1）	PL-（2）	N1-径	PL-（3）	N2-径

（４）ハンチ部の継手



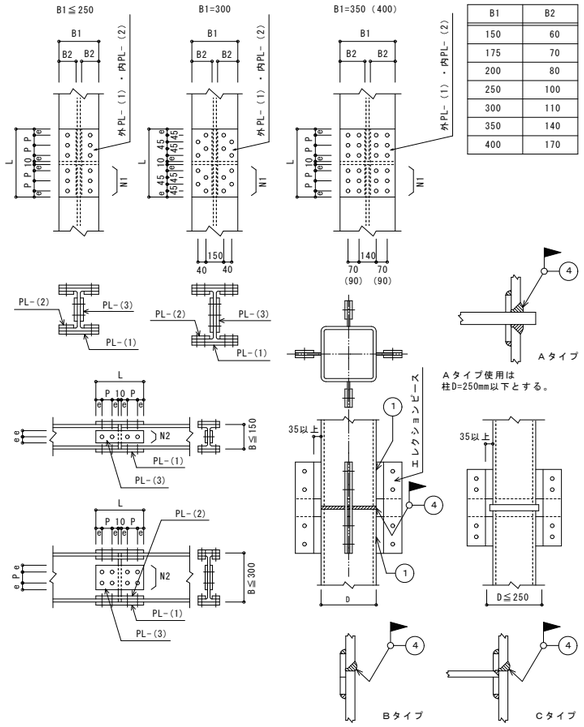
ハンチ勾配は普通1：4程度であるが構造図による。

フランジ及びウェブ厚の差がある場合



Ft1－Ft2
Wt1－Wt2　≧1mmフィラープレート併用の事。

（５）継手リスト（SCSS-H97による）



B1	B2
150	60
175	70
200	80
250	100
300	110
350	140
400	170

［注］現場溶接は原則として超音波探傷試験を100%行う。

符号	部材	フランジ			ウェブ	
		PL-（1）	PL-（2）	N1-径	PL-（3）	N2-径
	＊　部材リスト参照					

（６）鉄筋ブレース（JIS規格品とする。JIS5540、1982／5541、5542、1993）

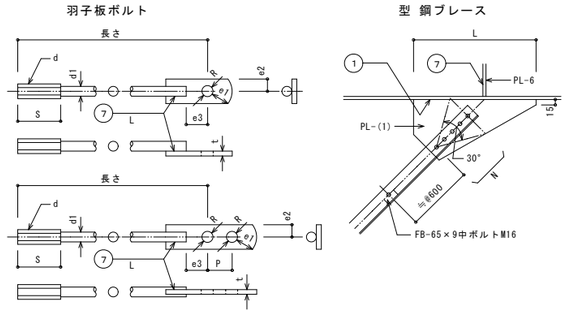
（ａ）羽子板ボルト

ねじの呼び（d）			M12	M14	M16	M18	M20	M22	M24
軸径ｄ１		最大	10.81	12.65	14.65	16.33	18.33	20.33	21.99
		最小	10.64	12.46	14.46	16.11	18.11	20.11	21.77
調整ねじの長さ		S	100	115	125	140	150	165	175
取り付けボルト穴径 許容差＋0. -0.5mm		R	13	17	17	21.5	21.5	23.5	21.5
端あき（最小）（2）e1			35	40	45	50	50	55	50
切板製	縁あき（最小）（1）e2		22	28	28	34	34	38	38
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
平鋼製	縁あき（最小）（1）e2		19	25	25	32.5	32.5	37.5	37.5
	板厚	t	4.5	6	6	9	9	9	9
ボルト端から取付けボルト穴芯のあき（最小）		e3	47	52	59	66	66	73	70
溶接長さ（最小）		L	40	50	55	60	75	85	85
取付けボルト（２）	種類		JIS B1186 2種高力ボルト（F10T）又は JIS B1180 中8g10.9						
	ねじの呼び		M12	M16	M16	M20	M20	M22	M20
	本数		1	1	1	1	1	1	2

［注］（１）e1、e2が確保されていれば形状は自由で良い。
（２）羽子板とガセットプレートの接合は表に示す取付けボルトを使用し、
一面せん断（支圧）接合とする。

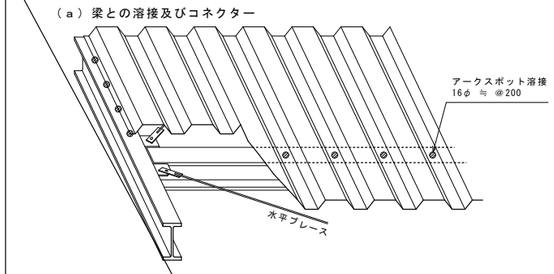
（ｂ）型鋼ブレース

符号	部材	PL-（1）	N-径	L
	＊　部材リスト参照			

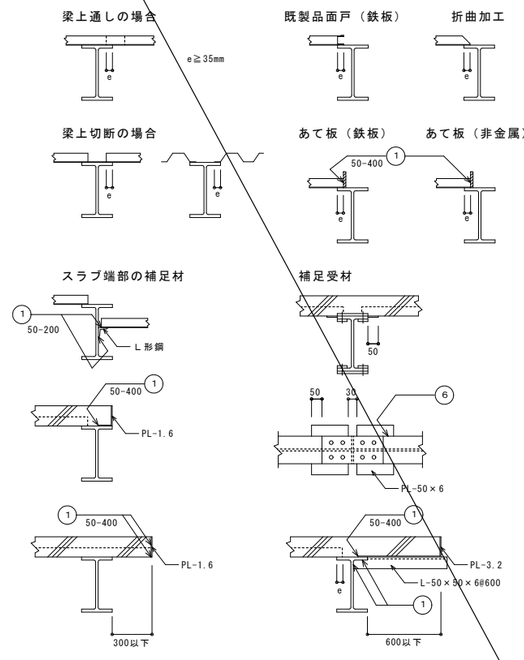


（７）デッキプレート（床剛性を考慮する合成床、合成梁のときは構造図参照）

（ａ）梁との溶接及びコネクター

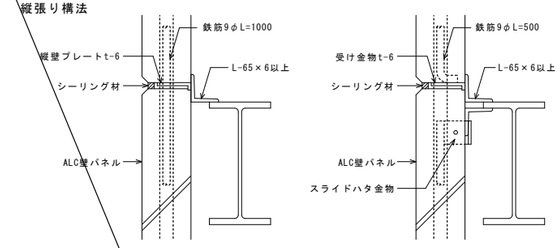


（ｂ）受梁への掛かり寸法及び端部処理



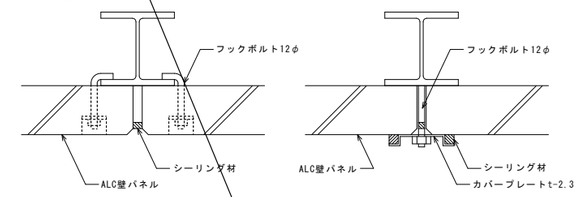
（８）ALC板取付け要領

縦張り構法



□　押入筋構法　　□　スライド構法

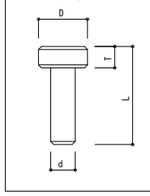
横張り構法



□　ボルト止め構法　　□　カバープレート構法

（９）頭付きスタッド（JIS　1198）

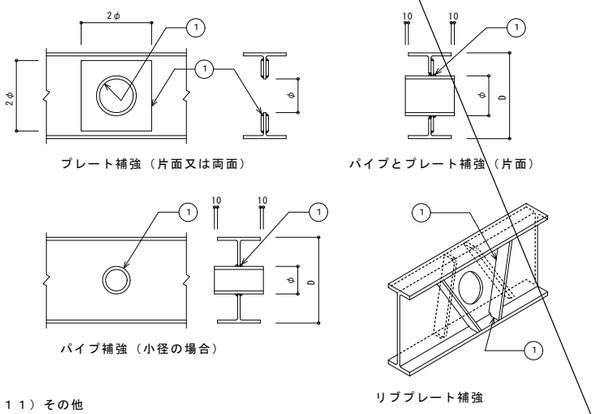
スタッド材の標準形状・寸法



スタッド材				
呼び名	軸径d（mm）	頭径D（mm）	頭高さT（mm）	溶接後の長さL（mm）
φ13mm	13.0 12.7	22.0 25.4	10.0 7.9	50、80、100、130
φ16mm	16.0 15.8	29.0 31.7	10.0 7.9	80、100、130
φ19mm	19.0 19.0	32.0 31.7	10.0 9.5	80、100、130、150
φ22mm	22.0 22.2	35.0 34.9	10.0 9.5	100、130、150

（１０）梁貫通補強

・　計算で確認された場合は下記の位置・寸法によらなくて良い。
・　梁端部（スパンの1／10以内かつ2D以内）は避ける事。
・　φ　≦　0.4D



（１１）その他

構造設計担当者　　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8 / R9	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N－78311号 住所　長野県上田市住吉55番地2 設計者　小福田　洋　一級建築士(大臣)第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	鉄骨構造標準図（２）

縮尺	A1	A3	No.
		NO SCALE	S-05

木質工事特記仕様書（1）

1．一般事項

（1）適用範囲

本仕様書は建築物および工作物の構造上主要な部分に木材を用いる工事に適用する。

■ は適用項目を示すものとする。

（2）設計図書

設計図書とは本仕様書、設計図、見積要領書（現場説明書および質疑回答書を含む）をいう。

（3）標準仕様書

設計図書に記載なきものは「住宅金融支援機構監修・木造住宅工事仕様書」及び「国土交通大臣官房官庁営繕部監修・木造建築工事標準仕様書」に準ずる。

上記の仕様書に記載なき場合は、公共規格かこれに準ずる規格を適用する。

（4）設計図書の優先順位

設計図書の優先順位は下記による。

1．見積要領書（現場説明書及び質疑回答書）
2．設計図
3．本仕様書
4．標準仕様書

（5）疑義

疑義を生じた場合や工法の提案を行いたい場合には監理者に申し出、その処理方法について協議する。

（6）製作要領書及び施工計画書の作成・提出

工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。

（7）施工図及びプレカット図の提出

工事に先立ち各種の施工図を作成し監理者の承諾を受ける。また、必要に応じて接合部のモックアップの作成を行う。プレカット製品を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。

（8）製作工場の選定、承諾

設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し、監理者の承諾を受ける。

（9）各種試験・検査報告書の提出

工場生産者、施工者は、その工種工事毎に自主検査を行い、記録を作成、保管する。

施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。

2．材料の品質

2.1 木質材料

（1）構造用製材

本項の内容は特記無き限り、構造用製材や広葉樹製材、下地用製材を対象とし、製材の日本農林規格に準拠する。

【構造用製材】

部 位	樹種名	強度等級	乾燥処理	保存処理	材面の美観
土台	ヒノキ	1等	防腐処理材	−	−
柱	ヒノキ	4面 上小節	KD	−	化粧
桁・火打ち	米松	1等	KD	−	−
桁・火打ち	ヒノキ	上小節	KD		化粧
棟木・母屋	米松	1等	KD	−	−
小屋束	米松	1等	KD	−	−

【下地用製材】

部 位	樹種名	強度等級	乾燥処理	保存処理	材面の美観
床	米松	1等	KD	−	−
壁	スギ	1等	KD	−	−
壁、天井	赤松	1等	KD	−	−

【広葉樹製材】

部 位	樹種名	強度等級	乾燥処理	保存処理	材面の美観
梁		強度の指定をし、構造用製材の機械等級区分と同程度の試験（検査）で品質管理を行う	含水率を指定し、構造用製材の機械等級区分と同程度の試験（検査）で品質管理を行う	K1、K2、K3、K4、K5の性能区分で指定	特級、1級、2級により指定
柱					

□ 記入無き梁桁、母屋、垂木等の曲げ材のうち、見えがかり材は目視等級材の甲種2級、見えない部分の木材は甲種3級とする。その他は乙種2級とする。

□ 主要構造部には機械等級区分製材を用いることを原則とする。

■ 乾燥の際背割りを行う。但し見えがかり部・相欠き部材・構造用合板の釘接合面には行わない。

■ 含水率は平均含水率とし下地材等に用いる場合でも含水率D25以下であることを確認する。

■ 強度等級を指定した材料は特に、材料の欠点の節、目切れ等に注意して材料を選定し、仕口や接合部に欠点が当たらないように加工する。

■ 材の曲がりについては、上記にかかわらず目視等級1級相当とする。

（2）枠組壁工法構造用製材、枠組壁工法構造用たて継ぎ材

本項の内容は特記無き限り、枠組壁工法構造用製材及び枠組壁工法構造用たて継ぎ材の日本農林規格に準拠する。

部 位	品 名	寸法形式	樹種名・群	区分、等級	保存処理
（記入例）	甲種枠組材	乾燥材は「D」を寸法形式に付す		特級、1級、2級、3級により指定	K1、K2、K3、K4、K5の性能区分で指定
	乙種枠組材			コンストラクション、スタンダード、ユティリティ により指定	
	MSR製材			曲げ応力等級を指定 必要なら引張強度性能も	
	縦枠用たて継ぎ材			−	
	甲種たて継ぎ材			甲種枠組材と同じ	
	乙種たて継ぎ材			乙種枠組材と同じ	

（3）構造用集成材、構造用単板積層材（LVL）

本項の内容は特記無き限り、集成材及び単板積層材の日本農林規格に準拠する。

【構造用集成材】

ラミナの枚数や特殊な試験については必要に応じて特記する。

部 位	樹種名	品 名	強度等級	材面の品質	使用環境	ホルムアルデヒド放散量
柱	ホワイトウッド	1等級、120×120	1等	A種	−	F☆☆☆☆
桁	レッドウッド	1等級、120×330、360、390	1等	A種	−	F☆☆☆☆

【構造用単板積層材（LVL）】

単板の樹種や防虫処理については必要に応じて特記する。

部 位	樹種名	区 分	曲げ性能	水平せん断性能	使用環境	ホルムアルデヒド放散量
梁（記入例）	複数樹種の場合使用量の多いものから順に記載	特級、1級、2級で指定	曲げヤング係数で10段階に区分 特級の 140E 120E が一般的に生産	タテ使い、平使いのせん断強さを表す 60V-51H などで記載	A、B、Cで指定	F☆☆☆☆等で指定

（4）構造用合板、構造用パネル（OSB）

本項の内容は特記無き限り、合板及び構造用パネルの日本農林規格に準拠する。

【構造用合板】

単板の樹種や防虫処理については必要に応じて特記する。

部 位	強度等級	曲げ性能基準（1級のみ）	板面の品質	接着の程度	寸 法	ホルムアルデヒド放散量
床下地	2級		C-D以上	1類	24mm	F☆☆☆☆
壁下地	2級		C-D以上	特類	12mm	F☆☆☆☆
野地板	2級		C-D以上	特類	12mm	F☆☆☆☆

板面の品質は、通常は1級がB-C、2級がC-D

【構造用パネル（OSB）】

部 位	曲げ性能	厚 さ	ホルムアルデヒド放散量
（記入例）	常態曲げ試験、湿潤曲げ試験の曲げ強さ、曲げヤング係数で定められる1級、2級、3級、4級で指定		F☆☆☆☆等で指定

（5）丸太やそま角

本項の内容は特記無き限り、銘木類を除く建築その他一般の用に供される、素材の日本農林規格などに準拠する。

部 位	樹種名	縦振動ヤング係数区分	等 級
（記入例）		Ef150など測定した縦振動ヤング係数で定められる区分で示す	材の品質を1等、2等、3等、4等で示す

2.2 接合具

ここに示す接合具などは、木質構造の接合部に適用する。

接合具の材質は一般普及品を使用することを原則とし、特殊なものを使用したい場合は特記とする。

接合具に錆を生じる恐れのある場合は適切な防錆処理を施す。鋼材の表面処理は特記による。標準めっき処理は溶融亜鉛めっき鋼板：Z27(JIS G 3302) 電気亜鉛めっき：Ep-Fe/Zn5/CM2とする。

（1）くぎ、木ネジ、特殊ネジ

種 類	材 質			径（mm）	長さ（mm）	使用箇所	頭部／胴部形状
■ N釘	鉄	JIS G 3532	SWM-N			耐力壁、床板、屋根	皿頭網目付き／スムース
	ステンレス	JIS G 4309	SUS304			耐力壁、床板、屋根	平頭フラット及び網目付き/スムース
■ CN釘	鉄	JIS G 3532	SWM-N			耐力壁、床板、屋根	平頭フラット
□ SN釘	鉄	JIS G 3532	SWM-B			シージングボード用	平頭 フラット/バーブ
□ GNF釘	鉄	JIS G 3532	SWM-B			石膏ボード用	平頭フラット
□							
□ DTSNネジ	鉄	JIS G 3507-2	SWCH18A、22A			石膏ボード用	トランペット
□ 石膏ボードビス	（大臣認定番号 ）					石膏ボード用	トランペット
□							

（2）ボルト、ナット、座金

ボルト・ナットはJIS B 1180、JIS B1181の規格による。

種 類	材 質			径（mm）	長さ（mm）	防錆処理、使用箇所など
■ 呼び径六角ボルト ■ 有効径六角ボルト ■ 全ネジボルト	鉄	JIS G 3101 JIS G 3505 JIS G 3507-1	SS400 SWRM8～10 SWRCH8～10			■ 電気亜鉛めっき □（ ）
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304			生地
■ アンカーボルト	鉄	JIS G 3101 JIS G 3505 JIS G 3507-1	SS400 SWRM8～10 SWRCH8～10			■ 電気亜鉛めっき □（ ）
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304			生地
■ 角座金 ■ 丸座金	鉄	JIS G 3131	SPHC SS400			■ 電気亜鉛めっき □（ ）
	ステンレス	JIS G 4303	SUS304			生地

・座金は用途ごと（引張、せん断）に下表により使い分ける。 （単位：mm）

座金の大きさ ＼ ボルト径		8	10	12	16	20	24
引張を受けるボルト	厚さ	4.5	4.5	6	9	9	13
	角座金の一辺	40	50	60	80	105	125
	丸座金の直径	45	60	70	90	120	140
せん断を受けるボルト	厚さ	3.2	3.2	3.2	4.5	6	6
	角座金の一辺	25	30	35	50	60	70
	丸座金の直径	30	35	40	60	70	80

（3）ドリフトピン、ラグスクリュー、ジベル（スプリットリング、シアプレート）、木栓

種 類	材 質			径（mm）	長さ（mm）	防錆処理、使用箇所など
□ ドリフトピン	鉄	JIS B 1180	強度区分4.6又は4Tに適合する炭素鋼			□ 電気亜鉛めっき □（ ）
□ ラグスクリュー（コーチボルト）	鉄	JIS B 1180	強度区分4.6又は4Tに適合する炭素鋼			□ 電気亜鉛めっき □（ ）
□ スプリットリング	鉄	JIS G 3101	SS400			
□ シアープレート	鉄					□ 電気亜鉛めっき
□ 木栓	堅木					

・木栓はナラ・ケヤキ・カシ等で気乾比重0.6以上の広葉樹とし、節や目切れ等の欠点の無いものとする。

（4）接合金物、鋼材

種 類	材 質	短期許容接合耐力	メーカー、品名等	防錆処理、使用箇所など
■ 筋かい端部の接合部	別図「A-19筋交・耐力面材・接合金物平面図」参照			■ 溶融亜鉛めっき □ 電気亜鉛めっき
				□ 溶融亜鉛めっき □ 電気亜鉛めっき
■ 柱頭・柱脚接合部	別図「A-19筋交・耐力面材・接合金物平面図」参照			■ 溶融亜鉛めっき □ 電気亜鉛めっき
				□ 溶融亜鉛めっき □ 電気亜鉛めっき
				□ 溶融亜鉛めっき □ 電気亜鉛めっき
■ 横架材接合部	別図「A-19筋交・耐力面材・接合金物平面図」参照			■ 溶融亜鉛めっき ■ 電気亜鉛めっき
				□ 溶融亜鉛めっき □ 電気亜鉛めっき
				□ 溶融亜鉛めっき □ 電気亜鉛めっき
□（ ）				□（ ） □（ ）
□ 鋼材				□（ ） □（ ）

＊15kN以上、25kN以下の場合は、アンカー長 L=360mm

（5）接着剤（接着接合）

ここでいう接着接合とは、建設現場で用いるものを対象とし、内容は特記による。

3．材料品質の検査方法

（1）構造用製材および枠組壁工法構造用製材

現場または加工工場に搬入された製材等は、加工に先立ち下記の要領で受け入れ検査を実施し、速やかに監理者に報告する。また係員の立会いを要する検査については、指定された試験要領に基づいて、適時抜取り検査を実施する。社内検査で試験本数や抜取り率の指定がない場合は原則全数とする。検査の結果、性能を満たさない材料については適用箇所を変更する等の措置を行う。

（数値は%を示す）

部 材	確認する仕 様	確認者	材種等級	外観検査	寸法検査	含水率測定 表示	含水率測定 全乾重量法	含水率測定 含水率計	ヤング係数測定 表示	ヤング係数測定 静的試験	ヤング係数測定 動的試験
土台 柱 桁・火打 母屋 棟木 小屋束	無等級材	社内	材種：100	100	100		＊1	100		＊1	100
		監理者	○	○	○			○			○
	目視等級区分材	社内	100	100	100	100			100		
		監理者	○	○	○	○			○		
	機械等級区分材	社内	100	100	100	100			100		
		監理者	○	○	○	○			○		
		社内									
		監理者									

□ 日本農林規格の目視等級区分構造用製材、機械等級区分構造用製材を使用する場合は製造工場の認定書の写しを確認する。

■ 含水率測定の時期は、監理者の指示による。

□ （ ）

＊1：監理者の指示による （樹種、等級、伐採地等が同じであれば1荷口と判断できる）

・監理者欄の○は立会い検査が必要であることを示す。

・材種・等級は表示を確認し、外観・寸法検査は日本農林規格に準じて行う。

・含水率やヤング係数は刻印された表示の確認を原則とし、全乾重量法や静的ヤング係数試験は公的試験場にて行う。含水率計は日本住宅・木材技術センター認定品を、動的ヤング係数は全国木材組合連合会の認定品を用いて測定することを原則とする。

・全乾重量法や静的ヤング係数試験は1荷口につき確認する本数で示す。試験体は実際に使用する同一部材の中から抽出し、木材の試験方法（JIS Z 2101）に準ずる。

・特記無き場合は、含水率計による測定は、製材加工後の工場出荷前に行う。

・特記無き場合は、動的試験は製材後（継手などの工場加工前に）に行う。

（2）構造用集成材、構造用単板積層材（LVL）、構造用合板、構造用パネルなど

搬入される全製品について、下記の要領で受け入れ検査を実施し、速やかに管理者に報告する。

材 料	確認項目	確認の方法
構造用集成材	部位、断面、長さ、数量、 樹種、品名、強度等級、材面の品質、使用環境、ホルムアルデヒド放散量	■ 製造工場の認定書等の写し ■ 日本農林規格（JAS）表示の確認 □ 立会い目視検査
構造用LVL	部材、断面、長さ、数量、樹種、 区分、曲げ性能、水平せん断性能、使用環境、ホルムアルデヒド放散量	
構造用合板	寸法、数量、強度等級、 曲げ性能基準、板面の品質、接着の程度、ホルムアルデヒド放散量	
構造用パネル	寸法、数量、 部位、曲げ性能、ホルムアルデヒド放散量	

・必要性能を満たさない材料は用いない。

（3）接合具

現場または加工工場に搬入される全ての接合具について、下記の要領で受け入れ検査を実施し、速やかに管理者に報告する。

接合具の種類	確認項目	確認の方法
■ くぎ	・鋼材種別、胴・頭径部、長さ、仕上げ	■ ミルシートの写し ■ 表示の確認 ■ 木栓曲げ試験
■ 木ネジ、特殊釘	・鋼材種別、径、長さ、仕上げ	
■ ボルト・ナット	・鋼材種別、径、長さ、仕上げ	
■ 座金	・鋼材種別、径、仕上げ	
■ ドリフトピン	・鋼材種別、径、長さ、仕上げ	
■ ラグスクリュー	・鋼材種別、径、長さ、仕上げ	
■ スプリットリング	・鋼材種別、径、形状、仕上げ	
■ シアープレート	・鋼材種別、径、形状、仕上げ	
■ 木栓、車知	・材種、曲げ強度	

・設計図書に明記された接合具であることを確認する。同等性能の接合具を用いる場合には、その主旨を監理者に申し出、承諾を得る。

・木製品の接合具については、予め曲げ試験などにより性能の確認を行いその結果を報告する。また必要に応じて立会いによる性能確認を実施する。

（4）接合金物

現場または加工工場に搬入される全ての接合金物について、下記の要領で受け入れ検査を実施し、速やかに管理者に報告する。

接合金物	確認項目	確認の方法
■ アンカーボルト・座金	・座金・鋼材種別、径、長さ、仕上げ	■ ミルシートの写し ■ 表示の確認 ■ Zマーク同等認定書 ■ Cマーク同等認定書 ■ 性能認定書 ■ 性能評価書
■ Zマーク金物 ■ Zマーク同等認定品 ■ Cマーク金物 ■ Cマーク同等認定品 ■ 性能認定品 ■ 性能評価品 □	・鋼材種別、形状、仕上げ、製造所	
□ 鋼材	・鋼材種別、形状、仕上げ、溶接	

・設計図書等に明記された接合金物であることを確認する。同等認定品や性能評価品等を用いる場合には、その主旨を監理者に申し出、承諾を得る。

構造設計担当者 金子 幸治
1級建築士大臣登録 第299534号
構造設計1級建築士 第9230号

木質工事特記仕様書（２）

４．耐久性（防腐・防蟻・耐候処理）

（１）木材の防腐・防蟻処理

・高耐久材の使用（注：部材は心材あるいは心持ち材または集成材とする）

・工場処理材（注：現場の加工、切断、穿孔箇所などは、現場処理に準じる）

JAS保存処理材　：　K5　K4　(K3)　K2　K1

AQ認証保存処理材：　１種　２種　３種

・現場処理（注：接合部、亀裂部、コンクリートなどに接する部分は、特に入念な処理を行う。

給排水用塩化ビニル管に接する部分は、薬剤による損傷を防ぐため管を

保護する。　処理方法は、日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。）

■ 塗布　・ 吹付　■ 浸漬

特記無き場合は、処理量：　300　ml/m 2 、処理回数：2回

使用薬剤：日本しろあり対策協会または日本木材保存協会の認定品とする。

使用部位	高耐久材	工場処理材	現場処理
土台	■ ひのき	■ K3　□（　）	□ 塗布
外周柱下部1m	■ ホワイトウッド	□ K3　□（　）	■ 塗布
水周り	□（　）	□ K3　□（　）	□（　）
その他	□（　）	□ K4　□（　）	□（　）

（２）土壌処理

□防蟻薬剤による処理：薬剤（　）

特記無き場合は、日本しろあり対策協会または日本木材保存協会認定品、あるいはこれと同等

以上の効力を有するものとする。

□防蟻薬剤による処理と同等以上の対策　（　べた基礎　）

□土壌処理省略 □北海道　□東北　□北陸　□（　）

注：処理範囲は、外周部布基礎の内側、内部布基礎の周辺２０ｃｍ、束石等の周囲２０ｃｍ

を標準とし、処理方法は日本しろあり対策協会の標準仕様書に準じる。

（３）耐候処理（塗装）

部位	塗料の種類	色の有無
	・造膜型　・含浸型	・着色（　色）・透明
	・造膜型　・含浸型	・着色（　色）・透明
	・造膜型　・含浸型	・着色（　色）・透明
	・造膜型　・含浸型	・着色（　色）・透明

５．木材の加工

（１）刻み時の注意

製材に背割りのある場合、曲げ材は断面の弱軸と背割りの方向を一致させる。

（２）加工寸法の精度

図面表示は仕上がり寸法である。

下記を除き、2．1木質材料に示す材の仕上げ後の断面寸法の許容差は各々の農林規格の寸法

許容差に準ずる。ただし、上限値が制限なしとなっている場合は、協議による。

材種：□　（　）　□（　）

構造用製材、下地用製材、広葉樹製材、枠組壁工法構造用製材、枠組壁工法構造用たて継ぎ材、

化粧梁構造用集成柱の材長

■ 軸組み工法の継ぎ手仕口の場合：±1.5mm以下

■ ボルト接合工法の場合　　：±5mm以下

構造用集成材、構造用単板積層材の材長

材長：■ ±5mm以下　□　（　）

ボルト穴径　（dはボルト径）

集成材　：　d+1.0mm　（d≦M12）、d+2.0mm（d≧M16）

接合金物等：　d+1.5mm　（d≦M12）、d+1.5mm（d≧M16）

ドリフトピンの穴径：ｄ±0mm　（dはボルト径）

（３）表面仕上げ

□製材　化粧材：　野物材：　板材：

（４）塗装

素地調整：汚れ付着物を除去する

下地塗り　：　仕上げ塗り：

（５）面取り

□柱　：（　）　mm

□梁　：（　）　mm

６．接合

（１）仕口、継手の原則

・仕口、継手の方法は構造図による。特記無き場合は 1.(3)標準仕様書に示された在来構法用

の一般的な適用慣例に従う。一般的な適用慣例については、８．軸組構法接合部の標準仕様

による。

・採用する方法は監理者の承認を得る。

・仕口、継手の各部に作用する応力を考慮し、部材の引き抜けが生じないように、原則として

羽子板ボルトや木栓など、引張り抵抗をする補強部材を併用する。

・下記接合部の項目について2.2接合具に記載された仕様での施工を確認する。

・接合部付近に節・目切れなどの欠点がある場合は、耐力を低減する、接合具の本数を増加する

など監理者と協議して承認を得る。

（２）釘接合

・釘は材の繊維に対して乱に打ち、割れを生じないように端距離、縁距離、釘間隔を大きく取る。

・釘の長さは材厚の2.5倍以上とする。

・１ヶ所の釘の本数は２本以上とする。

・釘に錆を生じるおそれのある場合は、適切な防錆処理を施す。

・自動釘打ち機を使用する場合は、面材に釘がめり込まないようにする。そのために、釘打ち機

の圧力を弱めるか、最後は手打ちを用いるなどの方法による。

・構造用面材を耐力壁とする場合の釘打ち方法は「昭和56年建設省告示1110号」による。

・構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。

・木口面に打たれた釘は、引き抜き方向に抵抗させることはできない。

（３）木ネジ接合

・構造耐力上主要な部分において、木ネジを引き抜き方向に抵抗させることは避ける。

・木口面にねじ込まれた木ネジは、引抜き方向に抵抗させることはできない。

・木ネジの先孔の径：針葉樹　主材　・、側材　0.6d　0.8d　（dはネジ径）

広葉樹　主材　、側材　1.0d

（先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの２／３程度とする。）

・ねじ込みには適切な道具を使い、ハンマーなどで打ち込んではならない。

・ねじ込みを容易にしたり、損傷させないために潤滑油などを用いてもよい。

（４）ボルト接合

・締め付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適しているものである

ことを確認する。

・ボルトの締め付けは2回以上に分けて行い、1群のボルトの締め付けは一様となるように行う。

・ボルトの締め付けは、座金が部材にめり込む程度とし、めり込み音が発生した時点で締め付け

を完了する。

・締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから２山以上突き出ていることを確認する。

・一度締め付けたボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだもの

については再度締め直しを行う。

（５）ラグスクリュー接合

・構造耐力上主要な部分において、ラグスクリューを引き抜き方向に抵抗させることは避ける。

・座金の厚さと大きさは、同じ胴径のボルト接合部における規定値を用いる。

・締め付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径等が施工箇所に適しているもので

あることを確認する。

・ネジ部の先孔の径：比重　0.5以上の樹種・・・ネジ径の 60～ 75%

その他の樹種・・・ネジ径の 40～ 70%

（長さはネジ部の長さと同寸以上とする。）

・ラグスクリューは先孔にレンチなどで回しながら挿入し、ハンマーなどで打ち込んではなら

ない。

・ねじ込みを容易にするためや、損傷させないために潤滑油などを用いてもよい。

・胴部の先孔の径は胴部と同径とし、長さも胴部と同寸とする。

・一度ねじ込んだラグスクリューを抜き直し、再びねじ込むことは避ける。

（６）ドリフトピン接合

・ドリフトピンは孔に密着させる。

・一度締め付けた併用ボルトについても、木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、

緩んだものについては再度締め直しを行う。

（７）ジベル接合

・木部材は接合部付近の割れ、節、目切れなどの欠点がないよう注意し、彫込み・打ち込み

または圧入に際して割れを生じないよう、ジベルの種類に応じた断面と余長をもたせる。

・接合材は十分圧着させる。木材の収縮によるボルトの緩みをチェックし、緩んだものに

ついては再度締め直しを行う。

・特殊ジベルは使用箇所、使用方法を確認する。

（８）接合金物による接合

・羽子板ボルト、ひら金物、短冊金物、かね折り金物および箱金物などの取り付けは、それぞれ

の仕様に基づき、接合両材の間が密着するように締め付ける。

・大断面材用の接合金物に関しては、それぞれの仕様に基づく。

（９）接着接合

・接合部の耐力は、使用材料および使用方法に適した接着性能の試験を行い確認する。

・接着剤を用いた接合を行う手順は、接着剤製造業者の推奨する接着仕様に従うとし、実験に

よって接合部に要求される耐力と耐久性が立証された場合はその際の作業条件を標準とする。

（１０）その他の方法による接合

・使用材料および使用方法は構造図によるものとし、監理者の承認を得る。

７．運搬・建方

（１）輸送計画

製品の輸送に当たっては、建方計画に支障がないように、道路状況、現場作業手順等を考慮し

十分な検討を行う。また、輸送時に製品の品質を損なわないようにする。

□　輸送計画書の提出　〔　〕

（２）集積・保管

集積の際は適当な受け台などを設け、材にねじれや曲がりの損傷を与えないように注意する。

降雪や降雨に対する保護としてシート養生を行う。ただし、エアコンの効いた室内は乾燥に

よる割れが発生するため避ける。

□　集積場の確認　〔　〕

（３）建方計画

■　建方計画書の提出

アンカーボルトの施工方法、建方スペース、建方機械、搬入・仕分け、地組み、足場計画、建方、

養生、安全対策などについて検討し、建方計画書としてまとめる。

（４）施工時の安全性

建方作業中および作業後、横架材上に諸材料または機械などの重量物を積載する場合、あるいは

柱に大きな引張力を与えるなどの場合は監理者の承認を受ける。また、強風などによる諸外力に

対しては、必要に応じて仮設補強等の処置を施す。

□　施工時の安全性に対する検討書の提出　□　施工時荷重条件の通知

（５）アンカーボルトの施工

・芯出しは、型板を用いて基準墨に正しく合せて適切な機器等で正確に行う。

・アンカーボルトは鉄筋等を用いて組立て、適切な補助材で固定しコンクリートの打ち込みを

行う。

・アンカーボルトはダブルナットとする。　□適用除外　〔　〕

・土台の穴あけはコンクリート打設後、ボルトの通り芯からのずれを実測してから行う。

（６）建方精度

・建方の精度基準は下記による。

■建物の倒れ　：　□　e≦H／2500+10mm　かつ　e≦50mm

□　〔　〕

■梁の水平度　：　□　e≦Ｌ／700+ 5mm　かつ　e≦15mm

（節点間のレベル差）　□　〔　〕

■建物のわん曲　：　□　e≦L／2500mm　かつ　e≦25mm

□　〔　〕

■柱据え付け面の高さ及びアンカーボルトの位置

柱据え付け面の基準高さからの誤差　：　■±3mm以下　□　〔　〕

通り芯からの誤差　：　■±3mm以下　□　〔　〕

階高　：　■－5mm≦ΔH≦+5mm

□　〔　〕

・建方精度に不具合が発生した場合は速やかに監理者に報告し対応策を協議する。

（７）施工状況の検査

・アンカーボルト施工時の立会い検査

■　目視による精度確認　□　計測機器による精度確認　■　アンカーボルト径、間隔

■　施工者自主検査記録の提出〔　〕

・地組み時の立会い検査

■　目視による精度確認　□　計測機器による精度確認　□　材料の加工寸法検査

□　施工者自主検査記録の提出〔　〕

・建方時の立会い検査

■　目視による精度確認　■　計測機器による精度確認　□　材料の加工寸法検査

■　施工者自主検査記録の提出〔　〕

・建方後の施工状況の検査

□　防腐・防蟻処理　■　材料の加工寸法検査　■　接合具の施工状況

■　接合金物の施工状況

□　その他〔　〕

■　施工者自主検査記録の提出〔　〕

・最終確認

工事中に発生するボルトの緩み、接合具および接合金物に影響する材の割れ、接着面の

はがれ等に注意を払い、不具合が発生した場合は是正する。補強の必要がある場合は

速やかに監理者に報告し対応策を協議する。

■　施工者自主検査記録の提出〔　〕

８．軸組構法接合部の標準仕様

各接合部共通：プレカット製品を使用する場合はその形状および許容耐力に及ぼす影響を

確認する。

（１）横架材どうしの継手

１．曲げ応力や引張力を負担しない継手：腰掛け蟻継ぎ、腰掛け鎌継ぎ

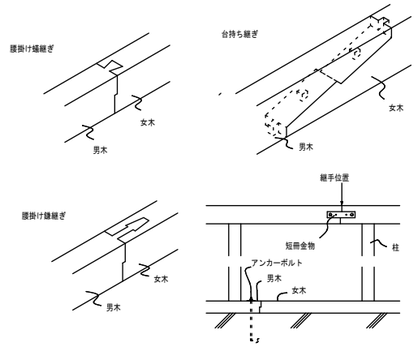
・せん断力が大きい場合は台持ち継ぎとする。

・長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。

・逆せん断と引張の補強として短冊金物等を併用すること。

・柱からの持ち出し位置は、連続梁の長期荷重の反曲点付近とする。

・土台の場合は、継手から男木側100mm付近にアンカーボルトを設ける。

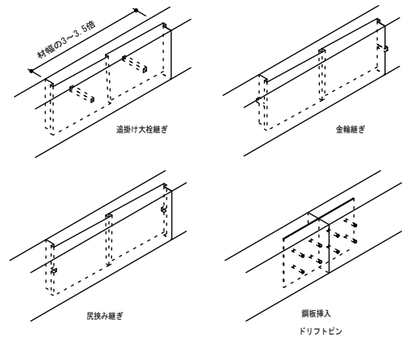


プレカット機械による継手・仕口

２．曲げ応力や引張力を負担する継手

：追掛け大栓継ぎ、金輪継ぎ、尻挟み継ぎ、鋼板挿入ドリフトピン接合

・伝達できる曲げモーメントや引張力は母材全断面強度の20%以下と考えること。



（２）柱の継手

・階の中間部における柱の継手は原則として禁止する。

・やむを得ず柱の継ぎ手を設ける場合は、曲げと軸力による複合応力の検定を行い安全性を

確認する。

（３）横架材どうしの仕口

１．せん断力が母材全断面強度の30%以下の仕口：（大入れ）蟻掛け

・長期荷重時のせん断力の向きを考慮し女木と男木を決める。

・逆せん断と引張の補強として羽子板ボルト等を併用する。

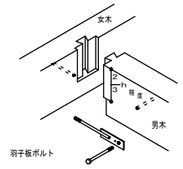
・男木の梁せいが女木の２／３以下の場合か、仕口直下に柱がある場合には、大入れとして

もよいが、そうでない場合は男木のせいの２／３程度のあごをかける。

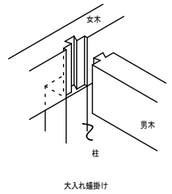
構造設計担当者　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / (R8)	株式会社 久高設計 長野県知事登録　第上田N-78311号 住所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	木質工事特記仕様書（２）	SCALE A3　NO SCALE	No. 25-007 S-07

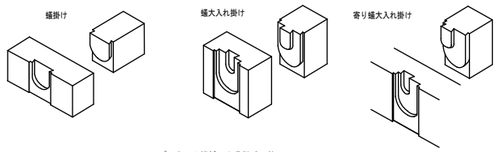
木質工事特記仕様書（3）



あご掛けの場合



仕口直下に柱がある場合



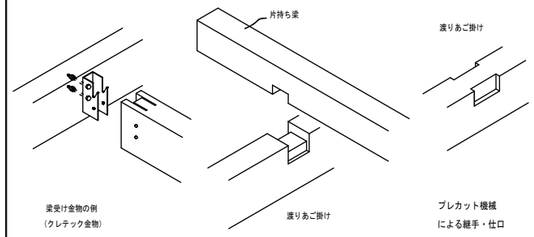
プレカット機械による継手・仕口

2．せん断力が母材全断面強度の30%を超える仕口：梁受け金物

・既製品の場合は金物メーカーの許容せん断耐力の値を用い、特注品の場合は構造計算で許容せん断耐力を算出して安全性を確認する。

3．一方を片持ち梁とする場合：レベル差を設け渡りあご掛け

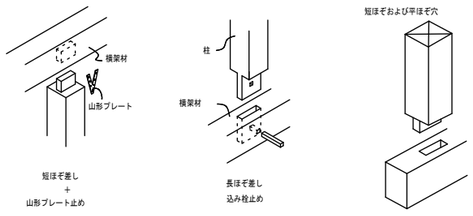
・逆せん断の補強として羽子板ボルト等を併用する。



（4）柱と横架材の仕口

1．柱の上下端部：短ほぞ差し、長ほぞ差し込み栓止め

・短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。

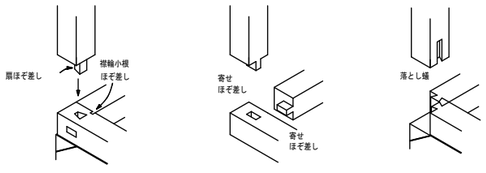


プレカット機械による継手・仕口

2．土台の出隅入隅部

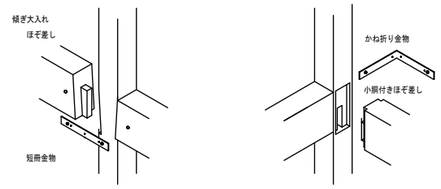
：土台どうしは褄輪小根ほぞ差し又は寄せほぞ差し、柱脚部は扇ほぞ差し又は寄せほぞ差し又は寄せほぞ差し（柱勝ちの場合、落とし蟻、あるいは土台を寄せほぞ差しとする。）

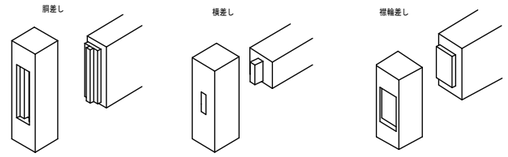
・短期の引張力に対しては、平12建告1460号、N値計算又は許容応力度計算により、必要耐力を有するZマーク金物等を併用すること。落とし蟻の場合は、HD金物を用いる。



3．通し柱と胴差し：小胴付きほぞ差し、傾ぎ大入れほぞ差し、梁受け金物

・梁受け金物以外の仕口には、引張の補強として短冊金物やかね折り金物等を併用すること。

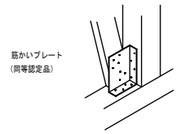




プレカット機械による継手・仕口

（5）筋かい端部

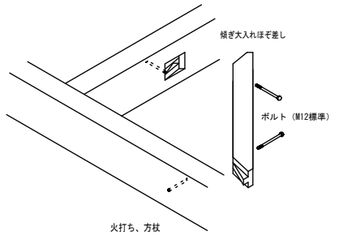
・平12建告1460号の例示仕様又は同等品とする。



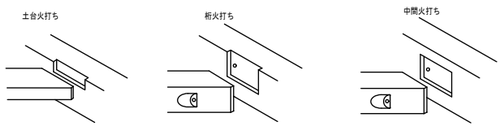
（6）火打ち、方杖

・角材を用いる場合の端部は、傾ぎ大入れほぞ差し＋ボルト締めとする。

・Zマーク鋼製火打ち又は同等品としてもよい。



火打ち、方杖

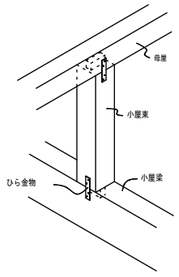


プレカット機械による継手・仕口

（7）小屋束の上下端部

・短ほぞ差し又は長ほぞ差し込み栓止めとする。

・短ほぞ差しの場合、風圧力による引張力の補強として、かすがい2本又はひら金物又は山形プレート止めとする。



（8）根太、垂木と横架材

・落とし込み根太：横架材に大入れ　または根太掛け＋斜め釘

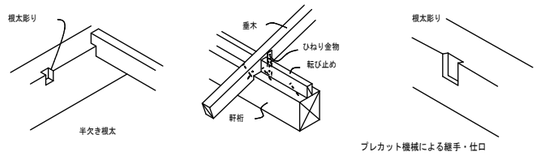
・半欠き根太：横架材に大入れアゴ掛け＋斜め釘

・転ばし根太：根太が正角断面の場合、横架材に脳天釘止め

根太が縦長角断面の場合、斜め釘2本＋転び止め

・垂木：横架材に垂木道を掘り、転ばし根太と同様に止める。

・風の負圧の補強：許容応力度計算により必要耐力を有するひねり金物等を取り付ける。



プレカット機械による継手・仕口

（9）間柱と横架材

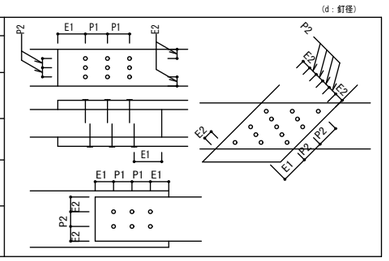
・上下横架材に深さ3mm程度大入れ＋斜め釘

・上部ほぞ差し、下部突き付け＋斜め釘

（10）釘の最小間隔及び最小端あき距離

（d：釘径）

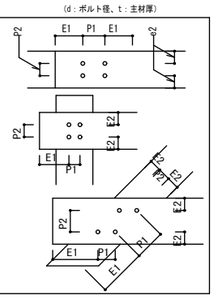
		加力方向	
		繊維方向	繊維直交方向
繊維方向	E1	15d	10d
	P1	12d	10d
繊維直交方向	E2	5d	8d
	P2	5d	8d



（11）ボルトの最小間隔及び最小端あき距離

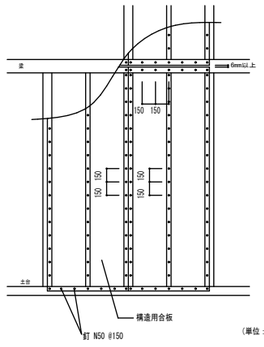
（d：ボルト径、t：主材厚）

		加力方向	
		繊維方向	繊維直交方向
繊維方向	E1	7d（荷重負担側） 4d（荷重非負担側）	7d
	P1	7d	t/d=2　3d 2≦t/d<6　3d～5d t/d>6　5d
繊維直交方向	E2	t/d≦6　1.5d t/d>6 1.5dかつP2/2	4d（荷重負担側） 1.5d（荷重非負担側）
	P2	3d	4d



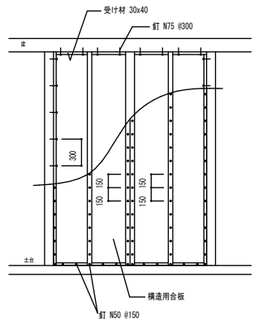
（12）面材耐力壁

1．大壁造の場合



（単位：mm）

2．真壁造の場合



・受け材は柱や横架材にN75-@300以下で平打ちする。

構造設計担当者　　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	木質工事特記仕様書（3）	SCALE A3 NO SCALE / No. 25-007 S-08

ウルトラコラム工法　特記仕様書（小規模建築物）

§1.工法概要

本地業は、ウルトラコラム工法による、地盤改良地業であり、スラリー状のセメント系固化材を地中に注入しながら、ウルトラコラム専用供回り防止翼（十字型）を装着した攪拌装置を用いて、原地盤を機械的に混合攪拌し、固化材の化学反応により所要の強度を持つ改良体を築造する工法である。

§2.特記事項

本工事工法は、攪拌能力・攪拌径・品質（変動係数）に対して「建築技術性能認証委員会」にて証明された技術性能証明取得工法とする。
また、事前にその証明書を管理者に提出し、認証を得ることとする。

§3.一般事項

本地業は、本特記仕様書によるほか、
「改訂版　建築物のための地盤改良の設計及び品質管理指針」
（平成14年11月30日 財団法人 日本建築センター、以下指針という）による。

<1>施工業者

本工事の施工業者は、地盤改良工法の施工技術及び計測装置の取扱いに精通したもので、ウルトラコラム工法協会に所属する指定施工会社とする。

<2>設計変更

コラム径・掘削深度（改良長+空堀長）・本数配置等は、設計図書による。
ただし、コラム径・長さ・本数・位置及びセメントスラリーの配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切と判断される場合は、監督員の承認の上に変更することができる。

§4.コラム仕様

<1>設計基準強度

コラムの設計基準強度はFc＝　800　kN/㎡とする。

土質	設計基準強度（kN/㎡）
砂質土	900
粘性土	800
ローム土	700
シラス	900

<2>固化材

本工法を小規模建築物に適用する場合は、固化材配合量300kg/㎥、水固化材比60%～80%を標準とする。

土質	固化材種類
砂質土	一般軟弱土用
粘性土	一般軟弱土用
ローム土	高有機質土用
シラス	一般軟弱土用

<3>固化材液の配合

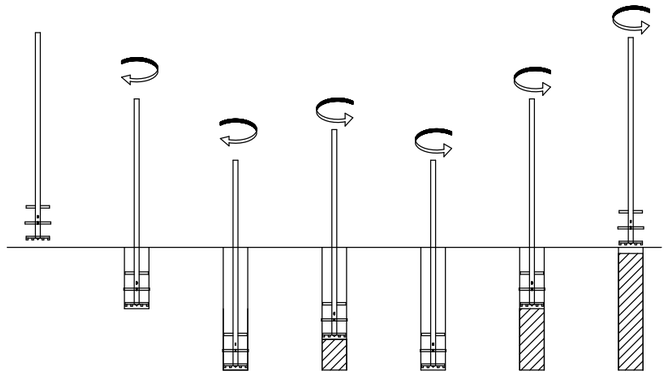
固化材添加量	300	kg/㎥
水/固化材比	60	%

※なお、小規模建築物の場合の地盤調査は、スウェーデン式サウンディング試験による簡易調査が一般に用いられており、土質の確認は、通常行われていない。したがって、必ず近隣における施工実績の調査等を行うと共に必要に応じて土質を確認し、腐植土等の混入の有無を確認する必要がある。

§5.施工仕様

①施工サイクル：1サイクル
②羽根切り回数：450回/m以上
③掘進、引き抜き速度：固化材の配合、貫入速度、羽根切り回数から求まる値以上

施工サイクル	貫入速度（m/分）	引き抜き速度（m/分）
1サイクル	1.0以下	1.0以下



①コラム芯セット　②屈伸・吐出・攪拌　③先端処理　④引上げ・攪拌・完了

§6.品質管理

小規模建築物では、コラム打設から基礎スラブ築造までの期間が短いため、材齢7日でのモールドコアの一軸圧縮強さによる品質検査を基本として採用する。

<1>調査箇所（調査対象層に対して）

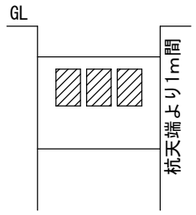
	設計対象層が頭部		設計対象層が深部
	改良長L≦3mかつ、改良対象層が単一層	改良長L≧3mかつ、改良対象層が複数層	
頭部モールドコア	3箇所以上（1箇所あたり3供試体）		
深部モールドコア	—	1箇所以上（3供試体）	

<2>調査ヶ所数（検査対象群に対して）

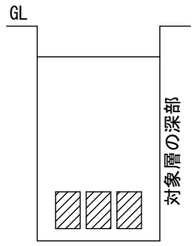
頭部モールドコア試験	3	ヶ所
深部モールドコア試験	1	ヶ所

<3>採取位置

頭部モールドコア



深部モールドコア



<4>合否の判定

①設計対象層についての抜取ヶ所をNとする。
　1箇所あたり3個の供試体を採取し、強度をその箇所の強度とする。
②一軸圧縮試験は第三者で行うものとする。
③検査手法Aによる品質検査
　合否の判定は設計対象層におけるN ヶ所（抜取ヶ所数）の一軸圧縮試験結果が、下式を満足する場合を合格と判定する。

$$X_N \geqq X_L = Fc + Ka \cdot \sigma d = Fc + Ka\{Fc \cdot Vd / (1-1.3Vd)\}$$

X　：N ヶ所の一軸圧縮強度の平均値
X　：合格判定値

XL	1547.55	kN/㎡

Fc：設計基準強度
Ka：合格判定係数
σd：標準偏差
Vd：変動係数、品質確認書より想定する。

合格判定係数

抜取ヶ所数N	1	2	3	4～6	7～8	9～
合格判定係数Ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

<5>未固化改良体の比抵抗測定

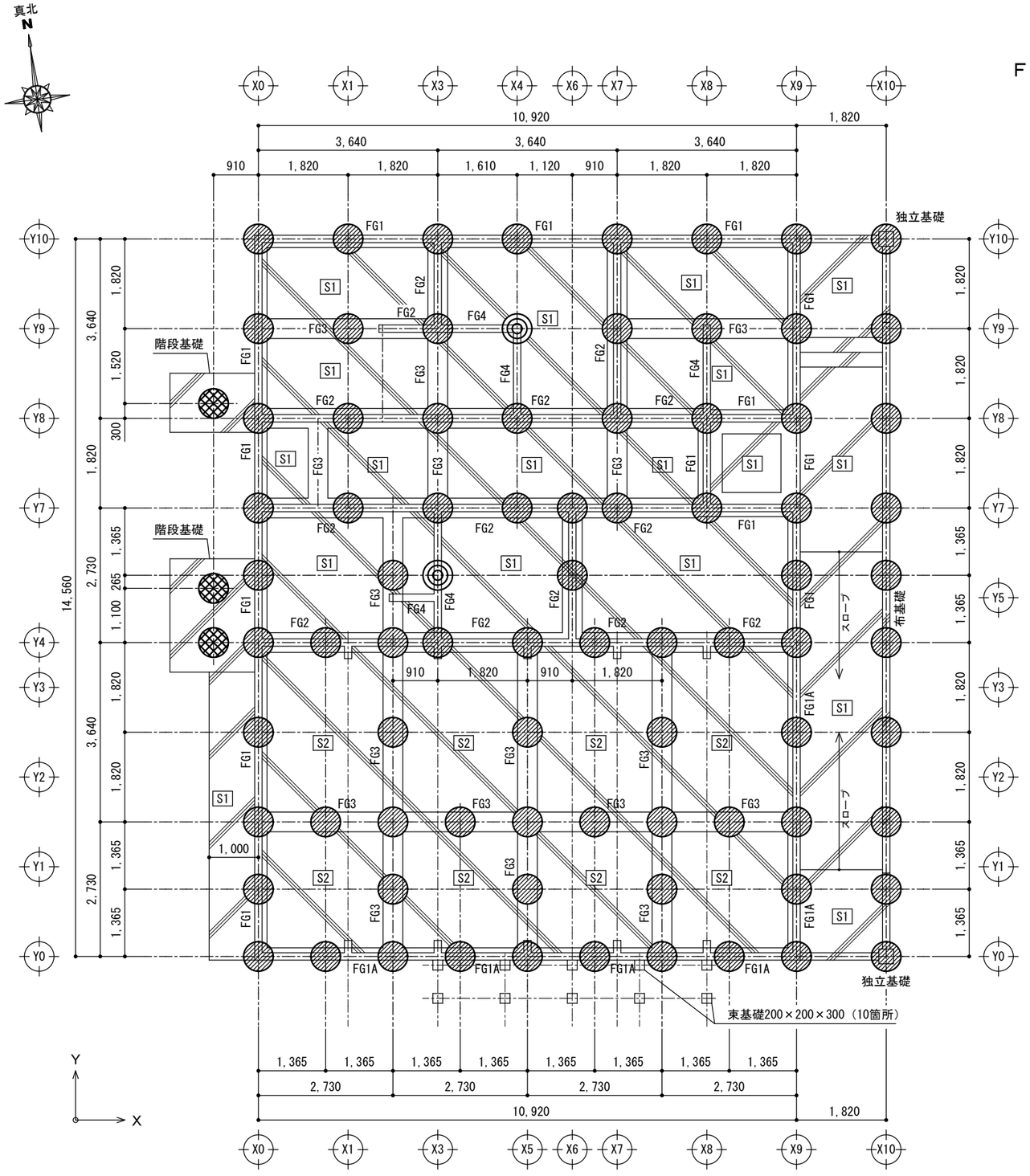
小規模建築物では、試験施工（1本目の施工）のコラムについて、必ずこれを実施し、安定した混合攪拌が確保できていることを確認する。
検査数量は、1検査対象層群毎に1箇所以上かつ、50コラム毎に1箇所以上とする。
※なお、高有機土用固化材などで強度発現の早い固化材を用いる場合で、施工直後でも貫入が不可能な場合は、これを省略してもよい。

比抵抗測定	2	箇所

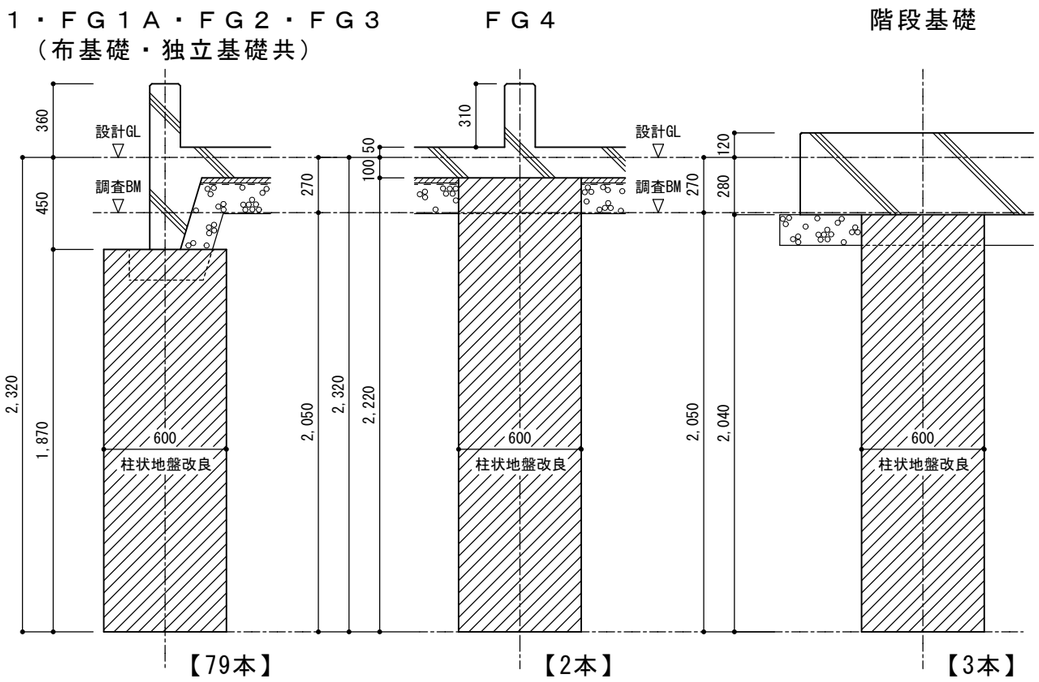
工法	ウルトラコラム工法	
設計基準強度	Fc＝　800　kN/㎡	
コラム径（mm）	掘削長（m）	本数（本）
600	1.87	79
600	2.04	3
600	2.22	2
合計		84

GBRC　性能証明　第08-06号

構造設計担当者　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号



地盤改良伏図　S=1/100

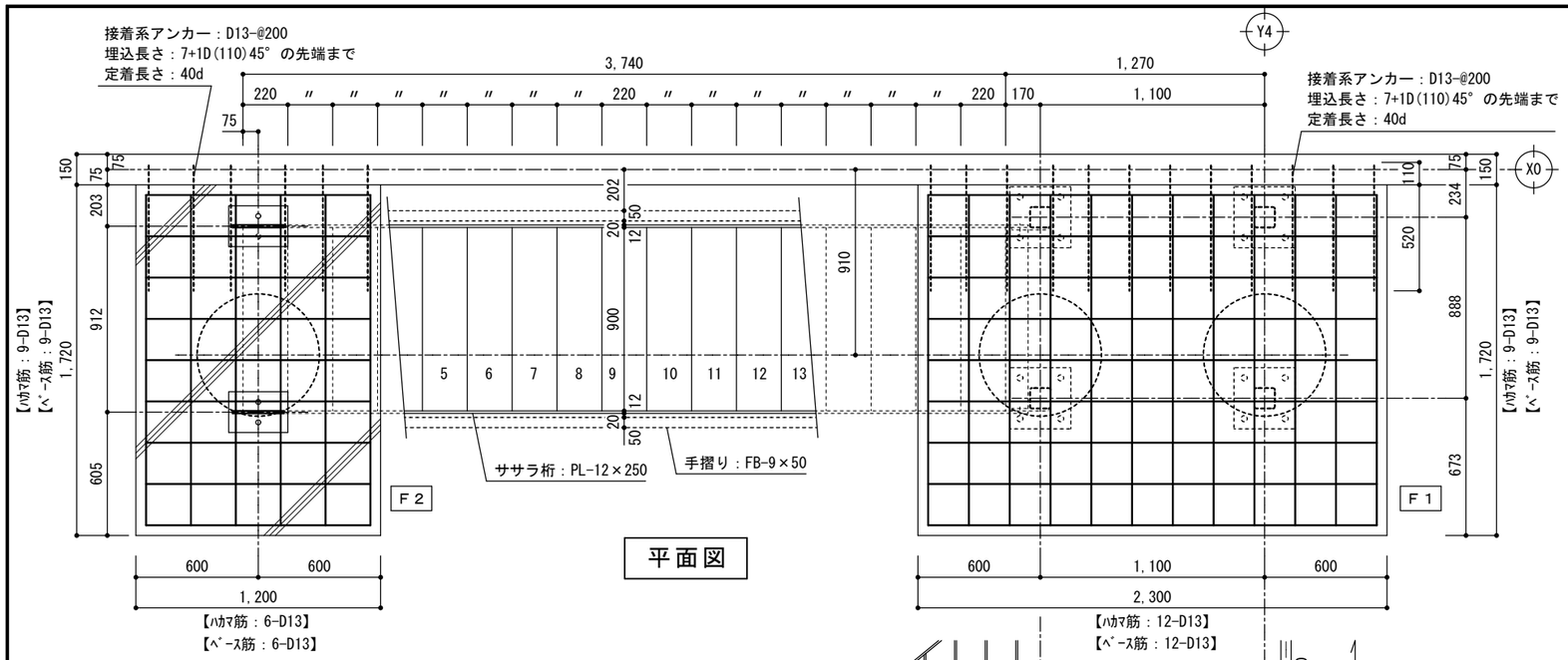


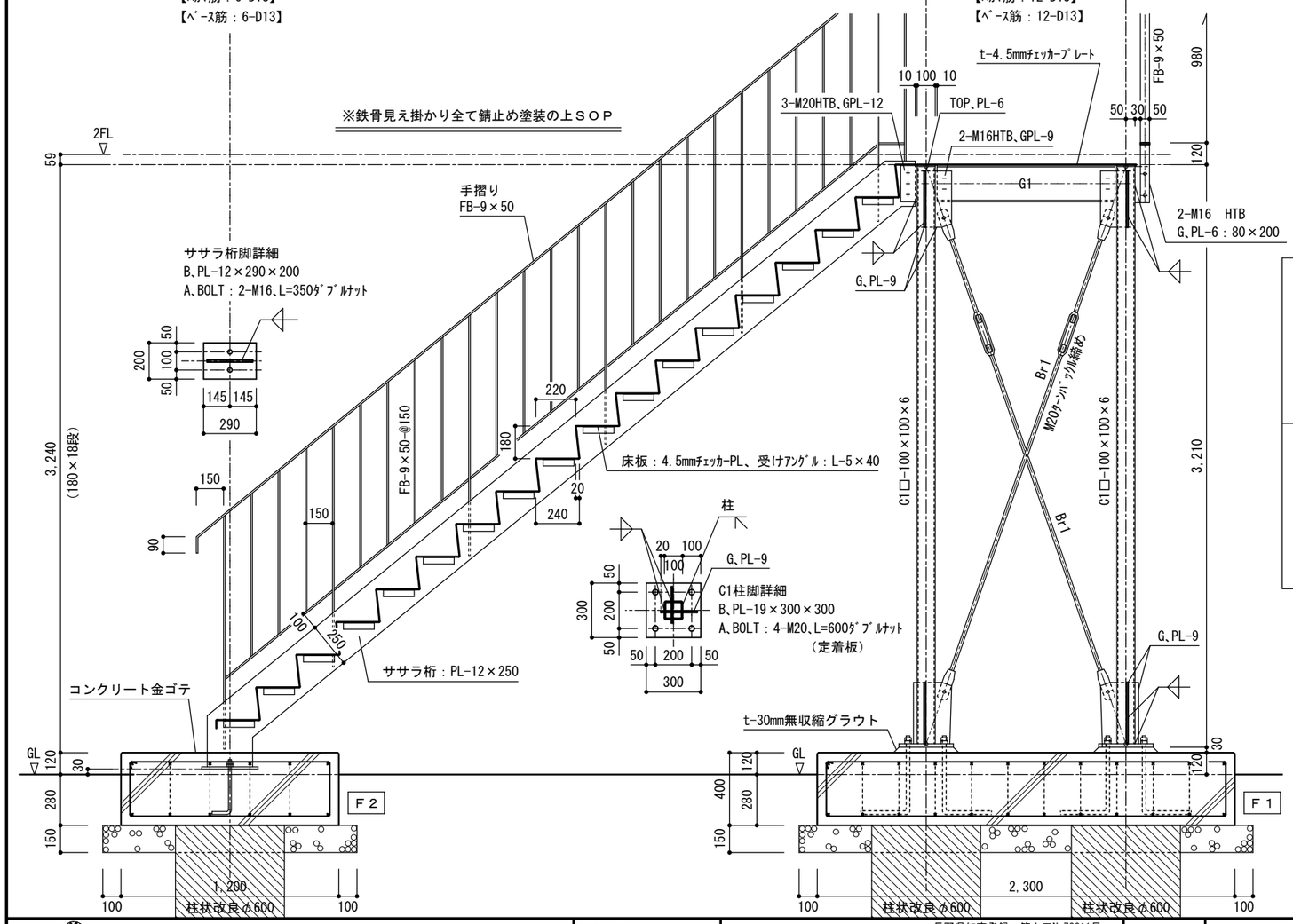
断面図　S=1/30

セメント系固化材スリラー機械攪拌式深層混合処理工法【ウルトラコラム工法】	
改良コラム径	φ６００
施 工 深 度	ＧＬ－２，０５０【設計ＧＬ－２，３２０】
施 工 数 量	８４　本
設計基準強度	８００　ｋＮ／m2
備　　考	地盤調査時のＢＭは設計ＧＬ－２７０
	基礎根入れは設計ＧＬ－４５０
	改良高さ1,870（79本）施工位置を示す
	改良高さ2,040（3本）施工位置を示す
	改良高さ2,220（2本）施工位置を示す

構造設計担当者　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	地盤改良伏図・断面図	SCALE 1/30 A3 1/100	No. 25-007 S-10

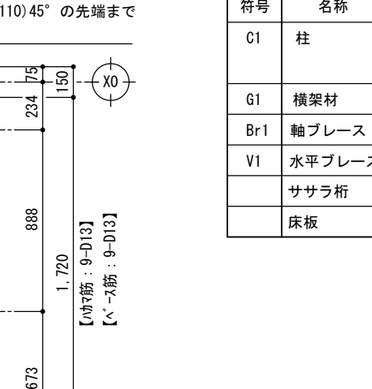


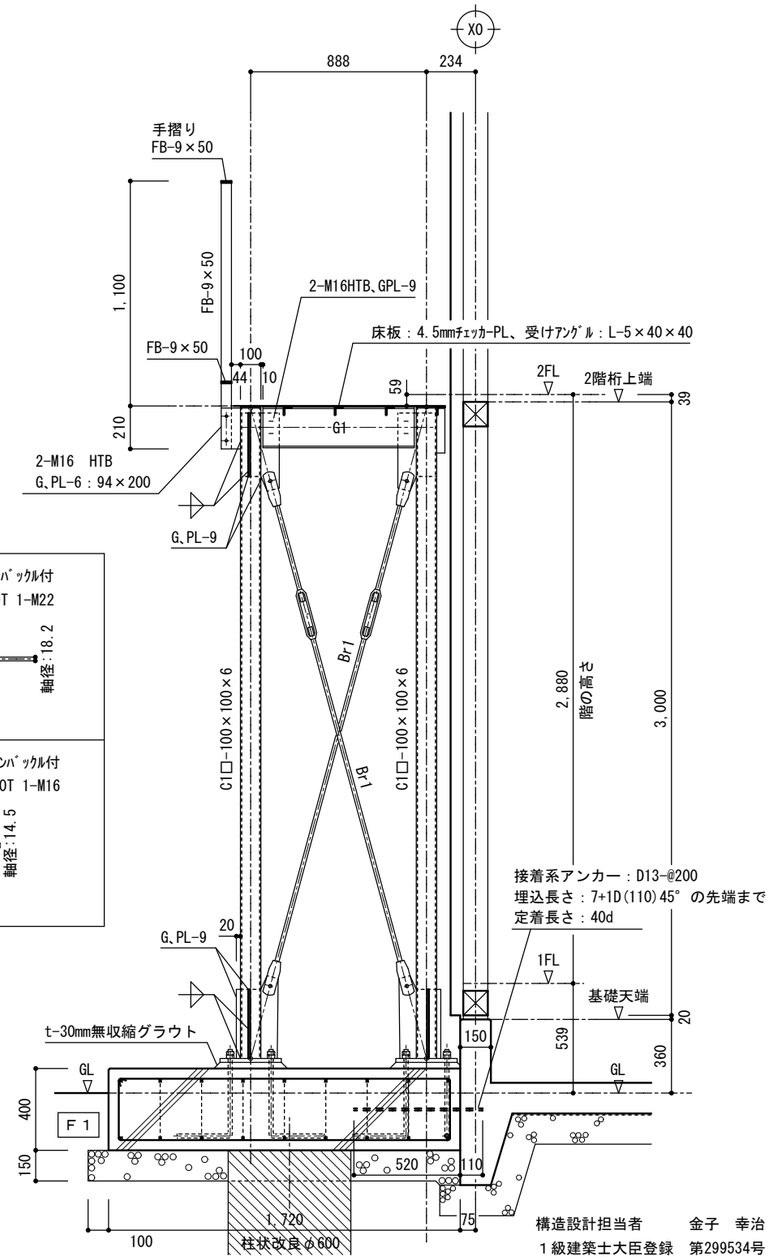


部材リスト

高力ボルト（ HTB、F10T ）

符号	名称	部材サイズ	接合
C1	柱	□-100×100×6（STK400）	B,PL-19×300×300（SN490B） ｱﾝｶｰBOLT：4-M20（ABR490）、L=600定着板、ﾀﾞﾌﾞﾙﾅｯﾄ
G1	横架材	H-200×100×5.5×8（SS400）	2-M16 HTBﾎﾞﾙﾄ(F10T) G,PL-9
Br1	軸ブレース	M20（SNR400）ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ締め	1-M22HTB、G,PL-9（ﾌﾙﾌﾞﾚｰｽ JIS A 5540参照）
V1	水平ブレース	M16（SNR400）ﾀｰﾝﾊﾞｯｸﾙ締め	1-M16HTB、G,PL-9（ﾌﾙﾌﾞﾚｰｽ JIS A 5540参照）
	ササラ桁	PL-12×250	3-M20 HTBﾎﾞﾙﾄ(F10T) G,PL-12
	床板	t-4.5mmﾁｪｯｶｰﾌﾟﾚｰﾄ	受けｱﾝｸﾞﾙ：L-5×40×40（G1に溶接）

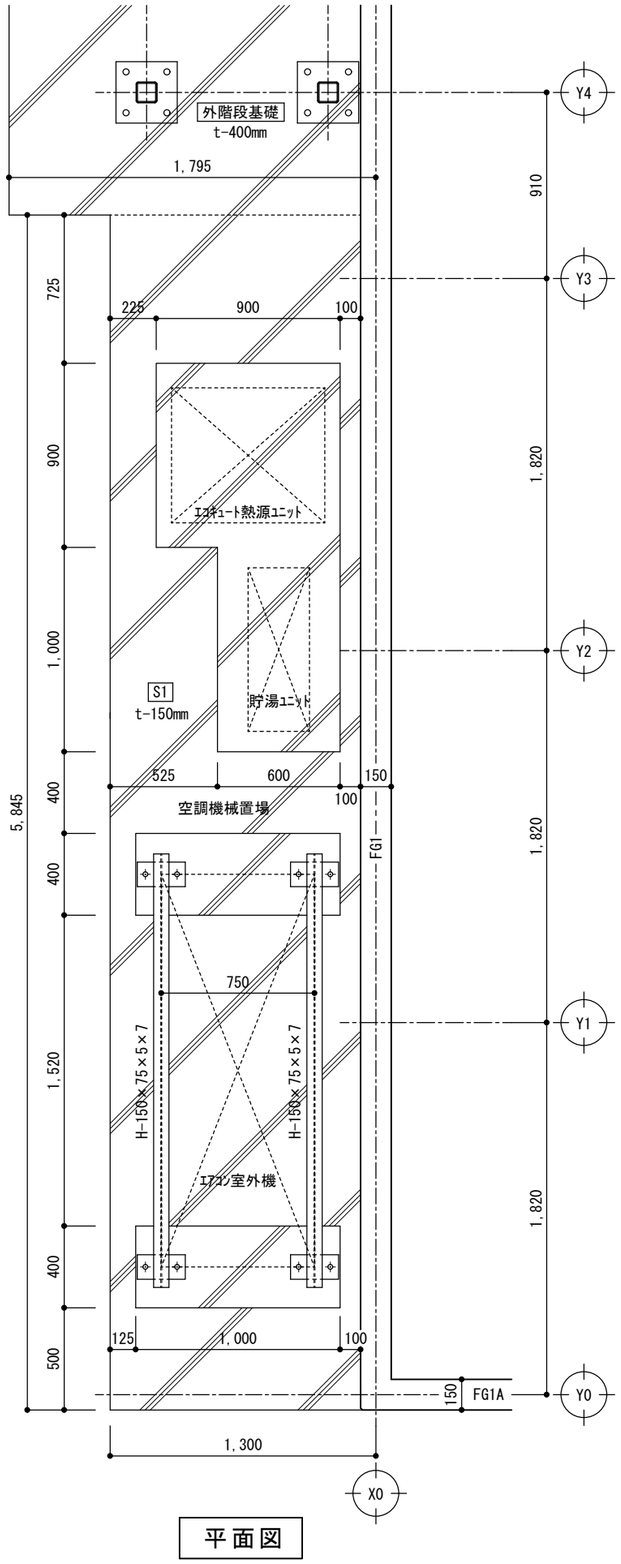




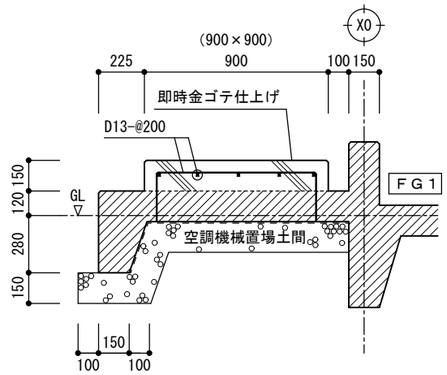
断面図

構造設計担当者　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号

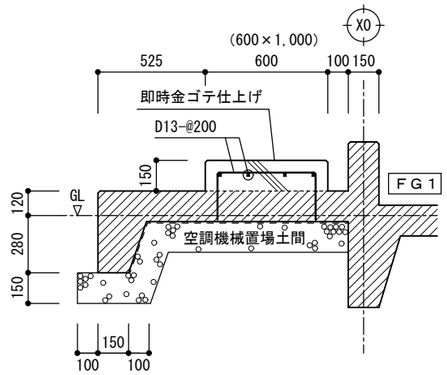
上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	鉄骨階段詳細図・部材リスト	SCALE A3 1/30	No. 25-007 S-11



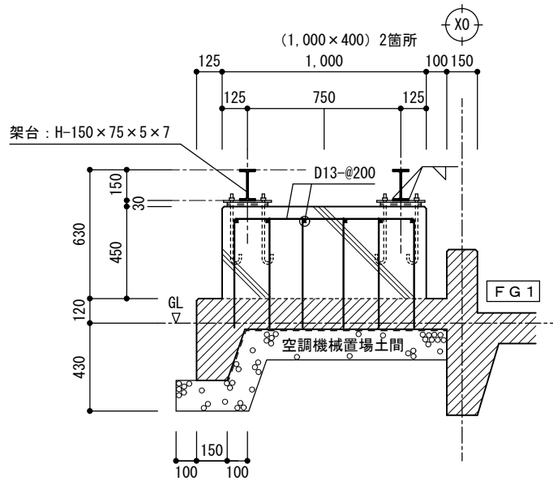
平面図

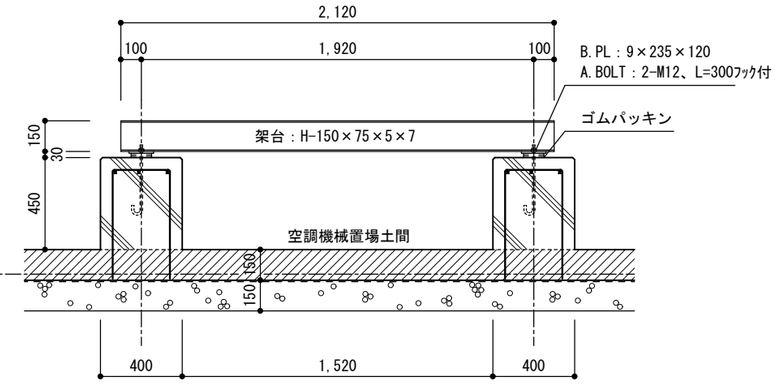


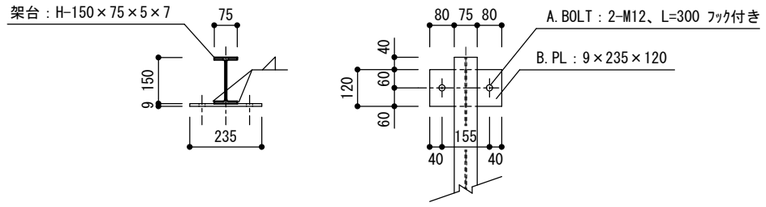
エコキュート熱源ユニット



エコキュート貯湯ユニット



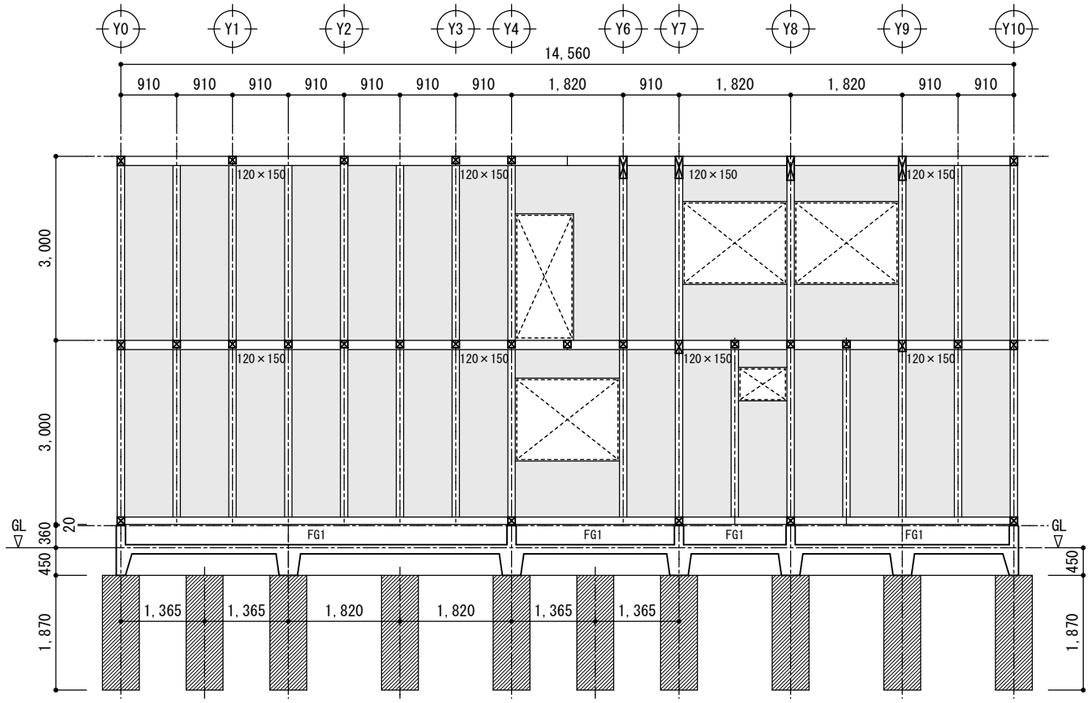




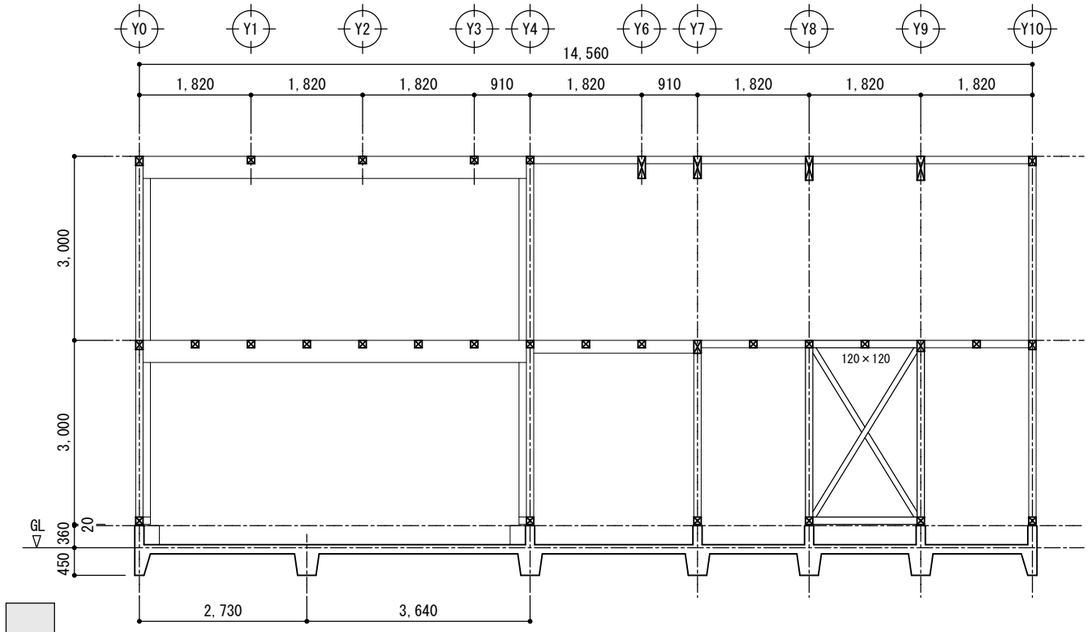
エアコン室外機

※鉄骨見え掛かり全て錆止め塗装の上ＤＰ

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住 所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図 名	室外機基礎詳細図	SCALE A3 1/30	No. 25-007 S-12

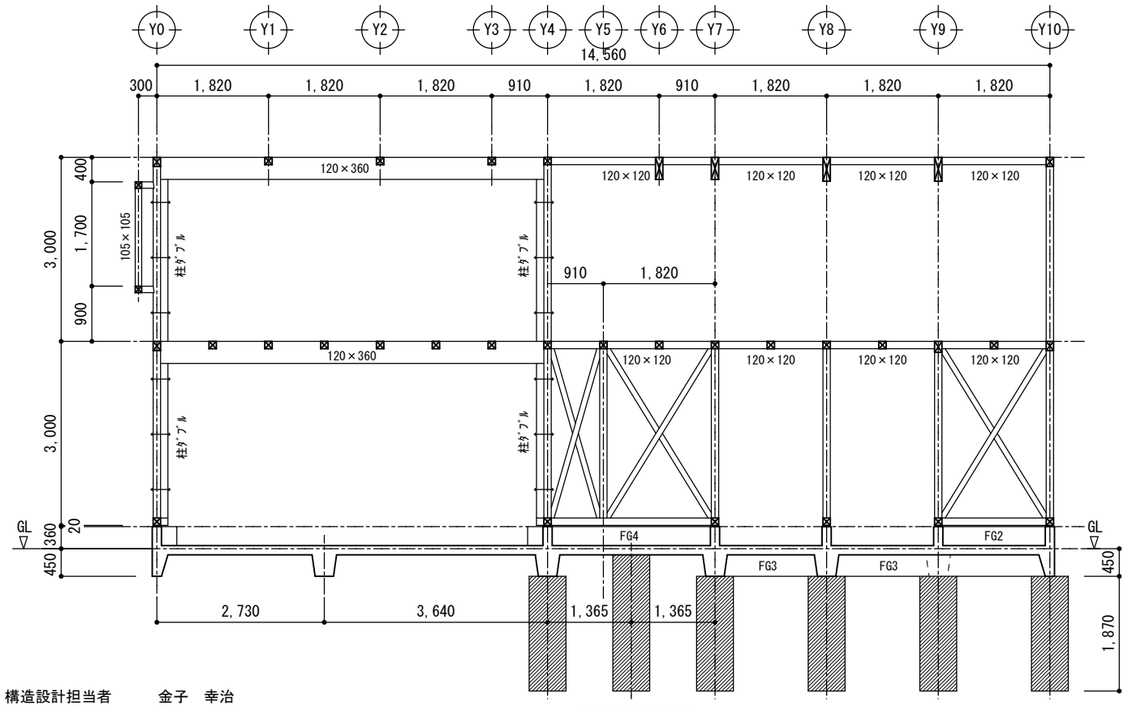


Ｘ０通り　筋交：45×90（米松KD）ﾀﾞﾌﾞﾙ
Ｚﾏｰｸ表示金物(二)筋交ﾌﾟﾚｰﾄ(8P-2)

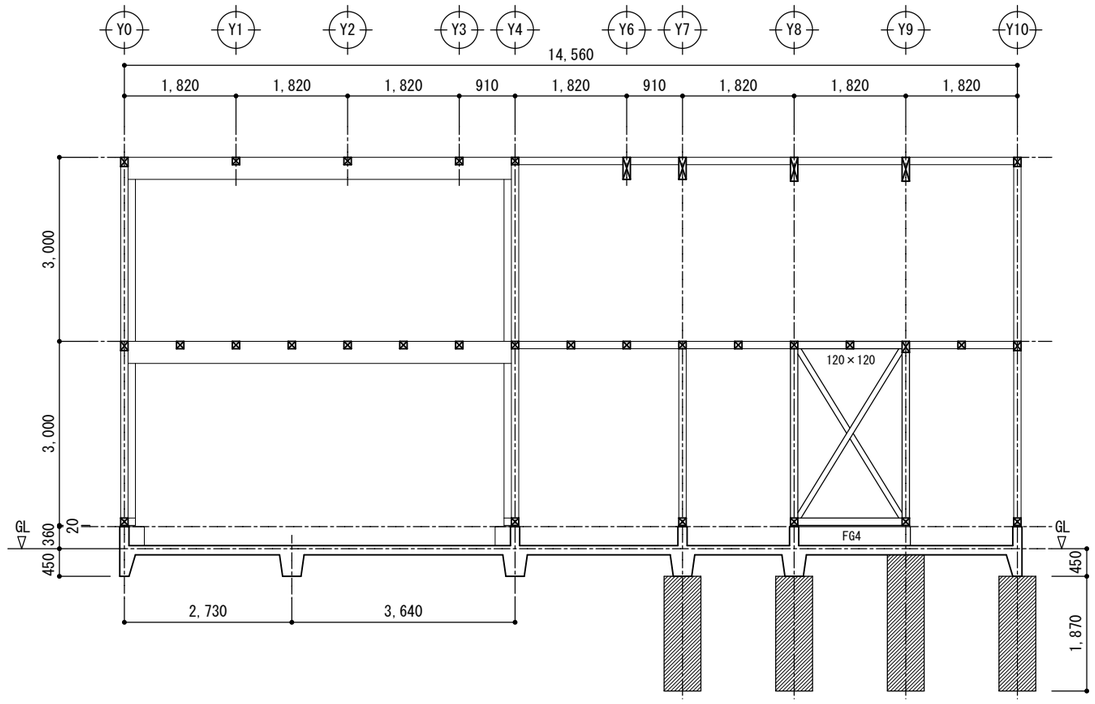


外壁下地用耐力面材
(t-12mm構造用合板)
【壁倍率3.1】

Ｘ２通り　筋交：45×90（米松KD）ﾀﾞﾌﾞﾙ
Ｚﾏｰｸ表示金物(二)筋交ﾌﾟﾚｰﾄ(8P-2)



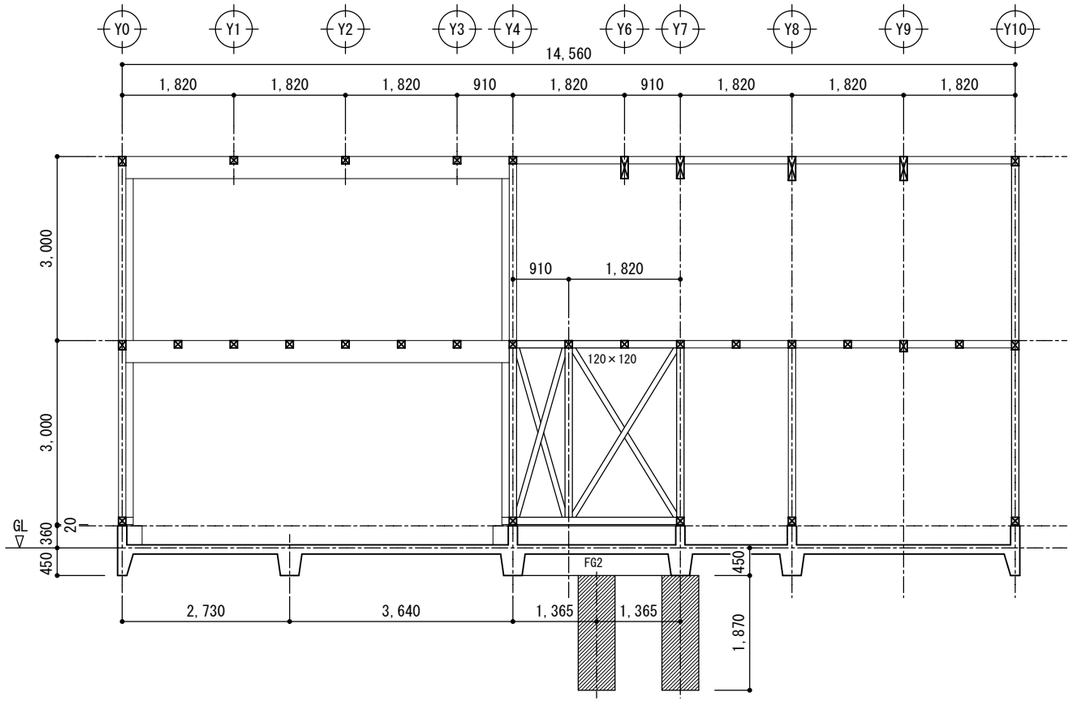
Ｘ３通り　筋交：45×90（米松KD）ﾀﾞﾌﾞﾙ
Ｚﾏｰｸ表示金物(二)筋交ﾌﾟﾚｰﾄ(8P-2)



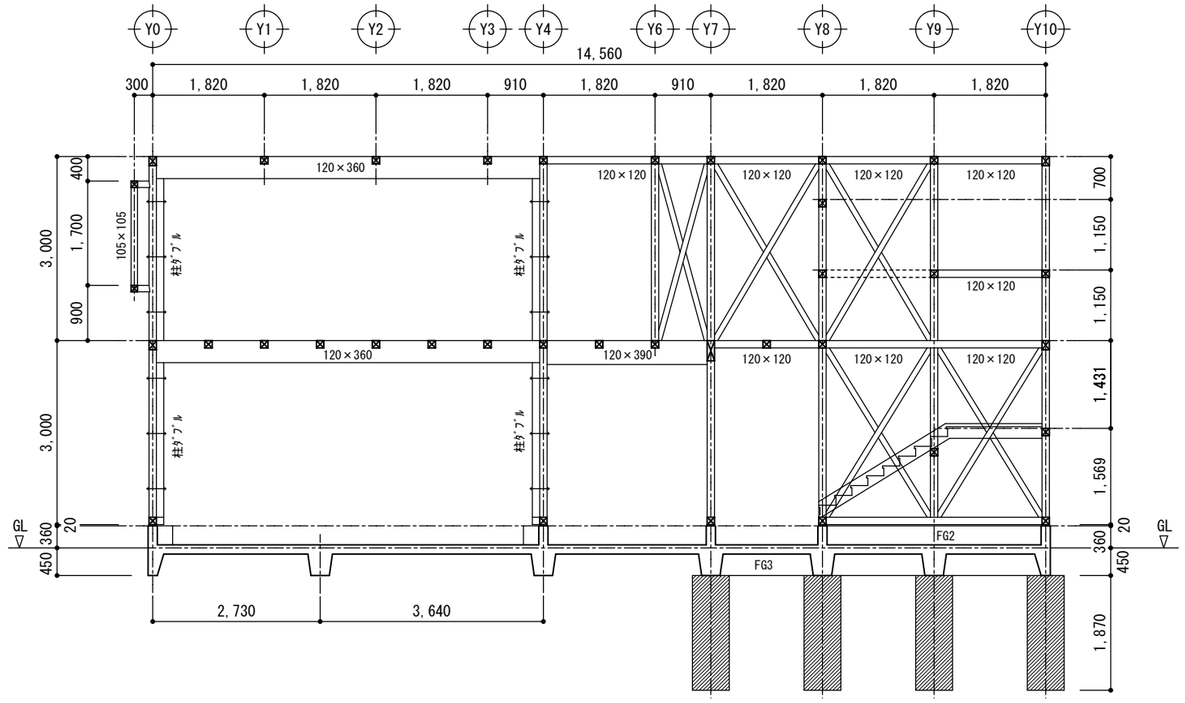
Ｘ４通り　筋交：45×90（米松KD）ﾀﾞﾌﾞﾙ
Ｚﾏｰｸ表示金物(二)筋交ﾌﾟﾚｰﾄ(8P-2)

構造設計担当者　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号

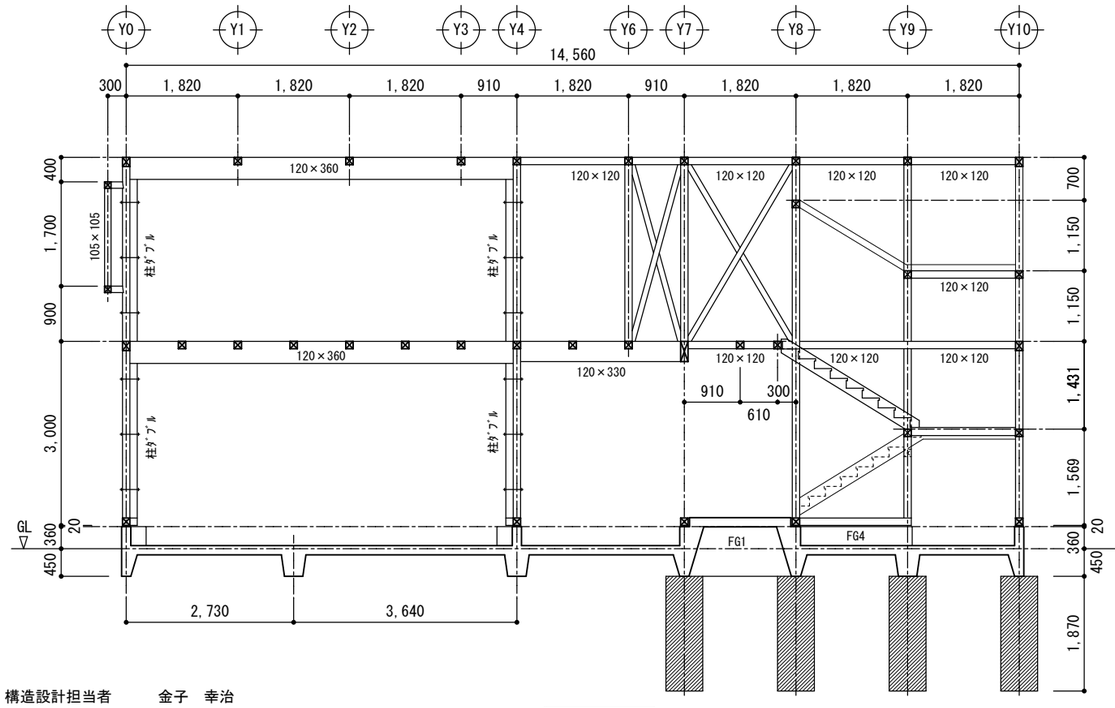
上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	木造軸組図（１）	SCALE A3 1/100	No. 25-007 S-13



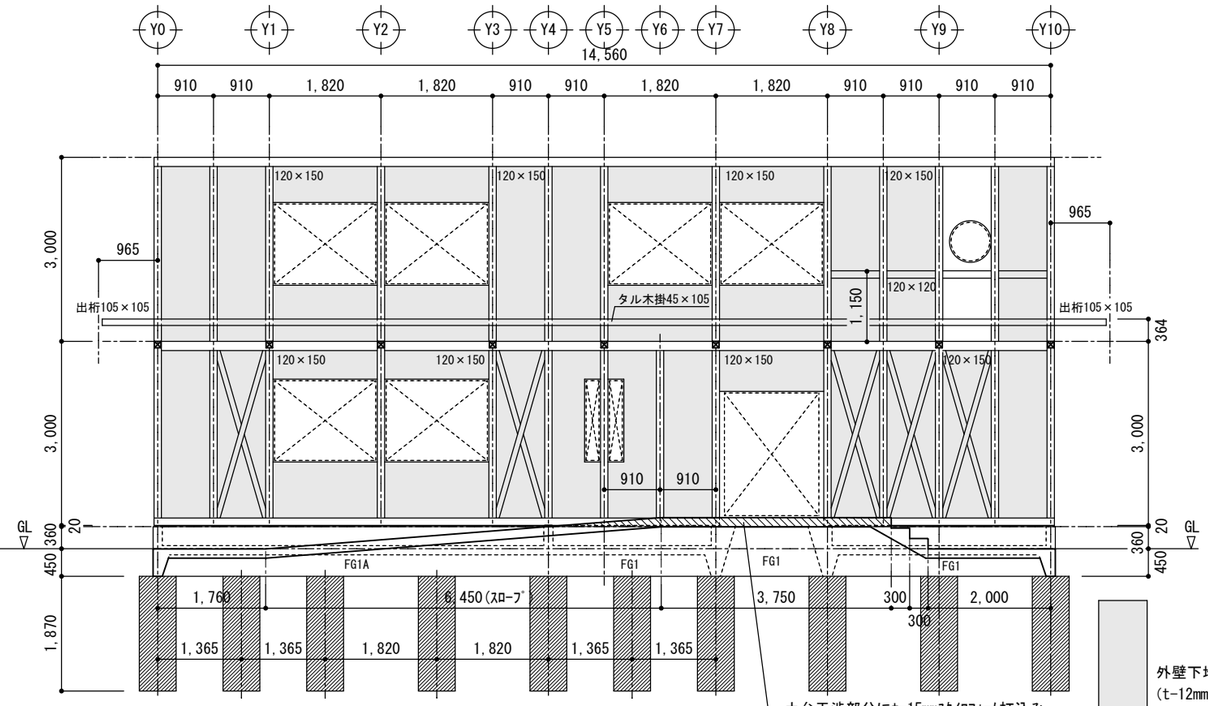
Ｘ６通り　筋交：45×90（米松KD）ﾀﾞﾌﾞﾙ
Ｚﾏｰｸ表示金物(二)筋交ﾌﾟﾚｰﾄ(8P-2)



Ｘ７通り　筋交：45×90（米松KD）ﾀﾞﾌﾞﾙ
Ｚﾏｰｸ表示金物(二)筋交ﾌﾟﾚｰﾄ(8P-2)



Ｘ８通り　筋交：45×90（米松KD）ﾀﾞﾌﾞﾙ
Ｚﾏｰｸ表示金物(二)筋交ﾌﾟﾚｰﾄ(8P-2)



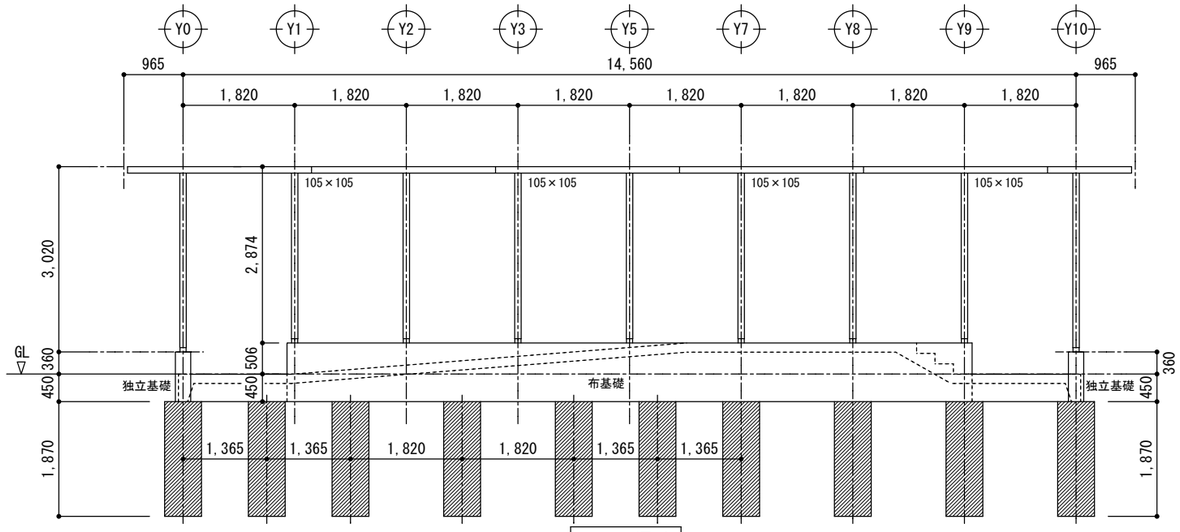
Ｘ９通り　筋交：45×90（米松KD）ﾀﾞﾌﾞﾙ
Ｚﾏｰｸ表示金物(二)筋交ﾌﾟﾚｰﾄ(8P-2)

外壁下地用耐力面材
(t-12mm構造用合板)
【壁倍率3.1】

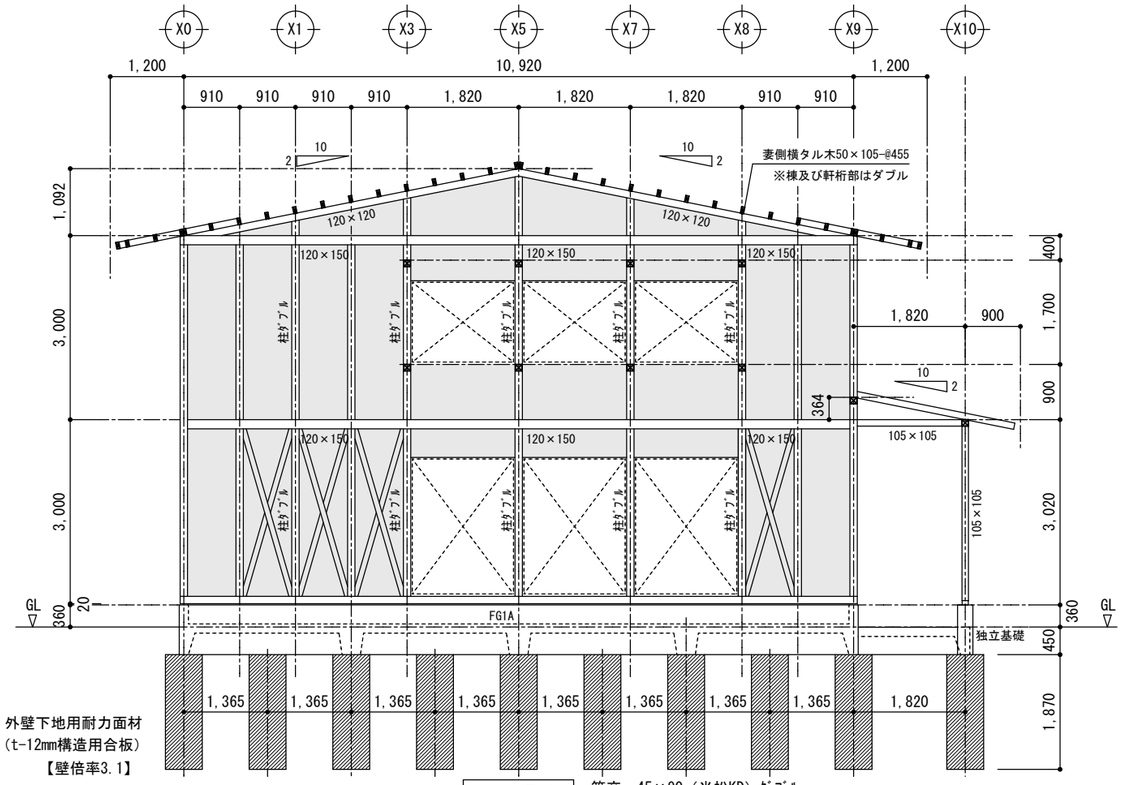
構造設計担当者　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	木造軸組図（２）	SCALE A3 1/100 / No. 25-007 S-14

構造設計担当者　　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号



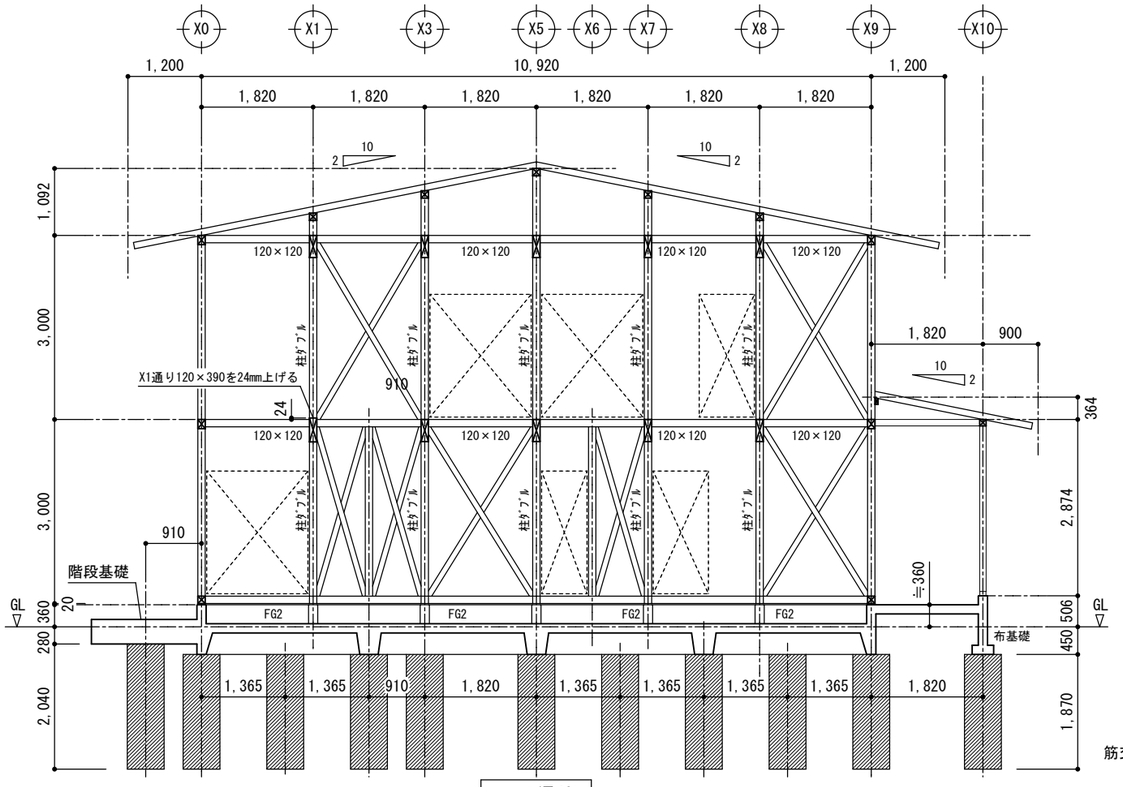
Ｘ１０通り　※X10通りの柱は105×105



外壁下地用耐力面材
(t-12mm構造用合板)
【壁倍率3.1】

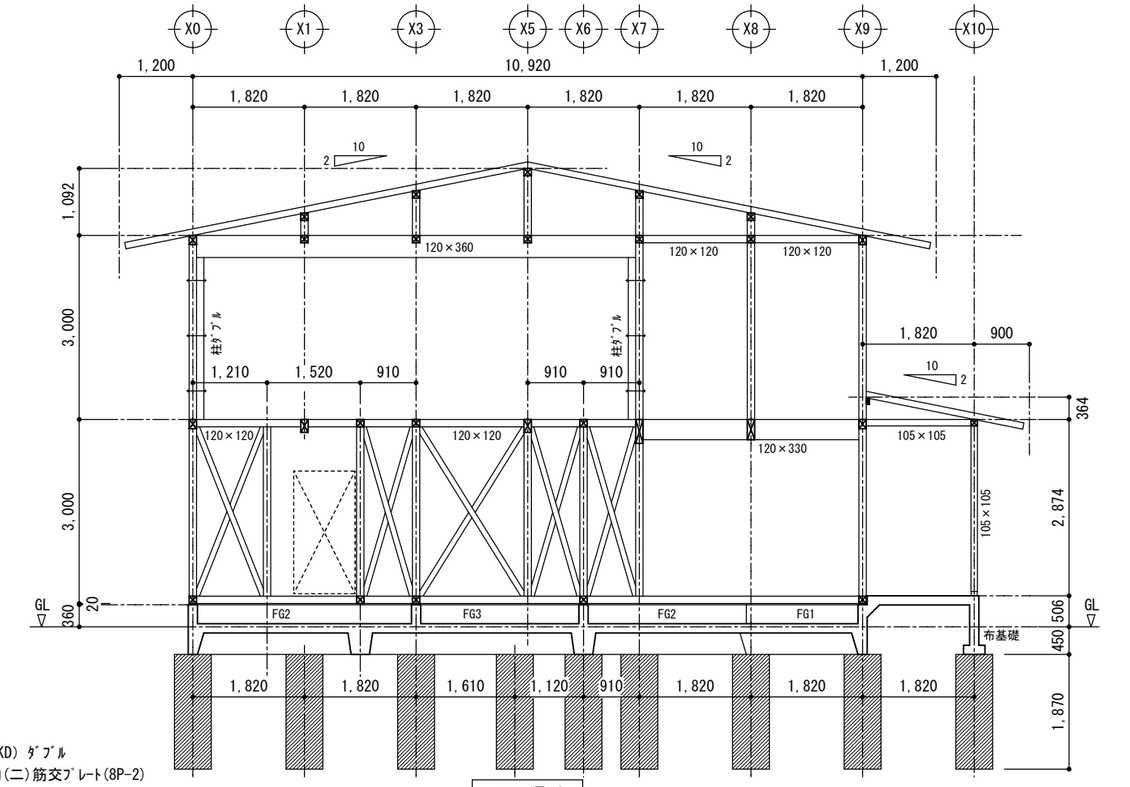
Ｙ０通り

筋交：45×90（米松KD）ﾀﾞﾌﾞﾙ
Ｚﾏｰｸ表示金物(二)筋交ﾌﾟﾚｰﾄ(8P-2)



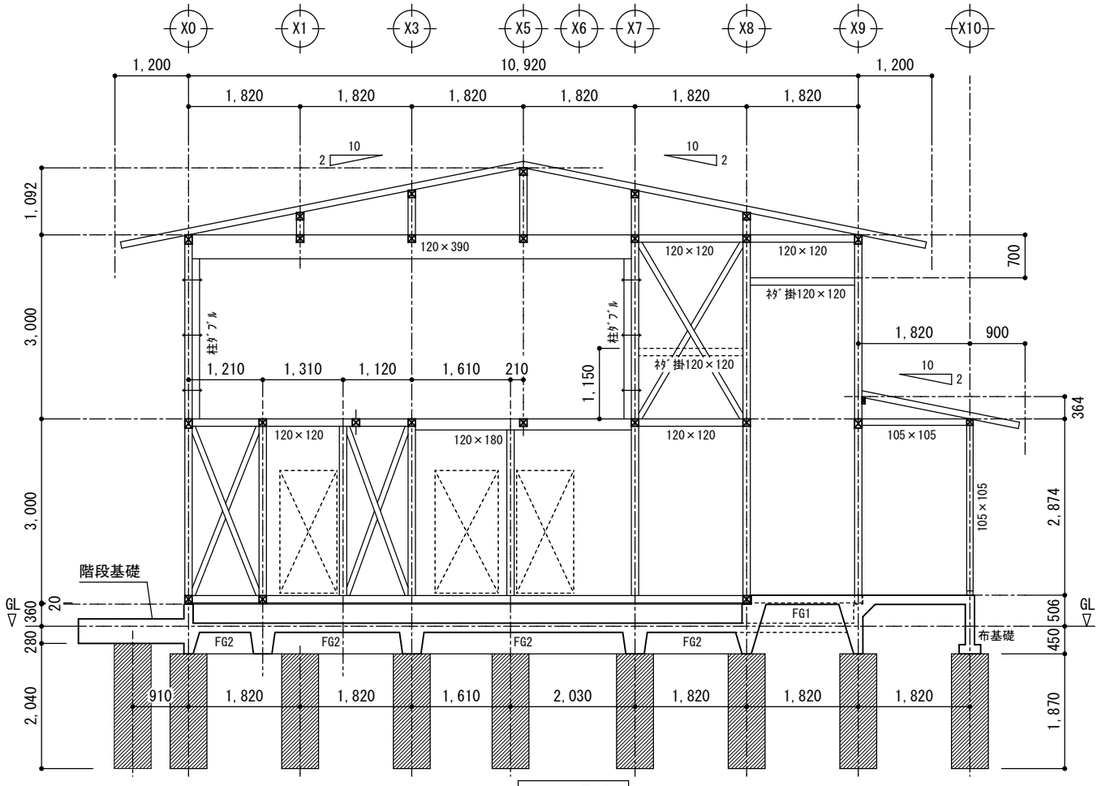
Ｙ４通り

筋交：45×90（米松KD）ﾀﾞﾌﾞﾙ
Ｚﾏｰｸ表示金物(二)筋交ﾌﾟﾚｰﾄ(8P-2)

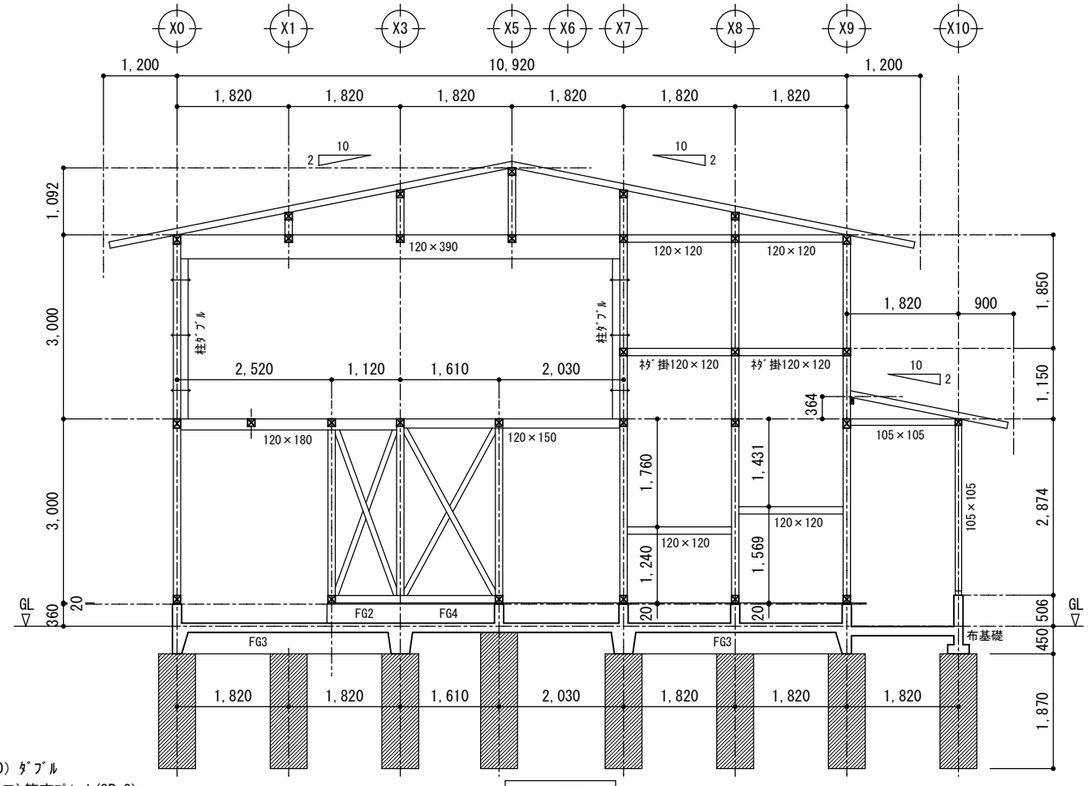


Ｙ７通り

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	木造軸組図（３）	SCALE A3 1/100	No. 25-007 S-15

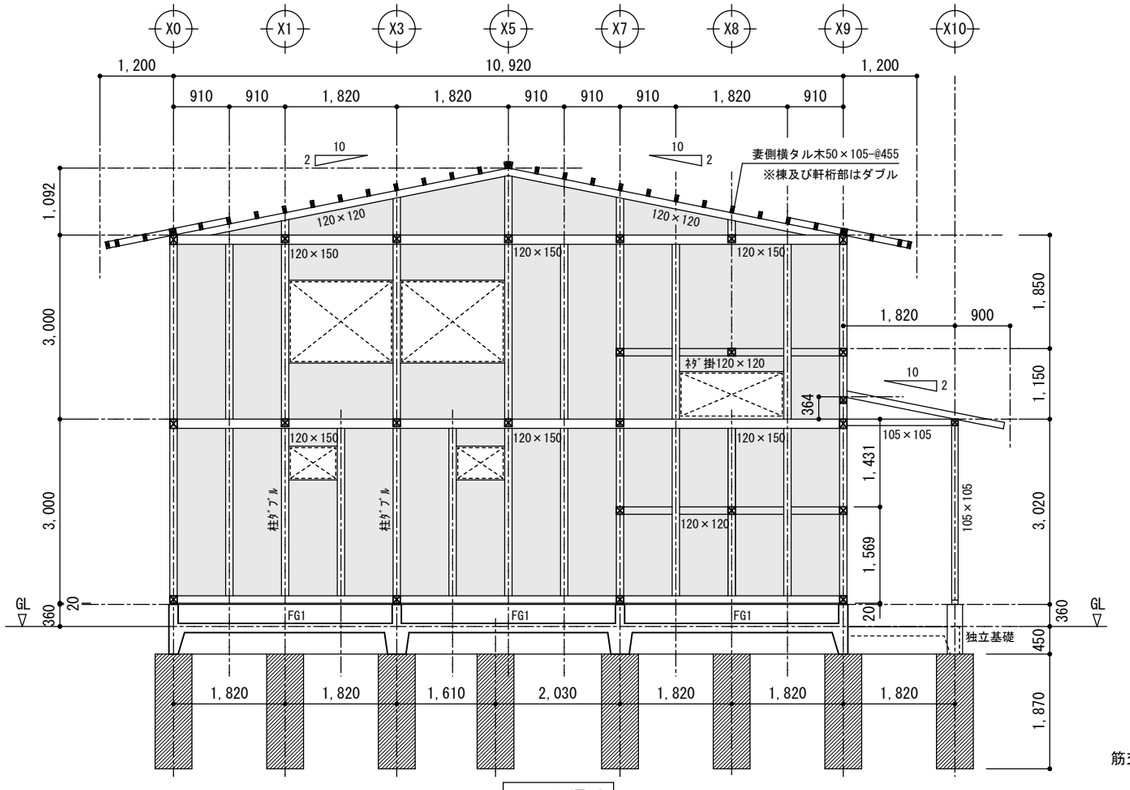


Ｙ８通り



筋交：45×90（米松KD）ﾀﾞﾌﾞﾙ
Ｚﾏｰｸ表示金物(二)筋交ﾌﾟﾚｰﾄ(8P-2)

Ｙ９通り



Ｙ１０通り

外壁下地用耐力面材
(t-12mm構造用合板)
【壁倍率3.1】

筋交：45×90（米松KD）ﾀﾞﾌﾞﾙ
Ｚﾏｰｸ表示金物(二)筋交ﾌﾟﾚｰﾄ(8P-2)

構造設計担当者　金子　幸治
１級建築士大臣登録　第299534号
構造設計１級建築士　第9230号

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	木造軸組図（４）	SCALE A3 1/100	No. 25-007 S-16

東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事

Ⅰ 解体工事概要

1. 工事場所　上田市　材木町
2. 敷地面積(㎡)　602.66　㎡
3. 除却対象物　⊙建築物　・工作物　・建築設備　・家具等　・樹木　・その他（　　　）

除去対象建物等	種　別	構　造	階　数	梁間(m)	桁行(m)	建築面積(㎡)	延面積(㎡)
1、児童クラブ1	解　体	木	1	7.28	6.37	46.72	46.72
2、児童クラブ2	解　体	木	1	7.28	6.37	46.72	46.72
3、空家	解　体	木	1	7.28	6.37	46.72	46.72
4、空家	解　体	木	1	5.46	7.28	39.74	39.74
5、空家	解　体	木	1	5.46	7.28	39.74	39.74
合　　計						219.64	219.64

Ⅱ 解体工事仕様

1. 共通仕様
   (1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築物解体工事共通仕様書(最新版)」(以下、「解体共仕」という)により、解体共仕に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(最新版)」(以下「標仕」という)及び「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)(最新版)」(以下、「改修標仕」という)による。
2. 特記仕様
   (1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
   (2) 特記事項は、⊙印の付いたものを適用する。
   ⊙印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
   ・ 印と⊗印の付いた場合は、共に適用する。
   (3) 特記事項に記載の〈 . . 〉内の表示番号は、解体共仕の当該項目を示す。

章	項　目	特　記　事　項

① 一般共通事項

① 適用基準等
- ※ 工事写真の撮り方(改訂第三版)建築編　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
- ※ 建築物解体工事共通仕様書・同解説　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(最新版)
- ※ 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)　国土交通省大臣官房官庁営繕部監修(最新版)
- ※ 建設工事公衆災害防止対策要綱(建築工事編)　建設省建設経済局建設業課・住宅局建築指導課監修
- ※ 建設副産物適正処理推進要綱　(以下「推進要綱」という)
- ※ 長野県建設リサイクル推進指針

② 電気保安技術者　※ 適用する　・ 適用しない　〈1.3.3〉

③ 施工条件明示項目　※ 現場説明書による　〈1.3.5〉

④ 引渡しを要するもの　※ 引渡しを要するもの　〈1.3.10〉

名　称	仕　様　等	備　考

⊙特記仕様書及び現場説明書による

⑤ 解体工事施工技士　本工事を適切に施工管理するため、解体工事施工技士の配置を行うこと。

② 仮設工事

① 足場その他
足場を設ける場合、「手すり先行工法に関するガイドライン」について」(厚生労働省、平成21年4月)の「手すり先行工法等に関するガイドライン」によるものとし、足場の組立、解体、変更の作業時及び使用時には、常時すべての作業床について手すり、中さん及び幅木の機能を有するものを設置しなければならない。なお、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行うこと。

② 騒音・粉塵等の対策
騒音・粉塵等の対策　〈2.2.1〉
※ 防音パネル　⊙防音シート　・ 養生シート
設置範囲及び高さ
※ 図示　・

③ 監督員事務所　・ 既存建物内の一部を使用する　・ 構内に設置する　※ 設けない　〈2.3.1〉
規模及び仕上げの程度は現場説明書による

④ 工事用水　構内既存の施設　※ 利用できない　・ 利用できる（ ※ 有償　・ 無償 ）

⑤ 工事用電力　構内既存の施設　※ 利用できない　・ 利用できる（ ※ 有償　・ 無償 ）

③ 解体施工

① 事前措置
機械設備及び電気設備の切替・遮断等　〈3.2.1〉
請負者が同工事の許可業者でない場合は、監督職員と協議の上、同工事の許可を取得している業者に委託する。
油類タンク
解体に先立ち、燃料配管、燃料槽、燃料小出槽等に残油がないことを確認する。必要に応じて残油を抜き取り、燃料を土壌に流失させないように注意する。燃料槽、燃料小出槽は、洗浄のうえ中和処理を行う。
空調機器等の冷媒
・ 冷媒を屋外機にポンプダウンした後撤去を行う機器は下記による。

図面番号	記　号

・ 冷媒を回収した後撤去を行う機器は下記による。

図面番号	記　号

浄化槽、排水槽等
解体に先立ち、汚水及び汚物は、回収、洗浄、消毒等の措置を行い、異臭の発生並びに周囲及び地中への汚染を防止する。

2. 杭の解体　・ 行う　・ 行わない　〈3.9.2〉
杭の解体工法
・ 引抜き工法　・ 破砕による解体

3. 樹木等　樹木の伐採伐根及び移植　〈3.10.1〉
・ 行う（場所：・ 図示　・　　　）・ 行わない

④ 地下埋設物・埋設配管　地下埋設物及び埋設配管の解体　〈3.11.1〉
⊙行う（場所：⊙図示　・　　　）・ 行わない

⑤ 屋外設備等
電柱の撤去　・ 行う（・ 図示　・　　　）・ 行わない
外灯の撤去　・ 行う（・ 図示　・　　　）・ 行わない
構内配線　⊙行う（場所：⊙図示　・　　　）・ 行わない

⑥ 解体後の整地
解体後の埋戻し及び盛土　〈3.12.1〉
※ 行う
整地高さ
⊙現状GL　※ 行う（ ※ 図示　・　　　）
埋戻し及び盛土の材料
・ 山砂の類　・ 他現場の建設発生土の中の良質土　・ 再生コンクリート砂
埋戻し及び盛土に当たっては、各層30cm程度毎に締め固めること。
・ 行わない

④ 建設廃棄物の処理

① 一般事項
本工事は「建設副産物情報交換システム」を活用する。
総合施工計画作成時、工事完了時及び登録情報に変更が生じた場合、速やかに当該システムにデータ入力を行う。また、同システムにより工事着手時に再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を工事完了時に同計画書の実施報告書(書式は同一)を作成し、監督職員に提出するものとする。

② 再資源化等　〈4.4.1〉

建設廃棄物の種類	中間処理施設、再資源化施設等
※ コンクリート	※ 監督員の承諾する施設　・ 現場説明書による
※ コンクリート及び鉄からなる建設資材 (PC板、コンクリート平板、コンクリート二次製品)	※ 監督員の承諾する施設　・ 現場説明書による
※ 木材	※ 監督員の承諾する施設　・ 現場説明書による
※ 木材(縮減)	※ 監督員の承諾する施設　・ 現場説明書による
※ アスファルトコンクリート	※ 監督員の承諾する施設　・ 現場説明書による
※ 金属類	※ 監督員の承諾する施設　・ 現場説明書による
※ 小形二次電池	※ 監督員の承諾する施設　・ 現場説明書による
※ 蛍光ランプ、HIDランプ	※ 監督員の承諾する施設　・ 現場説明書による
※ 硬質塩化ビニル管、継手	※ 監督員の承諾する施設　・ 現場説明書による
※ ガラス	※ 監督員の承諾する施設　・ 現場説明書による
※ 廃石膏ボード	※ 監督員の承諾する施設　・ 現場説明書による
・ 建設汚泥	※ 監督員の承諾する施設　・ 現場説明書による

3. 現場利用する再資源化された建設廃棄物　〈4.4.1〉

名　称	仕　様	数　量	備　考

4. 産業廃棄物広域認定制度の活用　〈4.4.2〉

種　類	所　在　地
	・ 現場説明書による　・
	・ 現場説明書による　・
	・ 現場説明書による　・
	・ 現場説明書による　・

⑤ 最終処分する建設廃棄物　〈4.4.3〉

名　称	最終処分場の種類	数　量	備　考
※ 石綿含有せっこうボード	※ 管理型 ・		
※ アスベスト含有成形板	※ 安定型 ・		

最終処分施設　※ 監督員の承諾する施設　・ 現場説明書による

⑥ 処理に注意を要する建設廃棄物　〈4.5.1〉

名　称	仕　様	数　量	備　考
※ 特定廃石膏ボード			
※ CCA処理木材			

最終処分施設　※ 監督員の承諾する施設　・ 現場説明書による

「特定廃石膏ボード」とは、以下の石膏ボード製品が廃棄物となったもの。
① ひ素混入石膏ボード
商品名　：タイガーボード
工場名　：小名浜吉野石膏㈱いわき工場　裏面表示マークは「吉野石膏OY」
製造期間　：昭和48年3月～平成9年4月
JIS許可番号：277057、277058
ロット番号　：0373〇〇〇〇〇〇〇〇〇～0497〇〇〇〇〇〇〇〇〇
② カドミウム混入石膏ボード
商品名　：アドラせっこうボード
工場名　：日東石膏ボード㈱八戸工場　裏面表示マークは「日東石膏ボード株式会社」
製造期間　：平成4年10月～平成9年4月
JIS許可番号：265023、265024
ロット番号　：A4Y410～A9430

⑤ 特別管理産業廃棄物等の処理等

① 施工調査　〈5.1.2〉

分析調査を行う特別管理産業廃棄物等の種類	採取する部位又は箇所等	採取する数量	備　考
	・ 図示 ・（　）箇所		
	・ 図示 ・（　）箇所		
	・ 図示 ・（　）箇所		

PCB 含有シーリング分析調査　〈5.4.1〉
・ 第一次判定
現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否を判定する。
・ 第二次判定
専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う。
PCBを含む機器の微量PCBの分析調査
・
絶縁油のPCB含有量の分析基準
※ 特別管理一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物に係る基準の検討方法(平成4年7月3日厚生省告示第192号)
※ 絶縁油中のポリ塩化ビフェニルの分析方法規定(電気技術規定JEAC1201-1991)
・
焼却炉のダイオキシン類汚染物質の調査基準
※ 廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類暴露防止対策要綱(平成13年4月25日付基発第401号)
・

② 特別管理産業廃棄物の処理　〈5.4.1〉

特別管理産業廃棄物の種類	仕　様	数　量	備　考
・ 廃石綿			
・ 廃油			
・ 廃酸			
・ 廃アルカリ			
・ ダイオキシン類汚染物			

処理施設　※ 監督員の承諾する施設　・ 現場説明書による

③ PCBを含む機器類
種類、位置　〈5.4.1〉
・ 現場説明書による　※ 図示　・
機器類は適切な容器に納め、工事完了後、調書と共に監督職員に引き渡す。

4. PCB含有シーリング材
撤去方法　〈5.4.1〉
※ 標準施工要領書(日本シーリング工事業協同組合連合会/日本シーリング材工業会)
・
撤去範囲
※ 図示　・
シーリング材は適切な容器に納め、工事完了後、調書と共に監督職員に引き渡す。

6 石綿含有建材の除去等

① 石綿含有分析調査（分析調査済）
※ 石綿含有建材の事前調査（調査済：報告書による）　〈1.4.1〉
工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等によりアスベストを含有している吹き付け材、成形板、建築材料等の使用の有無について調査し、監督職員に報告する。
調査範囲　・　　・ 図示
貸与資料　（　　　　）
※ 分析による石綿含有建材の調査（調査済：報告書による）
分析対象
アモサイト、クリソタイル、クロシドライト、アクチノライト、アンソフィライト、トレモライト
分析方法
※ JIS A 1481-2（建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第2部:試料採取及びアスベスト含有の含有の有無を判定するための定性分析方法）
・ JIS A 1481-3（建材製品中のアスベスト含有率測定方法-第3部:アスベスト含有率のX線回折定量分析方法）

材　料　名	定性分析	定量分析
	・ 箇所数（　）	・ 箇所数（　）
	・ 箇所数（　）	・ 箇所数（　）
	・ 箇所数（　）	・ 箇所数（　）
	・ 箇所数（　）	・ 箇所数（　）

サンプル数　1箇所あたり3サンプル
採取箇所　・ 図示　・

2. 石綿粉じん濃度測定
測定時期・場所及び測定点　〈6.1.3〉

測定名称	測定時期	測定場所	測定点(各施工箇所ごと)	備　考
・ 測定 1	処理作業前	処理作業室内	各　点	-
・ 測定 2	処理作業前	施工区画周辺又は敷地境界	計　点	-
・ 測定 3	処理作業中	処理作業室内	各　点	-
・ 測定 4	処理作業中	セキュリティーゾーン入口	各　点	空気の流れを確認
・ 測定 5	処理作業中	集じん・排気装置の排出口(処理作業室外の場合)	各　点	装置の性能確認
・ 測定 6	処理作業中	施工区画周辺又は敷地境界	計　点	-
・ 測定 7	処理作業後(シート養生中)	処理作業室内	各　点	-
・ 測定 8	処理作業後(シート養生中)	施工区画周辺又は敷地境界	計　点	-
・ 測定 9	処理作業後シート撤去後1週間以降	処理作業室内	各　点	-
・ 測定 10	処理作業後シート撤去後1週間以降	調査対象室外部の付近	計　点	-

測点位置　※ 図示　・
石綿粉じん濃度測定は「JIS K3850-1 空気中の繊維状粒子測定方法 - 第1部:光学顕微鏡法及び走査電子顕微鏡法」による位相差・分散顕微鏡法による。
測定機関は、都道府県労働局に登録されている作業環境測定機関とする。
石綿粉じん濃度測定方法

	測定4　測定5	・ 測定	・ 測定
計数機器	位相差顕微鏡		
メンブレンフィルタの直径	25 mm	47 mm	47 mm
試料の吸引流量	5 L/min	10 L/min	10 L/min
試料の吸引時間	30 min	120 min	240 min
試料の透明化	アセトン-トリアセチレン法又は、シュウ酸ジエチル法		
計数条件	総アスベスト繊維数200本 又は視野数50視野		
計数アスベスト　(f: 繊維本数)	直径3μm未満、長さ5μm以上、長さと直径比3:1以上		
	50 f/L	0.5 f/L	0.3 f/L

報告書の作成(記録する項目)
ア、測定結果
イ、測定時間
ウ、測定位置(測定高さとともに図面上に記載する。)
エ、サンプリング条件(メンブレンフィルタ直径、吸引時間、吸引空気量)
オ、マウンティング方法
カ、顕微鏡視野面積、計数視野数
キ、測定時(各測定場所ごと)天候、温度、湿度、外気の風速及び風向

3. 石綿含有吹付け材の除去
除去範囲　※ 図示　・　〈6.3.2, 3〉
工法の詳細　※ 解体共仕6.3.2による他、部位・内容に応じた工法は専門工事業者の仕様とする。
飛散防止　※ 密封処理
隔離養生に用いたシート、使用した使い捨て保護衣、高性能真空掃除機フィルタ、粉じん機フィルタについても密封処理を行う。
※ 湿潤化　・ セメント固化
処分　・ 埋立処分(管理型最終処分場)　・ 中間処理(溶融施設)

4. 石綿含有保温材等の除去
除去範囲　※ 図示　・　〈6.4.3〉
除去工法　・ 粉砕して除去　※ 手ばらし
飛散防止措置　※ 湿潤化　・ 固形化
処分　・ 埋立処分(管理型最終処分場)　・ 中間処理(溶融施設)
※石綿含有けい酸カルシウム板第2種を含む

5. アスベスト含有成形板の除去
除去範囲　※ 図示　・　〈6.5.3〉
処分
石綿含有せっこうボード　※ 埋立処分(管理型最終処分場)
石綿含有せっこうボードを除くアスベスト含有成形板
・ 埋立処分(管理型最終処分場)　・ 中間処理(溶融施設)
除去の部位・内容に応じた工法は専門工事業者の仕様とする。
・ 石綿含有けい酸カルシウム板第1種の除去（切断・粉砕する場合）
除去範囲　※ 図示　・
隔離養生（負圧必要）方法　※ ビニールシート等による養生を行う
足場　・ 図示
処分　・ 埋立処分(管理型最終処分場)　・ 中間処理(溶融施設)

・ ビニル床シート，ビニル床タイル，塩ビ巾木　の接着剤（下地：モルタル）の撤去 及び の撤去は 「集塵装置付グラインダー工法」 を原則とする。
※ 他工法での撤去も可能（監督員との協議による）だが　工法の変更による請負代金額の変更は行わない。

6. 石綿含有仕上塗材の除去
除去範囲　※ 図示　・　〈6.6.1〉
着工前の試験施工　※行う　・ 行わない
除去工法
※ 集じん装置付きディスクグラインダーケレン工法
・ 集じん装置付併用手工具ケレン工法
・ 集じん装置付き高圧水洗工法（15MPa以下、30～50MPa）
・ 集じん装置付き超高圧水洗工法（100MPa以上）
・ 剥離剤併用超音波ケレン工法
・ 剥離剤併用手工具ケレン工法
・ 剥離剤併用高圧水洗工法（30～50MPa）
・ 剥離剤併用超高圧水洗工法（100MPa以上）
・ 超音波ケレン工法（HEPAフィルター付掃除機併用）
処分　・ 埋立処分(管理型最終処分場)　・ 中間処理(溶融施設)
※ 埋立処分(安定型最終処分場)

7 特殊な建設副産物の処理

1. 施工調査　〈7.1.3〉

分別調査を行う特別管理産業廃棄物等の種類	採取する部位又は箇所等	採取する数量	備　考
	・ 図示 ・（　）箇所		
	・ 図示 ・（　）箇所		

2. 回収及び処分　〈7.3.1〉

回収及び処分を行う特殊な建設副産物の種類	含有機器名称	回収又は処分業者名
・ フロン		※ 監督員の承諾する業者 ・
・ ハロン		※ 監督員の承諾する業者 ・
・ イオン化感知器		※ 監督員の承諾する業者 ・
・ 六フッ化硫黄(SF_6)ガス		※ 監督員の承諾する業者 ・
・ PFOSガス		※ 監督員の承諾する業者 ・
・		※ 監督員の承諾する業者 ・
・		※ 監督員の承諾する業者 ・
・		※ 監督員の承諾する業者 ・

⑧ その他

① 工事現場の環境改善について
工事現場のイメージアップ
・ 仮囲い周辺の美化　・
地域住民への情報提供
・ 情報掲示板の設置　・ パンフレットの作成
住民に対する災害防止関係
・ 現場出入口周辺への誘導員の配備　・

② 産業廃棄物の取扱いについて
廃棄物の処理の全部又は一部を委託する場合は、廃棄物処理法に基づく処理を業として許可を取得している者に委託すること。また、施工前に産業廃棄物処理委託契約書の写し、産業廃棄物処理業の許可証の写し、許可運搬車両一覧並びに処分地の案内図等をまとめた「廃棄物処理計画書」を監督員に提出すること。

また、産業廃棄物処理状況記録及び写真を次のように整備すること。
（ⅰ）搬出された産業廃棄物の処理状況記録
① 処理の全部又は一部を委託した場合
ア　収集運搬車両ごとのマニュフェストに準じた搬出解体材の数量集計表
イ　最終処分場の案内図及び処分状況の写真(中間処理にあっては中間処理施設の案内図及び中間処理状況の写真)
② 請負者が自ら処理した場合
ア　マニュフェストに準じた解体材の種類ごとの数量集計表
イ　最終処分場の案内図及び処分状況の写真(中間処理にあっては中間処理施設の案内図及び中間処理状況の写真)
③ 特別管理産業廃棄物の場合
①又は②に準ずる。ただし産業廃棄物管理票とあるを特別管理産業廃棄物管理票と読み替える。
（ⅱ）産業廃棄物の再資源化実施状況記録
再生資源利用促進実施書に記載する事項
発生量、搬出先名称、区分、施工条件の内容、搬出先名称、運搬距離、搬出先の種類等
（ⅲ）写真
① 工事着手前の現場全景、周辺及び対象建築物等の現況写真
② 仮設物、安全措置状況及び工程写真(除却作業状況、埋設配管等及び基礎類は入念に撮影すること。)
③ 使用機械類
④ 産業廃棄物収集運搬車両への積込み時及び積降し時の写真
⑤ しゅん工時の全景写真(着手時と同一アングルとする。)
⑥ その他監督職員の指示による

③ 騒音、振動調査
調査の有無　※ 無　・ 有
調査方法については設計図書による。

4. 土壌調査
調査項目 ・ 土壌調査（含有量試験 ・ あり ・ なし）
・ ノルマルヘキサン抽出調査　・ 廃棄物含有調査
土壌汚染に係る環境基準に準拠すること。
調査箇所については設計図書による。

⑤ 官公庁その他への届出手続等
(1) 工事の着手、施工、完成にあたり、関係機関への必要な手続等を遅延なく行う。
(2) 前項に規定する届出手続等を行うにあたっては、届出内容についてあらかじめ監督職員に報告する。

⑥ 疑義に関する協議等
設計図書に定められた内容に疑義が生じたり、現場の納まり又は取合い等の関係で、設計図書によることが困難又は不都合な場合が生じたときは、監督職員と協議する。

7. 文化財その他の埋蔵物
工事の施工にあたり、文化財その他の埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督職員に報告する。その後の措置については、監督職員の指示に従う。また、当該埋蔵物の発見者としての権利は、法律の定めるところにより、発注者が保有する。

8. 埋蔵文化財調査
「周知の埋蔵文化財包蔵地」の該当　・ 該当する　・ 該当しない
掘削作業時の教育委員会等の立会い　・ 有　・ 無
埋蔵文化財調査の時期　・ 解体工事終了後　・ 解体工事中

⑨ 環境対策関係
(1) 現場で使用する機械は、低騒音型、低振動型、排出ガス対策型建設機械とすること。
(2) 夜間、早朝等の稼動を避けること。ただし、監督員の承諾を受けた場合はこの限りでない。なお、運搬ルートの選定に当たっては影響の少ない最短ルートを選定すること。
(3) 汚水、汚濁、土砂の流失防止に努めること。また、表土復元等、環境の回復に努めること。

⑩ 安全対策関係
(1) 工事現場においては、労働災害、公衆災害防止に努めるとともに、全作業員を対象に定期的に安全教育、研修及び訓練を行うこと。
(2) 安全教育、研修及び訓練については、工事期間中に月一回、4時間以上実施し、工事日誌へ記録するほか、実施結果、実施状況の写真、安全教育に使用した資料等も整理すること。
(3) 原則として代理人（主任）以外の第三者により、月1回以上店社による安全パトロールを行い、工事日誌へ記載するほか、点検内容等を別書面に記録し、実施状況の写真を撮影すること。
(4) 下請業者にKY（危険予知）、TBM（作業内容の打合せ）活動等を実施させ、その記録を整備するとともに、随時、実施状況の写真を撮影すること。
(5) 下請業者を含め、作業員に対し現場内容に即した新規入場者教育、安全教育・訓練等を実施し、関連書類及び使用した資料等を整理するとともに、随時、実施状況の写真を撮影すること。
(6) 上記の(2)～(5)の活動については、記録・書類及び写真を整備したものを現場に備え、監督員及び工事検査の際に提示できるようにすること。

⑪ 工事検査　施工途中において工事検査担当職員または、発注機関の長の指定する職員による抜打ち検査を実施することがあるので、検査に協力すること。

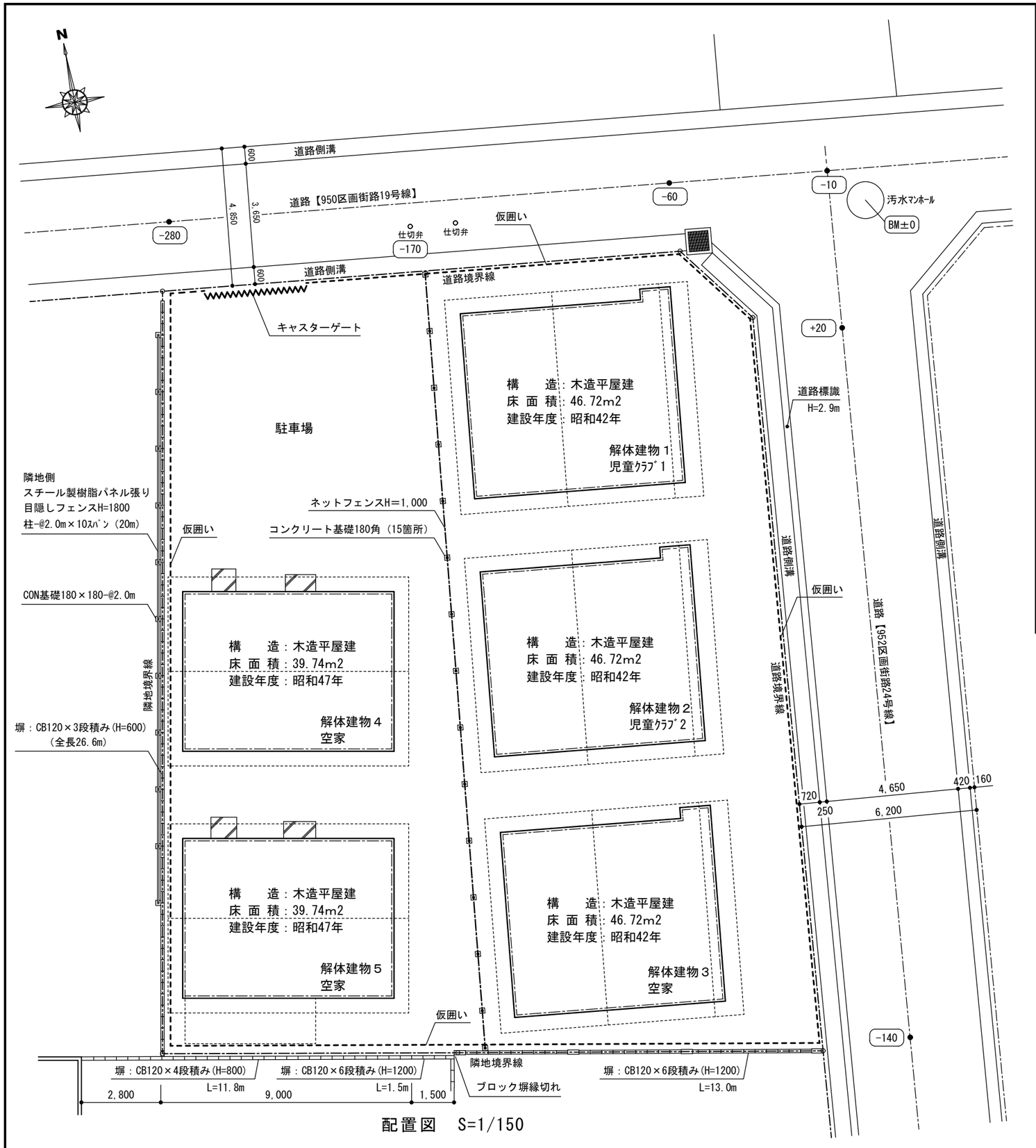
⑫ 被害届等　暴力団関係者から工事妨害による被害を受けた場合は、被害届を速やかに警察に提出すること。

⑬ 施工図等の取扱い　施工図等の著作権に関わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲する。

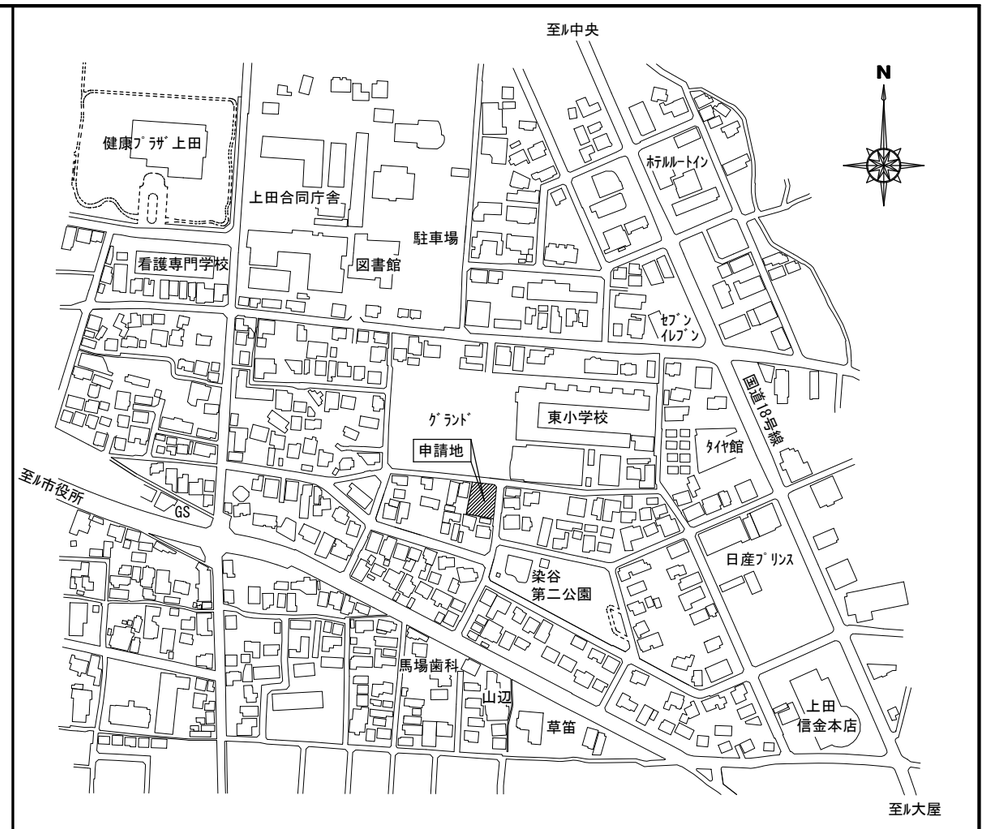
⑭ 提出物　上記による他、監督員の指示による。

2024.07改訂

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / (R8)	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	解体特記仕様書	SCALE A3 NO SCALE	No. 25-007 KA-01



配置図　S=1/150



住所：上田市材木町一丁目131番1　　案内図　S=1/5000

仮設工事

仮囲い：敷地全周に単管組 + 防音シート張り　H=2m

出入口：キャスターゲート　W=3.6m

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	配置図・案内図	SCALE A3 1/150	No. 25-007 KA-02

外 部 仕 上 表

屋　根	和型セメント瓦葺き（　４寸勾配　）、ＴＶアンテナ、　軒樋：カラー鉄板100半丸、　竪樋：カラー鉄板60丸	外部建具	アルミ製框ドア、　アルミ製引違い
	東側下屋：カラー鉄板瓦棒葺き（　２．５寸勾配　）、　雪止めアングル、　窓上庇：カラー鉄板平葺き（庇の出500）		戸袋付き雨戸（３箇所）　生活スペース(1)・広縁・事務室（解体建物２は更衣室）
軒　裏	モルタル塗りの上、リシン吹付け　（　破風板包み・桁包み・母屋包み　共　）	ポーチ・犬走り	無し
外　壁	土壁塗り真壁　上部：モルタル塗りの上、リシン吹付け	断熱材	不明
	土台からH=2,000の部分：モルタル塗りの上、リブ付きカラー鉄板タテ張り		
基　礎	コンクリート（　立上りH=300　）	そ の 他	電気設備機器及び構内配線の撤去・処分を含む
			機械設備機器及び屋外設備機器・埋設配管類の撤去・処分を含む
		共　通	スチール製ネットフェンスH=1.0m（全長27.4m）及びコンクリート基礎180角（15箇所）撤去・処分を含む

内 部 部 仕 上 表

室　名		床　高	巾　木	壁	天　井	廻　縁	天井高	備　考
玄　関	モルタル金ゴテ仕上げ	±0	木	ビニールクロス貼り　及び　プラスター塗り　（土壁塗り）	竿縁天井の上、ビニールクロス貼り	木	2,430	造り付け下足棚
広　縁	ＣＦシート張り	+180	木	プラスター塗りの上、ビニールクロス貼り　（土壁塗り）	同上　（同一天井）	木	2,250	スチール棚（900×330×930×1台）
								スチール棚（1,760×380×880×2台）
物　入	合板張り	+180	雑巾摺	プラスター塗り　（土壁塗り）	合板張り	木		中段付き
生活スペース(1)	解体建物１はＣＦシート張りの上カーペット敷き	+210	木H=90	プラスター塗りの上、ビニールクロス貼り　（土壁塗り）	竿縁天井の上、ビニールクロス貼り	木	2,500	
	解体建物２はタタミの上カーペット敷き		タタミ寄					
生活スペース(2)	タタミの上カーペット敷き	+210	タタミ寄	プラスター塗りの上、ビニールクロス貼り　（土壁塗り）	竿縁天井の上、ビニールクロス貼り	木	2,600	
収納棚	合板張り	+210	雑巾摺	プラスター塗り　（土壁塗り）	合板張り	木		押入を収納棚に使用、中段有り
本　棚	板張り		雑巾摺	プラスター塗りの上、ビニールクロス貼り　（土壁塗り）	竿縁天井の上、ビニールクロス貼り			地袋を本棚に使用
台　所	ＣＦシート張り	+180	ソフト巾木	プラスター塗りの上、ビニールクロス貼り　（土壁塗り）	解体建物１は竿縁天井の上、ビニールクロス貼り		2,600	流し台W=1020、作業台W=700、簡易流し台600×510
	解体建物２は勝手口土間有り（モルタル金ゴテ仕上げ）	-20	モルタル		解体建物２は板張り竿縁天井の上塗装			
倉　庫	モザイクタイル張り	+230	腰部共材	腰部H=750：モザイクタイル張り　（土壁塗り）	モルタル塗りの上、吹付タイル	無し	2,400	浴室を倉庫に使用
				上部壁：モルタル塗りの上、吹付タイル				
トイレ	解体建物１はＣＦシート張り（１段上って便器取付き）		雑巾摺	プラスター塗りの上、ビニールクロス貼り　（土壁塗り）	解体建物１はビニールクロス貼り	木		解体建物１は和式便器、コーナー壁掛けタンク
	解体建物２はＣＦシート張り		ソフト巾木		解体建物２は竿縁天井の上、ビニールクロス貼り			解体建物２は腰掛便器
事務室（解体建物1）	ＣＦシート張り	+210	木	プラスター塗りの上、ビニールクロス貼り　（土壁塗り）	板張り竿縁天井			スチール書棚（880×400×1,120×1台）
更衣室（解体建物2）	タタミ敷き	+210	タタミ寄	プラスター塗りの上、ビニールクロス貼り　（土壁塗り）	板張り竿縁天井の上塗装			スチールロッカー（935×515×1,790×1台）
押　入	合板張り	+180	雑巾摺	モルタル塗りの上、プラスター塗り　（土壁塗り）	合板張り	木		中段付き

外 部 仕 上 表

屋　根	和型セメント瓦葺き（　４寸勾配　）、ＴＶアンテナ、　軒樋：カラー鉄板　90半丸、　竪樋：カラー鉄板　50丸	外部建具	アルミ製框ドア、　アルミ製引違い窓
	東側下屋：カラー鉄板瓦棒葺き（　２．５寸勾配　）、　雪止めアングル、　窓上庇：カラー鉄板平葺き（庇の出500）		戸袋付き雨戸（３箇所）　和室6帖(1)・広縁・和室3帖
軒　裏	モルタル塗りの上、リシン吹付け　（　破風板包み・桁包み・母屋包み　共　）	ポーチ・犬走り	無し
外　壁	土壁塗り真壁　上部：モルタル塗りの上、リシン吹付け	断熱材	不明
	土台からH=2,000の部分：モルタル塗りの上、リブ付きカラー鉄板タテ張り		
基　礎	コンクリート（　立上りH=300　）	その他	電気設備機器及び構内配線の撤去・処分を含む
			機械設備機器及び屋外設備機器・埋設配管類の撤去・処分を含む
		共　通	スチール製ネットフェンスH=1.0m（全長27.4m）及びコンクリート基礎180角（15箇所）撤去・処分を含む

内 部 部 仕 上 表

室　名	床	床　高	巾　木	壁	天　井	廻　縁	天井高	備　考
玄関	モルタル金ゴテ仕上げ	±0		土壁塗り真壁の上、プラスター塗り	板張り竿縁天井	木	2,440	造り付け下足棚
広縁	フローリング張り	+160	雑巾摺	土壁塗り真壁の上、プラスター塗り	同上　（同一天井）	同上	2,280	
物入	合板張り	+200	雑巾摺	土壁塗り真壁の上、プラスター塗り	合板張り	木		中段付き
和室６帖(1)	タタミ敷き	+200	タタミ寄	土壁塗り真壁の上、プラスター塗りの上、ビニールクロス貼り	板張り竿縁天井	木	2,600	
和室６帖(2)	タタミ敷き	+200	タタミ寄	土壁塗り真壁の上、プラスター塗りの上、ビニールクロス貼り	板張り竿縁天井	木	2,600	
				鴨居上は土壁塗り真壁の上、繊維壁				
同上押入	合板張り	+200	雑巾摺	土壁塗り真壁の上、プラスター塗り	合板張り	木		中段付き
同上床の間	板張り		雑巾摺	土壁塗り真壁の上、繊維壁	板張り竿縁天井	木		地袋付き
台所	ＣＦシート張り	+160	雑巾摺	土壁塗り真壁の上、プラスター塗り	板張り竿縁天井	木	2,640	流し台W=1020、作業台W=700
	勝手口土間はモルタル金ゴテ仕上げ							
浴室	モザイクタイル張り	+230	腰部共材	腰部H=750：モザイクタイル張り　（土壁塗り）	モルタル塗りの上、プラスター塗り	無し	2,400	ＦＲＰ浴槽、バランス釜
				上部壁：モルタル塗りの上、プラスター塗り				
トイレ	ＣＦシート張り		雑巾摺	土壁塗り真壁の上、プラスター塗り	板張り竿縁天井	木		和式便器、コーナー壁掛けタンク
和室３帖	タタミ敷き	+200	タタミ寄	土壁塗り真壁の上、プラスター塗り	板張り竿縁天井	木	2,600	
同上押入	合板張り	+200	雑巾摺	土壁塗り真壁の上、プラスター塗り	合板張り	木		中段付き

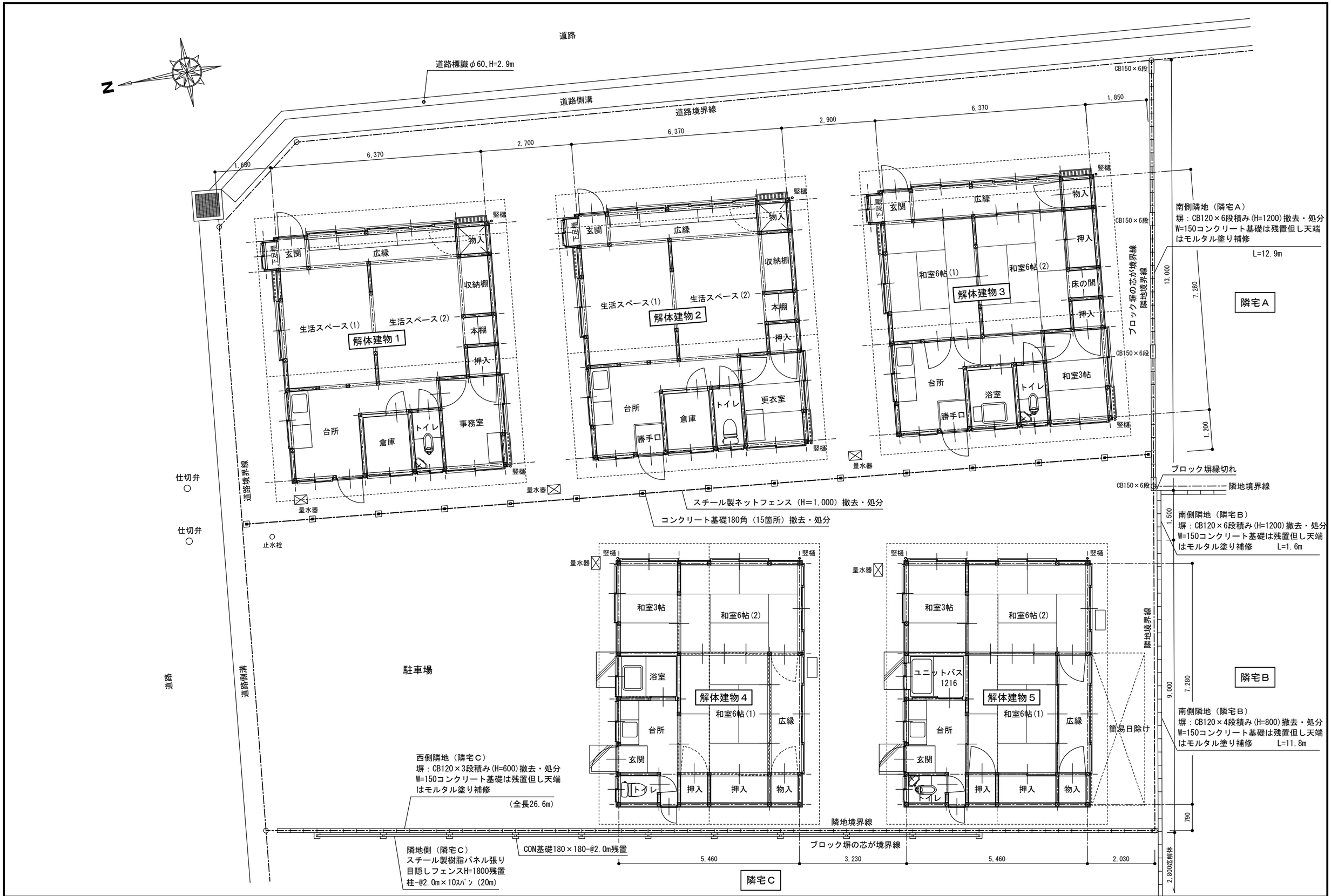
外 部 仕 上 表

屋　　根	平型セメント瓦葺き（　３寸勾配　）、ＴＶアンテナ、　軒樋：カラー鉄板　90半丸、　竪樋：カラー鉄板　50丸	外部建具	アルミ製框ドア、　アルミ製引違い窓
	玄関庇：カラー鉄板平葺き（庇の出650）		※解体建物５のみ南側に丸パイプ組立（屋根タキロン波板）簡易日除け（間口4.6m×奥行1.6m×高さ2.2m～2.4m）
軒　　裏	モルタル塗りの上、リシン吹付け　（　破風板包み・桁包み・母屋包み　共　）	ポーチ・犬走り	コンクリート
外　　壁	モルタル塗りの上、リシン吹付け、　プラスチック小屋裏換気ガラリ	断　熱　材	不明
基　　礎	コンクリート（　立上りH=300　）	そ　の　他	電気設備機器及び構内配線の撤去・処分を含む
			機械設備機器及び屋外設備機器・埋設配管類の撤去・処分を含む
		共　　通	スチール製ネットフェンスH=1.0m（全長27.4m）及びコンクリート基礎180角（15箇所）撤去・処分を含む

内 部 部 仕 上 表

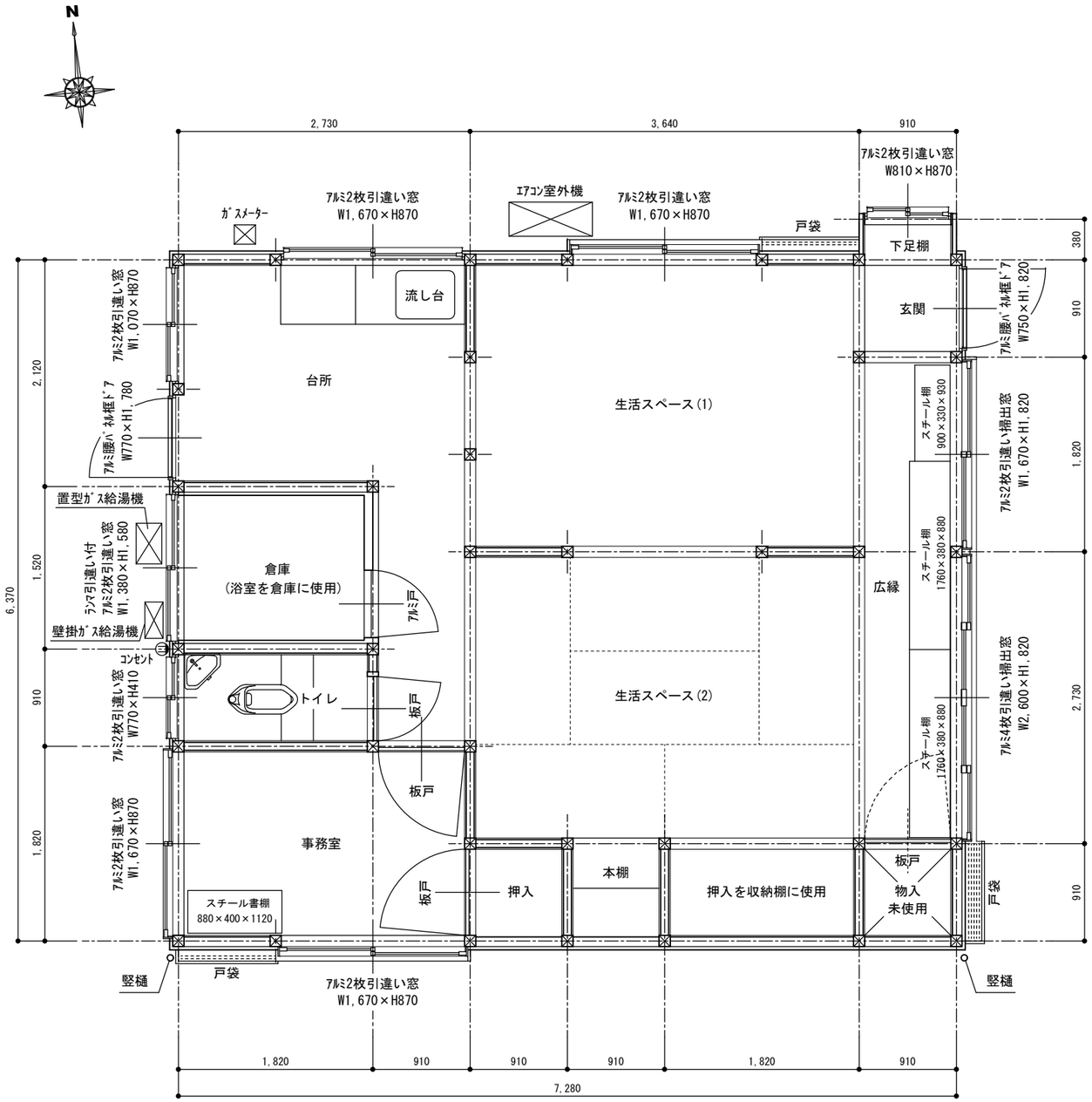
室　名	床	床　高	巾　木	壁	天　井	廻　縁	天井高	備　考
玄関	モルタル金ゴテ仕上げ	±0	モルタル	モルタル塗りの上、プラスター塗り　（土壁塗り）	解体建物４は石膏ボード張り	木		
					解体建物５はプリント石膏ボード張り			
台所	解体建物４：ＣＦシート張り		ソフト巾木	解体建物４はモルタル塗りの上、プラスター塗り、流し台廻りステンレス張り（土壁塗り）	同上（同一天井）	木		流し台W=1020、作業台W=700
	解体建物５：合板フローリング		木	解体建物５はビニールクロス貼り、一部石膏ボード張り、流し台廻りステンレス張り				
トイレ	解体建物４：ＣＦシート張り		木	解体建物4は腰ビニールクロス貼り、上壁プラスター塗り　（土壁塗り）	板張り竿縁天井	木		解体建物４は腰掛便器に改修歴
	解体建物５：ＣＦシート張り（１段上って便器取付き）		雑巾摺	解体建物５はモルタル塗りの上、プラスター塗り				解体建物５は和式便器、コーナー壁掛けタンク
浴室	解体建物４：モザイクタイル張り		腰部共材	腰H=750：モザイクタイル張り、　上部：モルタル塗りの上、プラスター塗り　（土壁塗り）	解体建物４はスレートボード張り	無し		ＦＲＰ浴槽
	解体建物５：ＦＲＰ床パネル		―――	ＦＲＰ壁パネル	解体建物５は天井パネル（下地軟質スレートボード）			ユニットバス（日立ＭＳＢ1116）に改修歴
和室６帖(1)	タタミ敷き		タタミ寄	解体建物４はモルタル塗りの上、繊維壁　（土壁塗り）	板張り目透かし天井	木		
				解体建物５はモルタル塗りの上、ビニールクロス貼り				
同上押入	合板張り		雑巾摺	モルタル塗りの上、プラスター塗り　（土壁塗り）	合板張り	木		中段及び天袋付き
広縁	ＣＦシート張り		雑巾摺	モルタル塗りの上、繊維壁　（土壁塗り）	板張り竿縁天井	木		
同上物入	合板張り		雑巾摺	モルタル塗りの上、プラスター塗り　（土壁塗り）	合板張り	木		
和室６帖(2)	タタミ敷き		タタミ寄	解体建物４はモルタル塗りの上、繊維壁　（土壁塗り）	板張り目透かし天井	木		
				解体建物５はモルタル塗りの上、ビニールクロス貼り				
和室３帖	タタミ敷き		タタミ寄	解体建物４はモルタル塗りの上、繊維壁　（土壁塗り）	板張り竿縁天井	木		
				解体建物５はモルタル塗りの上、ビニールクロス貼り、　鴨居上は繊維壁				
				※解体建物４の内部建具は外され、和室（1）、(2)、浴室に集積してある。				

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	解体建物４・５　仕　上　表	SCALE A3　NO SCALE / No. 25-007 KA-05



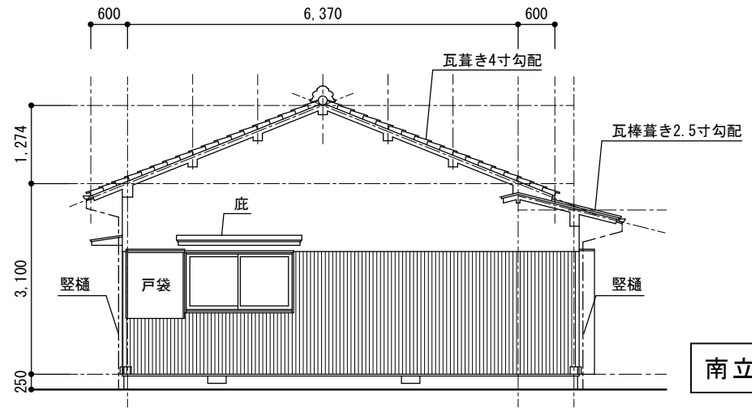
上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	解体建物全体平面図

SCALE	No. 25-007
A3　1/100	KA-06

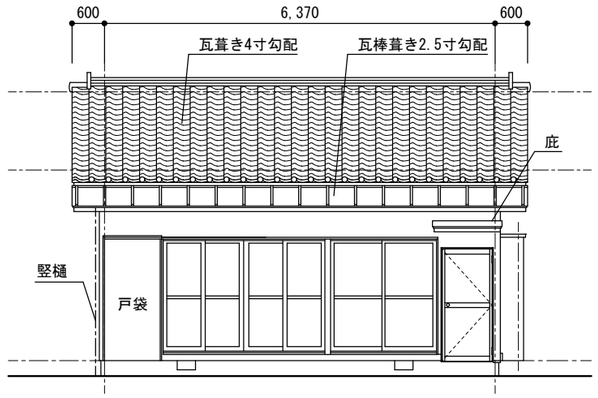


平面図　S＝1/50

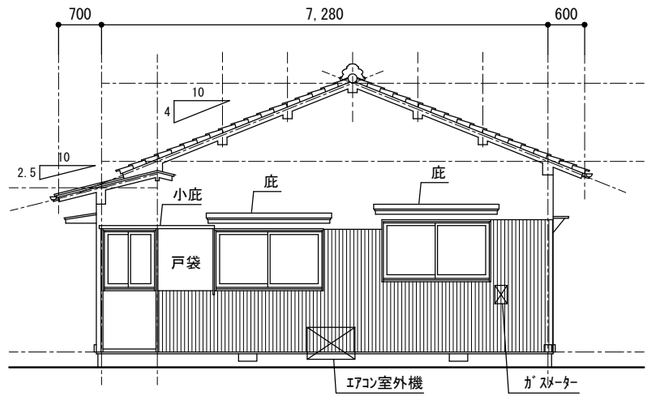
床面積：(7.28 × 6.37) + (0.91 × 0.38) ＝ 46.72㎡



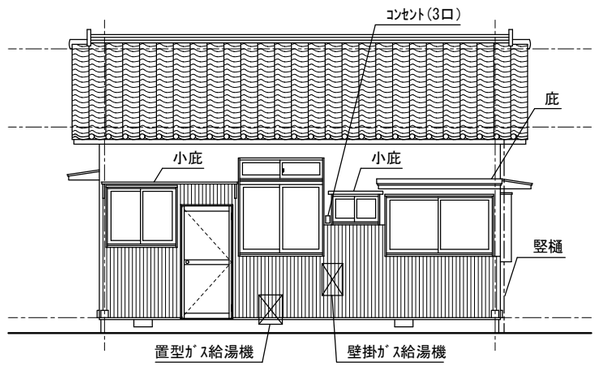
南立面図　S＝1/100



東立面図　S＝1/100

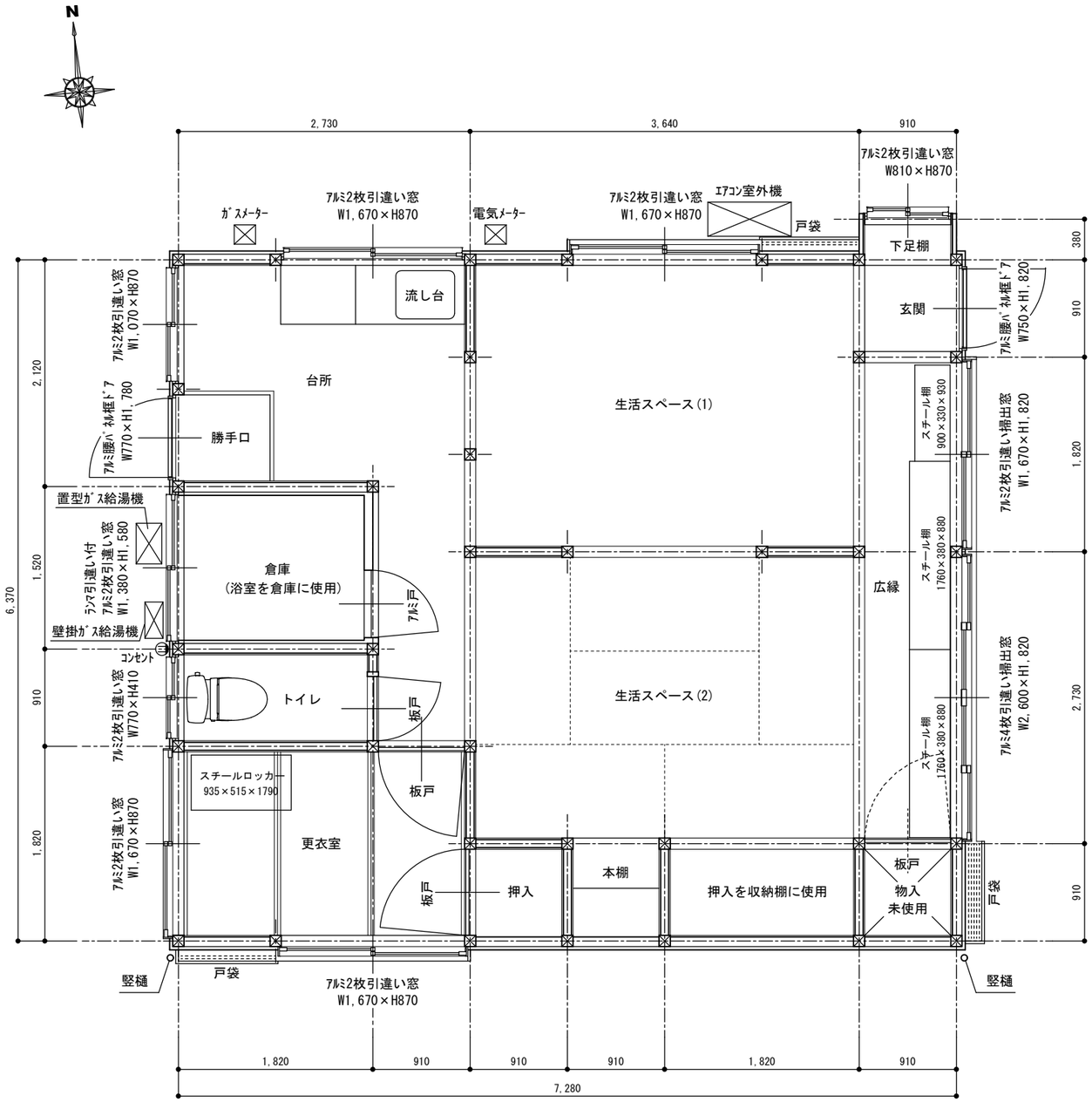


北立面図　S＝1/100



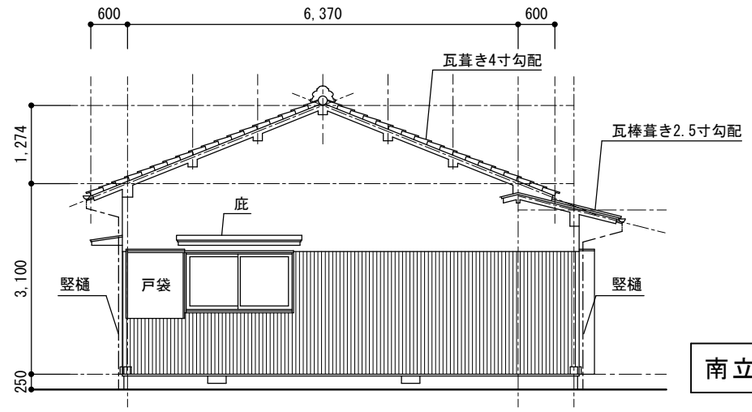
西立面図　S＝1/100

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	解体建物１　平面図・立面図	SCALE A3 1/50 1/100	No. 25-007 KA-07

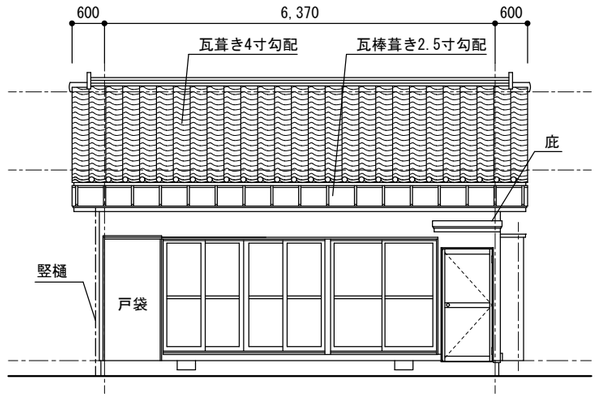


平面図　S＝1/50

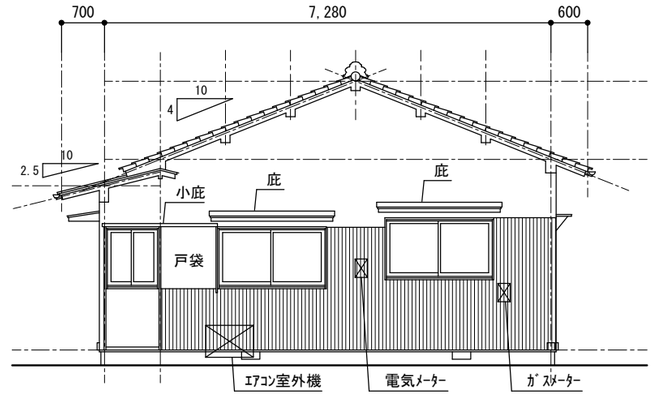
床面積：(7.28 × 6.37) + (0.91 × 0.38) ＝ 46.72㎡



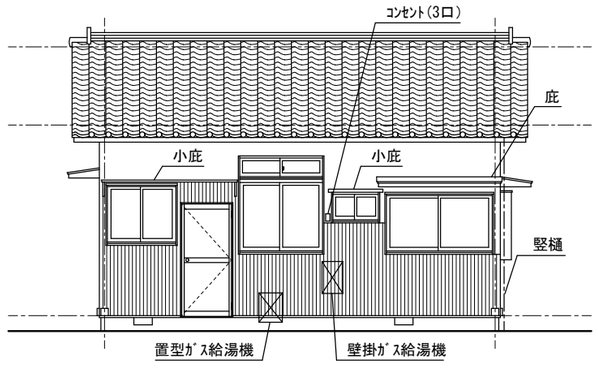
南立面図　S＝1/100



東立面図　S＝1/100

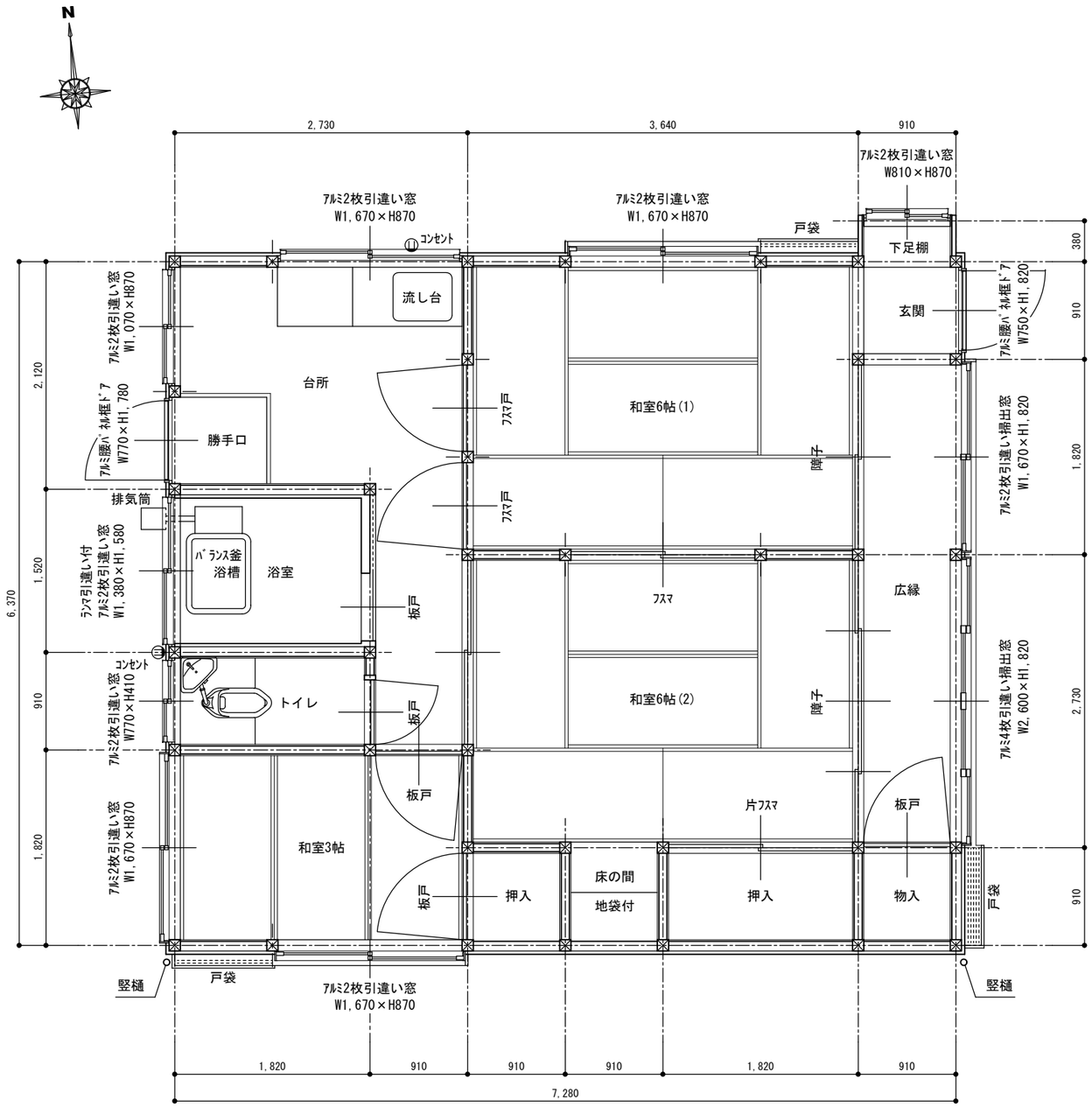


北立面図　S＝1/100



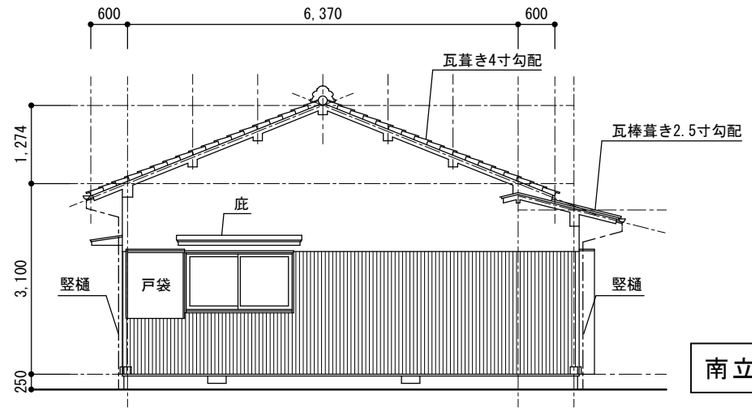
西立面図　S＝1/100

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	解体建物２　平面図・立面図	SCALE A3 1/50 1/100	No. 25-007 KA-08

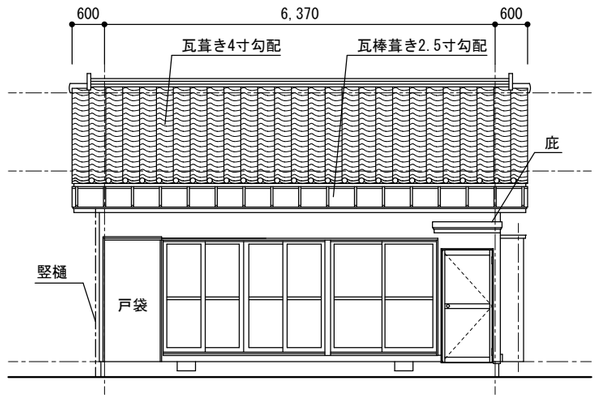


平面図　S＝1/50

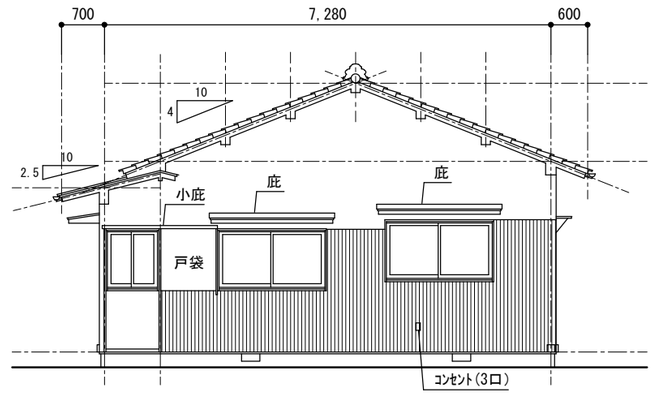
床面積：(7.28 × 6.37) + (0.91 × 0.38) ＝ 46.72㎡



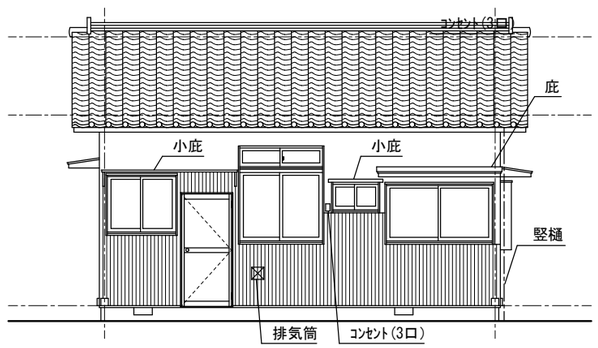
南立面図　S＝1/100



東立面図　S＝1/100

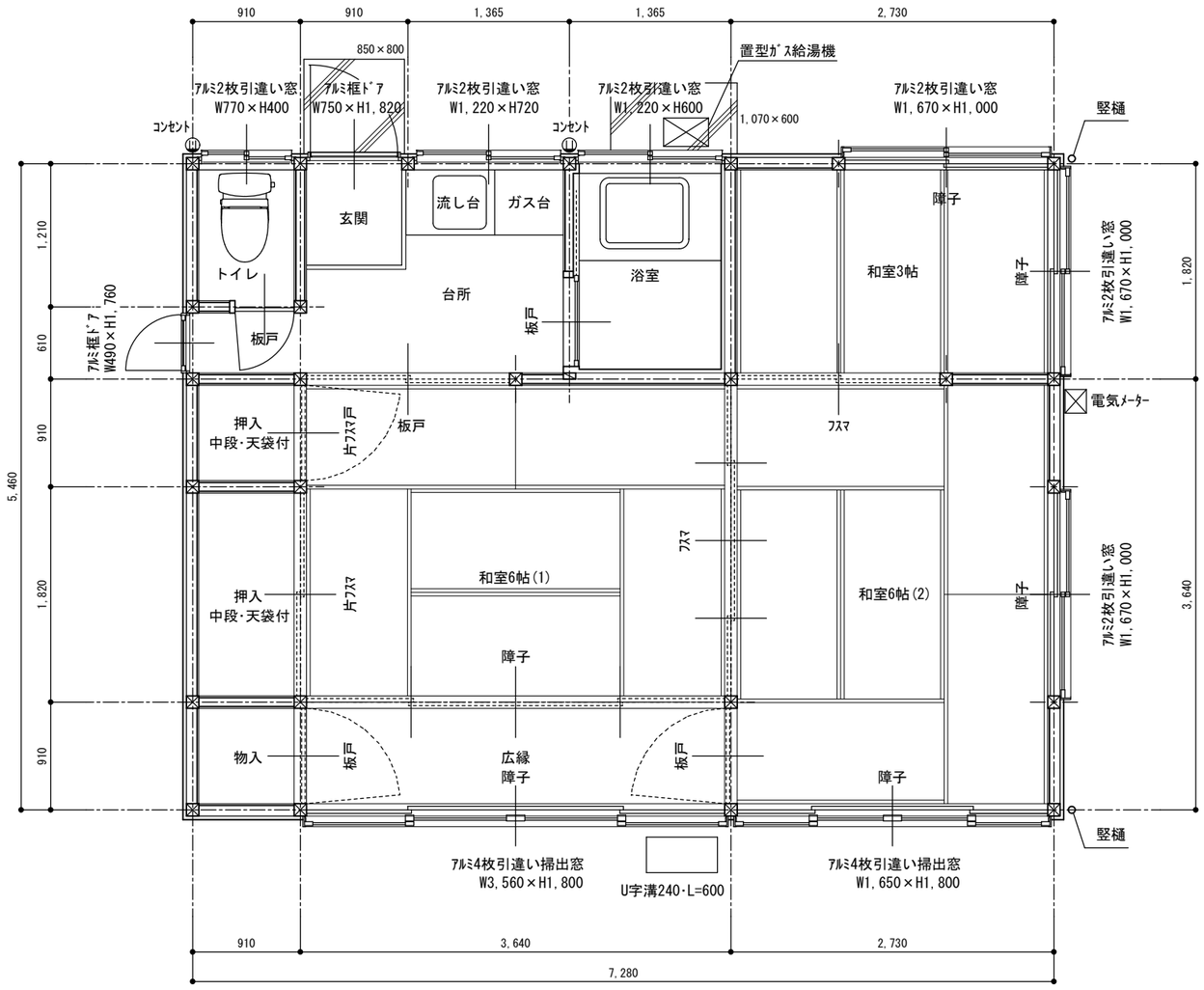


北立面図　S＝1/100



西立面図　S＝1/100

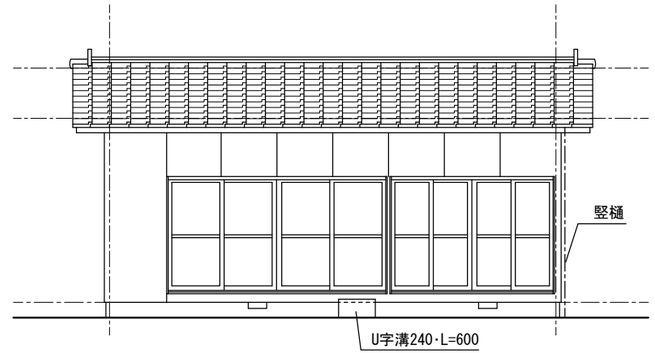
上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	解体建物３　平面図・立面図	SCALE A3 1/50 1/100	No. 25-007 KA-09



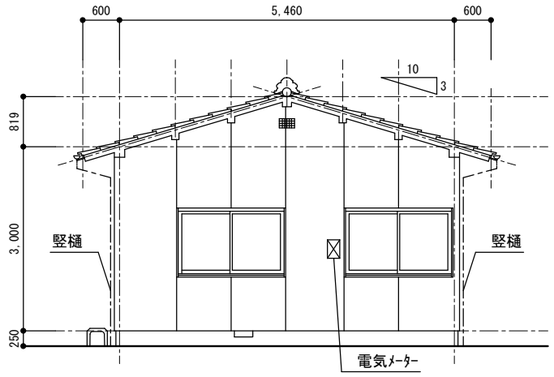
平面図　S＝1/50

※内部建具は全て外され和室6帖にまとめて集積

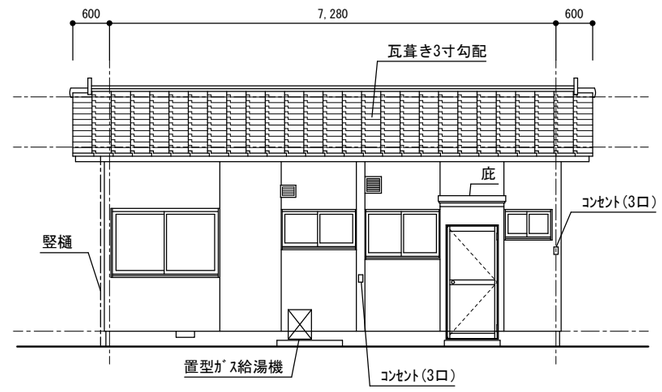
床面積：7.28 × 5.46 ＝ 39.74㎡



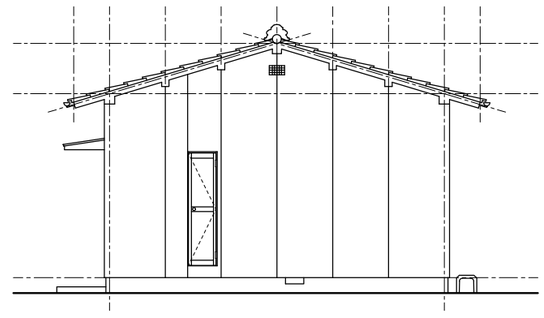
南立面図　S＝1/100



東立面図　S＝1/100

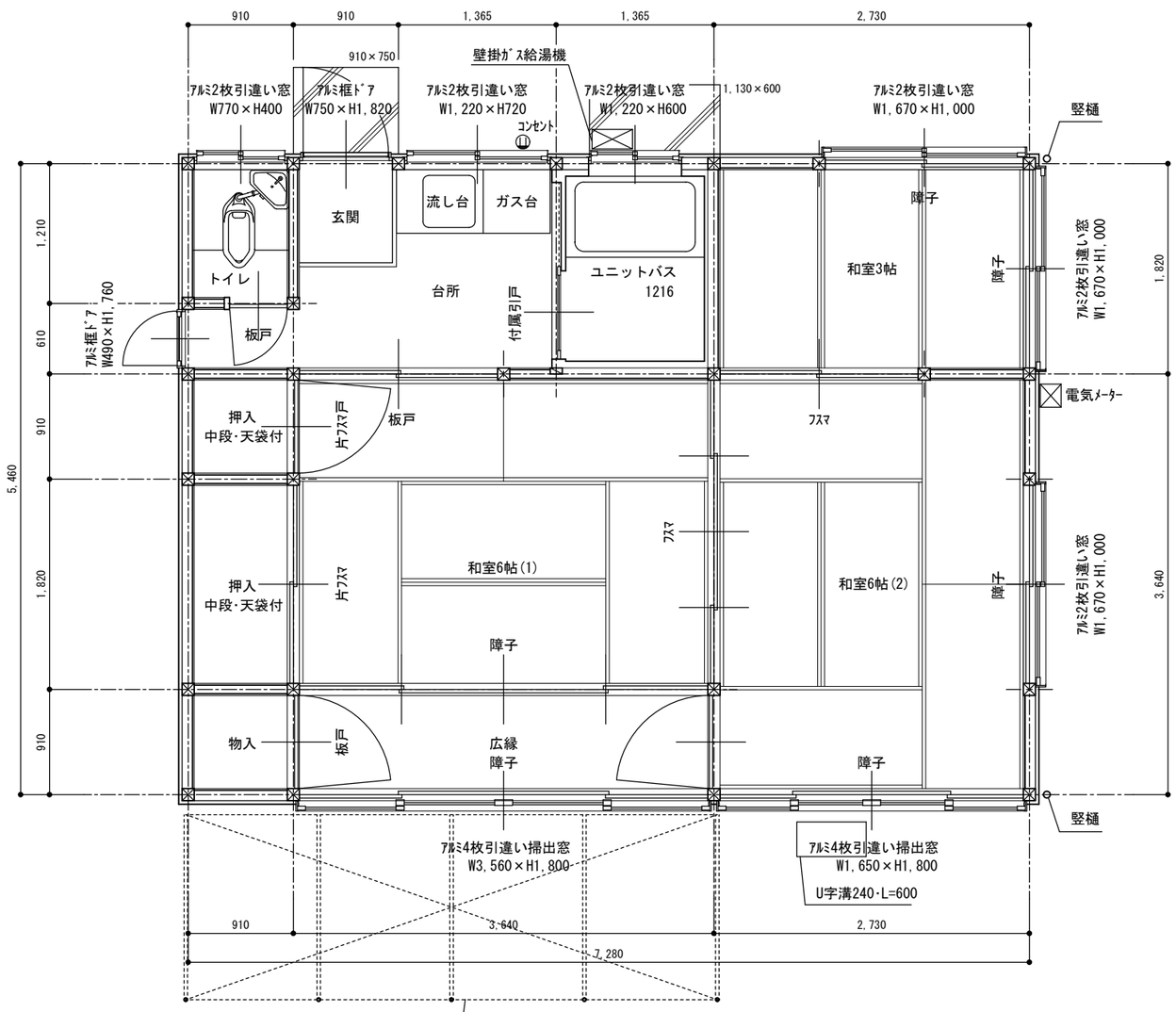


北立面図　S＝1/100



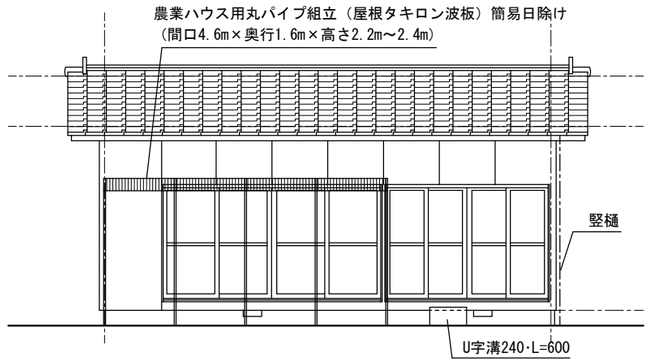
西立面図　S＝1/100

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	解体建物４　平面図・立面図	SCALE A3 1/50 1/100	No. 25-007 KA-10

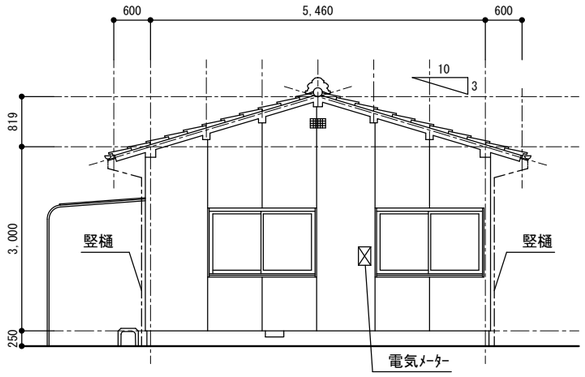


平面図　S＝1/50

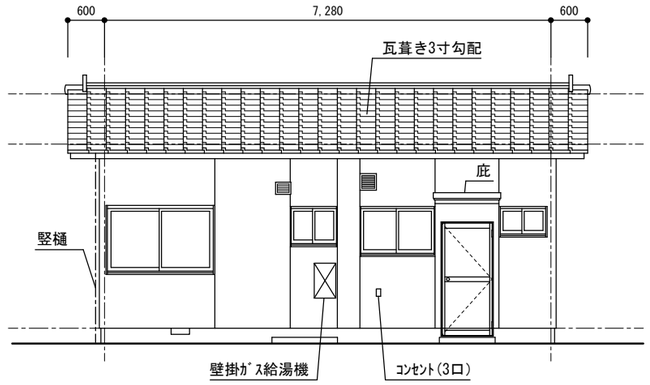
床面積：7.28 × 5.46 ＝ 39.74㎡



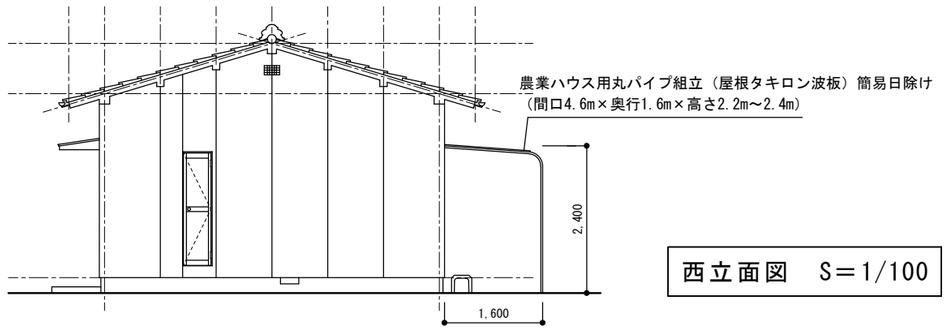
南立面図　S＝1/100



東立面図　S＝1/100

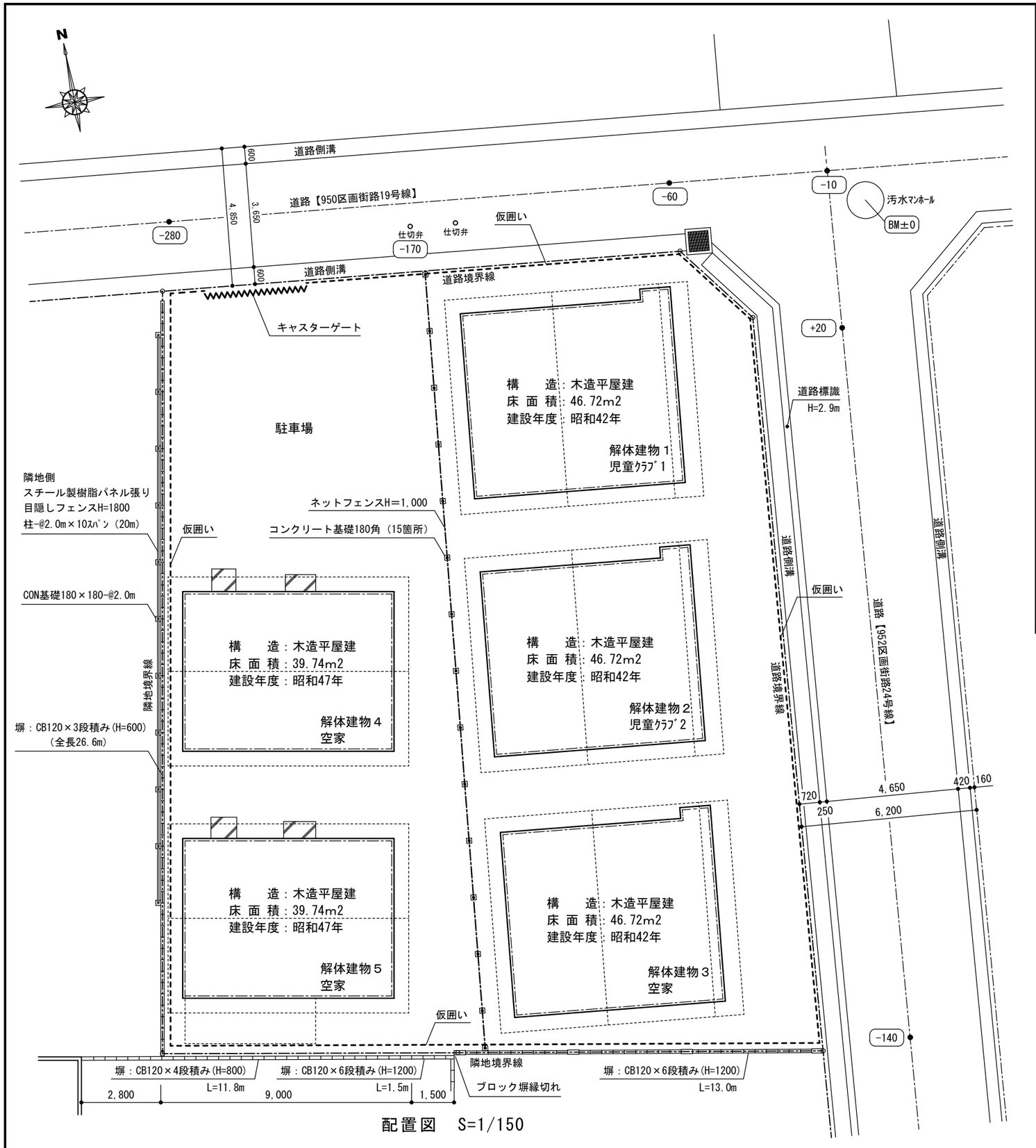


北立面図　S＝1/100



西立面図　S＝1/100

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	解体建物５　平面図・立面図	SCALE A3 1/50 1/100	No. 25-007 KA-11

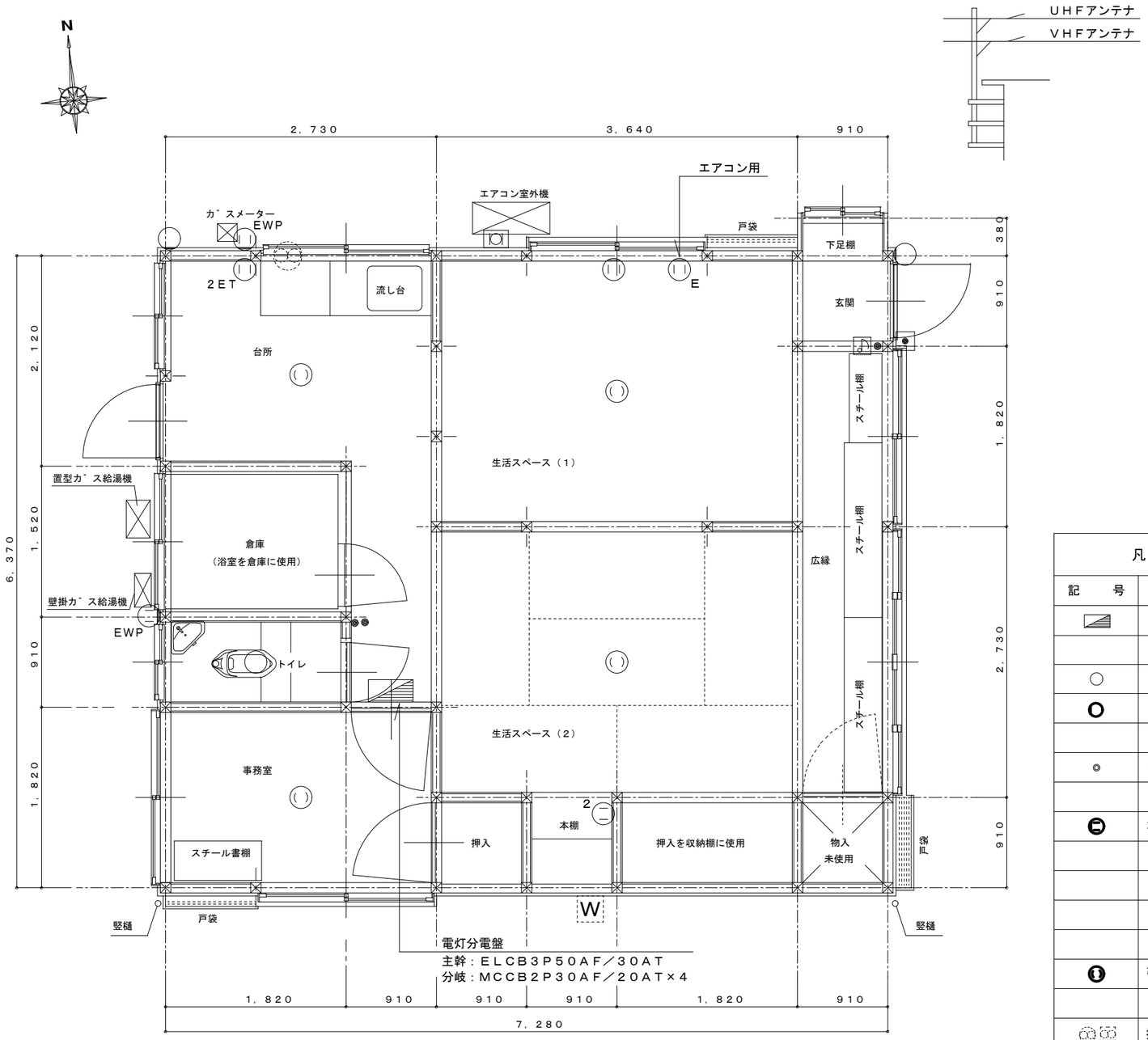


配置図　S=1/150

住所：上田市材木町一丁目131番1

案内図　S=1/5000

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	配置図・案内図	SCALE A3 1/150	No. 25-007 KE-01



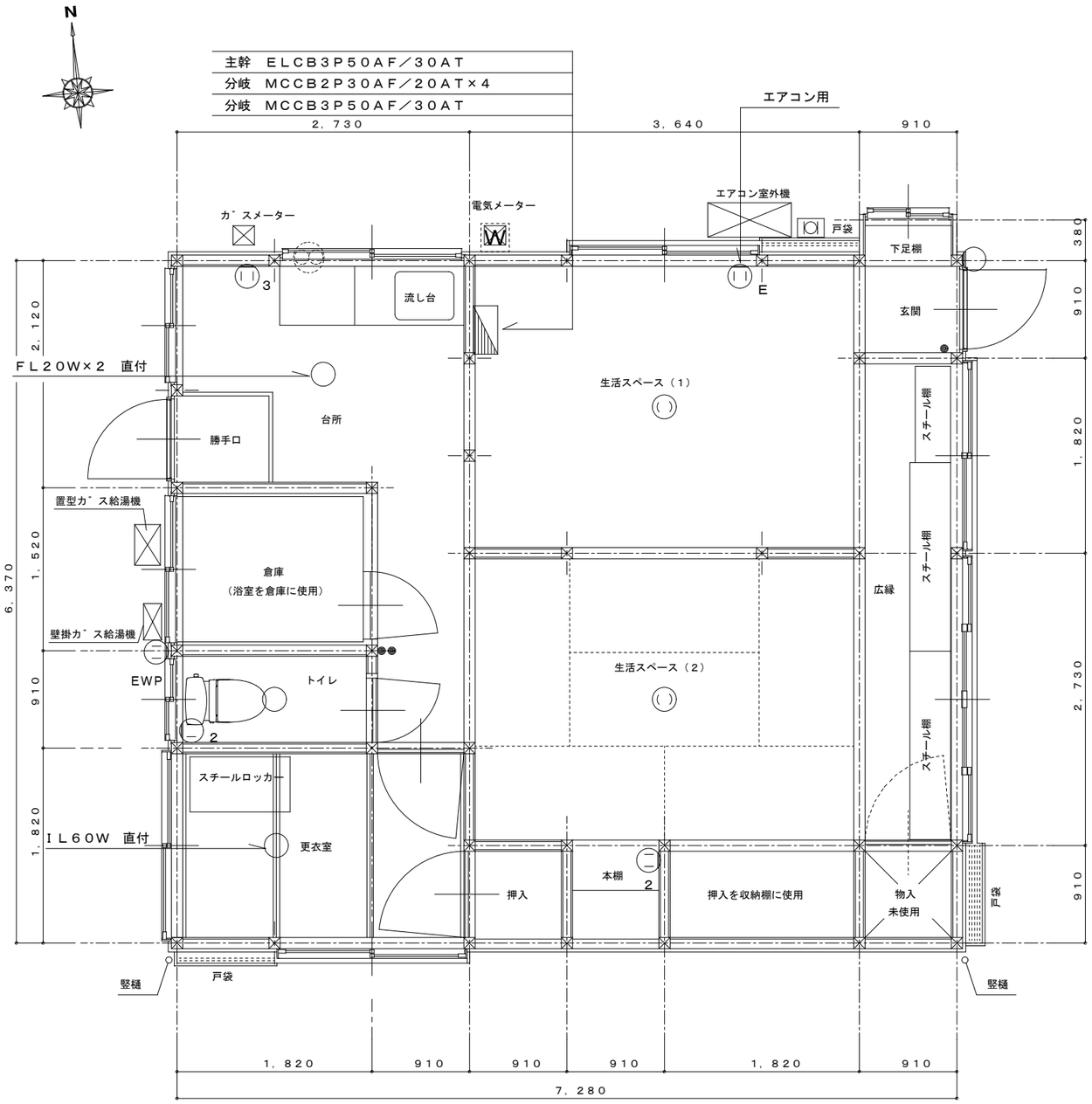
平面図　S＝1／50

凡　例

記号	名称	備考
	電灯分電盤	
○	白熱灯及び蛍光灯	直付
O	白熱灯及び蛍光灯	ブラケット
◎	埋込スイッチ	1P15A　樹脂プレート共
	埋込コンセント	2P15A×1　樹脂プレート共　　2付　2P15A×2　　3付　2P15A×3
		E付　2P15A×1　接地端子付　　2E付　2P15A×2　接地極付
		EWP付　2P15A×2　接地極、接地端子付　抜止メ　防水型
		（露）付　露出型
	引掛シーリング	
	換気扇	別途設備工事　　なお、接続は本工事に含む。
	呼出チャイム	
	同上押釦	
	保安器	

・本図に示された資材は全て撤去とする。又、配管・配線は調査の上、全て撤去とする。

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 ／ R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N－78311号 住所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図名	解体建物1　電気設備撤去平面図	SCALE A3　1／50	No. 25-007 KE-02



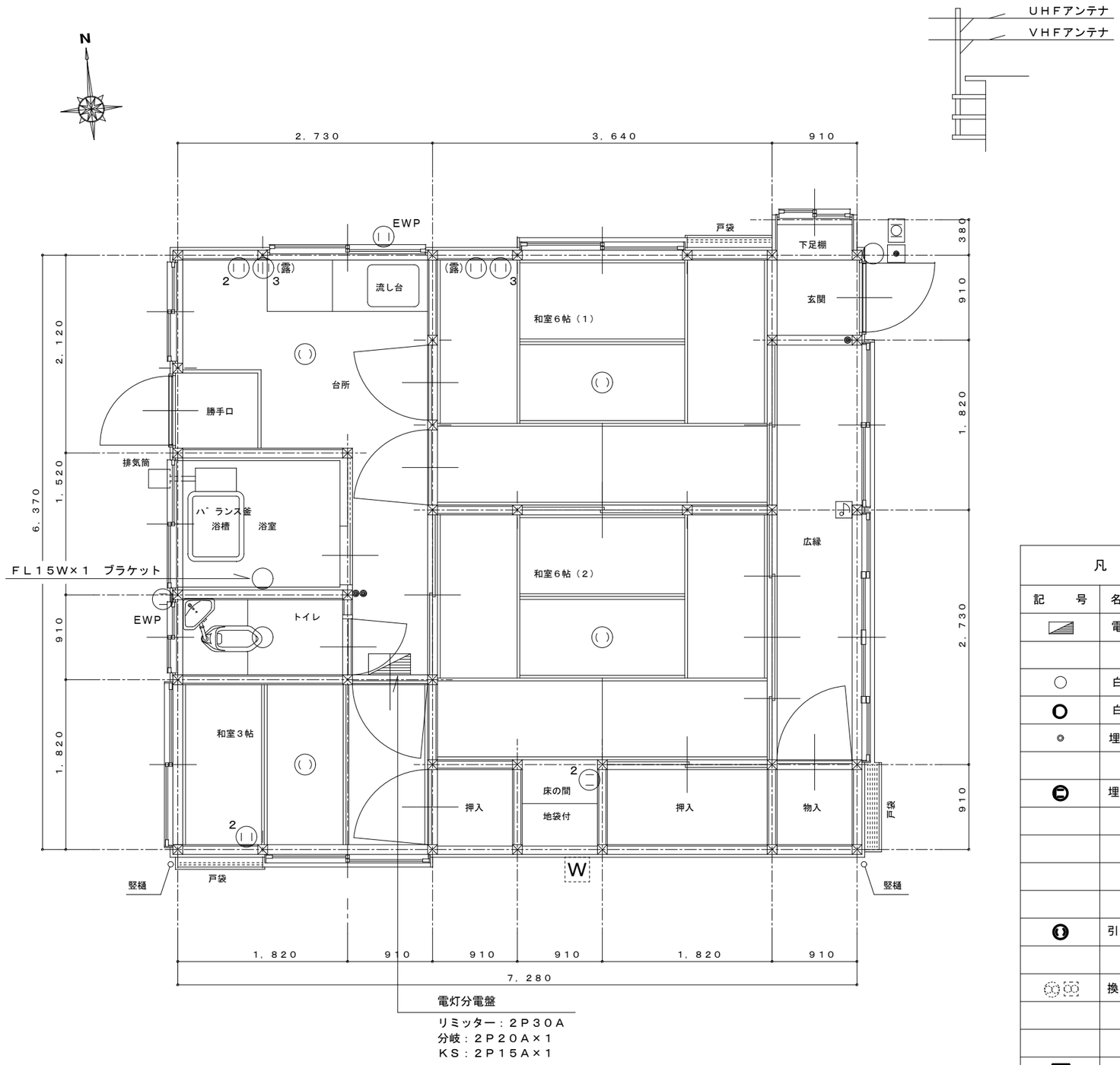
平面図　S＝1／50

凡　　例

記　号	名　称	備　考
	電灯分電盤	
○	白熱灯及び蛍光灯	直付
●	白熱灯及び蛍光灯	ブラケット
◎	埋込スイッチ	１Ｐ１５Ａ　樹脂プレート共
⊖	埋込コンセント	２Ｐ１５Ａ×１　樹脂プレート共　　２付　２Ｐ１５Ａ×２　　３付　２Ｐ１５Ａ×３
		Ｅ付　２Ｐ１５Ａ×１　接地端子付　　２Ｅ付　２Ｐ１５Ａ×２　接地極付
		ＥＷＰ付　２Ｐ１５Ａ×２　接地極、接地端子付　抜止メ　防水型
	引掛シーリング	
	換気扇	別途設備工事　　なお、接続は本工事に含む。
	保安器	

・本図に示された資材は全て撤去とする。又、配管・配線は調査の上、全て撤去とする。

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 ／ R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田Ｎ－78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	解体建物２　電気設備撤去平面図	SCALE A３　1／５０	No. 25-007 KE-03



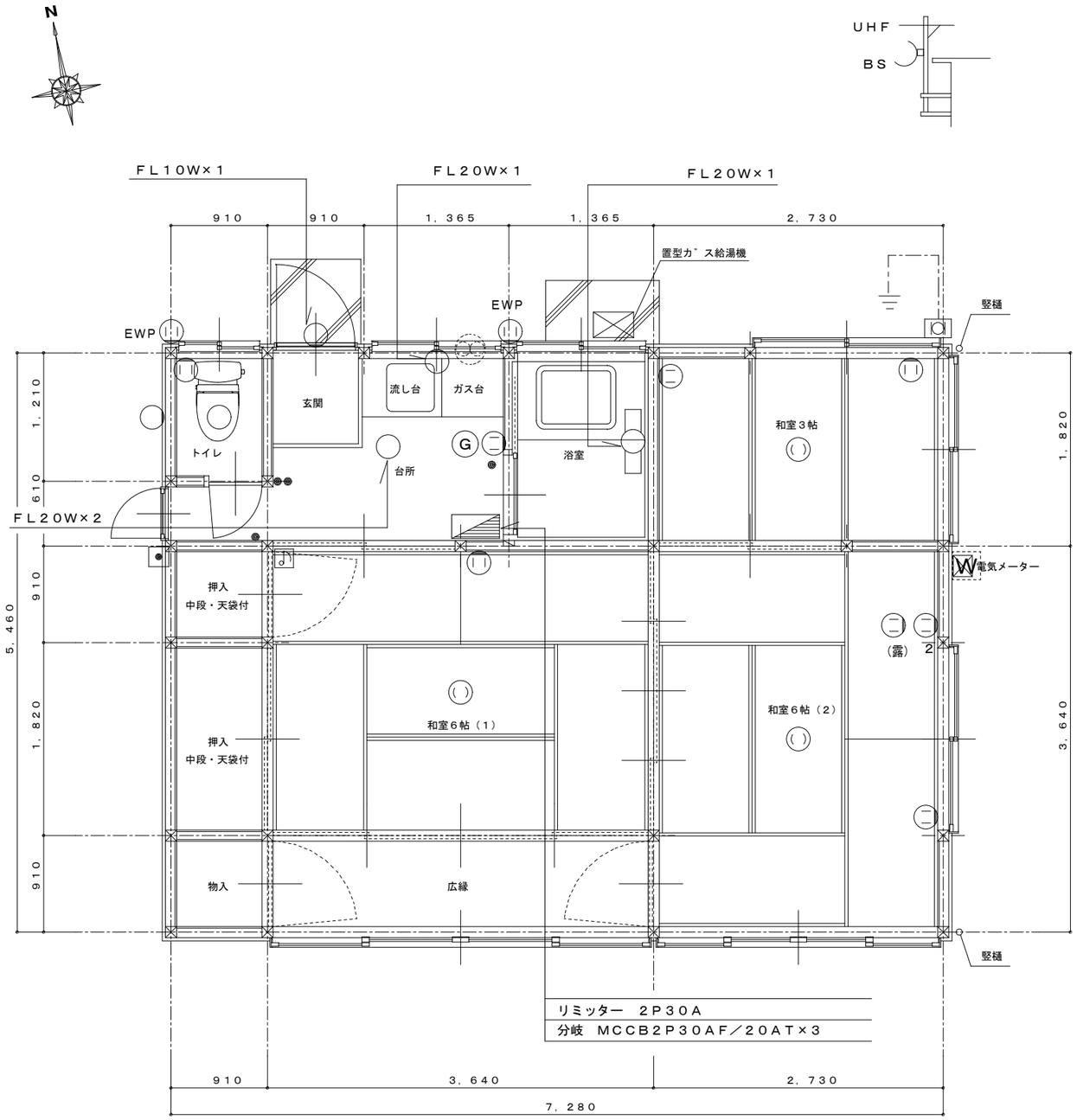
平面図　S＝1／50

・本図に示された資材は全て撤去とする。又、配管・配線は調査の上、全て撤去とする。

凡　　例

記号	名称	備考
	電灯分電盤	
○	白熱灯及び蛍光灯	直付
○	白熱灯及び蛍光灯	ブラケット
◎	埋込スイッチ	1P15A　樹脂プレート共
⊖	埋込コンセント	2P15A×1　樹脂プレート共　　2付　2P15A×2　　3付　2P15A×3
		E付　2P15A×1　接地端子付　　2E付　2P15A×2　接地極付
		EWP付　2P15A×2　接地極、接地端子付　抜止メ　防水型
		（露）付　露出型
	引掛シーリング	
	換気扇	別途設備工事　　なお、接続は本工事に含む。
	呼出チャイム	
	同上押釦	
	保安器	

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 ／ R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N－78311号 住所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図名	解体建物3　電気設備撤去平面図	SCALE A3　1／50	No. 25-007 KE-04



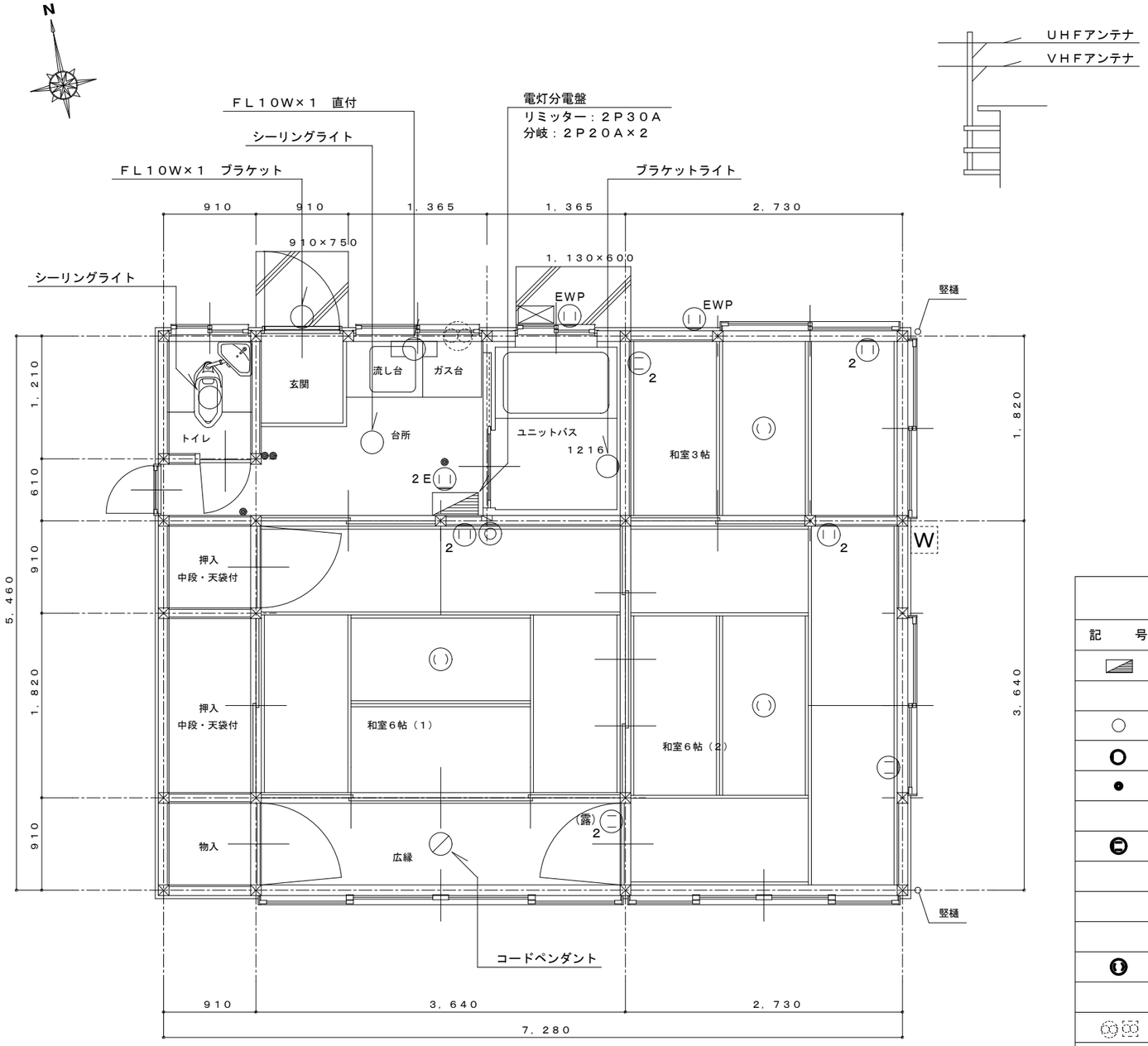
平面図　S＝1／50

・本図に示された資材は全て撤去とする。又、配管・配線は調査の上、全て撤去とする。

凡　　例

記　号	名　称	備　考
	電灯分電盤	
○	白熱灯及び蛍光灯	直付
○	白熱灯及び蛍光灯	ブラケット
◎	埋込スイッチ	1P15A　樹脂プレート共
	埋込コンセント	2P15A×1　樹脂プレート共　　2付　2P15A×2　　3付　2P15A×3
		E付　2P15A×1　接地端子付　　2E付　2P15A×2　接地極付
		EWP付　2P15A×2　接地極、接地端子付　抜止メ　防水型
		(露)付　露出型
	引掛シーリング	
	換気扇	別途設備工事　　なお、接続は本工事に含む。
Ⓖ	ガス漏れ警報器	
	呼出チャイム	
	同上押釦	
	保安器	

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 ／ R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録　第上田N－78311号 住所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図名	解体建物4　電気設備撤去平面図	SCALE A3　1／50	No. 25-007 KE-05



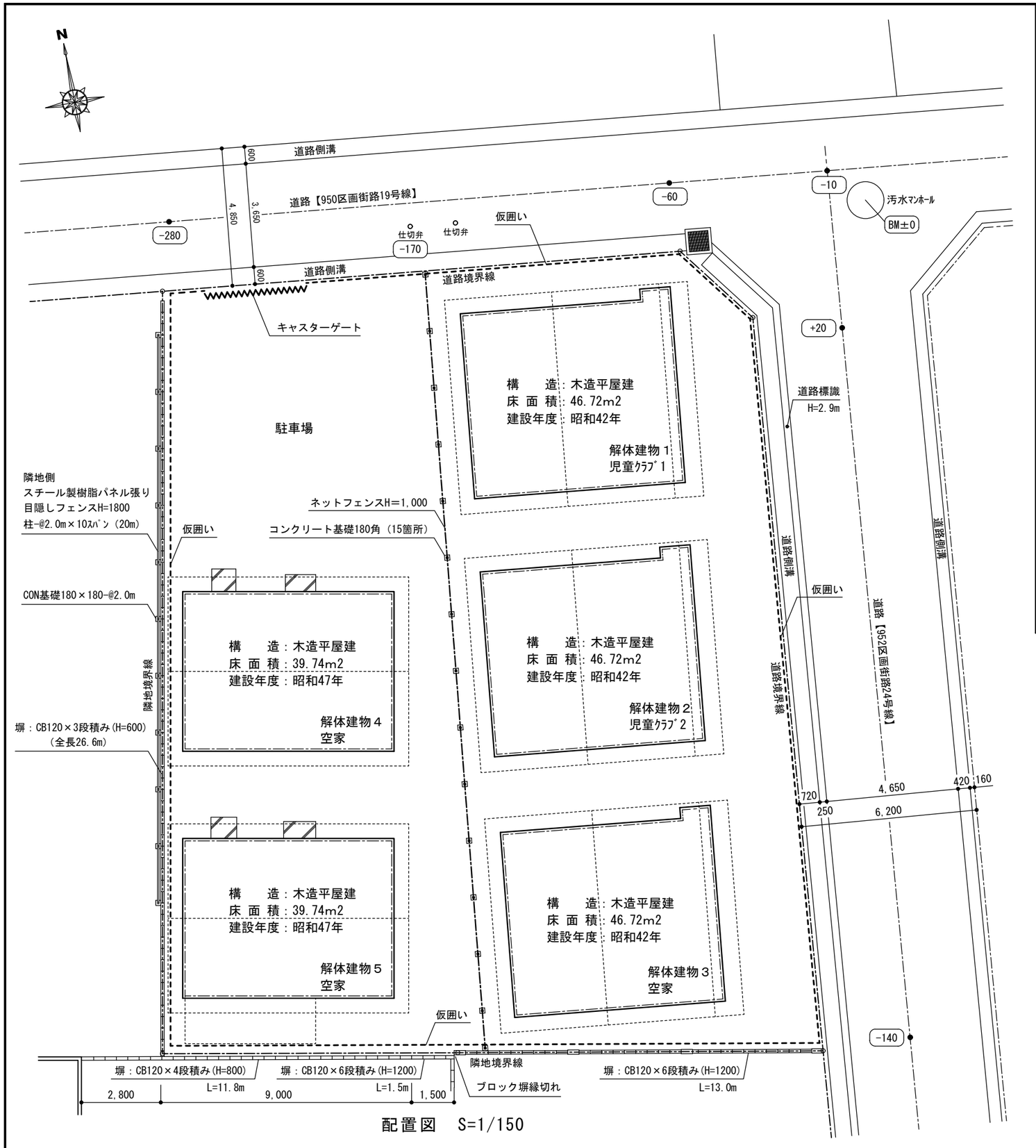
平面図　S＝1／50

凡　　例

記　号	名　称	備　考
	電灯分電盤	
○	白熱灯及び蛍光灯	直付
○	白熱灯及び蛍光灯	ブラケット
●	埋込スイッチ	１Ｐ１５Ａ　樹脂プレート共
	埋込コンセント	２Ｐ１５Ａ×１　樹脂プレート共　　２付　２Ｐ１５Ａ×２　　３付　２Ｐ１５Ａ×３
		Ｅ付　２Ｐ１５Ａ×１　接地端子付　　２Ｅ付　２Ｐ１５Ａ×２　接地極付
		ＥＷＰ付　２Ｐ１５Ａ×２　接地極、接地端子付　抜止メ　防水型
		（露）付　露出型
	引掛シーリング	
	換気扇	別途設備工事　　なお、接続は本工事に含む。
	直列ユニット	

・本図に示された資材は全て撤去とする。又、配管・配線は調査の上、全て撤去とする。

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 ／ R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田Ｎ－78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	解体建物５　電気設備撤去平面図	SCALE A３　1／５０	No. 25-007 KE-06



配置図　S=1/150

住所：上田市材木町一丁目131番1　　案内図　S=1/5000

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	配置図・案内図	SCALE A3 1/150	No. 25-007 KM-01

【既存ガス設備】
下記事項は、上田ｶﾞｽ工事とする。
ｶﾞｽ本管より切り離し・既存ｶﾞｽﾒｰﾀｰ撤去・館内ｶﾞｽﾊﾟｰｼﾞ共

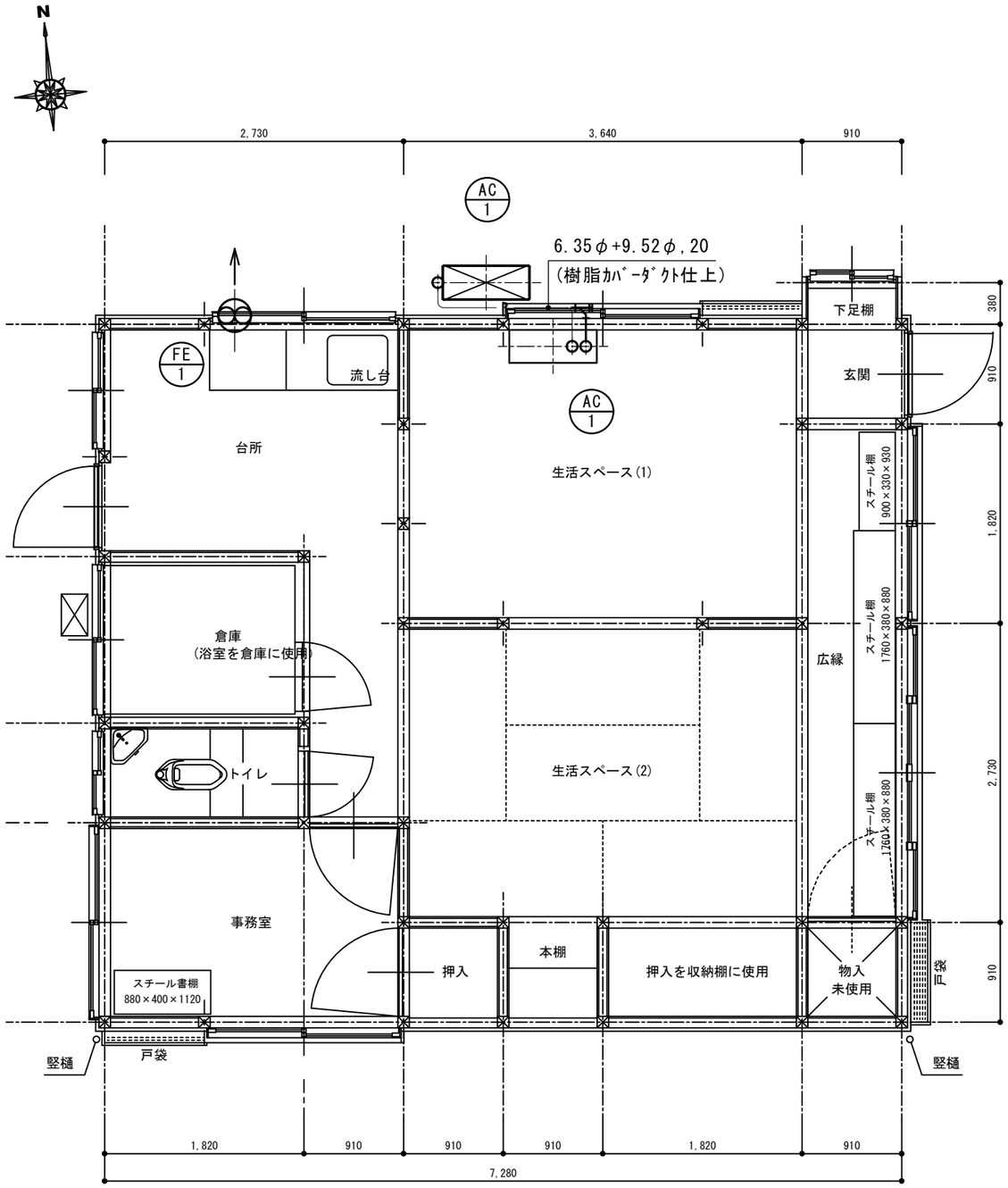
※ 各敷地内配管は全て撤去とする。

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図名	屋外配管図	SCALE A3 1/100	No. 25-007 KM-02

既 存 凡 例

記　号	名　称	備　考		
——‐‐——	給　水　管	屋外地中埋設部(不凍栓まで)	水道用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管	一種
		上記の他	水道用内面塩ﾋﾞﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	JWWA K 116 SGP-VB
——I——	給　湯　管		耐熱性内面塩ﾋﾞﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	JWWA K 140 SGP-HVA
————	排　水　管	屋内一般	硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	JIS K 6741 VP
		屋外地中埋設部	硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	JIS K 6741 VU
——G——	ガ　ス　管	地中	ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管	
		上記の他	配管用炭素鋼鋼管	JIS G 3452(白)
——D——	ド　レ　ン　管		硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	JIS K 6741 VP
——R——	冷　媒　管		冷媒用被覆断熱銅管	
	仕　切　弁	上水直結部　JIS 10K		
	不　凍　栓			
	給　水　栓			
	シャワー水栓			
	床排水金物	A型 ： 非防水型	B型 ： 防水型	
	小口径塩ビ桝	小口径ｲﾝﾊﾞｰﾄ桝		
	ガ　ス　栓			

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図名	既　存　凡　例	SCALE A3 NO SCALE / No. 25-007 KM-03



平面図　S＝1/50

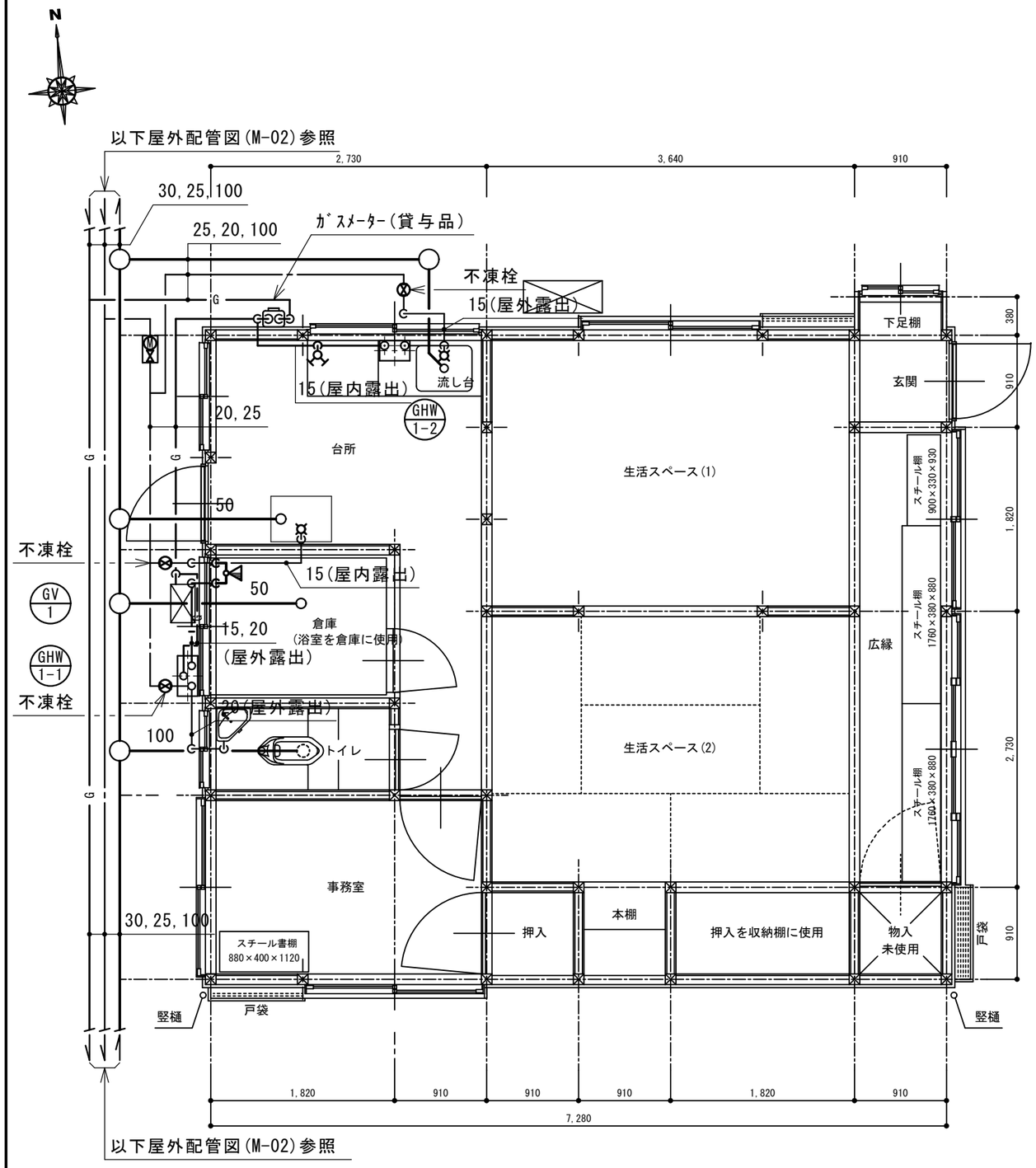
床面積：(7.28 × 6.37) + (0.91 × 0.38) ＝ 46.72㎡

既　存　機　器　表

記　号	名　称	設置場所	仕　様	電　源	消費電力	数　量
AC-1	冷暖ルームエアコン	生活ｽﾍﾟｰｽ(1)	屋外機 … 据置型 (36型)	1φ 200V	冷房 1.26KW	1
	撤去		屋内機 … 壁掛露出型(36型)		暖房 1.14KW	
			冷房能力　3.6KW			
			暖房能力　4.2KW			
			使用冷媒　R410A			
			型番 屋外機：CU-F362C2			
			屋内機：CS-F362C2			
			ﾎﾟﾝﾌﾟﾀﾞｳﾝによる冷媒回収共			
			家電ﾘｻｲｸﾙ品			
			上田市担当課に引き渡し			
FE-1	窓取付型換気扇	台所	羽径　250φ			1
	撤去					

※ 建築工事撤去に伴い、図中記載の機器・配管は全て撤去とする

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	解体建物１　冷暖房・換気設備　平面図	SCALE A3 1/50	No. 25-007 KM-04



既存衛生器具表

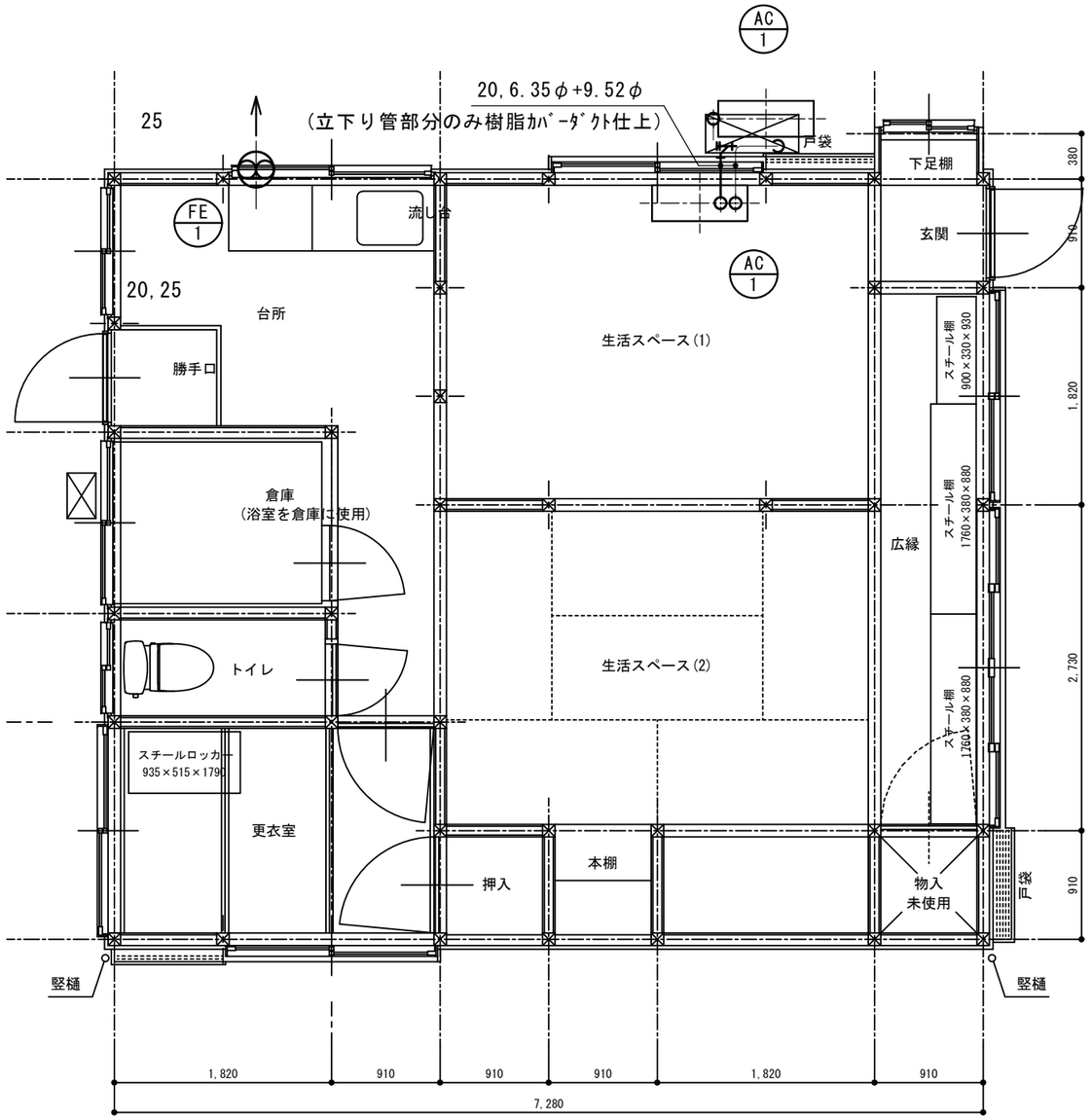
器具名	型番	附属品・仕様	合計	屋外	トイレ	倉庫	台所
和風両用便器		密結型ﾛｰﾀﾝｸ, 紙巻器共 腰掛け便座共撤去	1		1		
シャワー水栓			1			1	
単水栓類	13mm		2				2
GHW 1-1 ガス給湯器	RUX-2010W-E	給湯能力 20号 屋外壁掛型	1	1			
GHW 1-2 ガス給湯器	RUX-V51XTK	給湯能力 5号 屋内壁掛型	1	1			
GV 1 ガスバランス釜	GSY-133E		1	1			

※ 建築工事撤去に伴い、図中記載の衛生器具・機器・配管は全て撤去とする

平面図 S＝1/50

床面積：(7.28 × 6.37) + (0.91 × 0.38) ＝ 46.72㎡

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図名	解体建物1 給排水設備 平面図	SCALE A3 1/50	No. 25-007 KM-05



平面図　S＝1/50

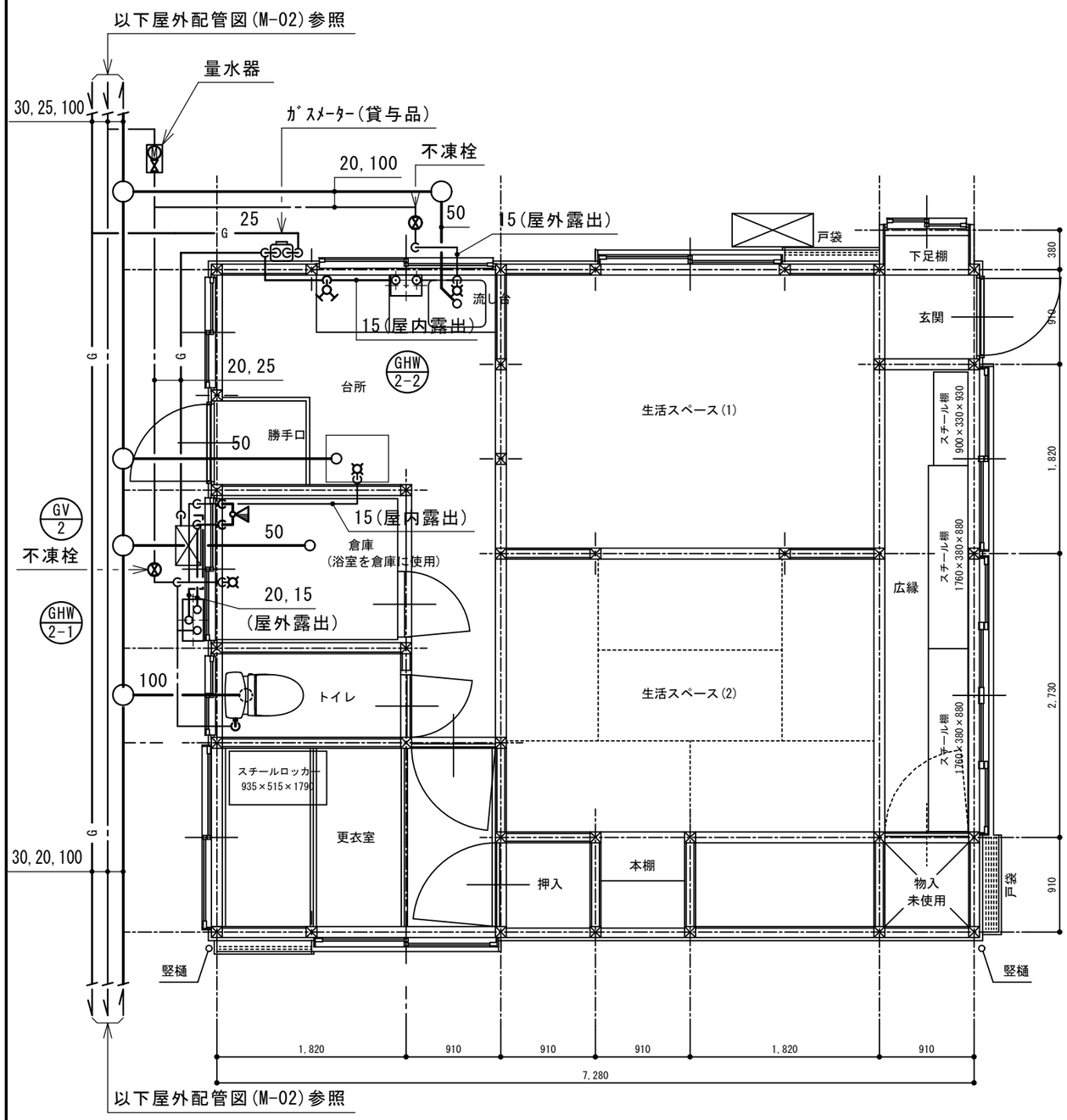
床面積：(7.28 × 6.37) + (0.91 × 0.38) ＝ 46.72㎡

既　存　機　器　表

記　号	名　称	設置場所	仕　様	電　源	消費電力	数　量
AC-1	冷暖ルームエアコン	生活ｽﾍﾟｰｽ(1)	屋外機 … 据置型 (36型)	1φ 200V	冷房 1.26KW	1
	撤去		屋内機 … 壁掛露出型(36型)		暖房 1.14KW	
			冷房能力　3.6KW			
			暖房能力　4.2KW			
			使用冷媒　R410A			
			型番 屋外機：CU-F362C2			
			屋内機：CS-F362C2			
			ﾎﾟﾝﾌﾟﾀﾞｳﾝによる冷媒回収共			
			家電ﾘｻｲｸﾙ品			
			上田市担当課に引き渡し			
FE-1	窓取付型換気扇	台所	羽径　250φ			1
	撤去					

※ 建築工事撤去に伴い、図中記載の機器・配管は全て撤去とする

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	解体建物２　冷暖房・換気設備　平面図	SCALE A3 1/50	No. 25-007 KM-06



平面図　S＝1/50

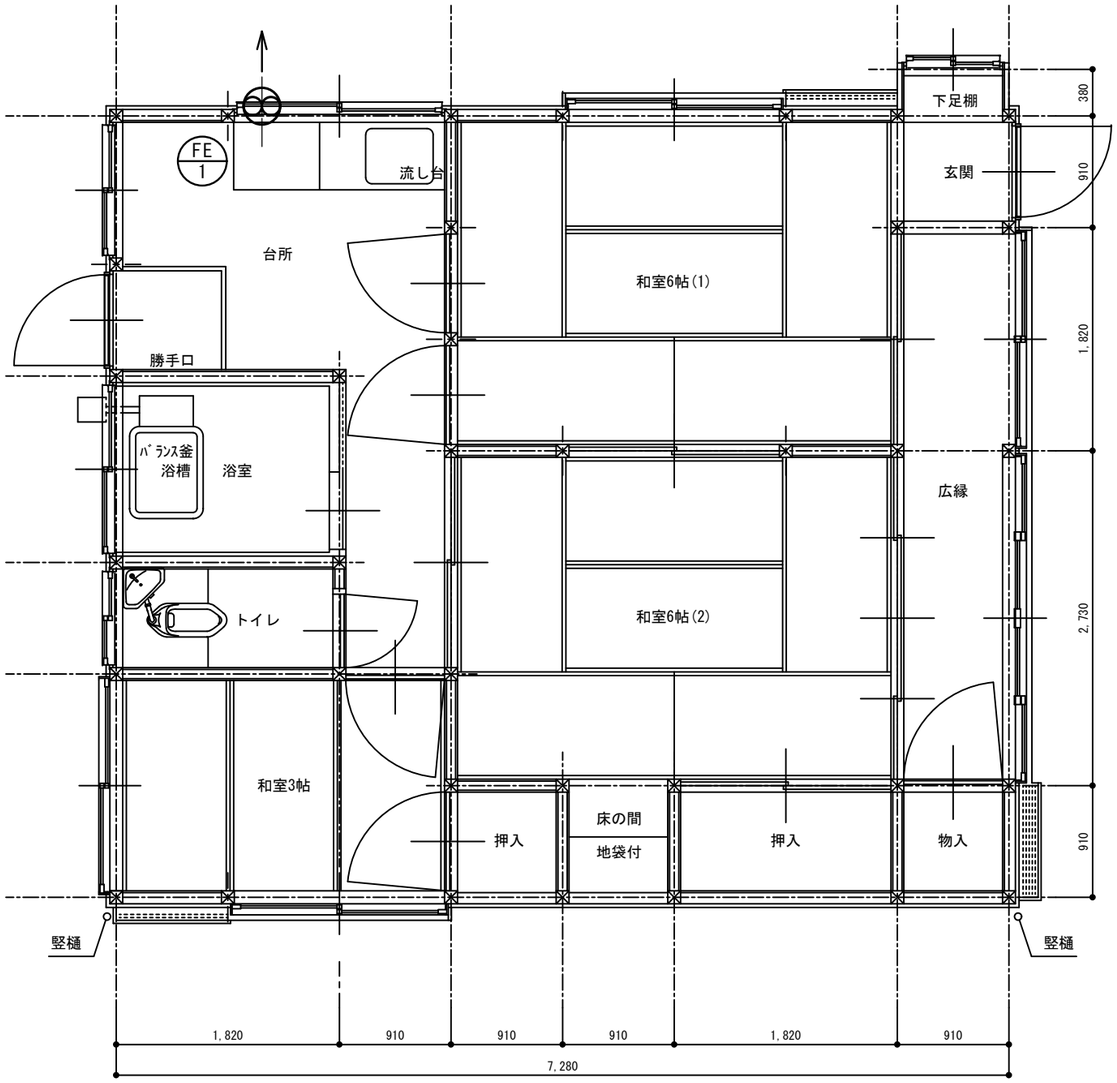
床面積：(7.28 × 6.37) + (0.91 × 0.38) ＝ 46.72㎡

既存衛生器具表

器具名	型番	附属品・仕様	合計	屋外	トイレ	倉庫	台所
洋風便器		密結型ﾛｰﾀﾝｸ, 紙巻器共	1		1		
シャワー水栓			1			1	
単水栓類	13mm		2				2
GHW 2-1 ガス給湯器	RUX-2016-W-E	給湯能力 16号 屋外壁掛型	1	1			
GHW 2-2 ガス給湯器	GQ-530MW	給湯能力 5号 屋内壁掛型	1	1			
GV 2 ガスバランス釜	GSY-133E		1	1			

※ 建築工事撤去に伴い、図中記載の衛生器具・機器・配管は全て撤去とする

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図名	解体建物２ 給排水設備 平面図	SCALE A3 1/50	No. 25-007 KM-07



平面図　S＝1/50

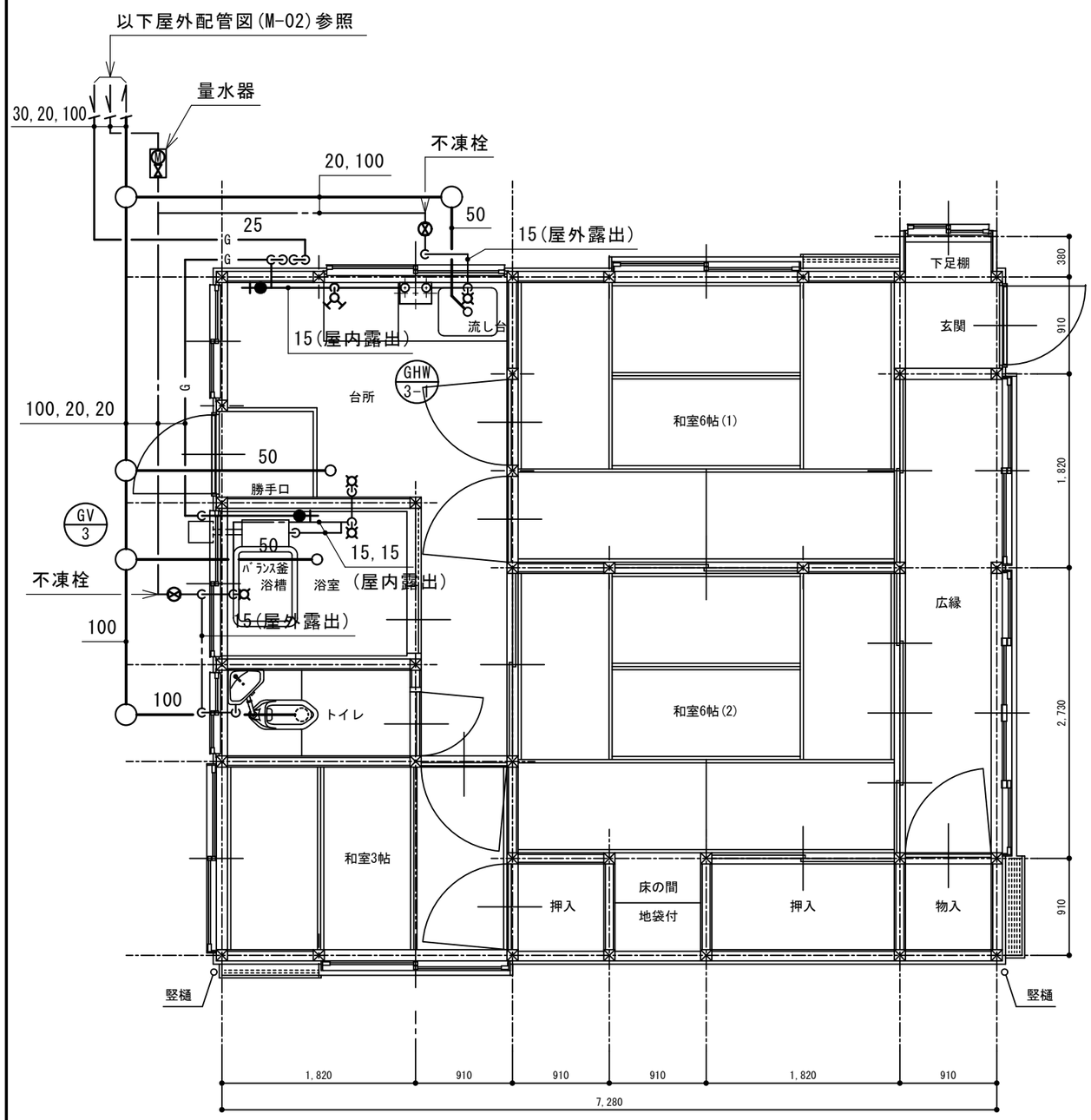
床面積：(7.28 × 6.37) + (0.91 × 0.38) ＝ 46.72㎡

既　存　機　器　表

記　号	名　称	設置場所	仕　様	電　源	消費電力	数　量
FE-1	窓取付型換気扇	台所	羽径　250φ			1
	撤去					

※ 建築工事撤去に伴い、図中記載の機器は全て撤去とする

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	解体建物３　換気設備　平面図	SCALE A3 1/50	No. 25-007 KM-08



平面図　S＝1/50

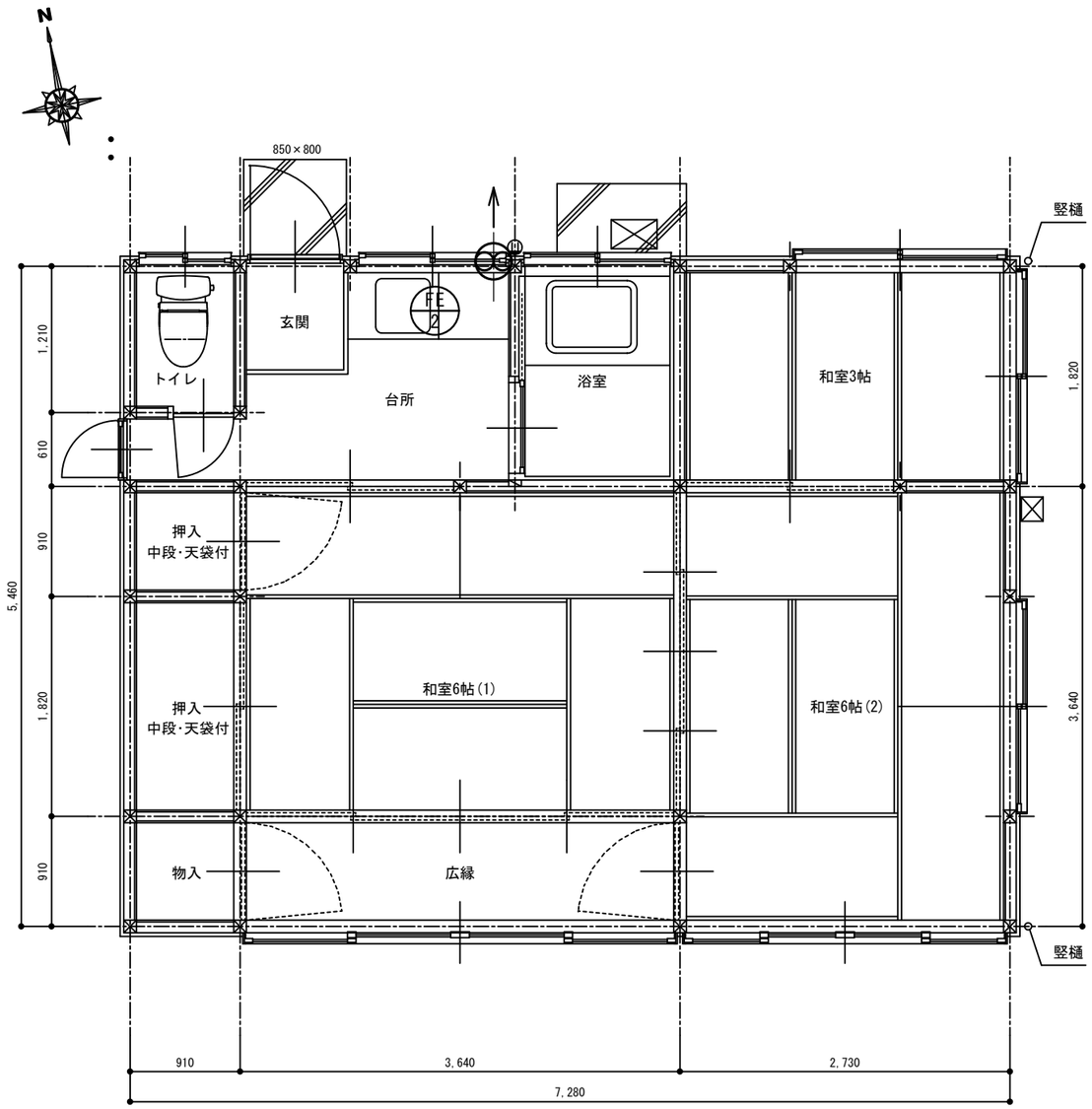
床面積：(7.28 × 6.37) + (0.91 × 0.38) ＝ 46.72㎡

既存衛生器具表

器具名	型番	附属品・仕様	合計	屋外	トイレ	台所	浴室
和風両用便器		密結型ﾛｰﾀﾝｸ, 紙巻器共 腰掛け便座撤去共	1		1		
単水栓類	13mm		4			2	2
GHW 3-1 ガス給湯器	RUX-V51XTL	給湯能力 5号 屋内壁掛型	1			1	
GV 1 ガスバランス釜	GSY-133E		1	1			

※ 建築工事撤去に伴い、図中記載の衛生器具・機器・配管は全て撤去とする

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図名	解体建物３ 給排水設備 平面図	SCALE A3 1/50	No. 25-007 KM-09



平面図　S＝1/50

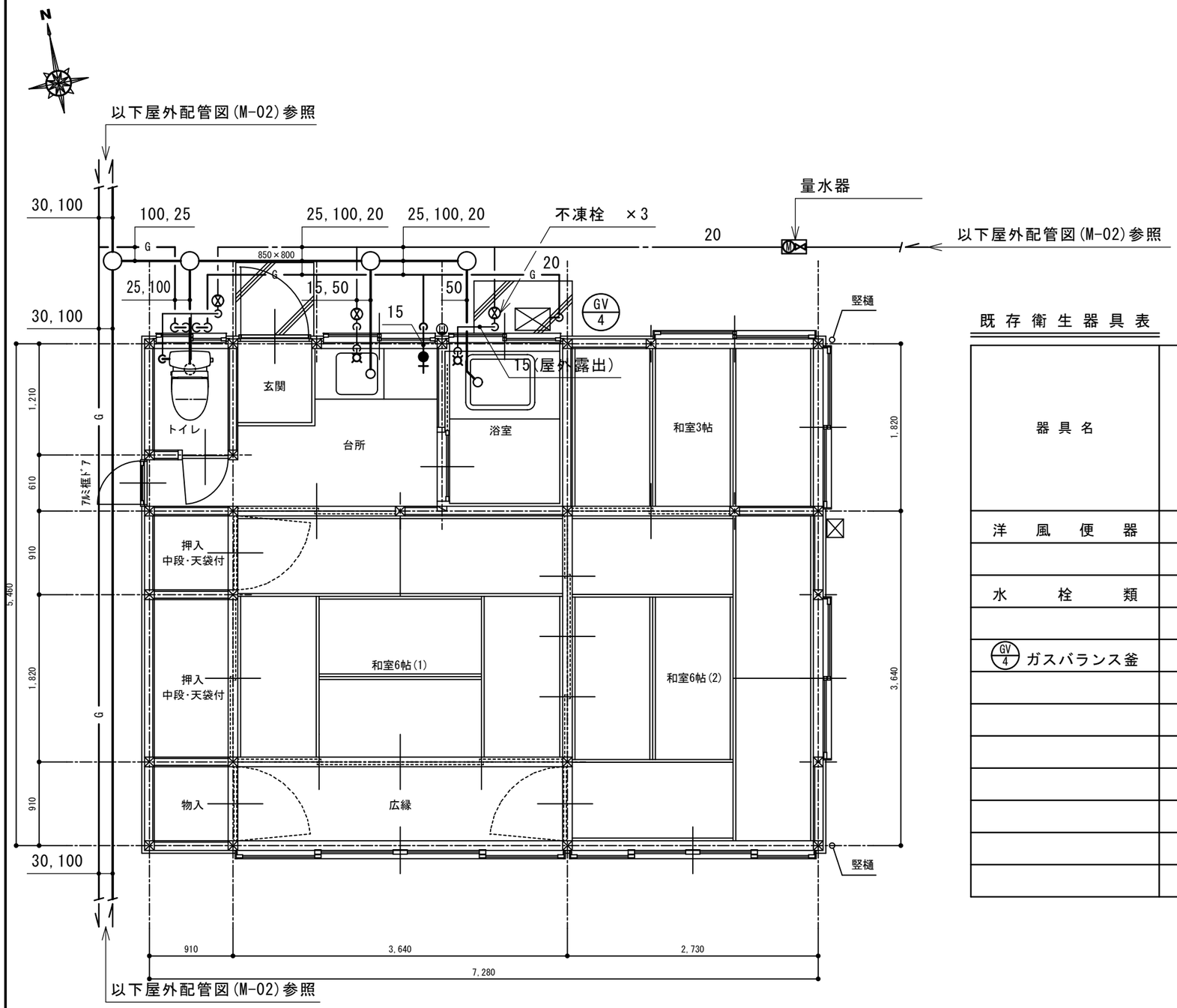
床面積：7.28 × 5.46 ＝ 39.74㎡

既　存　機　器　表

記　号	名　称	設置場所	仕　様	電　源	消費電力	数　量
FE-2	壁取付型換気扇	台所	羽径　250φ			1
	撤去					

※ 建築工事撤去に伴い、図中記載の機器は全て撤去とする

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	解体建物４　換気設備　既存平面図	SCALE A3 1/50	No. 25-007 KM-10



平面図 S=1/50

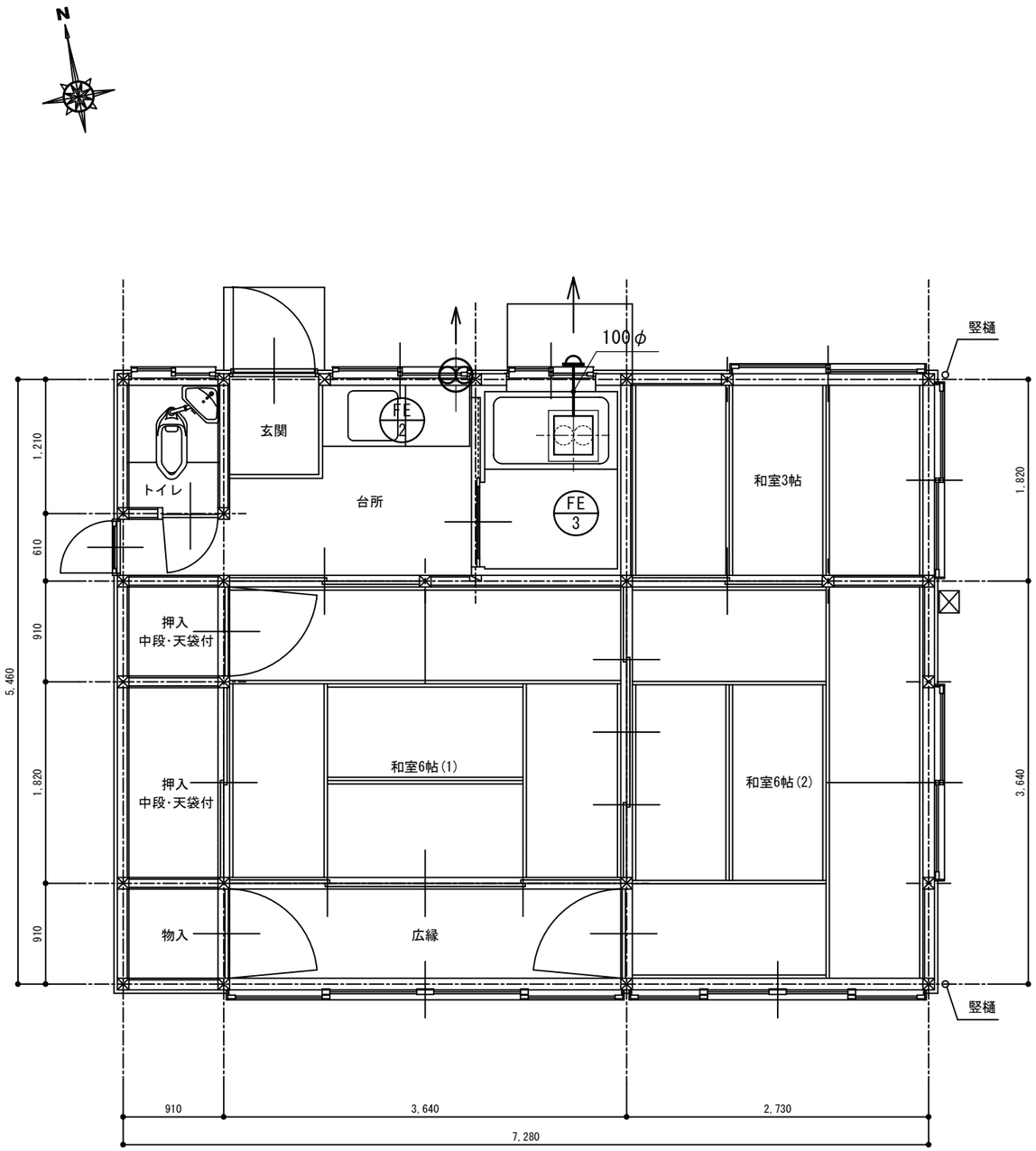
床面積：7.28 × 5.46 ＝ 39.74㎡

既存衛生器具表

器具名	型番	附属品・仕様	合計	屋外	トイレ	台所	浴室
洋風便器		密結型ﾛｰﾀﾝｸ, 紙巻器共	1		1		
水栓類	13mm		2			1	1
GV 4 ガスバランス釜	GSY-133E		1	1			

※ 建築工事撤去に伴い、図中記載の衛生器具・機器・配管は全て撤去とする

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図名	解体建物4 給排水設備 既存平面図	SCALE A3 1/50	No. 25-007 KM-11



平面図　S＝1/50

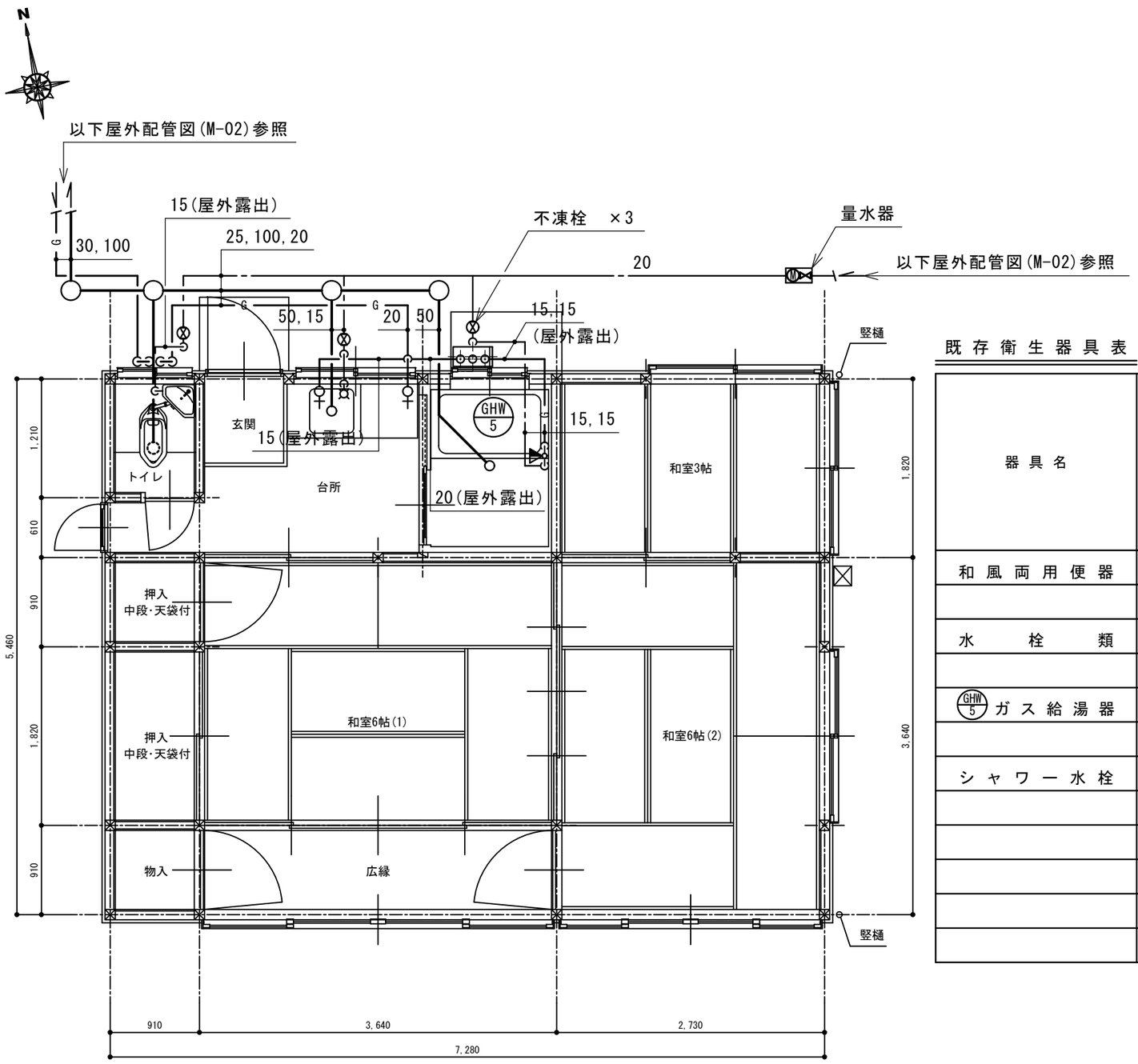
床面積：7.28 × 5.46 ＝ 39.74㎡

既　存　機　器　表

記　号	名　称	設置場所	仕　様	電　源	消費電力	数　量
FE-2	壁取付型換気扇	台所	羽径　250φ			1
	撤去					
FE-3	天井埋込型換気扇	UB				1
	撤去					

※ 建築工事撤去に伴い、図中記載の機器・ﾀﾞｸﾄは全て撤去とする

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図　名	解体建物５　換気設備　既存平面図	SCALE A3 1/50	No. 25-007 KM-12



平面図 S=1/50

床面積：7.28 × 5.46 ＝ 39.74㎡

既存衛生器具表

器具名	型番	附属品・仕様	合計	屋外	トイレ	台所	浴室
和風両用便器		密結型ﾛｰﾀﾝｸ, 紙巻器共 腰掛け便座撤去共	1		1		
水栓類	13mm		1			1	
GHW 5 ガス給湯器	RUX-2017W	給湯能力 20号 屋外壁掛型	1	1			
シャワー水栓			1				1

※ 建築工事撤去に伴い、図中記載の衛生器具・機器・配管は全て撤去とする

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事に伴う解体工事	図名	解体建物5 給排水設備 既存平面図	SCALE A3 1/50	No. 25-007 KM-13

東部児童クラブ分室集約化　電気設備工事　特記仕様書

Ⅰ　工事概要

1．　地名地番　　上田市材木町一丁目１３１番１

2．　建物概要

建　物　名　称	構　造	階　数（階）	延面積（㎡）	消防法施行令別表第一の区分	備　　考
児童福祉施設	木　造	２	３１８．０		

3．　工事種目
（○印のついたものを適用する。）

工　事　種　目	項　　目	建物別及び屋外 施設			
電　灯　設　備		⊙	・	・	・
動　力　設　備		⊙	・	・	・
電　熱　設　備	幹線、分岐	・	・	・	・
雷　保　護　設　備	幹線、分岐	・	・	・	・
受　変　電　設　備		・	・	・	・
電　力　貯　蔵　設　備		・	・	・	・
静止形電源設備	直流電源装置	・	・	・	・
発　電　設　備		・	・	・	・
構内情報通信網設備	ＬＡＮ用配管	⊙	・	・	・
構内交換設備	電話設備	⊙	・	・	・
情報表示設備	時計設備	・	・	・	・
映像・音響設備		・	・	・	・
拡　声　設　備		・	・	・	・
誘導支援設備	インターホン・トイレ呼出し設備	⊙	・	・	・
テレビ共同受信設備		・	・	・	・
監視カメラ設備		⊙	・	・	・
駐車場管制設備		・	・	・	・
防犯・入退室管理設備	予備配管	・	・	・	・
自動火災報知設備		⊙	・	・	・
自動閉鎖設備		・	・	・	・
非常警報設備	非常放送装置	・	・	・	・
ガス漏れ警報設備		・	・	・	・
中央監視制御設備		・	・	・	・
構内配電線路		・	・	・	・
構内通信線路		・	・	・	・
昇降機設備		・	・	・	・

4．　図面目録　　・　別紙参照　　・　下記の通り

番　号	図　面　名　称	番　号	図　面　名　称
1	特記仕様書	11	弱電機器参考姿図（2）
2	案内図・配置図	12	構内情報通信網設備1階平面図・2階平面図
3	電灯分電盤図	13	TEL、インターホン1階平面図・2階平面図
4	非常照明、照明器具参考姿図	14	防火間仕切り壁貫通処理要領図
5	凡例、排水路ヒーター仕様図	15	
6	幹線、動力設備１階平面図・２階平面図	16	
7	非常照明設備１階平面図・２階平面図	17	
8	電灯設備１階平面図・２階平面図	18	
9	コンセント設備１階平面図・２階平面図	19	
10	弱電機器参考姿図（1）	20	

Ⅱ　工事仕様

1．　共　通　仕　様

（1）　図面及び特記仕様書に記載されてない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）（最新年度版）」（以下、「標準仕様書」という。）、「公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）（最新年度版）」（以下「改修標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（電気設備工事編）（最新年度版）」（以下、「標準図」という。）による。

（2）　機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。

2．　特記仕様

特記仕様は別紙「特記仕様書（共通事項）」によるほか次の各項目による。

（1）　項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

（2）　特記事項は、○印の付いたものを適用する。

項　目	特　記　事　項
① 機材等 ② 機材の品質・性能証明	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又は、これらと同等なものとする。 ただし、これらと同等のものとする場合は、監督職員の承諾を受ける。 下表に示す材料・機材等（○印のもの）の製造者等は次の１）から６）のすべての事項を満たすものとし この証明となる資料または外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出し監督員の承諾を受ける。

材　料　・　機　材　名		材　料　・　機　材　名	
⊙	ＬＥＤ照明器具	・	電気錠
・		・	
・		⊙	その他、監督員の指示によるもの
⊙	（社）公共建築協会による「建築材料・機材等品質性能評価事業」における評価対象となる電気設備機材		

1）　品質及び性能に関する試験データが整備されていること。
2）　生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。
3）　安定的な供給が可能であること。
4）　法令等が定める場合は、その許可・認可・認定または免許を取得していること。
5）　製造または施工の実績があり、その信頼性があること。
6）　販売、保守等の営業体制が整えられていること。

項　目	特　記　事　項
③ 化学物質を発散する建築材料等	本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の（1）から（5）を満たすものとする。 （1）　合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 （2）　保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 （3）　接着剤はフタル酸ジ－ｎ－ブチル及びフタル酸ジ－２－エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 （4）　塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 （5）　上記（1）、（3）及び（4）の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等はホルムアルデヒドを放散しないか、放散が極めて少ないものとする。 なお、ホルムアルデヒドを放散しないものとは放散量が規制対象外のものを、ホルムアルデヒドの放散が極めて少ないものとは放散量が第三種のものをいい、原則として規制対象外のものを使用するものとする。 ただし、該当する材料等がない場合は、第三種のものを使用するものとする。 また、「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。

ホルムアルデヒドの放散量	該　当　す　る　建　築　材　料
規制対象外	①　ＪＩＳ及びＪＡＳの　Ｆ☆☆☆規格品 ②　建築基準法施行令第２０条の７第４項による国土交通大臣認定品 ③　下記表示のあるＪＡＳ規格品 ａ．　非ホルムアルデヒド系接着剤使用 ｂ．　接着剤等不使用 ｃ．　非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない材料使用 ｄ．　ホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用 ｅ．　非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料使用 ｆ．　非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散させない塗料等使用
第三種	①　ＪＩＳ及びＪＡＳの　Ｆ☆☆☆規格品 ②　建築基準法施行令第２０条の５第３項による国土交通大臣認定品 ③　旧ＪＩＳのＥＯ規格品 ④　旧ＪＡＳのＦＯＯ規格品

項　目	特　記　事　項
④ 施工条件明示項目	※　現場説明書による ・
⑤ 電気保安技術者	工事現場の電気工作物（電路、自動扉、自動シャッター、電動機等も含む）の保安業務を行うものとする。
⑥ 電気工事士	契約電力５００ｋＷ以上の電気工作物においても、第一種電気工事士により施工を行う。
⑦ 実施工程表及び施工計画書	（1）　実施工程表、総合施工計画書は、工事着手に先立ち速やかに提出する。 （2）　工種別の施工計画書は、当該工事に先立ち速やかに提出し、品質計画に係る部分は監督職員の承諾を受けること。
⑧ 使用材料発注先調書	使用材料名、製造業者名、発注先等を記載した調書を作成し提出する。
⑨ 発生材の処理	（1）　引渡しを要するもの　⊙ 無　・ 有（　　） （2）　引渡しを要するもの以外　⊙ 構外搬出し、関係法令により適切に処理をする。 （3）　特別管理産業廃棄物　⊙ 無 ・ 有（PCB使用機器：関連法令により適切に処理し建物管理者に引き渡す） （4）　再利用又は再資源化を図るもの ・無　・ 有（　・ 廃蛍光管　・ コンクリート　・ 木材 ・ アスファルト　・ 金属くず　・ ダンボール類　）
10．監督員事務所	・　設けない　・　設ける（　規模：　　） ・　備品（　　）
⑪ 工事用仮設物	すべて請負者の負担とする。 構内に作ることが　⊙ できる　・ できない
⑫ 足場・さん橋類	・　別契約の関係請負者が定置したものは、無償で使用できる。 ⊙ 本工事で設置する。 ・　内部仮設足場等　（　・　架台足場　・ 移動式足場　・ 移動式室内足場　・　　） ・　外部足場 （　・　Ａ種［施工箇所面に枠組足場を設ける］　・　Ｂ種［施工箇所面に単管本足場を設ける］ ・　Ｃ種［仮設ゴンドラを使用する］　・　Ｄ種［移動式足場を使用する］　）
⑬ 工事用電力・水・その他	本工事に必要な工事用電力、水等の費用及び官公署その他の関係機関への諸手続等に要する費用は、請負者の負担とする。
⑭ 工事写真	工事の着手に先立ち、撮影計画の作成を行い、監督職員へ提出すること。
⑮ 完成図等	※　完成図　（ ※　設計図書で示したもの全て　・　標仕表１．７．１による　・　監督員の指示による） 作成方法　※　製本　（ ※　見開きＡ３縮小版　２～３部（黒表紙金文字製本） ・　見開きＡ１版　１部（ビニール製本）　・　） ※　ＣＡＤデータ　（ ※　ＣＤ－Ｒ　（１部）　・　　） ※　保全に関する資料（１部） ・
⑯ しゅん工時提出物	※　監督員の指示による　・
17．再使用機器	取外し再使用機器は、原則として清掃及び絶縁抵抗測定を行った後取り付ける。 ただし、絶縁劣化等で使用に耐えない場合は、監督職員に報告する。
⑱ 耐震施工	設備機器の固定は、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版（国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修）」による。なお、施工に際し、耐震強度計算書を監督員に提出し、承諾を受けるものとする。 （1）　設計用水平地震力 機器の重量［ｋｇｆ］に、設計用標準水平地震度を乗じたものとする。 なお、特記なき場合、設計用標準水平地震度は次による。

設計用標準水平地震度

設置場所	機器種別	・ 特定の施設 重要機器	・ 特定の施設 一般機器	・ 一般の施設 重要機器	・ 一般の施設 一般機器
上層階、屋上及び塔屋	機器	２．０	１．５	１．５	１．０
	防振支持の機器	２．０	２．０	２．０	１．５
	水槽類（※１）	２．０	１．５	１．５	１．０
中間階	機器	１．５	１．０	１．０	０．６
	防振支持の機器	１．５	１．５	１．５	１．０
	水槽類（※１）	１．５	１．０	１．０	０．６
地下・１階	機器	１．０	０．６	０．６	０．４
	防振支持の機器	１．０	１．０	１．０	０．６
	水槽類（※１）	１．５	１．０	１．０	０．６

（※１）水槽類にはオイルタンク等を含む。
◎　重要機器の定義は次による。
・　受変電設備　・　発電設備　・　直流電源設備　・　交流無停電電源装置
・　交換機　・　自動火災報知受信機　・　中央監視装置　⊙ 電灯、動力分電盤
◎　上層階の定義は次による。
２～６階建の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２階、１０～１２階建の場合は上層３階、１３階以上の場合は上層４階とする。
（2）　設計用鉛直地震力
設計用水平地震力の１／２とし、水平地震力と同時に働くものとする。

項　目	特　記　事　項
⑲ あと施工アンカー	公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）８章２節８．２．４及び１２節による。 確認試験　⊙ 引張試験 ・　性能確認試験（　本）　・　施工後確認試験（　本）を確認強度（　ｋＮ）にて行う ・　施工士の適用（第１種、第２種）　あと施工アンカー施工士５※による ※　（社）日本建築あと施工アンカー協会認定資格
⑳ 防火区画等の貫通処理	電線等が防火区画又は防火上主要な間仕切りを貫通する場合、その施工状況について貫通個所の両面から撮影し、工事写真として提出する。　※面所及び仕様については図面参照とする。
㉑ 電線・ケーブル	（1）　ＥＭ－ＥＥＦは紫外線による劣化を抑止する性能を持たせ、「タイシガイセン　ＥＭ－ＥＥＦ」と表記されたものを使用する。 （2）　ＥＭ－ＵＴＰ　は　ＪＩＳ　Ｘ　５１５０「構内情報配線システム」に準じ、絶縁材料及びシースにＪＩＳ規格による。ＥＭケーブルの耐熱性ポリエチレンを用いたものを使用する
㉒ 予備配管	埋込分電盤からの立上り予備配管は、予備の配線用遮断器４個以下の場合は（２５）を１本、５個以上の場合は（２５）を２本、天井まで立上げる。
㉓ 呼び線	長さ１ｍ以上の入線しない電線管には、１．２ｍｍ以上のビニル被覆鉄線を挿入する。
㉔ 金属製電線管の塗装	下記の露出配管は塗装を行う。 ⊙ 屋外　・　屋内（　機械室　　）
㉕ 埋め戻し土	・　Ａ種　［山砂の類：　水締め、機器による締固め］ ※　Ｂ種　［根切り土の中の良質土：　機器による締固め］ ・　Ｃ種　［他現場の建設発生土の中の良質土：　機器による締固め］ ・　Ｄ種　［再生コンクリート砂：　水締め、機器による締固め］ ・　管の下部は５０ｍｍ以上砂を敷きならし、管の上部１００ｍｍ以上砂を用いて締め固める
㉖ 建設発生土の処理	※　場外搬出処理　⊙ 構内の指定場所に敷き均し
㉗ ケーブル埋設標	（1）　地中線路上には、次の材料によるケーブル埋設票を設ける。　・　鉄製　・　コンクリート製 （2）　低圧地中配線にあっても地中線埋設標識シートを敷設する。 （3）　配管埋設幅が７５０ｍｍを超える場合は、地中線埋設標識シートは２本以上敷設する。
㉘ プルボックス	（1）　露出するプルボックスの本体及びふたの仕上げは、メラミン焼付塗装とする。 （2）　露出するプルボックスのふたの止めねじは化粧ビスとする。
㉙ フラッシュプレート	図面に特記あるもの及び特殊なものを除き　・　金属製　⊙ 樹脂製
㉚ プレートの用途表示	プルボックス、ジョイントボックス及び機器を実装しないプレートには、用途を明示した略標をつける。
㉛ 配線器具	タンブラスイッチは運用形とする。 壁付けコンセント（２Ｐ１５Ａ）は原則として運用形とする。ただし、２口の場合は複式を、また（２Ｐ１５Ａ）以外はすべてキャップ付とする。
㉜ 機器への接続	本工事の動力制御盤より別途電動機等への配線の接続は本工事とする。
㉝ 照度測定	⊙ 測定場所：　⊙ 各室（測定箇所数　　箇所）　⊙ 廊下　　⊙ 階段 用　途：⊙ 非常用照明　⊙ 一般照明 ・　学校施設における室内照度測定（測定教室：　　個所、　測定黒板面：　　個所） ※　教室の照度は、１教室当たり机上面９ヵ所、黒板垂直面９ヵ所で測定する
㉞ 盤類	（1）　分電盤等の図面ホルダーに、単線結線図・絶縁抵抗測定表・接地抵抗測定表を収納する。 （2）　端子盤には、線番表・結線表を備え付ける。
㉟ グリーン購入の推進	長野県グリーン購入推進方針に基づく調達項目 ＜資材＞　⊙ 照明制御システム　・　変圧器　・（　　） ＜建設機器＞　・　排出ガス対策型建設機器　・　低騒音型建設機器
㊱ 他工事又は他工種との取り合い	工事区分表（平成　年版）による。ただしこれにより難い場合は監督職員と協議する。

3．　ハンドホール
下表による。（様子は各ハンドホールに設置する。蓋取外し用ジャッキを１組納入する。）
ブロックハンドホール（寸法は内法を示す。底部とはハンドホール内側底部をいう）
・　コンクリート相互間などは、エポキシ系樹脂接着剤により接着する。
・　ブロックの仕様は国土交通省仕様に準ずるものとする。
・　ハンドホールにノックアウト部分を設けてはならない。
・　配管貫通部は、原則として根巻きコンクリート（Ｆ＝１８Ｎ／ｍｍ以上）とし、差し筋Ｄ１０タテヨコ@２００で補強する。
・　補強方法については、あらかじめ監督員にハンドホール製作図を提出して承諾を受けて施工する。

・	ハンドホール　Ｎｏ．－	１，５００×１，５００×１，５００Ｄ 蓋　ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	底部　ＧＬ－１，７４０以上 （アルミ梯子付）
・	ハンドホール　Ｎｏ．－	１，２００×１，２００×１，５００Ｄ 蓋　ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	底部　ＧＬ－１，７００以上 （アルミ梯子付）
・	ハンドホール　Ｎｏ．－	１，０００×１，０００×１，４００Ｄ 蓋　ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	底部　ＧＬ－１，６００以上 （アルミ梯子付）
・	ハンドホール　Ｎｏ．－	１，０００×１，０００×１，１００Ｄ 蓋　ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	底部　ＧＬ－１，３００以上 （アルミ梯子付）
・	ハンドホール　Ｎｏ．－	１，０００×１，０００×　９００Ｄ 蓋　ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	底部　ＧＬ－１，０６０以上 （アルミ梯子付）
・	ハンドホール　Ｎｏ．－	９００×　９００×１，１００Ｄ 蓋　ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	底部　ＧＬ－１，２６０以上 （アルミ梯子付）
・	ハンドホール　Ｎｏ．－	９００×　９００×　９００Ｄ 蓋　ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	底部　ＧＬ－１，０６０以上 （既製足場付）
・	ハンドホール　Ｎｏ．－	６００×　６００×　６８０Ｄ 蓋　ＷＰＭ－６０Ａ　（Ｅマーク入）	（既製足場付）
・	ハンドホール　Ｎｏ．－	４５０×　４５０×　６８０Ｄ 蓋　ＷＰＭ－４５Ｂ　（Ｅマーク入）	※植栽帯等車両の通行の恐れがない場合 場合は収容ケーブルが少ない場所に限る
・	ハンドホール　Ｎｏ．－	×　×　Ｄ 蓋　（Ｅマーク入）	
・	ハンドホール　Ｎｏ．－	×　×　Ｄ 蓋　（Ｅマーク入）	

4．　機器取付高
図面に特記なきものは下表を標準とする。但し下表によりがたい場合には監督員との協議による。

	名　称	測　点	取付高（mm）
共通	取引用計器	地上～上端	２，０００
	引込開閉器	床上～上端	１，８００
	警報盤	床上～中心	１，５００
電灯	分電盤	床上～中心	１，５００ （上端１，９００以下）
	タンブラスイッチ	〃	１，３００
	〃（身障者用）	〃	１，１００
	コンセント（一般）	〃	３００
	〃（和室）	〃	１５０
	〃（便所等）	〃	５００
	〃（台上）	上～中心	１５０
	ブラケット（一般）	床上～中心	２，１００
	〃（踊場）	〃	２，５００
	〃（鏡上）	鏡端～中心	１５０
	避難口誘導灯	床上～下端	１，５００以上
	廊下通路誘導灯	床上～上端	１，０００以下
動力	壁掛形制御盤	床上～中心	１，５００
	手元開閉器	〃	（上端１，９００以下）
	操作スイッチ・押ボタン	〃	１，３００
電話	室内端子盤（廊下・室内）	床上～下端	３００
	中間端子盤（ＥＰＳ・電気室）	床上～中心	１，５００
	集合保安器箱	〃	（天井高）×０．９
	壁付アウトレットボックス（一般）	〃	３００
	〃（和室）	〃	１５０
時計・拡声	壁掛形親時計	床上～中心	１，５００ （上端１，９００以下）
	子時計	〃	（天井高）×０．９
	壁掛形スピーカー	〃	（天井高）×０．９
	アッテネーター	〃	１，３００
表示	表示盤	床上～中心	（天井高）×０．９
	壁付発信器	〃	１，３００
	ベル	〃	（天井高）×０．９
	ブザー	〃	（天井高）×０．９
	押ボタン	〃	１，３００
	〃（身障者用押釦）	〃	９００
	身障者用表示灯	〃	２，０００
	復帰ボタン	〃	１，８００
インターホン	壁付インターホン	床上～中心	１，５００
	〃（身障者用）	〃	１，１００
	壁付位置ボックス（壁付インターホンを除く）		
	〃（一般）	〃	３００
	〃（和室）	〃	１５０
テレビ共同受信	機器収容箱	床上～中心	（天井高）×０．９
	アウトレット		
	〃（一般）	〃	３００
	〃（和室）	〃	１５０
火災報知	受信機	床上～操作部	８００～１，５００
	副受信機	〃	８００～１，５００
	機器収容箱	床上～中心	８００～１，５００
	発信器	〃	８００～１，５００
	ベル	〃	（天井高）×０．９
	消火栓表示灯	〃	（天井高）×０．８

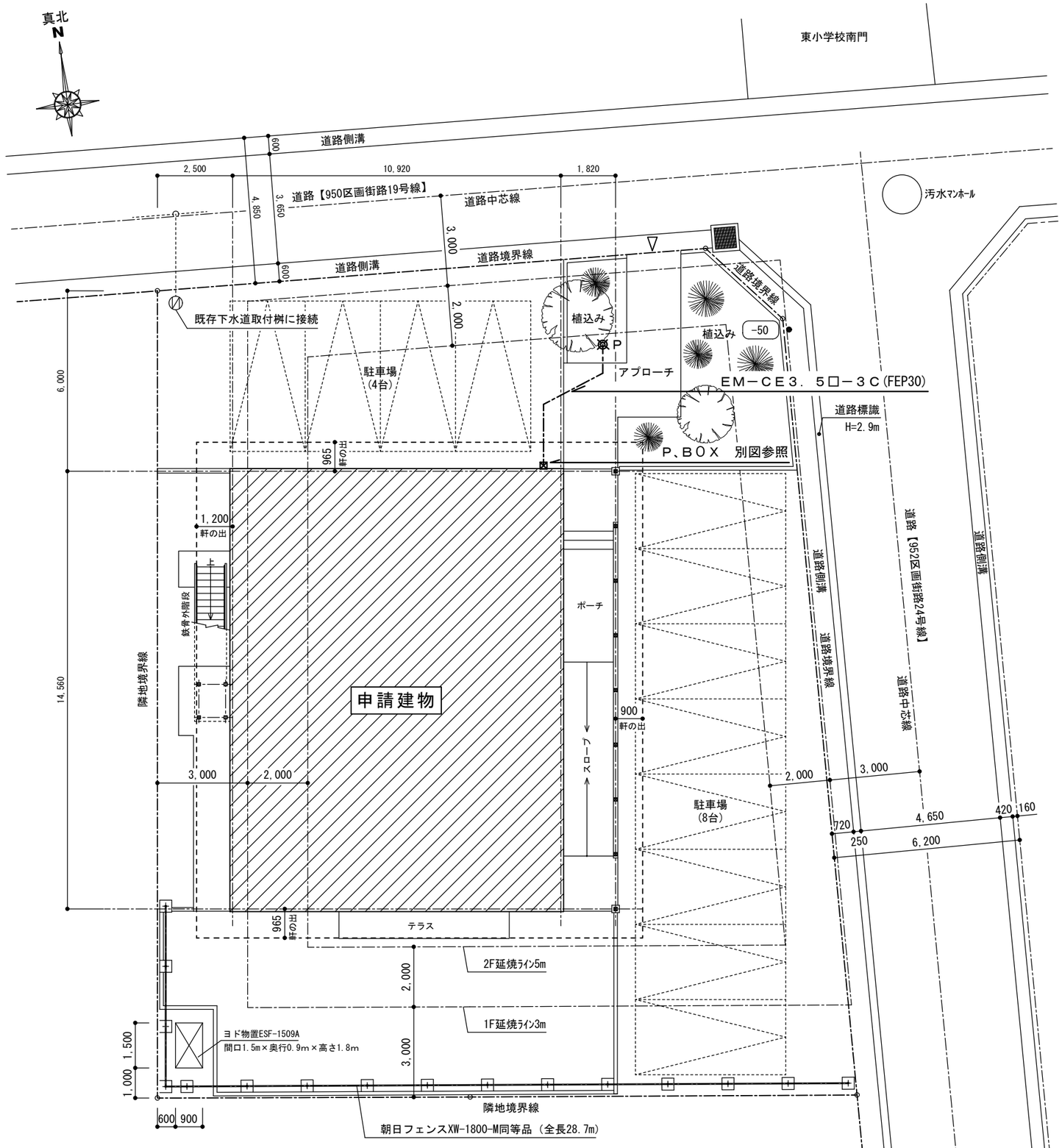
5．　接地極
下表による。ただし、これによりがたい場合は監督員との協議による。

・	Ａ種接地	銅板　１．５ｔ×９００×９００ リード端子付　堀削埋戻中心深さ	補助接地棒（連結式１０φ×１，５００） ２ｍ　埋設標（黄銅製又はステンレス製）
・	Ｂ種接地	銅板　１．５ｔ×６００×６００ リード端子付　堀削埋戻中心深さ	補助接地棒（連結式１０φ×１，５００） ２ｍ　埋設標（黄銅製又はステンレス製）
・	Ｃ種接地	銅板　１．５ｔ×３００×３００ リード端子付　堀削埋戻中心深さ	補助接地棒（連結式１０φ×１，５００） １．５ｍ　埋設標（黄銅製又はステンレス製）
⊙	Ｄ種接地	接地棒（１０φ×１、５００）　リード端子付　打ち込み式	埋設標（黄銅製又はステンレス製）

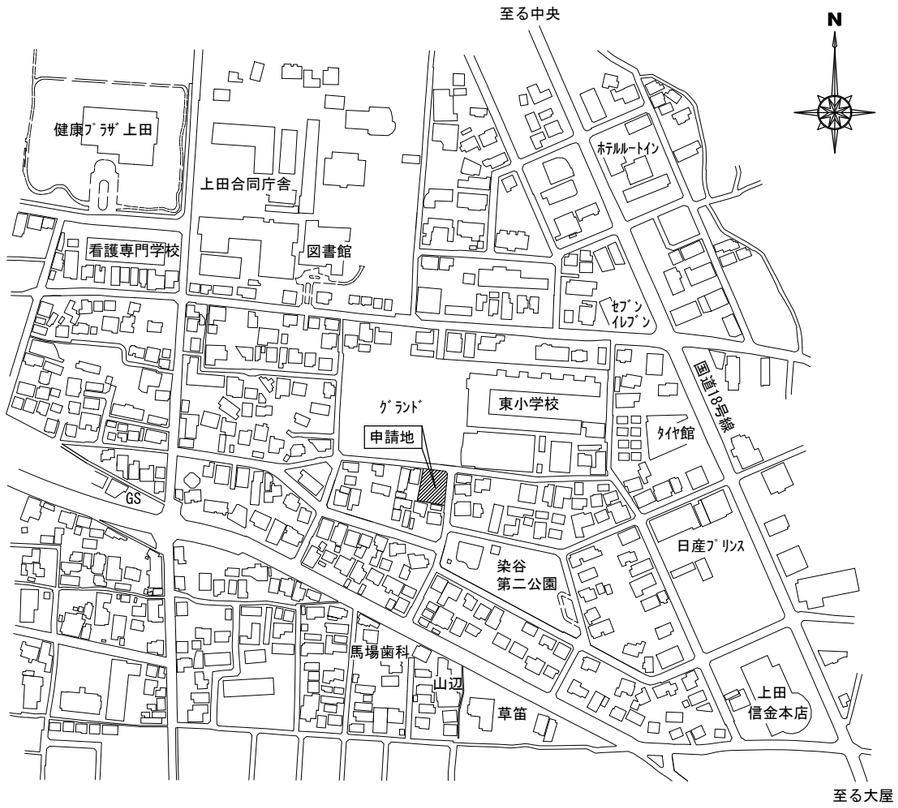
6．　その他

① 工事現場の環境改善について	工事現場のイメージアップ ・　仮囲い周辺の美化　・ 地域住民への情報提供 ・　完成予想図の設置　・　情報掲示板の設置　・　パンフレットの作成 地域住民とのコミュニケーション ・　現場見学会の開催　・ 住民に対する災害防止関係 ・　現場出入口周辺への誘導員の配備　・
② 不具合の確認	工事しゅん工後１０ヶ月、２０ヶ月（新営に限る）に不具合の確認を行い、その結果を書面で上田市長あてに報告する。 （施設管理者からの聞き取り調査を含め、調査には必ず監督員の立会いを要する。）
③ 産業廃棄物等の取扱い	（1）　廃棄物の処理に当たっては、請負者が自ら処理（分別、保管、収集、運搬及び処分の一連の行為）するときは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」（以下「廃棄物処理法」という）に基づき、適正に行うこと。 （2）　廃棄物の処理の全部又は一部を委託する場合は、廃棄物処理法に基づく処理を業として許可を取得している者に委託すること。また、施工前に産業廃棄物処理委託契約書の写し、産業廃棄物処理業の許可証の写し、許可運搬車両一覧並びに処分地の案内図等をまとめた「廃棄物処理計画書」を監督員に提出すること。 （3）　しゅんエした時は、廃棄物ごとに処理数量を集計し、積込み状況の写真、処分状況の写真等を添付した「廃棄物等処理報告書」を監督員に提出すること。
④ 環境対策関係	（1）　現場で使用する機械は、低騒音型、低振動型、排出ガス対策型建設機械とすること。 （2）　夜間、早朝等の稼動を避けること。ただし、監督員の承諾を受けた場合はこの限りでない。 なお、運搬ルートの選定に当たっては影響の少ない最短ルートを選定すること。 （3）　汚水、汚濁、土砂の流失防止に努めること。また、表土復元等、環境の回復に努めること。 （4）　熱帯材合板型枠は、極力使用しないこと。
⑤ 安全対策関係	（1）　工事現場においては、労働災害、公衆災害防止に努めるとともに、全作業員を対象に定期的に安全教育、研修及び訓練を行うこと。 （2）　安全教育、研修及び訓練については、工事期間中に月一回程度実施し、工事日誌へ記タするほか、実施結果、実施状況の写真、安全教育に使用した資料等も整理すること。 （3）　原則として代理人（主任）以外の第三者により、月１回以上店社による安全パトロールを行い、工事日誌へ記載するほか、点検内容等を別書面に記録し、実施状況の写真を撮影すること。 （4）下請業者にＫＹ（危険予知）、ＴＢＭ（作業内容の打合せ）活動等を実施させ、その記録を整備するとともに、随時、実施状況の写真を撮影すること。 （5）　下請業者を含め、作業員に対し現場内容に即した新規入場者教育、安全教育・訓練等を実施し、関連書類及び使用した資料等を整理するとともに、随時、実施状況の写真を撮影すること。 （6）　上記の（2）～（5）の活動については、記録・書類及び写真を整備したものを現場に備え監督員及び工事検査の際に提示できるようにすること。
⑥ 工事検査	施工途中において工事検査担当職員または、発注機関の長の指定する職員による抜打ち検査を実施することがあるので、検査に協力すること。
⑦ 被害届等	暴力団関係者から工事妨害による被害を受けた場合は、被害届を速やかに警察に提出すること。
⑧ 施工図等の取扱い	施工図等の著作権に関わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲する。
⑨ 完成図等	
⑩ 提出物	上記による他、監督員の指示による。

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録　第上田N-78311号 住所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	特記仕様書	SCALE A3　NO SCALE　No. 25-007 E-01



配置図　S=1/150



住所：上田市材木町131－1番地

案内図　S=1/5000

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	配置図・案内図	SCALE A3 1/150	No. 25-007 E-02

引込開閉器盤

主開閉器結線図：1Φ3W100V／200V

WHM

ZCT

3Φ3W200V

WHM

ZCT

回路No、	分岐開閉器 MCCB1P (50AF/20AT)	MCCB2P (50AF/20AT)	ELCB (50AF/20AT)	リモコン	負荷名称	負荷容量	備考
MCCB3P100AF／75AT					L－1	13643VA	
MCCB3P225AF／125AT					S－1	13．2KW	
					屋外露出型（鋼板製指定色焼付塗装仕上）		

L－1．1

主開閉器結線図：1Φ3W100V／200V

MCCB3P 50AF／50AT

回路No、	分岐開閉器 MCCB1P (50AF/20AT)	MCCB2P (50AF/20AT)	ELCB (50AF/20AT)	リモコン	負荷名称	負荷容量	備考
MCCB3P50AF／30AT					L－2．1	4456VA	
			○		エコ給湯	960VA	200V
◇1			○		エアコン屋内機	180VA	200V
◇2			○		電気パネルヒーター	250VA	200V
◇3			○		電気パネルヒーター	750VA	200V
◇4			○		電気パネルヒーター	750VA	200V
			○		予　備	――	200V
㋑		○			漏電火災警報器	――	
㋺		○			非常灯	――	
㋩		○			非常警報器	――	
①1			○		電灯他	911VA	
②2			○		コンセント	750VA	
③3			○		コンセント	1000VA	
④4			○		コンセント	600VA	
⑤5			○		端子盤他	300VA	
⑥6			○		コンセント	922VA	
⑦7			○		コンセント	361VA	
⑧8			○		コンセント	1133VA	
⑨9			○		排水路ヒーター	320VA	
			○		予　備	――	×3
					屋内露出型（鋼板製指定色焼付塗装仕上）上下配線ダクト共		

L－2．1

主開閉器結線図：1Φ3W100V／200V

MCCB3P 50AF／30AT

回路No、	分岐開閉器 MCCB1P (50AF/20AT)	MCCB2P (50AF/20AT)	ELCB (50AF/20AT)	リモコン	負荷名称	負荷容量	備考
							（4456VA）
◇1			○		エアコン屋内機	360VA	200V
			○		予　備	――	200V
㋑		○			誘導灯	――	
㋺		○			非常灯	――	
①1			○		電灯他	897VA	
②2			○		コンセント	600VA	
③3			○		コンセント	400VA	
④4			○		コンセント	1100VA	
⑤5			○		コンセント	1100VA	
			○		予　備	――	×3
					屋内露出型（鋼板製指定色焼付塗装仕上）上下配線ダクト共		

S－1

主開閉器結線図：3Φ3W200V

回路No、	分岐開閉器 MCCB1P (50AF/20AT)	MCCB2P (50AF/20AT)	ELCB (50AF/20AT)	リモコン	負荷名称	負荷容量	備考
ELCB3P100AF／60AT ELCB3P100AF／60AT					エアコン屋外機	13．2KW	（最大18．1KW）
					屋外露出型（鋼板製指定色焼付塗装仕上）		

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	電灯分電盤図	SCALE A3 NO SCALE	No. 25-007 E-03

照　明　器　具　参　考　姿　図

A　ＬＥＤ３２．６Ｗ　調光

パナソニック　直付ＸＬＸ８５０ＮＥＮＣＬＲ９
同等品

B　ＬＥＤ２０．３Ｗ

ＬＳＳ９－４－３０ＬＥ９

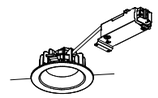
C　ＬＥＤ１１．６Ｗ

ＬＳＳ９－２－１５ＬＥ９

D　ＬＥＤ２７．６Ｗ　木製（白木）

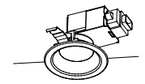
パナソニック　ＬＧＣ２５８３３同等品

E　ＬＥＤ１１．３Ｗ



パナソニック　ＬＧＤ５２００ＮＬＥ１同等品

F　ＬＥＤ７．３Ｗ

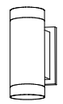


パナソニック　ＬＧＤ３１００ＮＬＥ１同等品

G　ＬＥＤ５．９Ｗ

パナソニック　ダウンライトＸＡＤ１１００ＫＣＵ１同等品

H　ＬＥＤ８．４Ｗ　ＷＰ



パナソニック　ＹＹＹ４１０００同等品
ランプ：ＬＬＤ４０００ＶＣＢ１同等品

I　ＬＥＤ９．３Ｗ　ＷＰ　センサー付

パナソニック　ＬＧＷＣ４７１２０ＣＥ１同等品

J　ＬＥＤ２５Ｗ　ガード付

ＬＳＳ１－４－３７ＬＥ９

K　ＬＥＤ１０Ｗ　ＷＰ

ＬＢＦ３ＭＰ／ＲＰ－２－０６ＬＥ９

L　ＬＥＤ１１．２Ｗ　ミラーライト

パナソニック　ＮＮＮ１２０１０ＬＥ１同等品

M　ＬＥＤ１２Ｗ　流し元灯
コンセント、スイッチ付

パナソニック　ＬＧＢ５２０９４ＬＥ１同等品

N　ＬＥＤ階段通路誘導灯フラットライン
ひとセンサ段調光６０分　段調光センサ本体組込

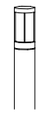
保守率：０．９２　Ｋ０１６９４７３

器具取付高さ			１．０ｍ	１．５ｍ	２．０ｍ	２．５ｍ	３．０ｍ	４．０ｍ	５．０ｍ
階段配置	Y=1.0m	21×	X+	2.3	3.1	3.8	4.3	4.8	5.7	6.0
		11×	X-	2.6	3.6	4.4	5.1	5.7	6.8	7.8
	Y=1.5m	21×	X+	2.1	2.9	3.6	4.2	4.7	5.3	5.5
		11×	X-	2.5	3.4	4.3	4.9	5.5	6.5	7.5
	Y=2.0m	21×	X+	1.8	2.7	3.3	4.0	4.5	5.2	5.3
		11×	X-	2.2	3.2	4.0	4.7	5.4	6.5	7.3

O　ＬＥＤ２３Ｗ

パナソニック　ＳＬＢ８１８７３ＬＢ１同等品

P　ＬＥＤ７Ｗ　ＷＰ
幅φ１２０・地上高９５８

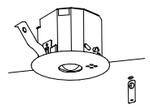


ＬＰＴ１－０２
パナソニック　ＮＮＹ２２２６７Ｋ同等品

Q

R

イ１　ＬＥＤ非常灯専用型リモコン自己点検機能付



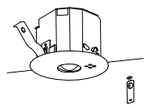
φ１００低天井・小空間用（～３ｍ）、３０分間タイプ
ＬＥＤ内蔵、非常時・非常灯用ＬＥＤ点灯／常時消灯
非常灯評定番号：ＬＡＬＥ－００４
レンズ：ガラス、カバー：鋼板（クールホワイトつや消し仕上）
電圧：１００～２４２Ｖ、蓄電池：ニッケル水素電池
点検スイッチ付、自己点検スイッチ付
充電モニタ（緑）付、リモコン：ＦＳＫ９０９１０Ｋ（別売）

Ｋ１－ＬＲＳ１１－１

保守率：０．９２　Ｋ０１４３７７９

器具取付高さ		２．１ｍ	２．４ｍ	２．６ｍ	３．０ｍ
単体配置	Ａ１	３．８	４．０	４．０	２．８
直線配置	Ａ２	８．５	９．４	９．９	１０．１
四角配置	Ａ４	６．９	７．６	８．１	８．９

イ２　ＬＥＤ非常灯専用型リモコン自己点検機能付



φ１００低天井用（～３ｍ）、３０分間タイプ
ＬＥＤ内蔵、非常時・非常灯用ＬＥＤ点灯／常時消灯
非常灯評定番号：ＬＡＬＥ－００４
レンズ：ガラス、カバー：鋼板（クールホワイトつや消し仕上）
電圧：１００～２４２Ｖ、蓄電池：ニッケル水素電池
点検スイッチ付、自己点検スイッチ付
充電モニタ（緑）付、リモコン：ＦＳＫ９０９１０Ｋ（別売）

Ｋ１－ＬＲＳ１１－２

保守率：０．９２　Ｋ０１４３７８０

器具取付高さ		２．１ｍ	２．４ｍ	２．６ｍ	３．０ｍ	４．０ｍ
単体配置	Ａ１	４．２	４．６	４．７	４．９	３．３
直線配置	Ａ２	９．３	１０．２	１０．８	１１．９	１２．９
四角配置	Ａ４	７．４	８．２	８．７	９．６	１１．７

ロ　ＬＥＤ　Ｃ級　避難口誘導灯片面型

ＬＥＤ誘導灯コンパクトスクエア
Ｃ級　片面タイプ
壁・天井直付タイプ
一般型（２０分間）
ニッケル水素蓄電池
リモコン自己点検機能付
型式認定番号：１ＡＳ１１１－３６１８

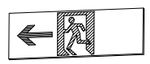
ＳＨ１－ＦＢＦ２０－Ｃ

ハ　一体型階段灯　ミドルタイプ４０形

ひとセンサ段調光３０分、Ｈ１３２形器具１灯相当
非常時本体組込ＬＥＤ点灯、非常灯評定番号：ＬＡＬＥ－０１５
本体：鋼板（白色塗装）、レンズ：ガラス
常用光ユニット（カバー）：ポリカーボネート（乳白）
電圧：１００～２４２Ｖ対応、蓄電池：ニッケル水素電池
常用光ユニット：光束維持時間４０００時間（光束維持率８５％）
自己点検機能付、リモコン：ＦＳＫ９０９１０Ｋ（別売）

ＬＤＳ２－ＳＫ１－ＬＢＦ１１ＬＥ９

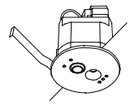
ニ　誘　導　標　識



360×120（3箇所）

パナソニック　ＦＫ９００１０Ｊ　同等品

Ⓢ　センサ付自動調光ユニット



ＤＳ１－ＡＮ

特記事項

- 照明器具消費電力は【ＪＩＳ　Ｃ　８１０５－３】「照明器具－第３部：性能要求事項通則」で規定された方法により測定された値である。
- 記載された姿図・メーカー名・型番は全て参考とする。

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	非常照明・照明器具参考姿図	SCALE A3　NO SCALE	No. 25-007 E-04

凡　例

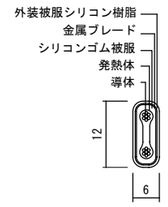
記号	名称	備考
	電灯分電盤	別結線図参照
	引込開閉器盤	別結線図参照
○	ＬＥＤ灯	直付又埋込型　別姿図参照
	ＬＥＤ灯	直付又埋込型　別姿図参照
	ＬＥＤ灯	直付又埋込型　多灯型　別姿図参照
	屋外灯	自立型　別姿図参照
●	非常灯	直付又埋込型　別姿図参照
	誘導標識	パナソニック　ＦＫ９００１０Ｊ　同等品　別姿図参照
	埋込スイッチ	１Ｐ１５Ａ　大角樹脂プレート共　３付　１Ｐ１５Ａ ３Ｗ　（３路用）　Ｌ付　１Ｐ４Ａ　パイロットスイッチ
	調光スイッチ	埋込逆位相調光スイッチ（ロータリー式）ネーム無　プレート付
	埋込コンセント	２Ｐ１５Ａ×１　大角樹脂プレート共　２付　２Ｐ１５Ａ×２　Ｅ付　２Ｐ１５Ａ×１　接地端子付　２Ｅ付　２Ｐ１５Ａ×２　接地極付
		ＥＥＴ付　２Ｐ１５Ａ×１　接地極、接地端子付　２ＥＥＴ付　２Ｐ１５Ａ×２　接地極、接地端子付
		ＥＷＰ付　２Ｐ１５Ａ×２　接地極、接地端子付　抜止メ　防水型
		ＥＷＰＣ付　２Ｐ１５Ａ×２　接地極、接地端子付　抜止メ　防水型　カバー付
	Ｆ用ジョイントボックス	大
	換気扇	別途設備工事　なお、接続は本工事に含む。
	同上操作スイッチ	別途設備工事　なお、接続は本工事に含む。
S A	熱線センサー付自動スイッチ	明るさセンサー、人感センサー内蔵、　自動スイッチ　８Ａ　親器
S B	熱線センサー付自動スイッチ	人感センサー内蔵　換気扇接続端子付　子器
S C	熱線センサー付自動スイッチ	人感センサー内蔵　子器
S D	熱線センサー付自動スイッチ	明るさセンサー、人感センサー内蔵、　換気扇連動用　親器
◆２ＳＬ	同上操作ユニット	２回路用　大角樹脂プレート共
S A	熱線センサー付自動スイッチ	親器　（パナソニック　ＷＴＫ３４３１４Ｓ同等品）
S B	熱線センサー付自動スイッチ	子器　（パナソニック　ＷＴＫ３９１１４Ｓ同等品）
TEL	電話主装置	別姿図参照
T	電話機	Ａ付　多機能型　Ｂ付　多機能型（停電対応）　別姿図参照
	電話用受口	６極４心モジュラージャック大角樹脂プレート共
t	カメラ付ドアホン	Ａ付　親機　Ｂ付　子機　別姿図参照
D	カメラ付ドアホン子機	別姿図参照

凡　例

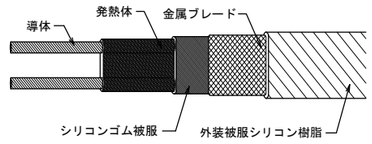
記号	名称	備考
B	警報ランプ付ブザー	
N	同上押釦	
ITV	ネットワークレコーダー	別姿図参照
	ネットワークカメラ	Ａ付　屋内型　Ｂ付　屋外型　別姿図参照
	テレビハンガー	
FCB	非常警報装置	埋込型
F	漏電火災報知器	２回路用
	端子盤	
	Ｔ－１．１	ＬＡＮ　ルーター＋Ｓ．ＨＵＢ　８ポート＋情報機器取付スペース
		ＴＥＬ　保安器取付スペース（１Ｌ）＋１０Ｐ
		屋内露出型（鋼板製指定色焼付塗装仕上）上部配線ダクト共

DH 8　自己制御ドレンヒーターケーブル仕様図

断面図



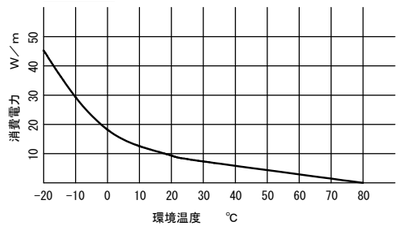
構造図



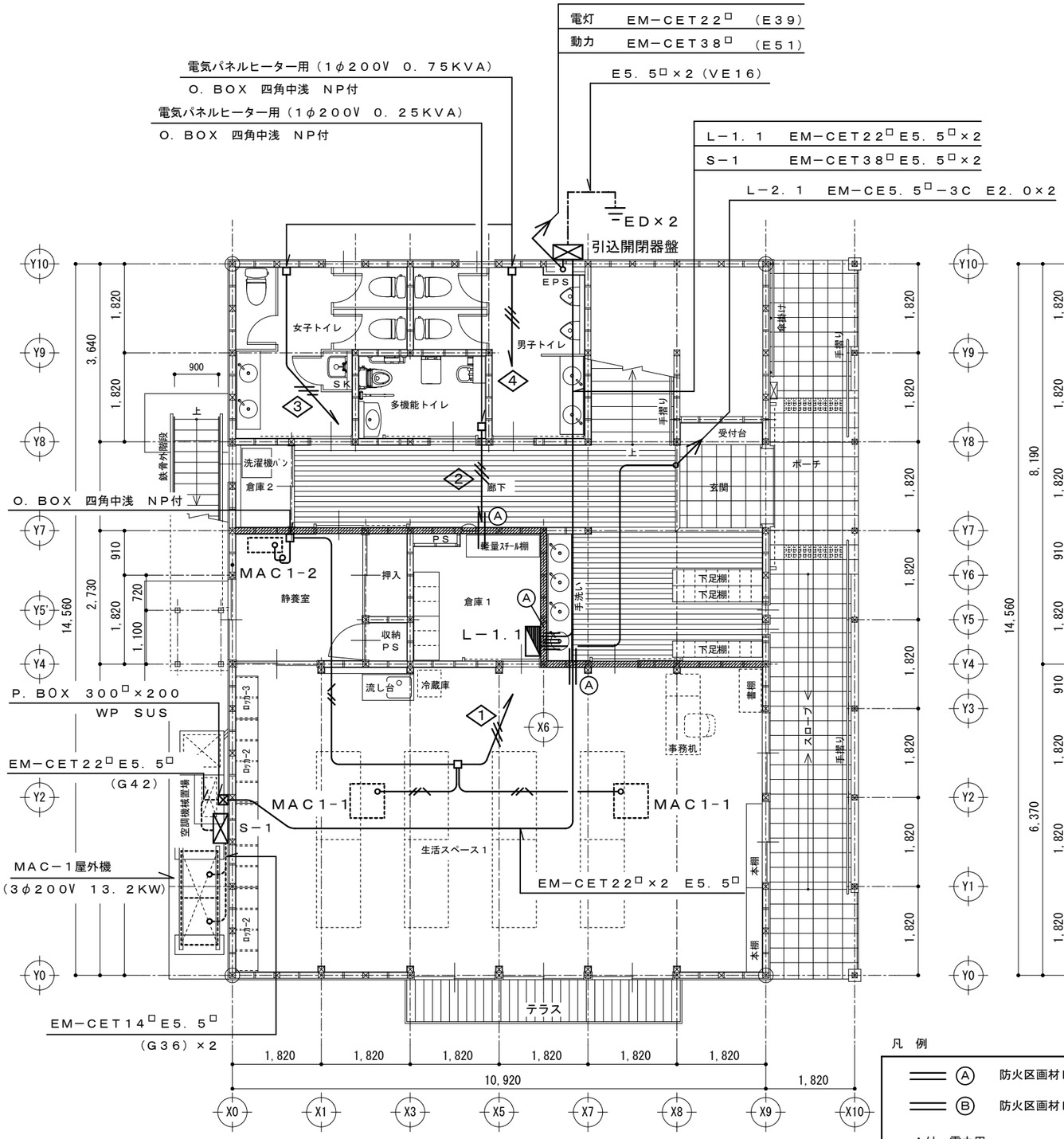
使用条件

定格電圧	１φ２Ｗ　ＡＣ１００Ｖ
設備容量	２１０　Ｗ／ｍ
契約容量	２０　Ｗ／ｍ
ケーブル長さ	ＤＨ８＝８ｍ
電源ケーブル	２種絶縁電線，耐熱ケーブル等
ケーブル太さ	長さによる設備容量を満たす事
漏電ブレーカーの設置	長さによる設備容量を満たす事
接地	スズメッキ銅編組は接地する事

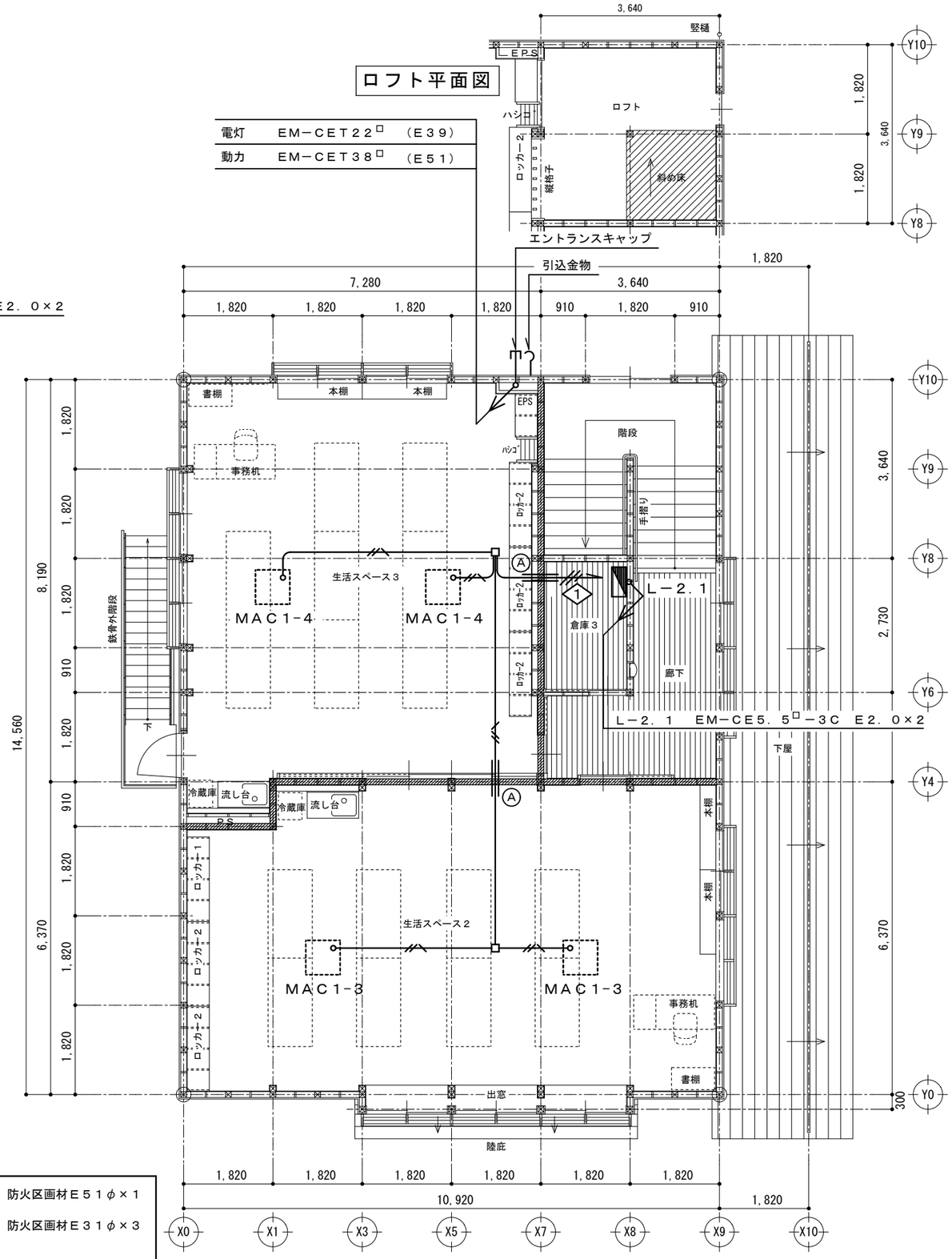
温度特性　（参考）



上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計　長野県知事登録　第上田N-78311号　住所　長野県上田市住吉55番地2　設計者氏名　小福田　洋　一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	凡例・排水路ヒーター仕様図	SCALE A3　NO SCALE　No. 25-007　E-05



1階平面図



2階平面図

凡例

Ⓐ　防火区画材E51φ×1

Ⓑ　防火区画材E31φ×3

A付　電力用

B付　弱電用

別図要領図参照

防火上主要な間仕切り壁を示す

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	幹線・動力設備1階平面図、2階平面図	SCALE A3　1/100	No. 25-007 E-06

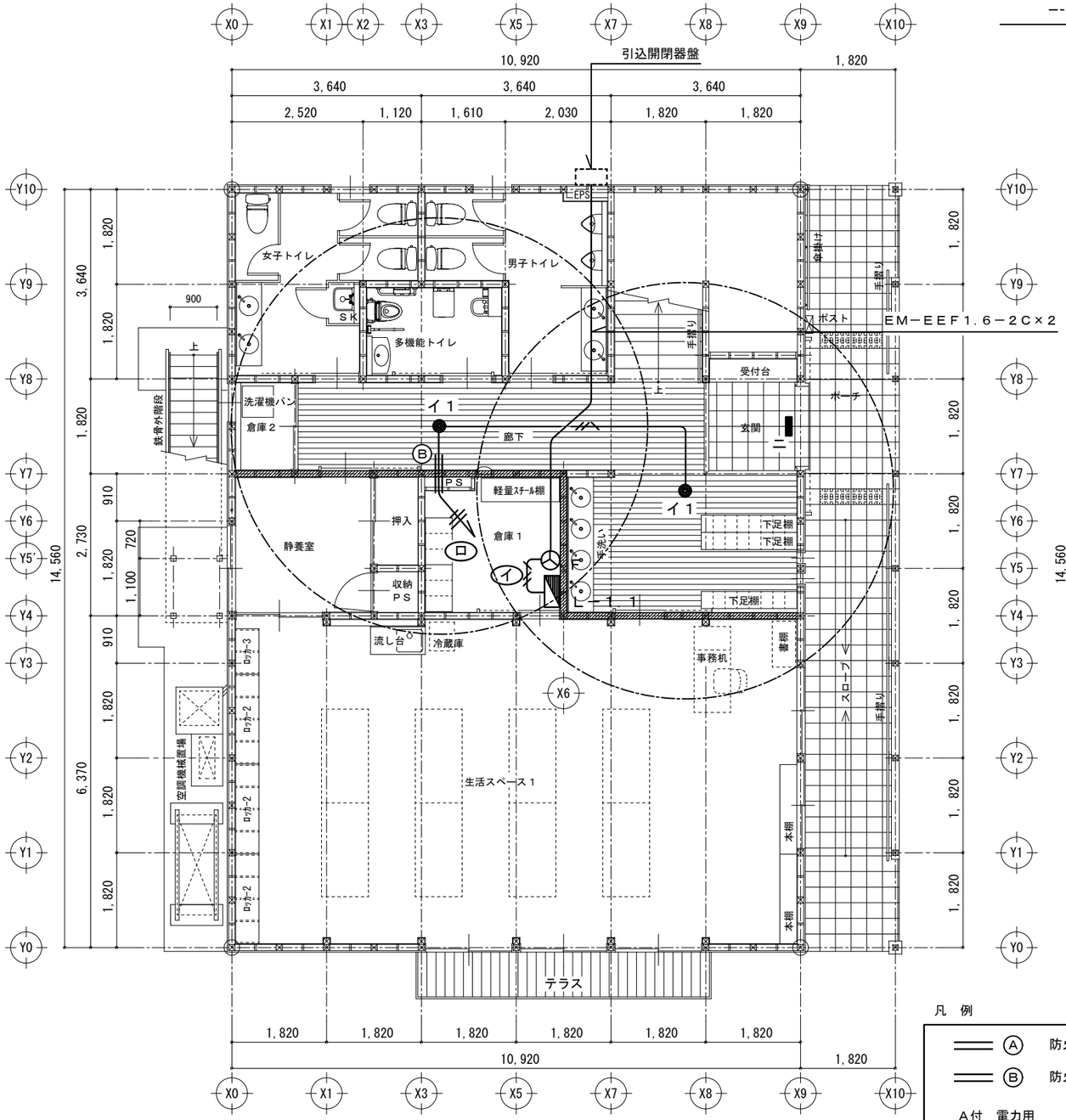
特記なき配管、配線は下記による。

―//―	EM－EEF1．6－3C	（内　1CE）
―///―	EM－EEF2．0－3C	（内　1CE）

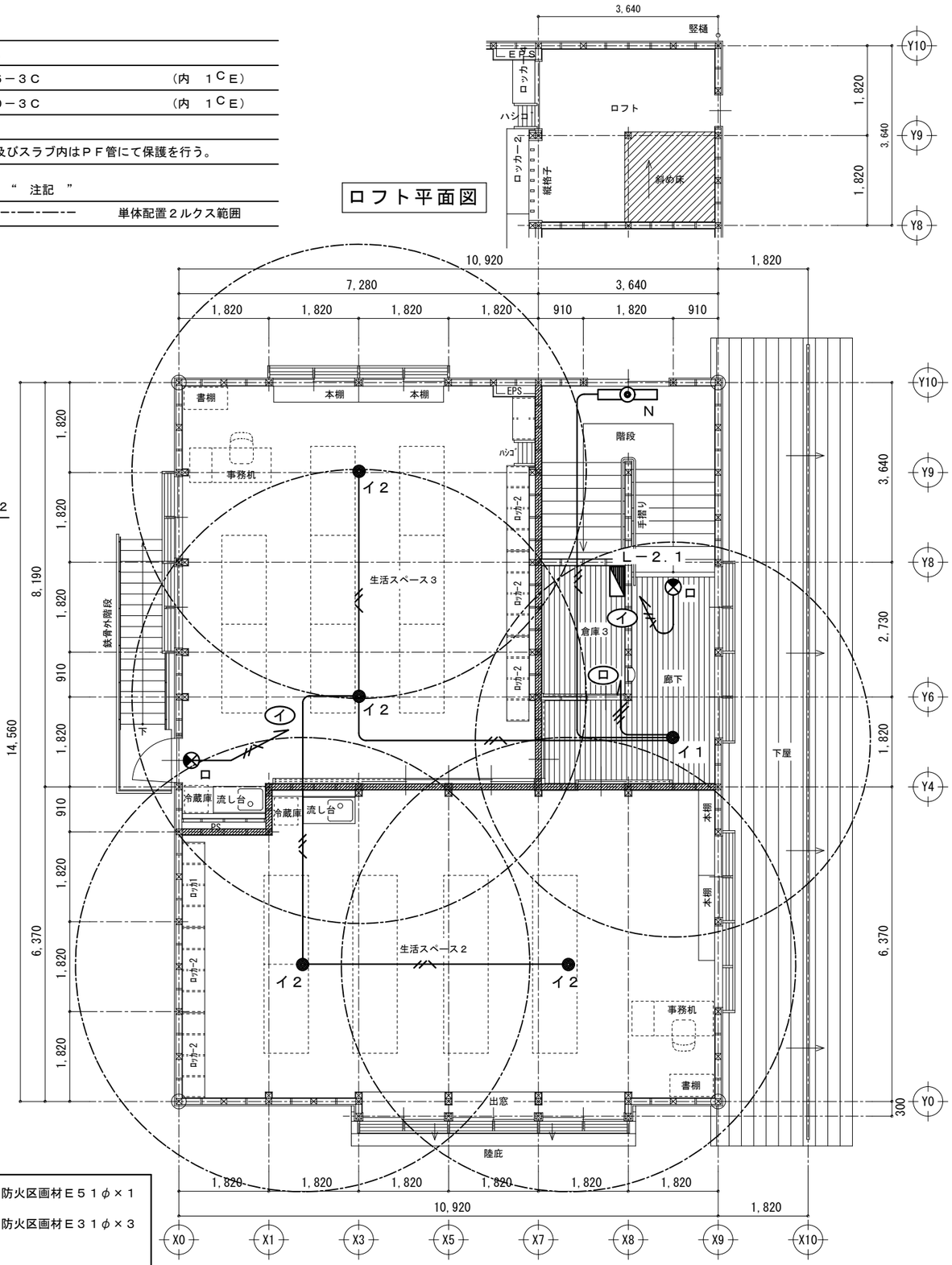
なお、立上り、立下り、貫通箇所及びスラブ内はＰＦ管にて保護を行う。

“　注記　”

-·-·-·-	単体配置２ルクス範囲



１階平面図



２階平面図

凡　例

═══	Ⓐ	防火区画材Ｅ５１φ×１
═══	Ⓑ	防火区画材Ｅ３１φ×３

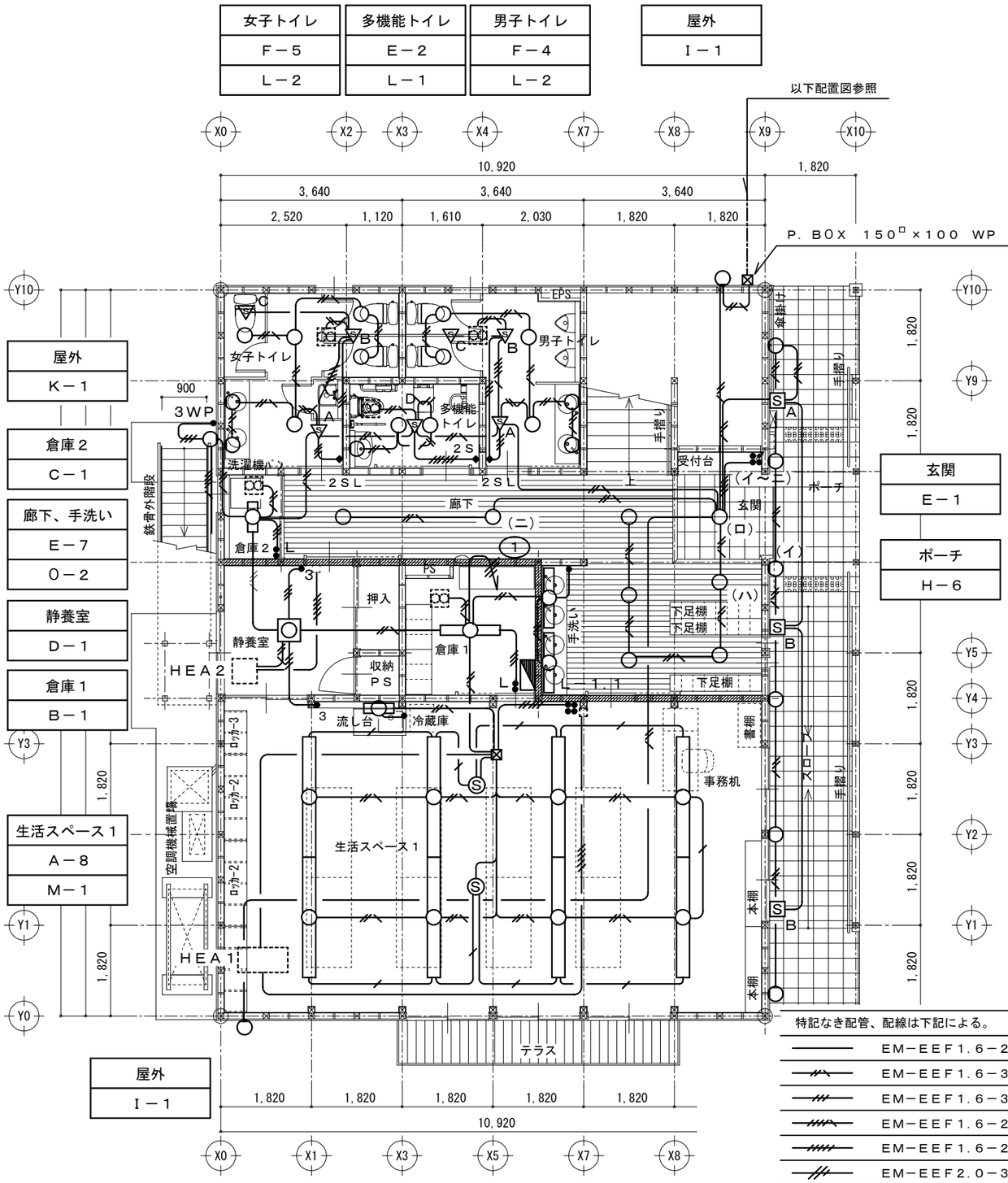
Ａ付　電力用

Ｂ付　弱電用

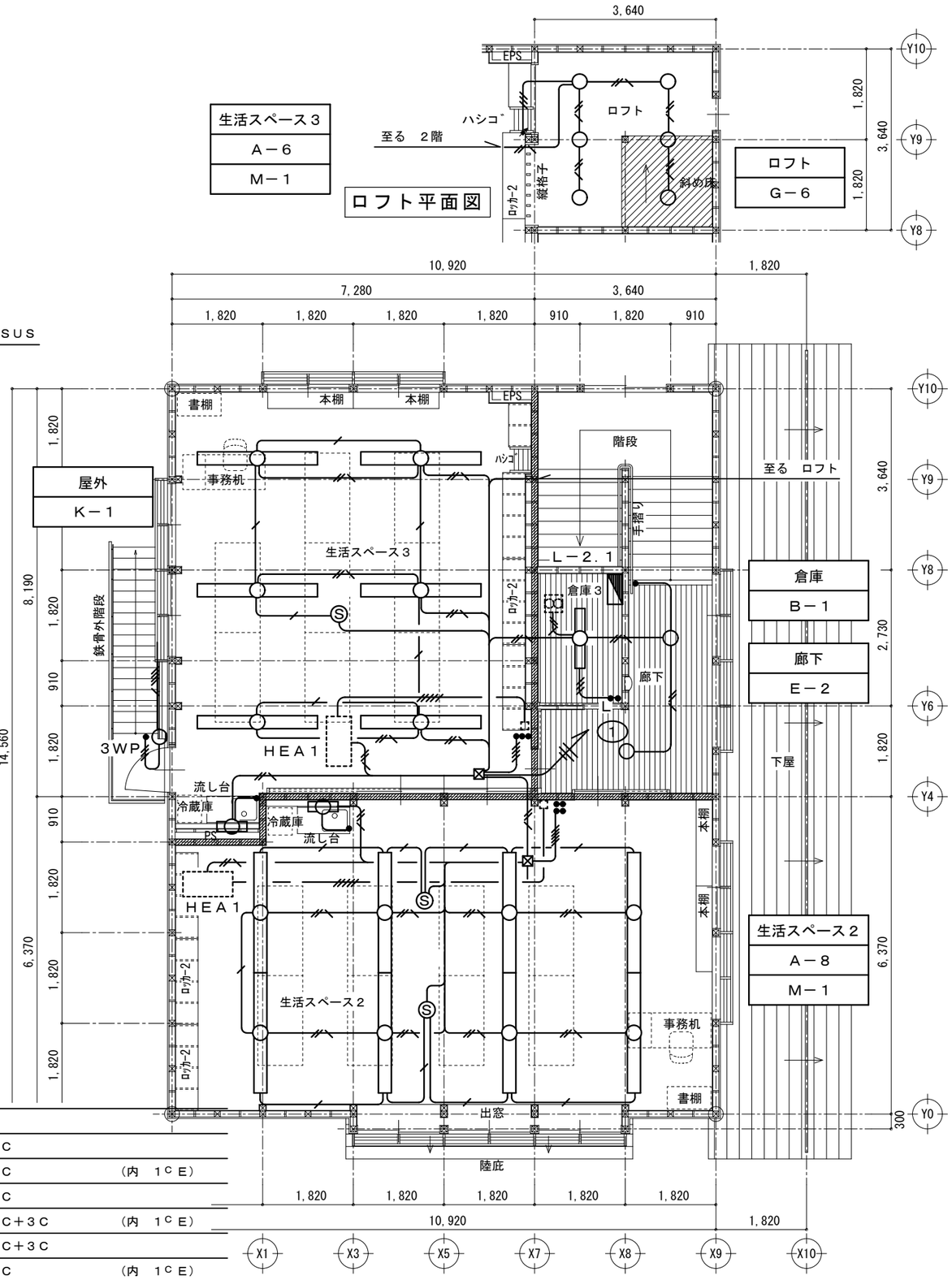
別図要領図参照

防火上主要な間仕切り壁を示す

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	非常照明設備1階平面図、２階平面図	SCALE A3　1/100	No. 25-007 E-07



1階平面図



2階平面図

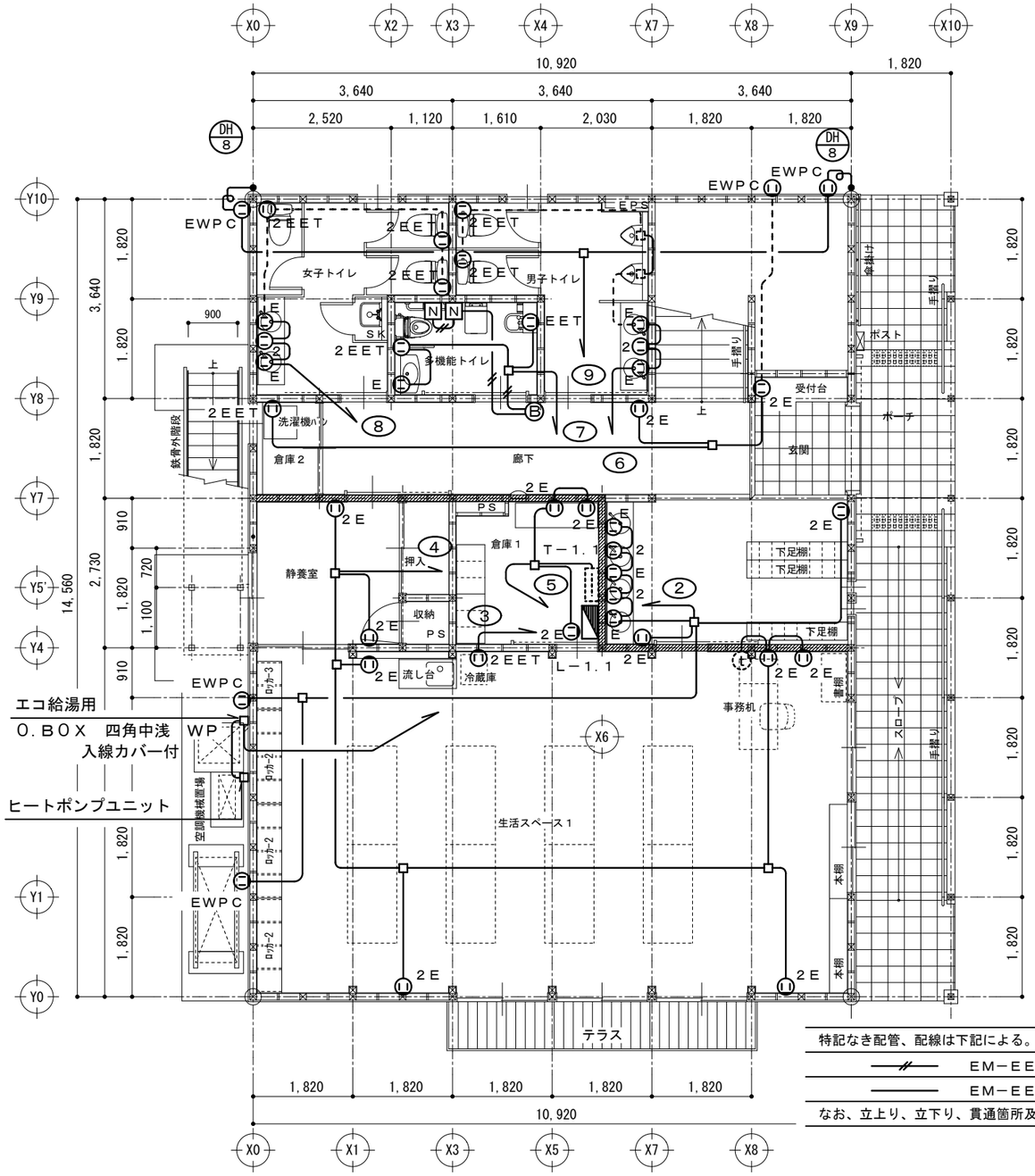
特記なき配管、配線は下記による。

――――	EM－EEF1.6－2C	
―//―//―	EM－EEF1.6－3C	（内　1CE）
―//―//―	EM－EEF1.6－3C	
―//―//―	EM－EEF1.6－2C＋3C	（内　1CE）
―//―//―	EM－EEF1.6－2C＋3C	
―//―//―	EM－EEF2.0－3C	（内　1CE）
―/―	EM－CPEE0.9－1P	

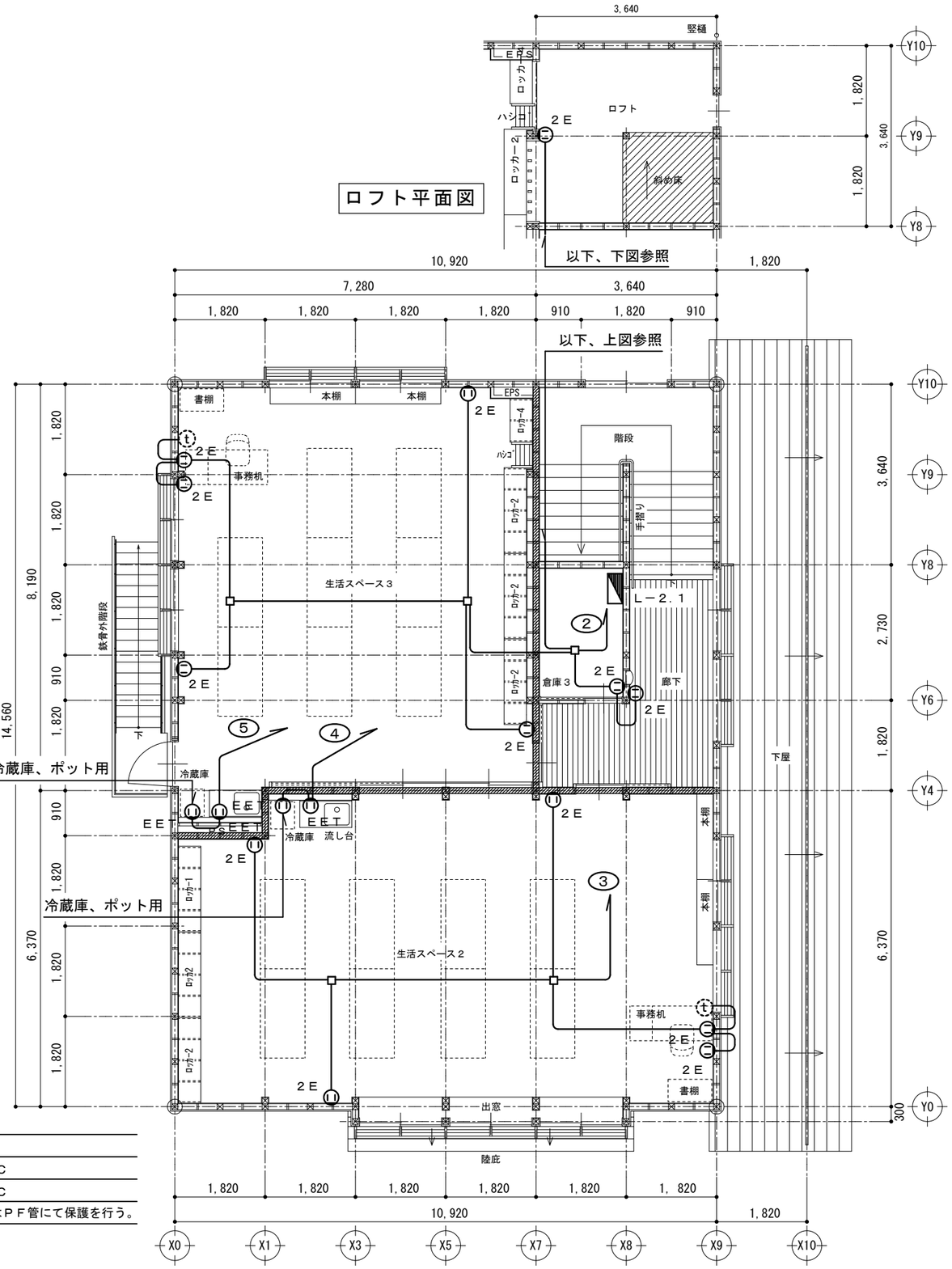
なお、立上り、立下り、貫通箇所及びスラブ内はＰＦ管にて保護を行う。

防火上主要な間仕切り壁を示す

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	電灯設備１階平面図、２階平面図	SCALE A3 1/100	No. 25-007 E-08



1階平面図



2階平面図

特記なき配管、配線は下記による。

EM－EEF1.6－2C

EM－EEF2.0－3C

なお、立上り、立下り、貫通箇所及びスラブ内はPF管にて保護を行う。

防火上主要な間仕切り壁を示す

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	コンセント設備1階平面図、2階平面図	SCALE A3 1/100	No. 25-007 E-09

監視カメラ設備　システム図

※別途工事

ITV A 監視カメラ装置

※別途工事

ITV B ライブモニター

※別途工事

ITV B モニタリンクユニット

※別途工事

A ネットワークカメラ　屋内ドーム型

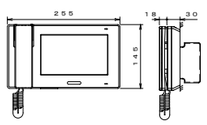
※別途工事

B ネットワークカメラ　屋外用

※別途工事

t A モニター付親機

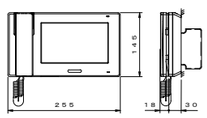
ＪＰ－４ＭＥＤ



電源電圧	ＤＣ２４Ｖ（電源アダプターより供給）
モニター	７型ＴＦＴカラー液晶
通話方式	拡声自動交互通話 受話器：電話型同時通話
録画機能	自動・手動録画、再生、保存
形　状	据置・壁取付両用型 （ＪＩＳ２個用または３個用スイッチボックス） （卓上使用の場合、卓上スタンド（ＪＰＷ－Ｓ）を使用する）
材　質	難燃性樹脂

t B モニター付子機

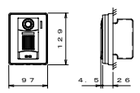
ＪＰ－４ＨＤ



電源電圧	ＤＣ２４Ｖ（電源アダプターより供給）
モニター	７型ＴＦＴカラー液晶
通話方式	拡声自動交互通話／受話器：電話型同時通話
形　状	据置・壁取付両用型（卓上使用の場合、 卓上スタンド（ＪＰＷ－Ｓ）を使用する）
材　質	難燃性樹脂

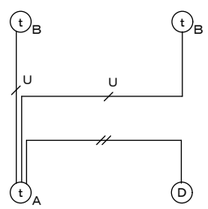
D カメラ付ドアホン子機

ＪＰ－ＤＡ



電源電圧	モニター付親機または映像長距離・監視カメラ接続アダプターから供給
形　状	壁取付型（ＪＩＳ１個用スイッチボックス）
材　質	自己消火性樹脂
カメラ	１／４型カラーＣＭＯＳ
通話方式	自動交互通話
備　考	防塵・防まつ形（ＪＩＳ　Ｃ　０９２０　ＩＰ５４　相当）

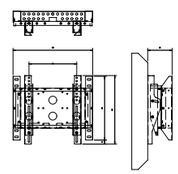
インターホンシステム図



U ——//—— ＥＭ－ＵＴＰ　ＣＡＴ５ｅ

U ——//—— ＥＭ－ＡＥ１．２－２Ｃ

テレビ支持金物

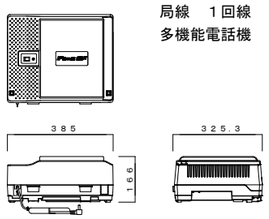


本　体	クロムフリー鋼板　ｔ０．８　ｔ１．６　ｔ２．３ メタリックダークグレー　焼付塗装
付属品	ディスプレイ取付ボルトセット
質　量	８．１ｋｇ

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	弱電機器参考姿図（１）	SCALE A3 NO SCALE / No. 25-007 E-10

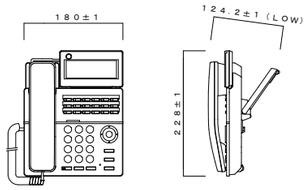
TEL 電話主装置

局線　１回線
多機能電話機　３台



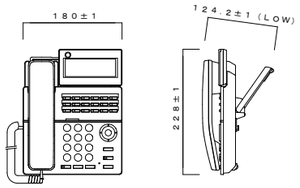
電　源	ＡＣ１００Ｖ　５０／６０Ｈｚ
制御／通話路方式	蓄積プログラム（１６ｂｉｔ）／時分割ＰＣＭ方式
交換方式	Ｔ１段ノンブロッキング時分割交換方式
最大ポート	２６ポート
外線（実装／最大）	アナログ回線：２／２
内線（実装／最大）	多機能電話：７／８
その他（実装／最大）	ドアホン：２／２

TA 多機能電話機



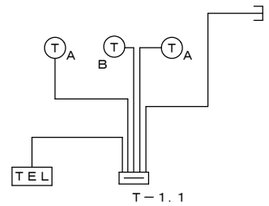
方　式	デジタル式
ディスプレイ	漢字表示、１８キー
機　能	ＬＣＤバックライト、人感センサ、
	ハンズフリー電話機能付
その他	据置き角度３段階調節可能、壁掛設置可能

TB 多機能電話機（停電対応）



方　式	デジタル式
ディスプレイ	漢字表示、１８キー
機　能	ＬＣＤバックライト、人感センサ、
	ハンズフリー電話機能付
その他	据置き角度３段階調節可能、壁掛設置可能
	停電ユニット実装（ＩＳＤＮまたはアナログ）

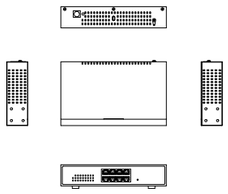
ＴＥＬ設備　システム図



ＬＡＮルーター

ヤマハ　ＲＴＸ８４０同等品

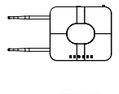
Ｓ．ＨＵＢ　８ポート



ポート数	ＲＪ４５：８ポート（１０ＢＡＳＥ－Ｔ、１００ＢＡＳＥ－ＴＸ、１０００ＢＡＳＥ－Ｔ）
給電機能	各ポート：最大３０Ｗ 最大供給電力：９０Ｗ
電源（消費電力）	ＡＣ１００Ｖ、　５０／６０Ｈｚ 最大１１７．９Ｗ
動作環境	温度　０～５０℃ 湿度　１０～８５％
重　量	約０．８ｋｇ
機　能	■管理機能 ＳＮＭＰ　ｖ１／ｖ２ｃ／ｖ３、ＬＬＤＰ、設定保存・復元、Ｓｙｓｌｏｇ、 ネットワーク管理ソフトウェア（ＷＬＳ－ＡＤＴ、ＢＮ－ＡＤＴ）対応、 Ｗｅｂ設定（日本語） ■セキュリティ機能 ＩＥＥＥ８０２．１Ｘ認証、ＭＡＣアドレスフィルター、 ＭＡＣアドレス認証、ＤｏＳ攻撃防止、ＤＨＣＰスヌーピング ■サポート機能 ＰｏＥ機能（ａｆ／ａｔ）、レイヤー３機能　（Ｌ３ルーティング、 静的ルーティング、ＡＲＰテーブル、ＤＨＣＰリレー）、ＪｕｍｂｏＦｒａｍｅ、 スパニングツリー、ＶＬＡＮ、入出力帯域　制限、ＱｏＳ、 ＡＣＬ（ＩＰｖ４／ＩＰｖ６）、トランキング、ポートミラーリング、 ループ防止機能、ＩＧＭＰ　Ｓｎｏｏｐｉｎｇ、ＩＧＭＰクエリア、 ＭＬＤ　Ｓｎｏｏｐｉｎｇ、ＭＬＤクエリア、 ＩＥＥＥ８０２．１Ｘ認証クライアント、ＳＳＬ証明書自己生成機能、 ＤＨＣＰクライアント、ＳＮＴＰクライアント

バッファロー　ＢＳ－ＧＳ２００８Ｐ同等品

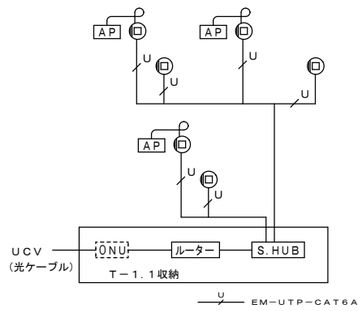
無線ＬＡＮアクセスポイント



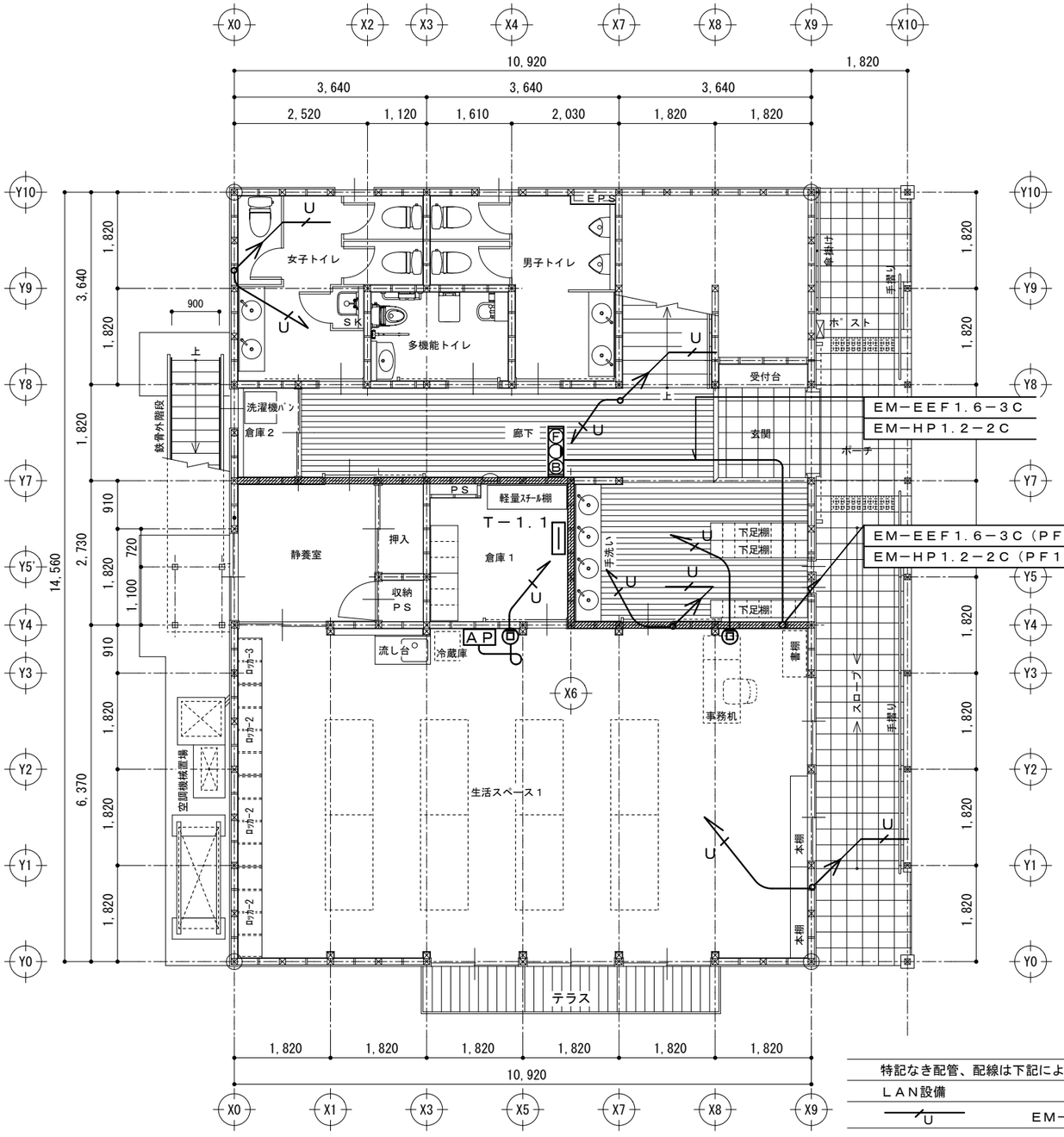
準拠規格		ＩＥＥＥ８０２．１１ａｃ ／ＩＥＥＥ８０２．１１ｎ ／ ＩＥＥＥ８０２．１１ａ ／ ＩＥＥＥ８０２．１１ｇ ／ ＩＥＥＥ８０２．１１ｂ
無線ＬＡＮ	５ＧＨｚ	２ｘ２
ストリーム数	２．４ＧＨｚ	２ｘ２
動作環境		０～５０℃
有線ＬＡＮ		１０ＢＡＳＥ－Ｔ、１００ＢＡＳＥ－ＴＸ、１０００ＢＡＳＥ－Ｔ　２ポート ※ＰｏＥ受電対応はＬＡＮ　１端子
重　量		８００ｇ
ＰｏＥ受電		○（８０２．３ａｔ）
機　能		ＤＦＳ障害回避機能、干渉波自動回避機能、電波環境見える化機能※１ リモート管理機能、電波出力調整、電波混雑防止機能、ＡＰＳＤ、ＤＴＩＭ Ｂｅａｃｏｎ　Ｐｅｒｉｏｄ、ＱｏＳ、ロードバランス（接続台数制限）、ＭＡＣ－ＲＡＤＩＵＳ認証 内蔵ＲＡＤＩＵＳサーバー機能、Ｐｒｏｘｙ　ＡＲＰ（プロキシ・アープ）機能 ※１　管理ソフト「ＷＬＳ－ＡＤＴ」（別売）が必要
備　考		ＡＣ電源（別売：ＷＬＥ－ＯＰ－ＡＣ１２Ｃ）対応 ネットワーク管理ソフトウェア（別売：ＷＬＳ－ＡＤＴ）対応 セキュリティケース（別売：ＷＬＥ－ＯＰ－ＳＣＡ２）対応

バッファロー　ＷＡＰＭ－１２６６Ｒ同等品

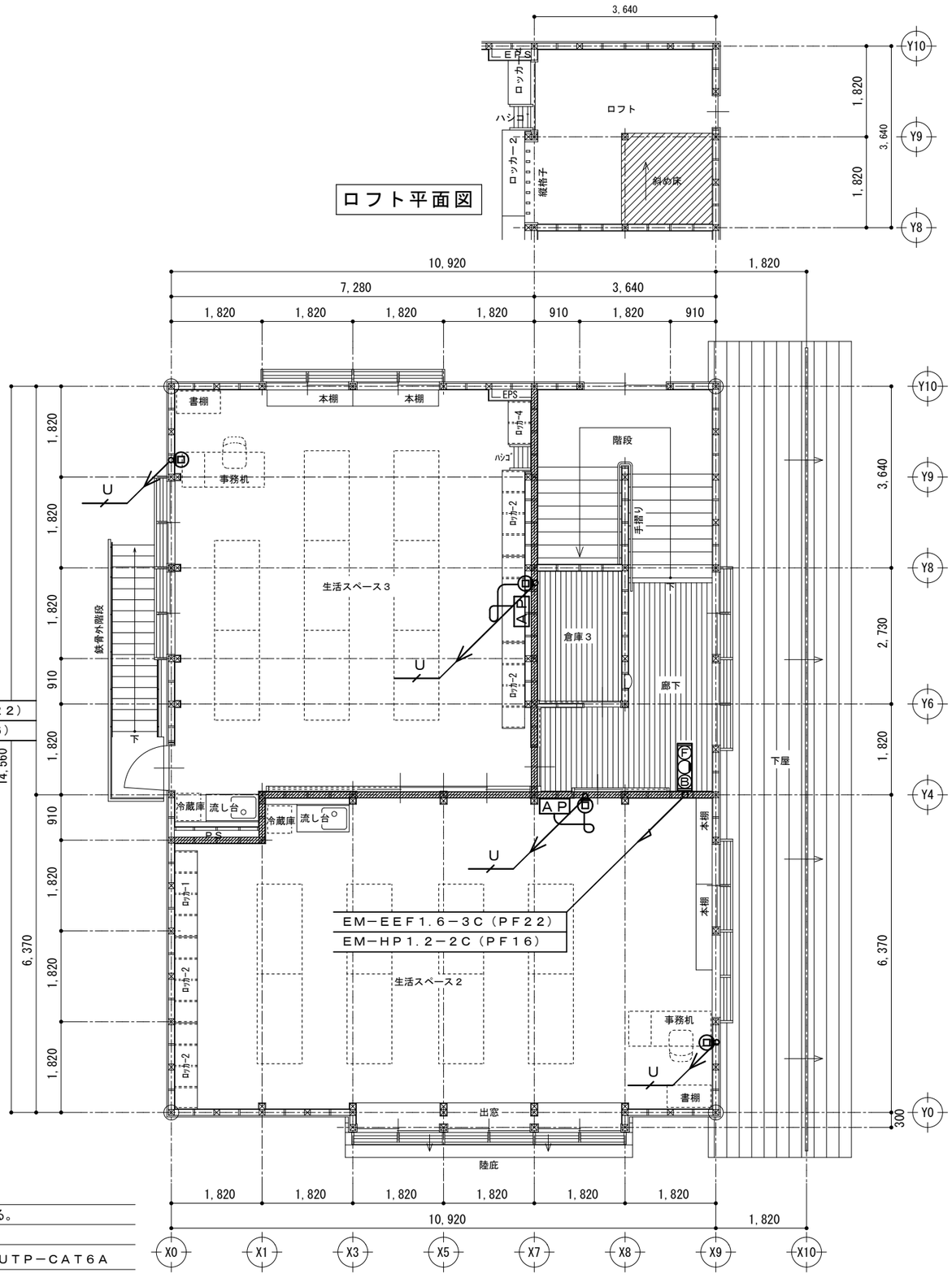
ＬＡＮ設備　システム図



上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	弱電機器参考姿図（２）	SCALE A3 NO SCALE	No. 25-007 E-11



1階平面図



2階平面図

特記なき配管、配線は下記による。

LAN設備

U　EM－UTP－CAT6A

なお、立上り、立下り、貫通箇所及びスラブ内はPF管にて保護を行う。

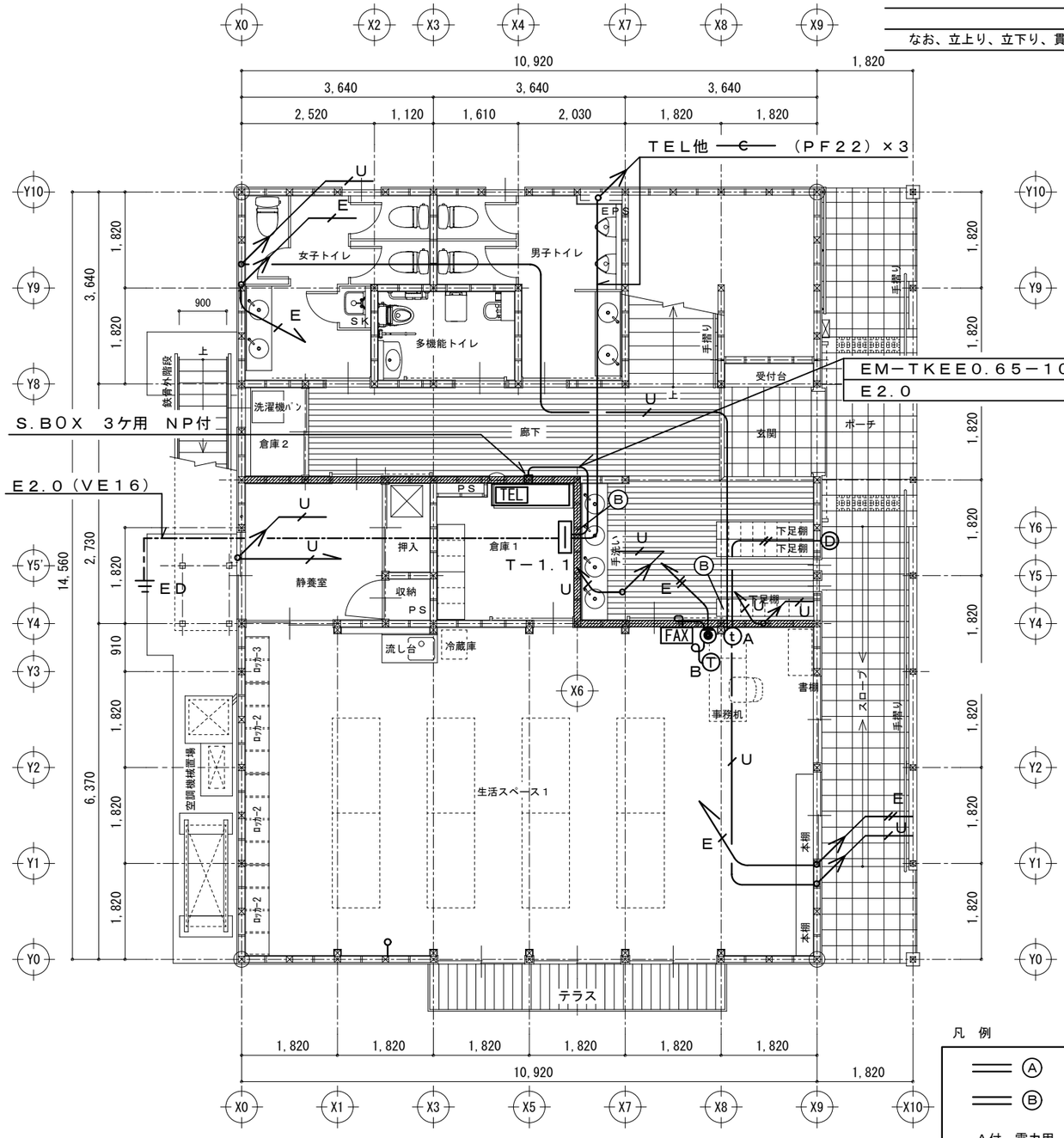
防火上主要な間仕切り壁を示す

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	情報通信網設備1階平面図、2階平面図 非常警報設備	SCALE A3 1/100	No. 25-007 E-12

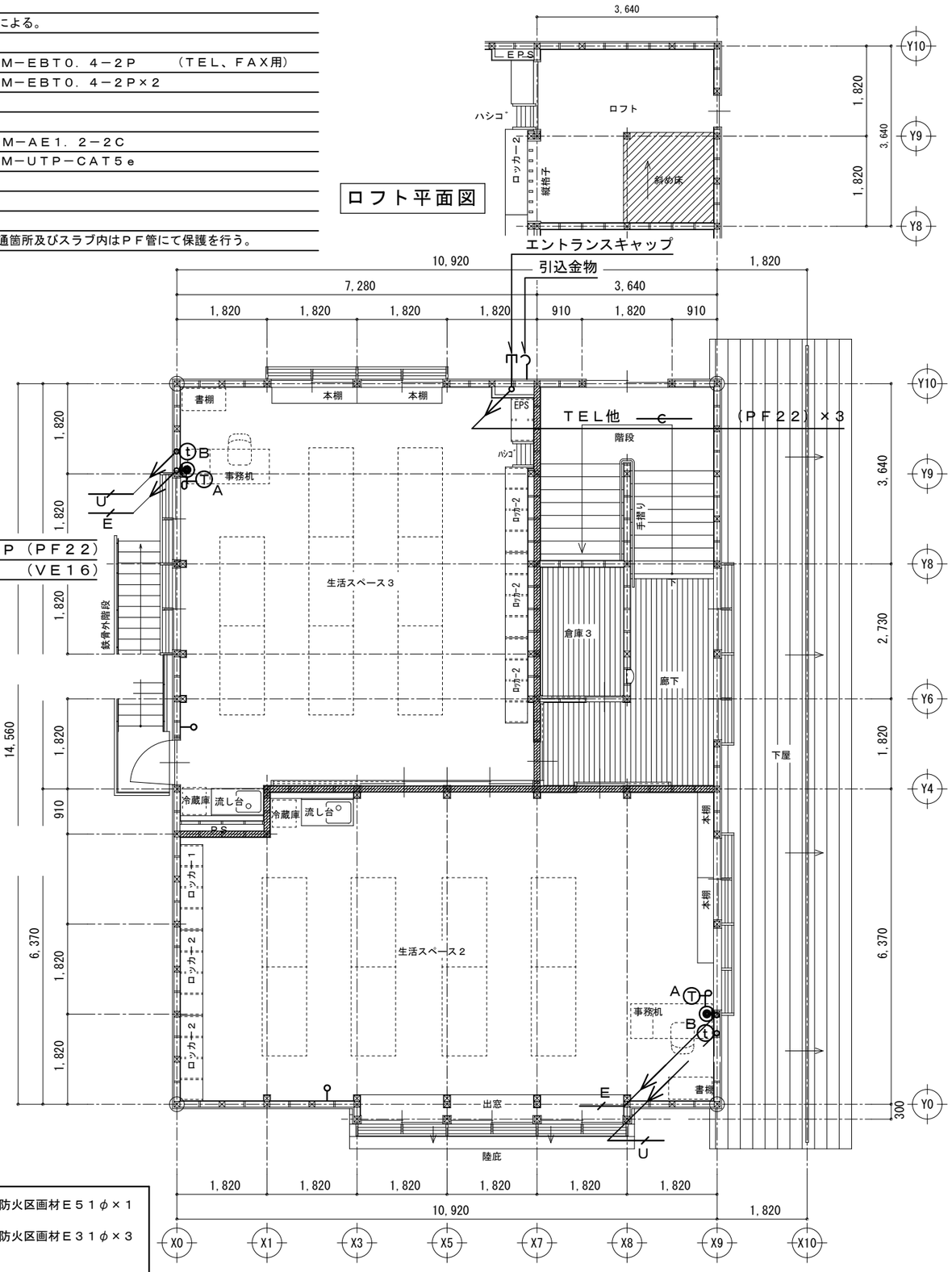
特記なき配管、配線は下記による。

ＴＥＬ設備	
E	ＥＭ－ＥＢＴ０．４－２Ｐ　（ＴＥＬ、ＦＡＸ用）
E	ＥＭ－ＥＢＴ０．４－２Ｐ×２
インターホン設備	
	ＥＭ－ＡＥ１．２－２Ｃ
U	ＥＭ－ＵＴＰ－ＣＡＴ５ｅ

なお、立上り、立下り、貫通箇所及びスラブ内はＰＦ管にて保護を行う。



1階平面図



2階平面図

凡　例

Ⓐ	防火区画材Ｅ５１φ×１
Ⓑ	防火区画材Ｅ３１φ×３
Ａ付　電力用	
Ｂ付　弱電用	

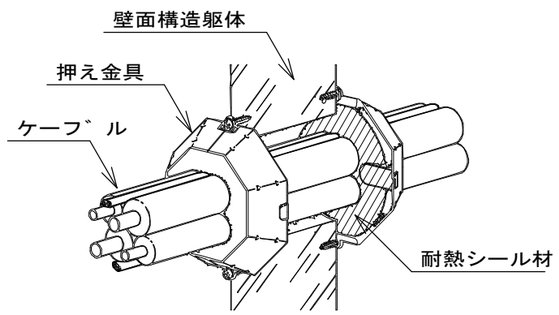
別図要領図参照

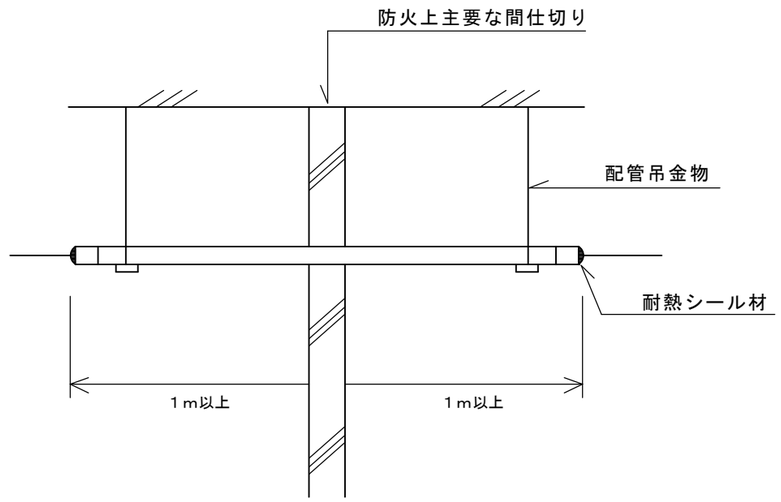
防火上主要な間仕切り壁を示す

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	ＴＥＬ･インターホン･監視カメラ設備 １階平面図、２階平面図	SCALE A3 1/100	No. 25-007 E-13

■ケーブル貫通処理　（防火上主要な間仕切り壁貫通部）

国土交通大臣認定番号　ＰＳ０６０　ＷＬ－９０６７（参考）





主要防火間仕切りケーブル貫通参考図

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	防火間仕切り壁貫通処理要領図	SCALE A3　NO SCALE	No. 25-007 E-14

東部児童クラブ分室集約化工事　機械設備工事　特記仕様書

Ⅰ 工事概要

1. 地名地番　　上田市材木町一丁目１３１番１

2. 建物概要

建物名称	構造	階数(階)	延面積(㎡)	消防法施行令別表第一の区分	耐震分類	備考
東部児童クラブ分室	木造	2	318.00			

3. 設備概要（○印を付けたものを適用する）

方法及び種別	設備概要
空調方式	・ガス焚吸収式　◉空冷ヒートポンプ　・
冷暖房方式	・　・　・
暖房方式	・温風暖房　・温水暖房　・FF暖房　◉パネルヒーター
換気方式	◉局所換気　・セントラル方式　・
給水方式	◉水道直結式　・加圧式　・高置タンク式（・上水　・井水）
排水方式	◉建物内汚水、雑排水（◉分流　・合流）◉建物外汚水、雑排水（・分流　◉合流） 浄化槽　（・合併　・単独）　放流先　（◉公共下水　・　）

4. 図面目録　◉別紙参照　・下記の通り

番号	図面名称	番号	図面名称
1		6	
2		7	
3		8	
4		9	
5		10	

Ⅱ 工事仕様

1. 共通仕様
   (1) 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部の「公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)(最新年度版)」(以下、「標準仕様書」という)、「公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)(最新年度版)」(以下、「改修標準仕様書」という)及び「公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)(最新年度版)」(以下、「標準図」という)による。
   (2) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、電気設備工事及び建築工事は、それぞれの工事仕様を適用し、下記の工事仕様は適用しない。
2. 特記仕様
   (1) 章及び項目は番号に◉印の付いたものを適用する。
   (2) 特記事項のうち選択する事項は◉印又は、※ 印の付いたものを適用し、・ 印のままのものは適用しない。

章	項目	特記事項
① 一般共通事項	① 機材等	(1) 本工事に使用する材料・機材等は、設計図書に定める品質及び性能と同等以上のものを使用する。但し、製造業者等が記載されている場合は同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督職員の承諾を受ける。 (2) 下表に示す材料・機材等の製造業者等は次の1)から6)すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出し監督職員の承諾を受ける。 1) 品質及び性能に関する試験データが整備されていること。 2) 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること。 3) 安定的な供給が可能であること。 4) 法令等で定められる場合は、その許可、認可、認定又は免許を取得していること。 5) 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 6) 販売、保守等の営業体制が整えられていること。なお、システムとして機能するものにあっては、システムの構築能力があり、現場での施工体制が整えられていること。 ● 品質及び性能を有することの証明となる資料を提出する機材等 ◉(社)公共建築協会による「建築材料・設備機材等品質性能評価事業」における評価対象となる機械設備機材等 ・　・ ・　◉その他監督職員の指示によるもの
	② 使用材料発注先調書	使用材料名、製造者名、発注先、品質性能証明資料提出の省略について記載した調書を作成し、監督職員の承諾を受ける。
	③ 施工条件明示項目	※ 現場説明書による
	④ 化学物質を発散する建築材料等	本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の1)から5)を満たすものとする。 1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF,パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 2) 保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 3) 接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 4) 塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 5) 上記1)、3)、4)の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他什器等は、ホルムアルデヒドを発散しないか、発散が極めて少ないものとする。 なお、ホルムアルデヒドを発散しないものとは、発散量が規制対象外のものを、ホルムアルデヒドの発散量が極めて少ないものとは、発散量が第3種のものをいい、原則として規制対象外のものを使用するものとするが、該当する材料等が無い場合は第3種のものを使用するものとする。 ホルムアルデヒドの発散量 ／ 該当する建築材料 規制対象外：① JIS及びJASの F☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるJAS規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用 d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用 第三種：① JIS及びJASの F☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の5第3項による国土交通大臣認定品 ③ 旧JISのEo規格品 ④ 旧JASのFco規格品
	⑤ ペーストシール剤	飲料水管系に使用されているペーストシール剤は、室内汚染に係る揮発性化合物に指定されている下記の物質を材料及び製造工程に使用されていないこと。 ホルムアルデヒド・アセトアルデヒド・トルエン・キシレン・エチルベンゼン・スチレン・パラジクロロベンゼン・テトラデカン・クロルピリオス・フェノブカルブ・ダイアジノン・フタル酸ジ-n-ブチル・フタル酸ジ-2-エチルヘキシル
	⑥ 電気保安技術者	電気保安技術者を設置する。
	⑦ 技能士の適用	◉配管(1.2)　◉冷温空気調和機器(1.2)　◉熱絶縁(1.2)　・建築板金(1.2)　・監督員の指示による
	⑧ 監督員事務所	※ 設けない　・ 設ける
	⑨ 工事用電力・用水等	この工事に必要な工事用電力、用水、諸手続きなどの費用は請負者の負担とする。
	⑩ 完成図等	※ 完成図（※ 設計図書で示したもの全て　・ 標仕表1.7.1による　・ 監督員の指示による） 作成方法　※ 製本（※ 見開きA3縮小版 2～3部（黒表紙金文字製本）・ 見開きA1版 1部（ビニール製本）・　） ※ CADデータ（※ CD-R (1部)　・　）
	⑪ しゅん工時提出物	※ 保全に関する資料(1部)　・
	⑫ 足場・さん橋類	※ 監督員の指示による　・ ◉別契約の関係請負者が定置したものは無償で使用できる。　・ 本工事で負担する。 ・ 改修機械設備標準仕様書第1編2.2.1によるほか下記による。 ・ 内部仮設足場等（・　種　・　種）・ 外部仮設足場等（・　種　・　種） 資材の保管は必ず屋根をかけ地上30cm以上の架台に乗せる。
	⑬ 資材の保管	
	⑭ 建設発生土	・ 監督員が指示する構内の場所に敷ならし　・ 構内指定場所にたい積　◉構外搬出適切処理
	⑮ 埋め戻し土・盛土	◉根切中の良質土(ただし管の周囲は山砂、川砂又は再生砂)　・ 山砂の類
	16. 山留養生	根切中の山留め　・ 有(　)　・ 無
	⑰ 発生材処理	工事に先立ち手引き第2編による廃棄物等処理計画書を監督職員に提出し、しゅん工時には廃棄物等処理報告書を作成し提出する。 (1) 引渡しを要するもの　◉無　・ 有（　） (2) 引渡しを要するもの以外は構外搬出し関係法令により適切に処理すること。 (3) 特別管理産業廃棄物　◉無　・ 有（　） (4) 再利用又は再生資源化を図るもの (コンクリート塊、アスファルト塊、木くず、金属くず、塩ビ管、　)
	⑱ 文字入名札等	標準仕様書第1編1.7.4によるほか、バルブ類等は必要に応じて合成樹脂製名札をステンレス線等で取付ける。
	19. 取扱説明板	機器等の取り扱い方法及び重要な定期点検項目等を書いた取扱説明板(アクリル樹脂製、文字彫込み程度)を設ける。大きさは、約(　)mtとする。
	⑳ 総合調整	◉風量調整　◉水量調整　◉室内外空気の温湿度測定　・ 室内気流及びじんあい測定　・ 騒音測定 ◉飲料水の水質の測定　（◉水質基準検査10項目(一般細菌、大腸菌、硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素、塩化物イオン、有機物等(TOC)、pH、味、臭気、色度、濁度)　◉トルエン） 飲料水の水質の測定は厚生労働大臣登録水質検査機関とする。
	㉑ 容量等の表示	(1) 機器類の能力、容量等は、表示された数値以上とする。 (2) 電動機出力、燃料消費量、圧力損失は、原則として表示された数値以下とする。
	22. 耐震措置	機器、配管、風道等は耐震を考慮し竪固にす其付け、取付又は支持を行う。 耐震措置の計算及び施工方法は、次に掲げる事項以外、すべて「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」(国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修)による。 (1) 設計用水平地震力は、機器の重量(自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効重量)に、次に示す地域係数及び設計用標準水平震度を乗じたものとする。地域係数は1.0とする。

設置場所	耐震安全性の分類 ・特定の施設（・甲類　・乙類） 重要機器	・一般の施設（乙類） 一般機器	重要機器	一般機器
上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0) (2.0)	1.5 (2.0) (1.5)	1.5 (2.0) (1.5)	1.0 (1.5) (1.0)
中間階	1.5 (1.5) (1.5)	1.0 (1.5) (1.0)	1.0 (1.5) (1.0)	0.6 (1.0) (0.6)
地下階、一階	1.0 (1.0) (1.5)	0.6 (1.0) (1.0)	0.6 (1.0) (1.0)	0.4 (0.6) (0.6)

(注) 1. (　) 内の数値は防振支持の機器の場合に適用する。
2. (　) 内の数値は水槽類に適用する。
3. 「上層階」は、2～6階建以下の場合は最上階、7～9階建の場合は上層2階とする。
4. 「重要機器」とは下記に示すものとする。
・ 給水装置　・ 排水装置　・ 換気機器　・ 空調機器　・ 防災設備　・ 監視制御設備
・ 危険物貯蔵装置　・ 火を使用する設備　・ 避難経路上に設置する機器　・

(2) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。

23. あと施工アンカー　機械改修工事標準仕様書第2編5章による。
確認試験　・ 引き抜き試験
・ 性能確認試験（　本）・ 施工後確認試験（　本）を確認強度（　）kNにて行う
・ 施工土の適用(第1種、第2種) あと施工アンカー施工士*による
＊(社)日本建築あと施工アンカー協会認定資格

㉒ 吊金物　吊金物は亜鉛メッキ又はステンレス鋼製とする
㉓ 配管勾配　給水、給湯、消火、冷温水、冷却水管は、図示による水抜きが確実にできるよう水抜き位置に向かって下り勾配とする。
㉔ 管の保護　コンクリート内の銅管、鉛管及び塩ビ管については、プラスチックテープを1/2重ね1回巻きとする。また、コンクリート土間下配管は、鋼棒等により沈下防止措置をする。
㉕ 管の埋設　土中埋設管(排水含む)は、管の上下をサンドクッション厚100mmで保護する。
給水管、消火管の埋設深さは(　600　)mmとする。又、ガス管の埋設深さは(　　)mmとする。
㉖ 管の埋設表示　図示された屋外埋設管の分岐及び曲がりの箇所には、コンクリート製標柱を埋め込む。舗装部分は埋設標示ピンとする。また、施工上生じた分岐、曲がりの箇所についても同様とする。
排水管を除く管には、埋設表示用テープを設置する。

29. 溶接部の非破壊検査
検査対象　・配管　・煙道　・　・
抜取率　・ 標準仕様書による　・
検査の種類　・RT　・PT又はMT

㉘ 塗装　下記の金属電線管は塗装を行う。
◉屋外露出　・（ ドレン管 ）の屋内露出
下記の保温を行わない亜鉛メッキを施したダクト及び配管は塗装を行わない。
・ 倉庫　・

31. 機器の基礎 及び振動絶縁効率

機器	基礎	振動絶縁効率
遠心送風機	・標準基礎　・防振基礎	・(　)% 以上　・
空調用ポンプ及びボイラー給水用ポンプ	・標準基礎　・防振基礎	・　80 % 以上　・
揚水用ポンプ及び小形給水ポンプユニット	・標準基礎　・防振基礎	・　80 % 以上　・

・ 別図による
㉙ 電線類　電線及びケーブルの規格は標準仕様書第4編1.5.1、表4.1.11による。
㉚ はつり　既存のコンクリート床及び壁の配管貫通部の穴明けは原則としてダイヤモンドカッターによる。
㉛ 保温及び消音内貼り　標準共通仕様書第2編によるほか下記による。
給水管、給湯管、冷温水管等の管、バルブ(グランド部を含む)、フランジ、可とう継手及び空調ダクトのフランジは、建物内外共保温する。なお、保温端部はシーリング処理を行う。
◉換気ダクトの保温要(保温厚25mm)　◉範囲は図示による　・
◉外気取入れダクトの保温要(保温厚25mm)　◉範囲は図示による　・
・ 排気ダクトの保温要(保温厚25mm)　・ 範囲は図示による　・
・ 還りダクトの保温要(保温厚25mm)　・ 範囲は図示による　・
・ 膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は膨張管の項による。
・ 建物内の空気抜き管の保温は膨張管の項による。
◉空気調和機、ファンコイルユニット、冷水及び冷温水のドレーン管の保温は排水管の項による。
・ 全熱交換器用ダクトの保温要(保温厚25mm)　・ 範囲は図示による　・
保温種別は下記による

ダクト	◉イ（・1号　・2号）	◉ロ
冷温水、冷水、温水、蒸気管	・イ	・ロ
機器	・イ	・ロ
給水管	◉ハ	◉ロ（凍結防止帯巻部分）
排水管	◉ロ	・
給湯管	・イ	◉ロ

保温及び消音内貼り(続き)
・ 排水管でピット内、共同溝内及び最下階の床下の下記の部分は保温する。なお仕様はd(ハ)とする。
（・ 排水トラップ　・ 鉛管　・ 銅管類　・ ビニール管　・ ドレーン管　・　）
・ 消火管で下記の部分は保温する。なお仕様は給水管の項による。
（・ 屋内消火管　・ 水抜きできない管　・ スプリンクラー配管　・　）
・ 圧力タンク、膨張水槽、各種呼水槽等鋼板製水槽は保温する。なお仕様は各機器の項に準ずる。
・ 大便器は保温する。
・ 共同溝の保温種別（・ ピット内に準ずる　・　）
・ ダクトの保温外装は下表による。

区分	保温外装
倉庫・書庫	・アルミガラスクロス　・
機械室	・アルミガラスクロス　・
居室・廊下など	・カラー亜鉛鉄板　・
屋外露出、多湿箇所（　）	・ステンレス鋼板　・

◉配管の保温外装は下表による。(冷媒管は除く)

区分	保温外装
倉庫・書庫	・アルミガラスクロス　・
機械室	・アルミガラスクロス　・
居室・廊下など	・カラー亜鉛鉄板　・
屋外露出、多湿箇所（　）	◉ステンレス鋼板　・

◉冷媒管の保温の外装は下表による。なお保温化粧ケースの材質は図示による。

屋内露出	◉保温化粧ケース
屋外露出	◉ステンレス鋼板　・保温化粧ケース

㉜ 防凍保温　・ 屋外露出部(給水管、冷温水管、膨張管、冷水管、温水管、ドレーン管、消火管、排水管、弁類)は防凍保温を行い、厚さは管径25mm以下のものは50mm、管径32mm以上のものは40mmとする。
◉屋外露出部(給水管、冷温水管、膨張管、冷水管、温水管、ドレーン管、消火管、排水管、弁類)は電気ヒーター等の防凍対策を行う。なお、保温厚は34.1mに準じる。
◉各種機器について図示電気ヒーター等の防凍対策を行う。(　ガス給湯器　)
㉝ 試験　(1) 各種配管の試験は、新設配管に適用する。
(2) 新設配管は、既設配管の接続前に試験を行う。
㉞ 他工事との取合い　配管、ダクト、器具据え付けにともなうスリーブ、枠入れは本工事とし、他は工事区分表による。

2 空気調和設備

① 設計温湿度

	外気 温度(DB)	外気 湿度(RH)	屋内 一般系統 温度(DB)	屋内 一般系統 湿度(RH)	屋内 温度(DB)	屋内 湿度(RH)	屋内 温度(DB)	屋内 湿度(RH)
夏季	34.7 ℃	52.3 %	26.0 ℃	成行	℃	%	℃	%
冬季	-4.9 ℃	78.5 %	22.0 ℃	成行	℃	%	℃	%

2. 居室騒音限界　下表によるほか、耳ざわり音がないよう機種選定およびダクト消音対策を行う。

室名	A特性 (dB)	NC値

3. 煤煙濃度計　・ 設ける　・
4. ばいじん量測定口　・ 設ける(測定口は80φとする)　・
5. 煙道　伸縮継手、排除口及びばい煙量測定口の位置は図示による。
6. ダクト　・ 低圧ダクト　・ 高圧1ダクト　・ 高圧2ダクト
・ アングルフランジ工法　・ スパイラルダクト
・ コーナーボルト工法（・ 共板フランジ工法　・ スライドオンフランジ工法 ）
7. 風量測定口　取付部は図示による。
8. チャンバー　(1) 内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。
(2) 空気調和機、温風暖房機に取り付けるサブライチャンバー、レタンチャンバー及び風道系で、消音内貼りしたチャンバーには点検口を設ける。尚、点検口の大きさは図示による。
(3) 外壁に面するガラリに直接取り付けるチャンバー及びホッパーは、雨水の滞留のないように施工する。
9. 防煙ダンパー　復帰方式（・ 遠隔　・　）
定格入力は、DC24V、0.7A以下とする。
10. ピストンダンパー　復帰方式（・ 遠隔　・　）
11. 弁類　JIS又はJV（・ 5K　・ 10K(図示部分)）
12. 温度計　取付部は図示による。
13. 圧力計　取付部は図示による。
14. 瞬間流量計　コック付とし、形式及び取付部は図示による。
15. 油面制御装置　制御盤には（・ 給油ポンプ制御　・ 満油警報　・ 遠隔警報　・ 電磁弁制御　・ 返油ポンプ制御　・ 減油警報　・　）の端子を設ける。なお、フロートスイッチ部と制御盤間の配管配線は製造者の標準仕様とする。

4 暖房設備

⑤ 換気設備

① ダクト　・ 低圧ダクト　・ 高圧1ダクト　・ 高圧2ダクト
・ アングルフランジ工法　◉スパイラルダクト
・ コーナーボルト工法（・ 共板フランジ工法　・ スライドオンフランジ工法 ）
・ 厨房・浴室系統の排気用ダクトの水抜き　・ 要　・ 不要)
・ 厨房系統の長方形排気用ダクトの板厚は、標準仕様書より1ランク厚いものを使用する。
2. 風量測定口　取付位置は図示による。
3. ダンパー　空気調和設備の該当項目による。
4. 排気ダクトのシール　・ 浴室(シャワー室、脱衣室を含む)系統　・
5. チャンバー　空気調和設備の該当項目による。
6. 耐火措置　自家発用換気ダクトが自家発室外を通過する場合の耐火措置は図示による。

6 排煙設備

1. ダクト　・ 亜鉛鉄板　・
2. 排煙口の形式　図示による
3. 排煙口手動開放装置　開放及び復帰方式　・ ワイヤー式　・ 電気式　（ 遠隔操作　・ 不要　・ 要 ）
4. 排煙風量測定　「建築設備定期検査業務基準書平成20年度版」((財)日本建築設備昇降機センター)の排煙風量の検査方法に準ずる。

⑦ 自動制御設備

① 中央監視制御装置　・ 有　◉無
2. 中央監視制御装置の構成・機能　図示による
③ 電気計装工事の配線　使用する電線類はEM電線とし、規格は標準仕様書第4編 表1.5.1・表4.1.11の使用電線類の規格による。
(機器、盤類は除く)
屋外・屋内露出の電線は図面に特記のない限り金属管配線とする。
天井内隠蔽の配線は図面に特記のない限りケーブル配線とする。

⑧ 衛生器具設備

1. 大便器洗浄弁　・ パキュームブレーカー　・ 不凍結装置付　・ 低圧フラッシュバルブ（　）
② 大便器ロータンク　・ 水抜き装置付
③ 温水洗浄式便座　加熱方式（◉貯湯式　・ 瞬間式）　給水方式（◉給水管直結給水方式　・ ポンプ加圧給水方式 ）
温風乾燥機能（・ 有 ◉無 ）　脱臭（◉有　・ 無 ）
④ 小便器洗浄弁　・ 不凍結装置付　◉感知小便器一体型フラッシュ方式
・ 個別感知フラッシュ方式　（・ 埋込　・ 露出 ）
5. 小便器洗浄管　・ 露出　・ 隠ぺい　・ 水抜き装置付
⑥ 水栓　・ 節水コマ　・ 固定コマ　（・ 寒冷地対応形　・　）
7. 化粧棚　・ 陶器製（・ 露出形　・　）
8. 石けん受　・ 陶器製（・ 露出　・ 埋込 ）
⑨ 洗面器　◉止水栓付
10. 標記板　・ 取付箇所　（・ 大便器　・ 小便器　・　）　材質　（・ 陶器製　・　）
11. 大便器耐火カバー　・ 設ける(ピット内は除く)　・ 設けない

⑨ 給水設備

① 量水器　◉親メーター　（◉貸与品　・ 既存　）　・子メーター　（・ 買取り　・　）
② 量水器桝　◉水道事業者指定品　（◉貸与品　・ 買取り ）・ 標準図MC形　・ 既存
③ 弁類　JIS又はJV　◉K道直結部分　（◉10K　・　）・ その他の部分（・ 5K　・　）
④ 引込納付金等　・ 要　（・ 本工事　・ 別途工事 ）　・ 不要
⑤ 給水勾配　◉不凍栓の二次側は水抜きが確実にできること。
⑥ 建物導入部配管　◉標準図　施工4.5（・(a)　・(b)　◉(c))による。

⑩ 排水設備

① 洗面器等の排水管　洗面器及び手洗器に直結する排水管は、器具トラップより1サイズアップとする。
② 排水勾配　屋内　◉65A以下は1/50、75A以上は1/100以上　・
屋外　・ 1/100以上　◉ 上田市下水道規定による
3. 満水試験継手　図示の箇所に取付ける。
④ インバート桝、ため桝　桝のコンクリート部は工場製品としてもよい。

⑪ 給湯設備

① 弁類　JIS又はJV（◉5K　・ 10K (図示部分) ）

⑫ 消火設備

1. 屋内消火栓箱　・ HB-1A　・ HB-1B　・
② 消火器具　◉消火器（スタンド共）(消防法施行令第10条に掲る)　・
3. 建物導入部配管　・ 標準図　施工4.5（・(a)　・(b)　・(c))による。

13 厨房設備機器

1. 機器の寸法　概略寸法とする
2. 燃焼機器　使用ガス・ 都市ガス　（ 発熱量　　KJ/Nm³、供給事業者名:　）
・ 液化石油ガス（ 発熱量 100,000 KJ/Nm³)

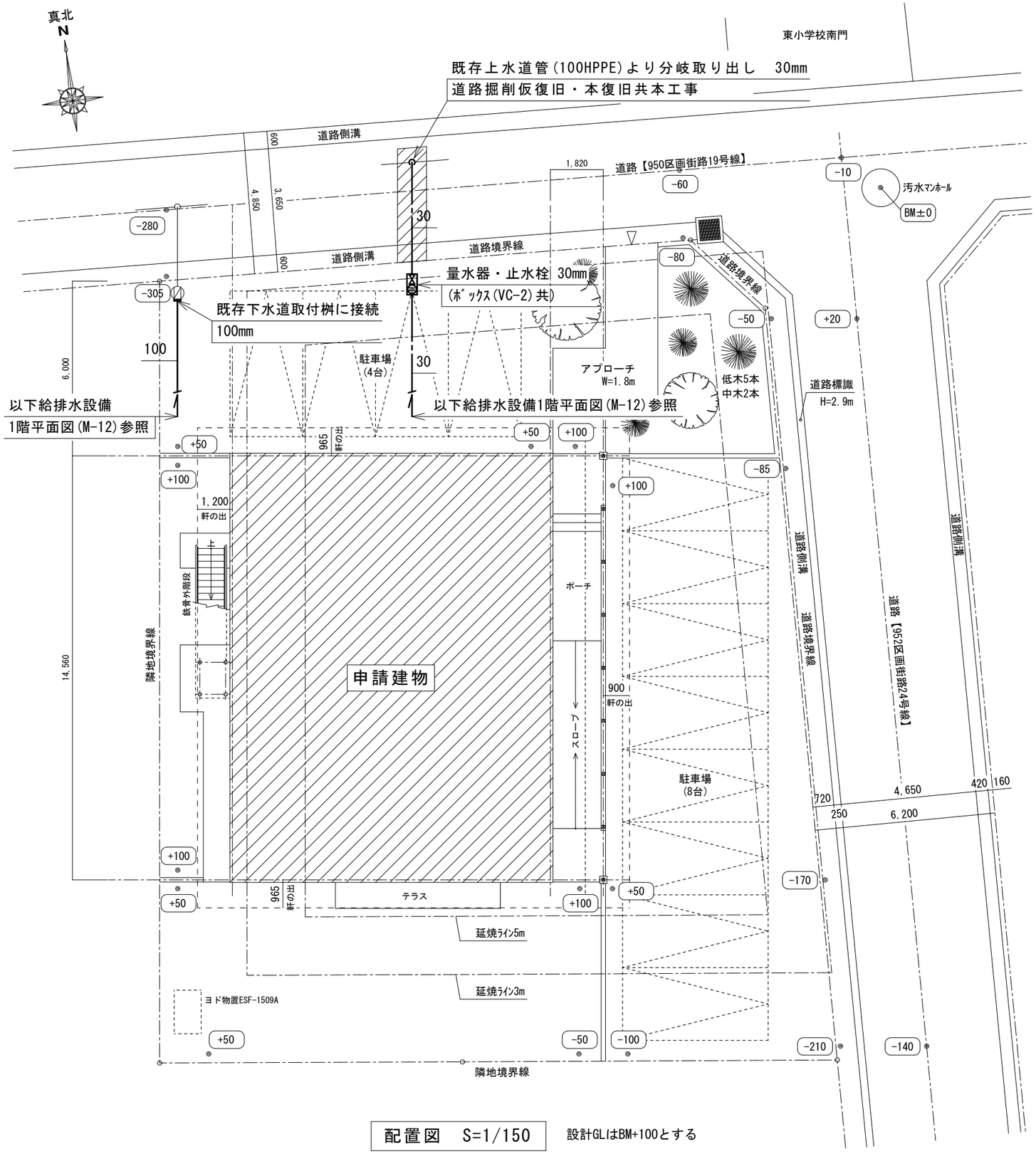
14 ガス設備

1. 充てん容器　・ 別途　（・ 50kg　・　）
2. 集合装置　・ 標準図　施工72による　本組
3. 転倒防止等　・ 標準図　施工73（・(a)　・(b))による
4. メーター　・ 親メーター　（・ 貸与品　・ 既存　）・ 子メーター（・ 買取り　・　）
5. ガス漏れ警報器　・ 本工事(図示による)　・ 別途工事
6. 引込負担金　・ 要（・ 別途工事　・ 本工事 ）　・ 不要
7. 電気防食　・ 要　・ 不要
8. 建物導入部配管　・ 標準図　施工4.5（・(a)　・(b)　・(c))による。

⑮ その他

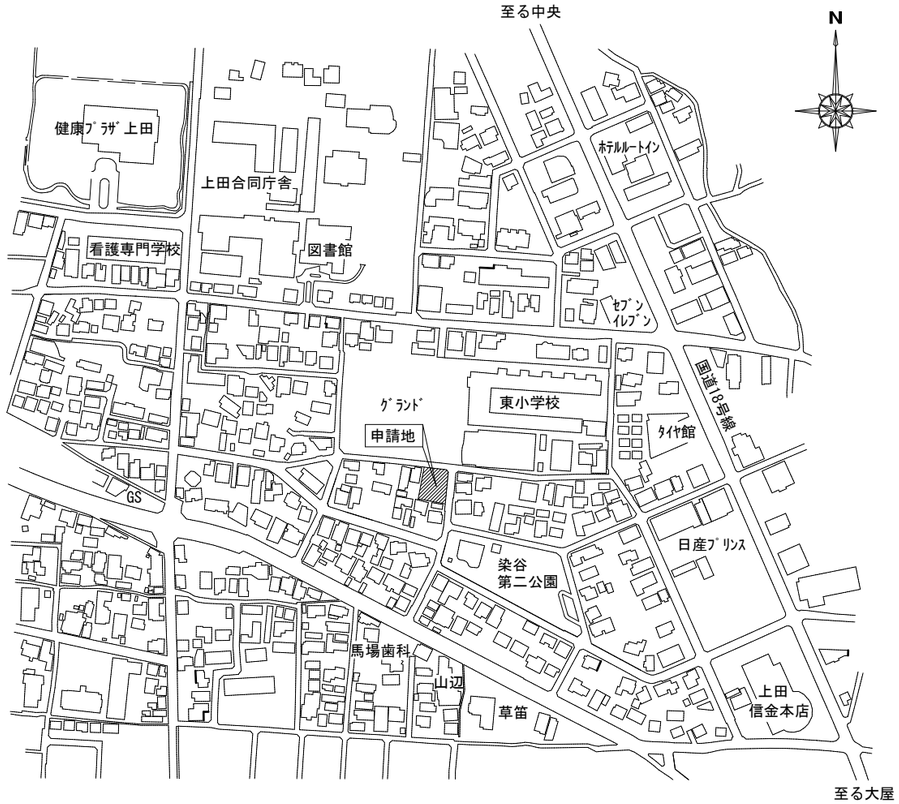
① 工事現場の環境改善について　工事現場のイメージアップ　・ 仮囲い周辺の美化　・
地域住民への情報提供　・ 完成予想図の設置　・ 情報掲示板の設置　・ パンフレットの作成
地域住民とのコミュニケーション　・ 現場見学会の開催　・
住民に対する災害防止関係　・ 現場出入口周辺への誘導員の配置　・
② 不具合の確認　工事しゅん工後10ヶ月、20ヶ月（新営に限る）に不具合の確認を行い、その結果を書面で上田市長あてに報告する。(施設管理者からの聞き取り調査を含め、調査には必ず監督員の立会いを要する。)
③ 産業廃棄物等の取扱い
(1) 廃棄物の処理に当たっては、請負者が自ら処理(分別、保管、収集、運搬及び処分の一連の行為)するときは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」(以下「廃棄物処理法」という)に基づき、適正に行うこと。
(2) 廃棄物の処理の全部又は一部を委託する場合は、廃棄物処理法に基づく処理を業として許可を取得している者に委託すること。また、施工前に産業廃棄物処理委託契約書の写し、産業廃棄物処理業の許可証の写し、許可運搬車両一覧並びに処分地の案内図等をまとめた「廃棄物処理計画書」を監督員に提出すること。
(3) しゅん工した時は、廃棄物ごとに処理数量を集計し、積込み状況の写真、処分状況の写真等の写しを添付した「廃棄物等処理報告書」を監督員に提出すること。
④ 環境対策関係　(1) 現場で使用する機械は、低騒音型、低振動型、排出ガス対策型建設機械とすること。
(2) 夜間、早朝等の稼動を避けること。ただし、監督員の承諾を受けた場合はこの限りでない。
なお、運搬ルートの選定に当たっては影響の少ない最短ルートを選定すること。
(3) 汚水、汚濁、土砂の流失防止に努めること。また、表土復元等、環境の回復に努めること。
(4) 熱帯材合板型枠は、極力使用しないこと。
⑤ 安全対策関係　(1) 工事現場においては、労働災害、公衆災害防止に努めるとともに、全作業員を対象に定期的に安全教育、研修及び訓練を行うこと。
(2) 安全教育、研修及び訓練については、工事期間中に月一回程度実施し、工事日誌へ記録するほか、実施結果、実施状況の写真、安全教育に使用した資料等も整理すること。
(3) 原則として代理人（主任）以外の第三者により、月1回以上店社による安全パトロールを行い、工事日誌へ記載するほか、点検内容等を別書面に記録し、実施状況の写真を撮影すること。
(4) 下請業者にKY（危険予知）、TBM（作業内容の打合せ）活動等を実施させ、その記録を整備するとともに、随時、実施状況の写真を撮影すること。
(5) 下請業者を含め、作業員に対し現場内容に即した新規入場者教育、安全教育・訓練等を実施し、関連書類及び使用した資料等を整理するとともに、随時、実施状況の写真を撮影すること。
(6) 上記の(2)～(5)の活動については、記録・書類及び写真を整備したものを現場に備え、監督員及び工事検査の際に提示できるようにすること。
⑥ 工事検査　施工途中において工事検査担当職員または、発注機関の長の指定する職員による抜打ち検査を実施することがあるので、検査に協力すること。
⑦ 被害届等　暴力団関係者から工事妨害による被害を受けた場合は、被害届を速やかに警察に提出すること。
⑧ 施工図等の取扱い　施工図等の著作権に関わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲する。
⑨ 完成図等　完成図など維持管理に関する書類は、しゅん工後30日以内に提出し、必要に応じて取扱説明書を行うこと。
⑩ 提出物　上記による他、監督員の指示による。

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	機械設備工事 特記仕様書	SCALE A3 NO SCALE / No. 25-007 M-01



配置図 S=1/150

設計GLはBM+100とする



住所：上田市材木町131－1番地

案内図 S=1/5000

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	案内図・配置図	SCALE A3 1/150	No. 25-007 M-02

冷　暖　房　機　器　一　覧　表

記　号	名　　称	設置場所	仕　　様	電　源	消費電力	数　量
MAC-1	冷暖マルチエアコン屋外機	屋外	屋外据置型(450型)　参考型番　RAS-AP450DNR2	3φ 200V	冷房　12.8KW	1
	（寒冷地仕様）		冷房能力　45.0KW　暖房能力　53.0KW　低温暖房時　50.4KW		暖房　13.2KW	
			圧縮機出力　(1.40KW+3.00KW)×2　送風機出力　0.49KW×2		最大　18.1KW	
			屋外機用防振架台,　防雪ﾌｰﾄﾞ(排気側のみ),　ｱｸﾃｨﾌﾞﾌｨﾙﾀｰ			
			他附属部品一式,　ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎（建築工事）			
MAC-1-1	冷暖マルチエアコン屋内機	1F　生活ｽﾍﾟｰｽ1	天井ｶｾｯﾄ四方向吹出型(80型)　参考型番　RCI-GP80KA	1φ 200V	冷房　0.09KW	2
			冷房能力　8.0KW　暖房能力　9.0KW　送風機出力　0.057KW		暖房　0.08KW	
			化粧ﾊﾟﾈﾙ,　専用ﾘﾓｺﾝ,　防振吊り金物,　他附属部品一式			
MAC-1-2	冷暖マルチエアコン屋内機	1F　静養室	壁掛露出型(22型)　参考型番　RPK-GP22KA	1φ 200V	冷房　0.03KW	1
			冷房能力　2.2KW　暖房能力　2.5KW　送風機出力　0.04KW		暖房　0.03KW	
			専用ﾘﾓｺﾝ,　他附属部品一式			
MAC-1-3	冷暖マルチエアコン屋内機	2F　生活ｽﾍﾟｰｽ2	天井ｶｾｯﾄ四方向吹出型(80型)　参考型番　RCI-GP80KA	1φ 200V	冷房　0.09KW	2
			冷房能力　8.0KW　暖房能力　9.0KW　送風機出力　0.057KW		暖房　0.08KW	
			化粧ﾊﾟﾈﾙ,　専用ﾘﾓｺﾝ,　防振吊り金物,　他附属部品一式			
MAC-1-4	冷暖マルチエアコン屋内機	2F　生活ｽﾍﾟｰｽ3	天井ｶｾｯﾄ四方向吹出型(80型)　参考型番　RCI-GP80KA	1φ 200V	冷房　0.09KW	2
			冷房能力　8.0KW　暖房能力　9.0KW　送風機出力　0.057KW		暖房　0.08KW	
			化粧ﾊﾟﾈﾙ,　専用ﾘﾓｺﾝ,　防振吊り金物,　他附属部品一式			
EPH-1	電気パネルヒーター	1F 男子ﾄｲﾚ	壁掛露出型　放熱量　0.75KW	1φ 200V	0.75KW	2
		1F 女子ﾄｲﾚ	ｻｰﾓｽﾀｯﾄ,　いたずら防止ｶﾊﾞｰ,　吹出口ｶﾞｰﾄﾞ,　取付金物,　他附属部品一式			
EPH-2	電気パネルヒーター	1F 多機能ﾄｲﾚ	壁掛露出型　放熱量　0.25KW	1φ 200V	0.25KW	1
			ｻｰﾓｽﾀｯﾄ,　いたずら防止ｶﾊﾞｰ,　吹出口ｶﾞｰﾄﾞ,　取付金物,　他附属部品一式			

※　ﾏﾙﾁｴｱｺﾝの冷房・暖房能力，電気特性は、JIS B 8616：2015及びJRA4002：2016の条件時の能力を示す。

換　気　機　器　一　覧　表

記　号	名　　称	設置場所	参考型番	風量 (m3/H)	静圧 (Pa)	仕　　様	電　源	消費電力	数量	24H換気
HEA-1	全熱交換型換気扇	1F　生活ｽﾍﾟｰｽ1	LGH-N35CX3	300	100	ｺﾝﾄﾛｰﾙｽｲｯﾁ(参考型番　PZ-N43SMF2)	1φ 100V	185W	3	○
	(天井ｶｾｯﾄ型)	2F　生活ｽﾍﾟｰｽ2		(70)	(40)	防振吊金具　化粧ﾊﾟﾈﾙ　他付属品一式		(86W)		
		2F　生活ｽﾍﾟｰｽ3								
HEA-2	全熱交換型換気扇	1F　静養室	VL-100ZSD3	60	50	ｺﾝﾄﾛｰﾙｽｲｯﾁ(参考型番　P-04SWL2)	1φ 100V	44W	1	○
	(天井ｶｾｯﾄ型)			(20)	(20)	防振吊金具　化粧ﾊﾟﾈﾙ　他付属品一式		(22W)		
FV-1	天井埋込型換気扇	1F　男子ﾄｲﾚ	VD-18ZVC47	280	60	防振吊り金物	1φ 100V	7W	2	
		1F　女子ﾄｲﾚ								
FV-2	天井埋込型換気扇	1F　多機能ﾄｲﾚ	VD-15ZVC7	120	100	防振吊り金物	1φ 100V	5W	1	
FV-3	天井埋込型換気扇	1F　倉庫1	VD-13ZVC7	100	60	防振吊り金物	1φ 100V	3.3W	2	
		2F　倉庫3								
FV-4	天井埋込型換気扇	1F　倉庫2	VD-10ZVC7	60	40	防振吊り金物	1φ 100V	2.5W	1	

※　換気扇機器の(　)付の風量は、24時間換気時の風量を，(　)付の消費電力は24時間換気時の消費電力を示す。

※　換気扇ｺﾝﾄﾛｰﾙｽｲｯﾁは電気工事に支給とし、配線は電気工事とする。

換気機器　JIS規格一覧表				
名称	JIS規格			
天井埋込型換気扇	JIS C 9603			
全熱交換器	JIS B 8628			

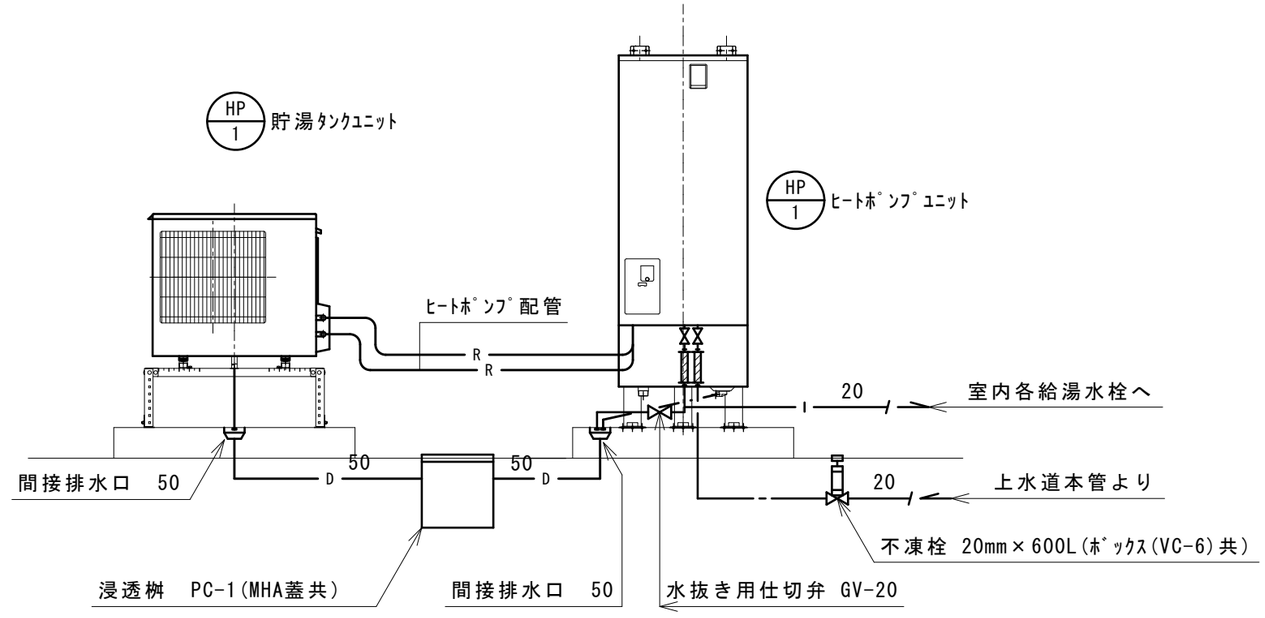
シックハウス　対策機械換気計算

室NO	階	室　　名	床面積 m2	平均天井高 m	気積 m3	判定換気回数 回/h 0.30	判定換気量 m3/h	換気種別	給気機	給気機による給気量(A) m3/h	排気機	排気機による排気量(B) m3/h	換気回数 回/h	判定	備考
1	1	生活ｽﾍﾟｰｽ1	69.56	2.45	170.42	0.30	51.12	第1種換気設備	全熱交換型換気扇 HEA-1	70	全熱交換型換気扇 HEA-1	70.00	0.41	51.12 ≦ 70.00　∴ＯＫ	
2	1	静養室	7.45	2.40	17.88	0.30	5.36	第1種換気設備	全熱交換型換気扇 HEA-2	20	全熱交換型換気扇 HEA-2	20.00	1.12	5.36 ≦ 20.00　∴ＯＫ	
3	2	生活ｽﾍﾟｰｽ2	67.90	2.50	169.75	0.30	50.92	第1種換気設備	全熱交換型換気扇 HEA-1	70	全熱交換型換気扇 HEA-1	70.00	0.41	50.92 ≦ 70.00　∴ＯＫ	
4	2	生活ｽﾍﾟｰｽ3	61.28	2.50	153.20	0.30	45.96	第1種換気設備	全熱交換型換気扇 HEA-1	70	全熱交換型換気扇 HEA-1	70.00	0.46	45.96 ≦ 70.00　∴ＯＫ	

主　要　機　器　表　表

記　号	名　　称	設置場所	仕　　様	電　源	消費電力	数　量
HP-1	ヒートポンプ給湯器	屋外	給湯専用ﾀｲﾌﾟ(寒冷地仕様)　ﾀﾝｸ容量　370Lﾀｲﾌﾟ　参考型番　SRT-NK377D			1ｾｯﾄ
	(ｴｺｷｭｰﾄ)		最大電流　19A　沸上げ温度　約65～90℃			
	(寒冷地仕様)		ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟﾕﾆｯﾄ …封入冷媒　CO2(R744)　中間期標準加熱能力：4.1KW　冬季高温加熱能力：4.1KW	1φ　200V	0.91KW(中間期標準消費電力)	(1)
			寒冷地冬季高温加熱能力：4.1KW		1.37KW(冬季高温消費電力)	
			寒冷地年間給湯保温効率（ JIS C9220：2011S) 2.9			
			貯湯ﾀﾝｸﾕﾆｯﾄ　…貯湯量　370L　寸法　1,820H×630×760　通常使用圧力　180Kpa(減圧弁圧力)　水側最高使用圧力(逃し弁圧力)　193Kpa		0.036KW(凍結予防ﾋｰﾀｰ消費電力)	(1)
			専用ﾘﾓｺﾝ,　ﾘﾓｺﾝｹｰﾌﾞﾙ(20m)		0.004KW(その他(制御用))	
			貯湯ﾀﾝｸﾕﾆｯﾄ脚部ｶﾊﾞｰ,　熱源機配管(ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ架橋PE配管ｾｯﾄ他必要部品一式)			
			止水栓,　防雪ｶﾊﾞｰｾｯﾄ,　転倒防止金具,　他附属部品一式,　ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎(建築工事)			
			熱源機よりのﾄﾞﾚｰﾝ管は、地中埋設迄凍結防止ﾋｰﾀｰ巻のこと			
			(JIS C 9220:9018に基づく表示)			

※　ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ給湯器据付については、国土交通省告示第1447号に基づき固定を行うこと。



ヒートポンプ給湯器参考系統図

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	給湯機器表・参考系統図	SCALE A3　NO SCALE	No. 25-007 M-05

衛 生 器 具 表

器具名	参考型番 TOTO	参考型番 LIXIL	附属品・仕様	合計	屋外	1階 生活スペース1	1階 手洗いコーナー	1階 倉庫2	1階 女子トイレ	1階 男子トイレ	1階 多機能トイレ	1階	2階 生活スペース2	2階 生活スペース3	2階
洋風便器	CS597BS	BC-P20SU	ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ用ｺﾝﾊﾟｸﾄ便器　防露式ﾛｰﾀﾝｸ(蓋固定)　温水洗浄便座(TCF5534AU,CW-PA21LQF-NE-R1)(擬音装置付)　ｴｺﾘﾓｺﾝ	5					3	2					
			他附属部品一式												
洋風便器	CS597BS	BC-P20SU	ﾊﾟﾌﾞﾘｯｸ用ｺﾝﾊﾟｸﾄ便器　防露式ﾛｰﾀﾝｸ(蓋固定)	1							1				
			温水洗浄便座(ｵｰﾄ洗浄機能付)(便蓋無し)(TCF5534AUP,CW-PA21LQF-NEC-R1(303-1009))(擬音装置付)ｴｺﾘﾓｺﾝ　他附属部品一式												
紙巻器	YH701	CF-63HST	SUS製棚付2連紙巻器,　高耐荷重ﾀｲﾌﾟ	6					3	2	1				
小便器	UFS900R	U-A51AP	感知ｾﾝｻｰ一体型壁掛小便器(AC100V電源)(低ﾘｯﾌﾟﾀｲﾌﾟ)	2						2					
洗面器	L270D	L-275AN	自動単水栓(TLE28SS1A, AM-300CV1)AC100V　止水栓　排水金物(P型)　他附属部品一式	1							1				
はめ込み型洗面器	L530	L-2260	自動単水栓(TLE28SS1A, AM-300CV1)AC100V　止水栓　排水金物(S型)　他附属部品一式	4					2	2					
同上カウンター	建築工事		L=1700	(2)					(1)	(1)					
はめ込み型洗面器	L530	L-2260	湯水混合栓(TLG11301J, LF-YE340SY)　止水栓×2　排水金物(S型)　他附属部品一式	4			4								
同上カウンター	建築工事		L=2565	(1)			(1)								
掃除流し	SK22A	S-202A	横水栓(ﾚﾊﾞｰ式)(T23AEQF20C, LF-7EZ-19-U)　止水栓　排水金物(S型)　ﾘﾑｶﾊﾞｰ　他附属部品一式	1					1						
オストメイトパック	UAS81RNB2NW	PTOM-B210	ﾛｰﾀﾝｸ　ｻｰﾓｽﾀｯﾄ仕様　水石けん入れ　紙巻器　側板　他附属部品一式	1							1				
化粧鏡	YM6090F	KF-6090A	耐食鏡　600×900	1							1				
化粧鏡	YM4560F	KF-4560A	耐食鏡　450×600	4					2	2					
背もたれ	EWC383CR	KFC-271T1U2	ｿﾌﾄﾀｲﾌﾟ	1							1				
L型手すり	T112CL10	KF-920AE70D12J	樹脂被覆ﾀｲﾌﾟ　L=700　前出寸法120mm	1							1				
跳ね上げ手すり	T112HK7R	KF-471EH70JU	樹脂被覆ﾀｲﾌﾟ　L=700	1							1				
収納式着替え台	YKA41R	AC-CB-14		1							1				
洗濯機用防水パン	PWP640N2W	PF-6464AC	参考寸法　640×640　(ﾄﾗｯﾌﾟ付)	1				1							
洗濯機用水栓	TW11RF	LF-WJ50KQA-U	緊急止水付	1				1							
流し台セット	建築工事		各配管接続 … 本工事	(3)		(1)							(1)	(1)	
湯水混合栓	TKS05311J	SF-WM435SYN	壁付ｼﾝｸﾞﾙﾚﾊﾞｰ混合栓	3		1							1	1	

※ (　　)付の数量は、建築工事にて設置の器具を示す。

凡　例

記　号	名　称	備　考		
——‐‐——	給　水　管	屋外地中埋設部(上水道直結部 不凍栓まで)	水道用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管	一種
		地中埋設部(不凍栓以降)	水道用内外面塩ﾋﾞﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	JWWA K 116 SGP-VD
		上記の他	水道用内面塩ﾋﾞﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	JWWA K 116 SGP-VB
——I——	給　湯　管		耐熱性塩ﾋﾞﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管	JWWA K 140 HVA
————	排　水　管	屋内一般	耐火二層管	JIS K 6741 VP
		屋内地中埋設部	硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	JIS K 6741 VP
		屋外地中埋設部	硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	JIS K 6741 VU
--------	通　気　管		硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	JIS K 6741 VP
——G——	ガ　ス　管		ｶﾞｽ供給業者規定	
——R——	冷　媒　管		冷媒用被覆断熱銅管(保温厚　ｶﾞｽ側　20mm, 液側　10mm)	
		(防火区画・防火上主要な間仕切り貫通部分は、国土交通省大臣認定		
		(財)日本消防設備安全ｾﾝﾀｰ評定による防火区画貫通処理材を使用のこと。)		
——D——	ド　レ　ン　管	屋内一般	耐火二層管	内管 JIS K 6741 VP
			硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管	JIS K 6741 VP
	仕　切　弁	上水道直結部　JIS 10K	間接部　JIS 5K	
	埋　設　弁	ﾎﾞｯｸｽ取付共		
	フレキシブル継手	SUS製		
	給　水　栓			
	湯 水 混 合 栓			
	排　水　金　物	A型 : 非防水型	B型 : 防水型	
	床 上 掃 除 口	A型 : 非防水型	B型 : 防水型	
Ⓣ	ト ラ ッ プ 桝	塩ﾋﾞ小口径ｲﾝﾊﾞｰﾄ桝　上田市下水道局　規定による		
	屋 外 掃 除 口	塩ﾋﾞ小口径ｲﾝﾊﾞｰﾄ桝　上田市下水道局　規定による		
	粉 末 式 消 火 器	3kg　ｹﾞｰｼﾞ付　蓄圧式　能力単位　A-3、B-7、C		
□	地 中 埋 設 標			
—φ—	スパイラルダクト	亜鉛鉄板製		
—⌀φ—	ダ　ン　パ　ー	FD … 防火ﾀﾞﾝﾊﾟｰ		

※　浴室及び厨房の天井裏等の湿度が高くなると予想される部分の吊り金物及び支持金物は、SUS製とする。(機器・器具の吊り金物も同様とする。)

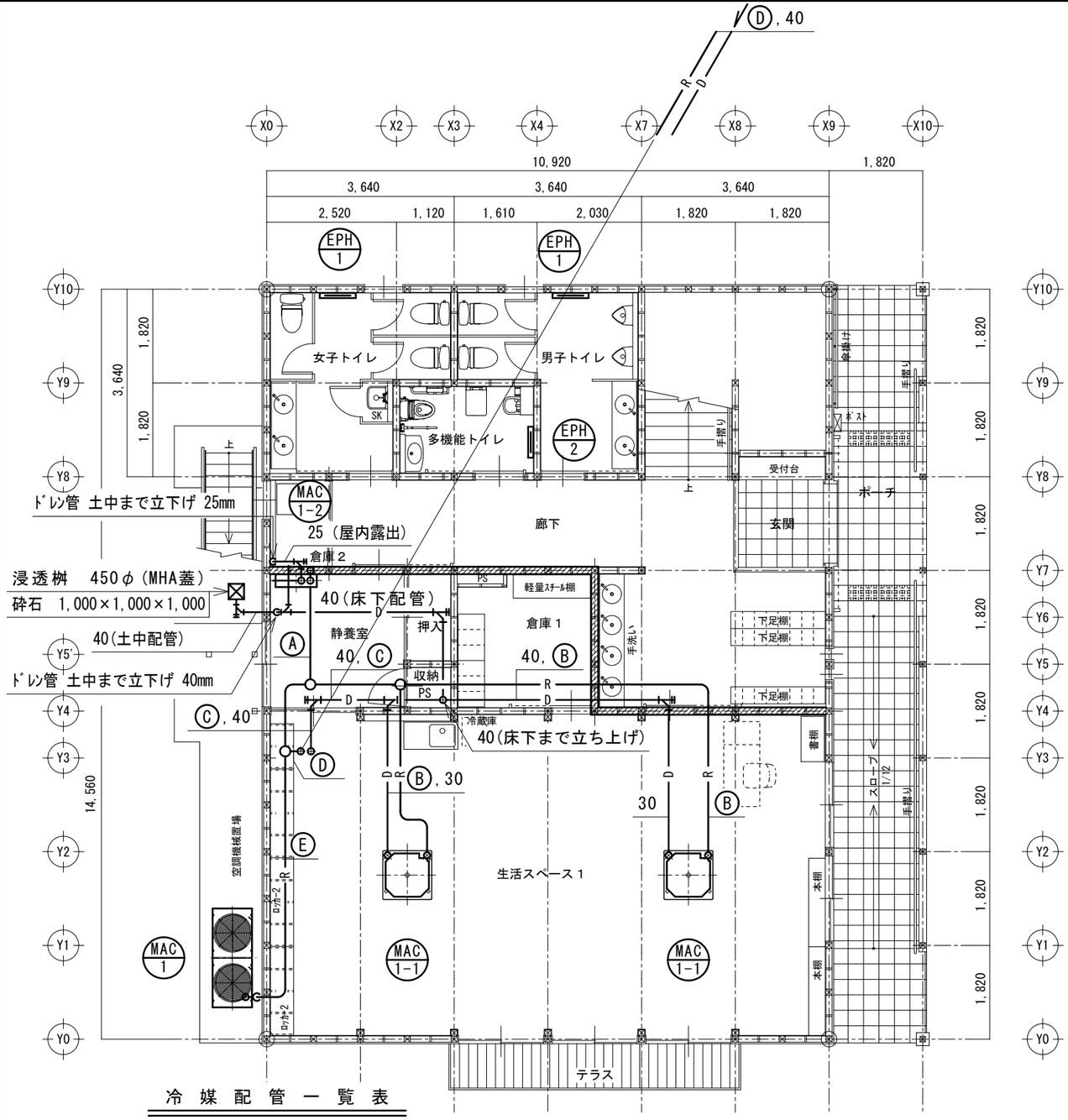
※　防火区画貫通箇所は、建築基準法施工令129条の2の4に適合した材質の配管を使用すること。

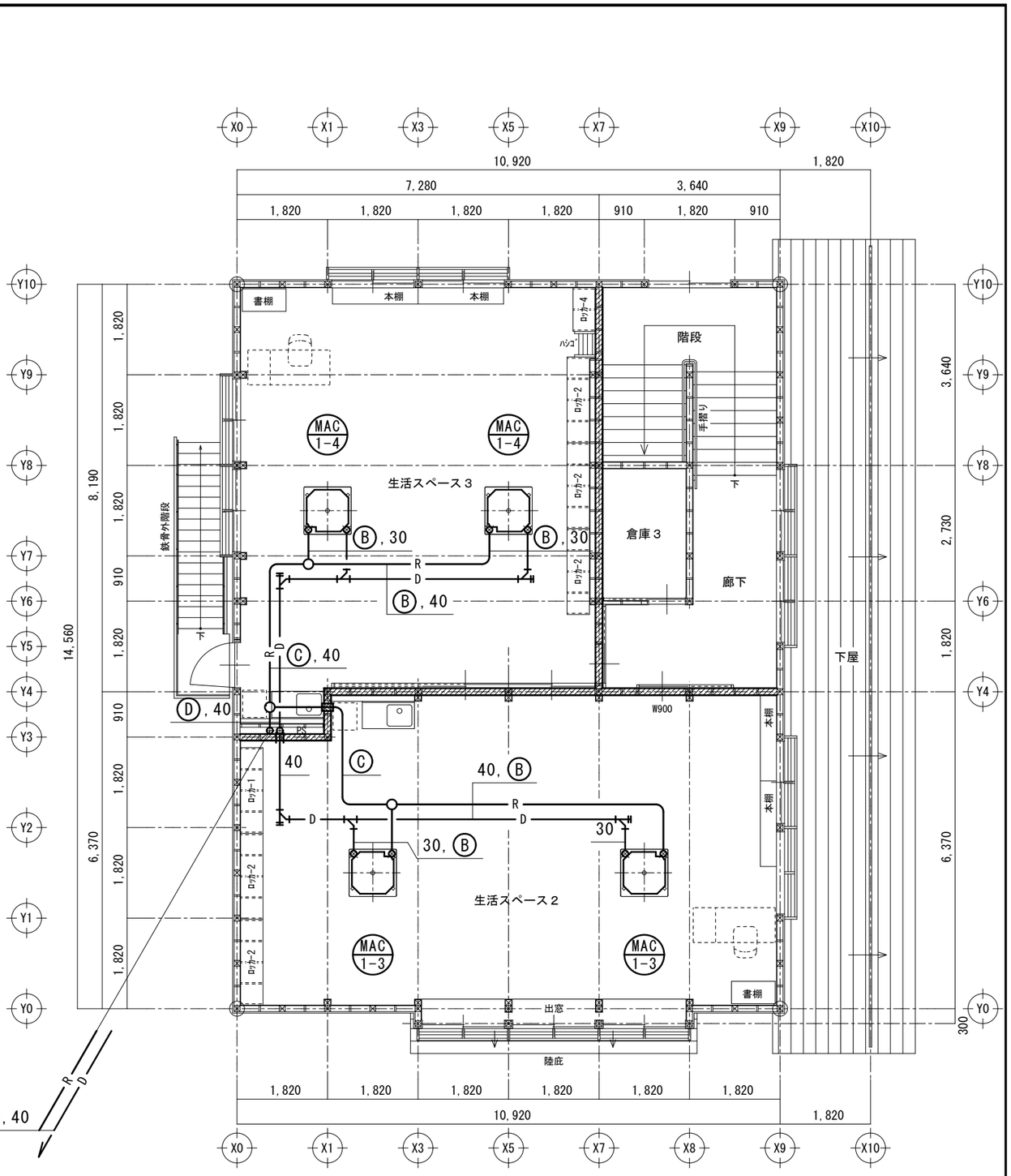
桝リスト

桝 NO 系統	NO	桝名称	型式	地盤高 (m)	桝深さ (m)	管底高 (m)	蓋	数量
A	1	小口径塩ビ桝	90L-100-150	10.05	0.60	9.45	T-14蓋	1
A	2	小口径塩ビ桝	45Y-100-150	10.05	0.61	9.44	T-14蓋	1
A	3	小口径塩ビ桝	45YS-100-150	10.05	0.68	9.37	T-14蓋	1
A	4	小口径塩ビ桝	45Y-100-150	10.05	0.69	9.36	T-14蓋	1
A	5	小口径塩ビ桝	45YS-100-150	10.05	0.76	9.29	T-14蓋	1
A	6	小口径塩ビ桝	45Y-100-150	10.05	0.78	9.27	T-14蓋	1
A	7	小口径塩ビ桝	45Y-100-150	10.05	0.83	9.22	T-14蓋	1
A	8	既存下水道取付桝		9.695	0.90	8.79		1
B	1	小口径塩ビ桝	90L-100-150	10.10	0.60	9.50	T-8蓋	1
TA	1	ﾄﾗｯﾌﾟ桝	SUT-100-200	10.05	0.60	9.45	T-14蓋	1
TA	2	ﾄﾗｯﾌﾟ桝	SUT-100-200	10.05	0.68	9.37	T-14蓋	1
TA	3	ﾄﾗｯﾌﾟ桝	SUT-100-200	10.05	0.77	9.28	T-14蓋	1
TB	1	ﾄﾗｯﾌﾟ桝	SUT-100-200	10.05	0.59	9.46	T-8蓋	1

※ 地盤高及び管底高は、BMを±0として算出。(±0を10.00とし記載。)

※ 塩ﾋﾞ小口径桝の仕様及び管口径・高さは参考とし、上田市水道規定に基づき施工のこと。





冷媒配管一覧表

記号	配管ｻｲｽﾞ 液側	配管ｻｲｽﾞ ｶﾞｽ側
Ⓐ	6.35φ	12.7φ
Ⓑ	9.52φ	15.88φ
Ⓒ	9.52φ	19.05φ
Ⓓ	9.52φ	22.2φ
Ⓔ	12.7φ	28.5φ

1階平面図

※ … 冷媒管防火区画貫通部分を示す

※ … ﾄﾞﾚﾝ管防火区画貫通部分を示す

※ 屋外露出となる冷媒管は、SUSﾗｯｷﾝｸﾞ仕上げとする

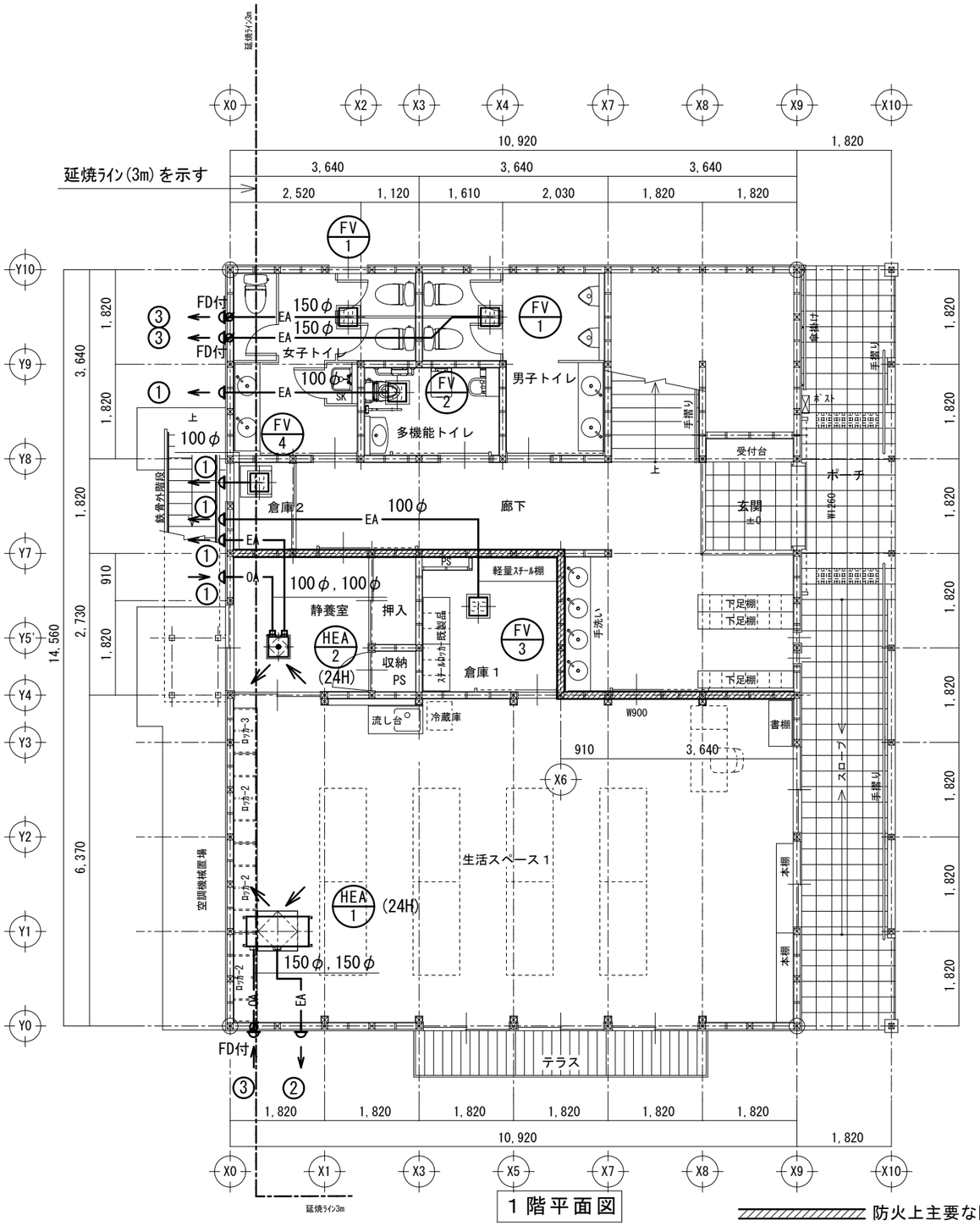
※ 屋内露出部分の配管は、樹脂ｶﾊﾞｰﾀﾞｸﾄ仕上とする

※ 屋外機用ｺﾝｸﾘｰﾄ基礎は、建築工事

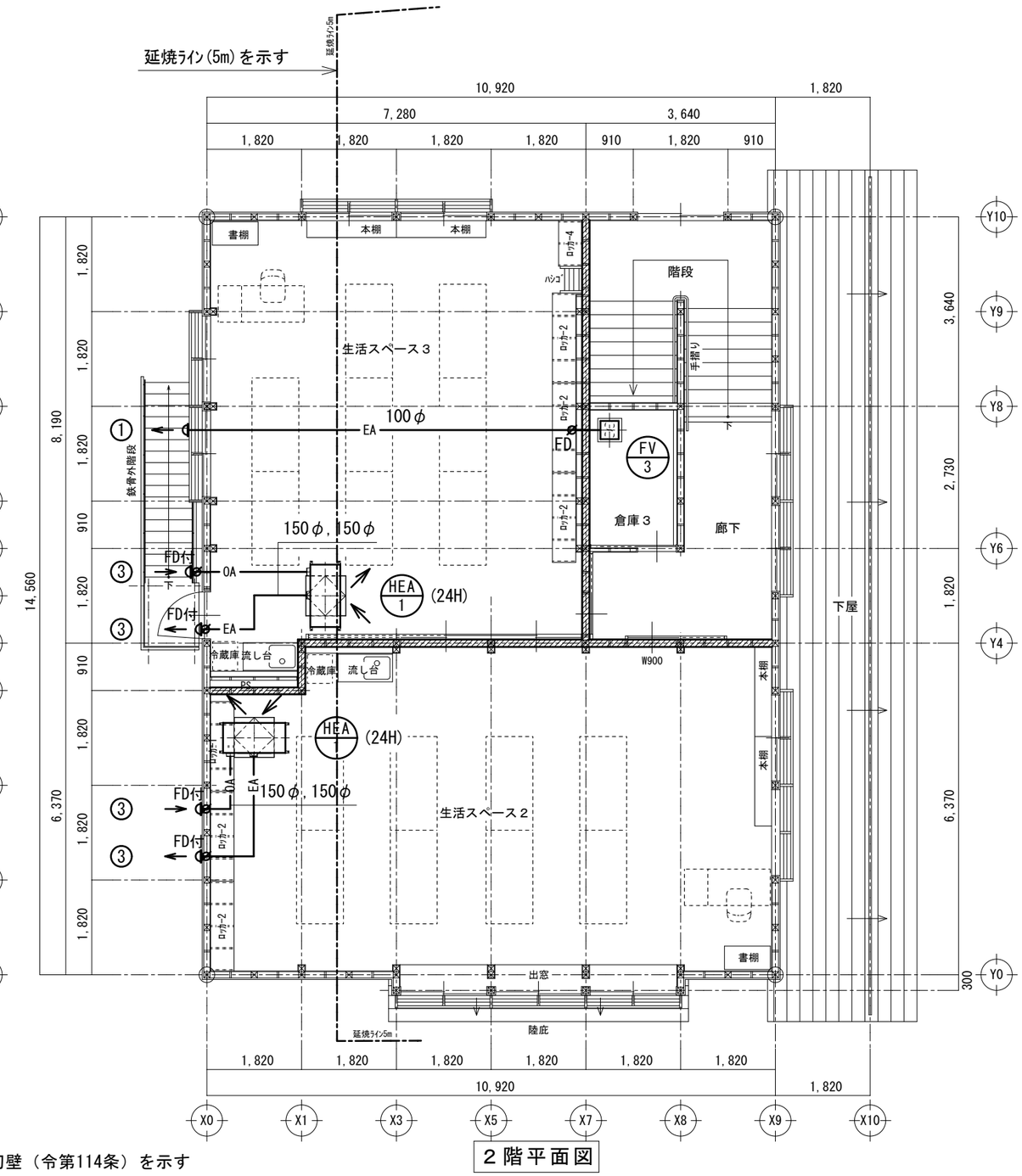
2階平面図

防火上主要な間仕切壁（令第114条）を示す

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	冷暖房設備 1階平面図・2階平面図	SCALE A3 1/100	No. 25-007 M-08



1階平面図



2階平面図

防火上主要な間仕切壁（令第114条）を示す

ﾌｰﾄﾞ数量表

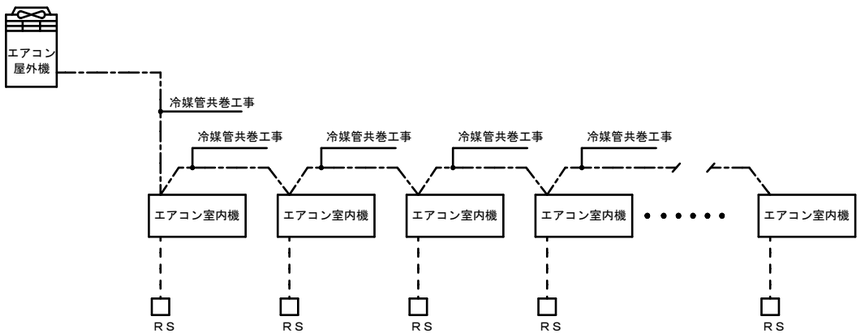
記号	仕様	合計	1F	2F
①	100φSUS製深型ﾌｰﾄﾞ(防虫網付)	6	5	1
②	150φSUS製深型ﾌｰﾄﾞ(防虫網付)	1	1	—
③	150φSUS製深型ﾌｰﾄﾞ(FD・防虫網付)	7	3	4

換気保温仕様

ﾀﾞｸﾄ名	防露･断熱施工範囲	保温種別	保温厚
一般排気ﾀﾞｸﾄ(ｽﾊﾟｲﾗﾙﾀﾞｸﾄ)	外壁より2m部分	N･(ロ)･XI	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 25mm
全熱交換型換気扇給気ﾀﾞｸﾄ	全面	N･(ロ)･XI	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 25mm
全熱交換型換気扇排気ﾀﾞｸﾄ	全面	N･(ロ)･XI	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 25mm

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	換気設備 1階平面図・2階平面図	SCALE A3 1/100	No. 25-007 M-09

ＥＨＰ廻り配線工事



記　号	室内機	室外機
ＭＡＣ－１		1
ＭＡＣ－１－１	2	
ＭＡＣ－１－２	1	
ＭＡＣ－１－３	2	
ＭＡＣ－１－４	2	
合計	7	1

＜制御項目＞

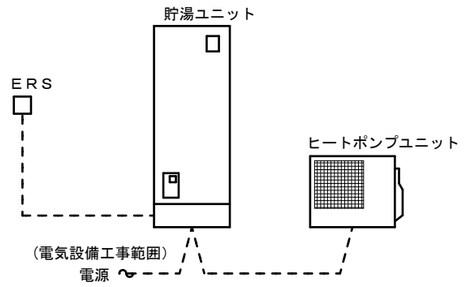
１．エアコン運転操作
　リモコンスイッチ（ＲＳ）により、運転操作・温度設定等を行う。

＜特記事項＞

室外機～室内機渡り配線、室内機～室内機渡り配線は、冷媒管共巻配線とする。
エアコン室内機および室外機への電源供給は、電気設備工事施工範囲とする。

ヒートポンプ給湯器廻り配線工事

・HP-1　1ｾｯﾄ



＜制御項目＞

１．ヒートポンプ給湯器運転操作
　ヒートポンプ給湯器リモコン（ＥＲＳ）により、運転操作・設定等を行なう。

＜特記事項＞

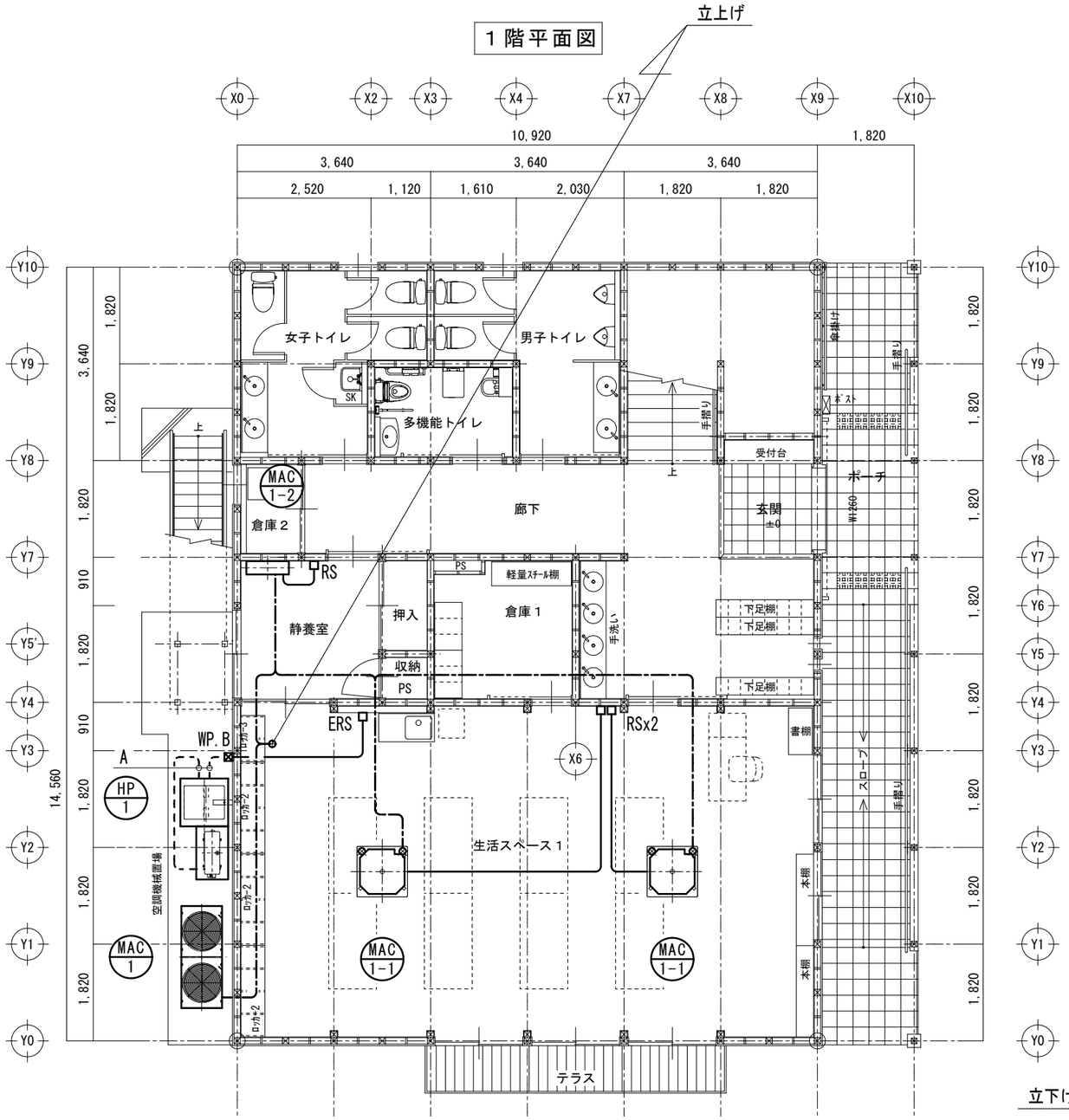
貯湯ユニットへの電源供給は、電気設備工事施工範囲とする。
貯湯ユニット～ヒートポンプユニット渡り配線工事は、自動制御設備施工範囲とする。

自動制御機器表

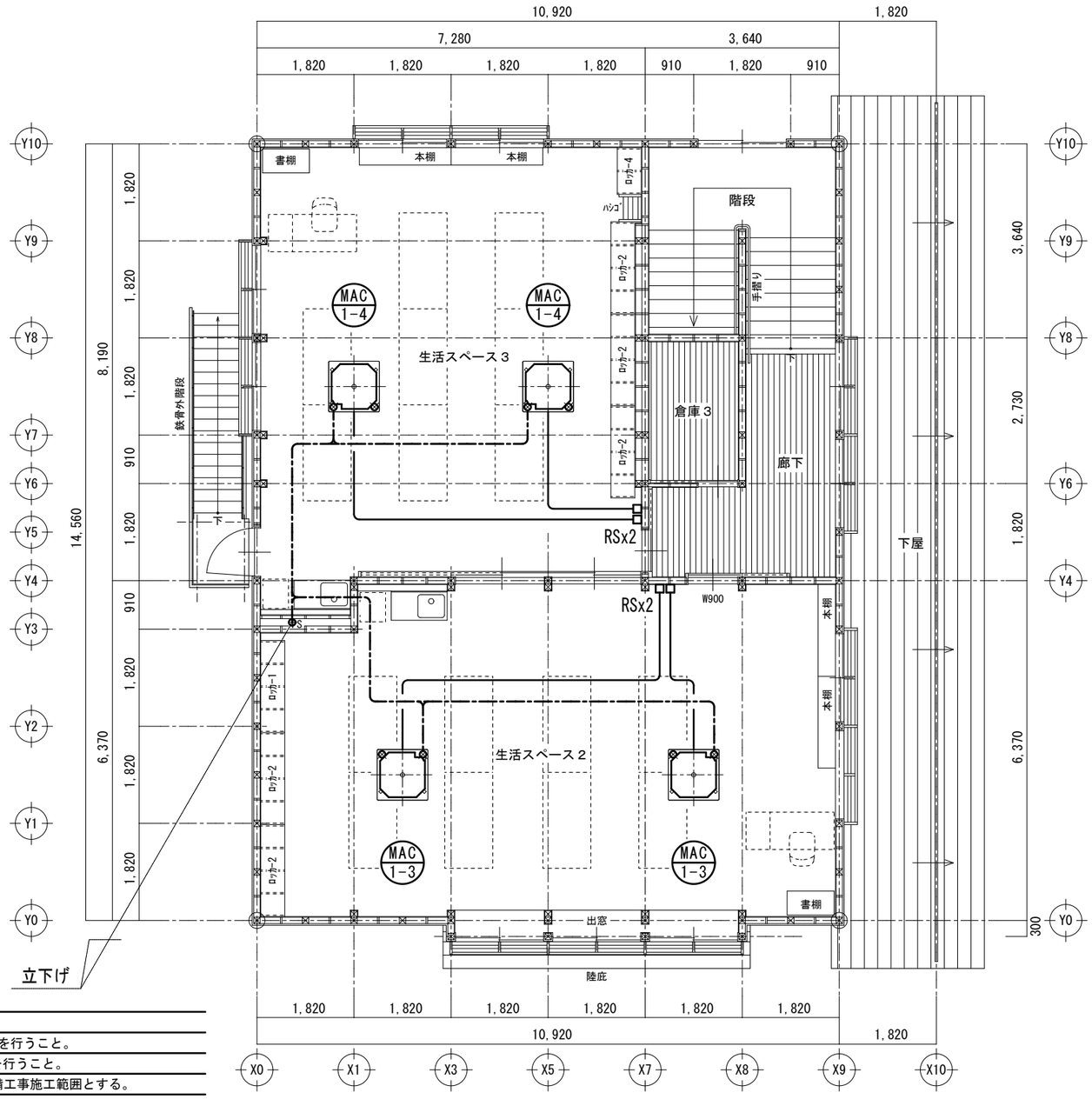
自動制御機器表

記　号	名　　称	参　考　形　番	備　　考
ＲＳ	エアコンリモコン		メーカー付属品
ＥＲＳ	ヒートポンプ給湯器リモコン		メーカー付属品

1階平面図



2階平面図



―凡例―

□	RS	EM	－	ECTF	0.75□	X	2C	(立ち上げPF16)	ｴｱｺﾝﾘﾓｺﾝ
□	ERS	EM	－	ECTF	0.75□	X	2C	(立ち上げPF16)	ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ給湯器ﾘﾓｺﾝ
⊠	WP.B	防水型 P.BOX 150□ X 100 (SUS)							

-A-								
EM	－	ECTF	0.75□	X	2C		(GZ16)	ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ給湯器ﾘﾓｺﾝ
EM	－	EEF	2.0mm	X	3C	＋E2□	(GZ22)	ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ～給湯ﾕﾆｯﾄ渡り配線
-立上げ-								
EM	－	CEE	1.25□	X	2C	X2本	(共巻き)	ｴｱｺﾝ室内～室外機渡り配線 X2本
-立下げ-								
EM	－	CEE	1.25□	X	2C	X2本	(共巻き)	ｴｱｺﾝ室内～室外機渡り配線 X2本

《特記仕様》

- 天井内はｹｰﾌﾞﾙ配線工事とし、壁内配線箇所はPF管にて保護を行うこと。
- 防火壁又は、防火上主要な間仕切りは、防火区画貫通処理を行うこと。
- ｴｱｺﾝ室内機および室外機の一次側電源供給工事は、電気設備工事施工範囲とする。
- ﾋｰﾄﾎﾟﾝﾌﾟ給湯機の一次側電源供給工事は、電気設備工事施工範囲とする。

―配線記号凡例―

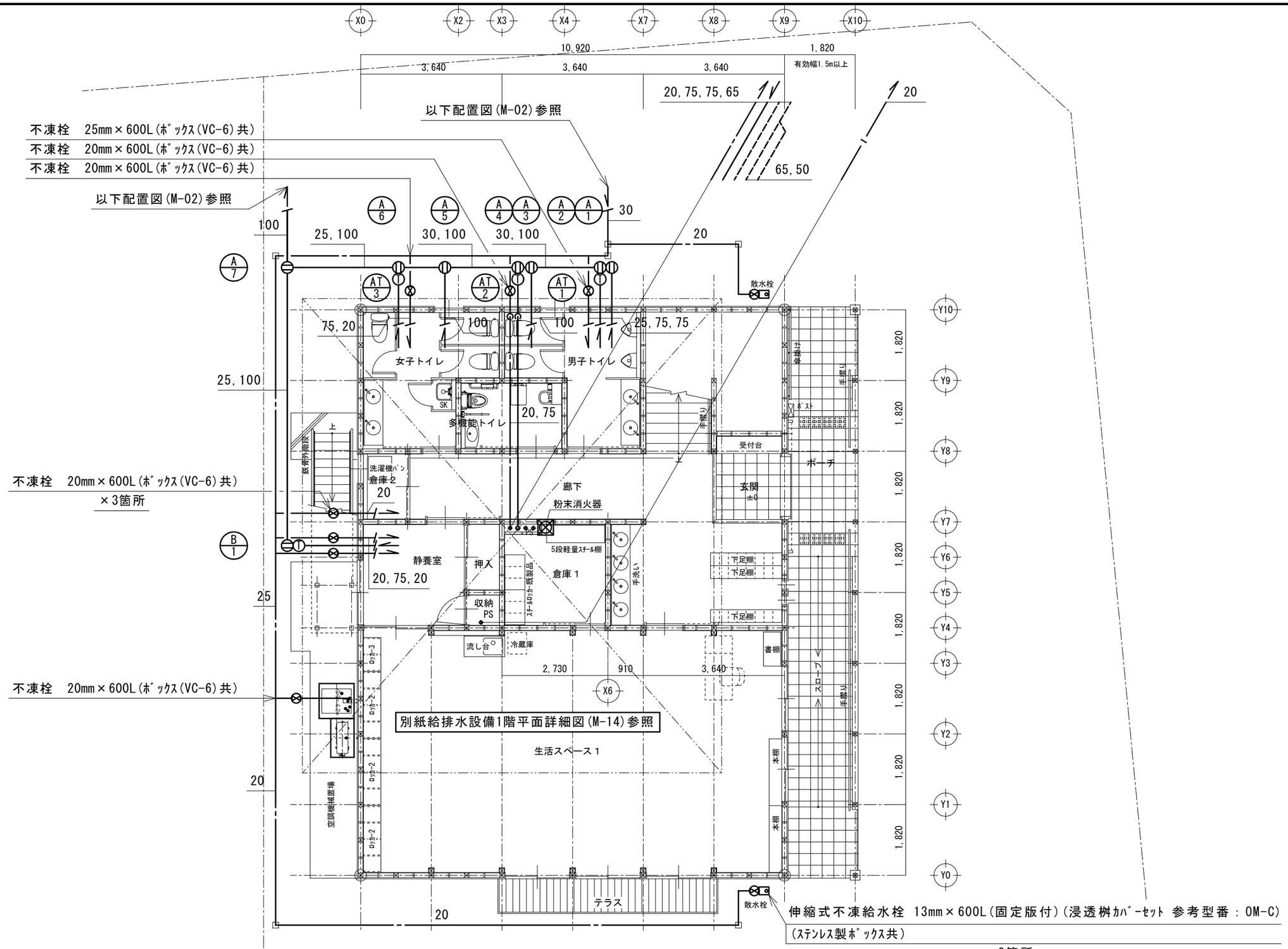
――――	天井内隠蔽ｹｰﾌﾞﾙ配線
―・―	冷媒管共巻配線

―冷媒管共巻配線凡例―

MAC-1	EM-CEE 1.25□× 2C

※ｴｱｺﾝ室内外渡り配線は冷媒管共巻配線とする。

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	自動制御設備 1階平面図・2階平面図	SCALE A3 1/100	No. 25-007 M-11



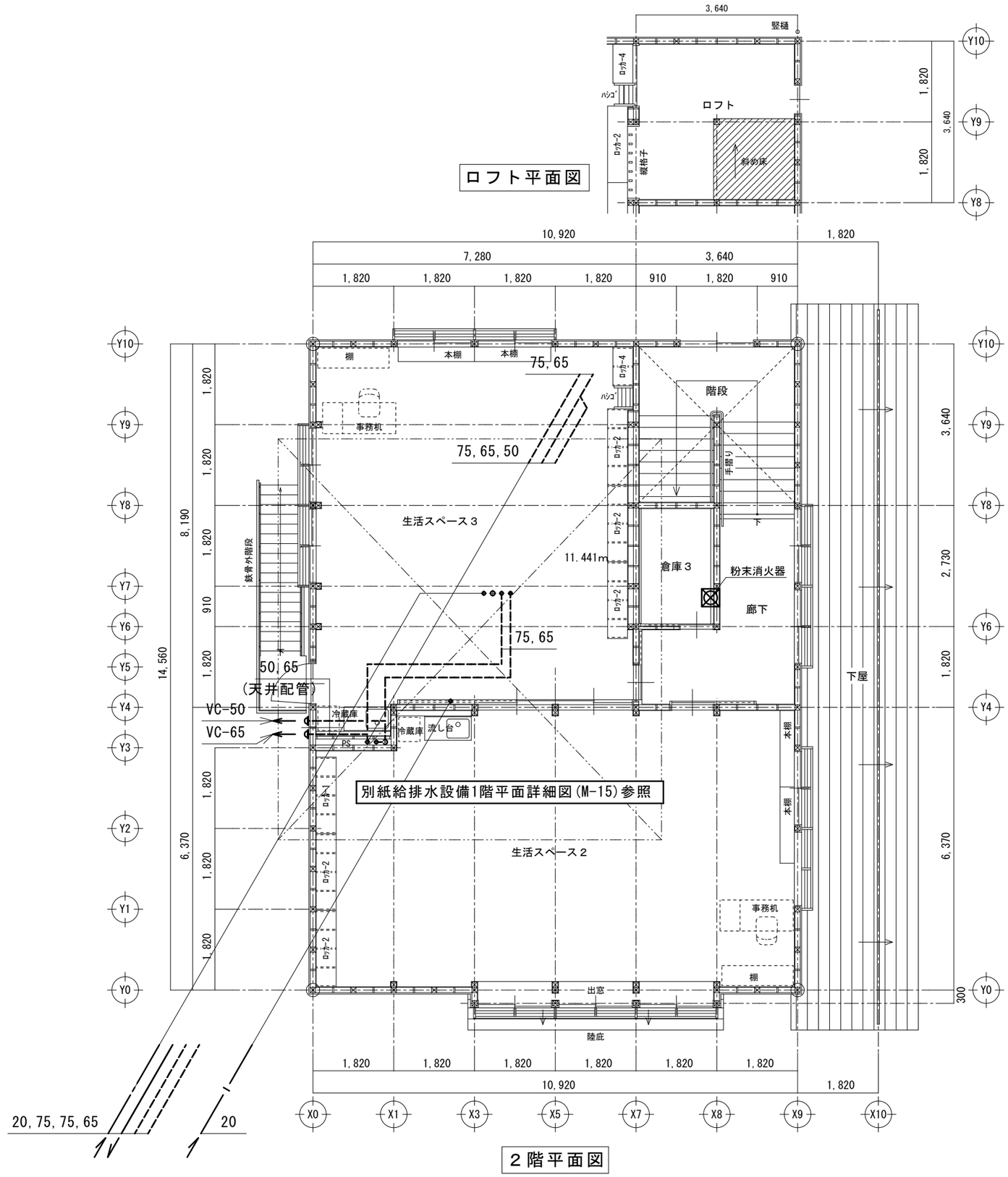
※ ―□― … 埋設表示柱を示す

消火器リスト

記号	名称	備考	合計	1階	2階
⊠	粉末式消火器	3kg ｹﾞｰｼﾞ付 蓄圧式 能力単位 A-3、B-7、C (埋込型消火器ﾎﾞｯｸｽ…建築工事)	2	1	1

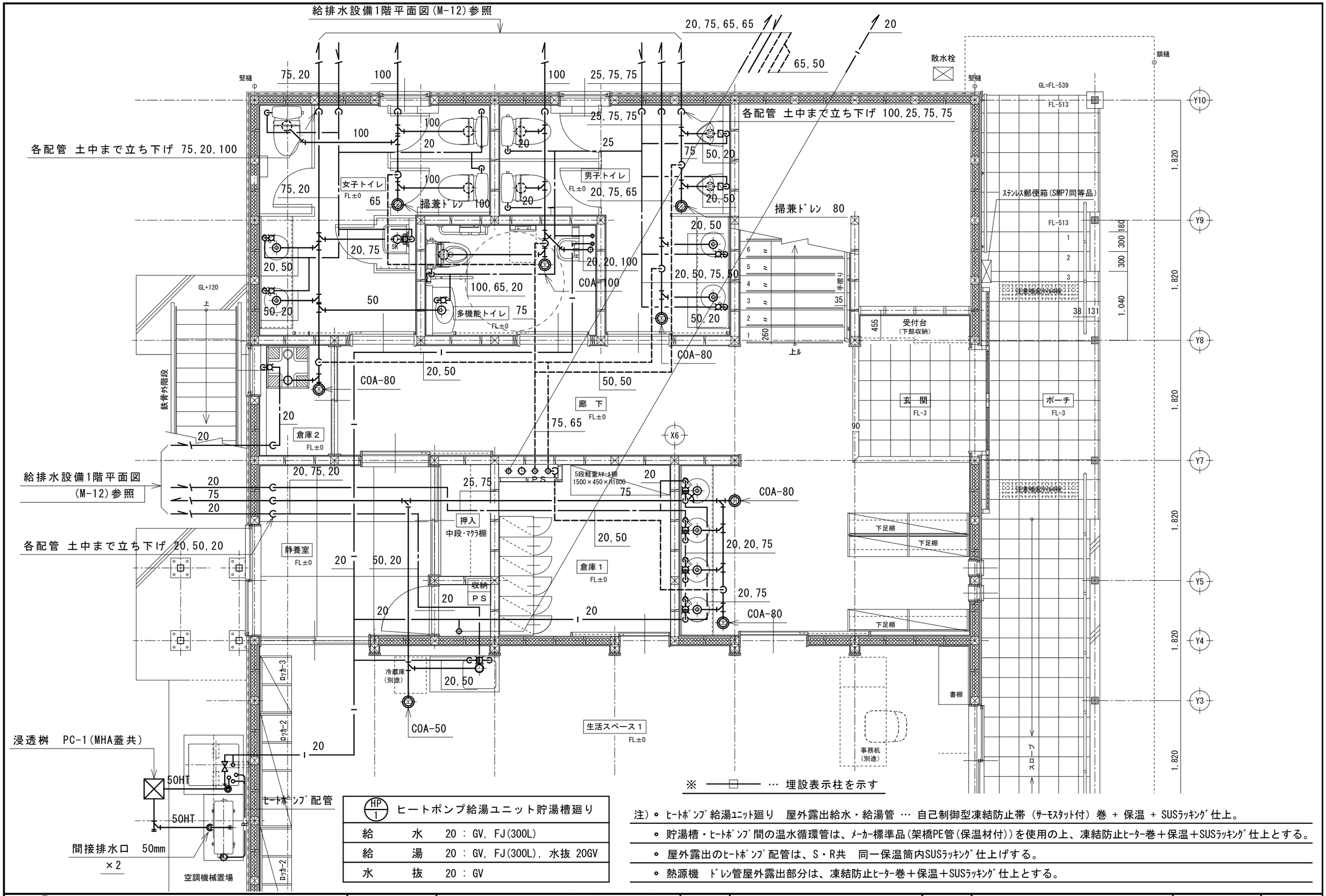
1階平面図

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	給排水設備 1階平面図	SCALE A3 1/100	No. 25-007 M-12



２階平面図

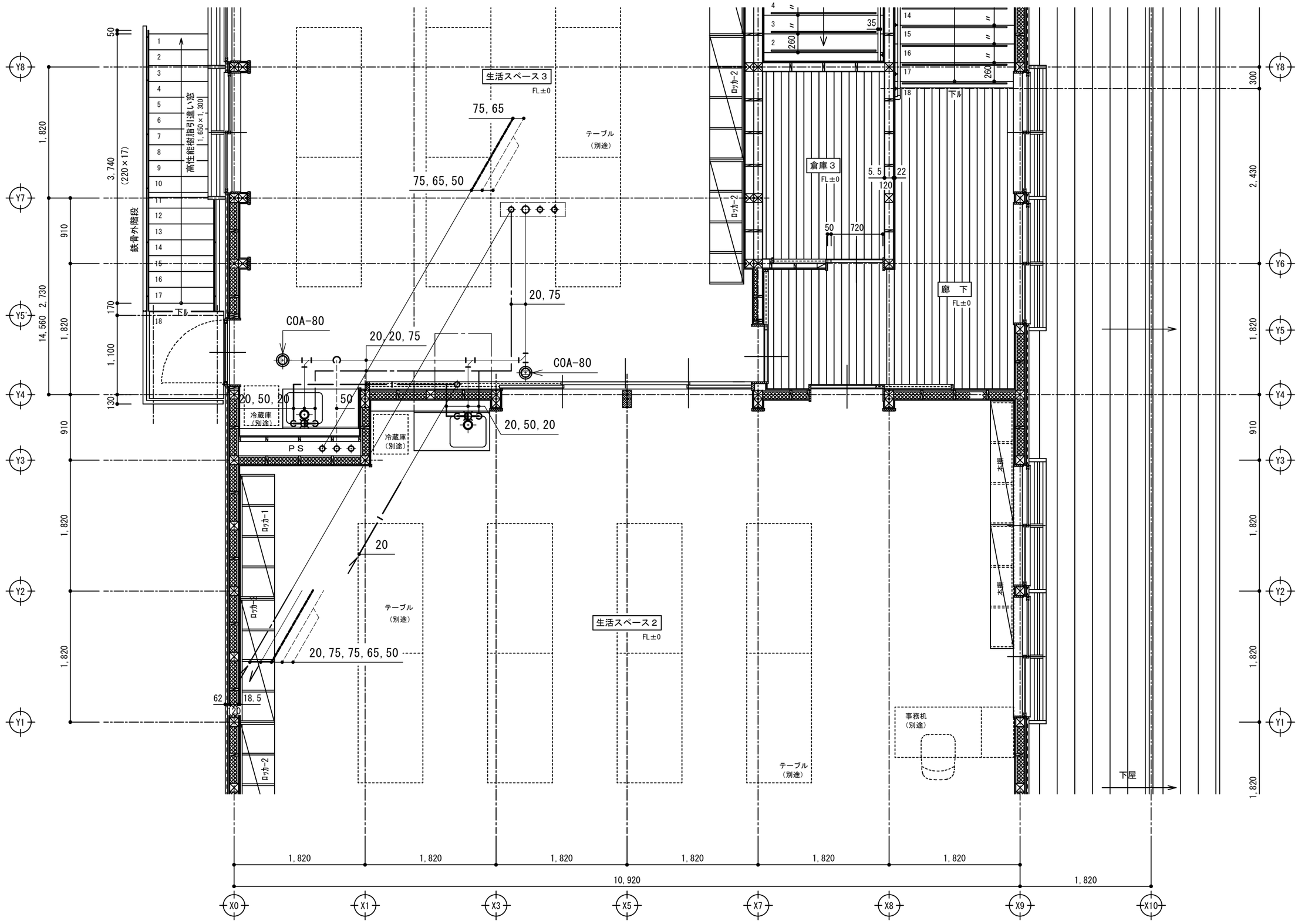
上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	給排水設備 ２階平面図	SCALE A3 1/100	No. 25-007 M-13



HP 1	ヒートポンプ給湯ユニット貯湯槽廻り
給　水	20 : GV, FJ(300L)
給　湯	20 : GV, FJ(300L), 水抜 20GV
水　抜	20 : GV

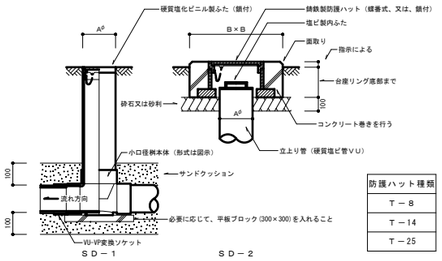
注)
- ヒートポンプ給湯ユニット廻り　屋外露出給水・給湯管 … 自己制御型凍結防止帯（サーモスタット付）巻 + 保温 + SUSラッキング仕上。
- 貯湯槽・ヒートポンプ間の温水循環管は、メーカー標準品(架橋PE管(保温材付))を使用の上、凍結防止ヒーター巻＋保温＋SUSラッキング仕上とする。
- 屋外露出のヒートポンプ配管は、S・R共　同一保温筒内SUSラッキング仕上げする。
- 熱源機　ドレン管屋外露出部分は、凍結防止ヒーター巻＋保温＋SUSラッキング仕上とする。

上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	給排水設備 1階平面詳細図	SCALE A3 1/50	No. 25-007 M-14



上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計	長野県知事登録　第上田N-78311号 住　所　長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名　小福田　洋 一級建築士　大臣登録　第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図　名	給排水設備　２階平面詳細図	SCALE A3 1/50	No. 25-007 M-15

小口径塩ビ桝参考図

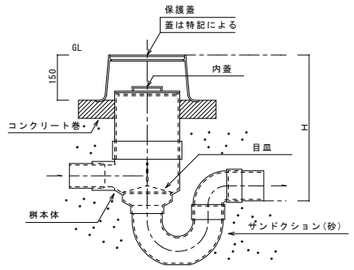


防護ハット種類
T－8
T－14
T－25

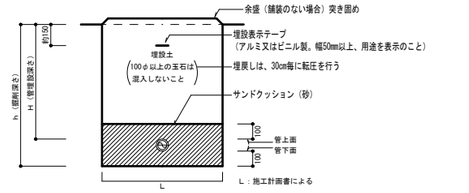
記号 ＼ 管底		H≦1200	1200＜H≦2500	2500＜H	ふ　た
SD－1	A	150	200	300	硬質塩化ビニル製ふた
SD－2	A	150	200	300	塩ビ製内ふた＋防護ハット（耐荷重は図示）
	B	350	400	500	

1．桝の深さがGL-1,500mmを超える合流桝については、要所に国土交通省仕様の桝を設けること。設置箇所は図示による。
2．排水管がＶＰ管の場合は、桝本体との接続にあたり変換用のソケット（ＶＵ－ＶＰ）を用い、管内において段差を生じないようにする。
3．車輌の乗り入れが予想される場合は、鋳鉄製の防護ハットを用い、桝本体に荷重がかからないようにする。（防護ハットの耐荷重は図示によるが、図示なき場合はT-8以上とする。）
4．防護ハット周囲はコンクリート巻きを行う。ただし、アスファルト舗装面では、舗装厚さを除いた高さでコンクリート巻きを行うなどの横ずれ対策を講じたものを除く。
5．コンクリート巻部分には必要により鉄筋（D10）により補強する。
6．桝及びふたの性能については、原則として、「日本下水道協会」規格又は「ｼﾞｬｽﾁｯｸ･ﾏｽﾏﾝﾎｰﾙ協会」規格による。
7．公共下水道へ放流する場合は、下水道事業者が定める排水基準等による。

トラップ桝参考図

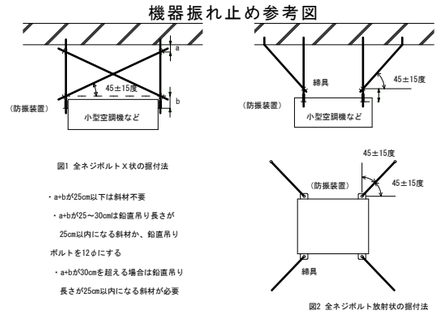


土中埋設管の布設



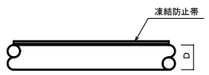
1．給水管と排水管が平行する場合、原則として両配管の水平距離を500mm以上とし、かつ、給水管は排水管の上方に埋設する。
2．給水管と排水管が交差する場合も、同様とする。ただし、給水管が凍結深度以下となる場合は除く。
3．排水管については、埋設表示テープは不要とする。
4．埋設給水管(HI管)の分岐、曲がり部には、必要に応じてスラスト防止処置を行う。
5．根切り深さ1.5m以上の場合は、山留めの工事を行う。

機器振れ止め参考図



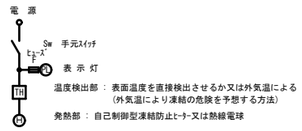
※　浴室及び厨房の天井裏等の湿度が高くなると予想される部分の吊り金物及び支持金物は、SUS製とする。

凍結防止帯巻参考図



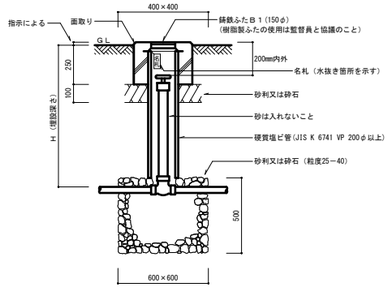
1. 凍結防止帯の長さが図示されていない場合は、上図を参考にする。
2. ｻｰﾓｽﾀｯﾄの位置・種類及び保温の仕様は　監督員と協議のこと。
3. 保温材は　ｸﾞﾗｽｳｰﾙ 又は ﾛｯｸｳｰﾙとする。
4. 給湯用のﾋｰﾀｰは、耐熱温度が100゜C以上の被覆材の製品とする。

1. 通電は、管等の表面温度又は外気温が凍結温度以下となった場合のみとする。
電熱線による場合 ： 温度上昇に伴い消費電力が減少する自己制御ﾀｲﾌﾟの電熱ﾋｰﾀｰとする。
電球による場合　 ： 電球は赤外線を有効に放射するものとすること。
（非加熱帯の塗装は、赤外線を有効に吸収するように黒又は黒に近い色とする。）



2. 温度検出部の開閉容量が、発熱部合計の容量より小さい場合はリレー回路を設ける。
3. 温度検出部の設定温度は-5゜Cから+2゜C位の範囲で可変とし、特記ないかぎり0゜C以下となった時にONとする。

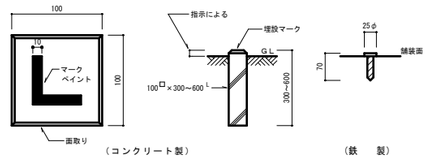
不凍栓取付参考図（ＶＣ－６）



1．コンクリート巻部分には必要により鉄筋（D10）により補強する。
2．アスファルト舗装部分に入る場合は、すり付けとする。

※　Ｈは、凍結深度以深とする

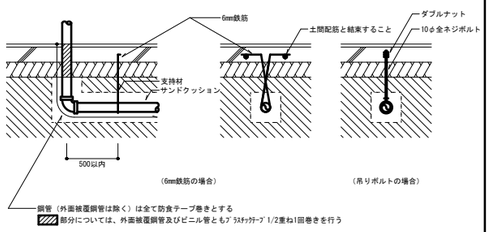
地中埋設標



1．使用区分は、舗装部分はコンクリート製又は鉄製とし、その他の部分はコンクリート製とする。
2．頭部は上図の例により、マークを彫り込み、色別表示する。（上図は、曲がり部分の例を示す。）
3．鉄製の頭部は、用途及び矢印の表示がある物とする。
4．監督員の承諾を得てプラスチック製の表示杭を使用してもよい。
5．上記により難い場合は、監督員と協議する。

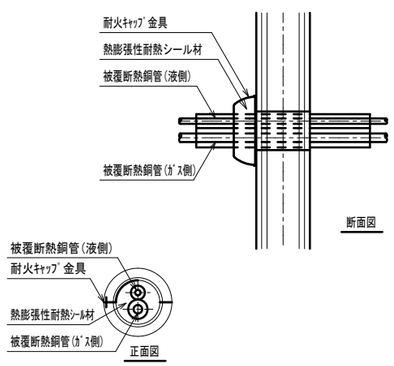
表示の色別
飲用水：青
雑用水：黄
消火水：赤
ガ　ス：緑
油　：赤
排　水：黒

土間配管の防食及び保護



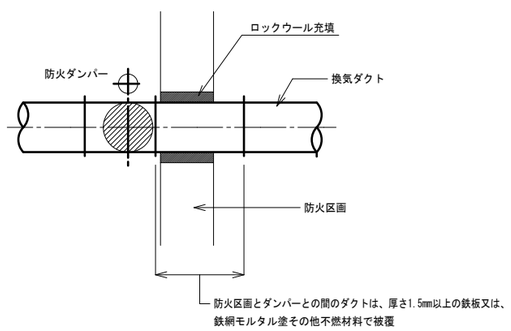
1．吊り間隔は1000mm内外とする。
2．給湯、冷温水管等保温を行う管及び上記により難い管の場合は、標準仕様書及び特記による。

区画貫通取付参考図（冷媒管）



参考品名　耐火ｷｬｯﾌﾟNX … 因幡電工
国土交通省大臣認定　PS060WL-0777-1他(壁)

防火区画貫通部の処理（ダクト）



上田市都市建設部建築課	事業年度 R7 / R8	株式会社 久高設計 長野県知事登録 第上田N-78311号 住所 長野県上田市住吉55番地2 設計者氏名 小福田 洋 一級建築士 大臣登録 第292990号	工事名	東部児童クラブ分室集約化工事	図名	施工要領図	SCALE A3 NO SCALE	No. 25-007 M-16